大正十三年七月二日印刷
大正十三年七月五日發行

漢文叢書
四書

不許複製

東京府下大久保町西大久保二百三十六番地
編輯者　塚本哲三

東京市神田區錦町一丁目十九番地
發行兼印刷者　三浦理

東京市神田區錦町三丁目九番地
印刷所　有朋堂印刷部

東京市神田區錦町一丁目十九番地
發行所　有朋堂書店

（新非製本）

散宜生則見而知之。若孔子則聞而知之。由孔子而來至於今。百有餘歲。去聖人之世若此其未遠也。近聖人之居若此其甚也。然而無有乎爾。則亦無有乎爾。

孟子終

也。刺レ之無レ刺也。同二乎流俗一。合二乎汙世一。居レ之似二忠信一。行レ之似二廉潔一。衆皆悦レ之。自以爲レ是。而不レ可三與入二堯舜之道一。故曰二德之賊一也。孔子曰。惡二似而非者一。惡レ莠恐二其亂一レ苗也。惡レ佞恐二其亂一レ義也。惡二利口一恐二其亂一レ信也。惡二鄭聲一恐二其亂一レ樂也。惡レ紫恐二其亂一レ朱也。惡二鄕原一恐二其亂一レ德也。君子反レ經而已矣。經正。則庶民興。庶民興斯無二邪慝一矣。

孟子曰。由二堯舜一至二於湯一。五百有餘歳。若二禹皐陶一則見而知レ之。若レ湯則聞而知レ之。由レ湯至二於文王一五百有餘歳。若二伊尹萊朱一則見而知レ之。若二文王一則聞而知レ之。由二文王一至二於孔子一。五百有餘歳。若二太公望

孟子曰く、堯舜より湯に至るまで五百有餘歳、禹皐陶の若きは則ち見て之(一)を知り、湯の如きは則ち聞きて之を知る。湯より文王に至るまで五百有餘歳、伊尹萊朱(二)の若きは則ち見て之を知り、文王の若きは則ち聞きて之を知る。文王よりも孔子に到るまで五百有餘歳、太公望散宜生(三)の若きは則ち見て之を知り、孔子の若きは則ち聞きて之を知る。孔子より來今に至るまで百有餘歳、聖人の世を去ること此の若く其れ未だ遠からざるなり。(四)聖人の居に近きこと此の若く其れ甚しきなり。(五)然り而して有る無きのみ。則ち亦有る無からんのみ。

(一) 其道なり (二) 湯の賢臣 (三) 文王の賢臣散は散名は宜生 (四) 孟子の生國なる鄒と孔子の生國なる魯と甚だ相接近したるをいふ (五) 年代も遠からず、居處も近くしてありながら之を見聞して知れる者あることなし、然らば後世遂に亦之を見聞して知るの人君無からんのみと也、蓋し深く道の行はれざるを歎じたるの言也

是獧也。是又其次也。孔子曰。過二我門一而不レ入二我室一。我不レ憾焉者。其惟鄕原乎。鄕原徳之賊也。曰。何如斯可レ謂二之鄕原一矣。曰。何以是嘐嘐也。言不レ顧レ行。行不レ顧レ言。則曰。古之人。古之人。行何爲踽踽涼涼。生二斯世一也爲二斯世一也。善斯可矣。閹然媚レ於世也者。是鄕原也。萬章曰。一鄕皆稱二原人一焉。無二所レ往而不一レ爲二原人一。孔子以爲二徳之賊一何哉。曰。非レ之無レ

を惡むは其の義を亂るを恐れてなり。(二七)利口を惡むは其の信を亂るを恐れてなり。(二八)鄭聲を惡むは其の樂(二九)を亂るを恐れてなり。(三〇)紫を惡むは其の朱(三一)を亂るを恐れてなり。鄕原を惡むは其の徳を亂るを恐れてなりと。(三二)君子は經(三三)に反らんのみ。經正しければ則ち庶民興る。庶民興れば斯に邪慝無し。

一 孔子陳國に在り、道行はれず、魯に歸らんとして此の語を述べられたり、論語公冶長篇參照 二 魯にある弟子 三 理想高くして實行の之に伴はざるもの 四 其舊を改めざるなり 五 狂簡の士、論語子路參照 六 過不及なく道を行ふ人 七 獧は狷に同じ、狷介にて不義を爲さず 八 孔子の弟子、名は牢 九 孔子の弟子 一〇 志す所大、言亦大、口に古人を誦し、之を慕へども、其行を考察すれば言論は實行より高く、言行相當らず 一一 言葉だけを掩ひ果さぬなり 一二 鄕黨の間に謹嚴を以て名ある人、所謂律儀者なり 一三 徳の有害物、論語陽貨篇參照 一四 鄕原の人が狂者を評して曰く 一五 獨行、人に親まざること 一六 淋しきなり 一七 世の所業とす 一八 其所業圓滿 一九 自己を閹ひかくすなり、ねこをかぶること 二〇 之をそしらんとするも其證として擧ぐべき事實なきこと 二一 過失を攻擊す 二二 下流の風俗 二三 汚濁なる時世 二四 身を行ふ 二五 苗に似て苗を害する草の名 二六 口才ある者 二七 口の上手なること、論語陽貨篇參照 二八 鄭國の音樂、淫聲なり 二九 正しき音樂 三〇 五色以外にて間色なれば云ふ、五色とは青黄赤白黒なり 三一 赤なり、紫は赤青の間色なれば、赤と相ならべば之を亂す也 三二 位あり徳ある人 三三 常道に立ち歸る

獧乎。狂者進取。獧者有レ所レ不レ爲也。孔子豈不レ欲二中道一哉。不レ可二必得一。故思二其次一也。敢問。何如斯可レ謂レ狂矣。曰。如二琴張曾晳牧皮一者。孔子之所レ謂狂矣。何以謂二之狂一。曰。其志嘐嘐然。曰。古之人。古之人。夷考二其行一。而不レ掩焉者也。狂者又不レ可レ得。欲乙得下不レ屑二不潔一之士上而與甲之。

古の人と、夷に其行を考へて掩はざる者なり。狂者又得べからず。不潔を屑しとせざるの士を得て之に與せんと欲す。(一一)是れ獧なり。是れ又其次ぎなり。孔子曰く、我門を過ぎて、我室に入らざるも我憾みざる者は其れ惟郷原かと。(一二)郷原は徳の(一三)賊なればなり。曰く、何如なる斯に之を郷原と謂ふべき。(一四)曰く、何を以てか是れ嘐嘐たるや。言行を顧みず、行ひ言を顧みず。則ち曰く、古の人、古の人と。行何爲ぞ踽踽(一五)涼涼(一六)たる。斯の世に生れては斯の世に爲すなり。(一七)善なれば斯に可なり(一八)と。閹然(一九)世に媚ぶる者は是れ郷原なり。萬章曰く、一郷皆原人と稱す。往く所として原人爲らざることなし。孔子以て徳の賊となすは何ぞや。曰く、之を非(二〇)らんとするも擧ぐる無きなり。之を刺らんとするも刺る無きなり。(二一)流俗に同じ(二二)汚(二三)世に合はせ、之に居ること忠信に似、(二四)之を行ふこと廉潔に似、衆皆之を悅び、自ら以て是と爲して、而して與に堯舜の道に入る可からず。故に徳の賊と曰ふなり。孔子曰く、似て非なる者を惡む。(二五)莠を惡むは其の苗を亂るを恐れてなり。(二六)佞

丑問曰。膾炙與羊棗孰美。孟子曰。膾炙哉。公孫丑曰。然則曾子何爲食膾炙。而不食羊棗。曰。膾炙所同也。羊棗所獨也。諱名不諱姓。姓所同也。名所獨也。

炙を食ひて、羊棗を食はざる。曰く、膾炙は同する所なり。(五)羊棗は獨する所なり。名を諱みて姓を諱まず。姓は同じくする所なり。名は獨する所なり。

(一)晳は曾子の父　(二)羊棗はなつめなり　(三)膾はなます、炙は燒肉　(四)然らば曾晳も當然膾炙を嗜みしならん然るに　(五)膾炙は何人も同じく好む所なり、羊棗は曾晳の獨り好む所なり、諱の法に名は諱めども姓を諱まず、是れ姓は同族の共に有する所なれども名は各人の獨り有する所なればなりとこれと同じ理なりとの意

萬章問曰。孔子在陳。曰。盍歸乎來。吾黨之士。狂簡進取。不忘其初。孔子在陳。何思魯之狂士。孟子曰。孔子不得中道而與之。必也狂

萬章問ひて曰く、(一)孔子陳に在り。曰く、盍ぞ歸らざる。(二)吾黨の士、(三)狂簡進んで取り其初(四)を忘れずと。孔子陳にあり、何ぞ魯の(五)狂士を思ふ。孟子曰く、(六)孔子中道を得て之に與せざれば、必ずや狂獧(七)か。狂者は進みて取り、獧者は爲さざる所有り。孔子豈に中道を欲せざらんや。必ずしも得べからず、故に其次を思ふ。敢て問ふ、何如なる斯に狂と謂ふ可きと。曰く、(八)琴張、曾晳、(九)牧皮の如きは孔子の所謂狂なり。何を以て之を狂と謂ふ。曰く、其志(一〇)嘐嘐然たり。曰く、古の人、

題數尺。我得レ志弗レ爲也。食前方丈。侍妾數百人。我得レ志弗レ爲也。般樂飲レ酒。驅騁田獵。後車千乘。我得レ志弗レ爲也。在レ彼者皆我所レ不レ爲也。在レ我者皆古之制也。吾何畏レ彼哉。

志を得るも爲さざるなり。彼に在るもの皆我が爲さざる所なり。我に在る者は皆(八)古の制なり。吾何ぞ彼を畏れんや。

(一)當時の王公貴人　(二)輕視すること　(三)立派なる有樣　(四)たる木の端　(五)食物の獻立方丈に及ぶ　(六)大に音樂をなすこと　(七)馬に乘りて驅け廻る　(八)先王の禮法

孟子曰。養レ心莫レ善二於寡一レ欲。其爲レ人也寡レ欲。雖レ有下不レ存焉者上寡矣。其爲レ人也多レ欲。雖レ有二存焉者一寡矣。

孟子曰く、(一)心を養ふは寡欲より善きは莫し。其の人と爲りや(二)欲寡ければ存せざる者ありと雖も寡し。其の人と爲りや欲多ければ存する者ありと雖も寡し。

(一)仁義の心　(二)欲寡ければ德の存せざるものありとも、その存せざるもの甚だ寡し、多欲なる者は之に反す

曾晳嗜二羊棗一。而曾子不レ忍レ食二羊棗一。公孫

(一)曾晳(二)羊棗を嗜む。曾子羊棗を食ふに忍びず。公孫丑問ひて曰く、(三)膾炙と羊棗と孰が美なる。孟子曰く、膾炙なるかな。公孫丑曰く、(四)然らば則ち曾子何爲れぞ膾

芸人之田。所求於人者重。而所以自任者輕。

孟子曰。堯舜性者也。湯武反之也。動容周旋中禮者。盛德之至也。哭死而哀。非爲生者也。經德不回。非以干祿也。言語必信。非以正行也。君子行法以俟命而已矣。

孟子曰く、堯舜は(一)性なる者なり。湯武は之に(二)反るものなり。(三)動容周旋(四)禮に中る者は盛德の至なり。死を哭して哀むは生者の爲めに非ざるなり。(五)經德回ならざるは以て祿を干むるに非ざるなり。言語必ず信なるは以て行を正すに非ざるなり。君子は法を行ひて以て命を俟つのみ。

(一) 仁義禮智を性のまゝ行ふ　(二) 本性にかへるなり　(三) 動作容儀の細微なること　(四) 禮節にかなふ　(五) 平常の德行に少しの邪曲なきこと

孟子曰。說大人則藐之。勿視其巍巍然。堂高數仞。榱

孟子曰く、(一)大人を說くには則ち之を(二)藐ぜよ。其(三)巍巍然たるを視ること勿れ。堂の高さ數仞、(四)榱題數尺、我志を得るも爲さざるなり。(五)食前方丈侍妾數百人、我志を得るも爲さざるなり。(六)般樂して酒を飲み、(七)驅騁田獵し、後車千乘、我

而仁不レ可ニ勝用一也。人能充下無ニ穿踰一之心上。而義不レ可ニ勝用一也。人能充下無レ受ニ爾汝一之實上。無ニ所レ往而不レ爲レ義也。士未レ可ニ以言一而言。是以レ言餂レ之也。可ニ以言一而不レ言。是以レ不レ言餂レ之也。是皆穿踰之類也。

之を餂るなり。以て言ふ可くして言はざるは、是れ言はざるを以て之を餂るなり。是れ皆穿踰の類なり。

(一) 氣の毒なと思ふ心 (二) 穿は壁に穴をあけること、踰は墻をこえること、故に竊盜の意となる (三) 呼びすてにせらるゝこと、輕蔑せらるゝ意なり (四) 實心 (五) 取ること

孟子曰。言近而指遠者善言也。守約而施博者善道也。君子之言也。不レ下レ帶而道存焉。君子之守。脩ニ其身一而天下平。人病下舍ニ其田一而

孟子曰く、言近くして指遠きは善言なり。守ること約にして施すこと博きは善道なり。君子の言や帶を下らずして道存す。君子の守其身を脩めて天下平かなり。人其田を舍てて人の田を芸るを病む。人に求むる所重くして、自ら任ずる所以の者輕ければなり。

(一) 言葉がわかり易くして (二) 意味深きこと (三) 朱注に云ふ、古人視ること帶より下らず、則ち帶の上は乃ち目前常に見る至近の處なり、目前の近事を擧げて、而も至理存すと (四) 自己を修めずして他人の世話を燒く譬

於二上宮一。有レ業二屨於牖上一。館人求レ之弗レ得。或問レ之曰。若レ是乎從者之廋也。曰。子以下是爲レ竊レ屨來上與。曰。殆非也。夫予之設レ科也。往者不レ追。求者不レ拒。苟以二是心一至。斯受レ之而已矣。

と之を問ひて曰く、是の若きか、(四)從者の(五)廋せるや。(六)曰く、子是れ屨を竊むが爲めに來ると以へるか。曰く、(七)殆ど非なり。夫れ予の(八)科を設くるや、(九)往く者は追はず、來る者拒まず。苟も是の(一〇)心を以て至らば、斯に之を受けんのみ。

(一)旅館の名、或は館の樓上の室、又は地名など云ふ　(二)宿をとる　(三)織りさして未だ成らざる屨を窓に置くなり　(四)惜き斷る言葉　(五)孟子の從者　(六)匿なり、暗に盗むの意を含めて言へるなり　(七)孟子の言とすべし　(八)敎授科目なり　(九)往く人來る人と解すべし　(一〇)道を學ぶ心

孟子曰。人皆有レ所レ不レ忍。達二之於二其所一レ忍仁也。人皆有レ所レ不レ爲。達二之於二其所一レ爲義也。人能充下無レ欲レ害レ人之心上。

孟子曰く、人皆な忍びざる(一)所有り。之を其の忍ぶ所に達するは仁なり。人皆爲さざる所有り。之を其の爲す所に達するは義なり。人能く人を害するを欲する無きの心を充てば、仁勝げて用ふ可からざるなり。人能く穿踰(二)する無きの心充てば、義勝げて用ふ可からざるなり。人能く爾汝(三)を受くる無きの實(四)を充てば、往く所として義たらざる無きなり。士未だ以て言ふ可からずして言ふは、是れ言ふを以て

征。君子用二其一一緩二其二。用二其二一而民有レ殍。用二其三一而父子離。○孟子曰。諸侯之寶三。土地人民政事。寶二珠玉一者。殃必及レ身。

寶は三。土地人民政事。(五)珠玉を寶とする者は殃必ず身に及ぶ。

(一)布と糸とを取り立てること　(二)年貢の米　(三)夫役　(四)飢え死ぬもの　(五)諸侯の寶とすべきものを寶とせずして世俗の寶とする珠玉を寶とする者の誤れるをいふ

盆成括仕レ於レ齊。孟子曰。死矣盆成括。盆成括見レ殺。門人問曰。夫子何以知三其將レ見レ殺。曰。其爲レ人也。小有レ才。未レ聞二君子之大道一也。則足三以殺二其軀一而已矣。

(一)盆成括、齊に仕ふ。孟子曰く、死なんかな盆成括と。盆成括殺さる。門人問ひて曰く、夫子何を以て其の將に殺されんとするを知る。曰く、其の人と爲りや(二)小にして才あり。未だ君子の大道を聞かず。(三)則ち以て其軀を殺すに足るのみ。

(一)姓は盆成、名は括　(二)其の器量小なるをいふ　(三)器少にオありて未だ君子の大道を聞かざることとの結果は其の自身を殺すに至る理由なり

孟子之レ滕館レ

孟子滕に之きて(一)上宮に館す。(二)牖上に業屨有り。館人之を求めて得ず。或ひ

之謂ㇾ善。有ニ諸己一之謂ㇾ信。充實之謂ㇾ美。充實而有ニ光輝一之謂ㇾ大。大而化ㇾ之之謂ㇾ聖。聖而不ㇾ可ㇾ知ㇾ之。之謂ㇾ神。樂正子。二之中。四之下也。

は二の中四の下なり。(六)

(一) 姓は樂正、名は不害、齊人なり (二) 何人も親しみ好むを善と云ふ (三) 善を體得して居るを信と云ふ (四) 善と信とを充實すること (五) 心を用ひずして道に叶ふ (六) 善信の中間に在り、美大聖神の下に位するなり

孟子曰。逃ㇾ墨必歸ㇾ於ㇾ楊。逃ㇾ楊必歸ㇾ於ㇾ儒。歸斯受ㇾ之而已矣。今之與ニ楊墨一辯者。如ㇾ追ニ放豚一。既入ニ其苙一。又從招ㇾ之。

孟子曰く、墨(一)を逃るれば必ず楊に歸し、楊を逃るれば必ず儒に歸す。歸すれば斯に之を受けんのみ。今の楊墨と辯ずる者は放豚を追ふが如し。既に其苙(二)に入れば又從つて之を招ぐ(三)。

(一) 墨は墨翟、楊は楊朱、何れも孟子學說上の敵なり (二) かこひの意にて豚を入れる所 (三) 足をいはひつけること

孟子曰。有ニ布縷之征。粟米之征。力役之

孟子曰く、布縷(一)の征、粟米(二)の征、力役(三)の征有り。君子は其一を用ひて其二を緩くす。其二を用ふれば民殍(四)有り。其三を用ふれば父子離る。○孟子曰く、諸侯の

於レ味也。目之於レ色也。耳之於レ聲也。鼻之於レ臭也。四肢之於二安佚一也。性也。有レ命焉。君子不レ謂レ性也。仁之於二父子一也。義之於二君臣一也。禮之於二賓主一也。智之於二賢者一也。聖人之於二天道一也。命也。有レ性焉。君子不レ謂レ命也。

ける、四肢の安佚に於ける、性なり。命有り。君子は性と謂はざるなり。仁の父子に於ける、義の君臣に於ける、禮の賓主に於ける、知の賢者に於ける、(二)聖人の(三)天道に於ける、命なり。性有り。君子は命と謂はざるなり。

(一) 五官の欲は皆天性なり、然れども世上の物皆己が願ふまゝに享け得らるべきに非ず、故に君子は其天命ある事を知つて、强ひて之を求むることを爲さゞるなり (二) 人の性質に賢愚正邪の別あるはもとより天の命ずる所なり、然れども人の本性は善、故に君子は之を天命と言はずして、吾身を修め其の不善を去つて本性の善を明かにせんと務むるなり (三) 天運

浩生不害問曰。樂正子何人也。孟子曰。善人也。信人也。何謂レ善。何謂レ信。曰。可レ欲

(一)浩生不害問ひて曰く、樂正子は何人ぞや。孟子曰く、善人なり、信人なり。何をか善と謂ひ、何をか信と謂ふ。曰く、(二)欲すべき之を善と謂ひ、(三)諸れを己に有する之を信と謂ひ、(四)充實する之を美と謂ひ、充實して光輝ある之を大と謂ひ、大にして(五)之を化する之を聖と謂ひ、聖にして之を知るべからざる之を神と謂ふ。樂正子

足哉。城門之軌。兩馬之力與。

足らんや（四）城門の車轍のきしれる跡は單に一車兩馬の力に非ず、歲月を積むこと久しきに出る、兩馬とは夏代の制なり

齊饑。陳臻曰。國人皆以。夫子將ニ復爲發レ棠。殆不レ可レ復。孟子曰。是爲ニ馮婦一也。晉人有ニ馮婦者一。善搏レ虎。卒爲ニ善士一。則之レ野。有レ衆逐レ虎。虎負レ嵎。莫ニ之敢攖一。望ニ見馮婦一。趨而迎レ之。馮婦攘レ臂下レ車。衆皆悅レ之。其爲レ士者笑レ之。

齊饑う。陳臻曰く、國人皆以らく、夫子將に復た爲めに棠（一）を發せんとすと。殆ど復（二）すべからざるか。孟子曰く、是れ馮婦（三）を爲すなり。晉人馮婦といふ者あり。善く虎を搏（四）つ。卒に善士となる（五）。則ち野に之く。衆有り虎を逐ふ。虎嵎（六）を負ふ。之に敢て攖（七）る莫し。馮婦を望み見て趨りて之を迎ふ。馮婦臂（八）を攘げ車を下る。衆皆之を悅ぶ。其の士（九）たる者は之を笑ふ。

（一）邑の名、こゝに米倉あり、先に飢饉ありし時、孟子齊王に勸めて此米倉を開かしめ、米を出して貧窮を賑恤したることあり（二）二度と請ふ事は出來ぬか（三）人名（四）手どりにする（五）終に荒業を止めて善士となる（六）山隅を背にして人に向ふを云ふ（七）觸れ近づく（八）腕まくり（九）心ある者

孟子曰。口之

孟子曰く、口（一）の味に於ける、目の色に於ける、耳の聲に於ける、鼻の臭に於

子也。肆不レ殄二厥慍一。亦不レ殞二厥問一。文王也。

孟子曰。賢者以二其昭昭一。使二人昭昭一。今以二其昏昏一。使二人昭昭一。○孟子謂二高子一曰。山徑之蹊。間介然用レ之而成レ路。爲レ間不レ用。則茅塞レ之矣。今茅塞二子之心一矣。

孟子曰く、賢者(けんしや)は其昭昭(そのせうせう)(一)を以て人をして昭昭たらしむ。今は其昏昏(こんこん)(二)を以て人をして昭昭たらしむ。○孟子、高子(かうし)(三)に謂(い)つて曰く、山徑(さんけい)(四)の蹊(けい)、間(しはら)く介然(かいぜん)(五)として之を用ふれば路(みち)(六)を成(な)す。間(しはら)くも用ひざるを爲(な)せば則ち茅之(はうこれ)を塞(ふさ)ぐ。今茅子(いまはうし)の心(こゝろ)を塞(ふさ)げり。

(一) 明德なり (二) 昏德なり、亂れたる政を云ふ (三) 齊の人、孟子の弟子 (四) 山間の小路の足跡、一說に「山徑の蹊間、介然として」と訓ず (五) 堅固の貌、固くそれのみを用ふること (六) 大路を成就す

高子曰。禹之聲。尚二文王之聲一。孟子曰。何以レ言レ之。曰。以二追蠡一。曰。是奚

高子曰く、禹(う)の聲(こゑ)(一)は文王(ぶんわう)の聲に尙(たふと)れり。孟子曰く、何(なに)を以て之(これ)を言(い)ふ。曰く、追(たい)(二)の蠡(れい)せるを以てなり。曰く、是れ奚(いづく)(三)んぞ足(た)らむや。城門(じやうもん)の軌(き)は兩馬(りやうば)の力(ちから)ならんや。

(一) 音樂の聲なり (二) 追は鐘を釣りかくる處、龍頭、蠡は磨滅して絶えんとすること (三) 是れ奚ぞ之を知るに

孟子曰。仁也者人也。合而言之道也。〇孟子曰。孔子之去魯。曰。遲遲吾行也。去父母國之道也。去齊接淅而行。去他國之道也。

孟子曰く、仁とは人なり。(一)合して之を言へば道なり。〇(二)孟子曰く、孔子の魯を去るに曰く、遲遲として吾れ行くなりと。父母の國を去るの道なり。齊を去るに淅を接して行く。他國を去るの道なり。

(一) 仁と人とを合するなり　(二) 此章は萬章下篇に出づ

孟子曰。君子之厄於陳蔡之間。無上下之交也。〇貉稽曰。稽大不理於口。孟子曰。無傷也。士憎茲多口。詩云。憂心悄悄。慍于羣小。孔

孟子曰く、君子の(一)陳蔡の間に(二)厄するは上下の(三)交無ければなり。〇貉稽曰く、稽(四)大に口に理ならず。孟子曰く、傷む無かれ。(五)士憎茲に(六)多口なり。(七)詩に云はく、憂心悄悄、(八)羣小に(九)慍みらるとは孔子なり。(一〇)肆に厥の慍を殄たず。亦(一一)厥の問を殞さずとは文王なり。

(一) 孔子のこと　(二) 厄に同じ　(三) 君臣上下共に惡みて交接するなければなり　(四) 理は賴なり、大勢に誹られて賴みなきこと　(五) 士となれば大勢から誹られるものなり、憎は增に同じ　(六) 憎せらるゝ、事多し　(七) 詩經邶風柏舟の篇　(八) 憂ふる貌　(九) 多くの小人　(一〇) 詩經大雅緜篇の字面　(一一) 聲聞即ち評判なり

得レ乎二丘民一而爲二天子一。得レ乎二天子一爲二諸侯一。得レ乎二諸侯一爲二大夫一。諸侯危二社稷一。則變置。犧牲既成。粢盛既潔。祭祀以レ時。然而旱乾水溢。則變二置社稷一。

くせんとすれば則ち變置す。犧牲既に成り、(二)粢盛既に潔く、祭祀時を以てす。然り而して旱乾水溢あれば則ち社稷を變置す。

(一) 田野の民なり (二) 供物

孟子曰。聖人百世之師也。伯夷柳下惠是也。故聞二伯夷之風一者。頑夫廉。懦夫有レ立レ志。聞二柳下惠之風一者。薄夫敦。鄙夫寬。奮二乎百世之上一。百世之下聞者莫レ不二興起一也。非二聖人一而能若レ是乎。而況於下親二炙之一者上乎。

孟子曰く、聖人は百世の師なり。(一)伯夷・柳下惠是なり。故に伯夷の風を聞く者は、頑夫も廉に、懦夫も志を立つること有り。柳下惠の風を聞く者は薄夫も敦く、鄙夫も寛なり。百世の上に奮ひて、百世の下聞く者(二)興起せざるは莫し。聖人に非ずして能く是くの若くならんや。而るに況んや(三)之に親炙する者に於てをや。

(一) 萬章下篇を見よ (二) 感動して奮發す (三) 親しく接して教を受くること

能殺。周于德者。邪世不能亂。○孟子曰。好名之人。能讓千乘之國。苟非其人。簞食豆羹見於色。

ば簞食豆羹も色に見はる。

(一) 用意の周到なること (二) 邪說の行はるゝ世 (三) 善い意味の名なり、即ち不朽の名なり (四) 名を好まざる人は利を好む、故に一簞の食、一豆の汁にても之を爭ひて顏色を變ず

孟子曰。不信仁賢。則國空虛。無禮義。則上下亂。無政事。則財用不足。○孟子曰。不仁而得國者。有之矣。不仁而得天下。未之有也。

孟子曰く、仁賢を信ぜざれば則ち國空虛す。(一)禮儀無ければ則ち上下亂る。(二)政事無ければ則ち財用足らず。○孟子曰く、不仁にして國を得る者之れ有り。(三)不仁にして天下を得るは未だ之れあらざるなり。

(一) 國中に人無きに等し (二) 上下の序亂る (三) 諸侯となること

孟子曰。民爲貴。社稷次之。君爲輕。是故。

孟子曰く、民を貴しと爲す。社稷之に次ぎ、君を輕しと爲す。是故に丘民(一)に得て天子となり、天子に得て諸侯と爲り、諸侯に得て大夫となる。諸侯社稷を危

孟子曰。吾今而後知下殺二人親一之重上也。殺二人之父一。人亦殺二其父一。殺二人之兄一。人亦殺二其兄一。然則非二自殺レ之也一一間耳。

孟子曰。古之爲レ關也。將二以禦レ暴。今之爲レ關也。將二以爲レ暴。○孟子曰。身不レ行レ道不レ行於二妻子一。使人不レ以レ道。不能レ行レ於二妻子一。

孟子曰。周レ于利者。凶年不レ

孟子曰く、吾今にして後人の親(一)を殺すの重きを知る。人の父を殺せば人も亦其父を殺す。人の兄を殺せば人も亦其兄を殺す。然らば則ち自ら之を殺すに非ざるなるや一間(二)のみ。

(一)親族　(二)吾れ我が父兄を殺したるに非ざれども、殆ど殺したると大差なく、中間に一人餘計に加はるのみ

孟子曰く、古の關を爲くるや(一)、將に以て暴を禦がんとす(二)。今の關を爲くるや(三)、將に以て暴を爲さんとす(四)。○孟子曰く、身道を行はざれば妻子に行はれず。人を使ふに道を以てせざれば(五)妻子に行ふ能はず。

(一)古昔の關を設けたる理由　(二)非常に備へる　(三)今世の關を設くる理由　(四)旅人から重税を取らんとするをいふ　(五)妻子を使ふこと

孟子曰く、利に周き者(一)は凶年も殺すこと能はず。徳に周き者(二)は邪世も亂すこと能はず。○孟子曰く、名を好む人(三)は能く千乘の國を讓る。苟も(四)其人に非ざれ

仁。天下無レ敵焉。南面而征。北狄怨。東面而征。西夷怨。曰。奚爲後レ我。武王之伐レ殷也。革車三百兩。虎賁三千人。王曰。無レ畏寧レ爾也。非レ敵ニ百姓一也。若レ崩厥レ角稽首。征之爲レ言正也。各欲レ正レ己也。焉用レ戰。

王曰く、畏るゝ無かれ、爾を寧ぜん、百姓を敵とするに非ざるなりと。崩るゝが若く角(六)を厥して稽首す。征の言たる正なり。各々己を正しくせんと欲するなり。焉んぞ戰を用ひん。

(一)陣に同じ　(二)合戰　(三)此句梁惠王下篇に既出　(四)兵車、兩は輛に同じ　(五)弓矢、轡をとる戰士を云ふ　(六)厥は頓首の頓に同じ、厥角は獸が角を地に傾れるが如く、民の武王を迎へて、頓首するを云ふ

孟子曰。梓匠輪輿。能與ニ人規矩一。不レ能レ使ニ人巧一。○孟子曰。舜之飯レ糗茹レ艸也。若レ將レ終レ身焉。及ニ其爲ニ天子一也。被ニ袗衣一。鼓レ琴。二女果。若レ固ニ有之一。

孟子曰く、梓匠輪輿(一)は能く人に規矩を與ふるも、人をして巧ならしむる能はず。○孟子曰く、舜の糗を飯ひ艸(二)を茹ふや、將に身を終へんとするが若し。其の天子と爲るに及びて袗衣(三)を被り琴を鼓し(四)二女果す。之を固有するが若し。

(一)大工と車を作る人、滕文公下篇に既出　(二)野菜　(三)畫衣　(四)堯の二女を侍べらすこと

孟子曰。春秋無二義戰一。彼善於レ此則有レ之矣。征者。上伐レ下也。敵國不二相征一也。

孟子曰。盡信レ書。則不レ如レ無レ書。吾於二武成一取二二三策一而已矣。仁人無レ敵レ於二天下一。以二至人一伐二至不仁一。而何其血之流レ杵也。

孟子曰。有レ人曰。我善爲レ陳。我善爲レ戰。大罪也。國君好レ

孟子曰く、春秋に義戰無し。(一)(二)彼此より善きは則ち之れ有り。(三)征とは上下を伐つなり。(四)敵國は相征せざるなり。(五)

(一) 孔子の作書名　(二) 義に合へる戰　(三) かの國とこの國とを比較して善惡をきめる位のことは之れ有るなり　(四) 上下とは天子と諸侯とを指す　(五) 名分相等しき國

孟子曰く、盡く書を信ずれば書無きに如かず。(一)吾武成に於て二三策を取るのみ。(二)(三)仁人は天下に敵無し。(四)至人を以て至不仁を伐つ。(五)而るに何ぞ其れ血の杵を流さん。(六)

(一) 書經を云ふ、一說には凡ての書と　(二) 書經の篇名、此の一篇中に於て二三章を信ずみとなり　(三) 古昔竹にて簡策となすより云ふ　(四) 武王を指す　(五) 紂王を指す　(六) 杵或は鹵に作る、鹵は楯なり、戰ひの爲め人を殺し、血杵を流すに至る、かゝる事に至らない筈との意

孟子曰く、人あり、曰く、我善く陳を爲し、(一)我善く戰を爲すと。(二)大罪なり。國君仁を好めば天下に敵無し。南面して征すれば北狄怨み、(三)東面して征すれば西夷怨む。曰く、奚爲れぞ我を後にすると。武王の殷を伐つや、革車三百兩、(四)虎賁三千人。(五)

孟子曰。不仁哉。梁惠王也。仁者以其所愛。及其所不愛。不仁者以其所不愛。及其所愛。公孫丑曰。何謂也。梁惠王以土地之故。糜爛其民而戰之。大敗。將復之。恐不能勝。故驅其所愛子弟以殉之。是之謂以其所不愛及其所愛也。

卷之十四

盡心章句下

孟子曰く、不仁なるかな、梁の惠王、仁者は其の愛する所を以て其の愛せざる所に及ぼし(一)不仁者は其の愛せざる所を以て其の愛する所に及ぼす(二)。公孫丑曰く、何の謂ぞや。梁の惠王は土地の故を以て其民を糜爛(三)して之を戰はせ、大に敗る。將に之を復(四)せんとす。勝つ能はざるを恐る。故に其の愛する所の子弟(五)を驅りて以て之に殉(六)す。是れ之を其の愛せざる所を以て其の愛する所に及ぼすと謂ふなり。

(一) 恩澤を自國の民より遠く天下の民に及ぼすを云ふ (二) 遠く他國を攻伐するより其害遂に己の民に及ぶを云ふ (三) 死屍野に充ちて骨碎け肉爛れる樣を云ふ (四) 再戰す (五) 太子の申及び數人の子弟を指す (六) 國難に殉ぜしむ

仁レ民。仁レ民而愛レ物。

孟子曰。知者無レ不レ知也。當レ務之爲レ急。仁者無レ不レ愛也。急レ親レ賢之爲レ務。堯舜之知而不レ徧レ物。急ニ先務一也。堯舜之仁不レ徧レ愛レ人。急レ親レ賢也。不レ能ニ三年之喪一。而緦小功之察。放飯流歠而問レ無ニ齒決一。是之謂レ不レ知レ務。

を以てせず、儒教の仁愛に自ら差別あるを知るべし

孟子曰く、知者は知らざる無きなり。務むべきを之れ急と爲す。仁者は愛せざる無きなり。賢を親しむを急にするを之れ務と爲す。堯舜の知にして、物に偏からざる(一)は先務を急にするなり。堯舜の仁にして人を愛するに偏からざるは賢を親しむことを急にするなり。三年の喪(二)を能くせずして緦小功(三)を之れ察し(四)、放飯流歠(五)して齒決(六)無きを問ふ(七)。是れ之を務を知らずと謂ふ。

(一) 天下の事を徧く知らぬ (二) 父母の喪にして、忌服の重きもの (三) 緦は、緦麻にして三箇月の喪、小功は、五箇月の喪にして忌服の輕きもの (四) 細かに注意す (五) 際限もなく飯を食ひ、際限もなく汁物を啜ることにして、大なる無作法なり (六) 乾きたる肉を嚙み切らずして、手にて裂きて食ふ禮なり、之れを嚙み切るは、小さき無作法なり (七) 問題にしてやかましくいふ

若在所禮。而不答何也。孟子曰。挾貴而問。挾賢而問。挾長而問。挾有勳勞而問。挾故而問。皆所不答也。滕更有二焉。

を挾みて問ひ、故を挾みて問ふは、皆答へざる所なり。滕更二つ(五)あり。

(一)滕君の弟　(二)孟子の門に來りて學ぶをいふ　(三)恃むなり　(四)故舊、知り合ひのこと　(五)貴と賢とを挾めりとなり

孟子曰。於不可已而已者。無所不已。於所厚者薄。無所不薄也。其進銳者。其退速。

孟子曰く、(一)已むべからざるに於て已む者は、已まざる所無し。厚くする所の者に於て薄くすれば薄うせざる所なし。(二)其進むこと銳き者は其退くこと速かなり。

(一)爲さゞる可からざるに爲さず、厚くすべきに薄きものとは共に及ばざるの弊あるをいふ　(二)熱中し易きものは又冷め易し、其の弊は過ぐるにあり

孟子曰。君子之於物也。愛之而弗仁。於民也仁之而弗親。親親而

孟子曰く、君子の物(一)に於けるや、之を愛(二)して仁(三)せず。民に於けるや、之を仁して親(四)しまず。親を親しみて民に仁し、民に仁して物を愛す。

(一)禽獸草木　(二)取るに時あるを云ふ　(三)人類に對するが如き仁愛を以てせず　(四)骨肉に對するが如き親愛

似不可及也。何不使彼爲可幾及。而日孳孳也。孟子曰。大匠不爲拙工改廢繩墨。羿不爲拙射變其彀率。君子引而不發。躍如也。中道而立。能者從之。

曰く、大匠(三)は拙工の爲めに繩墨を改廢せず。羿(四)は拙射の爲めに其彀率(五)を變ぜず。君子(六)は引きて發せず、躍如(七)たり。中道(八)にして立つ。能者之に從ふ。

(一)卑近にして企て及ぶべき道を作りて常人をして日に之を勸行せしめざる　(二)孜々に同じ　(三)勝れたる工匠は拙き工匠の爲にすみなはを改め又はやめず　(四)古の弓の名人　(五)弓を張る程度　(六)君子人を敎ふるの道を工匠の法及び射法に比して云ふ　(七)物の目前に踊り出づる有樣　(八)萬人に見安く道の中央に立つ

孟子曰。天下有道。以道殉身。天下無道。以身殉道。未聞以道殉乎人者也。

公都子曰。滕更之在門也。

孟子曰く、天下道有れば道を以て身に殉ず(一)、天下道無ければ身を以て道に殉ず(二)。未だ道を以て人に殉ずる(三)者を聞かざるなり。

(一)身用ひられ道自ら行はるゝこと　(二)道行はれず身從つて退くこと　(三)道を曲げて人に從ふこと

公都子曰く、滕更(一)の門に在るや、禮する所に(二)あるが若し。而も答へざるは何ぞや。孟子曰く、貴を挾み(三)て問ひ、賢を挾みて問ひ、長を挾みて問ひ、勳勞有る

弟一而已矣。王子有二其母死者一。其傅爲レ之。請二數月之喪一。公孫丑曰。若レ此者何如也。曰。是欲レ終レ之而不レ可レ得也。雖レ加二一日一愈レ於レ已。謂下夫莫二之禁一。而弗レ爲者上也。

るなり ㊄ 朞の喪は一年の喪なり ㊅ 緩やかにするなり ㊆ 庶子の實母に對する喪朞は短し、故に更に數月の喪を願出せるなり ㊇ 三年の喪をいふ ㊈ 三年の王制の喪を禁止せられしものならずして

孟子曰。君子之所二以教一者五。有下如二時雨一化レ之者上。有二成德者一。有二達レ財者一。有二答レ問者一。有二私淑艾者一。此五者。君子之所二以教一也。

孟子曰く、君子の教ふる所以の者五、時雨の之を化するが如き者有り。德を成す者有り。(一)財を達する者有り。問に答ふる者あり。(二)私は淑艾する者あり。此五者は君子の教ふる所以なり。

㊀ 財は材即ち才なり ㊁ 淑艾は善く治むること、直接に業を受くること能はず他人より傳へて修業すること

公孫丑曰。道則高矣美矣。宜二若レ登レ天然一。

公孫丑曰く、道は則ち高し美し。宜しく天に登るが若く然るべし。及ぶ可からざるに似たり。何ぞ彼をして(一)幾及す可きを爲して日〻に(二)孳孳せしめざる。孟子

弗レ愛。豕二交之一也。愛而不レ敬。獸二畜之一也。恭敬者。幣之未レ將者也。恭敬而無レ實。君子不レ可二虛拘一。

孟子曰。形色天性也。惟聖人然後。可二以踐一レ形。○齊宣王欲レ短レ喪。公孫丑曰。爲レ朞之喪。猶愈レ於レ已乎。孟子曰。是猶下或レ紾二其兄之臂一。子謂レ之姑徐徐云爾。亦敎二之孝

るなり。(四)恭敬は幣の未だ將はざる者なり。恭敬して實なければ君子は虛しく拘す可からず。

(一) 祿を與へて養ふ (二) 家として交際すること (三) 犬馬を飼ふやうに取扱ふなり (四) 恭敬は幣帛を行ふこと即ち儀式以前より存する精神なり、此の精神なく單なる虛禮を以てしては君子を引き留むること能はずとなり

孟子曰く、(一)形色は(二)天性なり。惟聖人にして然る後以て(三)形を踐む可し。○齊の宣王(四)喪を短くせんと欲す。公孫丑曰く、(五)朞の喪をなすは猶ほ已むに愈るか。孟子曰く、是れ猶ほ其兄の臂を紾らすものあり、子之に謂つて姑く(六)徐徐にせよと言ふがごとし。亦之に孝弟を敎へんのみ。(七)王子其母死する者あり。其傅之が爲めに數月の喪を請ふ。公孫丑曰く、此の若き者は何如ぞや。曰く、是れ(八)之を終へんと欲して得可からざるなり。一日を加ふと雖も已むに愈れり。(九)夫の之を禁ずる莫くして爲さざる者を謂ふなり。

(一) 形體と顏色 (二) 仁義禮智の天性 (三) 擧動の禮に合するを云ふ (四) 三年の喪を短くして一年となさんとす

舜如レ之何。曰。舜視レ棄二天下一。猶レ棄二敝蹝一也。竊負而逃。遵二海濱一而處。終レ身訢然樂而忘二天下一。

孟子自レ范之レ齊。望二見齊王之子一。喟然歎曰。居移レ氣。養移レ體。大哉居乎。夫非二盡人之子一與。孟子曰。王子宮室車馬衣服。多與レ人同。而王子若レ彼者。其居使二之然一也。況居二天下之廣居一者乎。魯君之レ宋。呼二於垤澤之門一。守者曰。此非二吾君一也。何其聲之似二我君一也。此無レ他。居相似也。

孟子、范(一)より齊に之き、齊王の子を望み見、喟然(二)として歎じて曰く、居(三)は氣を移し、養(四)は體を移す。大なるかな居や。夫れ盡く人の子に非ざるか。孟子(五)曰く、王子の宮室車馬衣服多く人と同じくして、王子(六)彼の若きは其居之をして然りしむるなり。況んや天下の廣居(七)に居る者をや。魯の君宋に之き、垤澤(八)の門に呼ぶ。守る者曰く、此れ吾(九)が君に非ざるなり。何ぞ其聲の我が君に似たるや。此れ他なし居相似たればなり。

(一)齊の邑なり　(二)歎息する狀　(三)居所は氣象を變移せしむ　(四)奉養は形體を移し易ふ　(五)種々の說あるも孟子曰を衍文と見ずして端を改めて細說するの意を示すべく此三字を用ひしと見るべきか　(六)氣象の同じからざるなり　(七)仁を云ふ　(八)宋の城門の名　(九)宋の君

孟子曰。食而

孟子曰く、食(一)ひて愛せざるは之を豕交(二)するなり。愛して敬せざるは之を獸畜(三)す

孟子曰。仲子不義與ニ之齊國ー而弗レ受。人皆信レ之。是舍ニ簞食豆羹ー之義也。人莫レ大ニ焉亡ニ親戚君臣上下ー以ニ其小者ー信ニ其大者ー。奚可哉。

桃應問曰。舜爲ニ天子ー。皐陶爲レ士。瞽瞍殺レ人。則如レ之何。孟子曰。執レ之而已矣。然則舜不レ禁與。曰。夫舜惡得而禁レ之。夫有レ所レ受レ之也。然則

孟子曰く、仲子(一)は不義(二)にして之に齊國に與ふるも受けず。人皆(三)之を信ず。是れ(四)簞食豆羹を舍つるの義なり。人(五)親戚君臣上下を亡するより大(六)なるは莫し。其小なる者を以て其大なるを信ず、奚ぞ可(七)ならんや。

(一)齊の陳仲子、前出 (二)一說に「之に齊國を與ふるも不義として受けず」と訓ず (三)賢者なりと信ず (四)一簞の食一豆の羹、之を捨つるは小廉なり (五)仲子の兄を避け母を避け君祿を食まず人道の大倫なきこと前に見ゆ (六)重大なる罪の意 (七)賢者となす可からず

桃應(一)問ひて曰く、舜天子たり。皐陶士(二)たり。瞽瞍(三)人を殺さば則ち之を如何にせん。孟子曰く、之を執へんのみ。然らば則ち舜禁ぜ(四)ざるか。曰く、夫れ舜惡んぞ得て之を禁ぜん。夫れ之を受(五)くる所有るなり。然らば則ち舜之を如何にせん。曰く、舜天下を棄つる視ること猶ほ敝蹝(六)を棄つるがごとし。竊かに負ひて逃れ、海濱に遵ひて處り、身を終ふるまで訢然(七)として樂みて天下を忘れん。

(一)孟子の弟子 (二)刑獄の官 (三)舜の父 (四)其儀に及ばずと禁止めないか (五)法令は先代より傳受する所にて私に廢す可からざればなり (六)破れたる草履 (七)欣然に同じ

公孫丑曰。詩曰。不素餐兮。君子之不耕而食何也。孟子曰。君子居是國也。其君用之。則安富尊榮。其子弟從之。則孝弟忠信。不素餐兮。孰大於是。

公孫丑に曰く、詩(一)に曰く、素餐(二)せずと。君子(三)の耕さずして食ふは何ぞや。孟子曰く、君子の是の國に居るや、其君之を用ふれば則ち安富尊榮、其子弟之に從へば則ち孝弟忠信、素餐せざること、孰れか是より大ならん。

(一) 詩經魏風伐檀の篇　(二) 功なくして食祿を食むこと　(三) 暗に孟子を指す

王子墊問曰。士何事。孟子曰。尚志。曰。何謂尚志。曰。仁義而已矣。殺一無罪非仁也。非其有而取之非義也。居惡在。仁是也。路惡在。義是也。居仁由義。大人之事備矣。

王子墊(一)問ひて曰く、士(二)何をか事とする。孟子曰く、志を尚く(三)す。曰く、何をか志を尚くすと謂ふ。曰く、仁義のみ。一無罪を殺すは仁に非ざるなり。其有に非ずして之を取るは義に非ざるなり。居惡にか在る。仁是なり。路惡にか在る。義是なり。仁に居り義に由る、大人(四)の事備れり。

(一) 齊王の子　(二) 學者の通稱　(三) 高尚にす　(四) 公卿大夫をいふ

子曰。有爲者。辟若掘井。掘井九軔而不及泉。猶爲棄井也。○孟子曰。堯舜性之也。湯武身之也。五霸假之也。久假而不歸。惡知其非有也。

公孫丑曰。伊尹曰。予不狎于不順。放大甲于桐。民大悅。大甲賢又反之。民大悅。賢者之爲人臣也。其君不賢。則固可放與。孟子曰。有伊尹之志則可。無伊尹之志則簒也。

となす。○孟子曰く、堯舜は(五)之を性にするなり。湯武は(六)之を身にするなり。五霸は之を假るなり。(七)(八)久しく假りて歸さず。惡んぞ其の有に非ざるを知らんや。

㈠太師太傅太保之を三公と云ふ　㈡節操　㈢古註にては、爲すある者は得られずと知れば中道にて盡く前に行ひし所を棄てて他の事をなすと解し、朱註によれば、道に志して中道にて止むは井を掘りて九仞の深さに達せるに泉に至らずとて止むに等しく自ら止むなり、成功に益なきなりと解す　㈣軔は仞なり、仞は普通八尺をいふ　㈤之の字は仁義を指す、堯舜は天性自然に仁義を好み、湯武は身に行ひて體得す　㈥體得したるなり　㈦借用す　㈧久しく假りて歸さざれば遂に己れのものとなる故に仁義も亦勉めて行ふに在るなり

公孫丑曰く、伊尹曰く、(一)予不順に狎れずと。(二)大甲を桐に放く。(三)民大に悅ぶ。大甲賢にして又之を反す。(四)民大に悅ぶ。賢者の人臣たるや、其君不賢ならば則ち固より放くべきか。孟子曰く、伊尹の志有らば則ち可なり。伊尹の志無くば則ち簒へるなり。

㈠書經大甲篇に見ゆ　㈡義理に從はざること　㈢幽閉す　㈣都の亳へ歸す

之。子莫執レ中。執レ中爲レ近レ之。執レ中無レ權。猶レ執レ一也。所レ惡レ執レ一者。爲三其賊レ道也。擧レ一而廢レ百也。

を廢すればなり。

(一)名は朱、前出　(二)利己主義を主張すること　(三)名は翟、兼愛論者　(四)自他を平等に愛すること　(五)頭の上より足の踵りまですりつぶすこと　(六)魯の賢者　(七)前二者の中間を執る　(八)聖人の道に近し　(九)物事に輕重なきをいふ　(十)固執して權宜を知らざれば、楊墨と同じく一方に偏するものなり

孟子曰。飢者甘レ食。渴者甘レ飮。是未レ得三飮食之正一也。飢渴害レ之也。豈惟口腹有二飢渴之害一。人心亦皆有レ害。人能無下以二飢渴之害一爲中心害上。則不レ及レ人。不レ爲レ憂矣。

孟子曰く、飢ゑたるものは食を甘んじ、渴する者は飮を甘んず。是れ未だ飮食の正を得ざるなり。(一)飢渴之を害すればなり。豈に惟に口腹のみ飢渴の害あるらんや。(二)人心も亦皆害有り。人能く飢渴の害を以て心の害と爲すこと無ければ、則ち人に及ばざるは憂と爲さず。

(一)飢渴が人の味覺を害するを云ふ　(二)人心の利欲に害せらるゝを云ふ

孟子曰。柳下惠。不下以二三公一易中其介上。○孟

孟子曰く、柳下惠は三公(一)を以て其介(二)を易へず。○孟子曰く、爲すこと(三)有る者は譬へば井を掘るが若し。井を掘ること九軔(四)にして泉に及ばざれば猶ほ井を棄つ

月有レ明。容光必照焉。流水之爲レ物也。不レ盈レ科不レ行。君子之志レ於レ道也。不レ成レ章不レ達。

〔十一〕に章をなすに非ざれば 〔十二〕眞に其道に通達せりとなさず

孟子曰。雞鳴而起。孳孳爲レ善者。舜之徒也。雞鳴而起。孳孳爲レ利者。蹠之徒也。欲レ知二舜與レ蹠之分一。無レ他。利與レ善之間也。

孟子曰く、鷄鳴きて起き、孳孳(一)として善を爲す者は舜の徒なり。鷄鳴きて起き孳孳として利を爲す者は蹠(二)の徒なり。舜と蹠との分を知らんと欲せば、他無し、利と善との間なり。

(一)勤めて已まぬきこと (二)盜跖のこと、大盜賊なり

孟子曰。楊子取レ爲レ我。拔二一毛一而利二天下一。不レ爲也。墨子兼愛。摩レ頂放レ踵利二天下一爲レ

孟子曰く、楊子(一)は我が爲めに爲る(二)を取る。一毛を拔きて天下を利するも爲さざるなり。墨子(三)は兼ね(四)愛す。頂(五)を摩し踵に至るも、天下を利するは之を爲す。子(六)莫は中(七)を執る。中を執るは之に近し(八)と爲す。中を執りて權(九)なきは猶ほ一(一〇)を執るがごとし、一を執ることを惡む所の者は、其の道を賊ふが爲めなり。一を擧げて百

也。食レ之以レ時。用レ之以レ禮。財不レ可二勝用一也。民非二水火一不二生活一。昏暮叩二人之門戸一。求二水火一。無二弗レ與者一。至足矣。聖人治二天下一。使下有二菽粟一如中水火上。菽粟如二水火一而民焉有二不仁者一乎。

火に非ざれば生活せず。昏暮に人の門戸を叩きて水火を求むるに與へざる者無し。至りて足ればなり。聖人の天下を治むる、菽粟(五)有る水火の如くならしむ。菽粟水火の如くにして、民焉ぞ不仁なる者有らんや。

㊀ 疇は一井の田なり、一説に毎年耕し得べき田と ㊁ 一説に休なりと解す、地力を休むるなりと ㊂ 其の時節時節を違へぬ事必要なるを云ふ、食は一に養也と解す、又通ずるに似たり ㊃ 法度なり ㊄ 豆と米とが澤山あることを形容す

孟子曰。孔子登二東山一而小レ魯。登二泰山一而小二天下一。故觀レ於レ海者難レ爲レ水。遊二於聖人之門一者難レ爲レ言。觀レ水有レ術。必觀二其瀾一。日

孟子曰く、孔子東山(一)に登りて魯を小とし泰山に登りて天下を小とす。故に海(二)に觀る者は水を爲し難く、聖人の門に遊ぶ者は言を爲し難し。水を觀るに術あり、必ず其瀾(三)を觀る。日月明有り。容光(四)必ず照す。流水の物爲るや、科に盈たざれば行かず、君子の道に志すや、章(五)と成さざれば達(六)せず。

㊀ 魯の城東の山 ㊁ 海を觀る者は大水を知る、故に之を說くに小水を以てし難し、聖人の門に遊ぶ者は大道を聞く、故に之に說くに小道を以てし難し ㊂ 水大なれば波も大なり ㊃ 微小の間隙を云ふ ㊄ 內に盈ちて外

文王作興曰。盍歸乎來。吾聞。西伯善養老者。天下有善養老。則仁人以爲己歸矣。五畝之宅。樹墻下以桑。匹婦蠶之。則老者足以衣帛矣。五母雞。二母彘。無失其時。老者足以無失肉矣。百畝之田。匹夫耕之。八口之家。可以無飢矣。所謂西伯善養老者。制其田里。敎之樹畜。導其妻子。使養其老。五十非帛不煖。七十非肉不飽。不煖不飽謂之凍餒。文王之民。無凍餒之老者。此之謂也。

時を失ふ無くば、老者は以て肉を失ふ無きに足れり。百畝の田、匹夫之を耕せば、八口の家を以て飢うる無かるべし。所謂西伯善く老を養ふとは其田里を制し、(六)之に樹畜を敎へ、(七)其妻子を導き其老を養はしむ。五十は帛に非ざれば煖ならず。七十は肉に非ざれば飽かず。煖かならず飽かざる之を凍餒と謂ふ。文王の民凍餒の老無しとは此の謂なり。

(一)本章は離婁上に出づ　(二)己の歸すべき所となす　(三)以下梁惠王上篇に見ゆ、文に少異あり　(四)五羽の母雞　(五)二匹の牝豕　(六)人民の田地と宅地とを制限するなり　(七)穀物と桑とを植うる事及び雞と彘とを飼ふ事

孟子曰。易其田疇。薄其稅斂。民可使富

孟子曰く、其田疇(一)を易め(二)其稅斂を薄くせば、民は富ましむべきなり。之を食ふ(三)に時を以てし、之を用ふるに禮(四)を以てせば、財勝げて用ふべからざるなり。民水

焉。中二天下一而立。定二四海之民一。君子樂レ之。所レ性不レ存焉。君子所レ性。雖二大行一不レ加焉。雖二窮居一不レ損焉。分定故也。君子所レ性。仁義禮智根レ於レ心。其生レ色也。睟然見レ於レ面。盎レ於レ背。施レ於二四體一。四體不レ言而喩。

行ふと雖も加へず。窮居すと雖も損せず。(四)分定まるが故なり。君子の性とする所は、仁義禮智(五)心に根ざす。(六)其の色に生ずるや、(七)睟然として(八)面に見はれ、背に盎れ、四體に施き、(九)四體言はずして喩る。

(一) まだ樂しむ所には足らぬ　(二) 天下の中央に都すること　(三) 君子の性とする所ではない　(四) 天賦の性の分量定まる　(五) 心に根をおろす　(六) 仁義禮智の身の外に見はるゝや　(七) 潤澤の貌　(八) 以下は行き渡る意　(九) 四肢も命令を受けずとも我が意を喩る、古注にては喩を人之を喩るなりと解す

孟子曰。伯夷辟レ紂。居二北海之濱一。聞二文王作興一曰。盍レ歸乎來。吾聞。西伯善養レ老者。太公辟レ紂。居二東海之濱一。聞二

孟子曰く、(一)伯夷紂を辟けて北海の濱に居り、文王作興すと聞き、曰く、盍ぞ歸せざる、吾聞く西伯は善く老を養ふ者と。太公紂を辟けて東海の濱に居り、文王作興すと聞き、曰く、盍ぞ歸せざる、吾聞く西伯は善く老を養ふ者と。天下に善く老を養ふあれば、則ち仁人以て己の歸となす。(三)五畝の宅、牆下に樹うるに桑を以てし、匹婦之に蠶せば、則ち(二)老者は以て帛を衣るに足れり。(四)五母雞、(五)二母彘、其

達可レ行ニ於天下ー。而後行レ之者也。有ニ大人者ー。正レ己而物正者也。

㊀ 顔色を悦ばせて取り入ること ㊁ 社は土地の神、稷は五穀の神、轉じて國家の意に用ふ ㊂ 己の滿足 ㊃ 德有りて隱れて人に役せられざる民 ㊄ 聖人と同じ ㊅ 君と民とを兼ねて物と云へり

孟子曰。君子有ニ三樂ー。而王ニ天下ー不ニ與存ー焉。父母俱存。兄弟無レ故。一樂也。仰不レ愧ニ於天ー。俯不レ怍ニ於人ー。二樂也。得ニ天下英才ー。而教ニ育之ー。三樂也。君子有ニ三樂ー。而王ニ天下ー不ニ與存ー焉。

孟子曰く、君子に三樂あり。而して天下に王たるは㊀與り存せず。父母俱に存し兄弟故無き㊁は一樂なり。仰いで天に愧ぢず俯して人に怍ぢざるは二樂なり。天下の英才を得て之を教育するは三樂なり。君子に三樂あり。而して天下に王たるは與り存せず。

㊀ 王者たることは三樂の中に加はり居らず ㊁ 事故

孟子曰。廣土衆民。君子欲レ之。所レ樂不レ存

孟子曰く、廣土衆民は君子之を欲す。㊀樂しむ所は存せず。㊁天下に中して立ち四海の民を定む。君子之を樂しむ。㊂性とする所は存せず。君子の性とする所は大に

善言一見中一善行上。若下決二江河一。沛然莫中之能禦上也。

孟子曰。無レ爲ニ其所レ不レ爲。無レ欲ニ其所レ不レ欲。如レ此而已矣。○孟子曰。人之有ニ德慧術知一者。恆存レ乎ニ疢疾一。獨孤臣孼子其操レ心也危。其慮レ患也深。故達。

孟子曰く、其の爲さざる所を爲すこと無く、(一)其の欲せざる所を欲する無かれ、此の如くせんのみ。○孟子曰く、人の德慧術知ある者、(二)恆に疢疾に存す。(三)獨り孤臣孼子(四)其の心を操るや危く、(五)其の患を慮るや深し。故に達す。(六)

(一) 己の爲すを欲せざることを他人に要求せざるなり。朱注にては其の行ふまじき事を行ふなく、其の欲すまじき事を欲するなしと解す　(二) 德の聰なる術の巧なるものなり　(三) 熱病、凡て人は災厄に遭うて發憤し其の知德を成就するものなり　(四) 君に用ひられざる孤立の臣下、親に疎んぜらるゝ庶子、かゝる不遇に居るものは常に危きに居るが如く用心するものなり　(五) 心持の安からぬなり　(六) 道理に達す

孟子曰。有ニ事レ君人者一。事ニ是君一。則爲ニ容悦一者也。有下安ニ社稷一臣者上。以レ安ニ社稷一爲レ悦者也。有ニ天民者一。

孟子曰く、君に事ふる人といふ者あり。是の君に事ふれば則ち(一)容悦を爲す者なり。社稷を安ずる臣といふ者あり。(二)社稷を安ずるを以て(三)悦と爲す者なり。(四)天民といふ者あり。達して天下に行ふべくして、而る後に之を行ふ者なり。(五)大人といふ者あり。己を正しうして(六)物正しき者なり。

孟子曰。人之所レ不レ學而能者。其良能也。所レ不レ慮而知者。其良知也。孩提之童無レ不レ知レ愛ニ其親一也。及ニ其長一也。無レ不レ知レ敬ニ其兄一也。親レ親仁也。敬レ長義也。無レ他。達ニ之天下一也。

孟子曰く、人の學ばざる所にして能くする者は其良能(一)なり。慮らざる所にして知る者は其良知(二)なり。(三)孩提の童も其親を愛することを知らざること無し。其長ずるに及びて其兄を敬することを知らざること無し。親を親しむは仁なり。長を敬するは義なり。(四)他無し之を天下に達するなり。

(一) 人爲を假らず、自然に得たる能力 (二) 自然の知惠 (三) 孩は小兒の笑ふこと、提は提抱なり、二三才の幼兒を云ふ (四) 仁義の道を行ふとは此の天性の仁義を天下に推し廣むるのみ

孟子曰。舜之居ニ深山之中一。與ニ木石一居。與ニ鹿豕一遊。其所ニ以異ニ於深山之野人一者幾希。及下其聞ニ一

孟子曰く、舜の深山の中に居る、(一)木石と居り、鹿豕と遊ぶ、(二)其の深山の野人と異なる所以の者幾ど希なり。其の一の善言を聞き、一の善行を見るに及びて、(三)江河を決て沛然として之を能く禦むること莫きが若し。

(一) 歴山の麓に居りし故斯く云ふ (二) 舜の深山に住する狀態は卑賤の凡人とさして異なる處なし (三) 其の趨向することの旺盛なる狀を形容していふ

之民。驩虞如也。王者之民。皞皞如也。殺レ之而不レ怨。利レ之而不レ庸。民日遷レ善。而不レ知レ為レ之者。夫君子所レ過者化。所レ存者神。上下與二天地一同流。豈曰レ小二補之一哉。

之て利じを庸(三)とせず。民日に善に遷りて之を爲す(四)者を知らず。夫れ君子(五)過ぐる所の者は化し(六)、存する所の者は神(七)、上下天地と流を同じうす。豈に之を小補す(八)と曰はんや。

(一)樂み喜ぶ樣　(二)廣大自得の貌　(三)功とせず　(四)善に遷らせし者　(五)聖人の意　(六)感化を及ぼすこと　(七)聖人の存する所は其の感化神の如し　(八)王業は決して一時の取り繕ひに非ざること

孟子曰。仁言不レ如二仁聲之入一レ人深一也。善政。不レ如二善教之得一レ民也。善政民畏レ之。善教民愛レ之。善政得二民財一。善教得二民心一。

孟子曰く、仁言(一)は仁聲(二)の人に入るの深きに如かざるなり。善政(三)は善教(四)の民を得るに如かざるなり。善政は民之を畏れ、善教は民之を愛す。善政は民の財を得(五)、善教は民の心を得(六)。

(一)仁言を以て民を諭すこと　(二)仁君といふ評判が深く人心に感化を與ふるに及ばず　(三)政は法度禁制なり　(四)教は仁義禮樂なり　(五)百姓足りて君足らざることなしの意　(六)其親を後にせず君を遺れざる意

焉。古之人得志。澤加於民。不得志。脩身見於世。窮則獨善其身。達則兼善天下。

孟子曰。待文王而後興者。凡民也。若夫豪傑之士。雖無文王猶興。○孟子曰。附之以韓魏之家。如其自視欿然。則過人遠矣。

孟子曰く、文王を待つて(一)後に興る(二)者は凡民なり。夫の豪傑の士の若きは、文王無しと雖も、猶ほ興る。○孟子曰く、之に附する(三)に韓魏(四)の家を以てするも、如し其れ自ら視ること欿然(五)たらば、則ち人に過ぐること遠し。

(一) 感化を受くること (二) 感憤興起すること (三) 益し加ふること (四) 晋の卿相の家柄にて富貴なり、後、晋を分割して各々國を立つ (五) 不滿の貌

孟子曰。以佚道使民。雖勞不怨。以生道殺民。雖死不怨殺者。

孟子曰く、佚道(一)を以て民を使へば、勞すと雖も怨みず。生道(二)を以て民を殺せば、死すと雖も殺す者を怨みず。

(一) 安逸ならしむる道 (二) 民生を遂げしめんとする道

孟子曰。霸者

孟子曰く、霸者の民は驩虞如(一)たり。王者の民は皞皞如(二)たり。之を殺して怨みず、

人之勢。故王公不致敬盡禮。則不得亟見之。見且猶不得亟。而況得而臣之乎。

㈠人の善を好むなり　㈡己の權勢を忘れて貴者を敬すること　㈢己の道なり　㈣君侯の權勢

孟子謂宋句踐曰。子好遊乎。吾語子遊。人知之亦囂囂。人不知亦囂囂。曰。何如斯可以囂囂。曰。尊德樂義。則可以囂囂矣。故士窮不失義。達不離道。窮不失義。故士得己焉。達不離道。故民不失望

孟子、宋句踐に謂ひて曰く、子、遊を好むか。吾、子に遊を語らむ。人之れを知れども亦囂囂、人知らざれども亦囂囂たり。曰く、何如せば斯に以て囂囂たるべき。曰く、德を尊び義を樂めば則ち以て囂囂たるべし。故に士は窮して義を失はず。達して道を離れず。窮して義を失はず、故に士己を得。達して道を離れず、故に民望を失はず。古の人志を得れば澤民に加はり、志を得ざれば身を脩めて世に見はる。窮すれば則ち獨り其身を善くし、達すれば則ち兼ねて天下を善くす。

㈠當時の遊說家なり、姓は宋、名は句踐　㈡遊說　㈢自得無欲の貌　㈣德は得なり、我身に得たる德なり　㈤我身の守る義なり　㈥榮達なり　㈦己の本分を全うす　㈧人民本望通りになる　㈨名實諸侯に見はる

而不レ著焉。習矣而不レ察焉。終身由レ之。而不レ知二其道一者衆也。

孟子曰。人不レ可三以無二レ恥。無レ恥之恥無レ恥矣。○孟子曰。恥之於レ人大矣。爲二機變之巧一者。無レ所レ用レ恥焉。不レ恥レ不レ若レ人。何若レ人有。

孟子曰。古之賢王好レ善而忘レ勢。古之賢士。何獨不レ然。樂二其道一而忘二

道を知らざる者は衆し。

(一) 仁義の心を云ふ　(二) 顯著ならしむる能はず　(三) 仁義の道に從ひながらの意

孟子曰く、人以て(一)恥づること無かるべからず。(二)恥無きを之れ恥づれば恥づること無し。○孟子曰く、(三)恥の人に於けるや大なり。(四)機變の巧を爲す者は恥を用ふるに所なし、(五)人に若かざるを恥ぢざれば何ぞ人に若くことか有らむ。

(一) 羞恥の心が無ければならぬ　(二) 恥づるなき所に恥づれば修身恥辱に遇はずと　(三) 恥を知ることは人に大切なりと　(四) 計略や言葉を以て人を陷れること　(五) 人に及ばざるなり

孟子曰く、古の賢王は(一)善を好みて(二)勢を忘る。古の賢士は何ぞ獨り然らざらん。(三)其道を樂みて人の(四)勢を忘る。故に王公も敬を致し禮を盡さざれば則ち亟々之を見ることを得ず。見ることすら且つ猶ほ亟々することを得ず。而るを況んや得て之を臣とするをや。

道而死者。正命也。桎梏死者。非正命也。

孟子曰。求則得之。舍則失之。是求有益於得也。求在我者也。求之有道。得之有命。是求無益於得也。求在外者也。

孟子曰。萬物皆備於我矣。反身而誠。樂莫大焉。強恕而行。求仁莫近焉。

孟子曰。行之

(一)人の死は皆天命なりと雖も、善を行ひて正命を受くべく努力すべしとなり　(二)天命に順ひて正當なるものを受く　(三)危嚴煩惱なり　(四)罪人を罰する手械足械なり

孟子曰く、求むれば則ち之を得、舍つれば則ち之を失ふ。是れ求め得るに益あるなり。(一)我に在る者を求むればなり。之を求むるに(二)道あり。之を得るに命あり。是れ求め得るに益無きなり。(三)外に在る者を求むればなり。

(一)我身内に在るもの、即ち天爵を云ふ、朱註に仁義禮知凡そ性の有する所の者といへり　(二)求むる方法　(三)外より來るもの、人爵を云ふ、富貴利達の類亦皆然り

孟子曰く、(一)萬物皆我に備る。身に反みて誠なれば樂焉より大なるは莫し。(二)強恕して行ふ。仁を求むること焉より近きは莫し。

(一)天下の人心皆同じ、故に我心を推して人に誤らず、故に皆我心に備はると謂ふべし、萬物とは天下の萬善なりと云ふ　(二)自ら勉強して忠恕の道を行ふべし、忠恕とは己を推して人に及ぼすこと、即ち同情なり

孟子曰く、(一)之を行ひて(二)著しからず。習ひて察せず。(三)終身之に由りて而も其

孟子曰。盡二其心一者。知二其性一也。知二其性一。則知レ天矣。存二其心一。養二其性一。所二以事レ天也。殀壽不レ貳。脩レ身以俟レ之。所二以立レ命也。

孟子曰。莫レ非レ命也。順受二其正一。是故知レ命者。不レ立レ乎二巖牆之下一。盡二其

卷之十三

盡心章句上

孟子曰く、(一)其心を盡す者は(二)其性を知る。其性を知れば則ち天を知る。(三)其心を存して其性を養ふは、天に事ふる所以なり。(四)殀壽貳せず、身を脩めて以て之を俟つは、命を立つる所以なり。

(一) 惻隱羞惡恭敬是非の心　(二) 人性の善なることを認知す　(三) 人性は天の賦與する所なれば、性の善なるを知れば之を賦與する天の善を好むことを自ら知り得るとなり　(四) 殀は短命、貳は疑ふ意、立命は天命を守ること

孟子曰く、(一)命に非ざること莫きなり。(二)順ひて其正を受く。是故に命を知る者は(三)巖牆の下に立たず。其道を盡して死する者は正命なり。(四)桎梏して死する者は正命に非ざるなり。

於二是人一也。必先苦二其心志一。勞二其筋骨一。餓二其體膚一。空二乏其身一。行拂二亂其所一レ爲。所三以動レ心忍レ性。曾二益其所一レ不レ能。人恆過。然後能改。困レ於レ心。衡レ於レ慮而後作。徵レ於レ色。發レ於レ聲。而後喩。入則無二法家拂士一。出則無二敵國外患一者。國恆亡。然後知レ生二於憂患一。而死二於安樂一也。

入りては則ち法家拂士(一四)無く、出ては則ち敵國外患無き者は國恆に亡ぶ。然して後に知る、憂患に生きて安樂に死することを。

(一) 田畠なり、舜初め歷山の下に耕せりと云ふ (二) 城壁を築くこと、傅說は其の人夫の中に居りしに、殷の武丁之を擧用せり (三) 殷紂を避けて魚鹽を賣る、周の文王之をあぐ (四) 管仲は魯より捕はれ齊に送られ、獄官の中より桓公に拔擢せらる (五) 初め海濱に居りしが楚の莊王に擧げらる (六) 秦の穆公に市中より擧用さる (七) 困窮貧乏にす (八) 思ふ事皆違ひて一つも爲し遂げられぬこと (九) 其心を聳動し (一〇) 其性を堅く忍ばせ (一一) 增益す (一二) 思慮の屈托して通ぜざること (一三) 幾微の中に明かにする能はず、事理暴著、以て人の色に驗し人の聲に發するに至つて始めてよく警悟して通曉すと也 (一四) 法度ある譜代の家と輔弼の臣

孟子曰。敎亦多レ術矣。予不二屑レ之敎誨一也者。是亦敎二誨之一而已矣。

孟子曰く、敎も亦(一)術多し。予が之を屑しとして敎誨せざる者は、是れ亦之を敎誨するのみ。

(一) 人を敎ふるにも種々方法あり、受敎者の行よからず、之を敎ふるを屑とせずして之を謝絕するも、其の人之に感憤して行を改め學に志すこととならば、謝絕も亦一の敎授法なり

有レ禮則就レ之。禮貌衰。則去レ之。其下朝不レ食。夕不レ食。飢餓不レ能レ出二門戸一。君聞レ之曰。吾大者不レ能レ行二其道一。又不レ能レ從二其言一也。使レ飢二餓於我土地一。吾恥レ之。周レ之亦可レ受也。免レ死而已矣。

死を免るゝのみ。(八)

(一)陳臻 (二)仕ふるなり (三)仕へざるなり (四)遇するに禮を以てし待つに和顏を以てすること (五)上にしてはと同じ (六)其の次に同じ (七)救ふなり (八)祿の多くを受けず、死を免かるゝ程度に於て受くるのみ

孟子曰。舜發レ於二畎畝之中一。傅說擧レ於二版築之間一。膠鬲擧レ於二魚鹽之中一。管夷吾擧レ於レ士。孫叔敖擧レ於レ海。百里奚擧レ於レ市。故天將レ降二大任

孟子曰く、舜は畎畝の中に發し、(一)傅說は版築の間に擧げられ、(二)膠鬲は魚鹽の(三)中に擧げられ、管夷吾は士に擧げられ、(四)孫叔敖は海に擧げられ、(五)百里奚は市に(六)擧げらる。故に天の將に大任を是人に降さんとするや、必ず先づ其心志を苦め、其筋骨を勞し、其體膚を餓し、(七)其の身を空乏にし、行其の爲す所に拂亂す。(八)心(九)を動し性を忍び其の能くせざる所を曾益する所以なり。(一〇)人恆に過ちて然る後に能く改む。心に困し(一一)慮に衡して後に作る。(一二)色に徵し聲に發して後に喩る。(一三)

天下。而況魯國乎。夫苟好善、則四海之內、皆將輕千里而來告之以善。夫苟不好善、則人將曰、訑訑予既已知之矣。訑訑之聲音顏色、距人於千里之外。士止於千里之外、則讒諂面諛之人至矣。與讒諂面諛之人居。國欲治可得乎。

(一)信なり、信無くば力と恃む者他になしとなり　(二)樂正子克なり　(三)剛強果斷なり　(四)知慮謀慮ありや　(五)傳聞多識なりや　(六)餘裕あること　(七)千里を遠しとせざる事　(八)自分の智を誇りて他人の言を賤むこと

陳子曰。古之君子。何如則仕。孟子曰。所就三。所去三。迎之致敬以有禮。言將行其言也。則就之。禮貌未衰。言弗行也。則去之。其次雖未行其言也。迎之致敬以

(一)陳子曰く、古の君子何如なれば則ち仕ふる。孟子曰く、就く(二)所三つ、去る(三)所三つ。之を迎ふるに敬を致して以て禮あり。言ひて將に其言を行はんとすれば、則ち之に就く。(四)禮貌未だ衰へざるも、言行はれざれば則ち之を去る。其次は未だ其言を行はずと雖も、之を迎ふるに敬を致し、以て禮あれば則ち之に就く。禮貌衰ふれば則ち之を去る。其下は朝に食はず夕に食はず、飢餓門戸を出づる能はず。君之を聞きて曰く、吾大(五)にしては其道を行ふ能はず。又(六)其言に從ふ能はず。我土地に飢餓せしむるは、吾之を恥づとて、之を周(七)はば亦受くべきなり、

海爲壑。今吾子以鄰國爲壑。水逆行。謂之降水。降水者。洪水也。仁人之所惡也。吾子過矣。

(一)白圭の名 (二)禹の治水は四方の海に水を注ぎやり天下の害を除く (三)丹の治水は隣國に水を注ぎやり自國の害を除くのみ

孟子曰。君子不亮。惡乎執。○魯欲使樂正子爲政。孟子曰。吾聞之。喜不寐。公孫丑曰。樂正子强乎。曰。否。有知慮乎。曰。否。多聞識乎。曰。否。然則奚爲喜而不寐。曰。其爲人也好善。好善足乎。曰。好善優於

孟子曰く、君子亮ならざれば惡にか執らん。○魯、樂正子をして政を爲さしめんと欲す。孟子曰く、吾之を聞き喜びて寐ねられず。公孫丑曰く、樂正子は强か。曰く、否。知慮あるか。曰く、否。聞識多きか。曰く、否。然らば則ち奚爲ぞ喜びて寐られざる。曰く、其の人となりや善を好む。善を好めば足るか。曰く、善を好めば天下に優なり。而るを況んや魯國をや。夫れ苟も善を好めば、則ち四海の内、皆千里を輕んじて、來つて之に告ぐるに善を以てせんとす。夫れ苟も善を好まざれば、則ち人將に曰はんとす、訑訑として予既に已に之を知ると。訑訑の聲音顏色人を千里の外に距む。士千里の外に止まらば、則ち讒諂面諛の人至らん。讒諂面諛の人と居らば、國治を欲すとも得べけんや。

夫貉五穀不レ生。惟黍生レ之。無二城郭宮室宗廟祭祀之禮一。無二諸侯幣帛饔飧一。無二百官有司一。故二十取レ一而足也。今居二中國一。去二人倫一。無二君子一。如之何。其可也。陶以寡。且不レ可二以爲一レ國。況無二君子一乎。欲レ輕三之於二堯舜之道一者。大貉小貉也。欲レ重三之於二堯舜之道一者。大桀小桀也。

て國を爲す可からず。況んや君子無きをや、之を堯舜(九)の道より輕くせんと欲する者は(一〇)大貉小貉なり。之を堯舜の道より重くせんと欲する者は(一一)大桀小桀なり。

(一) 姓は白、名は丹、字は圭、周人なりと (二) 租税十分の一を徴収する者が三代の通則なり、然るに今二十分の一を租税として取り立てんとす (三) 北方夷狄の國の名 (四) 萬戸ある所にて一人が陶器を燒くこと (五) 絹帛の進物 (六) 賓客を饗應する禮なり (七) 交際の禮をいふ (八) 位を以て云ふ、在官の人を云ふ (九) 租税の率は十分の一が最も適當なり、是れ堯舜の古法、之より多くも少くも共に惡しと云ふなり (一〇) 租税を輕くするによりて大小と云へり (一一) 重税又は輕税によりて云ふ

白圭曰。丹之治レ水也。愈二於禹一。孟子曰。子過矣。禹之治レ水。水之道也。是故禹以二四

白圭曰く、丹の水を治むるや、禹より愈れり。孟子曰く、子過てり。禹の水を治むるは水の道なり。是の故に(一二)禹は四海を以て壑となす。今(一三)吾子は鄰國を以て壑と爲す。水逆行する之を降水といふ。降水とは洪水なり。仁人の惡む所なり、吾子過てり。

古之所ㇾ謂民賊也。君不ㇾ鄉ㇾ道。不ㇾ志ㇾ於ㇾ仁。而求ㇾ富ㇾ之。是富ㇾ桀也。我能爲ㇾ君約二與國一戰必克。今之所謂良臣。古之所謂民賊也。君不ㇾ鄉ㇾ道。不ㇾ志ㇾ於ㇾ仁。而求二爲ㇾ之強戰一。是輔ㇾ桀也。由二今之道一。無ㇾ變二今之俗一。雖ㇾ與二之天下一。不ㇾ能二一朝居一也。

約し戰へば必ず克たんと。今の所謂良臣は古の所謂民の賊なり。君道に鄉はず、仁に志ざゝず。而して之を爲めに強戰することを求む。是れ桀を輔くるなり。(五)今の道に由りて今の俗を變ずること無ければ、之に天下を與ふと雖も、(六)一朝も居ること能はざるなり。

(一)當今の君に仕官する者　(二)人民に害をなす者　(三)夏の桀王の如き暴君を富ましむるよからざる仕方　(四)同盟國　(五)正しき道　(六)暫くの間も天下を有つこと能はず

白圭曰。吾欲二二十而取一ㇾ一。何如。孟子曰。子之道。貉道也。萬室之國。一人陶則可乎。曰。不可。器不ㇾ足ㇾ用也。曰。

(一)白圭曰く、(二)吾二十にして一を取らんと欲す何如と。孟子曰く、子の道は(三)貉の道なり。(四)萬室の國一人陶すれば則ち可ならんや。曰く、不可。器用ふるに足らざるなり。曰く、夫れ貉は五穀生ぜず、惟黍のみ之に生ず。城郭宮室宗廟祭祀の禮無く、諸侯の(五)幣帛(六)饔飧無く、百官有司無し。故に二十にして一を取りて足れり。今中國に居り、(七)人倫を去り(八)君子無ければ、之を如何ぞ其れ可ならんや。陶以て寡きも且つ以

里。不二百里一。不レ足三以守二宗廟之典籍一。周公之封レ於レ魯。爲二方百里一也。地非レ不レ足。而儉レ於二百里一。太公之封レ於レ齊也。亦爲二方百里一也。地非レ不レ足也。而儉レ於二百里一。今魯方百里者五。子以爲有二王者作一。則魯在レ所レ損乎。在レ所レ益乎。徒取二諸彼一以與レ此。然且仁者不レ爲。況於二殺レ人以求一レ之乎。君子之事レ君也。務引二其君一以當レ道。志レ於レ仁而已。

に於てをや。君子の君に事ふるや、務めて其君を引きて以て道に當り、(一五)仁に志さしむるのみ。

(一) 魯の臣、用兵に巧なる者 (二) 人民に禮義を教へて、父母長上に事ふる人の道を知らしめ、又農業の暇に軍事を習はしめて後人民を戰に使用すべきに然らずして人民を戰に用ふるなり (三) 人民に災難を掛くるなり (四) 堯舜の如き聖人の世には、其の罪を容赦せられぬ (五) 泰山の西南、汶水の北に在る地 (六) 悅ばざる貌 (七) 愼子の名なり (八) 合點のゆかぬことなり (九) 諸侯の朝覲聘問の待遇をするなり (一〇) 諸侯の祭祀朝會の典例の記錄なり、之れを宗廟に藏め置くが故に宗廟之典籍といふ (一一) 百里に制限するなり (一二) 戰はずして取るなり (一三) 齊を指す (一四) 魯を指す (一五) 道理に叶へしむるなり

孟子曰。今之事レ君者曰。我能爲レ君辟二土地一充二府庫一。今之所レ謂良臣。

孟子曰く、今の君に事ふる者は曰く、我は能く君の爲めに土地を辟き府庫を充さんと。今の所謂良臣は、(一)古の所謂民の賊なり。(二)君道に鄕はず仁に志さずして之を富まさんことを求む、是れ桀を富ますなり。(三)我れ能く君の爲めに、與國と(四)

禁。故曰。今諸侯。五霸之罪人也。長二君之惡一其罪小。逢二君之惡一。其罪大。今之大夫。皆逢二君之惡一。故曰。今之大夫。今之諸侯之罪人也。

魯欲レ使下愼子爲中將軍上。孟子曰。不レ敎レ民而用レ之。謂二之殃一レ民。殃レ民者。不レ容レ於二堯舜之世一。一戰勝レ齊。遂有二南陽一。然且不可。愼子勃然不レ悅曰。此則滑釐所レ不レ識也。曰。吾明告レ子。天子之地。方千里。不二千里一。不レ足三以待二諸侯一。諸侯之地。方百

魯(一)、愼子をして將軍たらしめんと欲す。孟子曰く、民(二)を敎へずして之を用ふる之を民を殃(三)すと謂ふ。民を殃する者は堯舜(四)の世に容れられず。一たび戰ひて齊に勝ち、遂に南陽(五)を有つて、然も且つ不可なり。愼子勃然(六)として悅ばずして曰く、此れ則ち滑釐(七)の識(八)らざる所なり。曰く、吾明かに子に告げん。天子の地、方千里、千里ならざれば以て諸侯(九)を待つに足らず。諸侯の地、方百里、百里ならざれば以て宗廟(一〇)の典籍を守るに足らず。周公の魯に封ぜらるゝや方百里と爲す、地足らざるに非ず、而して百里に儉す。太公の齊に封ぜらるゝや、亦(一一)方百里と爲す。地足らざるに非ざるなり、而して百里に儉す。今魯方百里の者五つ、子以爲らく、王者作るとあらば則ち魯は損する所に在るか、益する所に在るか、徒(一二)に諸を彼(一三)に取りて以て此(一四)に與ふ。然れども且つ仁者は爲さず。況んや人を殺して以て之を求むる

書而不レ歃レ血。初命曰。誅ニ不孝一。無レ易ニ樹子一。無ニ以レ妾為一レ妻。再命曰。尊レ賢育レ才。以彰ニ有德一。三命曰。敬レ老慈レ幼。無レ忘ニ賓旅一。四命曰。士無レ世レ官。官事無レ攝。取レ士必得。無三專殺ニ大夫一。五命曰。無レ曲レ防。無レ過レ糴。無ニ有レ封而不一レ告。曰。凡我同盟之人。既盟之後。言歸レ于レ好。今之諸侯。皆犯ニ此五

れ。再命に曰く、賢を尊び才を育ひ以て有德(七)を彰せ。三命に曰く、老を敬ひ幼を慈し、賓旅(八)を忘るゝこと無かれ。四命に曰く、士官を世々にすること(九)無かれ。官の事は攝すること(一〇)無かれ。士を取るには必ず得よ。專に大夫を殺すこと無かれ。五命に曰く、防を曲ぐること(一一)無かれ。糴を過むること(一二)無かれ。封あり(一三)て告げざること無かれ。曰く、凡そ我が同盟の人既に盟ふの後、言に好に歸せよ(一四)と。今の諸侯は皆此の五禁を犯せり。故に曰く、今の諸侯は五霸の罪人なりと。君の惡を長ずるは其罪小なり。君の惡を逢ふる(一五)は其罪大なり。今の大夫は皆君の惡を逢ふ。故に曰く、今の大夫は今の諸侯の罪人なりと。

(一) 僖公九年の會盟、左傳參照　(二) 犧牲を壇上に縛したるのみにて殺さざりし意　(三) 盟の辭を記せるもの　(四) 會盟には血を歃るべきに歃らざりしなり　(五) 五命の文書中の初命なり　(六) 嗣子　(七) 有德者　(八) 旅行者を疎略にすな　(九) 世襲　(一〇) 官を兼ぬること　(一一) 隄防を曲ぐること　(一二) 隣國が、饑饉などの爲めに米穀を購入する時に之を邪魔すること勿れ　(一三) 盟主に告げずして封を人に與ふる勿れ　(一四) 交際の言　(一五) 君の心に惡心未だ發せざるに臣其の意を揣へ君を惡に導くは其の罪大なり

之罪人也。天子適諸侯。曰巡狩。諸侯朝於天子。曰述職。春省耕而補不足。秋省斂而助不給。入其疆。土地辟。田野治。養老尊賢。俊傑在位。則有慶。慶以地。入其疆。土地荒蕪。遺老失賢。掊克在位則有讓。一不朝則貶其爵。再不朝則削其地。三不朝則六師移之。是故天子討而不伐。諸侯伐而不討。五霸者摟諸侯。以伐諸侯者也。故曰。五霸者。三王之罪人也。

れば則ち慶(三)あり。慶するに地を以てす。其疆に入り、土地荒蕪し、老を遺れて賢を失ひ、掊克(四)位にあれば、則ち讓(五)あり。一たび朝せざれば則ち其爵を貶(六)し、再び朝せざれば則ち其地を削り、三たび朝せざれば則ち六師(七)之に移す。是の故に天子は討じて(八)伐せず、諸侯は伐して(九)討せず。五霸は諸侯を摟きて以て諸侯を伐つ者なり。故に曰く、五霸は三王の罪人なり。

(一) 春秋時代に於ける諸侯の盟主、齊の桓公、晉の文公、秦の穆公、宋の襄公、楚の莊王是れなり (二) 三王は禹湯文武なり、文武は父子の關係あるが故に一王として數ふるなり (三) 賞與なり (四) 自らほこりて人に勝つことを好む人、即ち不良不正の人を云ふ (五) 責む (六) 降す (七) 大軍をむけて之を討つなり (八) 命を下して討たしむ (九) 天子の命を奉じて諸侯親征するを云ふ

五霸。桓公爲盛。葵丘之會。諸侯束牲載

五霸は桓公を盛なりと爲す。葵丘(一)の會に諸侯牲(二)を束ね、書(三)を載せて血(四)を歃らず。初命(五)に曰く、不孝を誅し(六)樹子を易ふると無かれ。妾を以て妻と爲すこと無か

得與。曰。昔者王豹處於淇。而河西善謳。綿駒處於高唐。而齊右善歌。華周杞梁之妻。善哭其夫。而變國俗。有諸內必形諸外。爲其事而無其功者。髡未嘗覩之也。是故無賢者也。有則髡必識之。曰。孔子爲魯司寇。不用。從而祭。燔肉不至。不稅冕而行。不知者以爲爲肉也。其知者以爲爲無禮也。乃孔子則欲以微罪行。不欲爲苟去。君子之所爲。衆人固不識也。

(一一) 削らる、位にてすみしは畢竟賢人を用ひしが爲めなり　(一二) 衞國の人にて歌を善くす、淇は川の名、衞に在り　(一三) 齊國の人、亦歌を善くす、高唐は齊の邑名、齊右は齊の西部地方　(一四) 共に齊人、莒に於て戰死す　(一五) 齊に賢者無しと云ふ　(一六) 魯君に說いて郊祭す　(一七) 燒き肉、祭の時に供へ、之を大夫に分つを禮とす　(一八) 冕冠を脫せずして急ぎ去る　(一九) 燔肉を分たざるは魯君及當事者の罪なりと雖も孔子大夫の位にあるを以て己も亦罪ありとなし、此を以て自ら魯を去れり、是より先き隣國齊が魯を亂さんとして女樂を送る、魯君歡樂して朝せざること三日、孔子道の行はれざるを見て魯を去らんとせり、然れども罪を其君に歸することを欲せず、故に時の來るを待てり、今燔肉不至を以て好機となし、強ひて自らも罪ありとして去る

孟子曰。五霸者。三王之罪人也。今之諸侯。五霸之罪人也。今之大夫。今之諸侯

孟子曰く、(一)五霸は三王の罪人なり。今の諸侯は五霸の罪人なり。今の大夫は今の諸侯の罪人なり。(二)天子の諸侯に適くを巡狩と曰ひ、諸侯の天子に朝するを述職と曰ふ。春は耕すを省みて足らざるを補ひ、秋は斂むるを省みて給らざるを助く。其疆に入り、土地辟け、田野治り、老を養ひ賢を尊び、俊傑位に在

尹也。不惡汙君。不辭小官。者。柳下惠也。三子者不同道。其趨一也。一者何也。曰。仁也。君子亦仁而已矣。何必同。曰。魯繆公之時。公儀子爲政。子柳子思爲臣。魯之削也。滋甚。若是乎賢者之無益於國也。曰。虞不用百里奚而亡。秦穆公用之而霸。不用賢則亡。削何可

を用ひて霸たり。賢を用ひざれば則ち亡ぶ、削らるゝこと何ぞ得べけんや。曰く、昔者(一一)王豹、淇に處り、河西善く謳ひ、緜駒(一三)、高唐(一二)に處り、齊右善く歌ふ。華周(一四)杞梁の妻善く其夫を哭して國俗を變ず。諸を內に有すれば必ず諸を外に形す。其事を爲して其功無き者は、髠未だ嘗て之を覩ざるなり。是の故に賢者(一五)無きなり。有らば則ち髠必ず之を識らん。曰く、孔子魯の司寇たり。用ひられず。從ひて(一六)祭る。燔肉(一七)至らず。冕(一八)を稅がずして行る。知らざる者は以爲らく肉の爲めなりと。其知る者は以爲らく、禮なきが爲めなりと。乃ち孔子は則ち微罪(一九)を以て行らんことを欲す。苟も去るを爲すを欲せず。君子の爲す所は衆人固より識らざるなり。

(一)名譽と功績　(二)進みて人を救ふ　(三)消極的に自己を治め　(四)大國の諸侯は三人の卿を置けり　(五)上未だ君を正すを得ず、下未だ民を濟ふを得ざるを云ふ　(六)五たびとは屢々隨身せしをいふと、或は湯桀の非を改めんとして伊尹を以て桀に進む、桀用ふる能はず、伊尹湯のもとにかへる、湯復之を進む、かくすること凡そ五たびなりしと云ふ　(七)心の向ふ所　(八)進退を同じくせねばならぬ必要はない　(九)魯の宰相、名は休　(一〇)泄柳

子。爲ニ其爲レ相
與。曰。非也。書
曰。享多レ儀。儀
不レ及レ物。曰ニ不享一。惟不レ役ニ志于レ享。爲ニ其不レ成レ享也。屋廬子悅。或問レ之。屋廬子曰。季子不レ得レ之レ
鄒。儲子得レ之ニ平陸一。

是れ志を享禮に用ひざるが爲めなりと、享に大切なるは志を用ふること即ち禮を盡すに在り、儲子は之を缺けり、故に孟子報ぜず、儲子の禮を缺けるは下の屋廬子の答によりて明かなり

淳于髡曰。先ニ名實一者爲レ人也。後ニ名實一者自爲也。夫子在ニ三卿之中一。名實未レ加ニ於上下一而去レ之。仁者固如レ此乎。孟子曰。居ニ下位一不ニ以レ賢事ニ不肖一者伯夷也。五就レ湯五就レ桀者。伊

淳于髡曰く、(一)名實を先きにする者は人の(二)爲めにするなり。名實を後にする者は(三)自ら爲めにするなり。夫子三卿(四)の中に在りて、(五)名實未だ上下に加はらずして之を去る。仁者固より此の如きか。孟子曰く、下位に居て賢を以て不肖に事へざる者は伯夷なり。(六)五たび湯に就き五たび桀に就く者は伊尹なり。汙君を惡まず、小官を辭せざる者は柳下惠なり。三子者道を同じくせざれども其趨き(七)一なり。一とは何ぞや。曰く、仁なり。君子は亦仁のみ。(八)何ぞ必ずしも同じからん。曰く、魯の繆公の時公儀子(九)政を爲す。(一〇)子柳・子思臣たり。魯の削らるゝこと滋〻甚し。是の若きか賢者の國に益なきや。曰く、虞は百里奚を用ひずして亡び、秦の穆公は之

事二其兄一。是君臣父子兄弟。終去二仁義一懷レ利以相接。然而不レ亡者未二之有一也。先生以二仁義一說二秦楚之王一。秦楚之王。悅二於仁義一。而罷二三軍之師一。是三軍之士。樂レ罷而悅二於仁義一也。爲二人臣一者。懷二仁義一以事二其君一。爲二人子一者懷二仁義一以事二其父一。爲二人弟一者。懷二仁義一以事二其兄一。是君臣父子兄弟。去レ利懷二仁義一以相接也。然而不レ王者。未二之有一也。何必曰レ利。

孟子居レ鄒。季任爲二任處守一。以レ幣交。受レ之而不レ報。處二於平陸一。儲子爲レ相。以レ幣交。受レ之而不レ報。他日由レ鄒之レ任。見二季子一。由二平陸一之レ齊。不レ見二儲子一。屋廬子喜曰。連得レ間矣。問曰。夫子之レ任見二季子一。之レ齊不レ見二儲

孟子鄒に居る。季任(一)、任の處守(二)たり。幣(三)を以て交る。之を受けて報ぜず(四)、平陸(五)に處る。儲子相たり、幣を以て交る。之を受けて報ぜず。他日鄒より任に之きて季子を見る。平陸より齊に之きて儲子を見ず。屋廬子喜びて曰く、連(六)間を得たりと。問ひて曰く、夫子任に之きて季子を見、齊に之きて儲子を見ざるは其の相たるが爲めか。曰く、非なり。書(七)に曰く享に儀多し。儀、物に及ばざれば不享と曰ふ。惟志を享に役せずと。其の享を爲さざるが爲めなり。屋廬子悅ぶ。或ひと之を問ふ。屋廬子曰く、季子は鄒に之くことを得ず、儲子は平陸に之くことを得。

(一) 任は小國、季任は任君の季弟なり、或は云ふ季任は任季の誤寫と　(二) 處守は留守なり　(三) 幣帛、進物のこと
(四) 返禮せず　(五) 齊の邑名　(六) 連は屋廬子の名、間はすきまなり、孟子の處置異なるが故に質問するすきまを見出し得たるなり　(七) 書經洛誥の篇、物を獻ずるの禮には儀式多し、儀式が幣物に及ばざる時は之を不享と云ふ、

軻也。請無レ問二其詳一。願聞二其指一。説レ之將二何如一。曰。我將レ言二其不利一也。曰。先生之志則大矣。先生之號則不可。先生以レ利説二秦楚之王一。秦楚之王悦レ於レ利。以罷二三軍之師一。是三軍之士樂レ罷。而悦レ於レ利也。爲二人臣一者。懷レ利以事二其君一。爲二人子一者。懷レ利以事二其父一。爲二人弟一者。懷レ利以

楚の王に説かば、秦楚の王利を悦びて以て三軍(七)の師を罷めん。是れ三軍(八)の士罷むることを樂みて利を悦ぶなり。人の臣たる者(九)利を懷ひて以て其君に事へ、人の子たる者利を懷ひて以て其父に事へ、人の弟たる者利を懷ひて以て其兄に事ふ。是れ君臣父子兄弟終に仁義を去り利を懷ひて以て相接す。然り而して亡びざる者は未だ之れ有らざるなり。先生仁義を以て秦楚の王に説き、秦楚の王、仁義を悦びて三軍の師を罷めば、是れ三軍の士罷むるを樂んで仁義を悦ぶなり。人臣たる者仁義を懷ひて以て其君に事へ、人の子たる者仁義を懷ひて以て其父に事へ、人の弟たる者仁義を懷ひて以て其兄に事ふ。是れ君臣父子兄弟利を去り仁義を懷ひて以て相接するなり。然り而うして王たらざる者は未だ之れあらざるなり。何ぞ必ずしも利と曰はん。

(一) 宋牼は宋の人　(二) 地名　(三) 長者を云ふ、即ち宋牼を呼ぶ也　(四) 二王のうち我が志と一致するものあらんとなり　(五) 旨なり、宋牼が二王に對して說かんとする論旨の大要を云ふ　(六) 意味を表はす名號、標榜する所　(七) 三軍の衆徒即ち大將より兵卒まで　(八) 三軍の戰士　(九) 私利を念頭に懸く

也。小弁之怨親レ親也。親レ親仁也。固矣夫。高叟之爲レ詩也。曰。凱風何以不レ怨。曰。凱風親之過小者也。小弁親之過大者也。親之過大而不レ怨。是愈疏也。親之過小而怨。是不レ可レ磯也。愈疏。不孝也。不レ可レ磯。亦不孝也。孔子曰。舜其至孝矣。五十而慕。

㊀齊國の人、子夏の弟子高行子なりと云ふ ㊁詩經小雅の篇名、周の幽王褒姒を信じ申后をしりぞけ宜臼を追放す、宜臼此詩を作りて自ら怨む ㊂偏固なるなり ㊃高子の老人なるを以て云ふ ㊄說くと云ふが如し ㊅野蠻人が人を射んとするの意に用ふ ㊆其の不可を言ひて、之を止めん ㊇詩經邶風の篇名、此の詩は七子ある母他に嫁せんとするを諫めんとて其子の作りしものなり ㊈激し易き爲め觸ること出來ざるを云ふ

宋牼將レ之レ楚。孟子遇二於石丘一。曰。先生將二何之一。曰。吾聞秦楚構レ兵。我將下見二楚王一說而罷上レ之。楚王不レ悅。我將下見二秦王一說而罷上レ之。二王我將レ有レ所レ遇焉。曰。

㊀宋牼將に楚に之かんとす。孟子、㊁石丘に遇へり。曰く、㊂先生將に何にか之かんとする。曰く、吾聞く、秦楚兵を構ふと。我將に楚王を見て說きて之を罷めしめんとす。楚王悅ばざれば我將に秦王を見て說きて之を罷めしめんとす。㊃二王我將に遇ふ所あらんとすと。曰く、軻や請ふ、其詳なるを問ふことなからん。願はくは㊄其指を聞かん。之を說くこと將に何如にせんとす。曰く、我將に其不利を言はんとす。曰く、先生の志は則ち大なり。先生の㊅號は則ち不可なり。先生利を以て秦

弟。疾行先二長者一。謂二之不弟一。夫徐行者。豈人所レ不レ能哉。所レ不レ爲也。堯舜之道。孝弟而已矣。子服二堯之服一。誦二堯之言一。行二堯之行一。是堯而已矣。子服二桀之服一。誦二桀之言一。行二桀之行一。是桀而已矣。曰。交得レ見レ於二鄒君一。可二以假レ館。願留而受二業於レ門。曰。夫道若二大路一然。豈難レ知哉。人病レ不レ求耳。子歸而求レ之有二餘師一。

公孫丑問曰。高子曰。小弁。小人之詩也。孟子曰。何以言レ之。曰。怨。曰。固哉。高叟之爲レ詩也。有レ人於レ此。越人關レ弓而射レ之。則己談笑而道レ之。無レ他疏レ之也。其兄關レ弓而射レ之。則己垂二涕泣一而道レ之。無レ他戚レ之

公孫丑問ひて曰く、（一）高子曰く（二）小弁は小人の詩なり。孟子曰く、何を以てか之を言ふ。曰く、怨みたり。曰く、（三）固なるかな、（四）高叟の詩を（五）爲むるや。此に人あり、（六）越人弓を關きて之を射ば、則ち己談笑して之を（七）道はん。他なし之を疏ずればなり。其兄弓を關きて之を射ば、則ち己涕泣を垂れて之を道はん。他なし之を戚めばなり。小弁の怨むは親を親むなり。親を親むは仁なり。固なるかな。高叟の詩を爲むるや。曰く、（八）凱風は何を以てか怨みざる。曰く、凱風は親の過小なる者なり。小弁は親の過大なる者なり。親の過大にして怨みざるは、是れ愈〻疏ずるなり。親の過小にして怨むは是れ（九）磯すべからざるなり。愈〻疏ずるは不幸なり。磯すべからざるも亦不孝なり。孔子曰く、舜は其れ至孝になり、五十にして慕ふと。

曰。然。交聞。文王十尺。湯九尺。今交九尺四寸以長。食㆑粟而已。如何則可。曰。奚有㆑於㆑是。亦爲㆑之而已矣。有㆑人於㆑此。力不㆑能㆑勝㆓一匹雛㆒。則爲㆓無㆑力人㆒矣。今曰㆑擧㆓百鈞㆒。則爲㆓有㆑力人㆒矣。然則擧㆓烏獲之任㆒。是亦爲㆓烏獲㆒而已矣。夫人豈以㆑不㆑勝爲㆑患哉。弗㆑爲耳。徐行後㆓長者㆒。謂㆓之

にせば則ち可ならん。曰く、奚ぞ(二)是にあらんや、亦之を爲さんのみ。此に人あり、力(三)一匹の雛に勝ふること能はざれば、則ち力なき人と爲さん。今百鈞を擧ぐと曰はば則ち力ある人となさん。然らば則ち(四)烏獲の任を擧げば、是れ亦烏獲たるのみ。夫れ人豈に勝へざるを以て患となさんや、爲さざるのみ。(五)徐行して長者に後る、之を弟と謂ふ。(六)疾行して長者に先だつ、之を不弟と謂ふ。夫れ徐行は豈に人の能はざる所ならむや。爲さざる所なり。堯舜の道は孝弟のみ。子、堯の服を服し、堯の言を誦し、堯の行を行はば是れ堯のみ。子、桀の服を服し、桀の言を誦し、桀の行を行はば是れ桀のみ。曰く、交、鄒の君に見ゆるを得て、以て(七)館を假るべし。願くは(八)留りて業を門に受けん。曰く、夫れ道は(九)大路の若く然り。豈に知り難からんや。人求めざるを病むのみ。子歸りて之を求めば、(一〇)餘師あらん。

(一) 曹の國君の弟 (二) 人の賢不肖は身長の如何に在らず、唯だ道を修むると否とに在り (三) 一羽の小さき雛 (四) 秦の武王の時の力士 (五) 緩歩するなり (六) 早く歩むなり (七) 旅館を借り受くるなり (八) 鄒國に逗留する意 (九) 誰しも之に由りて歩む道也、六ケ敷ことなきの意 (一〇) 師の多きこと

明日之ㇾ鄒以告二孟子一。孟子曰。於ㇾ答ㇾ是也何有。不ㇾ揣二其本一而齊二其末一。方寸之木。可ㇾ使ㇾ高二於岑樓一。金重二於羽一者。豈謂下一鉤金與中一輿羽上之謂上哉。取二食之重者一。與二禮之輕者一。而比ㇾ之。奚翅食重。取二色之重者一與二禮之輕者一。而比ㇾ之。奚翅色重。往應ㇾ之曰。紾二兄之臂一而奪二之食一則得ㇾ食。不ㇾ紾則不ㇾ得ㇾ食。則將紾ㇾ之乎。踰二東家牆一而摟二其處子一則得ㇾ妻。不ㇾ摟則不ㇾ得ㇾ妻。則將ㇾ摟ㇾ之乎。

奚ぞ翅に色重きのみならんや。往きて之に應へて曰へ。兄の臂を紾らして(八)之が食を奪へば、則ち食を得、紾らさざれば則ち食を得ず。則ち將に之を紾らさんとするか。東家(九)の牆を踰えて其處子(一〇)を摟け(一一)ば則ち妻を得、摟かざれば則ち妻を得ず、則ち將に之を摟かんとするかと。

(一) 任人は任國の人なり　(二) 孟子の弟子、名は連　(三) 結婚の儀式中に於ける一つの禮法、婿自ら嫁の家に至つて新婦を伴ひ來る儀式なり　(四) 木の本を量らずして木の末を揃ふること　(五) 方寸は一寸四方なり、岑は山、樓は塿に同じく丘なり　(六) 凡そ物の比較は根本より之を量らざる可からず、食色の重大なるものと禮の輕微なるものと比較せば、もとより食色を以て重しとせざる可からず　(七) 啻と同じ　(八) 手をねぢ上げること　(九) 隣家なり　(一〇) 處女　(一一) 手をひくこと

曹交問曰。人皆以可ㇾ爲二堯舜一。有ㇾ諸。孟子

曹交問ひて曰く、人皆以て堯舜たるべしと、諸れ有りや。孟子曰く、然り。交聞く、文王は十尺、湯は九尺と。今交は九尺四寸以て長じ、粟を食ふのみ。如何

任人有問屋廬子曰。禮與食孰重。曰。禮重。色與禮孰重。曰。禮重。曰。以禮食則飢而死。不以禮食則得食。必以禮乎。親迎則不得妻。不親迎則得妻。必親迎乎。屋廬子不能對。

卷之十二

告子章句下

（一）任人（二）屋廬子に問ふあり。曰く、禮と食と孰か重き。曰く、禮重し。色と禮と孰か重き。曰く、禮重し。曰く、禮を以て食へば則ち飢ゑて死す。禮を以てせずして食へば則ち食を得。必ず禮を以てせんか。（三）親迎すれば則ち妻を得ず。親迎せざれば則ち妻を得。必ず親迎せんか。屋廬子對ふる能はず。明日鄒に之きて以て孟子に告ぐ。孟子曰く、是に答ふるに於て何かあらん。（四）其本を揣らずして其末を齊しうせば、（五）方寸の木も岑樓より高からしむべし。金は羽より重き者なり。豈に一鉤の金と一輿の羽との謂を謂はんや。（六）食の重き者と禮の輕き者とを取りて之を比せば、奚ぞ翅に食重きのみならんや。色の重き者と禮の輕き者とを取りて之を比せば、

者。種之美者也。苟爲レ不レ熟不レ如二荑稗一。夫仁亦在レ乎レ熟レ之而已矣。

孟子曰。羿之教二人射一。必志レ於レ彀。學者亦必志レ於レ彀。大匠誨レ人必以二規矩一。學者亦必以二規矩一。

かず。夫れ仁も亦之を熟するに在るのみ。

孟子曰く、羿(一)の人に射を教ふる。必ず彀(二)に志さしむ。學ぶ者も亦必ず彀に志す。大匠(三)の人に誨ふる必ず規矩を以てす。學ぶ者も亦必ず規矩を以てす。

(一) 何れもひえの類、粗惡なれども食ふべし

(一) 古の弓の名人　(二) 彀は弓を張ること、射法の祕訣は弓を張るに在り。以上は學者は先づ志を立つべきを云ふ

(三) 棟梁、學ぶには當に其法を正すべきを比喩せり

詩云。既醉以レ酒。既飽以レ德。言レ飽二乎仁義一也。所三以不レ願二人之膏粱之味一也。令聞廣譽施二於身一。所三以不レ願二人之文繡一也。

㈠仁義を云ふ、仁義の心は各人本具のものなればなり　㈡富貴を云ふ　㈢天爵を指す　㈣晉の卿相、權勢ありて人の進退を自由にせしよりかく云ふ　㈤詩經大雅既醉の篇なり　㈥飽き足るなり　㈦肥肉と良米、仁義に飽き精神的滿足を得たるが故に肥肉良米の味を願はざるなり　㈧善き評判と廣きほまれが身に備はる　㈨文飾ある衣服を願はず

孟子曰。仁之勝二不仁一也。猶二水勝一レ火。今之爲レ仁者。猶下以二一杯水一救中一車薪之火上也。不レ熄則謂二之水不一レ勝レ火。此又與二於不仁一之甚者也。亦終必亡而已矣。

孟子曰く、仁の不仁に勝つや、猶ほ水の火に勝つがごとし。今の仁を爲す者は、猶ほ一杯の水を以て一車薪の火を救ふがごときなり。熄まざれば則ち之を水火に勝たずと謂ふ。此れ又不仁に與するの甚だしき者なり。亦終に必ず亡びんのみ。

㈠小仁を以て大不仁に勝たんとする喩ふ、一車薪とは車に積みたるたきぎの意　㈡不仁者と同じく亦國を亡ぼさんと也

孟子曰。五穀

孟子曰く、五穀は種の美なる者なり。苟も熟せざることを爲さば、荑稗に如

孟子曰。有天爵者。有人爵者。仁義忠信。樂善不倦。此天爵也。公卿大夫。此人爵也。古之人。脩其天爵。而人爵從之。今之人。脩其天爵。以要人爵。既得人爵。而棄其天爵。則惑之甚者也。終亦必亡而已矣。

孟子曰く、天爵なる者あり、人爵なる者あり。仁義忠信善を樂みて倦まざるは此れ天爵なり。公卿大夫は此れ人爵なり。古の人は其天爵を脩めて人爵之(一)に從ふ。今の人は其天爵を脩めて以て人爵を要む。既に人爵を得れば、其天爵を棄つるは則ち惑へるの甚しき者なり。(二)終に亦必ず亡はんのみ。

(一) 古の人は道徳を修めたる自然の報酬として人爵を受くるなり、然るに今の人は人爵を得んが爲めに天爵を修むるなり (二) 人爵をも失ふに至る意

孟子曰。欲貴者。人之同心也。人人有貴於己者。弗思耳。人之所貴者。非良貴也。趙孟之所貴。趙孟能賤之。

孟子曰く、貴きを欲するは人の同じき心なり。人人己に貴き者あり。(一)思はざるのみ。人の貴くする所の者は(三)良貴に非ざるなり。(四)趙孟の貴くする所は趙孟能く之を賤しくす。(五)詩に云く、既に醉ふに酒を以てし、(六)既に飽くに徳を以てすと。仁義に飽くを言ふなり。人の(七)膏粱の味を願はざる所以なり。(八)令聞廣譽身に施く、人の(九)文繡を願はざる所以なり。

公都子問曰。鈞是人也。或爲大人。或爲小人。何也。孟子曰。從其大體。爲大人。從其小體爲小人。曰。鈞是人也。或從其大體。或從其小體何也。曰。耳目之官不思而蔽於物。物交物則引之而已矣。心之官。則思。思則得之。不思則不得也。此天之所與我者。先立乎其大者。則其小者不能奪也。此爲大人而已也。

公都子問ひて曰く、鈞しく是れ人なり。或は大人と爲り、或は小人と爲るは何ぞや。孟子曰く、其大體(一)に從へば大人と爲り、其小體に從へば小人と爲る。曰く、鈞しく是れ人なり。或は其大體に從ひ、或は其小體に從ふは何ぞや。曰く、耳目の官(二)は思はずして物に蔽はる。(三)物、(四)物に交はれば則ち之を引く(五)のみ。心の官は則ち思ふ。思へば則ち之を得、(六)思はざれば則ち得ざるなり。(七)天の我に與ふる所の者を比し、先づ其大なる者を立つれば、則ち其小なる者奪ふ(八)こと能はざるなり。此れ大人となるのみ。

(一)大體は心の官、小體は耳目の官を指す (二)役目なり (三)外界の事物を指す (四)我耳目外物に蔽はるれば亦これ一個の物也、物と物とが交れば、力強き外物が我が耳目を引き之を誘惑し去る、固より當然の事のみ (五)目耳を誘惑するなり (六)道理を得るなり (七)天より我れに與へられたる者の大小を比較するなり (八)心志を奪ふこと能はざるなり

兼レ所レ養也。無二尺寸之膚不一レ愛焉。則無二尺寸之膚不一レ養也。所三以考二其善不善一者。豈有レ他哉。於レ己取レ之而已矣。體有二貴賤一。有二小大一。無三以レ小害二大。無二以レ賤害レ貴。養二其小一者爲二小人一。養二其大一者爲二大人一。今有二場師一。舍二其梧檟一。養二其樲棘一。則爲二賤場師一焉。養二其一指一。而失二其肩背一。而不レ知也。則爲二狼疾人一也。飲食之人。則人賤レ之矣。爲二其養レ小以失レ大也。飲食之人。無レ有レ失也。則口腹豈適爲二尺寸之膚一哉。

きなり。其善不善を考ふる所以の者豈に他あらんや。己(二)に於て之を取るのみ。體に貴賤あり小大あり。(三)小を以て大を害することなく、賤を以て貴を害することなし。其小を養ふ者は小人と爲り、其大を養ふ者は大人と爲る。今場師(四)あり。其梧檟を舍てて其樲棘を養はば則ち賤場師と爲さん。其一指を養ひて其肩背を失ひて知らざれば、則ち狼疾(五)の人と爲さん。飲食の人は則ち人之を賤む。其の小を養ひ以て大を失ふが爲めなり。(六)飲食の人失ふこと有る無ければ、則ち口腹豈に適尺寸の膚の爲めならんや。

(一) 兼愛すること、四肢五體を平等に愛すること　(二) 己れ自身に於て養の輕重を考ふる外なし　(三) 賤と云ひ、小と云ふは肉體を指し、貴と云ひ、大と云ふは心志を指す　(四) 植木屋なり、梧檟は良木、桐梓に同じ、樲は酸棗、棘はいばら、何れも惡木なり　(五) 狼籍の意、よく疾を治め得ず、身を賤ふ意　(六) 飲食の人も心を養ふ道を失はざれば、口腹の養は啻に尺寸の膚を長ぜしむるのみに非ず、大切なる心の容器を養ふこととなる

痛レ害レ事也。如レ有二能信一レ之者一。則不レ遠二秦楚之路一。爲二指之不一レ若レ人也。指不レ若レ人。則知レ惡レ之。心不レ若レ人。則不レ知レ惡。此之謂レ不レ知レ類也。

るが爲めなり。指の人に若かざるは則ち之を惡むことを知る。心の人に若かざるは則ち惡むことを知らず。此れ之を類を知らずと謂ふなり。

㊀第四指なり、指として一番用なきもの　㊁伸ぶるなり　㊂比較輕重を知らざるなり

孟子曰。拱把之桐梓。人苟欲レ生レ之。皆知下所二以養一レ之者上。至レ於レ身。而不レ知下所二以養一レ之者上。豈愛レ身不レ若二桐梓一哉。弗レ思甚也。

孟子曰く、(一)拱把の(二)桐梓、人苟も之を(三)生ぜんと欲すれば、皆之を養ふ所以の者を知る。身に至りては之を養ふ所以の者を知らず。豈に身を愛すること桐梓に若かざらんや。思はざること甚しきなり。

㊀拱は兩手を以て圍むこと、把は片手にてにぎること、何れも太さをあらはす言葉　㊁きりあづさなり、皆良材なり　㊂生長せしむるなり

孟子曰。人之於レ身也。兼レ所レ愛。兼レ所レ愛。則

孟子曰く、人の身に於けるや、(一)愛する所を兼ぬ。愛する所を兼ぬれば則ち養ふ所を兼ぬるなり。尺寸の膚も愛せざる無ければ、則ち尺寸の膚も養はざるな

喪耳。一簞食。一豆羹得之則生。弗得則死。嘑爾而與之。行道之人弗受。蹴爾而與之。乞人不屑也。萬鍾則不辨禮義而受之。萬鍾於我何加焉。爲宮室之美。妻妾之奉。所識窮乏者得我與。鄉爲身而不受。今爲宮室之美爲之。鄉爲身死而不受。今爲妻妾之奉爲之。鄉爲身死而不受。今爲所識窮乏者得我而爲之。是亦不可以已乎。此之謂失其本心。

受くることを止むるなり

孟子曰。仁人心也。義人路也。舍其路而弗由。放其心而不知求。哀哉。人有雞犬放則知求之。有放心而不知求。學問之道無他。求其放心而已矣。

孟子曰く、仁は人の心なり。義は人の路なり。其路を舍てて由らず。其心を放ち(一)て求むることを知らず。哀しいかな。人雞犬放るゝことあれば、則ち之を求むることを知る。放心ありて而して求むることを知らず。學問の道他なし。其放心を求むるのみ。

(一)本來居る可き場所を去らしむること

孟子曰。今有無名之指。屈而不信。非疾

孟子曰く、今無名の指屈(一)して信びざるあり。疾痛して事に害あるに非ざるなり。如し能く之を信ぶる者あらば、則ち秦楚の路を遠しとせず。指の人に若かざ

有所不辟也。如使人之所欲莫甚於生。則凡可以得生者何不用也。使人之所惡莫甚於死者。則凡可以辟患者何不爲也。由是則生。而有不用也。由是則可以辟患。而有不爲也。是故所欲有甚於生者。所惡有甚於死者。非獨賢者有是心也。人皆有之。賢者能勿

あり。獨り賢者のみ是の心あるに非ざるなり。人皆な之れあり。賢者は能く喪ふこと勿きのみ。一簞の食(七)一豆の羹、之を得れば則ち生き、得ざれば則ち死す。嘑爾(八)として之を與ふれば道(九)を行く人も受けず、蹴爾(一〇)として之を與ふれば乞人(一一)も屑(一二)しとせざるなり。萬鍾(一三)は則ち禮義を辨ぜずして之を受く。萬鍾(一四)我に於て何ぞ加へん。宮室の美妻妾の奉(一五)、識る所の窮乏の者(一六)我に得るが爲めか。鄕には身の死するが爲めにして受けず。今は宮室の美の爲めに之を爲す。鄕には身の死するが爲めにして受けず。今は妻妾の奉の爲めに之を爲す。鄕には身の死するが爲めにして受けず。今は識る所の窮乏の者の我に得るが爲めに之を爲す。是れ亦た以て已(一七)むべからざるか。此れを之れ其本心を失ふと謂ふ。

(一) 生より甚しき者とは義なり (二) 生を得るなり (三) 不義なり (四) 死亡の患 (五) 避と同じ (六) 生くべく避くべき一路をいふ (七) 一つの木器に盛りたる汁類なり (八) 叱り飛ばすやうに食へといふさまなり (九) 道を行く平凡の人なり (一〇) 足蹴にするやうに突き出すさまなり (一一) 乞食なり (一二) 心持よく貰はぬなり (一三) 六萬四千石の大祿なり (一四) 我が身に加へ増すことなきなり (一五) 奉養なり (一六) 我が恩恵を得るなり (一七)

聽。一人雖聽之。一心以爲有鴻鵠將至。思援弓繳而射之。雖與之俱學。弗若之矣。爲是其智弗若與。曰。非然也。

孟子曰。魚我所欲也。熊掌亦我所欲也。二者不可得兼。舍魚而取熊掌者也。生亦我所欲也。義亦我所欲也。二者不可得兼。舍生而取義者也。生亦我所欲。所欲有甚於生者。故不爲苟得也。死亦我所惡。所惡有甚於死者。故患

孟子曰く、魚は我が欲する所なり。熊掌も亦我が欲する所なり。二者兼ぬることを得べからざれば、魚を舍てて熊掌を取る者なり。生も亦我が欲する所なり。義も亦我が欲する所なり。二者兼ぬること得べからざれば、生を舍てて義を取る者なり。生も亦我が欲する所、欲する所生より(一)甚しき者なり。故に苟も(二)得ざることを爲さざるなり。死も亦我が惡む所、(三)惡む所死より甚しき者あり。故に(四)患も(五)辟けざる所あり。如し人の欲する所をして生より甚しきこと莫からしめば、則ち凡そ以て生を得べき者何ぞ用ひざらん。人の惡む所をして死より甚しき者莫からしめば、則ち凡そ以て患を辟くべき者、何ぞ爲さざらん。是れに由れば則ち生く、而して用ひざるあり。(六)是れに由れば則ち以て患を辟くべし、而して爲さざるなり。是の故に欲する所生より甚しき者あり。惡む所死より甚しき者

孟子曰。無或乎王之不智也。雖有天下易生之物也。一日暴之。十日寒之。未有能生者也。吾見亦罕矣。吾退而寒之者至矣。吾如有萌焉何哉。今夫奕之爲數。小數也。不專心致志。則不得也。奕秋。通國之善弈者也。使弈秋誨二人弈。其一人專心致志。惟奕秋之爲聽。

孟子曰く、王の不智を或むなかれ。天下生じ易き物ありと雖も、一日之を暴し十日之を寒せば、未だ能く生ずる者あらざるなり。吾見ゆること亦罕なり、吾れ退きて之を寒する者至る。吾れ萌すあるを如何せんや。今夫れ奕の數たる小數なり。心を專にし志を致さざれば則ち得ざるなり。奕秋は通國の弈を善くする者なり。奕秋をして二人に奕を誨へしめん。其一人は心を專にし志を致して、惟奕秋に之を聽くことを爲す。一人は之を聽くと雖も、一心に以爲らく、鴻ありて將に至らむとす。弓繳を援きて之を射んことを思ふ。之を倶に學ぶと雖も之に若かず。是れ其智の若かざるが爲めか。曰く、然るに非ざるなり。

(一) 齊王なり (二) 惑と同じ、怪しむなり (三) 發生し易き物なり (四) 熱氣にさらすこと (五) 寒冷の氣にさらすこと (六) 孟子齊王に謁見すること稀れなり (七) 齊王の御前を退くや王を惡もて冷す者進見す (八) 善心の萌芽の發生するなり (九) 圍碁なり (一〇) 志を極むるなり (一一) 圍碁の名人の名を秋といふ者なり (一二) 一國を通ずるなり (一三) 圍碁の外に又一つの心あるなり (一四) 鴻は大雁なり、鵠は鶴の屬なり (一五) 繳は絲を矢に繋ぎて射るなり (一六) 援は手元に引き寄するなり (一七) 智慧の及ばざるが爲めにはあらずとの意なり

之性也哉。雖下存レ乎人者上。豈無二仁義之心一哉。其所三以放二其良心一者。亦猶二斧斤之於レ木也。旦旦而伐レ之。可二以爲レ美乎。其日夜之所レ息。平旦之氣。其好惡與レ人相近也者幾希。則其旦晝之所レ爲。有レ梏二亡之一矣。梏レ之反覆。則其夜氣不レ足二以存。夜氣不レ足二以存。則其違二禽獸一不レ遠矣。人見二其禽獸一也。而以爲レ未三嘗有二才焉者。是豈人之情也哉。故苟得二其養。無二物不レ長。苟失二其養。無二物不レ消。孔子曰。操則存。舍則亡。出入無レ時。莫レ知二其鄕。惟心之謂與。

だ嘗て才あらずとなす者は、是れ豈に人の情(一五)ならむや。故に苟も其養を得れば、物として長ぜざるなく、苟も其養を失へば、物として消せざるなし。孔子曰く、操(一六)れば則ち存し、舍つれば則ち亡す。出入時なく、其鄕(一七)を知ること莫し。惟れ心の謂か。

(一) 齊の東南に在る山　(二) 大國齊の郊外に在り　(三) 生長するなり　(四) 萌とは眞直に出づる芽をいひ、蘖とは傍より出づるをいふ　(五) 生ずるに從つて食ひ盡くす　(六) 一草一木なき禿山となりたるさま水にて洗ひ去りたるが如しと　(七) 本然の善心にして、卽ち仁義の心なり　(八) 毎朝なり　(九) 早朝未だ物と接せざる清明の氣を謂ふ　(一〇) 其の善を好み惡を惡む心の聖人と相近き心を少しは有すと也　(一一) 終日　(一二) 梏は、手枷なり、又終日之れを抑へつけて、消滅せしむることなり　(一三) 平旦の氣なり、夜に入りて、落ち着きたる氣分は、翌朝まで續くものなれば、平旦の氣ともいへり　(一四) 去るなり　(一五) 本色なり　(一六) 持ち守るなり　(一七) 鄕里の鄕にて、居處のことなり

下莫レ不レ知二其姣一也。不レ知二子都之姣一者。無レ目者也。故曰。口之於レ味也。有二同耆一焉。耳之於レ聲也。有二同聽一焉。目之於レ色也。有二同美一焉。至レ於レ心。獨無レ所二同然一乎。心之所二同然一者何也。謂理也。義也。聖人先得三我心之所二同然一耳。故理義之悅二我心一。猶三芻豢之悅二我口一。

孟子曰。牛山之木嘗美矣。以二其郊一於二大國一也。斧斤伐レ之。可二以爲一レ美乎。是其日夜之所レ息。雨露之所レ潤。非レ無二萌櫱之生一焉。牛羊又從而牧レ之。是以若レ彼濯濯也。人見二其濯濯也一以爲レ未二嘗有一レ材焉。此豈山

孟子曰く、牛山(一)の木嘗て美なり。其の大國に郊(二)たるを以て斧斤之を伐る、以て美となすべけんや。是れ其日夜の息(三)する所、雨露の潤す所、萌櫱(四)の生なきに非ず。牛羊又從つて(五)之を牧す。是を以つて彼の若く濯濯(六)たるなり。人其濯濯たるを見るや、以て未だ嘗て材あらずと爲す。此れ豈に山の性ならんや。人に存する者と雖も、豈に仁義の心なからんや。其の其良心(七)を放つ所以の者、亦猶ほ斧斤の木に於けるがごときなり。旦旦(八)にして之を伐る。以て美と爲すべけんや。其日夜の息する所、平旦(九)の氣、其好惡(一〇)人と相近き者は幾ど希し、則ち其旦晝(一一)の爲す所之を梏(一二)亡するあり。之を梏して反覆すれば、則ち其夜氣(一三)以て存するに足らず。夜氣以て存するに足らざれば、其の禽獸を違る(一四)こと遠からず。人其禽獸なるを見て以て未

者。故龍子曰。不知足而爲屨。我知其不爲蕢也。屨之相似。天下之足同也。口之於味。有同耆也。易牙先得我口之所耆者也。如使口之於味也。其性與人殊。若犬馬之與我不同類也。則天下何耆。皆從易牙之於味也。至於味。天下期於易牙。是天下之口相似也。惟耳亦然。至於聲。天下期於師曠。是天下之耳相似也。惟目亦然。至於子都。天

の姣を知らざる者は目なきなり。故に曰く、口の味に於けるや、同じく耆むとあり。耳の聲に於けるや、同じく聽くことあり。目の色に於けるや、同じく美することあり。心に至りては、獨り同じく然り（一七）とする所無からんや。心の同じく然りとする所の者は何ぞや。謂く理なり、義なり。聖人は先づ我が心の同じく然りとする所を得たるのみ。故に理義の我心を悅ばしむるは猶ほ芻豢（一八）の我口を悅ばしむるがごとし。

（一）豐年の意　（二）賴もしげなるもの多きなり　（三）亂暴なること　（四）其の心が年の豐凶に陷溺して或は賴となり或は暴となる、天賦の才そのものに斯の如き殊別あるに非ず　（五）大麥なり　（六）種の上に土をかくるなり　（七）種の萠え出づるさまなり　（八）夏至の意なり　（九）地味の肥えたると、痩せて石の多きと　（一〇）皆と同じ　（一一）古の賢人　（一二）屨を作る職人が人の足の寸法を知らずに屨を造るも、丸で似もつかぬ蕢（モツコ）とはならず、足に適不適あるもやはり屨は屨也　（一三）齊の桓公の臣にして、能く物の味ひを知れる者なり　（一四）耆に精なる人、離婁の上篇の首章に所見　（一五）昔の美男子なり　（一六）顏好きなり　（一七）可の如し、人の心に然りとするなり　（一八）芻は、草を食ふ獸、豢は穀物を食ふ獸

子弟多頼。凶歳子弟多暴。非天之降才爾殊也。其所以陷溺其心者然也。今夫麰麥。播種而耰之。其地同樹之時又同。浡然而生。至於日至之時。皆熟矣。雖有不同。則地有肥磽。雨露之養。人事之不齊也。故凡同類者。擧相似也。何獨至於人而疑之。聖人與我同類

殊なるに非ざるなり。其の其心を陷溺する所以の者然るなり。今夫れ麰麥は種を播して之を耰す。其地同じく之を樹うる時又同じ。浡然として生ず。日至の時に至りて皆熟す。同じからざるありと雖も、則ち地に肥磽あり。雨露の養、人事の齊しからざるなり。故に凡そ類を同じくする者は擧な相似たり。何ぞ獨り人に至りて之を疑はん。聖人も我と類を同じくする者なり。故に龍子曰く、足を知らずして屨を爲るも、我れ其の蕢たらざるを知るなり。屨の相似たるは天下の足同じければなり。口の味に於ける同じく耆むことあるなり。易牙は先づ我が口の耆む所を得たる者なり。如し口の味に於ける其性の人と殊なること、犬馬の我と類を同じくせざるが若くならしめば、則ち天下何ぞ耆むこと皆易牙の味に於けるに從はんや。味に至りては天下易牙に期す。是れ天下の口相似たればなり。惟耳も亦然り。聲に至りては天下師曠に期す。是れ天下の耳相似たればなり。惟目も亦然り。子都に至りては天下其の姣を知らざることなきなり。子都

善。然則彼皆非與。孟子曰。乃若其情。則可以爲善矣。乃所謂善也。若夫爲不善。非才之罪也。惻隱之心。人皆有之。羞惡之心。人皆有之。恭敬之心。人皆有之。是非之心。人皆有之。惻隱之心仁也。羞惡之心義也。恭敬之心禮也。是非之心智也。仁義禮智。非由外鑠我也。我固有之也。弗思耳矣。故曰。求則得之。舍則失之。或相倍蓰而無算者。不能盡其才者也。詩曰。天生蒸民。有物有則。民之秉彜。好是懿德。孔子曰。爲此詩者。其知道乎。故有物必有則。民之秉彜也。故好是懿德。

才を盡すこと能はざる者なり。詩(一〇)に曰く、天蒸民を生ず(一一)。物あれば則あり。民の彜を秉る。是の懿德を好むと。孔子曰く、此の詩を爲る者は其れ道を知るか。故に物あれば則あり。民の彜を秉るなり。故に是の懿德を好む。

(一) 周の文王、武王 (二) 周の幽王、厲王 (三) 舜の異母弟 (四) 啓は紂の庶兄、屢々紂を諫めて用ひられず、比干は紂の伯父、三諫して其胸を剖かる。今孟子の云ふ如く性善とせば彼即ち告子の徒の云ふ所皆非なるか (五) 本性の自然に發露する所を情と云ひ、性の自然の働を才と云ふ (六) 四端の說にて公孫丑上に詳かなり (七) 恭は貌に屬し、敬は心に屬す (八) 仁義禮智は外部より來りて我を感化するものに非ず (九) 倍は二倍、蓰は五倍、善人と惡人の差は漸次增大して終には算なき程に至るとなり (一〇) 詩經大雅烝民篇 (一一) 天が衆民を生じそこに君臣父子の關係あれば自ら忠孝の道あり、人は此の常道を心に保持するが故に美德ある人を好む

孟子曰。富歲

孟子曰く、富歲(一)には子弟賴(二)多く、凶歲には子弟暴(三)多し。天の才を降すこと爾く

外非由内也。公都子曰。冬日則飲湯。夏日則飲水。然則飲食亦在外也。

公都子曰。告子曰。性無善。無不善也。或曰。性可以爲善。可以爲不善。是故文武興。則民好善。幽厲興則民好暴。或曰。有性善。有性不善。是故以堯爲君。而有象。以瞽瞍爲父。而有舜。以紂爲兄之子。且以爲君。而有微子啓。王子比干。今曰性

公都子曰く、告子曰く、性は善なく不善なしと。或ひと曰く、性は以て善と爲す可く以て不善と爲すべし。是の故に文武(一)興れば則ち民善を好み、幽厲(二)興れば則ち民暴を好むと。或ひと曰く、性善なるあり、性不善なるあり。是の故に堯を以て君と爲して象(三)あり。瞽瞍を以て父となして舜あり。紂を以て兄の子となし、且つ以て君と爲して微子啓(四)・王子比干あり。今性善と曰ふ。然らば則ち彼皆な非なるか。孟子曰く、乃ち其情(五)の若くすれば則ち以て善と爲す可し。乃ち所謂善なり。夫の不善を爲す若きは才の罪に非ざるなり。惻隱(六)の心は人皆之れ有り。羞惡の心は人皆之れ有り。恭敬の心は人皆之れあり。是非の心は人皆之れ有り。惻隱の心は仁なり。羞惡(七)の心は義なり。恭敬の心は禮なり。是非の心は智なり。仁義禮智外より我を鑠(八)すに非ざるなり。我固より之を有するなり。思はざるのみ。故に曰く、求むれば則ち之を得、舍つれば則ち之を失ふ。或は相倍蓰(九)して算無き者、其

之內也。鄉人長於伯兄一歲。則誰敬。曰。敬兄。酌則誰先。曰。先酌鄉人。所敬在此。所長在彼。果在外非由內也。公都子不能答。以告孟子。孟子曰。敬叔父乎。敬弟乎。彼將曰。敬叔父。曰。弟爲尸則誰敬。彼將曰。敬弟。子曰。惡在其敬叔父也。彼將曰。在位故也。子亦曰。在位故也。庸敬在兄。斯須之敬在鄉人。季子聞之曰。敬叔父則敬。敬弟則敬。果在

敬する所(四)此に在り。長ずる所(五)は彼に在り。(六)果して外にあり。內に由るに非ず。公都子答ふる能はず。以て孟子に告ぐ。孟子曰く、(七)叔父を敬せんか、(八)弟を敬せんか。彼將た曰ん、叔父を敬せん。曰く、弟(九)尸たらば則ち誰をか敬せん。彼將た曰ん、弟を敬せん。子曰く、惡ぞ其の叔父を敬するに在らんや。彼將た曰ん、(一〇)位に在るが故なり。子も亦曰く、位にあるが故なり。(一一)庸の敬は兄に在り。(一二)斯須の敬は鄉人に在り。季子之を聞きて曰く、叔父を敬すれば則ち敬し、弟を敬すれば則ち敬す。果して外に在り。內に由るには非ざるなり。公都子曰く、冬日は則ち湯を飲み、夏日は則ち水を飲む。然らば則ち飲食も亦外に在るなり。

(一) 孟子の從兄弟かと云ひ又は孟の字は衍文にて季子と云ふは季任かとも云ふ　(二) 長兄なり　(三) 酒の酌　(四) 伯兄を云ふ　(五) 鄉人を云ふ　(六) 果して人の云ふ如く義は外にありの意　(七) 父の弟なり　(八) 己れの弟なり　(九) 神代なり、祖先の祭りをする時に、子弟を神の代はりに立てゝ、之れを主として祭るなり　(一〇) 神代の位に在るなり　(一一) 常なり　(一二) 其場合暫時なり

也。故謂二之外一也。曰。異於白二馬之白一也。無二以異レ於レ白二人之白一也。不レ識。長二馬之長一也。無二以異レ於長二人之長一與。且謂長者義乎。長レ之者義乎。曰。吾弟則愛レ之。秦人之弟。則不レ愛也。是以レ我爲レ悅者也。故謂二之内一。長二楚人之長一。亦長二吾之長一。是以レ長爲レ悅者也。故謂二之外一也。曰。耆二秦人之炙一。無二以異レ於レ耆二吾炙一。夫物則亦有レ然者也。然則耆レ炙。亦有レ外與。

悅ぶことを爲す者なり。故に之を内と謂ふ。(五)楚人の長を長とし、亦吾の長を長とす。是れ長を以て悅ぶことを爲す者なり。故に之を外と謂ふなり。曰く、秦人の(六)炙を耆むは以て吾が炙を耆むに異なることなし。夫れ物も則ち亦然ることあり。然らば則ち炙を耆むも亦外に有るか。

(一) 食慾と性慾　(二) 長を長として敬するは義なり、而して長は我に在らずして彼は在り、彼れ即ち外に在る長を敬するより義生ず、即ち義は外に在るものに從つて生ずるものなれば義は外なりと云ふなり　(三) 原文の異於の二字衍文ならんと云ふ　(四) 疏遠なる人の意　(五) 同上　(六) 炙りたる肉を嗜む意

孟季子問二公都子一曰。何以謂二義内一也。曰。行二吾敬一。故謂二

(一)孟季子、公都子に問ひて曰く、何を以てか義は内なりと謂ふ。曰く、吾が敬を行ふ。故に之を内と謂ふ。(二)鄕人、伯兄より長ずること一歳ならば、則ち誰をか敬せん。曰く、兄を敬せん。(三)酌まば則ち誰をか先にせん。曰く、先づ鄕人に酌まん。

猶ニ白之謂ヒ白與。曰。然。白羽之白也。猶ニ白雪之白。白雪之白。猶ニ白玉之白一與。曰。然。然則犬之性。猶ニ牛之性。牛之性。猶ニ人之性一與。

白は猶ほ白玉の白のごときか。曰く、然り。然らば則ち犬の性は猶ほ牛の性のごとく、牛の性は猶ほ人の性のごときか。

(一) 生れおつるに類を同じくするものは其性亦同じと云ふ

告子曰。食色性也。仁內也。非レ外也。義外也。非レ內也。孟子曰。何以謂ニ仁內義外一也。曰。彼長而我長レ之。非レ有レ長レ於レ我也。猶ニ彼白而我白ヒ之。從ニ其白於ヒ外

告子曰く、(一)食色は性なり。仁は內なり、外に非ざるなり。義は外なり內に非ざるなり。孟子曰く、何を以てか仁は內、義は外なりと謂ふ。曰く、(二)彼長じて我之を長とす。我に長あるに非ざるなり。猶ほ彼白にして我之を白とするがごとし。其白に外に從ふなり。故に之を外といふ。曰く、(三)馬の白を白とするや、以て人の白を白とするに異なる無きなり。識らず、馬の長を長とするや、以て人の長を長とするに異なること無きか。且つ謂へ、長ずる者は義か。之を長とする者は義か。曰く、吾が弟は則ち之を愛し、(四)秦人の弟は則ち愛せざるなり。是れ我を以て

告子曰。性猶二湍水一也。決二諸東方一則東流。決二諸西方一則西流。人性之無レ分レ於二善不善一也。猶二水之無一レ分レ於二東西一也。孟子曰。水信無レ分レ於二東西一。無レ分レ於二上下一乎。人性之善也。猶二水之就一レ下也。人無レ有二不善一。水無レ有レ不レ下。今夫水搏而躍レ之。可レ使レ過レ顙。激而行レ之。可レ使レ在レ山。是豈水之性哉。其勢則然也。人之可レ使レ爲二不善一。其性亦猶レ是也。

告子曰く、性は猶ほ湍水(一)のごときなり。諸を東方に決すれば則ち東流し、諸を西方に決すれば、則ち西流す。人性の善不善を分つことなき、猶ほ水の東西を分つこと無きがごときなり。孟子曰く、水信に東西を分つこと無し。上下を分つこと無からんや。人性の善なるや、猶ほ水の下に就くがごとし。人不善あること無く、水下らざるあること無し。今夫れ水は搏(二)ちて之を躍(三)さば、(四)顙を過さしむべく、激して之を行らば山に在らしむべし。是れ豈に水の性ならんや。其勢ひ則ち然るなり。人の不善を爲さしむべきこと、其性も亦猶ほ是のごときなり。

(一)流れ出づる口のなき所にて渦巻く水を云ふ　(二)撃つなり　(三)跳らするなり　(四)額なり

告子曰。生之謂レ性。孟子曰。生之謂レ性也。

告子曰く、生(一)は之を性と謂ふ。孟子曰く、生は之を性と謂ふは、猶ほ白きを之れ白しと謂ふがごときか。曰く、然り。白羽の白は猶ほ白雪の白がごとく、白雪の

告子曰。性猶二杞柳一也。義猶二桮棬一也。以二人性一爲二仁義一。猶下以二杞柳一爲中桮棬上。孟子曰。子能順二杞柳之性一。而以爲二桮棬一乎。將戕二賊杞柳一。而後以爲二桮棬一也。如將戕二賊杞柳一。而以爲二桮棬一。則亦將戕二賊人一。以爲二仁義一與。率二天下之人一。而禍二仁義一者。必子之言夫。

巻之十一

告子章句上

告子(一)曰く、性は猶ほ杞柳(二)のごとし。義は猶ほ桮棬のごとし。人の性を以て仁義を爲すは、猶ほ杞柳を以て桮棬を爲るがごとし。孟子曰く、子能く杞柳の性に順ひて以て桮棬を爲るか、將た杞柳を戕(三)賊して而る後に以て桮棬を爲るか。如し將た杞柳を戕賊して以て桮棬を爲らば、則ち亦た將た人を戕賊して以て仁義を爲すか。天下の人を率ゐて仁義を禍する者は必ず子の言ならんか。

(一) 告は姓、名は不害、仁內義外の說を主張して孟子と議論せし學者なり　(二) 柳の一稱、桮棬は曲物の杯、人の性は本來善惡なく、どうでも曲るものなりと云ふなり　(三) 戕はそこなふこと

孟子曰。王何卿之問也。王曰。卿不同乎。曰。不同。有貴戚之卿。有異姓之卿。王曰。請問貴戚之卿。曰。君有大過則諫。反覆之而不聽則易位。王勃然變乎色。曰。王勿異也。王問臣。臣不敢不以正對。王色定。然後請問異姓之卿。曰。君有過則諫。反覆之而不聽則去。

か。曰く、同じからず。貴戚(一)の卿あり、異姓(二)の卿あり。王曰く、貴戚の卿を請ひ問ふ。曰く、君大過あれば則ち諫む。之を反覆(三)して聽かれざれば則ち位を易ふ(四)。王勃然(五)として色を變ず。曰く、王異む勿れ。王臣に問ふ。臣敢て正を以て對へずんばあらず。王、色定りて然る後に異姓の卿を請ひて問ふ。曰く、君過あれば則ち諫む。之を反覆して聽かざれば則ち去る。

(一) 一門親族の卿 (二) 士庶人より擧げ用ひられたる卿なり、他姓の大臣をいふ (三) 繰り返して再三諫む (四) 君位を取り易へて、親族中の賢を者王とす (五) 急に顏色を變へる也、怒ること

人乎。欲見賢人。而不以其道。猶欲其入。而閉之門也。夫義路也。禮門也。惟君子能由是路。出入是門也。詩云。周道如底。其直如矢。君子所履。小人所視。萬章曰。孔子君命召。不俟駕而行。然則孔子非與。曰。孔子當仕有官職。而以其官召之也。

地の大幅の赤旗 ㈣ 二匹の龍を畫ける旗なり ㈤ 詩經小雅の大東篇 ㈥ 底は砥なり、周の道の平かなること砥石の如く其の眞直なること矢竹の如し ㈦ 上に在る君子の行ふ所なり、小人の視て手本とする所なり

孟子謂萬章曰。一鄉之善士。斯友一鄉之善士。一國之善士。斯友一國之善士。天下之善士。斯友天下之善士。以友天下之善士為未足。又尚論古之人。頌其詩。讀其書。不知其人可乎。是以論其世也。是尚友也。

孟子萬章に謂つて曰はく、一鄉の善士は、斯に一鄉の善士を友とし、一國の善士は、斯に一國の善士を友とし、天下の善士は、斯に天下の善士を友とす。天下の善士を友とするを以て未だ足らずと爲し、又古の人を尚論㈠ず。其詩を頌㈡し其書を讀む、其人を知らずして可ならんや。是を以て其世を論ず。是れ尚友㈢なり。

㈠ 上に進みて、昔の人の得失を評論す ㈡ 吟味するなり ㈢ 上に進みて友とするの義

齊宣王問卿。

齊の宣王卿を問ふ。孟子曰く、王何の卿をこれ問ふや。王曰く、卿同じからざる

齊景公田。招虞人以旌。不至。將殺之。志士不忘在溝壑。勇士不忘喪其元。孔子奚取焉。取非其招不往也。曰。敢問。招虞人何以。曰。以皮冠。庶人以旃。士以旂。大夫以旌。以大夫之招招虞人。虞人死不敢往。以士之招招庶人。庶人豈敢往哉。況乎以不賢人之招。招賢

齊の景公田し、(一)虞人を招くに旌を以てす。至らず。將に之を殺さんとす。志士は溝壑にあるを忘れず。勇士は其元を喪ふことを忘れず。孔子奚をか取れるや。其招きに非ざれば往かざるを取れるなり。曰く、敢て問ふ。虞人を招くに何を以てする。曰く(二)皮冠を以てす。庶人は旃を以てし、(四)士は旂を以てし、大夫は旌を以てす。大夫の招きを以て虞人を招かば、虞人死すとも敢て往かず。士の招きを以て庶人を招かば、庶人豈に敢て往かんや。況んや不賢人の招きを以て、賢人を招くをや。賢人を見んと欲して其道を以てせざるは、猶ほ其の入るを欲して之が門を閉づるがごとし。夫れ義は路なり、禮は門なり。惟君子は能く是の路に由りて是の門を出入す。詩に云く、(五)周道(六)底の如し。其直きこと矢の如し。(七)君子の履むところ、小人の視る所と。萬章曰く、孔子君命じて召せば、駕を俟たずして行くと。然らば孔子は非なるか。曰く、孔子仕ふるに當つて官職あり。其官を以て之を召せばなり。

(一) 此段の文に就ては滕文公下首章を參照すべし、虞人は苑囿の番人 (二) 田獵する時に冠る鹿の皮の冠 (三) 無

役則往役。君欲レ見レ之。召レ之。則不二往見一レ之。何也。曰。往役義也。往見不義也。且君之欲レ見レ之也。何爲也哉。曰。爲二其多聞一也。爲二其賢一也。曰。爲二其多聞一也。則天子不レ召レ師。而況諸侯乎。爲二其賢一也。則吾未レ聞二欲レ見レ賢而召一レ之也。繆公亟見レ於二子思一曰。古千乘之國。以友レ士。如何。子思不レ悅。曰。古之人有レ言。曰。事レ之云乎。豈曰二友レ之云一乎。子思之不レ悅也。豈不レ曰下以レ位則子君也。我臣也。何敢與レ君友也。以レ德則子事レ我者也。奚可中以與レ我友上。千乘之君。求二與レ之友一。而不レ可レ得也。而況可レ召與。

らば、則ち吾れ未だ賢を見んと欲して之を召すを聞かざるなり。繆公亟〻子思を見て曰く、古千乘の國以て士を友とすと、如何と。子思悅ばずして曰く、古の人言へることあり。曰く、之に事ふと云ふ乎。豈に之を友とすと云ふと曰んやと。子思の悅ばざるや、豈に位を以てすれば則ち子は君なり、我は臣なり、何ぞ敢て君と友たらん、德を以てすれば則ち子は我に事ふるものなり、奚ぞ以て我と友たる可けんと曰ふにあらずや。千乘の君之と友たるを求めて、而も得べからざるなり。而るを況んや召すべけんや。

㊀ 都邑に居るなり ㊁ 市街の臣なり、昔は、飲料水ある處に市を建てたるに基づきて市井といふ ㊂ 郊外に居るなり ㊃ 莽は、草深きことなり ㊄ 進物を差し出して、家來分となるなり、傳ふは進物番の手を經る意

之犬馬畜伋。蓋自是臺無餽也。悅賢不能舉。又不能養也。可謂悅賢乎。曰。敢問。國君欲養君子。如何斯可謂養矣。曰。以君命將之。再拜稽首而受。其後廩人繼粟。庖人繼肉。不以君命將之。子思以爲。鼎肉使己僕僕爾亟拜也。非養君子之道也。堯之於舜也。使其子九男事之。二女女焉。百官牛羊倉廩備以養舜於畎畝之中。後舉而加諸上位。故曰。王公之尊賢者也。

主としたるが如く書けり　（一三）執り行ふなり　（一四）藏番なり　（一五）料理番なり　（一六）煩はしきさまなり　（一七）娥皇女英の二娘　（一八）田舍の意　（一九）高位に同じ

萬章曰。敢問。不見諸侯何義也。孟子曰。在國曰市井之臣。在野曰艸莽之臣。皆謂庶人。庶人不傳質爲臣。不敢見於諸侯禮也。萬章曰。庶人召之。

萬章曰く、敢て問ふ、諸侯を見ざるは何の義ぞ。孟子曰く、（一）國に在るを（二）市井の臣と曰ひ、（三）野に在るを（四）艸莽の臣と曰ふ、皆庶人と謂ふ。庶人は（五）質を傳へて臣と爲らざれば、敢て諸侯を見ざるは禮なり。萬章曰く、庶人之を召して役すれば則ち往きて役し、君之を見んと欲し之を召せば、則ち往きて之を見ざるは何ぞや。曰く、往きて役するは義なり。往きて見るは不義なり。且つ君の之を見んと欲するは何の爲めぞや。曰く、其多聞なるが爲めか、其賢なるが爲めか。曰く、其多聞なるが爲めならば、則ち天子すら師を召さず。而るを況んや諸侯をや。其賢なるが爲めな

受。何也。曰。不レ敢也。曰。敢問。其不レ敢何也。曰。抱關擊柝者。皆有二常職一。以食レ於レ上。無二常職一而賜レ於レ上者。以爲二不恭一也。曰。君餽レ之則受レ之。不レ識可二常繼一乎。曰。繆公之於二子思一也。亟問。亟餽二鼎肉一。子思不レ悅。於レ卒也摽二使者一。出二諸大門之外一。北面稽首再拜。而不レ受曰。今而後知三君

の外に出し、北面稽首再拜(一〇)して受けずして曰く、今にして後、君の伋を犬馬(一一)畜するを知ると。蓋し是れより臺(一二)も餽ること無し。賢を悅びて擧ぐること能はず。又養ふこと能はざるなり。賢を悅ぶと謂ふ可けんや。曰く、敢て問ふ、國君君子を養はんと欲す、如何にせば斯に養ふと謂ふべきと。曰く、君命を以て之を將(一三)ひ、再拜稽首して受く。其後廩人(一四)粟を繼ぎ、庖人(一五)肉を繼ぎ、君命を以て之を將はずと。子思以爲らく鼎肉は己をして僕僕爾(一六)として亟〻拜せしむ。君子を養ふの道に非ざるなり。堯の舜に於けるや、其子九男をして之に事へしめ、二女(一七)は焉に女す。百官牛羊倉廩備へて以て舜を畎畝(一八)の中に養はしむ。後擧げて諸れを上位(一九)に加ふ。故に曰く、王公の賢を尊ぶ者なりと。

(一)身を寄するなり　(二)押し切つて爲さない　(三)新附の民の急亡を救ふ　(四)門番、夜警　(五)常に繼續して得べきか　(六)魯の君なり　(七)度々使者を遣はして、安否を尋ね、鼎にて煮たる肉を贈る　(八)最後なり　(九)手を振りて、外へ追ひ遣るなり　(一〇)叩頭と同じ　(一一)犬馬の如き扱ひにて養ふなり、犬馬は、養ふばかりにて、敬ふことなし　(一二)臺は君命を傳ふる小役人なり、繆公立腹して、再び使者に肉を持たせて遣らざりしをかく臺を

嘗爲二委吏一矣。曰。會計當而已矣。嘗爲二乘田一矣。曰。牛羊茁壯長而已矣。位卑而言高罪也。立二乎人之本朝一而道不レ行恥也。

り（五）勘定なり（六）牧場の番人（七）生長するさまなり（八）肥え太りて、成長するなり（九）人は君なり、本朝は其の朝廷なり

萬章曰。士之不レ託二諸侯一何也。孟子曰。不レ敢也。諸侯失レ國。而後託二於諸侯一。禮也。士之託二於諸侯一。非レ禮也。萬章曰。君餽二之粟一。則受レ之乎。曰。受レ之。受レ之何義也。曰。君之於レ氓也。固周レ之。曰。周レ之則受。賜レ之則不レ受。

萬章曰く、士の諸侯に託（一）せざるは何ぞや。孟子曰く、敢（二）てせざるなり。諸侯國を失ひて而る後に諸侯に託す、禮なり。士の諸侯に託するは禮に非ざるなり。萬章曰く、君之に粟を餽れば則ち之を受くるか。曰く、之を受けん。之を受くるは何の義ぞや。曰く、君の氓（三）に於けるや、固より之を周ふ。曰く、之を周へば則ち受く、之を賜へば則ち受けざるは何ぞや。曰く、敢てせざるなり。曰く、敢て問ふ、其の敢てせざるは何ぞや。曰く、抱關撃柝（四）の者皆常職ありて以て上に食はる。常の職無くして上より賜る者は以て不恭と爲すなり。曰く、君之を餽れば則ち之を受く。識らず、常に（五）繼ぐ可きか。曰く、繆公（六）の子思に於けるや、亟〻（七）問うて亟〻鼎肉を餽る。子思悦ばず。卒（八）に於て使者を摽（九）きて諸れを大門

於魯也。魯人獵較。孔子亦獵較。獵較猶可。而況受其賜乎。曰。然則孔子之仕也。非事道與。曰。事道也。事道奚獵較也。曰。孔子先簿正祭器。不以四方之食供簿正。曰。奚不去也。曰。爲之兆也。兆足以行矣。而不行而後去。是以未嘗有所終三年淹也。孔子有見行可之仕。有際可之仕。有公養之仕。於季桓子見行可之仕也。於衛靈公。際可之仕也。於衛孝公。公養之仕也。

國君に禮敬をもて接待せらるゝなり (二五) 賢者を養ふ資格をもて養はる (二六) 魯の卿の季孫斯なり (二七) 此の事春秋にも、史記にも所見なし、或は出公輒の事ならむかといへり

孟子曰。仕非爲貧也。而有時乎爲貧。娶妻非爲養也。而有時乎爲養。爲貧者。辭尊居卑。辭富居貧。辭尊居卑。辭富居貧。惡乎宜乎。抱關擊柝。孔子

孟子の曰く、仕ふるは貧の爲めに非ざるなり。而も時あつてか貧の爲めにす。妻を娶るは養の爲めに非ざるなり。而も時ありてか養の爲にす。貧の爲めにする者は尊を辭して卑に居り、(一)富を辭して貧に居る。尊を辭して卑に居り、富を辭して貧に居る。惡れか宜しきや。抱關(二)擊柝(三)なり。孔子嘗て委吏(四)となる。曰く、會計(五)當るのみ。嘗て乘田(六)となる。曰く、牛羊茁(七)として壯長(八)するのみ。位卑くして言高きは罪なり。(九)人の本朝に立ちて道行はれざるは恥なり。

(一) 尊き位を辭退して、卑しき位に居る (二) 關所の番人 (三) 拍子木を擊ちて、夜廻はりをする役 (四) 藏番な

也。殷受夏。周受殷。所不辭也。於今爲烈。如此何其受之。曰。今之諸侯取之於民也。猶禦也。苟善其禮際矣。斯君子受之。敢問。何說也。曰。子以爲有王者作。將比今之諸侯。而誅之乎。其教之不改。而後誅之乎。夫謂非其有。而取之者盜也。充類至義之盡也。孔子之仕

(二一)行はれずして後に去る。是を以て未だ嘗て三年を終へて淹(二二)まる所あらざるなり。孔子に行可(二三)を見るの仕あり、際可(二四)の仕あり、公養(二五)の仕あり。季桓子(二六)に於ては行可を見るの仕なり。衛の靈公に於ては際可の仕なり。衛の孝公(二七)に於ては公養の仕なり。

一 進物の遣り取りをして交はることを交際といふ 二 進物を返却す 三 失禮なり 四 陽貨の贈りし豚を受けし類、論語陽貨篇にも見ゆ 五 人を國都の門外で脅迫して貨物を奪ひ取り、而して後に禮を以て其人に交り荷物を返却せば之を受けますか 六 今の書經周書の篇の名 七 人の貨物はしさに人を殺して、死骸を投げ棄てゝ 八 平氣で死を畏れざる惡人 九 惡み怨まぬことなきなり 一〇 君の命令を待たずして殺すべきもの 一一 殷周は此の法を受けて、三代共に一應の上申にも及ばず、直ちに之れを誅戮するなり、一說に今日は、先王の法は、多く廢壞したれども、此の法のみは、歷然として存在せりと 一二 どうして進物を受納すべき 一三 禮儀交際なり 一四 連ぬるなり 一五 盜賊の種類を推して、名目の行き止まりまで論じ詰むるなり 一六 獲物の多少を比較して、勝敗を決す 一七 道を行ふことを專事とす 一八 帳面をもて、宗廟の祭りに用ゐる器具の員數を正しく定むるなり 一九 四方の國々の求め難き食物をもて、帳面上の正數に供せず 二〇 兆は、事の端なり、道を行ふ端を試みて人に示す 二一 人の遂に其の道を行はざるなり 二二 止まるなり 二三 其の道の行はるべきことを見るなり 二四

請。無以辭卻之。以心卻之。曰其取諸民之不義也。而以他辭無受不可乎。曰。其交也以道。其接也以禮。斯孔子受之矣。萬章曰。今有禦人於國門之外者。其交也以道。其餽也以禮。斯可受禦與。曰。不可。康誥曰。殺越人于貨。閔不畏死。凡民罔不譈。是不待教。而誅者

禦むるを受くべきか。曰く、不可なり。康誥に曰く、人を貨に殺越し閔として死を畏れず。凡そ民譈まざること罔し。是れ教を待たずして誅する者なり。殷は夏に受け、周は殷に受く、辭せざる所なり。今に於て烈ごなす。此を如何ぞ其れ之を受けん。曰く、今の諸侯は之を民に取ること猶ほ禦むるがごときなり。苟も其禮際を善くせば、斯に君子之を受く。敢て問ふ、何の說ぞや。曰く、子以爲らく、王者作るあらば、今の諸侯を比して之を誅せんか。其れ之を教へて改めずして而る後に之を誅せんか。夫れ其有に非ずして、之を取る者は盜なりと謂はば、類を充てて義の盡くるに至らしむ。孔子の魯に仕ふるや、魯人獵較すれば、孔子も亦獵較す。獵較猶ほ可なり、而るを況んや其賜を受くるをや。曰く、然らば則ち孔子の仕ふるや、道を事とするに非ざるか。曰く、道を事とするなり。道を事とせば奚ぞ獵較するや。曰く、孔子先づ簿して祭器を正し、四方の食を以て簿正に供せず。曰く、奚ぞ去らざるや。曰く、之が兆を爲すなり、兆以て行ふに足れり。

大國之君亦有之。晉平公之於亥唐也。入云則入。坐云則坐。食云則食。雖疏食菜羹。未嘗不飽。蓋不敢不飽也。然終於此而已矣。弗與共天位也。弗與治天職也。弗與食天祿也。士之尊賢者也。非王公之尊賢也。舜尚見帝。帝館甥于貳室。亦饗舜。迭爲賓主。是天子而友匹夫也。用下敬上。謂之貴貴。用上敬下。謂之尊賢。貴貴尊賢。其義一也。

（一三）身分より上るなり　（一四）堯なり　（一五）壻なり、舜を指す　（一六）控へ御殿なり　（一七）逗留せしむるなり　（一八）互になり　（一九）客と主人となり　（二〇）そのわけあひはおなじ

萬章曰。敢問。交際何心也。孟子曰。恭也。曰。卻之卻之爲不恭何哉。曰。尊者賜之。曰其所取之者。義乎不義乎。而後受之。以是爲不恭。故弗卻也。曰。

萬章曰く、敢て問ふ。（一）交際は何の心ぞや。孟子の曰く、恭なり。曰く、（二）之を卻けん。之を卻くるを（三）不恭となすは何ぞや。曰く、尊者之を賜ふに、其の取る所の者は義か不義かと曰ひて而る後之を受く。是を以て不恭となす。故に卻けざるなり。曰く、請ふ辭を以て之を卻くること無く、心を以て之を卻く。其の諸を民に取る不義なりと曰ひて、他の辭を以て受くること無きは不可ならん。曰く、其交るや道を以てし、其接するや禮を以てせば、斯に（四）孔子之を受く。萬章曰く、今人を（五）國門の外に禦むる者あらん。其交るや道を以し、其餽るや禮を以てせば斯に

裘牧仲、其三人、則予忘之矣。獻子之與此五人者友也。無獻子之家者也。此五人者、亦有獻子之家、則不與之友矣。非惟百乘之家爲然也。雖小國之君、亦有之。費惠公曰。吾於子思、則師之矣。吾於顏般、則友之矣。王順長息。則事我者也。非惟小國之君爲然也。雖

ち之を師とし、吾顏般に於ては則ち之を友とし、王順・長息は則ち我に事ふる者なり。惟小國の君のみ然りと爲すに非ざるなり、大國の君と雖も亦之れあり。晉の平公の亥唐(九)に於けるや、入れと云へば則ち入り、坐せと云へば則ち坐し、食へと云へば則ち食ふ。疏食(一〇)菜羹(一一)と雖も、未だ嘗て飽かずんばあらざるなり。蓋し敢て飽かずんばあらず。然れども此に終るのみ。與に天位を共にせざるなり、與に天職を治めざるなり。與に天祿を食せざるなり。士の賢者を尊ぶや、王公の賢を尊ぶに非ざるなり。舜(一二)尚りて帝に見ゆ。帝(一三)、甥(一四)を貳室(一五)に館し(一六)、亦舜を饗して迭(一七)に賓主(一八)となる。是れ天子にして、匹夫を友とするなり。下を用つて上を敬する之を貴を貴ぶと謂ふ。上を用つて下を敬する、之を賢を貴ぶと謂ふ。貴を貴ぶと賢を貴ぶと其義(一九)一なり。

(一) 自ら年齡の高きを念とせず (二) 身分の貴き也 (三) 兄弟一族の富貴なる (四) 自負する意 (五) 魯の賢大夫の仲孫蔑なり (六) 獻子富貴の背景あるを忘れて赤裸々の人となるなり (七) 獻子が其の家の富貴なることを恃む心あらば (八) 小國の名なり (九) 晉の賢人なり (一〇) 玄米の飯 (一一) 野菜の汁物なり (一二) 上るなり、微賤の

士。上士倍₂中士。中士倍₂下士。下士與₂庶人在ㇾ官者₁同ㇾ祿。祿足₃以代₂其耕₁也。次國地方七十里。君十₂卿祿。卿祿三₂大夫。大夫倍₂上士。上士倍₂中士。中士倍₂下士。下士與₂庶人在ㇾ官者₁同ㇾ祿。祿足₃以代₂其耕₁也。小國地方五十里。君十₂卿祿。卿祿二₂大夫。大夫倍₂上士。上士倍₂中士。中士倍₂下士。下士與₂庶人在ㇾ官者₁同ㇾ祿。祿足₃以代₂其耕₁也。耕者之所ㇾ獲。一夫百畝。百畝之糞。上農夫食₂九人。上次食₂八人。中食₂七人。中次食₂六人。下食₂五人。庶人在ㇾ官者。其祿以ㇾ是爲ㇾ差。

伯の國なり　（一六）三倍なり　（一七）子男の國なり　（一八）二倍なり　（一九）得るなり　（二〇）肥料を施すなり

萬章問曰。敢問ㇾ友。孟子曰。不ㇾ挾ㇾ長。不ㇾ挾ㇾ貴。不ㇾ挾₂兄弟₁而友。友也者友₂其德₁也。不ㇾ可₂以有ㇾ挾也。孟獻子百乘之家也。有₂友五人₁焉。樂正

萬章問ひて曰く、敢て友を問ふ。孟子の曰く、（一）長を挾まず、（二）貴を挾まず、（三）兄弟を挾まずして友たり。友とは其德を友とするなり。以て挾むことある可からざるなり。（五）孟獻子の百乘の家、友五人あり。樂正裘・牧仲、（四）其三人は則ち予之を忘れたり。獻子が此五人者と友たるや、（六）獻子の家を無しとするなり。此五人の者も亦（七）獻子の家ありとすれば、則ち之と友たらず。惟百乘の家のみ然りとなすに非ざるなり、小國の君と雖も亦之れなり。（八）費の惠公の曰く、吾子思に於ては則

一位。上士一位。中士一位。下士一位。凡六等。天子之制。地方千里。公侯皆方百里。伯七十里。子男五十里。凡四等。不レ能ニ五十里。不レ達ニ於天子。附ニ於諸侯。曰ニ附庸。天子之卿受レ地視レ侯。大夫受レ地視レ伯。元士受レ地視ニ子男。大國地方百里。君十ニ卿祿。卿祿四ニ大夫。大夫倍ニ上

は庶人官に在る者と祿を同じくす。祿以て其耕に代ふるに足れり。(一五)次國は地方七十里、君は卿の祿を十にし、卿の祿は大夫を三にし、(一六)大夫は上士に倍し、上士は中士に倍し、中士は下士に倍し、下士は庶人の官に在る者と祿を同じくす。祿を以て其耕に代ふるに足れり。(一七)小國は地方五十里、君は卿の祿を十にす、卿の祿は大夫を二にす、(一八)大夫上士に倍す、上士は中士に倍す、中士下士に倍す、下士は庶人の官に在る者と祿を同じくす、祿は以て其耕に代ふるに足る。(一九)耕す者の獲る所、一夫百畝、百畝の糞(二〇)へる、上農夫は九人を食ひ、上の次は八人を食ひ、中は七人を食ひ、中の次は六人を食ひ、下は五人を食ふ。庶人の官にある者は、其祿是を以て差となす。

(一)衞の人　(二)周の朝廷で爵位や秩祿を次第するなり　(三)周の制度の己れの所爲を妨害するを恐れ　(四)爵祿の書類を燒き棄てたるなり　(五)一つの階級なり　(六)畿内の小國を子といひ、畿外の小國を男といひ、其の夷狄に在る者は、大小となく皆子といふ　(七)天子諸侯を共にいふ　(八)直接に其の姓名及び貢賦を天子に進達すること能はざるなり　(九)準ずるなり　(一〇)上士なり　(一一)公侯の國　(一二)十倍　(一三)四倍　(一四)二倍なり　(一五)

條理也。始條理者。智之事也。終條理者。聖之事也。智譬則巧也。聖譬則力也。由射於百步之外也。其至爾力也。其中非爾力也。

を射る力なり　(一〇)的に届くなり、即ち孔子は巧力共に有して聖智を兼備せるなり、他の伯夷伊尹等は力餘り有れば巧たらず巧あれば力足らざるなり

北宮錡問曰。周室班爵祿也。如之何。孟子曰。其詳不可得聞也。諸侯惡其害己也。而皆去其籍。然而軻也。嘗聞其略也。天子一位。公一位。侯一位。伯一位。子男同一位。凡五等也。君一位。卿一位。大夫

北京(一)錡問ひて曰く、周室(二)に爵祿を班すること之を如何。孟子曰く、其詳なるとは、聞くを得べからざるなり。諸侯(三)其の己を害するを惡みて皆其籍(四)を去る。然れども軻や嘗て其略を聞けり。天子(五)一位、公一位、侯一位、伯一位、子男(六)同じく一位、凡て五等なり。君一位、卿一位、大夫一位、上士一位、中士一位、下士一位、凡て六等。天子の制地(七)方千里を公侯は皆方百里、伯は七十里、子男は五十里、凡て四等。五十里なること能はずして天子に達せずして(八)諸侯に附くを附庸と曰ふ。天子の卿は地を受くること侯に視ひ(九)、大夫は地を受くること伯に視ひ、元士(一〇)は地を受くること子男に視ふ。大國(一一)は地方百里、君は卿の祿を十にし(一二)、卿の祿は大夫を四にし(一三)、大夫は上士に倍し(一四)、上士は中士に倍し、中士は下士に倍し、下士

中。其自任以天下之重也。柳下惠不羞汙君。不辭小官。進不隠賢。必以其道。遺佚而不怨。阨窮而不憫。與鄉人處。由由然不忍去也。爾爲爾我爲我。雖袒裼裸裎於我側。爾焉能浼我哉。故聞柳下惠之風者、鄙夫寛。薄夫敦。孔子之去齊。接淅而行。去魯曰。遲遲吾行也。去父母國之道也。可以速而速。可以久而久。可以處而處。可以仕而仕。孔子也。

(八) 水に漬けたる米を手にて掬ひ取るなり　(九) 緩かなるさま　(一〇) 緩かなり

孟子曰。伯夷聖之清者也。伊尹聖之任者也。柳下惠聖之和者也。孔子聖之時者也。孔子之謂集大成。集大成也者。金聲而玉振之也。金聲也者。始條理也。玉振之也者。終

孟子曰く、伯夷は聖の清(一)なる者なり。伊尹は聖の任(二)なる者なり。柳下惠は聖の和(三)なる者なり。孔子は聖の時(四)なる者なり。孔子は之を集めて大成す(五)と謂ふ。集めて大成すとは、金聲り(六)玉之を振むるなり。金聲るとは條理(七)を始むるなり。玉之を振むとは條理を終ふるなり。條理を始むるは智の事なり、條理を終ふるは聖の事なり。智は譬へば則ち巧(八)なり。聖は譬へば則ち力(九)なり。由ほ百步の外に射るがごとし。其至る(一〇)は爾の力なり。其中るは爾の力に非ざるなり。

(一) 清潔にして、濁りなきなり　(二) 天下の事を自ら引受くる　(三) 和樂なる事　(四) 其の時々の宜しきを得たるなり　(五) 伯夷の清と、伊尹の任と、柳下惠の和とを、一身に集めて、其の德を大成したり　(六) 音樂は、先づ鐘を擊ちて、聲を宣べ、後に磬を擊ちて聲を收むるなり　(七) 衆音の脈絡を始むるなり　(八) 弓を射る技術なり　(九) 弓

以待二天下之清一也。故聞二伯夷之風一者。頑夫廉、懦夫有レ立レ志。伊尹曰。何事非レ君。何使非レ民。治亦進。亂亦進。曰。天之生二斯民一也。使下先知覺二後知一、使下先覺覺中後覺上。予天民之先覺者也。予將下以二此道一覺中此民上也。思天下之民。匹夫匹婦。有下不レ與二被堯舜之澤一者上。若三己推而內二之溝

此道を以て此民を覺さしめんとするなり。思へらく天下の民匹夫匹婦も堯舜の澤を與り被らざる者あれば、己れ推して之を溝中に內るゝが若しと。其自ら任ずるに天下の重きを以てすればなり。柳下惠は汙君を羞ぢず、小官を辭せず、進みて賢を隱さず、必ず其道を以てす。遺佚して怨みず、阨窮して憫へず。鄉人と處り、由由然として去るに忍びざるなり。爾は爾たり、我は我たり。我が側に袒裼裸裎すと雖も、爾焉んぞ能く我を浼さんやと。故に柳下惠の風を聞く者は、鄙夫も寬に、薄夫も敦し。孔子の齊を去るや、(八)淅を接して行る。魯を去るに曰く、(九)遲遲として吾れ行く。父母の國を去るの道なりと。以て速かなる可くして速かに、以て久しかる可くして久しく、以て處るべくして處り、以て仕ふべくして仕ふるは孔子なり。(一〇)

(一) 此一篇の文は公孫丑上の「孟子曰、伯夷非二其君一不レ事」の章に類似せる所多し (二) 正しからざる色、所謂正色以外の色 (三) 正しからざる聲なり、彼の鄭聲の如きをいふ (四) 無理なる政事 (五) 非道なる人民 (六) 正裝して塵埃中に座するが如く不快に思ふこと、公孫丑上に既出。以下の諸語概ね既出なり (七) 此一句萬章上に既出

孟子曰。伯夷目不視二惡色一。耳不聽二惡聲一。非二其君一不事。非二其民一不使。治則進。亂則退。横政之所出。横民之所止。不忍居也。思與二鄕人一處。如丙以二朝衣朝冠一。坐乙於塗炭甲也。當二紂之時一。居二北海之濱一。

卷之十

萬章章句下

(一)孟子曰く、伯夷は目に惡色を視ず。耳に惡聲を聽かず。其君に非ざれば(二)事へず。其民に非ざれば使はず。治まれば(三)則ち進み、亂るれば則ち退く。(四)横政の出づる所、(五)横民の止る所、居るに忍びざるなり。思へらく郷人と處ること(六)朝衣朝冠を以て塗炭に坐するが如しと。紂の時に當りて、北海の濱に居り以て天下の清むを待つ。故に伯夷の風を聞く者は頑夫も廉に、懦夫も志を立つることあり。伊尹曰く、何れに事へてか君に非ざる。何れを使うてか民に非ざる。治まるにも亦進み亂るゝにも亦進む。曰く、(七)天の斯の民を生ずるや、先知をして後知を覺さしめ、先覺をして後覺を覺さしむ。予は天民の先覺なる者なり。予れ將に

可レ謂ニ不智一乎。知ニ虞公之將一レ亡。而先去レ之。不レ可レ謂ニ不智一也。時擧ニ於秦一知三繆公之可ニ與有一レ行也
而相レ之。可レ謂ニ不智一乎。相レ秦而顯三其君於ニ天下一。可レ傳レ於ニ後世一。不賢而能レ之乎。自鬻以成ニ其君一。
鄉黨自好者不レ爲。而謂ニ賢者爲一レ之乎。

者五羊之皮一。食レ牛以要二秦繆公一。信乎。孟子曰。否。不レ然。好レ事者爲レ之也。百里奚虞人也。晉人以二垂棘之璧與一屈產之乘一。假二道於虞一以伐レ虢。宮之奇諫。百里奚不レ諫。知二虞公之不一レ可レ諫而去レ之秦。年已七十矣。曾不レ知下以レ食レ牛干二秦繆公一之爲上レ汙也。可レ謂レ智乎。不レ可レ諫而不レ諫。

者之を爲すなり。百里奚は虞（三）人なり。晉人垂棘（四）の璧と屈產（五）の乘を以て道（六）を虞に假りて以て虢（七）を伐つ。宮之奇（八）諫む。百里奚は諫めず。虞公の諫む可からざるを知りて去りて、秦に之く。年已に七十なり。曾て牛を食ふを以て秦の繆公に干むる（九）汙たる（一〇）とを知らざるや、智と謂ふ可けんや。諫む可からずして諫めず、不智と謂ふ可けんや。虞公の將に亡びんとするを知りて先づ之を去る、不智と謂ふ可からざるなり。時に秦に擧げられ繆公の與に行ふある可きを知りて之を相く、不智と謂ふ可けんや。秦を相けて其君を天下に顯はし、後世に傳ふ可くす、不賢にして之を能くせんや。自ら鬻ぎて以て其君を成すは、鄕黨（一一）の自ら好みする者も爲さず、而るを賢者之を爲すと謂はんや。

（一）百里は姓、奚は名なり、虞の國の賢臣　（二）自ら其の身を賣りて、五枚の羊の皮を得て、秦の國の犧牲に用ひる獸類を飼ふ家の爲めに、牛を飼ひたるなり　（三）國名　（四）垂棘の地より出づる璧　（五）屈の地より產する馬　（六）道路を借りて軍を通すなり　（七）國の名なり　（八）虞の賢臣なり　（九）無理に求むるなり　（一〇）卑劣なる行ひなり　（一一）村里の自ら身を好しとする者さへも爲さない

子謂子路曰。孔子主我。衞卿可得也。子路以告。孔子曰。有命。孔子進以禮。退以義。得之不得。曰有命。而主癰疽與侍人瘠環。是無義無命也。孔子不悅於魯衞。遭宋桓司馬將要而殺之。微服而過宋。是時孔子當阨。主司城貞子爲陳侯周臣。吾聞觀近臣。以其所爲主。觀遠臣以其所主。若孔子主癰疽與侍人瘠環。何以爲孔子。

宋を過ぐ。是の時孔子(一三)阨に當れり。(一四)司城貞子(一五)陳侯周の臣となるを主とせり。吾れ聞く、近臣(一六)を觀るには、其の主となる所を以てし、遠臣(一七)を觀るには(一八)其の主とする所を以てすと。若し孔子、癰疽と侍人瘠環とを主とせば、何を以てか孔子となさん。

(一) 癰疽の醫者 (二) 近侍にして姓は瘠、名は環と云ひし人 (三) 宿の主人と頼むなり、近臣なり (四) 物好きの者なり (五) 衞の賢大夫なり (六) 衞の靈公の寵臣、彌子瑕なり (七) 孔子の弟子 (八) 姉妹なり (九) 魯や衞の君の御氣には入らざりし (一〇) 宋の大夫の桓魋なり (一一) 待ち設けて擊たんとす (一二) 微賤の衣服を着るなり (一三) 災難に遭ふなり、主を擇ぶ暇なし (一四) 陳の人なり (一五) 陳の湣公にして、名は越といふ、忠臣なり (一六) 自國の家來なり、之を見るには、その者が如何なる遠客の主となるかを觀察す (一七) 他國より來る家來なり (一八) 如何なる家に來り寓するかを觀察す

萬章問曰。或曰。百里奚自鬻於秦養牲

萬章問ひて曰く、或ひと曰く、百里奚(一)自ら(二)秦の牲を養ふ者に五羊の皮に鬻ぎ、牛を食うて以て秦の繆公に要むと。信なるか。孟子曰く、否、然らず。事を好む

民之先覺者也。予將下以二斯道一覺中斯民上也。非二予覺レ之而誰也。思下天下之民匹夫匹婦。有下不レ被二堯舜之澤一者上。若二己推而内一レ之溝中上。其自任以二天下之重一如レ此。故就レ湯而説レ之。以伐レ夏救レ民。吾未レ聞下枉レ己而正レ人者上也。況辱レ己以正二天下一者乎。聖人之行不レ同也。或遠或近。或去或不レ去。歸レ潔二其身一而已矣。吾聞下其以二堯舜之道一要中湯上。未レ聞レ以二割烹一也。伊訓曰。天誅造レ攻自二牧宮一。朕載レ自レ亳。

側を去りたる者もあれば、去らざる隱者もあり　(二三)　今書經商書の篇名　(二四)　造は作なり　(二五)　桀王の宮殿なり　(二六)　我れは殷の都の亳より起りて、之れを征伐することを始むと

萬章問曰。或謂。孔子於レ衞主二癰疽一。於レ齊主二侍人瘠環一。有レ諸乎。孟子曰。否。不レ然也。好レ事者爲レ之也。於レ衞主二顏讎由一。彌子之妻。與二子路之妻一兄弟也。彌

萬章問ひて曰く、或ひと謂ふ、孔子衞に於ては癰疽(一)を主とし、齊に於ては侍人瘠環(二)を主(三)とせりと。諸れありや。孟子曰く、否、然らざるなり。事(四)を好む者之を爲すなり。衞に於て顏讎由(五)を主とす。彌子(六)の妻と子路(七)の妻とは兄弟(八)なり。彌子、子路に謂つて曰く、孔子我を主とせば、衞の卿は得べしと。子路以て告ぐ。孔子曰く、命ありと。孔子進むに禮を以てし、退くに義を以てす。之を得ると得ざると命ありと曰へり。而るに癰疽と侍人瘠環とを主とせば、是れ義なく命なきなり。孔子(九)衞に悅ばれず、宋の桓司馬(一〇)將に要(一一)して之を殺さんとするに遭ひ、微服(一二)して

哉。我豈若下處二畎畝之中一。由レ是以樂中堯舜之道上哉。湯三使二往聘一レ之。既而幡然改曰。與下我處二畎畝之中一。由レ是以樂中堯舜之道上。吾豈若レ使下是君爲中堯舜之君上哉。吾豈若レ使下是民爲中堯舜之民上哉。吾豈若下於二吾身一。親見上レ之哉。天之生二此民一也。使下先知覺中後知上。使下先覺覺中後覺中也。予天

非ずして誰ぞやと。天下の民、匹夫匹婦(一九)も堯舜の澤を被らざる者あれば、己推して之を溝中に內るゝが若しと思ふ。其自ら任ずるに天下の重きを以てすること此の如し。故に湯に就きて(二〇)之に說くに夏を伐ち民を救ふを以てす。吾未だ己を枉げて、人を正す者を聞かざるなり。況んや己を辱しめ以て天下を正す者をや。聖人の行ひ同じからざるなり。(二一)或ひは遠く、或ひは近く、或ひは去り、(二二)或ひは去らず、其身を潔くするに歸するのみ。吾其の堯舜の道を以て湯に要むるを聞く。未だ割烹を以てすることを聞かざるなり。(二三)伊訓に曰く、天誅攻(二四)を造すは牧宮(二五)よりすと。朕亳(二六)より載むと。

(一) 食物の料理なり (二) 殷の湯王 (三) 仕官を求む (四) 國名 (五) 馬車に繫ぐ馬四千匹 (六) 个に同じ、一箇なり (七) 禮の進物にして、玉帛の類なり (八) 請待す (九) 無欲にして、自得せるさまなり (一〇) 田舍の意 (一一) 思ひ直すこと (一二) 湯王をいふ (一三) 人より先に知りたる者なり (一四) 後れて未だ知るに至らざる者 (一五) 人より先に覺りたる者 (一六) 覺るにおくれたる者 (一七) 天の生ずる人民なり (一八) 此の仁義の道なり (一九) 庶民のこと、一夫一婦 (二〇) 仕へて (二一) 山林にかくれたる者もあれば、廟堂に立ちたる者もあり (二二) 君の御

萬章問曰。人有レ言。伊尹以二割烹一要レ湯。有レ諸。孟子曰。否。不レ然。伊尹耕レ於二有莘之野一。而樂二堯舜之道一焉。非二其義一也。非二其道一也。祿レ之以二天下一弗レ顧也。繫馬千駟弗レ視也。非二其義一也。非二其道一也。一介不二以與レ人。一介不三以取二諸人一。湯使三人以レ幣聘二之。囂囂然曰。我何以二湯之聘幣一爲

萬章問うて曰く、人言へることあり。伊尹割烹を以て湯に要むと。諸れありや。孟子曰く、否、然らず。伊尹有莘の野に耕して堯舜の道を樂しむ。其義にあらず、其道にあらざれば、之に祿するに天下を以てするも顧ざるなり。繫馬千駟も視ざるなり。其義にあらず、其道にあらざれば、一介も以て人に與へず、一介を以て諸れを人に取らず、湯人をして幣を以て之を聘せしむ。囂囂然として曰く、我何ぞ湯の聘幣を以て爲さんや。我豈に畎畝の中に處り、是に由りて以て堯舜の道を樂むに若かんや。湯三たび往きて之を聘せしむ。既にして幡然として改めて曰く、我畎畝の中に處り、是に由りて以て堯舜の道を樂まんよりは、吾豈に是の君をして堯舜の君たらしむるに若かんや。吾豈に是民をして堯舜の民たらしむるに若かんや。吾豈に吾身に於て親しく之を見るに若かんや。天の此民を生ずるや、先知をして後知を覺さしめ、先覺をして後覺を覺さしむ。予は天民の先覺なる者なり。予將に斯の道を以て、斯の民を覺さんとするなり。予之を覺すに

曰。吾君之子也。丹朱之不肖。舜之子亦不肖。舜之相堯。禹之相舜也。歷年多。施澤於民久。啓賢能敬承繼禹之道。益之相禹也。歷年少。施澤於民未久。舜禹益相去久遠。其子之賢不肖皆天也。非人之所能爲也。莫之爲而爲者。天也。莫之致而至者。命也。匹夫而有天下者。德必若舜禹。而又有天子薦之者。故仲尼不有天下。繼世而有天下。天之所廢。必若桀紂者也。故益伊尹周公不有天下。伊尹相湯。以王於天下。湯崩。太丁未立。外丙二年。仲壬四年。太甲顚覆湯之典刑。伊尹放之於桐三年。太甲悔過。自怨自艾。於桐處仁遷義三年。以聽伊尹之訓己也。復歸于亳。周公之不有天下。猶益之於夏。伊尹之於殷也。孔子曰。唐虞禪。夏后殷周繼。其義一也。

い、自ら怨み(一六)自ら艾めて(一七)、桐に於て仁に處り義に遷る三年、以て伊尹の己を訓ふ(一八)るを聽く。亳(一九)に復歸す。周公の天下を有たざるは猶ほ益の夏に於ける、伊尹の殷に於けるがごときなり。孔子曰く、唐虞は禪(二〇)り、夏・殷・周は繼(二一)ぐ、其義(二二)一なりと。

㊀ 舜が禹をして政を攝せしむること十七年となり ㊁ 商均なり ㊂ 嵩山の下に在り ㊃ 同上、陰は山の北なり ㊄ 禹王の輔佐なり ㊅ 禹王の子 ㊆ 堯の子 ㊇ 招きて來すの義 ㊈ 湯の太子の太丁帝位に立たずして死す ㊉ 太丁の弟の外丙の、位に在ること二年 (一一) 外丙の弟の仲壬の、位に在ること四年 (一二) 太丁の子なり (一三) 湯王の制度を破壞す (一四) 地の名にして、湯王の墓のある所なり (一五) 流罪にするが如き意 (一六) 自ら其の惡行を怨み改む (一七) 自ら治めて過ちを改む (一八) 教訓の意 (一九) 湯王の都の亳へ歸らしむ (二〇) 位を授くるなり、禪祭して位を授く、故に讓位の意に用ふ (二一) 繼嗣に繼がしむ (二二) 其義は何れも皆民を安んずるにありと

與レ子。昔者舜。薦二禹於一レ天。十有七年。舜崩。三年之喪畢。禹避二舜之子於一陽城。天下之民從レ之。若下堯崩之後不レ從二堯之子一而從上レ舜也。禹薦二益於一レ天。七年。禹崩。三年之喪畢。益避二禹之子於一箕山之陰。朝覲訟獄者。不レ之レ益而之レ啓。曰。吾君之子也。謳歌者不レ謳二歌益一而謳二歌啓一。

禹、崩じ三年の喪畢りて、益、禹の子に箕山の(四)陰に避く。朝覲訟獄する者益に(五)之かずして啓に(六)之く。曰く、吾が君の子なりと。謳歌する者、益を謳歌せずして啓を謳歌す。曰く、吾が君の子なりと。(七)丹朱の不肖、舜の子亦不肖、舜の堯に相たる、禹の舜に相たる、年を歷ること多く、澤を民に施すこと久し。啓賢にして能く敬んで禹の道を承繼す。益の禹に相たる年を歷ること少く、澤を民に施すこと未だ久しからず。舜・禹・益相去ること久遠、其子の賢不肖は皆天なり。人の能く爲す所に非ざるなり。之を爲す莫くして爲る者は天なり。之れを致す(八)莫くして至る者は命なり。匹夫にして天下を有つ者は、德必ず舜・禹の若くにして又天子の之を薦むる者あり。故に仲尼は天下を有たず。世を繼ぎて天下を有つ。天の廢する所必ず桀紂の若くなる者なり。故に益・伊尹・周公は天下を有たず。伊尹、湯に相として以て天下に王たらしむ。湯崩じて太丁(九)未だ立たず。外丙は二年、(一〇)仲壬は四年、(一一)太甲、湯の典刑(一二)(一三)を顚覆す。伊尹之を(一四)(一五)桐に放くこと三年、太甲過を悔

矣。曰。敢問。薦二之於一天。而天受レ之。暴二之於一民。而民受レ之。如何。曰。使三之主二祭。而百神享レ之。是天受レ之。使三之主二事。而事治百姓安レ之。是民受レ之也。天與レ之。人與レ之。故曰。天子不レ能下以二天下一與上レ人。舜相レ堯二十有八載。非三人之所二能爲一也。天也。堯崩。三年之喪畢。舜避三堯之子於二南河之南一。天下諸侯朝覲者。不レ之二堯之子一而之レ舜。訟獄者。不レ之二堯之子一而之レ舜。謳歌者。不レ謳二歌堯之子一。而謳二歌舜一。故曰。天也。夫然後之二中國一。踐二天子位一焉。而居二堯之宮一。逼二堯之子一。是簒也。非二天與一也。太誓曰。天視自二我民一視。天聽自二我民一聽。此之謂也。

㊀丁寧に語るさま ㊁舜の身に行ふこと ㊂他の之れを受くること ㊃顯はし示すこと ㊄受納するなり ㊅丹朱を云ふ ㊆帝堯の都の南 ㊇參朝奉伺す ㊈公事訴訟をなす者なり ㊉君の德を歌ふ (十一)上の位を奪ふなり (十二)書經の周書篇名 (十三)從ふなり

萬章問曰。人有レ言。至レ於レ禹而德衰。不レ傳二於賢一。而傳二於子一。有レ諸。孟子曰。否。不レ然也。天與レ賢則與レ賢。天與レ子則

萬章問ひて曰く、人言へることあり。禹に至つて德衰へ、賢に傳へずして子に傳ふと。諸れありや。孟子曰く、否、然らざるなり。天賢に與ふれば則ち賢に與へ、天子に與ふれば則ち子に與ふ。昔者舜禹を天に薦むること十有七年、舜崩じ、三年の喪畢つて、禹、舜の子に陽城に避く。天下の民之に從ふこと、堯崩ずるの後、堯の子に從はずして舜に從ふが若し。禹、益を天に薦むること七年、

與ㇾ事示ㇾ之而已矣。曰。以ㇾ行與ㇾ事示ㇾ之者。如ㇾ之何。曰。天子能薦ㇾ人於ㇾ天。不ㇾ能ㇾ使ㇾ天與ㇾ之天下。諸侯能薦ㇾ人於ㇾ天子。不ㇾ能ㇾ使ㇾ天子與ㇾ之諸侯。大夫能薦ㇾ人於ㇾ諸侯。不ㇾ能ㇾ使ㇾ諸侯與ㇾ之大夫。昔者堯薦ㇾ舜於ㇾ天。而天受ㇾ之。暴ㇾ之於ㇾ民。而民受ㇾ之。故曰。天不ㇾ言。以ㇾ行與ㇾ事示ㇾ之而已

を天に薦めて天之を受け、之を民に暴(四)はして民之を受く(五)。故に曰く、天言はず。行と事とを以て之に示すのみと。曰く、敢て問ふ、之を天に薦めて天之を受け、之を民に暴して、民之を受くとは如何。曰く、之をして祭を主らしめて百神之を享く。是れ天之を受くるなり。之をして事を主らしめて事治まり、百姓之に安んず。是れ民之を受くるなり。天之を與へ、人之を與ふ。故に曰く、天子は天下を以て人に與ふること能はずと。舜、堯に相たること二十有八載、人の能く爲す所に非ず、天なり。堯崩じ、三年の喪畢りて、舜、(六)堯の子に南河(七)の南に避く。天下の諸侯朝覲(八)する者堯の子に之かずして舜に之き、訟獄(九)する者堯の子に之かずして舜に之き、謳歌する者堯の子を謳歌せずして、舜を謳歌す。故に曰く、天なり。夫れ然る後に中國(一〇)に之きて天子の位を踐めり。而るを堯の宮に居り堯の子に逼らば是れ簒(一一)へるなり。天の與ふるにあらざるなり。太誓(一二)に曰く、天の視るは我民(一三)に自つて視る、天の聽くは我民に自つて聽くとは、此れの謂なり。

也。勞レ於二王事一。而不レ得レ養二父母一也。曰。此莫レ非二王事一。我獨賢勞也。故說レ詩者。不三以レ文害レ辭。不三以レ辭害レ志。以レ意逆レ志。是爲レ得レ之。如以レ辭而已矣。雲漢之詩曰。周餘黎民。靡レ有二孑遺一。信斯言也。是周無二遺民一也。孝子之至。莫レ大レ乎レ尊レ親。尊レ親之至。莫レ大レ乎下以二天下一養上。爲二天子父一。尊之至也。以二天下一養。養之至也。詩曰。永言孝思。孝思維則。此之謂也。書曰。祇レ載見二瞽瞍一。夔夔齊栗。瞽瞍亦允若。是爲三父不二得而子一也。

(二〇) 長く孝行をするなり　(二一) 天下の法則となるなり　(二二) 今の書經の大禹謨　(二三) 事を敬むなり　(二四) 敬愼恐懼せるさまなり　(二五) 信じて順ふなり

萬章曰。堯以二天下一與レ舜。有レ諸。孟子曰。否。天子不レ能下以二天下一與上レ人。然則舜有二天下一也。孰與レ之。曰。天與レ之。天與レ之者。諄諄然命レ之乎。曰。否。天不レ言。以二行

萬章曰く、堯天下を以て舜に與ふと。諸れありや。孟子曰く、否、天子は天下を以て人に與ふること能はず。然らば則ち舜の天下を有つや、孰れか之を與ふる。曰く、天之を與ふ。天之を與ふとは諄諄然として之を命ずるか。曰く、否、天言はず。(二)行と事とを以て之に示すのみ。曰く、行と事とを以て之に示すとは之を如何。曰く、(三)天子能く人を天に薦む。天をして之に天下を與へしむること能はず。諸侯能く人を天子に薦む。天子をして之に諸侯を與へしむること能はず。大夫能く人を諸侯に薦む。諸侯をして之に大夫を與へしむると能はず。昔者堯、舜

三年四海遏二密八音一。孔子曰。天無二二日一。民無二二王一。舜既爲二天子一矣。又帥二天下諸侯一。以爲二堯三年喪一。是二天子矣。咸丘蒙曰。舜之不レ臣レ堯。則吾既得レ聞レ命矣。詩云。普天之下。莫レ非二王土一。率土之濱。莫レ非二王臣一。而舜既爲二天子一矣。敢問。瞽瞍之非レ臣如何。曰。是詩也。非二是之謂一

曰く、周餘の黎民(二七)、孑遺(二八)あることなしと。斯の言を信ずれば是れ周に遺民なきなり。孝子の至は親を尊ぶより大なるはなし。親を尊ぶの至は天下を以て養ふより大なるはなし。天子の父となるは尊の至なり。天下を以て養ふは養ふの至なり。詩(二九)に曰く、永く言(三〇)孝を思ふ。孝を思へば維れ則(三一)と。此の謂なり。書(三二)に曰く、祗(三三)みて瞽瞍に見ゆ。夔夔(三四)として齊栗す。瞽瞍も亦允若(三五)すと。是れ父得て子とせずとなすなり。

㊀ 孟子の弟子なり ㊁ 世の諺なり ㊂ 天子の位なり ㊃ 臣の位なり ㊄ 舜の父 ㊅ 安んぜざるさまなり ㊆ 危きなり ㊇ 高山の今にも崩れんとするさま ㊈ 齊の國の片田舍の百姓どもの傳說にして、取るに足らず、齊は東與に近き片田舍なり、咸丘蒙は齊の人なる故にいふ 〔一〇〕 天子の事を代理するなり 〔一一〕 今の書經の虞書篇名 〔一二〕 舜の代理せる二十八年目なり 〔一三〕 堯なり 〔一四〕 崩御なり 〔一五〕 亡父、亡母なり 〔一六〕 音曲停止なり、金、石、絲、竹、匏、土、革、木を八音といふ 〔一七〕 詩經小雅北山の篇 〔一八〕 天が下は殘らずなり 〔一九〕 陸地の隅の海邊までなり 〔二〇〕 賢は、もと財多きことより轉じて勞苦の太だ多きなり 〔二一〕 文字の上なり 〔二二〕 一句の辭なり 〔二三〕 作者の志なり 〔二四〕 讀者の意なり 〔二五〕 迎へ取るなり 〔二六〕 詩經大雅篇 〔二七〕 周の餘りの人民なり 〔二八〕 獨立脫漏するなり、一人として生き殘りたる者なきなり 〔二九〕 詩經大雅下武の篇

臣。父不レ得而子。舜南面而立。堯帥二諸侯一北面而朝レ之。瞽瞍亦北面而朝レ之。舜見二瞽瞍一。其容有レ蹙。孔子曰。於二斯時一也。天下殆哉。岌岌乎。不レ識此語誠然乎哉。孟子曰。否。此非二君子之言一。齊東野人之語也。堯老而舜攝也。堯典曰。二十有八載。放勳乃徂落。百姓如レ喪二考妣一。

す。舜は瞽瞍を見て、其の容蹙(六)たる有り。孔子曰く、斯の時に於て、天下殆(七)いかな。岌岌乎たりと(八)。識らず此の語誠に然るか。孟子曰く、否、此れ君子の言に非ず。齊東野人(九)の語なり。堯老いて舜攝するなり(一〇)。堯典(一一)に曰く、二十有八載(一二)、放勳(一三)乃ち徂落(一四)す。百姓考妣(一五)を喪するが如く、三年四海八音を遏密す(一六)。孔子曰く、天に二日なく、民に二王なしと。舜既に天子たり、又天下の諸侯を帥ゐて、以て堯の三年の喪を爲さば、是れ二天子なり。咸丘蒙曰く、舜の堯を臣とせざるは則ち吾れ既に命を聞くを得たり。詩に云ふ(一七)、普天(一八)の下は、王土に非ざるなく、率土(一九)の濱は、王臣に非ざるなしと。而して舜既に天子と爲れり。敢へて問ふ、瞽瞍の臣に非ざるは如何。曰く、是の詩や、是の謂ひに非ざるなり。王事に勞して父母を養ふを得ざるなり。曰く、此れ王事に非ざること莫し、我れ獨り賢(二〇)勞するなり。故に詩を說く者は文(二一)を以て辭(二二)を害せず、辭を以て志(二三)を害せず、意(二四)を以て志を逆ふ(二五)、是れ之を得たりと爲す。若し辭のみを以てせば、雲漢(二六)の詩に

奚罪焉。仁人固如是乎。在他人則誅之。在弟則封之。曰。仁人之於弟也。不藏怒焉。不宿怨焉。親愛之而已矣。親之欲其貴也。愛之欲其富也。封之有庫。富貴之也。身爲天子。弟爲匹夫。可謂親愛之乎。敢問。或曰。放者。何謂也。曰。象不得有爲於其國。天子使吏治其國。而納其貢稅焉。故謂之放。豈得暴彼民哉。雖然欲常常而見之。故源源而來。不及貢。以政接于有庫。此之謂也。

しめ、而して其貢税を納れしむ。故に之を放くと謂ふ。豈に彼の民を暴するを得んや。然りと雖も、常常にして之を見んと欲す。故に源源(一二)として來る(一三)、貢に及ばず、政を以て有庫に接す(一四)と。此れの謂なり。

(一) 場所を定めて、之れを置きて、隨意に他所へ去ることを得ざらしむること、即ち流罪に近し　(二) 官の名なり　(三) 流罪に行ふ　(四) 人の名なり　(五) 人の名なり　(六) 地の名なり　(七) 誅するなり　(八) 地の名なり　(九) 下文の在二他人一則誅レ之在レ弟則封レ之の二句を指す　(一〇) 怒るべきことを心の中に匿し置かぬなり　(一一) 怨むべきことを心の中に留め置かぬなり　(一二) 流るゝ水の源と通ずるやうに絶え間なきなり　(一三) 來りて朝覲するなり　(一四) 接見す

咸丘蒙問曰。語云。盛德之士。君不得而

咸丘蒙(一)問ふ、曰く、語(二)に云ふ、盛德の士は、君得て臣とせず。父得て子せず。舜は南面(三)して立ち、堯は諸侯を帥ゐて北面(四)して之に朝す。瞽瞍(五)も亦北面して之に朝

使下校人畜中之池上。校人烹レ之。反命曰。始舍レ之圉圉焉。少則洋洋焉。悠然而逝。子產曰。得二其所一哉。得二其所一哉。校人出曰。孰謂二子產智一。予既烹而食レ之。曰。得二其所一哉。得二其所一哉。故君子可三欺以二其方一。難下罔以中非二其道一。彼以二愛レ兄之道一來。故誠信而喜レ之。奚僞焉

萬章問曰。象日以レ殺レ舜爲レ事。立爲二天子一。則放レ之。何也。孟子曰。封レ之也。或曰。放焉。萬章曰。舜流三共工于二幽州一。放三驩兜于二崇山一。殺三三苗于二三危一。殛三鯀于二羽山一。四罪而天下咸服。誅二不仁一也。象至不仁。封二之有庳一。有庳之人。

萬章問ふ、曰く、象は日に舜を殺すを以て事と爲す。立ちて天子と爲れば則ち之を放くは何ぞや。孟子曰く、之を封ずるなり。或ひと曰く、放くと。萬章曰く、(一)舜は(二)共工を幽州に(三)流し、(四)驩兜を崇山に放ち、(五)三苗を(六)三危に殺し、鯀を羽山に(七)殛し、四罪して天下咸な服す。不仁を誅するなり。象至つて不仁なり、之を(八)有庳に封ず。有庳の人奚の罪かある。仁人は固より(九)是の如きか。他人に在りては則ち之を誅し、弟に在りては則ち之を封ず。曰く、仁人の弟に於ける、(一〇)怒を藏さず、(一一)怨を宿めず、之を親愛するのみ。之に親めば其の貴きを欲するなり。之を愛すれば其富を欲するなり。之を有庳に封ずるは之を富貴にするなり。身は天子たり。弟は匹夫たらば、之を親愛すと謂ふべきか。敢て問ふ。或ひと曰く、放くとは、何の謂ひぞ。曰く、象は其國に爲す有るを得ず、天子吏をして其國を治め

咸我績。牛羊父母。倉廩父母。干戈朕。琴朕。弤朕。二嫂使ㇾ治ニ朕棲一。象往入ニ舜宮一。舜在ㇾ牀琴。象曰。鬱陶思ㇾ君爾。忸怩。舜曰。惟茲臣庶。汝其于ㇾ予治。不ㇾ識舜不ㇾ知ニ象之將ㇾ殺ㇾ己與。曰奚而不ㇾ知也。象憂亦憂。象喜亦喜。曰。然則舜僞喜者與。曰否。昔者有ㇾ饋三生魚於ニ鄭子產一。子產

なと。校人出でて曰く、孰か子產を智と謂ふ。予既に烹て之を食へり。曰く、其所を得たるかな。其所を得たるかなと。故に君子は欺くに其方を以てすべし。罔(二九)するに其道に非ざるを以てし難し。彼は兄を愛するの道を以て(二八)來る。故に誠に信じて之を喜ぶ、奚ぞ僞らん。

(一) 詩經齊風の南山の篇なり (二) 誠に此の詩の辭の如くなるべくば (三) 怨むなり (四) 嫁に遣るなり (五) 倉廩を脩繕す (六) 梯子を引くなり (七) 井戸を浚はしめ其の出でんとする時、井に蓋すと、又、一說に井戸を掘りて、土を出ださしむ、又、一說には、出は、舜の橫穴より出でたるなりと (八) 掘り出だしたる土を、舜の上に落す (九) 瞽瞍の後妻の子 (一〇) 都は、於なり、君は、舜なり、又、舜の住めば三年にして都をなすより舜を云ふと (一一) 蓋は害の借字なり、一說に、蓋は、井戸の上より土を落して、舜を生き埋めにすることなり (一二) 謀るなり (一三) 皆我が手柄なり (一四) 舜の彈じたる五絃の琴なり (一五) 舜の祕藏の弓の名 (一六) 二人の兄嫁なり、娥皇、女英をさす (一七) 吾が寢所に侍らしむるなり (一八) 寢臺の上にて、琴を彈ずる (一九) 氣の塞ぐことなり (二〇) 恥かしげなるなり (二一) 百官をいふ (二二) 予が爲めに治めよといはむが如し (二三) 池沼の番人なり (二四) 放つ (二五) 苦みのまだ舒びざるさまなり (二六) 漸くに身の働きの自由になりたるさまなり (二七) 元氣よく泳ぎ去りたるなり (二八) 道なり (二九) だますなり

也。孟子曰。告則不レ得レ娶。男女居レ室。人之大倫也。如告則廢二人之大倫一。以懟二父母一。是以不レ告也。萬章曰。舜之不レ告而娶。則吾既得レ聞レ命矣。帝之妻レ舜。而不レ告何也。曰。帝亦知二告焉則不一レ得レ妻也。萬章曰。父母使二舜完一レ廩。捐レ階。瞽瞍焚レ廩。使レ浚レ井。出。從而揜レ之。象曰。謨レ蓋二都君一。

げずして娶るは、則ち吾れ既に命を聞くを得たり。帝の舜に妻[四]はして告げざるは何ぞや。曰く、帝も亦告ぐれば則ち妻はすを得ざるを知ればなり。萬章曰く、父母、舜をして廩[五]を完めしめ、階[六]を捐つ。瞽瞍廩を焚く。井[七]を浚はしむ、出づ。從[八]つて之を揜ふ。象[九]曰く、都君[一〇]を蓋[一一]するを謨[一二]るは咸な我が績[一三]なり。牛羊は父母、倉廩は父母、干戈[一四]は朕れ、琴は朕れ、弤[一五]は朕れ、二嫂[一六]は朕が棲[一七]を治めしめん。象往き舜の宮に入る。舜牀[一八]に在りて琴ひく。象曰く、鬱陶[一九]として君を思ふのみと。忸怩[二〇]たり。舜曰く、惟れ茲の臣庶[二一]、汝其く予[二二]に于いて治めよと。識らず舜は象の將に己を殺さんとするを知らざるか。曰く、奚ぞ知らざらんや。象憂ふれば、亦憂へ象喜べば亦喜ぶ。曰く、然らば則ち舜は僞り喜ぶものか。曰く、否、昔者生魚を鄭の子産に饋るあり。子産[二三]校人をして之を池に畜はしむ。校人之を烹て、反命して曰く、始め之を舍[二四]てば圉圉[二五]焉たり。少しくすれば則ち洋[二六]洋焉たり。悠然[二七]として逝くと。子産曰く、其所を得たるかな、其の所を得たるか

遷之焉。爲不順於父母。如窮人無所歸。天下之士。悦之人之所欲也。而不足以解憂。好色人之所欲。妻帝之二女。而不足以解憂。富人之所欲。富有天下。而不足以解憂。貴人之所欲。貴爲天子。而不足以解憂。人悦之。好色富貴。無足以解憂者。惟順於父母可以解憂。人少則慕父母。知好色。則慕少艾。有妻子則慕妻子。仕則慕君。不得於君則熱中。大孝終身慕父母。五十而慕者。予於大舜見之矣。

指す 〔一〇〕 懟は、顧眷せざる意 〔一一〕 供するなり 〔一二〕 父母の我れを愛せざるは我れに於て何の與かることあらむ 〔一三〕 帝舜なり 〔一四〕 田の中の百姓家なり 〔一五〕 胥は、須つなり、天下の平定するを待つなり。一説に率ゐるなりと、又は一説、視るなり、舜と共に天下の政事を視るなり 〔一六〕 之れを移し與ふるなり 〔一七〕 父母の心に叶はぬなり 〔一八〕 困窮人なり 〔一九〕 身を寄するなり 〔二〇〕 悦服するなり 〔二一〕 婦人の美色なり 〔二二〕 年若くして、顔よき女なり 〔二三〕 心中の燃ゆるばかりにいらだつこと

萬章問曰。詩云。娶妻如之何。必告父母。信斯言也。宜莫如舜。舜之不告而娶。何

萬章問うて、曰く、詩に〔一〕云ふ、妻を娶るは之を如何せん、必ず父母に告ぐと。〔二〕斯の言を信ぜば、舜の如くなる莫かるべし。舜の告げずして娶るは何ぞや。孟子曰く、告ぐれば則ち娶るを得ず。男女室に居るは、人の大倫なり、如し告ぐれば則ち人の大倫を廢し、以て父母を懟む〔三〕。是を以て告げざるなり。萬章曰く、舜の告

得レ聞レ命矣。號下泣于二旻天一于中父母上。則吾不レ知也。公明高曰、是非二爾所一レ知也。夫公明高以二孝子之心一爲レ不レ若レ是恝。我竭レ力耕レ田。共二爲レ子職一而已矣。父母之不二我愛一。於レ我何哉。帝使二其子九男二女。百官牛羊倉廩備。以事中舜於畎畝之中上。天下之士多二就レ之者一。帝將下胥二天下一。而

の士之に就く者多し。帝將に天下を胥て(一五)之に遷(一六)さんとす。父母に順ならざる(一七)爲めに、窮人(一八)の歸(一九)する所なきが如し。天下の士之を悅ぶ(二〇)は、人の欲する所なり。而して以て憂を解くに足らず。好色は人の欲する所、帝の二女を妻として、而して以て憂を解くに足らず。富(二一)は人の欲する所、富天下を有ちて、而して以て憂を解くに足らず。貴きは人の欲する所、貴きこと天子と爲り、而して以て憂を解くに足らず。人之を悅ぶ、好色富貴、以て憂を解くに足る者なし、惟だ父母に順にして、以て憂を解くべし。人少ければ則ち父母を慕ふ。好色を知れば則ち少艾(二二)を慕ふ。妻子有れば則ち妻子を慕ふ。仕ふれば則ち君を慕ふ。君に得ざれば則ち熱中(二三)す。大孝は終身父母を慕ふ。五十にして慕ふ者は、予大舜に於て之を見る。

㊀ 舜は五帝の一なり、其の父瞽瞍は後妻の子象を愛して舜を殺さんとして虐待至らざるなし ㊁ 旻は閔なり、天は萬物を憫む故に旻天といふ ㊂ 呼びて泣くなり ㊃ 父母の心に叶はざることを怨みて、父母を慕ふなり ㊄ 公明高の弟子 ㊅ 曾子の弟子 ㊆ 敎へなり ㊇ 父母を呼びて泣くなり ㊈ 下文の我竭レ力耕レ田以下を

萬章問曰。舜往于田。號泣于旻天。何爲其號泣也。孟子曰。怨慕也。萬章曰。父母愛之。喜而不忘。父母惡之。勞而不怨。然則舜怨乎。曰。長息問於公明高曰。舜往于田。則吾既

卷之九

萬章章句上

萬章問ふ、曰く、舜(一)は田に往き、旻天(二)に號泣(三)す、何爲ぞ其れ號泣するや。孟子曰く、怨慕(四)するなり。萬章曰く、父母之を愛せば、喜んで忘れず、父母之を惡めば、勞して怨みず。然らば則ち舜は怨みたるか。曰く、長息(五)、公明高(六)に問うて曰く、舜の田に往くは、則ち吾れ既に命(七)を聞くを得たり。旻天に父母に號泣するは、則ち吾れ知らざるなりと。公明高曰く、是れ爾が知る所(八)に非ざるなり。夫の公明高は孝子の心を以て、是(九)の若く恝(一〇)ならずと爲す。我力を竭し田を耕し、子たる職(一一)を共するのみ。父母(一二)の我を愛せざるも、我に於て何ぞや。帝(一三)其の子九男二女をして、百官、牛羊、倉廩を備へ、以て舜に畎畝(一四)の中に事へしむ。天下

り、今是の若しと。其妻と與に其良人を訕りて、(一一)而して中庭(一二)に相泣く。而るに良人は未だ之を知らざるなり。施施(一三)として外より來り、其妻妾に驕る。君子由り之を觀れば、則ち人の富貴利達(一四)を求むる所以の者は、(一五)其妻妾羞ぢず、而して相泣かざる者は幾んど希れなり。

(一) 婦人夫を稱して良人といふ (二) 飽くなり (三) 貴顯の人なり (四) 朝早く起き出づるなり (五) 斜めに附き従ふなり、心付かれぬやうに、跡をつくるなり (六) 城下を殘らず廻はるなり (七) 遂に (八) 東の外郭なり (九) 墓地の間なり (一〇) 供物の殘りの酒肉なり (一一) 謗るなり (一二) 内庭なり (一三) 機嫌よきさまなり (一四) 利運榮達なり (一五) 其手段陋劣其妻妾をして羞ぢて泣かしむるに類せざるものは殆ど無い

嘗有顯者來。吾將瞯良人之所之也。蚤起施從良人之所之。徧國中無與立談者。卒之東郭墦間之祭者。乞其餘。不足。又顧而之他。此其爲饜足之道也。其妻歸告其妾曰。良人者所仰望而終身也。今若此。與其妾訕其良人。而相泣於中庭。而良人未之知也。施施從外來。驕其妻妾。由君子觀之。則人之所以求富貴利達者。其妻妾不羞也。而不相泣者幾希矣。

人瞯夫子。果有以異於人乎。孟子曰、何以異於人哉。堯舜與人同耳。

子曰く、何を以て人に異ならんや。堯舜も人と同じきのみ。

（一）齊人　（二）齊の王　（三）賢者の身貌俗人に異なるあるべしと考へしなり

齊人有一妻一妾。而處室者。其良人出。則必饜酒肉而後反。其妻問所與飲食者。則盡富貴也。其妻告其妾曰。良人出。則必饜酒肉而後反。問其與飲食者。盡富貴也。而未

齊人一妻一妾にして室に處る者あり。其の良人出づれば、則ち必ず酒肉に饜（一）きて而る後に反る。其の妻、與に飲食する所（二）の者を問へば、則ち盡く富貴なり。其の妻其の妾に告げて、曰く、良人出づれば則ち必ず酒肉に饜きて、而る後に反る、其の與に飲食する者を問へば、盡く富貴なり、而して未だ嘗て顯者（三）の來るあらず、吾將に良人の之く所を瞯（四）はんとすと。蚤に起き、施（五）して良人の之く所に從ふ。國中（六）を偏くすれども與に立談する者なし。卒（七）に東郭（八）墦間（九）の祭者に之き、其の餘を乞ふ。足らざれば又顧みて他に之く。此れ其の饜足を爲すの道なり。其の妻歸（一〇）り其の妾に告げて、曰く、良人とは仰望して身を終ふる所な

曾子反。左右曰。待先生如此。其忠且敬也。寇至則先去。以爲民望。寇退則反。殆於不可。沈猶行曰。是非汝所知也。昔沈猶有負芻之禍。從先生者七十人。未有與焉。子思居於衞。有齊寇。或曰。寇至盍去諸。子思曰。如伋去君誰與守。孟子曰。曾子子思同道。曾子師也。父兄也。子思臣也。微也。曾子子思。易地則皆然。

所に非ざるなり。昔沈猶負芻の禍(一一)あり。先生に從ふ者七十人、未だ與るあらず。(一二)子思(一三)衞に居る、齊の寇あり、或ひと曰く、寇至る、盍ぞ諸れを去らざる。子思曰く、如し伋去らば、君誰と與にか守らん。孟子曰く、曾子・子思道を同じうす。曾子は師なり、父兄なり。(一四)子思は臣なり、微なり。(一五)曾子・子思、地を易へば則ち皆然らん。

(一) 魯の邑名 (二) 國名 (三) 寓居す (四) 地面内の薪に取る樹木などを切り倒しなどしてはいけない (五) 壁と屋根 (六) 曾子の弟子 (七) 武城の大夫等曾子を取り扱ふことの鄭重なるをいふ (八) 人民をして、望見て、其の眞似をせしむる手本を爲し (九) 宜しからぬやうでございます (一〇) 曾子の弟子、沈猶は姓、行は名なり (一一) 亂を作こしゝ者の名 (一二) 其の騷動に關係せざるなり (一三) 孔子の孫の伋の字なり (一四) 父兄の位置なる故に民に寇を逃るべき手本を示せり (一五) 身分の微賤なるも臣たりの意

儲子曰。王使

(一)儲子曰く、(二)王、人をして夫子を(三)瞷はしむ。果して以て人に異なるあるか。孟

耳目之欲。以爲二父母戮一四不孝也。好レ勇鬭狠。以危二父母一。五不孝也。章子有レ一於レ是乎。夫章子子父責レ善。而不二相遇一也。責レ善朋友之道也。父子責レ善。賊レ恩之大者。夫章子豈不レ欲レ有二夫妻子母之屬一哉。爲下得二罪於一レ父不レ得レ近。出レ妻屛レ子。終身不レ養焉。其設レ心以爲不レ若レ是。是則罪之大者。是則章子已矣。

大なる者と。是れ則ち章子のみ。

(一)齊國の人　(二)全國　(三)顔色を和げ禮を以て遇するなり　(四)世間普通なり　(五)博は、雙六の類なり、奕は、圍碁なり　(六)妻子の愛に引かるゝなり　(七)聲色に溺るゝことなり　(八)恥辱なり、父母の名を辱かしむ　(九)喧嘩口論するなり、狠は、爭ひ訟ふるなり　(一〇)匡章の章に子を添へたるなり　(一一)子父は章子よりしていふ　(一二)折り合はぬこと　(一三)一般の父子を云ふ　(一四)妻子をいふ、妻に對して、夫の字を添へ、子に對して、母の字を添へたるなり、夫は、卽ち已れ、母は、卽ち已れの妻をいふ　(一五)卻くるなり　(一六)妻子の養ひを受けぬ　(一七)心を用ふること

曾子居二武城一。有二越寇一。或曰。寇至。盍レ去レ諸。曰。無下寓二人於二我室一。毀中傷其薪木上。寇退則曰。脩二我牆屋一。我將レ反。寇退。

(一)曾子武城に居る。(二)越の寇あり。或ひと曰く、寇至る、盍ぞ諸れを去らざると。曰く、人を我が室に寓し、(三)其薪木を毀傷する無かれと。寇退けば則ち曰く、我が(五)牆屋を脩めよ、(四)我將に反らんとすと。寇退き、曾子反る。(六)左右曰く、(七)先生を待つこと、此の如く其れ忠にして且つ敬するなり、寇至れば則ち先づ去り、以て(八)民の望を爲し、寇退けば則ち反る、(九)不可なるに殆し。(一〇)沈猶行曰く、是れ汝が知る

以如レ是其急也。禹稷顏子。易レ地則皆然。今有二同室之人鬪一者。救レ之雖二被髮纓冠一而救レ之可也。鄉鄰有二鬪者一。被髮纓冠而往救レ之則惑也。雖レ閉レ戸可也。

公都子曰。匡章通國皆稱二不孝一焉。夫子與レ之遊。又從而禮二貌之一。敢問何也。孟子曰。世俗所謂不孝者五。惰二其四支一。不レ顧二父母之養一。一不孝也。博奕好二飲酒一。不レ顧二父母之養一。二不孝也。好二貨財一私二妻子一。不レ顧二父母之養一。三不孝也。從二

公都子曰く、匡(一)章(二)は通國皆不孝と稱す。夫子之れと遊び、又從つて之を禮貌(三)らせ、敢て問ふ何ぞや。孟子曰く、世俗(四)の所謂不孝なる者五つあり。其四支を惰らせ、父母の養を顧みざるは、一の不孝なり。博奕(五)し飲酒を好み、父母の養ひを顧みざるは、二の不孝なり。貨財を好み妻子(六)に私し、父母の養ひを顧みざるは三の不孝なり。耳目(七)の欲を從にし、以て父母の戮(八)を爲すは、四の不孝なり。勇を好み鬭狠(九)し、以て父母を危くするは、五の不孝なり。章子是に一つあるか。夫の章子(一〇)は、子父(一一)善を責めて相遇(一二)はざるなり。善を責むるは朋友の道なり。父子(一三)善を責むるは、恩を賊ふの大なる者なり。夫の章子は豈に夫妻(一四)子母の屬あるを欲せざらんや。罪を父に得て近づくを得ざるが爲めに、妻を出し子を屛け(一五)、終身養(一六)はず。其の心(一七)を設くること、以爲らく是の若くならざれば、是れ則ち罪の

禽獸又何難焉。是故君子。有終身之憂無一朝之患也。乃若所憂則有之。舜人也。我亦人也。舜爲法於天下可傳於後世。我由未免爲鄕人也。是則可憂也。憂之如何。如舜而已矣。若夫君子。所患則亡矣。非仁無爲也。非禮無行也。如有一朝之患。則君子不患矣。

禹稷當平世。三過其門而不入。孔子賢之。顏子當亂世。居於陋巷。一簞食一瓢飲。人不堪其憂。顏子不改其樂。孔子賢之。孟子曰。禹稷顏回同道。禹思天下有溺者由己溺之也。稷思天下有飢者由己飢之也。是

禹・稷は平世に當り、(一)三たび其門を過ぎて入らず。孔子之れを賢とす。顏子亂世に當り、(二)陋巷に居り、一簞の食、一瓢の飲、人は其憂に堪へず、顏子は其樂を改めず、孔子之れを賢とす。孟子曰く、禹・稷・顏回道を同じくす。禹は天下に溺るゝ者あれば、由ほ己れ之れを溺すがごとしと思ふ。稷は天下に飢うる者あれば、由ほ己れ之れを飢すがごとしと思ふ。是を以て是の如く其れ急なるなり。禹・稷・顏子、地を易へば則ち皆然らん。今同室の人鬪ふ者あらば、之を救ふに被髮纓冠して之を救ふと雖も可なり。鄕鄰に鬪ふ者あり、被髮纓冠して往いて之を救ふは則ち惑なり。戸を閉づと雖も可なり。

(一) 禹は洪水を治め、稷は農業を教ふ (二) 堯舜の平治の時なり (三) 家門 (四) 見苦しき小路 (五) 瓢簞一つの飲物 (六) 三たび其門を過ぎて入らざりしをいふ (七) 被髮は髮亂れて頭を被ふ義、急ぎて理髮に暇あらざるなり (八) 纓は冠の紐にて頸に結ぶものなり、纓冠は纓を結ぶ能はず纓を冠と共に頭に加ふるを云ふ

愛レ之。敬レ人者人恆敬レ之。有レ人レ於レ此。其待レ我以二橫逆一則君子必自反也。我必不仁也、必無禮也。此物奚宜レ至哉。其自反而仁矣。自反而有レ禮矣。其橫逆由レ是也。君子必自反也。我必不忠。自反而忠矣。其橫逆由レ是也。君子曰。此亦妄人也已矣。如レ此則與二禽獸一奚擇哉。於二

仁なり、自ら反して禮あり、其橫逆由ほ是のごとくなれば、君子必ず自ら反するなり。我必ず不忠なりと。自ら反して忠なり、其の橫逆是の如くなれば、君子曰く、此れ亦妄人(四)なるのみ。此の如きは則ち禽獸と奚(五)ぞ擇ばんや。禽獸に於て又(六)何ぞ難ぜんと。是の故に君子は終身(七)の憂ありて、一朝(八)の患なきなり。乃ち憂ふる所の若きは則ち之れあり。舜も人なり、我も亦人なり、舜は法を天下に爲し、後世に傳ふべし。我は由ほ鄕人(九)たるを免れざるがごとし。是れ則ち憂ふ可きなり。之れを憂へば如何にせん。舜の如くせんのみ。夫の君子の若きは、患ふ所は則ち亡し(一〇)、仁に非ざれば爲すなきなり。禮に非ざれば行ふなきなり。一朝の患あるが如きは、則ち君子は患へず。

(一) 心を存して、放れしめざるなり (二) 無理非道なる仕向け (三) 事なり (四) 無法者なり (五) 何等差別なきなり (六) 禽獸に異なるなき者は敢て論難するにも及ばず (七) 生涯に通ずる深き憂慮 (八) 外より來る一時の心配なり (九) 村里の常人なり (一〇) 無と同じ、患無き理を說く

而與ニ右師一言者。有下就ニ右師之位。而與ニ右師一言者上。孟子不下與ニ右師一言上。右師不レ悦曰。諸君子皆與レ驩言。孟子獨不ニ與レ驩言一。是簡レ驩也。孟子聞レ之曰。禮朝廷不ニ歴レ位而相與言一。不ニ踰レ階而相揖一也。我欲レ行レ禮。子敖以レ我爲レ簡。不ニ亦異一乎。

て曰く、諸君子皆驩と言ふ。(六)孟子獨り驩と言はず、是れ驩を簡にするなり。(七)孟子之れを聞きて、曰く、禮に朝廷には位を歴て相與に言はず、(八)階を踰えて相揖せざるなり。(九)我禮を行はんと欲す、子敖我を以て簡と爲す、亦異ならずや。(一〇)

㊀ 齊の大夫なり　㊁ 役名なり、王驩時に此の役に在り　㊂ 右師が公行子の門に入るなり　㊃ 右師の前へ進み出づるなり　㊄ 右師の座席の前に就く　㊅ 來合はせたる人々をいふ　㊆ 疎略にするなり　㊇ 人の座席を差し越しては　㊈ 堂の階段を差し越すなり　(一〇) 奇怪なり

孟子曰。君子所ニ以異ヒ於レ人者。以ニ其存ヒ心也。君子以レ仁存レ心。以レ禮存レ心。仁者愛レ人。有レ禮者敬レ人。愛レ人者人恒

孟子曰く、君子の人に異なる所以は、其の心を存するを以てなり。(一)君子は仁を以て心に存し、禮を以て心に存す。仁者は人を愛し、禮ある者は人を敬す。人を愛する者は人恒に之れを愛し、人を敬する者は人恒に之れを敬す。此に人あり。其の我を待つに横逆を以てすれば、(二)則ち君子必ず自ら反するなり。我は必ず不仁なり、必ず無禮なり、此の者奚ぞ宜しく至るべけんやと。(三)其の自ら反して

孟子曰。天下之言ㇾ性也。則ㇾ故而已矣。故者以ㇾ利爲ㇾ本。所ㇾ惡ニ於智一者。爲ニ其鑿一也。如智者若ニ禹之行ㇾ水也。則無ㇾ惡ㇾ於ㇾ智矣。禹之行ㇾ水也。行ニ其所ㇾ無ㇾ事也。如智者亦行ニ其所ㇾ無ㇾ事。則智亦大矣。天之高也。星辰之遠也。苟求ニ其故一。千歳之日至。可ニ坐而致一也。

孟子曰く、天下の性を言ふや、故に(一)則るのみ。故とは利を以て本と爲す。(二)智に惡む所の者は、其の鑿するが爲めなり。(三)如し智者禹の水を行る若くならば、(四)則ち智に惡むなし。禹の水を行るや、其の事なき所に行るなり。(五)如し智者も亦其の事なき所に行らば、(六)則ち智も亦大なり。天の高き星辰の遠き、(七)苟くも其の故を求めば、(八)千歳の日至も、(九)坐して致すべきなり。(一〇)

(一) 過去の證迹に則るなり、朱註によれば「則ち故のみ」と訓じ、已然の迹によるのみと　(二) 自然に順利なるなり　(三) 無理なる穿鑿をするなり　(四) 洪水を導くなり　(五) 水の自然に順ひて導くなり　(六) 性の自然に順はば　(七) 星辰の地を去ることの遠きなり　(八) 過去の證迹に就きて、自然に順利なるものを推し求むるなり　(九) 千年以後の冬至なり　(一〇) 骨折らずしてすぐ分かるべしと

公行子有ニ子之喪一。右師往弔。入ㇾ門。有下進

公行子(一)子の喪あり、右師(二)往きて弔し、門(三)に入る。進(四)んで右師と言ふ者あり。右(五)師の位に就き、而して右師と言ふ者あり。孟子、右師と言はず。右師悦ばずし

僕曰。庾公之斯也。曰。吾生矣。其僕曰。庾公之斯。衞之善ㇾ射者也。夫子曰。吾生何謂也。曰。庾公之斯學ニ射於尹公之佗一。尹公之佗學ニ射於ㇾ我。夫尹公之佗端人也。其取ㇾ友必端矣。庾公之斯至曰。夫子何爲不ㇾ執ㇾ弓。曰。今日我疾作。不ㇾ可ニ以執ㇾ弓。曰。小人學ニ射於尹公之佗一。尹公之佗學ニ射於夫子一。我不ㇾ忍下以ニ夫子之道一反害中夫子上。雖ㇾ然。今日之事君事也。我不ニ敢廢一。抽ㇾ矢扣ㇾ輪去ニ其金一。發ニ乘矢一而後反。

然りと雖も、今日の事は君の事なり、(一二)我敢て廢せずと。矢を(一三)抽き輪に(一四)叩き其金を(一五)去り、乘矢を(一六)發して而る後に反る。(一七)

(一)羿は、昔の射術を善くせし役人の通稱にして、一人の名にあらざるが如し、逢蒙は、其の一人の弟子なりと、或は曰く羿は有窮國の君にして逢蒙は其臣と　(二)勝さる　(三)其の罪を逢蒙に比すれば、少し輕いと云ふだけだ　(四)鄭の大夫なり　(五)侵掠せしむ　(六)衞の大夫なり　(七)御者なり　(八)子濯孺子をさす　(九)衞の人　(一〇)正しき人なり　(一一)拙者なり　(一二)君命なり　(一三)えびらより矢を拔き取るなり　(一四)車の輪に叩き附くるなり　(一五)其の鏃を取り除き　(一六)四本の矢なり　(一七)引き返すなり

孟子曰。西子蒙ニ不潔一。則人皆掩ㇾ鼻而過ㇾ之。雖ㇾ有ニ惡人一。齊戒沐浴。則可ニ以祀ニ上帝一。

孟子曰く、西子(一)不潔を(二)蒙らば、則ち人皆鼻を掩うて之れを過ぎん。(三)惡人(四)有りと雖も、齊戒(五)沐浴(六)せば、則ち以て上帝(七)を祀るべし。

(一)昔の美女の西施　(二)汚物を頭巾につけて被るなり　(三)臭氣を避くるなり　(四)容貌の醜き人なり　(五)物忌みをして、心を清むるなり　(六)髮を洗ひ身を洗ふなり　(七)天帝を祭るなり

逢蒙學射於羿。盡羿之道。思天下惟羿爲愈己。於是殺羿。孟子曰。是亦羿有罪焉。公明儀曰。宜若無罪焉。曰。薄乎云爾。惡得無罪。鄭人使子濯孺子侵衛。衛。使庾公之斯追之。子濯孺子曰。今日我疾作。不可以執弓。吾死矣夫。問其僕曰。追我者誰也。其

もよいやうにもあり、取らない方がよいやうにもある場合と解する方、文義に於て寧ろ可ならんか

逢蒙射を羿に學ぶ。羿の道を盡くし、思へらく、天下惟羿のみ己に愈ると爲す。是に於て羿を殺す。孟子曰く、是れ亦羿も罪あり。公明儀曰く、宜しく罪なきが若くなるべし。曰く、薄きかと云ふのみ、惡んぞ罪なきを得ん。鄭人子濯孺子をして衛を侵さしむ。衛、庾公之斯をして之れを追はしむ。子濯孺子曰く、今日我れ疾作る、以て弓を執るべからず、吾れ死なんか。其僕に問ふ、曰く、我を追ふ者は誰ぞ。其僕曰く、庾公之斯なり。曰く、吾れ生きん。其僕曰く、庾公之斯は、衛の善く射る者なり。夫子曰ふ、吾れ生きんと、何の謂ぞや。曰く、庾公之斯は射を尹公之佗に學ぶ。尹公之佗は射を我に學ぶ。夫の尹公之佗は端人なり、其の友を取ること必ず端ならん。庾公之斯至りて、曰く、夫子何爲ぞ弓を執らざる。曰く、今日我れ疾作る、以て弓を執る可からず。曰く、小人射を尹公之佗に學ぶ。尹公之佗は射を夫子に學ぶ。我れ夫子の道を以て、反つて夫子を害するに忍びず。尹

孟子曰。君子之澤。五世而斬。小人之澤。五世而斬。予未レ得レ爲二孔子徒一也。予私淑二諸人一也。

孟子曰。可二以取一。可二以無レ取。取傷レ廉。可二以與一。可二以無レ與。與傷レ惠。可二以死一。可二以無レ死。死傷レ勇。

は同じきなりと (六)春秋の記事 (七)當時の覇者の人名 (八)記錄役の法による (九)春秋善惡を褒貶したる趣意なり (一〇)內々にて取り極むるなり、是れ謙遜の言葉なり

孟子曰く、(一)君子の(二)澤は、(三)五世にして(四)斬え、小人の澤も、五世にして斬ゆ。予未だ(五)孔子の徒たるを得ざるなり。(六)予私かに諸れを人に淑くするなり。

(一)君子小人は德の有無に就きていへるなり、一說に位の有無に就きていふと (二)子孫に傳はる餘澤なり (三)父子相繼ぐを一世といふ、五世とは、父、祖父、曾祖父、高祖父までなり、之れより下への五世なれば、子、孫、曾孫、玄孫までなり、或は云ふ百五十年間と即ち一世を三十年間と見るなり (四)絕ゆ (五)孔子の弟子なり (六)間接に孔子の道を人より聞きて、我が身を善くすることを得たるなり

孟子曰く、(一)以て取るべし、(二)以て取るなかるべし、取れば廉を傷る。以て與ふべし、以て與ふるなかるべし、與ふれば惠を傷る。以て死すべし、以て死するなかるべし、死すれば勇を傷る。

(一)略々見て、自ら許す言葉なり、初めて見たる時、之れを取るべしと思ひたるなり (二)深く察して、自ら疑ふ言葉なり、再び見るに及びて、之れを取るべからざることを知りたるなり、これ朱註の說也、更に輕く見て取つて

施中四事上。其有レ不レ合者。仰而思レ之。夜以繼レ日。幸而得レ之。坐以待レ旦。

孟子曰。王者之迹熄而詩亡。詩亡然後春秋作。晉之乘。楚之檮杌。魯之春秋一也。其事則齊桓晉文。其文則史。孔子曰。其義則丘竊取レ之矣。

酒の爲めに國を亡ぼす者あらんとて、儀狄を遠ざけ、酒を絕ちたり、是れ其の酒を惡みたるなり　（二）過不及なきを中といふ　（三）方は、方角なりといひ或は類なりといふ、卽ち賢者の來りし方向と解し又は賢者の類と解す　（四）人民を視ること、怪我人を取り扱ふやうに、注意して取扱ふ　（五）仁道を望み行うて而も未だ猶は至らざる所あるが如く苦心す、而は如と通ず　（六）近き朝臣に親み狎れて、疎略にせぬなり　（七）遠き諸侯を忘却して、疎遠にせぬなり　（八）禹王と湯王と文王武王となり　（九）上述の禹王湯王文王武王の行ひし事、一說に四事は四季なりと　（一〇）夜明け

孟子曰く、王者の迹熄んで、（一）詩亡ぶ。詩亡びて、然る後春秋（二）作らる。晉の乘、（三）楚の檮杌、（四）魯の春秋は一（五）なり。其事（六）は則ち齊桓・晉文、（七）其文は則ち史。（八）孔子曰く、其義（九）は則ち丘竊（一〇）に之れを取ると。

（一）周の制度によりて、王者十二年目に天下を巡狩して、方岳の下に至りて、諸侯を明堂に朝會せしめ、太史に命じて、詩を陳奏せしめて、民間の風俗を觀察す、然るに、周の平王の東遷以後、巡狩の禮廢たれて、王者の迹止みければ、采詩の官の國風を察する事もなくなり詩の亡びたるなり　（二）孔子の春秋の書の成り出でたるなり　（三）晉の記錄の名なり、之れを乘といへるは、善惡共に載せざるはなしといふ義なり　（四）楚の國の記錄の名なり、凶獸の名より轉じて、凶人の稱となり、又轉じて、惡を記して、戒めを垂るゝ義となりたるなりといふ　（五）其體裁

之間雨集。溝澮皆盈。其涸也可二立而待一也。故聲聞過レ情。君子恥レ之。

孟子曰。人之所三以異二於禽獸一者幾希。庶民去レ之。君子存レ之。舜明二於庶物一。察二於人倫一。由二仁義一行。非レ行二仁義一也。

孟子曰く、人の禽獸に異なる所以の者幾んど希なり。(一)庶民は之れを去り、(二)君子は之れを存す。舜は(三)庶物に明かに、(四)人倫を察す。(五)仁義に由りて行ふ。仁義を行ふに非ざるなり。

㊀ 少しのことである　㊁ 仁義をいふ　㊂ 庶物の理に明なるなり　㊃ 人倫五常を見極むる意　㊄ 舜の行ふ仁義は自分の有する仁義によりて行ふなり、庶民の如く外より仁義を取りて行ふにあらず

孟子曰。禹惡二旨酒一。而好二善言一。湯執レ中。立レ賢無レ方。文王視レ民如レ傷。望レ道而未二之見一。武王不レ泄レ邇。不レ忘レ遠。周公思下兼二三王一以

孟子曰く、禹は旨酒(一)を惡んで、善言を好む。湯は中(二)を執る、賢を立つるに方(三)なし。文王は民を視ること(四)傷くが如し。道(五)を望んで未だ之れを見ざるが而し。武王は邇(六)を泄らさず、遠き(七)を忘れず。周公は三王(八)を兼ねて以て四事(九)に施さんと思ふ。其の合はざるある者は、仰いで之れを思ひ、夜以て日に繼ぐ。幸にして之れを得れば、坐して以て旦(一〇)を待つ。

㊀ 美酒なり、夏の禹王に時に儀狄といふ者、始めて酒を作りしに、禹王之れを飲みて、歎じて曰く後世になりて

以レ善養レ人。然後能服二天下一。天下不二心服一。而王者未二之有一也。○孟子曰。言無二實不祥一。不祥之實。蔽レ賢者當レ之。

だ之れあらざるなり。○孟子曰く、言に(三)實の不祥なし。不祥の(四)實は、賢を蔽ふ者之れに當る。

(一)善を以て人を服するは善を我が有として人を威壓するものなり　(二)善を以て人を致養して善に赴かしむ　(三)世人の名づけて不祥といふ事に眞實の不祥と見るべきものなし　(四)賢を蔽ふのが眞實の不祥なり

徐子曰。仲尼亟稱二於水一曰。水哉水哉。何取二於水一也。孟子曰。原泉混混。不レ舍二晝夜一。盈レ科而後進。放二乎四海一。有レ本者如レ是。是之取爾。苟爲レ無レ本。七八月

(一)徐子曰く、仲尼(二)亟〻(三)水を稱して、曰く、水なるかな水なるかなと。何ぞ水に取るや。孟子曰く、(四)原泉混混として、(五)晝夜を舍てず。(六)科に盈ちて而る後に進み、(七)四海に放る。(八)本ある者は是の如し。是れを之れ取るのみ。苟も本なかりせば、七八月の間雨集り、(九)溝澮皆盈つれども、其の(一〇)涸るゝや立つて(一一)待つべきなり。故に(一二)聲聞情に過ぐるは、君子之れを恥づ。

(一)徐辟なり　(二)屢々なり　(三)水の德を稱するなり　(四)水は源泉より混混として絕えず流れ出でて地を行くや　(五)晝夜絕間なし　(六)穴なり　(七)大海の意　(八)至るなり　(九)みぞ、澮とは田間の水道なり　(一〇)乾くなり　(一一)久しからぬ意　(一二)名が實よりも高きは雨水の溝澮を盈すが如く、すぐ變ずるのみ

當大事。惟送レ死可三以當二大事一。

孟子曰。君子深造レ之以レ道。欲三其自二得之一也。自二得之一則居レ之安。居レ之安則資レ之深。資レ之深則取二之左右一。逢二其原一。故君子欲三其自二得之一也。

○孟子曰。博學而詳說レ之。將三以反說二約一也。

孟子曰。以レ善服レ人者。未レ有二能服レ人者一也。

に足らず　(五)死したる親を見送る、一生一度の事なれば禮を盡すにも大事なり

孟子曰く、君子は深く(一)之れに造るに道を以てするは、其の之れを自得(三)せんことを欲すればなり。之れを自得すれば、則ち(二)之れに居ること(四)安し。之れに居ること安ければ、則ち之れに資ること深し。之れに資ること深ければ、則ち之れを左右(六)に取り、其の原に逢ふ(五)(七)。故に君子は其の之れを自得するを欲するなり。○孟子曰く、博く學びて詳に之れを說く(八)は、將に以て反りて約(九)を說かんとするなり。

(一)深く道理に進み入るなり　(二)仕方といふこと　(三)道をば強ひて求めずして、自然に得んとす　(四)道理の上に心を落ち着くることの安らかなるなり　(五)道理を取り用ひることの深遠なり　(六)道理を我が身の左右前後に取り用ひるなり　(七)道理の本源に出逢ふなり、原は源と同じ　(八)學びて道理を說明す　(九)要領の義

孟子曰く、善(一)を以て人を服する者は、未だ能く人を服する者にあらざるなり。善を以て人を養うて(二)、然る後能く天下を服す。天下心服せずして王たる者は、未

不中。才也棄二不才一。則賢不肖之相去。其間不レ能レ以レ寸。

(一)中和の氣のある賢人の意 (二)養育敎誨す (三)俊才ある人なり (四)中にして才ある父兄なり (五)賢者をして愚者を敎養せざらしめば、其の結果としては賢者も愚者とあまり變らないものとなつてしまふ

孟子曰。人有レ不レ爲也。而後可二以有一レ爲。○孟子曰。言二人之不善一。當下如二後患一何上。○孟子曰。仲尼不レ爲二已甚者一。○孟子曰。大人者言不二必信一。行不二必果一。惟義所レ在。

孟子曰く、人爲さざるあり(一)、而る後に以て爲すあるべし(二)。○孟子曰く、人の不善を言はば、當に後患(三)を如何すべき。○孟子曰く、仲尼(四)は已甚しき者(五)を爲さず。○孟子曰く、大人(六)は言必ずしも信ならず(七)、行必ずしも果ならず。惟義の在る所。

(一)惡事を爲さず (二)善事を爲す (三)後日難儀を被るべし (四)孔子の字 (五)飛びはなれたること (六)道に達せし人 (七)義を以て度と爲すが故に言信ならん事を期必せず、即ち子が父の罪をかくすが如きをいふ

孟子曰。大人者。不レ失二其赤子之心一者也。○孟子曰。養レ生者不レ足三以

孟子曰く、大人(一)は其赤子(二)の心を失はざるものなり。○孟子曰く、生を養ふ(三)者、以て大事(四)に當つるに足らず。惟死を送る(五)、以て大事に當つべし。

(一)大德の人君 (二)己が治むる民の心、一說に嬰兒の心なりと (三)生に事ふるは (四)子孫一生の大事となす

言則不レ聽。膏澤不レ下レ於レ民。有レ故而去。則君搏二執之一。又極二之於其所一レ往。去之日遂收二其田里一。此之謂二寇讎一。寇讎何服之有。

孟子曰。無レ罪而殺レ士。則大夫可二以去一。無レ罪而戮レ民。則士可二以徙一。○孟子曰。君仁莫レ不レ仁。君義莫レ不レ義。○孟子曰。非禮之禮。非義之義。大人弗レ爲。

孟子曰く、罪なくして士を殺さば、則ち大夫(一)以て去るべし。罪なくして民を戮せば、則ち士以て徙る(二)べし。○孟子曰く、君仁(三)なれば仁ならざる莫し。君義なれば義ならざる莫し。○孟子曰く、非禮の禮(四)、非義の義(五)は、大人は爲さず。

(一)之れやがて禍の其の身に及ぶべければなり (二)他國へ徙るなり (三)此句既に上篇に出づ (四)長を敬するは禮なり、然れども夫は妻を拜せず、昔陳賈と云へる人、妻を娶りしに己よりも年長なりしかば之れを拜せり、此は禮に似て非禮なり (五)人の力を藉りて仇討ちをする如き即ち非義の義なり

孟子曰。中也養二不中一。才也養二不才一。故人樂レ有二賢父兄一也。如中也棄二

孟子曰く、中(一)や不中を養ひ(二)、才(三)や不才を養ふ。故に人は賢父兄(四)あるを樂む。如し中や不中を棄て、才(五)や不才を棄てば、則ち賢不肖の相去ること、其間寸を以てする能はず。

如二犬馬一。則臣視レ君如二國人一。君之視レ臣如二土芥一。則臣視レ君如二寇讎一。王曰、禮爲二舊君一有レ服。何如斯可二爲服一矣。曰。諫行言聽。膏澤下レ於レ民。有レ故而去。則君使二人導一レ之出レ疆。又先レ於二其所一レ往。去三年不レ反。然後收二其田里一。此之謂二三有禮一焉。如レ此則爲レ之服矣。今也爲レ臣。諫則不レ行。

と寇讎(二)の如し。王曰く、禮に舊君(三)の爲めに服(四)ありと。何如なる斯に爲めに服すべきか。曰く、諫行はれ(五)言聽かれ(六)、膏澤民に下り(七)、故ありて去れば(八)、則ち君人をして之を導きて(九)疆(一〇)を出ださしめ、又其の往く所に先ち(一一)、去りて三年にして反らざれば、然る後に其田里を收む(一二)。此を之れ三有禮(一三)と謂ふ。此の如くなれば則ち之れが爲めに服す。今や臣と爲り、諫むれば則ち行はれず、言へば則ち聽かれず、膏澤民に下らず、故ありて去れば、則ち君之れを搏執(一四)し、又之れを其の往く所に極(一五)し、去るの日、遂に其田里を收む。此を之れ寇讎と謂ふ。寇讎には何の服か之れあらん。

(一) 土や、草の如くに手荒く取り扱はゞ　(二) 仇敵なり　(三) 前に事へし君なり　(四) 忌服あり　(五) 諫言を採用せられ　(六) 意見の採用せらる　(七) 恩澤を人民に及ぼすなり　(八) 事故ありて其の國を去る　(九) 道案内をするなり　(一〇) 國境　(一一) 其の往かむとする國に對して當人の往き著く前に其の才能を吹聽してやり　(一二) 其の田釆里居を取り上ぐるなり　(一三) 道案内と、他國への吹聽と、三年立ちて田祿里居を取り上ぐるとの三つの禮なり、有は添へ字なり　(一四) 召し捕ふ　(一五) 惡みて之を苦しむ

子產聽二鄭國之政一。以二其乘輿一濟二人於溱洧一。孟子曰。惠而不レ知レ爲レ政。歲十一月徒杠成。十二月輿梁成。民未レ病レ涉也。君子平二其政一。行辟レ人可也。焉得二人人而濟一レ之。故爲レ政者。每レ人而悅レ之。日亦不レ足矣。

子產(一)鄭國の政(二)を聽き、其乘輿(三)を以て、人を溱洧(四)に濟(五)す。孟子曰く、惠にして政を爲すを知らず。歲の十一月徒杠(六)成り、十二月輿梁(七)成る、民未だ涉る(八)を病まざるなり(九)。君子(一〇)其政を平にせば、行きて人を辟けしむる(一一)も可なり。焉ぞ人人にして之れを濟すを得ん。故に政を爲す者は、人每に之れを悅ばさば、日も亦足らず(一二)。

(一)鄭の大夫の公孫僑の字なり　(二)政治を行ひ　(三)乘りたる車　(四)二つの川の名なり　(五)渡す　(六)人の徒歩して渡るべき橋　(七)車輿を通ずべき橋　(八)徒歩にて水を涉るなり　(九)患ふるに及ばず　(一〇)位ある人を指す　(一一)人を左右に押し分くるなり　(一二)いくらやつたとて到底やり切れる話に非ず

孟子告二齊宣王一曰。君之視レ臣如二手足一。則臣視レ君如二腹心一。君之視レ臣

孟子、齊の宣王に告げて曰く、君の臣を視ること、手足の如くなれば、則ち臣の君を視ること腹心の如し。君の臣を視ること犬馬の如くなれば、則ち臣の君を視ること國人の如し。君の臣を視ること土芥(一)の如くなれば、則ち臣の君を視るこ

孟子曰。舜生於諸馮。遷於負夏。卒於鳴條。東夷之人也。文王生於岐周。卒於畢郢。西夷之人也。地之相去也。千有餘里。世之相後也。千有餘歲。得志行乎中國。若合符節。先聖後聖其揆一也。

巻之八

離婁章句下

孟子曰く、舜は諸馮(一)に生れ、負夏(二)に遷り、鳴條(三)に卒す。東夷(四)の人なり。文王は岐周(五)に生れ、畢郢(六)に卒す。西夷(七)の人なり。地の相去る、千有餘里、世の相後るゝ千有餘歲、志(八)を得て中國に行ふ。符節(九)を合するが若し。先聖後聖(一〇)其揆(一一)一なり。

(一) 中國の東方の邊鄙の地名 (二) 同上 (三) 同上 (四) 中國の東方の邊鄙なり (五) 岐山の下周の舊邑也 (六) 中國の西方の邊鄙に在り、周の都に近き地名 (七) 中國の西方の邊鄙 (八) 帝舜は天子となり、文王は西伯となりて各々其の道を中國に行ひたるなり (九) 割り符を合はせ (一〇) 主として舜と文王とを云ふ (一一) 度なり

然。不レ得レ乎レ親。不レ可三以爲二人。不レ順レ乎レ親。不レ可三以爲二子。舜盡二事レ親之道一。而瞽瞍底レ豫。瞽瞍底レ豫。而天下化。瞽瞍底レ豫而天下之爲二父子一者定。此之謂二大孝一。

るの道を盡して、而して瞽瞍(四)豫(五)を底す。瞽瞍豫を底して、而して天下化す。瞽瞍豫を底して、而して天下の父子爲る者定まる。此れを之れ大孝と謂ふ。

(一)舜を指す　(二)草の如く視て、念慮に掛けざるなり　(三)親の心に叶はぬなり　(四)舜の父の名なり　(五)悦び樂むこと

君子以爲猶告也。

の娥皇、女英を娶れるは後嗣の絕えん事をおそるゝなり、孝の輕重を考へてかくせしなり

孟子曰。仁之實事親是也。義之實從兄是也。智之實知斯二者弗去是也。禮之實節文斯二者是也。樂之實樂斯二者。樂則生矣。生則惡可已也。惡可已則不知足之蹈之手之舞之。

孟子曰く、仁の實は親に事ふる是れなり。義の實は兄に從ふ是れなり。智の實は斯の(一)二者を知りて去らざる是れなり。禮の實は斯の二者を節文(二)する是れなり。樂の實は、斯の二者を樂む。樂めば則ち生ず(三)。生ずれば則ち惡んぞ(四)已むべけんや。惡んぞ已むべくんば、則ち足(五)の之れを蹈み、手の之れを舞ふを知らざるなり。

(一)親に事へ、兄に從ふの二事　(二)程よくあやなすなり、親に事へ兄に事ふることを文飾するなり　(三)草木の萠へ出づるが如く自然に生ず　(四)勢ひの止むべからざるなり　(五)足の踏むも、手の舞ふも、心付かぬなり

孟子曰。天下大悅。而將歸己。視天下悅而歸己。猶艸芥也。惟舜爲

孟子曰く、天下大いに悅んで、而して將に己れ(一)に歸せんとす。天下悅んで己れに歸するを視ること、猶ほ艸芥のごとし。惟舜を然りと爲す。(二)親に得ざれば以て人と爲す可からず。親に順(三)ならざれば、以て子と爲す可からず。舜は親に事ふ

此言一也。曰。子來幾日矣。曰。昔者。曰。昔者則我出二此言一也。不二亦宜一乎。曰。舍館未レ定。曰。子聞レ之也。舍館定。然後求レ見二長者一乎。曰。克有レ罪。

らず。曰く、子之れを聞けりや、舍館定まり、然る後長者を見るを求むるか。曰く、克(五)罪有り。

㊀魯人にして孟子の弟子なり ㊁子敖は王驩の字齊王の寵臣なり、王驩は孟子の與に言はざる所の者なり ㊂前日、昨日なり ㊃旅館未だ定まらず故にすぐ來らざりきと也 ㊄樂正子の名、長者にはすぐに伺候すべきなりと氣付きて謝罪する也

孟子謂二樂正子一曰。子之從二於子敖一來。徒餔啜也。我不レ意。子學二古之道一。而以餔啜也。

孟子、樂正子に謂ひて曰く、子の子敖に從ひて來るは、徒に餔啜(一)するなり。我意はざりき、子古の道を學びて、而して以て餔啜せんとは。(二)

㊀餔は食なり、啜は飲なり、只食を求むるのみと也 ㊁孟子が樂正子の古道を學びながら妄に人に從ふを謂へるなり

孟子曰。不孝有レ三。無レ後爲レ大。舜不レ告而娶。爲レ無レ後也。

孟子曰く、不孝に三(一)あり、後なき(二)を大と爲す。舜の告げずして(三)娶るは後なきが爲めなり。君子以て猶ほ告ぐるがごとしと爲す。

㊀親不孝には、三箇條あり、善からぬ人に阿り諂ひて親を不義に陷るゝこと、家貧しく親老いたるに其の養ひを缺くこと、子なくして先祖の祀りを絶つことなりと趙註に見ゆ ㊁跡目なきなり ㊂親に告げずして、帝堯の娘

仁莫レ不レ仁。君義莫レ不レ義。君正莫レ不レ正。一正レ君而國定矣。

孟子曰。有二不レ虞之譽一。有二求レ全之毀一。○孟子曰。人之易二其言一也。無レ責耳矣。○孟子曰。人之患在三好爲二人師一。

樂正子從レ於二子敖一之レ齊。樂正子見二孟子一。孟子曰。子亦來見レ我乎。曰。先生何爲出二

れば國定まる。

(一)小人どもの過失は咎むるのにも足りない (二)誹るなり (三)大德の人 (四)君の思召の惡なることを正すなり (五)君が仁なれば國中不仁であることはない

孟子曰く、(一)虞らざるの譽あり。(二)全きを求むるの毀あり。○孟子曰く、人の其の言を易くするは、責めなきのみ。○孟子曰く、人の患は、好んで人の師と(三)爲るに在り。

(一)豫期せざるの譽を得 (二)其の名全からんことを求めて反つて謗を得ることあり (三)人が容易に言ふは其の言に就きて責を負はず失言あるも頓着せざるが故なり

(一)樂正子、(二)之敖に從ひ齊に之く。樂正子、孟子を見る。孟子曰く、子も亦來りて我を見るか。曰く、先生何爲れぞ此言を出す。曰く、子の來ること幾日ぞ。曰く、昔者。曰く、(三)昔者ならば則ち我此言を出す、亦宜ならずや。曰く、(四)舍館未だ定ま

親者。吾未之聞也。孰不爲事。事親事之本也。孰不爲守。守身守之本也。曾子養曾晳必有酒肉。將徹必問所與。問有餘必曰有。曾晳死。曾元養曾子。必有酒肉。將徹不請所與。問有餘。曰亡矣。將以復進也。此所謂養口體者也。若曾子則可謂養志也。事親若曾子者可也。

せんとすれば必ず與ふる所を問ふ。餘ありやと問へば、必ず有りと曰ふ。曾晳死す。(四)曾元曾子を養ふに必ず酒肉あり。將に徹せんとして與ふる所を請はず。餘り有りやと問へば、(五)亡しと曰ふ。將に以て(六)復た進めんとするなり。此れ所謂(七)口體を養ふ者なり。曾子の若きは則ち志を養ふと謂ふべきなり。親に事ふること曾子の若きものは可なり。

(一)我が身を不義に陷らぬやうに大切に守るなり　(二)曾子の父なり、名は點といふ　(三)膳を引き下ぐ　(四)曾子の子　(五)無きなり　(六)再び親に進むるなり　(七)口腹身體

孟子曰。人不足與適也。政不足閒也。惟大人爲能格君心之非。君

孟子曰く、(一)人は與に適むるに足らざるなり。政(二)は閒するに足らざるなり。惟(三)大人は能く(四)君心の非を格すことを爲す。(五)君仁なれば仁ならざること莫し。君義なれば義ならざること莫し。君正しければ正しからざる莫し。一たび君を正しくす

者必以レ正。以レ正不レ行。繼レ之以レ怒。繼レ之以レ怒。則反夷矣。夫子教レ我以レ正。夫子未レ出レ於レ正也。則是父子相夷也。父子相夷則惡矣。古者易レ子而教レ之。父子之間。不レ責レ善。責善則離。離則不祥莫レ大レ焉。

以てす。夫子未だ正に出でざるなりと。則ち是れ父子相夷ふなり。父子相夷へば則ち惡し。古は子を易へて之れを教ふ。父子の間は善を責めず。(五)善を責むれば則ち離る。(六)離るれば則ち不祥(七)焉れより大なるは莫し。(八)

(一)自身に子供を教へず (二)行はれざる事情あり (三)父子の情を害ふなり (四)父を指す (五)善き事をせむことを責め咎むなり (六)愛情の離るゝなり (七)不吉なり (八)非常に大なる意

孟子曰。事孰爲レ大。事レ親爲レ大。守孰爲レ大。守レ身爲レ大。不レ失二其身一。而能事二其親一者。吾聞レ之矣。失二其身一而能事二其

孟子曰く、事ふる孰れか大と爲す。親に事ふるを大と爲す。守る孰れか大と爲す。身を守るを大となす。(一)其身を失はずして能く其親に事ふる者は、吾れ之れを聞けり。其身を失うて能く其親に事ふる者は、吾れ未だ之れを聞かざるなり。孰れか事ふると爲さざらん。親に事ふるは事ふるの本なり。孰れか守ると爲さざらん。身を守るは守るの本なり。曾子、(二)曾皙を養ふに、必ず酒肉あり。將に徹(三)

淳于髡曰。男女授受不レ親禮與。孟子曰。禮也。曰。嫂溺則援レ之以レ手乎。曰。嫂溺不レ援是豺狼也。男女授受不レ親禮也。嫂溺援レ之以レ手者權也。曰。今天下溺矣。夫子之不レ援何也。曰。天下溺援レ之以レ道。嫂溺援レ之以レ手。子欲三手援二天下一乎。

（一）淳于髡曰く、男女授受（二）するに親せざるは禮か。孟子曰く、禮なり。曰く、（三）嫂溺れば則ち之れを（四）援くに手を以てせんか。曰く、嫂溺れて援かざるは是れ（五）豺狼なり。男女授受するに親せざるは禮なり。嫂溺れ之れを援くに手を以てするは（六）權なり。曰く、今天下溺る、夫子の援けざるは何ぞや。曰く、天下溺るれば之れを援くるに道を以てし、嫂溺るれば之れを援くに手を以てす、子手もて天下を援けんと欲するか。

（一）姓は淳于、髡は、名なり、齊の辯士なり　（二）物を手渡しせぬ　（三）兄嫁の水に溺るゝなり　（四）救ふなり　（五）豺は、やまいぬなり、殘忍なる獸なり　（六）臨機應變の處置なり、權道なり

公孫丑曰。君子之不レ教レ子何也。孟子曰。勢不レ行也。教

公孫丑曰く、君子の（一）子を教へざるは何ぞや。孟子曰く、（二）勢行はれざるなり。教ふる者は必ず正を以てす。正を以てして行はれざれば、之れに繼ぐに怒を以てす。之れに繼ぐに怒を以てすれば、則ち反りて（三）夷ふ。（四）夫子我に教ふるに正を

次レ之。辟二草萊一任二土地一者次レ之。

孟子曰。存レ乎レ人者。莫レ良レ於二眸子一。眸子不レ能レ掩二其惡一。胸中正則眸子瞭焉。胸中不レ正則眸子眊焉。聽二其言一也。觀二其眸子一。人焉廋哉。

孟子曰。恭者不レ侮レ人。儉者不レ奪レ人。侮二奪人一之君。惟恐レ不レ順焉。惡得レ爲二恭儉一。恭儉豈可下以二聲音笑貌一爲上哉。

孟子曰く、(一)人に存する者は、(二)眸子より良きは莫し。眸子は其惡を掩ふ能はず。(三)胸中正しければ、則ち眸子(四)瞭なり、胸中正しからざれば則ち眸子(五)眊し。其言を聽き、其の眸子を觀れば、人焉んぞ(六)廋さんや。

(一)人の身體に存在する者 (二)眼中の瞳子ほど、人の心の善く分かるものなし (三)心の內なり (四)清みて明かなり (五)曇りて居ること (六)匿すなり

孟子曰く、恭者は人を侮らず。儉者は人より奪はず。人を侮奪するの君は、(一)惟順はざるを恐る。惡んぞ恭儉を爲すを得ん。(二)恭儉は豈に聲音笑貌を以て爲す可けんや。

(一)人の己れに順はざらむことを氣遣ふなり、一說に、人の意に順ふことなり (二)眞の恭儉は心なり、言葉の調子と顏つきにて出來べき事にあらず

爲二季氏宰一。無三能改二於其德一。而賦レ粟倍二他日一。孔子曰。求非二我徒一也。小子鳴レ鼓。而攻之可也。由レ此觀レ之。君不レ行二仁政一而富レ之。皆棄二於孔子一者也。況於二爲レ之强戰。爭レ地以戰。殺レ人盈レ野。爭レ城以戰。殺レ人盈レ城。此所レ謂率二土地一而食二人肉一。罪不レ容レ於レ死。故善戰者服二上刑一。連二諸侯一者

る他日に倍す。孔子曰く、求は我が徒に非ざるなり。(六)小子鼓を鳴して(八)之れを攻めて可なりと。此れに由りて之れを觀れば、君仁政を行は(七)ずして、之れを富す(九)は、皆孔子に棄てらるゝ者なり。況や(一〇)之れが爲めに强戰し、地を爭ひて以て戰ひ、人を殺して野に盈ち、城を爭ひて以て戰ひ、人を殺して城に盈つるに於てをや、此れ所謂(一一)土地を率ゐて人肉を食まするなり。(一二)罪死に容れず。故に善く(一三)戰ふ者は上刑に(一四)服せしむ。諸侯(一五)を連ぬる者は之れに次ぐ。草萊(一六)を辟き土地(一七)に任ずる者は之れに次ぐ。

(一) 孔子の弟子の冉求 (二) 魯の卿なり (三) 執事なり (四) 季氏の德を改め直す事なく (五) 年貢米を取り立つること、前年に倍す (六) 我が仲間にあらぬなり (七) 弟子を指す (八) 攻め太鼓を鳴らして、冉求の罪を責めよ 論語先進篇に、季氏富二於周公一而求也爲レ之聚斂而附二益之一。子曰、非二吾徒一也、小子鳴レ鼓攻レ之可也、と見ゆ (九) 其の君を富ます (一〇) 其の君の爲めに (一一) 私が兼ねがね云ふ所の、土地の爲めに人を殺すのです、此に似たる言孟子書中の隨所に見ゆ (一二) 其の罪極めて重大なり (一三) 孫子、吳子の徒をいふ (一四) 一等重き死刑を加へ (一五) 諸侯を連合せしむるなり、蘇秦、張儀の如きもの (一六) 荒れ地を開墾するなり (一七) 人民に地面を割り付けて、耕作の責めに任ぜしめ課税せしむるなり

孟子曰。伯夷辟紂。居北海之濱。聞文王作興。曰。盍歸乎來。吾聞西伯善養老者。太公辟紂。居東海之濱。聞文王作興。曰。盍歸乎來。吾聞西伯善養老者。二老者。天下之大老也。而歸之。是天下之父歸之也。天下之父歸之。其子焉往。諸侯有行文王之政者。七年之內。必爲政於天下矣。

孟子曰く、伯夷は紂(一)を辟け、北海(二)の濱に居る。文王作興(三)すと聞き、曰く、盍(四)ぞ歸せざる。吾聞く、西伯(五)は善く老を養ふ者と。太公(六)紂を辟け、東海の濱に居る。文王作興すと聞く。曰く、盍ぞ歸せざる。吾聞く、西伯は善く老を養ふ者と。二老(七)は天下(八)の大老なり。而して之れに歸す。是れ天下の父之れに歸するなり。天下の父之れに歸せば、其子焉くに往かん。諸侯、文王の政を行ふ者あらば、七年(九)の內、必ず政を天下に爲さん。

(一) 殷の紂王の亂を避く　(二) 北海の海濱の意　(三) 作興の作は其勢を謂ふ、文王起つなり、興は其德を謂ふ、王道を興すなりと。朱註にては聞文王作興曰。と訓じ文王の起り、伯夷の起つとす　(四) 何ぞ早く往きて歸せざるといふことなり、來は、助語　(五) 西方の諸侯の旗頭なり、文王を指す　(六) 太公望呂尚なり　(七) 伯夷と、太公望　(八) 年齡といひ、德望といひ、天下第一の長老たるなり　(九) 孟子は時勢を觀察しかく考へしならん

孟子曰。求也

孟子曰く、求(一)は季氏(二)の宰(三)となり、能く其德(四)を改むるなく、而して粟(五)を賦す

諸難。人人親二其親一。長二其長一而天下平。

孟子曰。居二下位一而不レ獲レ於レ上。民不レ可二得而治一也。獲レ於レ上有レ道。不レ信レ於レ友。弗レ獲レ於レ上矣。信レ於レ友有レ道。事レ親弗レ悅。弗レ信レ於レ友矣。悅レ親有レ道。反レ身不レ誠。不レ悅レ於レ親矣。誠レ身有レ道。不レ明レ乎レ善。不レ誠二其身一矣。是故誠者天之道也。思レ誠者人之道也。至誠而不レ動者。未二之有一也。不レ誠未レ有二能動者一也。

㈠邇と同じ、近きなり　㈡親を親むは仁、長を長とするは義なり

孟子曰く、㈠下位に居りて上に獲られざれば、民得て治む可からざるなり。上に獲らるゝに道あり。㈡友に信ぜられざれば上に獲られず、友に信ぜらるゝに道あり。親に事へて悅ばれざれば、友に信ぜられず、親に悅ばるゝに道あり。身に反して誠あらざれば、親に悅ばれず。身を誠にするに道あり。善に明ならざれば、其身に誠あらず。是の故に㈢誠は天の道なり。㈣誠にせんと思ふは人の道なり。㈤至誠にして動かされざる者は、未だ之れ有らざるなり。誠ならずして未だ能く動かす者は有らざるなり。

㈠臣下の地位　㈡君上の思召に叶はぬ　㈢誠は人の性なる故に云ふ　㈣學びて以て誠にす故に人の道と云ふ、其の身を誠實にせむと思ふなり　㈤至誠を以て人に接すれば人必ず感動す

天下之君。有ニ好レ仁者一[illegible]諸侯皆爲レ之敺矣。雖レ欲レ無レ王。不レ可レ得已。今之欲レ王者。猶三七年之病。求二三年之艾一也。苟爲レ不レ畜。終身不レ得。苟不レ志レ於レ仁。終身憂辱。以陷レ於ニ死亡一。詩云。其何能淑。載胥及溺。此之謂也。

ふ。畜は蓄と同じ　(二〇)詩經の大雅桑柔篇　(二一)善きなり　(二二)則と同じ　(二三)相與になり

孟子曰。自暴者。不レ可ニ與有上レ言也。自棄者。不レ可ニ與有上レ爲也。言非ニ禮義一。謂ニ之自暴一也。吾身不レ能ニ居レ仁由上レ義。謂ニ之自棄一也。仁人之安宅也。義人之正路也。曠ニ安宅一而弗レ居。舍ニ正路一而不レ由。哀哉。

孟子曰く、(一)自ら暴する者は、與に言ふある可からざるなり。(二)自ら棄つる者は、與に爲す有るべからざるなり。言禮儀に(三)非ざる、之れを自暴と謂ふ。吾が身は仁に居り義に由る能はざる、之れを自棄と謂ふ。仁は人の(四)安宅なり。義は人の正路なり。安宅を(五)曠しくして居らず。(六)正路を(七)舍てて由らず、哀しいかな。

(一)自ら其の身を害ふ　(二)自ら其の身を棄つるなり　(三)合はぬ。一説誹るなり　(四)完全なる居所　(五)空虛にす　(六)正當に履み行くべき道路なり　(七)棄つるなり

孟子曰。道在レ邇。而求ニ諸遠一。事在レ易。而求ニ

孟子曰く、(一)道は邇きに在り。而して諸を遠きに求む。事は易きに在り、而して諸を難きに求む。人人(二)其親を親み、其長を長とせば、天下平かなり。

之失二天下一也。失二其民一者。失二其心一也。得二天下一有レ道。得二其民一斯得二天下一矣。得二其民一有レ道。得二其心一斯得レ民矣。得二其心一有レ道。所レ欲與レ之聚レ之。所レ惡勿レ施爾也。民之歸レ仁也。猶二水之就レ下。獸之走レ壙也。故爲レ淵敺レ魚者獺也。爲レ叢敺レ爵者鸇也。爲二湯武一敺レ民者桀與レ紂也。今

失ふなり。天下を得るに道あり。其民を得れば斯に天下を得、其民を得るに道あり。其心を得れば斯に民を得。其心を得るに道あり。欲する(一)所は之れを與へ之れを聚め、惡む所を施す勿きのみ。民の仁に歸する、猶ほ水の下に就き、獸の壙(二)に走るがごとし。故に淵(三)の爲めに魚を敺る者は獺(五)なり、叢の爲めに爵(六)を敺る者は鸇(七)なり、湯武の爲めに民を敺(四)る者は桀と紂となり。今天下の君、仁を好む者あらば、則ち諸侯皆之れが爲めに敺らん。王たるなきを欲すと雖も、得べからざるのみ。今の王たらんと欲する者は、猶ほ七年(八)の病に三年(九)の艾を求むるがごとし。苟も畜へざるをなさば、終身得ず。苟も仁に志さずんば、終身憂辱して以て死亡に陷らん(一〇)。詩に云ふ、其れ何ぞ能く淑(一一)からん。載(一二)ち胥及(一三)に溺ると。此れ之れの謂ひなり。

(一) 人民の欲する所のものを聚めて與ふ　(二) 曠野　(三) 淵に魚あるやうに淵のために魚を驅る者は獺です、即ち淵にあらすんば魚は獺に害せらる　(四) 驅と同じ其の樂しむ所に行かしむる意　(五) かはうそ　(六) 雀と通ず　(七) 鷹の類なり　(八) 長煩ひなり　(九) 三年も乾かしたる艾なり、艾を、灸に用ゐるは、ふるきもの程きゝめありとい

其菑。樂其所以亡者。不仁而可與言。則何亡國敗家之有。有孺子歌曰。滄浪之水淸兮。可以濯我纓。滄浪之水濁兮。可以濯我足。孔子曰。小子聽之。淸斯濯纓。濁斯濯足矣。自取之也。夫人必自侮。然後人侮之。家必自毀。而後人毀之。國必自伐。而後人伐之。太甲曰。天作孼猶可違。自作孼不可活。此之謂也。

亡し家を敗る之れ有らん。孺子あり、歌うて曰く、滄浪の水、清まば、以て我が纓を濯ふべし、滄浪の水、濁らば、以て我が足を濯ふ可しと。孔子曰く、小子之れを聴け、清まば斯に纓を濯ひ、濁らば斯に足を濯ふ、自ら之れを取るなり。夫れ人必ず自ら侮りて、然る後人之れを侮る。家必ず自ら毀ちて、而して後人之れを毀つ。國必ず自ら伐ちて、而る後人之れを伐つ。太甲に曰く、天の作せる孼は猶ほ違く可し、自ら作せる孼は活くべからずと。此れ之れの謂ひなり。

(一) 一所に物をいふ事は出來ぬ (二) 其の危きことを知らずして、安んじ (三) 菑は、災と同じ、其の災難の來るべきことを知らずして、利益なりと思ふなり (四) 荒淫暴虐などの如き、其の滅亡を招くべきわけあひのものを樂むなり (五) 童子なり (六) 川の名 (六) 冠の紐 (七) 弟子どもの意 (八) 纓を濯ひ足を濯ふも水の清濁によりて水自らが招けるなり (九) 自ら輕侮するなり、身について云ふ (一〇) 自ら破壞するなり、家についていふ (一一) 自ら征伐するなり、國について云ふ (一二) 書經の句なり、解は公孫丑の上篇に出づ

孟子曰。桀紂

孟子曰く、桀紂の天下を失ふや、其民を失ふなり。其民を失ふとは、其心を

若レ師ニ文王一。師ニ文王一。大國五年。小國七年。必爲ニ政於天下一矣。詩云。商之孫子。其麗不レ億。上帝既命。侯于周服。侯服ニ于周一。天命靡レ常。殷士膚敏。祼ニ將于京。孔子曰。仁不レ可レ爲レ衆也。夫國君好レ仁。天下無レ敵。今也欲レ無レ敵ニ於天下一。而不レ以レ仁。是猶ニ執レ熱而不一レ以濯一也。詩云。誰能執レ熱。逝不ニ以濯一。

云ふ、誰れか熱を執り、逝(三一)に以て濯せざらん。

(一) 小人物　(二) 大人物　(三) 使役せらる　(四) 小國、大國なり、土地をもていふ　(五) 弱國、强國なり　(六) 天眞自然の勢ひといふ　(七) 弱國となりて他國に命令すること能はず　(八) 他國からの命令を受けざれば　(九) 交際上の事を絶つなり、一說には、物は、人といはむが如しといへり　(一〇) 己れの娘を蠻夷の吳王の嫁に遣りたるなり　(一一) 滕、薛等の類をいふ　(一二) 齊、楚の國をいふ　(一三) 見習ふ　(一四) 先生　(一五) 詩經大雅文王の篇　(一六) 子孫　(一七) 數なり　(一八) 非常に多いこと　(一九) 惟れなり　(二〇) 服從するなり　(二一) 常なきなり、一定不變のものにあらぬ意　(二二) 殷の遺臣　(二三) 體格の立派、才智の鋭敏　(二四) 周の京師なり　(二五) 宗廟の祭に、鬱鬯の酒を地に灌ぎて、神おろしをすることなり　(二六) 仁には、殷の子孫の十萬の衆も、敵對せられぬなりといふ意　(二七) 大國の命令を受くることを恥づることなり、卽ち天下を自分に自由にせんと欲するなり　(二八) 熱き物を執り持つなり　(二九) 先に水にて其の手を洗へば熱のため手を害するなし、然かも之を爲さざるに似たり　(三〇) 詩經の大雅の桑柔の篇　(三一) 又「こゝに」と訓ず語辭なり

孟子曰。不仁者可ニ與言一哉。安ニ其危一而利ニ

孟子曰く、不仁者は與に(一)言ふ可けんや。其危き(二)を安しとし、其菑(三)を利とし、其の亡ぶる(四)所以の者を樂む。不仁にして與に言ふ可くんば、則ち何ぞ國を

慕レ之。一國之所レ慕。天下慕レ之。故沛然德教。溢レ乎二四海一。

孟子曰。天下有レ道。小德役ニ大德一。小賢役ニ大賢一。天下無レ道。小役レ大。弱役レ強。斯二者天也。順レ天者存。逆レ天者亡。齊景公曰。既不レ能レ令。又不レ受レ命。是絕レ物也。涕出而女レ於レ吳。今也小國師ニ大國一。而恥レ受レ命焉。是猶ニ弟子而恥レ受ニ命於先師一也。如恥レ之。莫レ

孟子曰く、天下道あれば、小德、大德に役せられ、小賢、大賢に役せられ、天下道無ければ、小大に役せられ、弱强に役せらる。斯の二者は天なり。天に順ふ者は存し、天に逆ふ者は亡ぶ。齊の景公曰く、既に令する能はず、又命を受けざれば、是れ物を絕つなりとて、涕出でて而して吳に女したり。今や、小國は大國を師として、而して命を受くるを恥づ。是れ猶ほ弟子にして命を先師に受くるを恥づるがごとし。如し之れを恥ぢば文王を師とするに若くは莫し。文王を師とすれば、大國は五年、小國は七年、必ず政を天下に爲さん。詩に云ふ、商の孫子、其の麗億のみならず。上帝既に命じ、侯れ周に于て服せしめ、侯れ周に于て服せしむ。天命は常靡し、殷士膚敏なるも、京に祼將すと。孔子曰く、仁には衆を爲すべからず。夫れ國君仁を好めば、天下に敵なし。今や天下に敵なからんと欲し、而して仁を以てせず、是れ猶ほ熱を執りて以て濯せざるがごとし。詩に

不レ親反二其仁一。治レ人不レ治反二其智一。禮レ人不レ答反二其敬一。行有二不レ得者一。皆反二求諸己一。其身正而天下歸レ之。詩云。永言配レ命。自求二多福一。

孟子曰。人有二恆言一。皆曰。天下國家。天下之本在レ國。國之本在レ家。家之本在レ身。

孟子曰。爲レ政不レ難。不レ得三罪於二巨室一。巨室之所レ慕。一國

ば其の智に反れ。人を禮して答へずんば其敬に反れ。行うて得ざる者有れば、皆諸れを己に反求す。其身正しうして而して天下之れに歸す。詩に云ふ、(二)永く言命に配し、自ら多福を求む。(三)

(一) 立ち返るなり、乃ち我が至らざる故なりと反省せよとなり　(二) 此詩公孫丑上篇に詩出づ　(三) 言は我なり、永く我は天命に適ふ樣にして自ら多福を求むる人

孟子曰く、人恆言(一)あり、皆曰く、天下國家と。天下の本は國に在り、國の本は家に在り、家の本は身に在り。

(一) 常語、日常談ずる語

孟子曰く、政を爲すこと難からず。罪を巨室(一)に得ざれ。巨室の慕ふ所は、一國之を慕ひ、一國の慕ふ所は、天下之を慕ふ。故に沛然(二)として德教四海に溢る。

(一) 世臣大家なり、乃ち魯の三桓、晉の六卿、齊の諸田の如き權門家・譜代の家老　(二) 大なる貌

不レ甚則身危國削。名レ之曰二幽厲一。雖二孝子慈孫一、百世不レ能レ改也。詩云。殷鑒不レ遠。在二夏后之世一。此之謂也。

孟子曰。三代之得二天下一也以レ仁。其失二天下一也以二不仁一。國之所二以廢興存亡一者亦然。天下不レ仁。不レ保二四海一。諸侯不仁。不レ保二社稷一。卿大夫不仁。不レ保二宗廟一。士庶人不仁。不レ保二四體一。今惡二死亡一而樂二不仁一。是由二惡レ醉而強一レ酒。

孟子曰く、三代(一)の天下を得るや仁を以てす。其の天下を失ふや不仁を以てす。國(二)の廢興存亡する所以の者も亦然り。天子不仁なれば、四海(三)を保たず。諸侯不仁なれば、社稷(五)を保たず。卿大夫不仁なれば、宗廟を保たず。士庶人(四)不仁なれば、四體(六)を保たず。今死亡を惡んで、而して不仁を樂むは、是れ由ほ醉へるを惡んで酒(七)を強ふるがごとし。

(一) 夏殷周三代の初め帝の天下を得たるは　(二) 諸侯の國なり　(三) 天下なり、土地をもていふ　(四) 安んずる能はず　(五) 社稷は、國に就きていひ、宗廟は家に就きていふ、共に祭祀をいひて國の意とす　(六) 両手両足なり、身を以ていふ　(七) 酒を無理に飲まするなり

孟子曰。愛レ人

孟子曰く、人を愛して親まずんば、其の仁に反れ(一)。人を治めて治まらずん

先王之道一者。猶ニ杳杳一也。故曰。責ニ難於レ君。謂ニ之恭一。陳レ善閉レ邪。謂ニ之敬一。吾君不レ能。謂ニ之賊一。

孟子曰。規矩方員之至也。聖人人倫之至也。欲レ爲レ君盡ニ君道一。欲レ爲レ臣盡ニ臣道一。二者皆法ニ堯舜一而已矣。不下以ニ舜之所ニ以事一レ堯事上レ君。不レ敬ニ其君一者也。不下以ニ堯之所ニ以治一レ民治上レ民。賊ニ其民一者也。孔子曰。道二。仁與ニ不仁一而已矣。暴ニ其民一甚。則身弑國亡。

孟子曰く、規矩(一)は方員(二)の至(三)なり。聖人は人倫(四)の至なり。君たらんと欲せば君の道を盡し、臣たらんと欲せば臣の道を盡す。二者皆堯舜に法るのみ。舜の堯に事ふる所以を以て君に事へざるは、其君を敬せざる者なり。堯の民を治むる所以を以て民を治めざるは、其民を賊する者なり。孔子曰く、道二つ、仁と不仁とのみ。其民を暴する甚しければ、則ち身弑せられ國亡ぶ。甚しからざれば則ち身危く國削らる。之れを名づけて幽厲(五)と曰ふ。孝子慈孫と雖も、百世改むる能はざるなり。詩(六)に云ふ、殷鑑遠からず(七)、夏后の世に在りと。此れ之れの謂ひなり。

(一) ぶんまはし、さしがね (二) 四角形、圓形 (三) 至極なり (四) 人倫の道を行ふに至極の手本なり (五) 幽は、暗なり、厲は、虐なり、皆惡しき謚なり、こは、周の厲王と幽王との外、魯の幽公、晉、陳、鄭の厲公の如き、不德の君を兼ねたるなり (六) 詩經大雅蕩の篇なり (七) 殷の紂王の無道にして、身をも國をも失ひし鑒戒は、遠き昔にあらずして、近き夏の桀王の世に在り

人之政。而仁覆天下矣。故曰。爲高必因丘陵。爲下必因川澤。爲政不因先王之道。可謂智乎。是以惟仁者。宜在高位。不仁而在高位。是播其惡於衆也。上無道揆也。下無法守也。朝不信道。工不信度。君子犯義。小人犯刑。國之所存者幸也。故曰。城郭不完。兵甲不多。非國之災也。田野不辟。貨財不聚。非國之害也。上無禮下無學賊民興。喪無日矣。詩云。天之方蹶。無然泄泄。泄泄猶沓沓也。事君無義。進退無禮。言則非

(一)昔の黄帝時代の明目の人　(二)目のよく見ゆること　(三)魯の上手なる細工人也、魯の昭公の子ならんかといふ　(四)細工の上手なるなり　(五)ぶんまはし、曲尺なり　(六)四角、員は、圓きなり　(七)晉の平公の時の音律に委しき樂人なり　(八)耳のよく聞こゆるなり　(九)六律陰陽なり、太族、姑洗、蕤賓、夷則、無射、黄鐘をいふ　(一〇)宮、商、角、徵、羽の五つの音聲なり、宮は、最も濁れる音、羽は、最も清める音にして、商、角、徵は、其の中間の音　(一一)堯舜の聖と同じ　(一二)仁心ありとの評判なり　(一三)恩澤なり　(一四)後世の人君の手本　(一五)其心の善なるも先王の道によらぬ善　(一六)詩經大雅假樂の篇　(一七)過まらぬなり　(一八)先王の定めたる舊來の典章に循ひ依るなり　(一九)水盛りと、墨繩となり　(二〇)用法際限なし　(二一)君たる者の、道理をもて、物事々度り定むること　(二二)臣たる者の、法度をもて、其の身を守ること　(二三)朝廷中の人々の、道理を信仰せざるなり　(二四)諸職人の、規矩準繩の如き測度の具を信用せざるなり、樂人として六律を信用せざることをも兼ぬ　(二五)位ある人を指す　(二六)位なき人を指す　(二七)僥倖なり　(二八)開墾するなり　(二九)詩經の大雅板の篇　(三〇)天は、王者をいふ、天歩艱難といはむが如し、國家の困難なるなり、一説には天の周室を顛覆せむと欲するなりと　(三一)むだ口をきくさまなり　(三二)笑ひさざめくさま　(三三)誹るなり　(三四)行ひ難き事を君に責め望みて、行はしめて、君を堯舜たらしめむとするなり　(三五)善道を開陳して、君の邪念を閉塞するなり

世者。不行先王之道也。故曰。徒善不足以爲政。徒法不能以自行。詩云。不愆不忘。率由舊章。遵先王之法。而過者未之有也。聖人既竭目力焉。繼之以規矩準繩。以爲方員平直。不可勝用也。既竭耳力焉。繼之以六律。正五音。不可勝用也。既竭心思焉。繼之以不忍

てし、五音を正す。用ふるに勝ふべからざるなり。既に心思を竭し、之に繼ぐに人に忍びざるの政を以てす。而して仁天下を覆ふ。故に曰く、高を爲さば必ず丘陵に因る。下を爲さば必ず川澤に因る。政を爲して先王の道に因らざれば、智と謂ふ可けんや。是を以て惟仁者は、宜しく高位に在るべし。不仁にして高位に在るは、是れ其惡を衆に播するなり。上道揆なきなり、[二一]下法守なきなり。[二二]朝は道を信ぜず、[二三]工は度を信ぜず、[二四]君子義を犯し、小人刑を犯し、國の存する所の者は幸なり。[二七]故に曰く、城郭完からず、[二五]兵甲多からざるは、[二六]國の災に非ざるなり。田野辟けず、貨財聚らざるは、國の害に非ざるなり。上禮なく下學なければ、賊民興り、[二八]喪ぶる日なけん。[二九]詩に云ふ、天の方に蹶く、[三〇]然く泄泄する無かれと。[三一]泄泄は猶ほ沓沓のごときなり。[三二]君に事へて義なく、進退禮なく、言へば則ち先王の道を非る者は、[三三]猶ほ沓沓のごときなり。故に曰く、難きを君に責むる、[三四]之れを恭と謂ふ。[三五]善を陳べ邪を閉づる、之れを敬と謂ふ。吾君能はずと、之れを賊と謂ふ。

孟子曰。離婁之明。公輸子之巧。不以規矩。不能成方員。師曠之聰。不以六律。不能正五音。堯舜之道。不以仁政。不能平治天下。今有仁心仁聞。而民不被其澤。不可法於後

巻之七

離婁章句上

孟子曰く、離婁の明、公輸子の巧も、規矩を以てせざれば、方員を成す能はず。師曠の聰も、六律を以てせざれば、五音を正す能はず。堯舜の道も、仁政を以てせざれば、天下を平治する能はず。今仁心仁聞ありて、而して民其の澤を被らず、後世に法とすべからざる者は、先王の道を行はざればなり。故に曰く、徒善は以て政を爲すに足らず、徒法は以て自ら行ふ能はず。詩に云ふ、愆らず忘れず、舊章に率由すと。先王の法に遵ひ而して過つ者は未だ之れ有らざるなり。聖人既に目力を竭し、之れに繼ぐに規矩準縄を以てす。以て方員平直を爲る。用ふるに勝ふべからざるなり。既に耳力を竭し、之れに繼ぐに六律を以

不義之室。而不ㇾ居也。辟ㇾ兄離ㇾ母。處二於於陵一。他日歸則有下饋二其兄生鵝一者上。己頻顣曰。惡用二是鶃鶃者一爲哉。他日其母殺二是鵝一也。與ㇾ之食ㇾ之。其兄自ㇾ外至曰。是鶃鶃之肉也。出而哇ㇾ之。以ㇾ母則不ㇾ食。以ㇾ妻則食ㇾ之。以二兄之室一則弗ㇾ居。以二於陵一則居ㇾ之。是尚爲三能充二其類一也乎。若二仲子一者。蚓而後充二其操一者也。

蚓。上食二槁壤一。下飲二黃泉一。仲子所レ居之室。伯夷之所レ築與。抑亦盜跖之所レ築與。所レ食之粟。伯夷之所レ樹與。抑亦盜跖之所レ樹與。是未レ可レ知也。曰。是何傷哉。彼身織レ屨。妻辟レ纑。以易レ之也。曰。仲子齊之世家也。兄戴蓋祿萬鍾。以二兄之祿一。爲二不義之祿一。而不レ食也。以二兄之室一。爲二

其兄に生鵝を饋る者あり己頻顣(二〇)(二一)して曰く、惡ぞ是鶂鶂(二二)の者を用つて爲んやと。他日其母是の鵝を殺す。之に與へて、之れを食はしむ。其兄外より至りて曰く、是れ鶂鶂の肉なりと。出でて(二三)之れを哇く(二四)。母を以てすれば則ち食はず、妻を以てすれば則ち之れを食ふ。兄の室を以てすれば則ち居らず、於陵を以てすれば則ち之れに居る。是れ尚ほ能く其類(二五)を充つと爲すか。仲子の若き者は、蚓にして而る後に其操を充つる者なり。

(一) 齊の人 (二) 齊の人 (三) 廉潔なる士なり (四) 齊の地名なり (五) 蠶に似て、大なるものなり (六) 呑むなり (七) 第一人者、大指の意 (八) 節操なり (九) 擴充するなり (一〇) 蚯蚓であつて出來べき事、人として衣食居室を欲すべきに陳仲子の言ふ所を極端まで論ずれば蚯蚓の如くしてこそ爲し得んとの意 (一一) 乾きたる土なり (一二) 地中の水なり、地の色は、黄なるが故に黄泉といふ (一三) 昔の大盜なり (一四) 室と粟との由來までをも調べずとも、何の不都合があるべきといふことなり (一五) 麻をうむなり、纑は、練りたる麻なり (一六) 代々家老なり (一七) 兄の名 (一八) 兄の領地の名 (一九) 賓家へ歸るなり (二〇) 仲子なり (二一) 眉を蹙むるなり、由來生鵝を饋るが如きは交際上の常禮にて別段咎むべきことにも非ず、然るに仲子は之を賄賂的醜行となして惡める也 (二二) 鵝鳥の鳴き聲なり (二三) 門を出づるなり (二四) 吐くなり (二五) 其の居らず食はざる類を擴充するなり

詖行一放二淫辭一。以承中三聖者上。豈好レ辯哉。予不レ得レ已也。能言距二楊墨一者。聖人之徒也。

匡章曰。陳仲子豈不二誠廉士一哉。居二於陵一三日不レ食。耳無レ聞。目無レ見也。井上有レ李。螬食レ實者過レ半矣。匍匐往將レ食レ之。三咽然後耳有レ聞。目有レ見。孟子曰。於二齊國之士一。吾必以二仲子一爲二巨擘一焉。雖レ然仲子惡能廉。充二仲子之操一。則蚓而後可者也。夫

匡章(一)曰く、陳仲子(二)は、豈に誠の廉士(三)ならずや。於陵に居る、三日食はず。耳聞くなく、目見るなきなり。井上に李あり、螬(四)の實を食ふ者半に過ぐ。匍匐(五)して往きて將に之を食はんとす。三咽(六)して、然る後耳聞くあり、目見るあり。孟子曰く、齊國の士に於て、吾必ず仲子を以て巨擘(七)と爲さん。然りと雖も仲子惡ぞ能く廉ならん。仲子の操(八)を充て(九)ば、則ち蚓(一〇)にして而る後に可なる者なり。夫れ蚓は上槁壤(一一)を食ひ、下黄泉(一二)を飲む。仲子の居る所の室は、伯夷の築く所か、抑も亦盗跖(一三)の築く所か、食ふ所の粟は、伯夷の樹うる所か、抑も亦盗跖の樹うる所か、是れ未だ知る可からざるなり。曰く、是れ何ぞ(一四)傷まんや。彼れ身は屨を織り、妻は辟纑(一五)して以て之れに易ふるなり。曰く、仲子は齊の世家(一六)なり。兄戴(一七)が蓋(一八)の祿萬鍾、兄の祿を以て不義の祿と爲して食はざるなり。兄の室を以て不義の室と爲して居らざるなり。兄を避け母を離れ、於陵に處る。他日歸れ(一九)ば、則ち

者。其惟春秋乎。罪我者。其惟春秋乎。聖王不作。諸侯放恣。處士橫議。楊朱墨翟之言盈天下。天下之言。不歸楊則歸墨。楊氏爲我。是無君也。墨子兼愛。是無父也。無父無君。是禽獸也。公明儀曰。庖有肥肉。廐有肥馬。民有飢色。野有餓莩。此率獸而食人也。楊墨之道不息。孔子之道不著。是邪說誣民。充塞仁義也。仁義充塞。則率獸食人。人將相食。吾爲此懼。閑先聖之道。距楊墨。放淫辭。邪說者不得作。作於其心。害於其事。作於其事。害於其政。聖人復起。不易吾言矣。昔者禹抑洪水。而天下平。周公兼夷狄。驅猛獸。而百姓寧。孔子成春秋。而亂臣賊子懼。詩云。戎狄是膺。荊舒是懲。則莫我敢承。無父無君。是周公所膺也。我亦欲正人心。息邪說。距

王の暴虐を助けたるを以て伐つ　二二　紂王の寵臣　二三　今の書經周書君牙の篇　二四　大に明かなるなり　二五　謨なり　二六　纘ぐなり　二七　功烈　二八　成王、康王を指す　二九　助け開くなり　三〇　皆なり　三一　正しき道なり　三二　政治の振はざるなり　三三　聖人の道の明かならざるなり　三四　又と通ず　三五　魯の隱公より、哀公まで、二百四十二年間の事を載せたる魯の記録なり　三六　褒貶の書法によりて、王法を正し、賞罰を明かにせるものなれば、春秋の仕事は天子のすべき仕事なり　三七　氣まゝ　三八　家に居て仕へざる士　三九　勝手に議論するなり　四〇　楊朱は、墨翟と同時の人なり、墨翟の事に就ては本書滕文公上を見よ　四一　何事も、我が一身の爲めにするなり利己主義なり　四二　遠近親疎の差別なく、平等に兼ね愛するなり　四三　邪魔をして、塞がりて通ぜざらしむるなり　四四　衞るなり、一說に習ふなり、　四五　拒と同じ　四六　放ち遠ざくるなり　四七　公孫丑の上篇には、生於其心害於其政發於其政害於其事とあり、彼の處にては、先づ政をいひて、後に事をいひ、此の處にては、先づ事をいひて、後に政をいふ　四八　一說には治むるなり、止むるなり　四九　兼ね并はす　五〇　滕文公上篇に既出　五一　當るなり　五二　偏頗なる行ひなり　五三　禹王と周公と孔子となり　五四　纘ぐなり

奄。三年討ニ其君一。驅ニ飛廉於海隅一而戮レ之。滅レ國者五十。驅ニ虎豹犀象一而遠レ之。天下大悅。書曰。丕顯哉文王謨。丕承哉武王烈。佑ニ啓我後人一。咸以レ正無レ缺。世衰道微。邪說暴行有作。臣弒ニ其君一者有レ之。子弒ニ其父一者有レ之。孔子懼作ニ春秋一。春秋天子之事也。是故孔子曰。知レ我

心に作れば其事に害あり、其事に作れば其政に害あり。聖人復起るも、吾が言を易へず。昔者禹洪水を抑めて(四八)天下平かに、周公夷狄を兼ね(四九)、猛獸を驅りて百姓寧し。孔子春秋を成して、而して亂臣賊子懼る。詩に(五〇)云ふ戎狄は是れ膺ち、荊舒は是れ懲す。則ち我れ敢て承くる(五一)莫しと。父なく君なきは、是れ周公の膺つ所なり。我亦人心を正し、邪說を息め(五二)、詖行を距ぎ、淫辭を放ち、以て三聖者(五三)を承(五四)がんと欲す。豈に辯を好まんや。予已むを得ざるなり。能く言ひて楊墨を距ぐ者は、聖人の徒なり。

(一) 孟子の弟子 (二) 世間の人 (三) 川々の水が逆流するなり (四) 定まりたる住處なきなり (五) 低地の者は、樹の上に鳥の巢の如きものを作りて、住むなり (六) 高臺の者は、地に穴を掘りて住むなり (七) 今書經虞書大禹謨の篇 (八) 天より大水の災を降して、余れを警戒するなり、余は、舜なり、一說には、余は、堯なりといへり (九) 川下の塞がりたるを掘り割るなり (一〇) 草の生へたる澤 (一一) 兩岸の間を流るゝなり (一二) 洪水の危險なり (一三) 上古の聖人の意 (一四) 夏の太康、孔甲、履癸、殷の乙武の如き、暴虐の君、代はり〳〵に興こるなり (一五) 人民の居宅を破壞するなり (一六) 君の魚鼈を養ふ沼池となす (一七) 安堵休息する (一八) 人民の田畑を廢棄するなり (一九) 君の花菓を植うる園、禽獸を飼ふ囿をなす (二〇) 草深き水地なり (二一) 國の名なり、其の君紂

地中一行。江淮河漢是也。險阻既遠。鳥獸之害レ人者消。然後人得二平土一而居レ之。堯舜既沒。聖人之道衰。暴君代作。壞二宮室一以爲二汙池一。民無レ所二安息一。棄レ田以爲二園囿一。使下民不上レ得二衣食一。邪說暴行又作。園囿汙池沛澤多而禽獸至。及二紂之身一。天下又大亂。周公相二武王一。誅レ紂伐レ

に悅ぶ。書(二三)に曰く、丕(二四)に顯なるかな文王の謨(二五)、丕(二六)に承けるかな武王の烈(二七)、我が後人(二八)を佑啓(二九)し、咸正(三〇)(三一)を以てし缺くるなからしむと。世(三二)衰へ道微(三三)にして、邪說暴行有作(三四)る。臣にして其君を弑する者之れ有り、子にして其父を弑する者之れ有り。孔子懼れて、春秋(三五)を作る。春秋は天子(三六)の事なり。是故に孔子曰く、我を知る者は、其れ惟春秋か。我を罪する者は、其れ惟春秋かと。聖王作らず、諸侯放恣(三七)、處士(三八)橫議(三九)し、楊朱(四〇)・墨翟の言天下に盈つ。天下の言、楊に歸せざれば則ち墨に歸す。楊氏は我が爲め(四一)にす。是れ君なきなり。墨子は兼愛(四二)す、是れ父なきなり。父なく君なきは、是れ禽獸なり。公明儀曰く、庖に肥肉有り、廐に肥馬有り、民に飢色有り、野に餓莩有り。此れ獸を率ゐて人を食ましむるなり。楊墨の道息まず、孔子の道著はれず、是れ邪說民を誣ひ、仁義を充(四三)塞すればなり。仁義充塞すれば、則ち獸を率ゐて人を食ましむ。人將に相食まんとす。吾此れが爲めに懼れ、先聖の道を閑(四四)り、楊墨を距(四五)ぎ、淫辭(四六)を放ち、邪說者作るを得ざらしむ。(四七)其

公都子曰。外人皆稱二夫子好一レ辯。敢問何也。孟子曰。予豈好レ辯哉。予不レ得レ已也。天下之生久矣。一治一亂。當二堯之時一。水逆行氾二濫於中國一。蛇龍居レ之。民無レ所レ定。下者爲レ巢。上者爲二營窟一。書曰。降水警レ余。降水者洪水也。使二禹治一レ之。禹掘レ地而注二之海一。驅二蛇龍一而放二之菹一。水由二

(一)公都子曰く、(二)外人皆夫子辯を好むと稱す。敢て問ふ何ぞや。孟子曰く、予豈に辯を好まんや。予已むを得ざるなり。天下の生は久し、一治一亂す。堯の時に當つて、(三)水逆行して中國に氾濫す。蛇龍之れに居り、(四)民定まる所なし。(五)下なる者は、巢を爲り、(六)上なる者は、營窟を爲る。(七)書に曰く、(八)降水予を警むと。降水とは洪水なり。禹をして之れを治めしむ。禹地を掘りて之れを海に注ぎ、蛇龍を驅りて之れを(一〇)菹に放つ。(一一)水地中より行く。(九)江・淮・河・漢是れなり。(一二)險阻既に遠かり、鳥獸の人を害する者消す。然して後人平土を得て之れに居る。(一三)堯舜既に沒し、聖人の道衰へ、(一四)暴君代〻作り、(一五)宮室を壞ちて以て(一六)汙池と爲す。(一七)民安息する所なし。(一八)田を棄てて以て(一九)園囿と爲し、民をして衣食を得ざらしむ。邪說暴行又作り、園囿、汙池、(二〇)沛澤多くして、而して禽獸至る。紂の身に及び、天下又大に亂る。周公、武王を相けて、紂を誅ち(二一)奄を伐つ。三年其の君を討ち、(二二)飛廉を海隅に驅りて之れを戮す。國を滅す者五十、虎豹犀象を驅りて之を遠ざけ、天下大

得レ不レ見。曾子曰。脅レ肩諂笑。病二于夏畦一。子路曰。未レ同而言。觀二其色一赧赧然。非レ由之所レ知也。由レ是觀レ之。則君子之所レ養可レ知已矣。

り知る所に非ずとは惡むこと甚だしきなり　(十七) 平生心掛くることなり

戴盈之曰。什一去二關市之征一。今茲未レ能。請輕レ之。以待二來年一然後已。何如。孟子曰。今有下人日攘二其鄰之雞一者上。或告レ之曰。是非二君子之道一。曰。請損レ之。月攘二一雞一。以待二來年一然後已。如知二其非レ義。斯速已矣。何待二來年一。

(一)戴盈之曰く、什が一にして關市の征を去るは、今茲は未だ能はず。請ふ、之れを輕くして以て來年を待ち、然る後に已めん。何如と。孟子曰く、今、人日〻に其鄰の雞を攘む者あらん。或ひと之に告げて曰く、是れ君子の道に非ずと。曰く、請ふ之れを損し月に一雞を攘み、以て來年を待ち、然る後に已めんと。如し其の義に非ざるを知らば、斯に速に已めん。何ぞ來年を待たん。

(一) 宋の大夫なり　(二) 昔し井田法行はれし當時に收穫十分の一を稅として收めしをいふ、即ち十分の一の稅を取るなり　(三) 關所にて取る旅人の貨物の稅と、市場にて取る商人の課稅とを廢すること　(四) 今年なり　(五) 止むるなり　(六) 減ず　(七) こちらへ入り來りたる所を取るなり

不㆑見㆓諸侯㆒何義。孟子曰。古者不㆑爲㆑臣不㆑見。段干木踰㆑垣而辟㆑之。泄柳閉㆑門而不㆑內。是皆已甚。迫斯可㆓以見㆒矣。陽貨欲㆑見㆓孔子㆒而惡㆑無㆑禮。大夫有㆑賜㆑於㆑士。不㆑得㆑受㆑於㆓其家㆒。則往拜㆓其門㆒。陽貨矙㆓孔子之亡㆒也。而饋㆓孔子蒸豚㆒。孔子亦矙㆓其亡㆒也。而往拜㆑之。當㆓是時㆒陽貨先。豈

えず。段干木(一)は垣を踰えて之れを辟け(二)、泄柳(三)は門を閉ぢて內れず(四)。是れ皆已甚し(五)。迫(六)ぢば斯に以て見るべし。陽貨(七)孔子を見んと欲す。而して禮(八)なきを惡む。大夫士に賜ふあり。其家(九)に受くるを得ざれば、則ち往いて其門(一〇)に拜す、陽貨孔子の亡(一一)きを矙ひ、而して孔子に蒸豚を饋くる。孔子また其亡きを矙ひ、而して往いて之れを拜す。是其に當りて陽貨先んぜり。豈に見ざるを得んや。曾子曰く、肩(一二)を脅し諂ひ笑ふは、夏畦(一三)よりも病る。子路曰く、未だ同じから(一四)ずして言ふ、其色を觀れば赧赧然(一五)たり。由(一六)の知る所に非ざるなり。是に由て之れを觀れば、則ち君子の養(一七)ふ所は知るべきのみ。

(一) 魏の文侯の時の人、段干は姓、木は名なり　(二) 避くるなり　(三) 魯の繆公の時の人、既出　(四) 納と同じ　(五) 餘りにひどい仕向けなりと　(六) 辭退し難き場合には見えるがよい　(七) 魯の季氏の家臣陽虎なり、貨は、其の字なり　(八) 漫に召しては人の己れを禮なしと思はむことを懸念するなり　(九) 己れの家に在りて自ら受くるにあらざれば　(一〇) 大夫の家の門口なり　(一一) 孔子の不在なるを覘ふなり　(一二) 肩を突き上げ、頭を低るゝなり　(一三) 夏の炎天に耕作をするよりも草臥るゝなり　(一四) まだ志の合はぬなり　(一五) 慚ぢて赤面するさま　(一六) 子路の名な

楚二大夫於此一。欲二其子之齊語一也。則使二齊人傅一レ諸。使二楚人傅一レ諸。曰。使二齊人傅一レ之。曰。一齊人傅レ之。衆楚人咻レ之。雖三日撻而求二其齊一也。不レ可レ得矣。引而置二之莊嶽之間一數年。雖三日撻而求二其楚一。亦不レ可レ得矣。子謂二薛居州善士也一。使二之居一於二王所一。在レ於二王所一者。長幼卑尊。皆薛居州也。王誰與爲二不善一。在二王所一者。長幼卑尊。皆非二薛居州一也。王誰與爲レ善。一薛居州。獨如二宋王一何。

公孫丑問曰。

めん。曰く、一の齊人之れに傅し、衆楚人之れに咻(四)しくせば、日に撻ちて其齊(五)なることを求むと雖も、得べからず。引きて之れを(六)莊嶽の間に置くこと數年ならば、日に撻ちて其楚ならんことを求むと雖も、亦得べからず。子は(七)薛居州を善士なりと謂ひ、之れをして王の所に居らしむ。王の所に在る者、長幼卑尊、皆薛居州ならば、王誰れと與に不善をなさん。王の所に在るもの、長幼卑尊、皆薛居州に非ざるならば、王誰と與に善をなさん。一の薛居州、獨り宋王を如何にせん。

(一)宋の臣なり　(二)齊の言葉を使ふやうにさせんとす　(三)師傅なり、一本には、傅に作りて、敎ふるなりといへり　(四)喧しきなり、はたからがや／＼と楚語するなり　(五)其の子の齊の言葉を使はむことを責め求むるなり　(六)齊の繁華なる市街の名　(七)宋の臣なり

公孫丑問ふ、曰く、諸侯を見ざるは何の義ぞ。孟子曰く、古は臣たらざれば見

望之。若大旱之望雨也。歸市者弗止。芸者不變。誅其君弔其民。如時雨降。民大悅。書曰。徯我后。后來其無罰。有攸不惟臣。東征綏厥士女。匪厥玄黃。紹我周王。見休。惟臣附于大邑周。其君子實玄黃于匪。以迎其君子。其小人簞食壺漿。以迎其小人。救民於水火之中。取其殘而已矣。太誓曰。我武惟揚。侵于之疆。則取于殘。殺伐用張。于湯有光。不行王政云爾。苟行王政。四海之內。皆擧首而望之。欲以爲君。齊楚雖大何畏焉。

を箱に盛りて、進物にせるなり、匪は箱なり、玄黃は黑と黃との絹地なり　(二一) 昔は殷に事へしが、今よりは引き續きて、我周王に事へて、善きことを拜見したしと、紹は、繼ぐなり、我が周王は、殷の民の武王を親みたる言葉、休は、善なり　(二二) 大邑周は、周を尊びたる言葉なり、周の家來分になることなり　(二三) 身分ある者なり　(二四) 滿つなり　(二五) 身分なき者なり　(二六) 人民を殘害せる者を誅戮する　(二七) 今の書經周書の篇の名　(二八) 我が武王の武威の高く揚がるなり　(二九) 殷の境へ攻め入るなり　(三〇) 人民を殘害するもの　(三一) 殺伐の功、大に張るなり　(三二) 湯王の桀王を征伐せしよりも、光明あるなり

孟子謂戴不勝曰。子欲子之王之善與。我明告子。有

孟子、戴不勝に謂つて曰く、子は子の王の善を欲するか、我明に子に告げん。此に楚の大夫(一)在らんに、其子の齊語(二)せんことを欲せば、則ち齊人をして諸に傅たらしめんか(三)、楚人をして諸に傅たらしめんか。曰く、齊人をして之れに傅たらし

要其有酒色黍稻者奪之。不授者殺之。有童子以黍肉餉。殺而奪之。書曰。葛伯仇餉。此之謂也。爲其殺是童子而征之。四海之內皆曰。非富天下也。爲匹夫匹婦復讎也。湯始征自葛載。十一征而無敵於天下。東面而征。西夷怨。南面而征。北狄怨。曰。奚爲後我。民之

其君を誅し、其民を弔し、時雨の降るが如し。民大に悅ぶ。書(一五)に曰く、我が后を徯つ。后來らば其れ罰なけん(一六)。惟れ臣たらざる攸あり(一七)、東征して(一八)厥士女を綏んず(一九)。厥玄黃を匪にし(二〇)、我が周王に紹して休を見る(二一)。大邑周に臣附するを惟ふ(二二)。其君子(二三)は玄黃を匪に實し(二四)、以て其君子を迎へ、其小人(二五)は簞食壺漿して、以て其小人を迎ふ。民を水火の中に救ひ、其殘を取るのみ(二六)。太誓(二七)に曰く、我が武惟れ揚り(二八)、之れが疆を侵す(二九)。則ち殘を取る(三〇)。殺伐用て張り(三一)、湯に于て光ありと。王政を行はざるのみ。苟も王政を行はば、四海の內、皆首を擧げて(三二)之を望み、以て君と爲さんと欲す。齊楚大なりと雖も、何ぞ畏れん。

(一) 孟子の弟子 (二) 湯王の都の地 (三) 葛は、國の名なり、葛伯とは、伯爵なるを以てなり (四) 放埓にして、先祖の祭りをせず (五) 贈るなり (六) 食物を送るをいふ、耕す者の辨當を送るなり (七) 酒と飯となり (八) 穀物のまだ炊がぬもの (九) 饋なり (一〇) 今の書經仲虺之誥の篇 (一一) 天下の富みを貪るにはあらじとの意 (一二) 庶民共の爲めに仇を取るなり (一三) 始むるなり (一四) 十一箇國を征伐するなり (一五) 書の逸篇なり (一六) 暴君の刑罰を免るゝならむといふことなり (一七) 紂を助けて惡なしてまだ周の臣とならぬ者あるなり (一八) 東へ向ひて、殷を征伐するなり (一九) 其の士民婦女を安んずるなり (二〇) 衣を黑にし、裳を黃にせしが故に、黑と黃との絹地

小國也。今將レ行二王政一。齊楚惡而伐レ之。則如レ之何。孟子曰。湯居レ亳。與レ葛爲レ鄰。葛伯放而不レ祀。湯使二人問一レ之曰。何爲不レ祀。曰。無三以供二犧牲一也。湯使レ遺二之牛羊一。葛伯食レ之。又不二以祀一。湯又使二人問一レ之曰。何爲不レ祀。曰。無三以供二粢盛一也。湯使二亳衆往爲レ之耕一。老弱饋レ食。葛伯率二其民一。

伐たば、則ち之を如何せん。孟子曰く、湯は亳(二)に居り、葛(三)と鄰たり。葛伯放(四)にして祀らず、湯人をして之を問はしめて曰く、何爲れぞ祀らざる。曰く、以て犧牲に供するなきなり。湯之れに牛羊を遺(五)らしむ。葛伯之を食ひ、又以て祀らず。湯又人をして之れを問はしめて曰く、何爲れぞ祀らざる。曰く、以て粢盛に供するなきなり。湯、亳の衆をして往いて之れが爲に耕さしむ。老弱食を饋(六)くる。葛伯其民を率ゐ、其の酒食(七)黍稻(八)ある者を要して之れを奪ふ。授けざる者は之れを殺す。童子あり黍肉を以て餉(九)くる。殺して之れを奪ふ。書(一〇)に曰く、葛伯餉に仇すと。此れ之れの謂ひなり。其の是童子を殺す爲にして之れを征す。四海の内皆曰く、天下(一一)を富めりとするに非ず、匹夫匹婦の爲めに讎を復するなり。湯始めて征する(一二)葛より載む(一三)。十一征して、天下に敵なし。東面して征すれば、北狄怨み、南面して征すれば、北狄(一四)怨む。曰く、奚爲ぞ我を後にすると。民の之を望むこと、大旱の雨を望むが若きなり。市に歸する者は止まらず、芸る者は變ぜず、

則農有餘粟。女有餘布。子如通之。則梓匠輪輿。皆得食於子。於此有人焉。入則孝。出則悌。守先王之道。以待後之學者。而不得食於子。子何尊梓匠輪輿。而輕為仁義者哉。曰。梓匠輪輿。其志將以求食也。君子之爲道也。其志亦將以求食與。曰。子何以其志爲哉。其有功於子。可食而食之矣。且子食志乎。食功乎。曰。食志。曰。有人於此。毀瓦畫墁。其志將以求食也。則子食之乎。曰。否。曰。然則子非食志也。食功也。

以て食を求めんとするか。曰く、子何ぞ其志を以て爲さんや。其の子に功有らば、食せしむべくして之に食せしめん。且つ子志に食せしむるか、功に食せしむるか。曰く、志に食せしむ。曰く、此に人有り。(九)瓦を毀ち、(一〇)墁に畫く、其志將に以て食を求めんとするなり。則ち子之に食せしむるか。曰く、否。曰く、然らば則ち子志に食せしむるに非ざるなり、功に食せしむるなり。

(一)孟子の弟子　(二)行列の跡に連なる供車　(三)往く先々にて馳走を受く　(四)贅澤なり　(五)功なきなり　(六)人の功を通じて、其の事を交易するなり　(七)餘りなり　(八)梓は小細工人なり、匠は大工なり、輪は車の輪を作る者なり、輿は車の箱を作る者なり　(九)屋根の瓦を葺きながら、之れを破損するなり　(一〇)新たに塗りたる壁を錐小刀にて疵を付くるなり

萬章問曰。宋

(一)萬章問うて曰く、宋は小國なり、今將に王政を行はんとす。齊楚惡んで之を

女子生而願ニ爲レ之有ヒ家。父母之心。人皆有レ之。不レ待ニ父母之命。媒妁之言一。鑽ニ穴隙一相窺。踰レ牆相從。則父母國人皆賤レ之。古之人未ニ嘗不ヒ欲レ仕也。又惡レ不レ由ニ其道一。不レ由ニ其道一而往者。與レ鑽ニ穴隙一之類也。

彭更問曰。後車數十乘。從者數百人。以傳ニ食於諸侯一。不ニ以泰一乎。孟子曰。非ニ其道一。則一簞食不レ可レ受ニ於人一。如其道則舜受ニ堯之天下一。不ニ以爲ヒ泰。子以爲レ泰乎。曰。否。士無レ事而食不可也。曰。子不レ通レ功易レ事。以レ羨補ニ不足一。

彭更(一)問うて曰く、後車數十乘、從者數百人、以て諸侯に傳食す。以だ泰(四)ならずや。孟子曰く、其道(二)に非ざれば、則ち一簞の食も人より受く(三)可からず。如し其道ならば、則ち舜堯の天下を受くるも、以て泰と爲さず。子以て泰と爲すか。曰く、否。士、事(五)なくして食むは不可なり。曰く、子(六)、功を通じ事を易へ、羨(七)れるを以て不足を補はずんば、則ち農に餘粟あり、女に餘布あらん。子如し之を通ぜば、則ち梓匠輪輿、皆食を子に得ん。此に人有り、入りては則ち孝、出でては則ち悌(八)、先王の道を守り、以て後の學者を待つ。而して食を子に得ず。子何ぞ梓匠輪輿を尊んで、而して仁義を爲す者を輕ずるや。曰く、梓匠輪輿は、其志將に以て食を求めんとするなり。君子の道を爲すや、其志亦將に

敢以祭。惟士無田。則亦不祭。牲殺器皿。衣服不備。不敢以祭。則不敢以宴。亦不足弔乎。出疆必載質何也。曰。士之仕也。猶農夫之耕也。農夫豈爲出疆。舍其耒耜哉。曰。晉國亦仕國也。未嘗聞仕如此其急。仕如此其急也。君子之難仕何也。曰。丈夫生而願爲之有室。

の心、人皆之れ有り。父母の命、媒妁(二二)の言を待たず。穴隙(二三)を鑽りて相窺ひ、牆(二四)を踰えて相從はば、則ち父母國人皆之を賤まん。古の人未だ嘗て仕を欲せずんばあらず。又其道に由らざるを惡む。其道に由らずして、往く者は、穴隙(二五)を鑽ると之れ類するなり。

(一) 魏の人なり (二) 待ち遠く思ふさま (三) 其の國境を出づるなり (四) 君に謁見する時に差し出だす進物を車に載するなり、質は贄と同じ (五) 已と通ず、太だなり (六) 禮記の祭義の篇なり (七) 諸侯には、籍田の禮とあり、春の初めに、諸侯自身に鋤を執りて、百畝の田地を耕し、人民に農業を勸む、其の助力を借りて、之れを耕し終はる禮なり、之れを耕助といふ (八) 耕助によりて、取り入れたる黍、稷、稻等の穀物を、貯へ置きて、宗廟の祭りの時の盛り物に供するなり (九) 諸侯の奥方なり (一〇) 蠶を飼ひ、繭より絲をつむぎ出すなり (一一) 宗廟の祭りに用ふる衣服なり (一二) 宗廟の祭りに供する家畜の肥えざるなり (一三) 犧牲の爲めに殺すべき家畜 (一四) 供物を盛る器物 (一五) 酒盛りなり (一六) 魏は、もと晉の國なり (一七) 士の仕ふべき國柄なり (一八) 孟子を指す (一九) 容易く仕へぬなり (二〇) 妻なり (二一) 夫なり (二二) 中介人の言葉も待たず (二三) 壁に穴を明けて、覗ひ合ふなり (二四) 垣根を乘り越えて、逢ふなり (二五) 壁に穴を明くる者と同類なり

周霄問曰。古之君子仕乎。孟子曰。仕。傳曰。孔子三月無レ君則皇皇如也。出レ疆必載レ質。公明儀曰。古之人。三月無レ君則弔。三月無レ君則弔。不二以急一乎。曰。士之失レ位也。猶三諸侯之失二國家一也。禮曰。諸侯耕助。以供二粢盛一。夫人蠶繅。以爲二衣服一。犧牲不レ成。粢盛不レ絜。衣服不レ備。不二

(一)周霄問うて曰く、古の君子仕ふるか。孟子曰く、仕ふ。傳に曰く、孔子三月君なければ、則ち(二)皇皇如たり。(三)疆を出づれば必ず(四)質を載す。公明儀曰く、古の人、三月君なければ則ち弔すと。三月君無ければ則ち弔す、(五)以だ急ならずや。曰く、士の位を失ふや、猶ほ諸侯の國家を失ふがごとし。(六)禮に曰く、諸侯は(七)耕助し、以て(八)粢盛に供し、(九)夫人は(一〇)蠶繅し、以て衣服を爲る。(一一)犧牲成らず、粢盛絜からず、衣服備はらざれば、敢て以て祭らず。(一二)惟ふに士田無ければ、則ち亦祭らず。(一三)牲殺、(一四)器皿、衣服備はらざれば、敢て以て祭らず、則ち敢て以て(一五)宴せず。亦弔するに足らざるか。疆を出づれば必ず質を載するは何ぞ。曰く、士の仕ふるや、猶ほ農夫の耕すがごとし。農夫豈に疆を出づる爲めに、其耒耜を舍てんや。曰く、(一六)晉國も亦(一七)仕國なり。未だ嘗て仕ふること此の如く其れ急なるを聞かず。仕ふること此の如く其れ急ならば、(一八)君子の(一九)仕を難ずるは何ぞ。曰く、丈夫生れては之が爲めに(二〇)室有るを願ひ、女子生れては之が爲めに(二一)家有るを願ふは父母

是焉得レ爲二大丈夫一乎。子未レ學レ禮乎。丈夫之冠也。父命レ之。女子之嫁也。母命レ之。往送二之門一。戒レ之曰。往之二女家一。必敬必戒。無レ違二夫子一。以レ順爲レ正者。妾婦之道也。居二天下之廣居一。立二天下之正位一。行二天下之大道一。得レ志與レ民由レ之。不レ得レ志。獨行二其道一。富貴不レ能レ淫。貧賤不レ能レ移。威武不レ能レ屈。此之謂二大丈夫一

ず戒め、夫子(一一)に違ふなかれと。順を以て正と爲す者は妾婦の道なり。(一二)天下の廣居に居り、(一三)天下の正位に立ち、(一四)天下の大道を行ひ、志を得れば民と之に由り、(一五)志を得ざれば獨り(一六)其道を行ふ。富貴も淫する(一七)能はず、貧賤も移す(一八)能はず、威武も屈する(一九)能はず。此を之れ大丈夫と謂ふ。

㊀ 孟子と同時代の人 ㊁ 魏の人、秦王の孫なるを以て公孫といふ、五箇國の宰相の印を佩びたる辯士なり ㊂ 魏の人、秦の爲めに、六國の合從を破る ㊃ 立派なる男子なり ㊄ 自適して政治に關係せぬこと ㊅ 天下の兵亂終息す ㊆ 元服加冠の禮を行ひて、一人前になるなり ㊇ 言ひ渡すなり ㊈ 嫁に往くなり ㊉ 汝の家なり、婦人は夫の家をもて、已れの家とするが故に、汝の家といへるなり (一一) 良人なり (一二) 天下第一の廣き居宅卽ち仁に居るなり (一三) 天下第一の正しき地位卽ち禮に立つなり (一四) 天下第一の大なる道路卽ち義を行ふなり (一五) 衆民と共に仁、禮、義に循ひ由るなり (一六) 我れのみ獨り仁、禮、義を行ふなり (一七) 其の心を蕩かすなり (一八) 其の節を變ふるなり (一九) 其の志を撓くなり

嬖奚反命曰。天下之良工也。簡子曰。我使㆑掌㆓與㆑女乘㆒。謂㆓王良㆒。良不可。曰。吾爲㆑之範㆓我馳驅㆒。終日不㆑獲㆑一。爲㆑之詭遇。一朝而獲㆑十。詩云。不㆑失㆓其馳㆒。舍㆑矢如㆑破。我不㆑貫㆘與㆓小人㆒乘㆖。請辭。御者且羞㆘與㆓射者㆒比㆖。比而得㆓禽獸㆒。雖㆑若㆓丘陵㆒。弗㆑爲也。如㆓枉㆑道而從㆒㆑彼何也。且子過矣。枉㆑己者。未㆑有㆓能直㆑人者㆒也。

死後谷底に捨てらる、の覺悟を失はず (一一) 敢ひて其の首を失ふ覺悟を失はずの意 (一二) 何とすべきか (一三) 晉の大夫、名は鞅といふ、簡は其の諡なり (一四) 名高き御者なり (一五) 氣に入りの家來の奚といふ者 (一六) 禽獸の意 (一七) 下手なり (一八) 再び嬖奚の御者をせむことを趙簡子に請へるなり (一九) 強ひて請ひたる後に趙簡子の承知せるなり、一說には、前條とともに嬖奚に關する事とす (二〇) 上手なり (二一) 嬖奚に曰ふ、汝と同乘することを良に掌らしめんと (二二) 我が馬の御し方を規則正しくすれば (二三) 御者の法を廢して、射手の了簡次第に乘り廻すことなり (二四) 詩經小雅車攻の篇 (二五) 馬の御し方を失はぬなり (二六) 矢を發ちて、物に射當つること、刄物を持ちて之れ破るが如く、容易なりと (二七) 習ふなり (二八) 何卒御免を蒙りたしとなり (二九) 阿ねること (三〇) 山の如くに多し (三一) 諸侯を指す

景春曰。公孫衍張儀。豈不㆓誠大丈夫㆒哉。一怒而諸侯懼。安居而天下熄。孟子曰。

(一)景春曰く、(二)公孫衍、(三)張儀は豈に(四)誠の大丈夫ならざらんや。一たび怒りて諸侯懼れ、(五)安居して(六)天下熄む。孟子曰く、是れ焉ぞ大丈夫たるを得んや。子未だ禮を學ばざるか。丈夫の(七)冠するや、父之を命じ、女子の嫁するや、母之を命ず(八)。(九)往くに之を門に送り、之を戒めて曰く、往いて(一〇)女の家に之き、必ず敬し、必

喪二其元一。孔子奚取焉。取下非二其招一不上往也。如下不レ待二其招一而往上何哉。且夫枉レ尺而直レ尋者。以レ利言也。如以レ利。則枉レ尋直レ尺而利亦可レ爲與。

昔者趙簡子。使下王良與二嬖奚一乘上。終日而不レ獲二一禽一。嬖奚反命曰。天下之賤工也。或以告二王良一。良曰。請復レ之。强而後可。一朝而獲二十禽一。

む。終日にして一禽(一六)を獲ず。嬖奚反命して曰く、天下の賤工(一七)なりと。或ひと以て王良に告ぐ。良曰く、請ふ之を復(一八)せん。强(一九)ひて而る後可く。一朝にして十禽を獲たり。嬖奚反命して曰く、天下の良工(二〇)なり。簡子曰く、(二一)我女と乗ることを掌らしめんと。王良に謂ふ。良可かず。曰く、吾之が爲めに(二二)我が馳驅を範すれば、終日一を獲ず。之が爲めに詭遇(二三)すれば、一朝にして十を獲。詩(二四)に云ふ、其(二五)馳を失はざれば、矢(二六)を舍ちて破るが如しと。我小人と乗るに貫はず(二七)、請ふ(二八)辭せんと。御者すら射者と比(二九)するを羞づ。比して禽獸を得る、(三〇)丘陵の若しと雖も、爲さざるなり。道を枉げて彼(三一)に從ふが如きは何ぞや。且つ子過てり。己を枉ぐる者、未だ能く人を直くする者あらざるなり。

(一) 孟子の弟子 (二) 先方より招くとも、此方より出向きて謁見せぬことあるは (三) 了簡の狭きやうなり (四) 此方より出向きて、諸侯に謁見するなり (五) 舊記なり (六) 一尺を折り曲げて、八尺を眞直にするなり、少しく屈して大に伸ぶるの意 (七) 田獵なり (八) 山澤苑囿を守る役人なり (九) 旌は二匹の龍を畫ける旗竿の先に、鳥の羽根を附けたるもの、大夫を招く時に用ふべきものなり、然るに此物を以て虞人を招けり、故に虞人至らず (一〇)

陳代曰。不レ見二諸侯一。宜レ若レ小然一。今一見レ之。大則以王。小則以霸。且志曰。枉レ尺而直レ尋。宜レ若レ可レ爲也。孟子曰。昔齊景公田。招二虞人一以旌。不レ至。將レ殺レ之。志士不レ忘レ在二溝壑一。勇士不レ忘レ

卷之六

滕文公章句下

(一)陳代曰く、(二)諸侯を見ざるは、宜に小なるが若く然るべし。(四)今一たび之を見る、大なれば則ち以て王たらしめん、(三)小なれば則ち以て覇たらしめん、且つ(五)志に曰く、(六)尺を枉げて尋を直くすと、宜に爲す可きが若くなるべし。孟子曰く、昔齊の景公(七)田す。(八)虞人を招くに旌を以てす。至らず。將に之を殺さんとす。志士は溝壑に在るを忘れず。勇士は(九)其元を喪ふを忘れず。孔子奚を取る。其招くに非ざ(一〇)れば往かざるを取るなり。(一二)其招くを待たずして往くが如きは何ぞや。(一一)且つ夫れ尺を枉げて尋を直くすとは、利を以て言ふなり。如し利を以てせば、則ち尋を枉げ尺を直くして利あらば、亦爲す可きか。昔者趙簡子、(一三)王良をして(一四)嬖奚と乘らし(一五)

孟子。孟子曰。夫夷子信以下爲人之親二其兄之子一。爲若レ親中其鄰之赤子上乎。彼有レ取爾也。赤子匍匐將レ入レ井。非二赤子之罪一也。且天之生レ物也。使二之一レ本。而夷子二レ本故也。蓋上世嘗有下不レ葬二其親一者上。其親死。則擧而委二之於壑一。他日過レ之。狐狸食レ之。蠅蚋姑嘬レ之。其顙有レ泚。睨而不レ視。夫泚也。非二爲レ人泚一。中心達二於面目一。蓋歸反二虆梩一而掩レ之。掩レ之誠是也。則孝子仁人之掩二其親一。亦必有レ道矣。徐子以告二夷子一。夷子憮然爲レ間曰。命レ之矣。

(一) 墨子の兼愛說を奉ぜる者、墨子は蓋し孔子より後、孟子より前の人なるべし (二) 人の姓名なり (三) 孟子の弟子の名 (四) 孟子に斷られたるによりて夷子來らざりし也、一說に此語までを孟子の語と見て夷子の來られぬやうにせよとの意とす (五) 直言せざれば儒者の奉ずる聖人の道の明白にならぬなり、一說には言葉を嚴くして、相正すなりといへり (六) 天下の風俗を移し易ふるなり (七) 親を手厚く葬るは墨者の賤めることなり (八) 儒は濡すなり、學問を久しくすれば水の物を濡す如く、自然に其の身を濡して德を成すの義より出づ (九) 民を安んずること、慈母の赤子を保護するが如きなり、今の書經周書康誥の篇に見ゆ (一〇) 之は夷子の自ら其の名をいへるなり (一一) 愛を施すなり (一二) 已れの子よりは、稍々疎きものなり (一三) 天下の赤子よりは稍々近きものなり、是れ差別等級ある意なり (一四) 彼の古人の言は別意ありてかくは云へるなり (一五) 腹這ふなり (一六) 一本よりして發生せしむ (一七) 發語の言葉なり (一八) 上古の世なり (一九) 持ち運ぶなり (二〇) 棄つるなり (二一) 蚋は蚊なり、秦晉にては蚋といひ、楚にては蚊といふ、姑はけらのこと、助語なりともいへり (二二) 集まりて食ふなり (二三) 額なり (二四) 汗の出づるなり (二五) 横目にて見るなり (二六) 土籠の土をうつしかくるなり (二七) 氣の拔けたるさまなり (二八) 暫く立つなり (二九) 命は敎ふるなり、敎へを受けたりといはむが如し、一說には之は夷子の自ら其の名をいひて、われ敎を受けたりとの意にていふなりと

不レ直則道不レ見。我且直レ之。吾聞夷子墨者。墨者治レ喪也。以レ薄爲二其道一也。夷子思三以易二天下一。豈以爲レ非レ是而不レ貴也。然而夷子葬二其親一厚。則是以レ所レ賤事レ親也。徐子以告二夷子一。夷子曰。儒者之道。古之人若レ保二赤子一。此言何謂也。之則以爲愛無二差等一。施由レ親始。徐子以告二

是れ賤む所を以て親に事ふるなり。徐子以て夷子に告ぐ。夷子曰く、儒者の道は、古の人赤子を保ずるが若しと。此の言何の謂ひぞや。之は則ち以爲らく、愛に差等無し、施すこと親きより始むと。徐子以て孟子に告ぐ。孟子曰く、夫の夷子は信に人の其兄の子を親むこと、其鄰の赤子を親むが若く爲すと以爲るか。彼は取る有りて爾るなり。赤子匍匐して將に井に入らんとす。赤子の罪に非ざるなり。且つ天の物を生ずる、之をして本を一にせしむ。而るに夷子は本を二つにするが故なり。蓋し上世嘗て其親を葬らざる者あり。其親死す。則ち擧げて之を壑に委てたり。他日之を過ぐれば、狐狸之れを食ひ、蠅蚋姑之を嘬ふ。其顙泚たる有り、睨して視ず。夫の泚たる、人の爲に泚たるに非ず。中心より面目に達するなり。蓋し歸り虆梩を反して之を掩ふ。之を掩ふこと誠に是ならば、則ち孝子仁人の其親を掩ふこと、亦必ず道有らんと。徐子以て夷子に告ぐ。夷子憮然として間を爲して曰く、之に命ぜり。

聞下出二於幽谷一遷二于喬木一者上。未レ聞下下二喬木一而入二於幽谷一者上。魯頌曰。戎狄是膺。荊舒是懲。周公方且膺レ之。子是學レ之。亦爲レ不二善變一矣。從二許子之道一。則市賈不レ貳。國中無レ僞。雖レ使下五尺之童適上レ市。莫二之或一レ欺。布帛之短同。則賈相若。麻縷絲絮輕重同。則賈相若。五穀多寡同。則賈相若。屨大小同。則賈相若。曰。夫物之不レ齊。物之情也。或相倍蓰。或相什伯。或相千萬。子比而同レ之。是亂二天下一也。巨屨小屨同レ賈。人豈爲レ之哉。從二許子之道一。相率而爲レ僞者也。惡能治二國家一。

絲 (六一) 一つの品物にも、精粗美惡の相違あるなり (六二) 品物の實情なり (六三) 倍は一倍なり、蓰は五倍なり (六四) 十倍し、百倍す (六五) 押し並ぶるなり (六六) 大形の草履なり

墨者夷之。因二徐辟一而求レ見二孟子一。孟子曰。吾固願見。今吾尚病。病愈。我且二往見一。夷子不レ來。他日又求レ見二孟子一。孟子曰。吾今則可二以見一矣。

墨者(一)夷之(二)、徐辟(三)に因りて、而して孟子を見るを求む。孟子曰く、吾固より見るを願ふ。今吾尚ほ病めり。病愈えば、我且に往いて見んとすと。夷子來らず(四)。他日又孟子を見るを求む。孟子曰く、吾今則ち以て見るべし。直にせざれば(五)、則ち道見れず、我且に之を直にせんとす。吾聞く、夷子は墨者なりと。墨者の喪を治むるや、薄を以て其道と爲す。夷子以て(六)天下を易へんと思ふ。豈に以て是に非ずと爲して、而して貴ばざらんや。然り而して夷子は其親を葬る厚し。則ち

貢。相嚮而哭。皆失聲。然後歸。子貢反築室於場。獨居三年。然後歸。他日子夏。子張。子游。以有若似聖人。欲以所事孔子事之。彊曾子。曾子曰。不可。江漢以濯之。秋陽以暴之。皜皜乎不可尚已。今也南蠻鴃舌之人。非先王之道。子倍子之師而學之。亦異於曾子矣。吾

困窮を救ひ惠むなり、善行に注意を加へて振ひ興して、又恩惠を加ふるなりと （一七） 舜の臣の名なり （一八） 治まるなり （一九） 孔子曰以下の句論語泰伯篇參照但し文章に小異あり （二〇） 此の道天を手本とするなり （二一） 廣く遠きさまなり （二二） 人君の道を得たることよといふことなり （二三） 高く大なるさまなり （二四） 其の政を賢人能者に任せて自身に手出しをせざるなり、一說には天子の位も舜の德を益すに足らぬなりといひ、又至尊の位を何とも思はぬなりといへり （二五） 華なり、漢土の人の自ら其の國を稱して華といふ中國の意 （二六） 夷狄なり （二七） 出生なり （二八） 楚は南方の國なるが故に北の方に來るなり （二九） 中國の學者なり （三〇） 上に出づるなり （三一） 學德の衆に超えたる士なり （三二） 陳良死して （三三） 陳良の兄弟の陳相等が許行の學に走るをいふ （三四） 三年の喪を終はりたる後になり （三五） 荷物の支度をするなり、任は行李なり （三六） 向ひ合ふなり （三七） 聲の枯るゝまで泣く （三八） 墓前の祭壇なり （三九） 孔子を指す （四〇） 無理に勸むるなり （四一） 江漢の多き水に洗ひ淸しめが如く （四二） 秋の强き日に晒し乾かすが如く、但し周の世の秋は夏の世の五六月にして、盛暑の頃なり （四三） 眞白なるさまなり （四四） 白きを加ふるなり （四五） 許行を指す、許行は楚の人、楚は古の南蠻なり、道德を傷害すること鴃の舌先の惡聲の惡むべきが如きをいふ （四六） 曾子の心に異なるなり （四七） 深き谷なり （四八） 高き木なり、詩經の小雅伐木篇に伐木丁丁、鳥鳴嚶嚶、出自幽谷、遷于喬木とあり （四九） 詩經魯頌閟宮の篇なり （五〇） 擊つなり （五一） 荊は楚の本號なり、舒は楚に近き國り （五二） 惡しく變じたるなり、即ち南狄に變ぜられたるなり （五三） 市中の貨物の直段の一定するなり （五四） 國內を通じて掛け直をいふ者なきなり （五五） 十歲位の子供なり （五六） 市中へ物を買ひに遣る （五七） 布は麻布なり、帛は絹布なり （五八） 直段の高下なし （五九） 麻と麻絲 （六〇） 絹絲と綿

治二天下一。豈無レ所レ用二其心一哉。亦不レ用レ於レ耕耳。吾聞下用レ夏變レ夷者上。未レ聞下變二於夷一者上也。陳良楚產也。悅二周公仲尼之道一。北學二於中國一。北方之學者。未レ能二或之先一也。彼所レ謂豪傑之士也。子之兄弟事レ之數十年。師死而遂倍レ之。昔者孔子沒。三年之外。門人治レ任將レ歸。入揖二於子

に之れ學ぶ。亦善く變ぜずと爲す。許子の道に從はば、則ち市の賈貳せず。國中僞りなし。五尺の童をして市に適かしむと雖も、之を欺く或る莫し。布帛長短同じければ、則ち賈相若く。麻縷絲絮輕重同じければ、則ち賈相若く。五穀多寡同じければ、則ち賈相若く。屨の大小同じければ、則ち賈相若く。曰く、夫れ物の齊しからざるは、物の情なり。或は相倍蓰し、或は相什百し、或は相千萬す。子比して之を同じうす。是れ天下を亂すなり。巨屨小屨賈を同じうせば、人豈に之を爲らんや。許子の道に從はば、相率ゐて僞をなす者なり。惡ぞ能く國家を治めん。

㊀ 人には人の道あるなり ㊁ 十分に食ひて煖かに着る ㊂ 安逸に暮らす ㊃ 舜の臣の名、殷の先祖なり ㊄ 教育を掌る役 ㊅ 父子は相親むなり ㊆ 君は禮をもて臣を使ひ、臣は忠をもて君に事ふることなり ㊇ 夫婦の間にも禮の別あり ㊈ 長者と少長とは區別あり ㊉ 朋友の交はりは信實にして詐り欺かぬなり (一一) 堯帝の號 (一二) 人民を慰勞して招き寄するなり (一三) 人民の邪曲を正し直すなり (一四) 人民の善を行ふことを輔翼するなり (一五) 自ら性の善なることを自發的に悟らしむ (一六) 其の上に又、一說に其の跡に附き從ひて其の

得禹皐陶。爲己憂。夫以百畝之不易。爲己憂者農夫也。分人以財謂之惠。教人以善。謂之忠。爲天下得人者謂之仁。是故以天下與人易。爲天下得人難。孔子曰。大哉堯之爲君。惟天爲大惟堯則之。蕩蕩乎民無能名焉。君哉舜也。巍巍乎有天下而不與焉。堯舜之

亦耕すに用ひざるのみ。吾夏(二五)を用つて夷(二六)を變ずる者を聞けり。未だ夷に變ぜらるゝ者を聞かざるなり。陳良は楚の產(二七)なり。周公・仲尼の道を悅び、北(二八)して中國に學ぶ。北方(二九)の學者、未だ之に先んずる(三〇)或る能はざるなり。彼は所謂豪傑(三二)の士なり。子の兄弟、之に事ふること數十年、師(三一)死して遂に之に倍く(三三)。昔者孔子沒し、三年(三四)の外、門人任(三五)を治めて將に歸らんとす。入りて子貢に揖し、相嚮(三六)うて哭す。皆聲(三七)を失ふ。然る後に歸る。子貢反りて室を場(三八)に築く。獨居すること三年、然る後に歸る。他日、子夏・子張・子游、有若の聖人(三九)に似たるを以て、孔子に事ふる所を以て之に事へんと欲し、曾子を強ふ(四〇)。曾子曰く、不可なり。江漢(四一)以て之を濯ひ、秋陽(四二)以て之を暴らす。皜皜(四三)乎として尙ふ(四四)べからざるのみと。今や南蠻(四五)鴃舌の人、先王の道を非とす。子子の師に倍き、而して之を學ぶ。亦曾子(四六)に異なり。吾幽谷(四七)より出でて喬木(四八)に遷る者を聞く。未だ喬木を下りて幽谷に入る者を聞かず。魯頌(四九)に曰く、戎狄(五〇)は是れ膺ち、荊舒(五一)は是れ懲す。周公方に且つ之を膺たんとす。子是

人之有レ道也。飽食煖衣。逸居而無レ敎。則近二於禽獸一。聖人有レ憂レ之。使三契爲二司徒一。敎以二人倫一。父子有レ親。君臣有レ義。夫婦有レ別。長幼有レ序。朋友有レ信。放勳曰。勞レ之。來レ之。匡レ之。直レ之。輔レ之。翼レ之。使二自得一レ之。又從而振二德之一。聖人之憂レ民如レ此。而暇レ耕乎。堯以レ不レ得レ舜爲二己憂一。舜以レ不レ

人の道有るや、飽食煖衣、逸居して教なければ、則ち禽獸に近し。聖人之を憂ふるあり。契をして司徒たらしめ、教ふるに人倫を以てす。父子親有り、君臣義有り、夫婦別有り、長幼序有り、朋友信有り。放勳曰く、之を勞し、之を來たし、之を匡し、之を直くし、之を輔け、之を翼け、之を自得せしめ、又從つて之を振德す。聖人の民を憂ふる此の如し。而るを耕すに暇あらんや。堯は舜を得ざるを以て己が憂と爲す。舜は禹・皐陶を得ざるを以て己が憂と爲す。夫れ百畝の易らざるを以て己が憂となす者は農夫なり。人に分つに財を以てする、之を惠と謂ふ。人を敎ふるに善を以てする之を忠と謂ふ。天下の爲めに人を得る者之を仁と謂ふ。是の故に天下を以て人に與ふるは易く、天下の爲めに人を得るは難し。孔子曰く、大なるかな堯の君たる。惟天を大と爲す。惟堯之に則る。蕩蕩乎として、民能く名くるなし。君なるかな舜や、巍巍乎として、天下を有つて、而して與からず。堯舜の天下を治むる、豈に其心を用ふる所無からんや。

何許子之不ㇾ憚ㇾ煩。曰。百工之事。固不ㇾ可ニ耕且爲一也。然則治ニ天下一。獨可ニ耕且爲一與。有ニ大人之事一。有ニ小人之事一。且一人之身。而百工之所ㇾ爲備。知必自爲而後用ㇾ之。是率ニ天下一而路也。故曰。或勞ㇾ心或勞ㇾ力。勞ㇾ心者治ㇾ人。勞ㇾ力者治ニ於人一。治ニ於人一者食ㇾ人。治ㇾ人者食ニ於人一。天下之通義也。當ニ堯之時一。天下猶未ㇾ平。洪水橫流。氾ニ濫於天下一。艸木暢茂。禽獸繁殖。五穀不ㇾ登。禽獸偪ㇾ人。獸蹄鳥跡之道。交ニ於中國一。堯獨憂ㇾ之。舉ㇾ舜而敷治焉。舜使ニ益掌ㇾ火。益烈ニ山澤一而焚ㇾ之。禽獸逃匿。禹疏ニ九河一。瀹ニ濟漯一。而注ニ諸海一。決ニ汝漢一。排ニ淮泗一。而注ニ之江一。然後中國可ニ得而食一也。當ニ此時一也。禹八ニ年於外一。三過ニ其門一而不ㇾ入。雖ㇾ欲ㇾ耕得乎。后稷敎ニ民稼穡一。樹ニ藝五穀一。五穀熟而民人育。

營み、彼れを營み、終日道路に奔走せしめて少しの暇もなきに至る　三四　租稅を納めて上の人を養ふなり　三五　租稅を取りて下の人に養はるゝなり　三六　世の中一般に通用する道理なり　三七　洪水に遭ひて平かならぬなり、一說にはまだ民害の悉く除かれぬことなりといへり　三八　大水なり　三九　一體に流るゝなり　四〇　廣がる　四一　生ひ茂るなり　四二　多くなるなり　四三　稻黍稷麥菽なり　四四　成熟せぬなり　四五　逼り近づくなり　四六　獸の足跡、鳥の足跡のつきたる道が人々の住む中國に入り交るなり　四七　功業を布き水土を治めしむるなり　四八　舜の臣の名なり　四九　火政を掌らしむる　五〇　火を盛んにするなり　五一　幾筋もある黃河を疏通するなり、九は數多きことなり　五二　濟水と漯水とを通ずるなり　五三　汝と漢とは水の名なり、決はせきを切りて水を落すなり　五四　淮と泗との水を落すなり　五五　今の揚子江なり　五六　八年の間家の外に奔走するなり　五七　農業の事を掌る役なり、周の先祖の棄といふ人其の役に任じたり　五八　穀物を植付くると之を取り入るゝとをいふ　五九　植うるなり　六〇　人民なり

自織之與。曰。否。以粟易之。曰許子奚爲不自織。曰。害於耕。曰。許子以釜甑爨。以鐵耕乎。曰。然。自爲之與。曰。否。以粟易之。以粟易械器者。不爲厲陶冶。陶冶亦以其械器易粟者。豈爲厲農夫哉。且許子何不爲陶冶。舍皆取諸其宮中而用之。何爲紛紛然與百工交易。

を憂へ、舜を擧げて敷き治めしむ。舜益をして火を掌らしむ。益山澤を烈して之を焚き、禽獸逃れ匿る。禹九河を疏し、濟漯を瀹して、諸れを海に注ぎ、汝漢を決し、淮泗を排して、之を江に注ぐ。然る後中國得て食ふべきなり。是の時に當つて、禹外に八年、三たび其門を過ぐれども入らず。耕さんと欲すと雖も得んや。后稷民に稼穡を教へ、五穀を樹藝す。五穀熟して民人育す。

(一) 始めて人民に耕作を教へたる炎帝神農氏の道を治むる者なり (二) 許は姓、行は名なり (三) 文公の門に至るなり (四) 自分を遠方の人と稱せり (五) 居處なり (六) 新附の民 (七) 弟子なり (八) 貧者の服 (九) 捆は叩くなり、草履を編み作り (一〇) 筵を織る (一一) 生活の料に供するなり (一二) 楚の儒者なり (一三) 耜は鐵にて作りて、土を掘り返すものなり、耒は其の柄なり (一四) 陳良の儒學を棄てて、許行の唱ふる神農氏の道を學ぶ (一五) 自ら飯を炊ぐこと、饔は朝飯なり、飧は夕飯なり (一六) 人民を治むるなり (一七) 人民を苦め (一八) 麻布なり (一九) 生絹なり (二〇) 自ら褐と素とを織るか (二一) 釜は煮る器、甑は炊ぐ器なり (二二) 飯をたくなり (二三) 鐵の農具にして耜の類なり (二四) 器具を作るか (二五) 道具類なり (二六) 陶は燒物師なり、冶は鍛冶屋なり (二七) 許子の自宅の內なり (二八) 止なり、一說には上の句に屬して、陶冶をする處なりといへり (二九) 手數の多きさまなり (三〇) 諸職人なり (三一) 上に立つ人なり (三二) 下に立つ人なり (三三) 天下中の人民を引き廻はして此れを

學焉。陳相見ニ孟子ニ道ニ許行之言ヲ曰。滕君則誠賢君也。雖レ然未レ聞レ道也。賢者與レ民並耕而食。饔飧而治。今也滕有ニ倉廩府庫ヲ則是厲レ民而以自養也。安得レ賢。孟子曰。許子必種レ粟而後食乎。曰。然。許子必織レ布而後衣乎。曰。否。許子衣レ褐。許子冠乎。曰。冠。曰。奚冠。曰。冠レ素。曰。

曰く、然り。自ら之を爲すか。曰く、否、粟を以て之に易ふ。粟を以て械器に易ふる者、陶冶を厲すと爲さず、陶冶も亦其械器を以て粟に易ふる者、豈に農夫を厲すとなさんや。且つ許子は何ぞ陶冶を爲さざる。皆諸を其宮中に取りて之を用ふるを舍めて、何爲れぞ紛紛然として、百工と交易する。何ぞ許子の煩を憚からざる。曰く、百工の事は、固より耕し且つ爲す可からざるなり。然らば則ち天下を治むること、獨り耕し且つ爲す可きか。大人の事あり。小人の事あり。且つ一人の身にして、而して百工の爲す所を備へ、如し必ず自ら爲して而る後に之を用ひば、是れ天下を率ゐて路するなり。故に曰く、或は心を勞し、或は力を勞す。心を勞する者は人を治め、力を勞する者は人に治めらる。人に治めらるゝ者は人を食ひ、人を治むる者は人に食はる。天下の通義なり。堯の時に當り、天下猶ほ未だ平かならず。洪水橫流し、天下に氾濫す。艸木暢茂し、禽獸繁殖す。五穀登らず。禽獸人に偪る。獸蹄鳥迹の道、中國に交はる。堯獨り之

言ㇾ者許行。自ㇾ楚之ㇾ滕。踵ㇾ門而告二文公一曰。遠方之人。聞三君行二仁政一。願受二一廛一而爲ㇾ氓。文公與二之處一。其徒數十人。皆衣ㇾ褐。綑ㇾ屨織ㇾ席以爲ㇾ食。陳良之徒陳相。與二其弟辛一。負二耒耜一而自ㇾ宋之ㇾ滕。曰。聞三君行二聖人之政一。是亦聖人也。願爲二聖人氓一。陳相見二許行一。而大悅。盡棄二其學一而

遠方の人、君の仁政を行ふを聞く。願くは一廛を受けて氓たらんと。文公之に處を與ふ。其徒數十人、皆褐を衣、屨を捆ち席を織りて、以て食を爲す。陳良の徒陳相、其弟辛と耒耜を負うて、宋より滕に之き、曰く、君の聖人の政を行ふを聞く。是れ亦聖人なり。願くは聖人の氓たらんと。陳相許行を見て、而して大に悅び、盡く其學を棄てて學ぶ。陳相孟子を見て、許行の言を道ひて、曰く、滕君は則ち誠に賢君なり。然りと雖も、未だ道を聞かざるなり。賢者は民と並び耕して食ひ、饔飧して治む。今や滕に倉廩府庫あり。則ち是れ民を厲して以て自ら養ふなり。安ぞ賢を得ん。孟子曰く、許子は必ず粟を種ゑて而る後に食ふか。曰く、然り。許子は必ず布を織りて而る後に衣るか。曰く、否、許子は褐を衣る。許子は冠するか。曰く、冠す。曰く、奚を冠す。曰く、素を冠す。曰く、自ら之を織るか。曰く、否、粟を以て之に易ふ。曰く、許子は奚爲れぞ自ら織らざる。曰く、耕すに害あり。曰く、許子は釜甑を以て爨ぎ、鐵を以て耕すか。

其經界。經界既正。分レ田制レ祿。可二坐而定一也。夫滕。壤地褊小。將爲二君子一焉。將爲二野人一焉。無二君子一莫レ治二野人。無二野人一莫レ養二君子。請野九一而助。國中什一使二自賦。卿以下必有二圭田。圭田五十畝。餘夫二十五畝。死徙無レ出レ鄕。鄕田同レ井。出入相友。守望相助。疾病相扶持。則百姓親睦。方里而井。井九百畝。其中爲二公田。八家皆私二百畝。同養二公田。公事畢。然後敢治二私事。所三以別二野人一也。此其大略也。若三夫潤二澤之。則在二君與子一矣。

(一)國都の學問所卽ち所謂大學なり (二)父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信、之れを人倫といへり、人倫五常なり (三)詩經の大雅文王の篇 (四)新たに天の命令を受けて王となれるは、文王の時に始まれりとの意 (五)滕の臣なり (六)井田の法 (七)田地の仕切りなり (八)人民の納むる穀物も臣下の受くる食祿も不同になるなり (九)貪れる役人なり (一〇)遣り放しにす (一一)食祿を制限するなり (一二)骨折らずして出來る (一三)土地の狹きなり (一四)將は亦なり、君子は官吏なり、野人は農夫なり、官吏もあれば農夫もあり (一五)郊門以外の地なり (一六)郊門以内の地なり (一七)士までをいふ (一八)士大夫の子孫にして士大夫となること能はざる者に授くる田地なり (一九)百畝の田地を受けたる者の子弟にして、十六歳になりたる者なり (二〇)死者を葬るにも、轉居するにも一鄕内を出でぬなり (二一)一鄕の田地を耕す者は八家づつ一つの井田を共にするなり (二二)見張りし助け合ふなり (二三)互に世話をす (二四)一里四方なり (二五)公田の仕事なり (二六)私田の仕事を營む (二七)官吏と農夫との分際を差別するなり (二八)斟酌して人情風土に合ふやうにす

有下爲二神農之

(一)神農の言を爲す者(二)許行あり。楚より滕に之き、(三)門に踵りて文公に告げて、曰く、

明於上。小人親於下。有王者起。必來取法。是爲王者師也。詩云。周雖舊邦。其命惟新。文王之謂也。子力行之。亦以新子之國。使畢戰問井地。孟子曰。子之君將行仁政。選擇而使子。子必勉之。夫仁政必自經界始。經界不正。井地不鈞。穀祿不平。是故暴君汙吏。必慢

ん。畢戰をして井地を問はしむ。孟子曰く、子の君將に仁政を行はんとす。選擇して子を使しむ。子、必ず之を勉めよ。夫れ仁政は必ず經界より始まる。經界正しからざれば、井地鈞しからず。穀祿平かならず。是の故に暴君汙吏は、必ず其經界を慢にす。經界既に正しければ、田を分ち祿を制すること、坐して定むべきなり。夫れ滕は壤地褊小なれども、將た君子たり。將た野人たり。君子無ければ、野人を治むる莫し。野人無ければ、君子を養ふなし。請ふ野は九が一にして助し、國中は什が一にして自ら賦せ使めん。卿以下には、必ず圭田あり。圭田は五十畝、餘夫は二十五畝、死徙鄕を出づるなし。鄕田は井を同じうす。出入相友とし、守望相助け、疾病相扶持すれば、則ち百姓親睦す。方里にして井す。井は九百畝、其中を公田と爲す。八家皆百畝を私し、同じく公田を養ふ。公事畢り、然る後敢て私事を治む。野人を別つ所以なり。此れ其大略なり。夫の之を潤澤するが若きは、則ち君と子とに在り。

則必取盈焉。爲民父母。使民盼盼然將終歳勤動不得以養其父母。又稱貸而益之。使老穉轉乎溝壑。惡在其爲民父母也。夫世祿滕固行之矣。詩云。雨我公田。遂及我私。惟助爲有公田。由此觀之。雖周亦助也。

なり　〔一七〕借るなり、八家の力を借りて公田を耕すことなり　〔一八〕昔の賢人なり　〔一九〕數年の收穫の平均を考へて年貢の高の常數とするなり　〔二〇〕惜氣もなく米粒の落ち散りてあるなり　〔二一〕肥料を施すなり　〔二二〕常數に滿たすまで取り立つるなり　〔二三〕うらみ視ること　〔二四〕農家の元手を貸し付けて利息を取りて以て年貢の常數を增加するなり　〔二五〕老人子供なり　〔二六〕詩經の小雅大田篇の詩　〔二七〕井田の制に依る公田なり　〔二八〕井田の制に依る私田なり

設爲庠序學校以敎之。庠者養也。校者敎也。序者射也。夏曰校。殷曰序。周曰庠。學則三代共之。皆所以明人倫也。人倫

庠序、學校を設け爲し以て之を敎ふ。庠とは養なり。校とは敎なり。序とは射なり。夏に校と曰ひ、殷に序と曰ひ、周に庠と曰ふ。〔一〕學は則ち三代之を共にす。皆〔二〕人倫を明かにする所以なり。人倫上に明かに、小民下に親む。王者起る有れば、必ず來りて法を取らん。是れ王者の師と爲るなり。〔三〕詩に云ふ、周は舊邦と雖も其〔四〕命惟れ新たなりと。文王の謂ひなり。子之を力行せば、亦以て子の國を新にせ

取二於民一有レ制。陽虎曰。爲レ富不レ仁矣。爲レ仁不レ富矣。夏后氏五十而貢。殷人七十而助。周人百畝而徹。其實皆什一也。徹者徹也。助者藉也。龍子曰。治レ地莫レ善二於助一。莫レ不レ善二於貢一。貢者挍二數歲之中一以爲レ常。樂歲粒米狼戾。多取レ之而不レ爲レ虐。則寡取レ之。凶年糞二其田一而不レ足。

勤動し、以て其父母を養ふを得ざらしむ。又貸(二四)を稱して之を益し、老稚(二五)をして溝壑に轉ぜしむ。惡ぞ其民の父母たるに在らん。夫れ世祿は滕固より之を行ふ。此詩(二六)に云ふ。我が公田(二七)に雨り、遂に我が私(二八)に及べと。惟助に公田ありと爲す。此に由つて之を觀れば、周と雖も亦助するなり。

(一) 農事なり (二) 緩慢なり (三) 詩經の豳風の部の七月の篇なり (四) 于は往くなり、往きて茅を刈れといふことなり (五) 綯をなへ (六) 早くなり (七) 屋根に上れ、屋根を修繕せよとの意 (八) 色々の穀物の種を蒔くなり (九) 常の産業あるものは常の心ありの意、此の前後の文、既に梁惠王上篇に出づ (一〇) 民は課税するに一定のきまりあり (一一) 魯の季氏の家臣の陽貨なり (一二) 五十畝の田地を受けて、五畝即ち其の十分の一の收穫を上納するを貢といふ (一三) 井田地を九區に分かちて一區を七十畝とし、中央の一區を公田とし、周圍の八區を私田とし、八家各々私田に衣食して同じく公田を養ひて其の收穫を上納するを助といふ (一四) 九百畝の田地を九區に分かちて、一區を百畝とし、中央の一區を公田とし周圍の八區を私田とし、八家各々私田に衣食して、同じく公田を養ひて其の物成りを徹と唱へて上納するなり (一五) 夏の貢法は、十分の一にして、殷の助法、周の徹法は九分の一なれど精密に計算すれば、其の實際は皆十分の一に止まりたるなり (一六) 取るなりとも通ずるなりとも解せり、取るなりといへば物を取ることなり、通ずるなりといへば天下の通法のことともなり、八家の力を通じて公田を耕すことゝもなる

滕文公問レ爲レ國。孟子曰。民事不レ可レ緩也。詩云。晝爾于茅。宵爾索綯。亟其乘レ屋。其始播二百穀一。民之爲レ道也。有二恆產一者。有二恆心一。無二恆產一者。無二恆心一。苟無二恆心一。放辟邪侈。無レ不レ爲已。及レ陷二乎罪一。然後從而刑レ之。是罔レ民也。焉有二仁人在一レ位。罔レ民而可レ爲也。是故賢君必恭儉。禮レ下。

滕の文公國を爲むるを問ふ。孟子曰く、民事(一)は緩く(二)すべからざるなり。(三)詩に云ふ、晝は爾于き(四)て茅れ、宵は爾索綯(五)へよ、亟(六)かに其れ屋に乘れ(七)。其れ始めて(八)百穀を播せんと。民の道たる、(九)恆產ある者は、恆心あり。恆產無き者は、恆心無し。苟も恆心無ければ、放辟邪侈、爲さざる無きのみ。罪に陷るに及びて、然る後從ひて之を刑す。是れ民を罔するなり。焉ぞ仁人位に在る有り。民を罔するを爲すべけんや。是の故に賢君は必ず恭儉にして下を禮し、(一〇)民に取る制有り。(一一)陽虎曰く、富を爲せば仁ならず。仁を爲せば富まず。夏后氏は五十(一二)にして貢し、殷人は七十(一三)にして助す、周人(一四)は百畝にして徹す、(一五)其實は皆什が一なり。(一六)徹は徹なり。助は藉(一七)なり。龍子曰く、地を治むるは助より善きは莫し。貢より善からざるは莫し。貢は數歲(一八)の中を挍し、以て常と爲す。樂歲には粒米(二〇)狼戾す。多く之を取れども、虐(一九)と爲さず。則ち寡く之を取る。凶年には其田に糞ひ(二一)て足らざれども、則ち必ず取り(二二)盈つ。民の父母と爲り、民をして盻盻然(二三)として將に終歲

先君亦莫之行也。至於子之身而反之。不可。且志曰。喪祭從先祖。曰吾有所受之也。謂然友曰。吾他日未嘗學問。好馳馬試劍。今也父兄百官不我足也。恐其不能盡於大事。子爲我問孟子。然友復之鄒問孟子。孟子曰。然。不可以他求者也。孔子曰。君薨聽於冢宰。歠粥。面深墨。卽位而哭。百官有司莫敢不哀。先之也。上有好者。下必有甚焉者矣。君子之德風也。小人之德艸也。艸尙之風必偃。是在世子。然友反命。世子曰。然。是誠在我。五月居廬。未有命戒。百官族人。可謂曰知。及至葬。四方來觀之。顏色之戚。哭泣之哀。弔者大悅。

(一) 世子の守り役の人名 (二) 親の喪をいふ、大なる事故の意 (三) 喪の事 (四) 御尋ねは御結構な事と存じます (五) 自身にて心の丈を盡くすなり (六) 年回の祭りなり (七) 喪服なり (八) 飦は濃き粥なり、粥は薄き粥 (九) 夏、殷、周三代 (一〇) 復命なり、君に受けたる命令の返事をするなり (一一) 一家一族、及び諸役人なり (一二) 本家の國なり、魯の先祖は、周公にして滕の先祖は其の弟の叔繡なればなり (一三) 記錄なり (一四) 吾は三年間の喪に籠もるべきことを或る人より受け傳はりたりと、暗に孟子を指す、一說に先祖より行ふ禮は吾が受け傳はりたることありとの意と、自儘に改むべきものにあらずと (一五) 我に滿足せぬなり (一六) 大切なる喪の禮を行ふ事なり (一七) 衆人の異議はさもあるべしと也 (一八) 他人に頼み求むるなり (一九) 天子諸侯を指す (二〇) 上席の老臣に政事を聽かしむるなり (二一) 粥を啜るなり (二二) 面色の甚だ黑くなることなり (二三) 喪の席に就きて聲を立てゝ泣くなり (二四) 一家一族、及び諸役人に先立つなり (二五) 位ある人を指す (二六) 分限の意、下の德も同じ (二七) 位なき人 (二八) 吹き掛くるなり (二九) 伏すなり (三〇) 孟子の敎訓はさもあるべしといふことなり (三一) 諸侯は五箇月にして葬らる、其の葬らぬ間は、嗣君は倚廬に籠もるなり、倚廬とは中門の外、東牆の下に木を倚せ掛けて作りたる庵なり (三二) 命令敎戒なり (三三) 禮を心得たるなり (三四) 世子の顏色の痛ましきさまなり (三五) 弔者が心中にさもあるべしと禮の厚きを滿足に思ふ

曰。不二亦善一乎。親喪固所二自盡一也。曾子曰。生事レ之以レ禮。死葬レ之以レ禮祭レ之以レ禮。可レ謂レ孝矣。諸侯之禮吾未二之學一也。雖レ然吾嘗聞レ之矣。三年之喪。齊䟽之服。飦粥之食。自二天子一達二於庶人一。三代共レ之。然友反命。定爲二三年之喪一。父兄百官皆不レ欲。曰。吾宗國魯先君。莫二之行一。吾

す。父兄百官(一一)皆欲せずして、曰く、吾が宗國魯(一二)の先君も之を行ふ莫し。吾が先君も亦之を行ふ莫きなり。子の身に至りて之に反するは不可なり。且つ志(一三)に曰く、喪祭は先祖に從ふと。曰く、吾之を受くる所有り(一四)と。然友に謂ひて曰く、吾他日未だ嘗て學問せず、好んで馬を馳せ劒を試む。今や父兄百官、我(一五)を足れりとせざるなり。其大事(一六)を盡す能はざるを恐る。子我が爲めに孟子に問へ。然友復鄒に之き孟子に問ふ。孟子曰く、然り(一七)、以て他に(一八)求む可からざる者なり。孔子曰く、君薨(一九)ずれば、冢宰(二〇)に聽き、粥を歠り(二一)、面深墨(二二)、位に卽きて哭す。百官有司敢て哀(二三)まざる莫しと。之に先ずる(二四)なり。上、好む者有れば、下必ず焉れより甚しき者有り。君子(二五)の德(二六)は風なり。小人(二七)の德は艸なり。艸之に風を尙ふれば(二八)必ず偃す(二九)。是れ世子に在り。然友反命す。世子曰く、然り(三〇)、是れ誠に我に在り。五月廬(三一)に居り、未だ命戒(三二)有らず。百官族人、可とし謂つて知と謂ふ(三三)。葬るに至るに及び、四方來り之を觀る。顏色(三四)の戚み、哭泣の哀み、弔者(三五)大いに悅ぶ。

何畏ㇾ彼哉。顏淵曰。舜何人也。予何人也。有ㇾ爲者。亦若ㇾ是。公明儀曰。文王我師也。周公豈欺ㇾ我哉。今滕絶ㇾ長補ㇾ短。將二五十里一也。猶可三以爲二善國一。書曰。若藥不二瞑眩一。厥疾不ㇾ瘳。

す、一說に顏淵の言葉とす (七) 魯の賢者なり (八) 文王は我が師匠として法るべき人なり、周公の言葉はいかで我れを欺くことあらむ、一に文王云々の句を周公の語とし、周公云々の句を公明儀の語とす (九) 地面の長き處を絶ち切りて短き處に繼ぎ足して四角に見積るなり (一〇) 一に「以て善國と爲る可し」と訓ず (一一) 今の書經商書說命の篇 (一二) 目舞ひのすることなり (一三) 其の病氣は直るまじと。蓋し以て世子を勵まし、斯る精神にて激勵せざれば善は爲すべからずとの意にて此文を引けるなり

滕定公薨。世子謂二然友一曰。昔者孟子。嘗與ㇾ我言二於宋一。於ㇾ心終不ㇾ忘。今也不幸至二於大故一。吾欲下使三子問二於孟子一。然後行中事上。然友之ㇾ鄒。問二於孟子一。孟子

滕の定公薨す。世子(一)、然友に謂ひて曰く、昔者孟子、嘗て我と宋に言へり。心に於て終に忘れず。今や不幸にして大故(二)に至る。吾、子をして孟子に問はしめ、然る後事(三)を行はんと欲す。然友鄒に之き、孟子に問ふ。孟子曰く、(四)亦善からずや。親の喪は固より自ら盡す所なり。曾子曰く、生るには之に事ふるに禮を以てし、死するには之を葬る(五)に禮を以てし、之を祭る(六)に禮を以てす。孝と謂ふ可し。諸侯の禮は、吾未だ之を學ばざるなり。然りと雖も吾嘗て之を聞けり。三年の喪(七)、齊疏の服、飦粥(八)の食は、天子より庶人に達す。三代(九)之を共にす。然友反命(一〇)し、定めて三年の喪を爲

滕文公爲二世子一。將レ之レ楚。過レ宋而見二孟子一。孟子道二性善一。言必稱二堯舜一。世子自レ楚反。復見二孟子一。孟子曰。世子疑二吾言一乎。夫道一而已矣。成覵謂二齊景公一曰。彼丈夫也。我丈夫也。吾

卷之五

滕文公章句上

滕の文公(一)世子たり。將に(二)楚に之かんとす。宋を過ぎ、而して孟子を見る。孟子性善を道ふ。言へば必ず堯舜を稱す。世子楚より反り、復孟子を見る。孟子曰く、世子吾が言を疑ふか。(三)夫れ道は一つのみ。(四)成覵齊の景公に謂つて曰く、彼(五)も丈夫なり。我も丈夫なり。吾何ぞ彼を畏れんや。顏淵曰く、舜は何人ぞ。予何人ぞと。(六)爲す有る者は亦是の若し。(七)公明儀曰く、(八)文王は我が師なり。周公は豈に我を欺かんや。(九)今滕長を絕ち短を補はば、將に五十里ならんとす。猶ほ以(一〇)て善を爲す可き國なり。(一一)書に曰く、若し(一二)藥瞑眩せざれば、(一三)厥の疾瘳えずと。

(一)世繼ぎの太子なり　(二)楚に使して　(三)天下の道は善を行ふ一筋のみです　(四)齊の景公の勇臣なり　(五)或る勇者を指す、一說には貴人といひ、又聖賢を指すといふ　(六)事をすることある者は成覵、顏淵の如く聖賢

休。公孫丑問曰。仕而不レ受レ祿。古之道乎。曰。非也。於レ崇吾得レ見レ王。退而有二去志一。不レ欲レ變。故不レ受也。繼而有二師命一。不レ可二以請一。久二於齊一。非二我志一也。

道か。曰く、非なり。(二)崇に於て吾王に見ゆるを得たり。退いて去志あり。(三)變ずるを欲せず、故に受けざるなり。繼で(四)師命あり。以て請ふ可からず。齊に久しきは、我が志に非ざるなり。

(一)地名　(二)地名　(三)齊を去る志を變せざるなり　(四)師命は師旅の命なり、故に去らんことを請ふを得ず

孟子去レ齊。充虞路問曰。夫子若レ有二不豫色一然。前日虞聞二諸夫子一。曰。君子不レ怨レ天。不レ尤レ人。曰。彼一時。此一時也。五百年必有二王者興一。其閒必有二名レ世者一。由レ周而來。七百有餘歲矣。以二其數一則過矣。以二其時一考レ之則可矣。夫天未レ欲三平二治天下一也。如欲三平二治天下一。當二今之世一。舍レ我其誰也。吾何爲不豫哉。

孟子齊を去る。充虞(一)路に問ひて曰く、夫子不豫(二)の色有るが若く然り。前日、虞、諸を夫子に聞けり。曰く、君子は天を怨みず、人を尤めず(三)。曰く、彼(四)も一時なり、此も一時なり。(五)五百年必ず王者興る有り。其閒必ず(六)世に名ある者有り。(七)周よりこのかた、七百(八)有餘歲、其數を以てせば則ち過ぎたり。(九)其時を以てせば之を考ふるに則ち可なり。夫れ天未だ天下を平治せんと欲せざるなり。如し天下を平治せんと欲せば、今の世に當つて、我を舍てて其れ誰ぞ。(一〇)吾何爲れぞ不豫せんや。

㊀ 途中に於て　㊁ 不愉快の顏色　㊂ 咎む　㊃ 彼も一時とは、昔湯武の出でたるは王者の興るべき一個の時なり、此も一時とは今も亦王者の當に興るべき一個の時なり　㊄ 帝堯より殷の湯王までは、五百八十年なり、湯王より紂王までは、六百二十八年にして、周の文王、武王興れり　㊅ 皐陶、稷、契、伊尹の如き、一世に名望ある者　㊆ 周の文王、武王より以來なり　㊇ 又と通ず　㊈ 時勢を考へると、亂極まりて治を思ふ時なり　㊉ 今や吾が不豫するは憂國の情止むべからざればなりとの意を含む

孟子去レ齊居レ休

孟子齊を去りて休(二)に居る。公孫丑問うて曰く、仕へて祿を受けざるは、古の

而見王。是予所欲也。不遇故去。豈予所欲哉。予不得已也。予三宿而出晝。於予心猶以爲速。王庶幾改之。王如改諸。則必反予。夫出晝而王不予追也。予然後浩然有歸志。予雖然豈舍王哉。王由足用爲善。王如用予。則豈徒齊民安。天下之民擧安。王庶幾改之。予日望之。予豈若是小丈夫然哉。諫於其君而不受。則怒。悻悻然見於其面。去則窮日之力而後宿哉。尹士聞之曰。士誠小人也。

を爲すに足る。王如し予を用ひば、則ち豈に徒に齊の民安きのみならん、天下の民擧安らん。王庶幾くは之を改めよと。予日に之を望む。予豈に是の小丈夫の若く然らんや。其君を諫めて受けざれば則ち怒り、(一〇)悻悻然として其面に見れ、去れば則ち日の力を窮めて而る後に宿せんや。尹士之を聞きて曰く、(一一)士は誠に小人なり。(一二)

(一) 齊人なり (二) 殷の湯王、周の武王、何れも古への聖人なり (三) 王の湯武たるべからざるなり (四) 恩澤、食祿をいふ (五) 遲滯なり (六) 士は尹士のこと其名を自稱するなり、尹士孟子の心事を了せず畢竟王の恩澤を求むるに在りと爲す、故に其去ることの遲々たるを陋とするなり (七) 齊人にして孟子の弟子 (八) 還志なり、水の流れて歸らぬ有樣 (九) 以てなり (一〇) 怒る貌 (一一) 日出より日沒まで日一ぱい行き得る丈け行きて宿泊する義にて去るの速かなるをいふ (一二) 私は成程小人です

乎子思之側一、則不レ能レ安二子思一。泄柳申詳。無レ人二乎繆公之側一。則不レ能レ安二其身一。子爲二長者一慮而不レ及二子思一。子絶二長者一乎。長者絶レ子乎。

子子張の子なり、共に賢者なり (七) 繆公の側に己を執成す人の居合はせぬなり (八) 孟子自らを稱す (九) 吾が爲に慮るも子思に及ばず却て泄柳申詳の如く我を王に執成さんとす (一〇) 見棄つるなり

孟子去レ齊。尹士語レ人曰。不レ識下王之不上レ可三以爲二湯武一。則是不明也。識二其不可一。然且至。則是干レ澤也。千里而見レ王。不レ遇故去。三宿而後出レ晝。是何濡滯也。士則玆不レ悅。高子以告。曰。夫尹士惡知レ予哉。千里

孟子齊を去る。(一)尹士人に語りて曰く、王の以て(二)湯武たる可からざるを識らざれは、則ち是れ不明なり。(三)其不可なるを識り然して且つ至るは、則ち是れ(四)澤を干むるなり。千里にして王を見、遇はざる故に去る。三宿して而る後に晝を出づ。是れ何ぞ(五)濡滯なる。(六)士は則ち玆に悅ばずと。(七)高子以て告ぐ。曰く、夫の尹士は惡ぞ予を知らんや。千里にして王を見る、是れ予が欲する所なり。遇はざる故に去る、豈に予が欲する所ならんや。予已むを得ざるなり。予三宿して晝を出づるも、予が心に於ては猶ほ以て速なりと爲す。王庶幾くは之を改めよ。王如し諸れを改めば、則ち必ず予を反さん。夫れ晝を出で王予を追はざるや、予然る後、(八)浩然として歸志あり。予然りと雖も豈に王を舍てんや。王由ほ(九)用て善

用則亦已矣。又使二其子弟一爲レ卿。人亦孰不レ欲二富貴一。而獨於二富貴之中一有レ私二龍斷一焉。古之爲レ市者。以二其所レ有。易二其所レ無者。有司者治レ之耳。有二賤丈夫一焉。必求二龍斷一而登之。以左右望而罔二市利一。人皆以爲レ賤。故從而征レ之。征レ商自二此賤丈夫一始矣。

市場にて、品を交易するなり (一一) 市場の役人なり (一二) 心の賤しき男 (一三) 左右を見渡すなり (一四) 市場の利益を一網にするなり (一五) 税を取るなり

孟子去レ齊。宿二於晝一。有下欲二爲レ王留上レ行者。坐而言。不レ應。隱レ几而臥。客不レ悅。曰。弟子齊宿而後敢言。夫子臥而不レ聽。請勿二復敢見一矣。曰。坐。我明語レ子。昔者魯繆公。無レ人二

孟子齊を去り、晝(一)に宿す。王の爲めに行を留めんと欲する者あり。坐して言ふ。應へず。几(二)に隱りて臥す。客悅ばずして曰く、弟子(三)齊宿(四)して而る後に敢て言ふ。夫子臥して聽かず。請ふ復敢て見る勿からん。曰く、坐せよ。我明に子に語げん。昔者魯の繆公、子思(五)の側に人無くんば、則ち子思に安ずる能はず。泄柳(六)・申詳、繆公の側に人なくんば、則ち其身を安ずる能はず。子(八)長者の爲めに慮りて(九)子思(七)に及ばず。子長者を絶つか(一〇)、長者子を絶つか。

(一) 齊の西南の邑 (二) 肘突きに寄り掛かるなり (三) 客人の謙辭 (四) 前夜より物忌みをするなり (五) 子思の側に己の執なす人の居合はせぬなり、子思は孫子の孫なり、名は伋 (六) 泄柳は、魯の人なり、申詳は、孔子の弟

日王謂二時子一曰。我欲下中國而授二孟子室一。養二弟子一以二萬鍾一。使中諸大夫國人皆有上レ所二矜式一。子盍二爲レ我言上レ之。時子因二陳子一而以告二孟子一。陳子以二時子之言一告二孟子一。孟子曰。然。夫時子惡。知二其不可一也。如使二予欲レ富。辭二十萬一而受レ萬。是爲レ欲富乎。季孫曰。異哉子叔疑。使二己爲レ政。不レ

して富を欲せしめば、十萬を辭して萬を受く、是れ富を欲すと爲さんや。季孫曰く、(一四)異なるかな(一五)子叔疑。(一六)己をして政を爲さしめ、用ひざれば則ち亦已まん。(一七)又其子弟をして卿たらしむと。(一八)人亦孰れか富貴を欲せざらん。而して獨り富貴の中に於て、龍斷を私する有り。(一九)古の市を爲す、其有る所を以て、其無き所に易ふるは、有司は之を治むるのみ。(二〇)賤丈夫有り。(二一)必ず龍斷を求めて之に登り、以て左右に望んで市利を罔す。(二二)人皆以て賤と爲す。故に從うて之を征す。(二三)商を征するは此賤丈夫より始まる。(二四)(二五)

(一) 齊に致仕して國に歸るなり (二) 孟子の未だ齊に仕へざる時 (三) 朝廷にて、孟子の御側に侍座することを得る意、王の謙辭なり (四) 此の後なり (五) 齊の臣なり (六) 國の中央なり (七) 家なり (八) 萬鍾は、六萬四千斗の祿なり、一鍾は、六斛四斗なり (九) 敬ひ法るなり (一〇) 陳臻なり (一一) 時子の言は左樣かの意 (一二) 齊に留まるべからざるをり (一三) 卿となりても、十萬鍾の祿を辭退して受けざりしなり (一四) 何人なるか詳ならず、或は曰く、魯の卿の季孫氏なりと (一五) 合點のゆかぬことである (一六) 何人なるか詳ならず、一說に此句を「子叔疑ふ」と訓ず (一七) 子叔疑を指す (一八) 子叔疑の子弟なり (一九) 龍は、壟と同じ小高き岡なり、斷は、切り立ちたるなり、切り立ちたる小高き岡を獨りにて占む、此文を出曲として、利益獨占の意の熟語として用ひらる (二〇)

其將ㇾ畔而使ㇾ之與。曰。不ㇾ知也。然則聖人且有ㇾ過與。曰。周公弟也。管叔兄也。周公之過。不二亦宜一乎。且古之君子。過則改ㇾ之。今之君子過則順ㇾ之。古之君子。其過也如二日月之食一。民皆見ㇾ之。及二其更一也。民皆仰ㇾ之。今之君子。豈徒順ㇾ之。又從而爲二之辭一。

失策を辯解せん (七) 昔の君子即ち眞君子なり (八) 今の君子即ち僞君子なり (九) 其の儘に順應して非を遂ぐ (一〇) 日蝕月蝕 (一一) 改むるなり、蝕し畢はりて、復た明かになるなり (一二) 只にその過に順應して之を推し通すのみならず、色々と言ひ草を作りて之が辯解を爲すと也

孟子致ㇾ爲ㇾ臣而歸。王就見二孟子一曰。前日願見而不ㇾ可ㇾ得。得ㇾ侍二同朝一。甚喜。今又棄二寡人一而歸。不ㇾ識可二以繼ㇾ此而得一ㇾ見乎。對曰。不二敢請一耳。固所ㇾ願也。他

孟子(一)臣たるを致して歸る。王就いて孟子を見て曰く、前日(二)見るを願ひて得べからず。同朝(三)に侍するを得て甚だ喜ぶ。今又寡人を棄てて歸る。識らず以て此(四)に繼ぎて見るを得べきか。對へて曰く、敢へて請はざるのみ。固より願ふ所なり。他日王、時子(五)に謂つて曰く、我中國(六)にして孟子に室(七)を授け、弟子を養ふに萬鍾(八)を以てし、諸大夫國人皆矜式(九)する所あらしめんと欲す。子盍ぞ我が爲めに之を言はざる。時子、陳子(一〇)に因りて以て孟子に告げしむ。陳子、時子の言を以て孟子に告ぐ。孟子曰く、然り(一一)。夫の時子悪ぞ其不可(一二)なるを知らん。如し予を

以爲下與二周公一孰仁且智上。王曰。惡是何言也。曰。周公使二管叔監一レ殷。管叔以レ殷畔。知而使レ之。是不仁也。不レ知而使レ之是不智也。仁智周公未二之盡一也。而況於レ王乎。賈請見而解レ之。見二孟子一問曰。周公何人也。曰。古聖人也。曰。使二管叔監一レ殷。管叔以レ殷畔也。有レ諸。曰。然。曰。周公知二

なり。知らずして之を使むれば、是れ不智なり。仁智は周公も未だ之を盡さざるなり。而るを況や王に於てをや。賈請ひ見て之を解かん。(六)孟子に見えて問うて曰く、周公は何人ぞや。曰く、古の聖人なり。曰く、管叔をして殷を監せしむ。管叔、殷を以て畔くと、諸れ有るか。曰く、然り。曰く、周公は其の畔かんとするを知りて之を使むるか。曰く、知らざるなり。然らば則ち聖人、且つ過有るか。曰く、周公は弟なり、管叔は兄なり。周公の過、亦宜ならずや。且つ(七)古の君子は、過てば則ち之を改む。(八)今の君子は、過てば則ち之に順ふ。(九)古の君子は、其過や(一〇)日月の食の如し。民皆之を見る。(一一)其更むるに及んでや、民皆之を仰ぐ。今の君子は、(一二)豈に徒に之に順ふのみならんや。又從つて之が辭を爲す。

(一) 齊の大夫　(二) 名は、鮮といふ、武王の弟、周公の兄なり、邑を管に食めり　(三) 周公武王を輔佐して紂王の子の武庚を殷に立てゝ、管叔をして之れを監督せしむ　(四) 武王の崩じたる後に、管叔殷の地に據りて、謀叛せしかば周公之れを誅せり　(五) 周公は管叔の謀叛せむことを豫め知りながら、殷を監督せしめしとすれば　(六) 見二く

則可乎。何以異於是。齊人伐燕。或問曰。勸齊伐燕。有諸。曰。未也。沈同問。燕可伐與。吾應之曰。可。彼然而伐之也。彼如曰孰可以伐之。則將應之曰爲天吏則可以伐之。今有殺人者。或問之曰。人可殺與。則將應之曰可。彼如曰孰可以殺之。則將應之、曰爲士師則可以殺之。今以燕伐燕。何爲勸之哉。

或ひと之を問ひて曰く、人殺す可きか。則ち將に之に應へて可と曰はんとす。彼如し孰れか以て之を殺す可きと曰はば、則ち將に之に應へて士師(一〇)爲らば、則ち以て之を殺す可しと曰はんとす。今燕を以て燕を伐つ。(一一)何爲ぞ之を勸めんや。

(一) 齊の臣　(二) 王命にあらず個人として　(三) 燕王なり　(四) 燕王の宰相なり、當時燕王子噲は天子の命を以てせず理由もなきに燕國を其相子之にあたへ、子之之を受けたり、乃ち與ふべからざるを與へ受くべからざるをうくるが如きは大亂の起る所以、天誅を加へて可なりと　(五) 沈同をいふ　(六) 吾子とはおまへなり　(七) 答と同じ　(八) 天の使する所のもの即ち王者の天意を得たるものを謂ふ　(九) 罪ある人を殺すなり　(一〇) 司獄の吏　(一一) 結局燕と變りなき齊に燕を討つやうな事はすゝめはしない

燕人畔。王曰。吾甚慙於孟子。陳賈曰。王無患焉。王自

燕人畔く。王曰く、吾甚だ孟子に慙づ。(一)陳賈曰く、王患ふる無かれ。王自ら以て周公と孰れか仁且つ智なりと爲す。王曰く、惡是れ何の言ぞ。曰く、周公管(二)叔をして殷(三)を監せしむ。管叔殷を(四)以て畔く。(五)知つて之を使むれば、是れ不仁

吾何爲獨不レ然。且比ニ化者一。無レ使ニ土親レ膚。於ニ人心一獨無レ恔乎。吾聞レ之也。君子不下以ニ天下一儉中其親上。

以來の人 (一九) 親の身體の變化する頃までの義、一說に比は爲なり死者の爲めになり、死者といはずして化者といへるは、親の爲めに還化せるなり (二〇) 近づくなり (二一) 快きなり (二二) 天下の爲めになるを以て (二三) 手薄にする

沈同以ニ其私一問曰。燕可レ伐與。孟子曰。可。子噲不レ得レ與ニ人燕。子之不レ得レ受ニ燕於子噲。有レ仕ニ於此。而子悅レ之。不レ告ニ於王。而私與ニ之吾子之祿爵。夫士也。亦無ニ王命一而私受ニ之於子一

(一)沈同其私(二)を以て問うて、曰く、燕伐つべきか。孟子曰く、可なり。(三)子噲人に燕を與ふるを得ず。(四)子之燕を子噲に受くるを得ず。此に仕ふる有らん。而して(五)子之を悅び、王に告げず、而して私かに之に吾子の祿爵を與ふ。夫の士や、亦王命なくして、而して私かに之を子に受けば、則(六)ち可ならんか。何を以て是れに異ならん。齊人燕を伐つ。或ひと問ひて曰く、齊に勸めて燕を伐しむと。諸れ有るか。曰く、未し。沈同問ふ、燕伐つべきか。吾之に(七)應へて曰く、可なりと。彼然り而して之を伐つなり。彼如し孰れか以て之を伐つ可きと曰はば、則ち將に之に應へて(八)天吏爲らば則ち以て之を伐つ可しと曰はんとす。今(九)人を殺す者あらん。

於魯。反於齊。止於嬴。充虞請曰。前日不知虞之不肖。使虞敦匠。事嚴。虞不敢請。今願竊有請也。木若以美然。曰。古者棺槨無度。中古棺七寸。槨稱之。自天子達於庶人。非直爲觀美也。然後盡於人心。不得。不可以爲悅。無財。不可以爲悅。得之爲有財。古之人皆用之。

を知らず。虞をして匠を敦うせしむ。（五）事嚴なり。（六）虞敢て請はざりき。今願くは竊かに請ふ有らん。木以だ美なるが若く然り。（七）曰く、古者は棺槨度なし。（八）（九）中古は棺七寸、槨之に稱ふ。（一〇）天子より庶人に達す。（一一）直に觀の美を爲すに非ず。（一二）然して後に人心を盡す。（一三）（一四）得ざれば、以て悅を爲す可からず。（一五）財なければ、以て悅を爲す可からず。（一六）之を得て財ありと爲さば、（一七）古の人皆之を用ふ。吾何爲れぞ獨り然らざらん。（一八）且つ化する比までに、土をして膚に親しからしむるなくば、人心に於て獨り恔き無かんや。（一九）（二〇）吾之を聞く、君子は天下を以て其親に儉せずと。（二一）（二二）（二三）

（一）母を齊より魯に歸葬せしなり　（二）齊の邑　（三）孟子の弟子なり　（四）愚者といふ意、賢きことの父に似ざる義　（五）厚く棺を作るなり、一説には、下の事の字までを一句として、敦匠事とす　（六）急用の事なり、一説には、孟子の喪に居る禮の謹嚴なるなりと　（七）已と通ず、太だなり　（八）槨と同じ　（九）厚さの寸法の極まりなし　（一〇）周公の禮を制せし時を指す　（一一）棺の厚さに釣り合ふ　（一二）平民なり　（一三）但と同じ　（一四）外見の美　（一五）王制の禁ずる所用ふるを得ざるなり　（一六）七寸の木を購ふ資財なきなり、一説には、財は、材と通じて、棺槨の材なりと　（一七）禮法の上にて、之れを用ひることを得たるが上に、資財の之れを購ふに足るなり　（一八）中古

不レ得二其職一則去。有二言責一者、不レ得二其言一則去。我無二官守一。我無二言責一也。則吾進退豈不三綽綽然有二餘裕一哉。

孟子爲二卿於齊一。出弔二於滕一。王使下蓋大夫王驩爲中輔行上。王驩朝暮見。反二齊滕之路一。未三嘗與レ之言二行事一也。公孫丑曰。齊卿之位。不レ爲レ小矣。齊滕之路。不レ爲レ近矣。反レ之而未三嘗與言二行事一何也。曰。夫既或レ治レ之。予何言哉。

孟子齊に卿たり。出でて滕に弔す。王蓋(一)の大夫王驩をして輔行(二)たらしむ。王驩朝暮に見ゆ。齊滕の路を反(三)し、未だ嘗て之と行事(四)を言はざるなり。公孫丑曰く、齊卿(五)の位は、小と爲さず。齊滕の路は、近しと爲さず。之を反し、未だ嘗てともに行事を言はざるは何ぞや。曰く、夫(六)れ既に之を治むるあり。予何を言はんや。

㊀齊の邑なり　㊁副使　㊂往復するなり　㊃使者の用事なり　㊄孟子を指す、朱註には王驩を指せりと爲せども當らざるに似たり　㊅既に外に其事を治むる人則ち王驩あり、彼れは夙くに用事を辨へたりと卽ち暗に王驩の君寵を恃みて專斷なるをいへる也

孟子自レ齊葬二

孟子齊より魯(一)に葬る。齊に反り、嬴(二)に止る。充虞(三)請ひて曰く、前日虞の不肖(四)

牧與レ芻而不レ得。則反ニ諸其人一乎。抑亦立而視ニ其死一與。曰。此則距心之罪也。他日見ニ於王一曰。王之爲レ都者。臣知ニ五人一焉。知ニ其罪一者。惟孔距心。爲レ王誦レ之。王曰。此則寡人之罪也。

孟子謂ニ蚳鼃一曰。子之辭ニ靈丘一而請ニ士師一似也。爲ニ其可ニ以言一也。今既數月矣。未レ可ニ以言一與。蚳鼃諫ニ於王一而不レ用。致レ爲レ臣而去。齊人曰。所ニ以爲ニ蚳鼃一則善矣。所ニ以自爲一則吾不レ知也。公都子以告。曰。吾聞レ之也。有ニ官守一者。

孟子蚳鼃(一)に謂つて、曰く、子の靈丘(二)を辭して、而して士師(三)を請ふは、似たる(四)なり。其以て言ふ可きが爲めなり。今既に數月なり。未だ以て言ふ可からざるか。蚳鼃王を諫めて用ひられず。臣爲るを致して去る(五)。齊人(六)曰く、蚳鼃の爲にする所以は、則ち善し。自ら爲にする所以は(七)、則ち吾知らざるなり。公都子(八)を以て告ぐ。曰く、吾之を聞く。官守(九)有る者は、其職を得ざれば則ち去る。言責(一〇)ある者は、其言を得ざれば則ち去る。我は官守なし。我は言責なし。則ち吾が進退は、豈に綽綽然として餘裕あらざらんや。

(一)齊の大夫　(二)齊の邑なり　(三)獄を治する官　(四)道理あるに似たり　(五)仕へを返上するなり　(六)齊人孟子を非難して次の如くいふ　(七)自己の爲めにする所は善ならず　(八)孟子の弟子　(九)官に居り職を守るなり　(一〇)君を諫むる責任なり

孟子之ニ平陸一。謂ニ其大夫一曰。子之持戟之士。一日而三失レ伍則去レ之。否乎。曰。不レ待レ三。然則子之失レ伍也。亦多矣。凶年饑歲。子之民老羸轉ニ於溝壑一。壯者散而之ニ四方一者幾千人矣。曰。此非ニ距心之所一レ得レ爲也。曰。今有下受ニ人之牛羊一而爲レ之牧レ之者上。則必爲レ之求ニ牧與一レ芻矣。求ニ

孟子平陸(一)に之き、其大夫(二)に謂ひて曰く、子の持戟の士(三)、一日にして三たび伍を失は(四)ば、則ち之を去る(五)や否や。曰く、三を待たず。然らば則ち子の伍を失ふ(六)、亦多し。凶年饑歲、子の民は、老羸(七)は溝壑に轉じ、壯者は散じて四方に之く者幾千人なり。曰く、此れ距心(八)の爲すを得る所に非ざるなりと。曰く、今人の牛羊を受けて之が爲に之を牧する(九)者あらん。則ち必ず之が爲めに牧と芻(一〇)とを求めん。牧と芻とを求めて得ざれば、則ち諸を其人に反さん(一一)か。抑〻亦立ちて其死を視んか。曰く、此れ則ち距心の罪なりと。他日(一二)王に見えて、曰く、王の都を爲さむる(一三)者、臣五人を知れり。其罪を知る者は惟孔(一四)距心のみと。王の爲めに之を誦す(一五)。王曰く、此れ則ち寡人の罪なり。

(一) 齊の邑なり　(二) 邑を治むる官　(三) 戟を持つ士にて、守衞の士なり　(四) 伍列を外す　(五) 罷め去るなり　(六) 貴殿にも失政多しとの意　(七) 疲れたるなり　(八) 己れの一了簡にて取り計らふ譯にはゆかずと、距心とは大夫の名　(九) 牛羊を飼ふなり　(一〇) 牧場と草となり　(一一) その牛羊を所有主にかへすか、それともその儘見殺しにするかと也、以て民を治めて爲す能はずんば何ぞ其職を致さざるとの意を諷する也　(一二) 其の後なり　(一三) 支配するなり、都は大なる邑の意　(一四) 孔は大夫の姓　(一五) 己れと孔距心との問答を述ぶ

鎰。而受。前日之不受是。則今日之受非也。今日之受是。則前日之不受非也。夫子必居一於此矣。孟子曰。皆是也。當在宋也。予將有遠行。行者必以賮。辭曰。餽賮。予何爲不受。當在薛也。予有戒心。辭曰。聞戒。故爲兵餽之。予何爲不受。若於齊則未有處也。無處而餽之。是貨之也。焉有君子而可以貨取乎。

に在るに當つては、予將に遠行あらんとす。行者は必ず(八)賮を以てす。(九)辭に曰く、賮を餽ると。予何爲れぞ受けざらん。薛に在るに當りては、予(一〇)戒心あり。(一一)辭に曰く、戒を聞く、故に兵の爲に之を餽ると。予何爲れぞ受けざらん。齊に於けるが若きは、則ち(一二)未だ處する有らざるなり。處するなくして(一三)之を餽る、是れ之を貨にするなり。焉ぞ君子にして(一四)貨を以て取らる可き有らんや。

(一) 孟子の弟子、齊の人なり　(二) 先頭なり　(三) 好き金なり、其の價、常の者に兼倍するが故に、兼金といふと　(四) 百鎰　(五) 贈る也　(六) 後日に同じ、前日に對していふ　(七) 先生の御行動の内孰れか一方は道理に叶はぬ事に相成るべしとの意　(八) 餞別物なり　(九) 宋の君の口上　(一〇) 用心なり　(一一) 薛の君の口上なり　(一二) 旅行することもなく、用心することもなく、まだ何の處置する事もあらぬなり、一説に、餞別物の爲めにもあらず、兵備の補助の爲めにもあらず、まだ何の名義もなきなりと　(一三) 金にて賄賂を作りて引きしめんとす、一説には、其の金を何の名義もなきに、贈ることなりといへり　(一四) 其の身を金にて買ひ取らるゝなり、一説に、何の名義もなき金を、受け取ることあらんやと、この說に從へば「取る可き」と訓ず

富。我以吾仁。彼以其爵。我以吾義。吾何慊乎哉。夫豈不義而曾子言之。是或一道也。天下有達尊三。爵一。齒一。德一。朝廷莫如爵。鄉黨莫如齒。輔世長民莫如德。惡得有其一以慢其二哉。故將大有為之君。必有所不召之臣。欲有謀焉。則就之。其尊德樂道不如是。不足與有為也。故湯之於伊尹。學焉而後臣之。故不勞而王。桓公之於管仲。學焉而後臣之。故不勞而霸。今天下地醜德齊。莫能相尚。無他。好臣其所教。而不好臣其所受教。湯之於伊尹。桓公之於管仲。則不敢召。管仲且猶不可召。而況不為管仲者乎。

へなりしかの意、一說に前の禮記の文を指す、我れは、いかで臣下の常禮をいふべきと (二七) 物足らぬやうに思ふ (二八) 曾子はいかで義に合はぬことをいふべき、是れも、一つの道理あることなりといふこと (二九) 何方にも通じ尊きものなり (三〇) 爵位なり (三一) 年齡なり (三二) 道德なり (三三) 世を輔佐する (三四) 人民の師長となるなり (三五) 爵位を指す (三六) 年齡と道德とを指す (三七) 輕蔑す (三八) 醜は、類なり、領地の廣さの似寄りたるなり (三九) 主君の德の同等 (四〇) 過ぐるなり (四一) 管仲の爲す所を爲さざるもの

陳臻問曰。前日於齊。王餽兼金一百。而不受。於宋餽七十鎰。而受。於薛餽五十

陳臻問うて曰く、前日齊に於て、王に兼金一百を餽らる。而して受けず。宋に於て七十鎰を餽らる。而して受く。薛に於て五十鎰を餽らる。而して受く。前日の受けざる是ならば、則ち今日の受くる非なり。今日の受くる是ならば、則ち前日の受けざる非なり。夫子必ず一に此に居らん。孟子曰く、皆是なり。宋

曰ッ是何足三與言二仁義一也。云爾。則不敬莫レ大二乎是一。我非二堯舜之道一不三敢以陳二於王前一。故齊人莫レ如二我敬一レ王也。景子曰。否非二此之謂一也。禮曰。父召無レ諾。君命召不レ俟レ駕。固將レ朝也。聞二王命一而遂不レ果。宜下與二夫禮一若上レ不二相似一然。曰。豈謂レ是與。曾子曰。晉楚之富。不レ可レ及也。彼以二其

して後之を臣とす。故に勞せずして霸たり。今天下の地醜し(三八)徳齊し(三九)、能く相尙ふる(四〇)莫きは、他なし、其の敎ふる所を臣とするを好み、而して其の敎を受くる所を臣とするを好まざればなり。湯の伊尹に於ける、桓公の管仲に於ける、則ち敢て召さず。管仲すら且つ猶ほ召す可からず、而るを況や管仲を爲さざる(四一)者をや。

(一) 齊王の朝廷に出仕せんとす (二) 拙者の方より罷り出でて、面會せん心組でした (三) 風邪 (四) 若し先生の方より來朝せられむには、拙者は、病氣を推して、朝廷へ出でて、面會せむといふことなり、一説に、朝すればは明朝出仕せらればなりと (五) 折り惡しく (六) 朝廷へ至る (七) 齊の大夫 (八) 喪を弔ふなり (九) 昨日なり (一〇) 平癒す (一一) 孟子の從兄弟なり (一二) 薪を採りて、病ひに感じたるなりとも、病ひの爲めに、薪を採りに往かれぬなりともいふ、即ち病氣を謙讓したる言葉なり (一三) 待ち受け (一四) 齊の大夫、景は姓、丑は名なり (一五) 家に在りては父子外に出でて君臣は、人たる者の大なる倫理なり (一六) 恩愛なり (一七) 恭敬なり (一八) 孟子をいふ (一九) 景子の言を指す (二〇) 齊人の心の中に曰ふに齊王は與に仁義を言ふに足らずと (二一) 是の如く云ふ (二二) 禮記玉藻篇、但句に小異あり、論語に全文見ゆ (二三) 即座に行く (二四) 馬車の支度を待たぬなり (二五) 禮に反するを婉曲に云ひしなり (二六) 是の字は、孟子始めて景子の意を合點せし如く、さては、左樣の御考

趨造於朝。我不識能至否乎。使數人要於路曰。請必無歸而造於朝。不得已而之景丑氏宿焉。景子曰。內則父子。外則君臣。人之大倫也。父子主恩。君臣主敬。丑見王之敬子也。未見所以敬王也。曰惡。是何言也。齊人無以仁義與王言者。豈以仁義爲不美也。其心

我が王を敬するに如く莫きなり。景子曰く、否、此の謂に非ざるなり。禮(二二)に曰く、父召せば諾(二三)する無し。君命じて召せば、駕(二四)するを俟たずと。固より將に朝せんとするなり。王命を聞き、而して遂に果さず。宜(二五)しく夫の禮と相似ざるか若く然るべし。曰く、豈(二六)に是を謂ふか。曾子曰く、晉楚の富は、及ぶ可からざるなり。彼は其富を以てし、我は吾が仁を以てす。彼は其爵を以てし、我は吾が義を以てす。吾れ何ぞ慊(二七)せんやと。夫(二八)れ豈に不義にして而して曾子之を言はん。是れ或は一道なり。天下に達尊(二九)三有り。爵一(三〇)、齒一(三一)、徳一(三二)。朝廷は爵に如くは莫し。鄕黨は齒に如くは莫し。世(三三)を輔(三四)け民に長たるは徳に如くは莫し。惡(三五)ぞ其一を有し以て其二(三六)を慢するを得んや。故に將に大いに爲す有らんとするの君は、必ず召さざる所の臣(三七)あり。謀る有らんと欲せば、則ち之に就く。其の徳を尊び道を樂むこと是の如くならずんば、與に爲す有るに足らざるなり。故に湯の伊尹に於ける、學びて而して後之を臣とす。故に勞せずして王たり。桓公の管仲に於ける、學びて而

者也。有二寒疾一。朝
不レ可二以風一。朝
將レ視レ朝。不レ識
可レ使二寡人得一レ
見乎。對曰。不
幸而有レ疾。不レ
能レ造レ朝。明日
出弔二於東郭
氏一。公孫丑曰。
昔者辭以レ病。
今日弔。或者
不可乎。曰。昔
者疾。今日愈。
如レ之何不レ弔。
王使二人問レ疾
醫來一。孟仲子
對曰。昔者有二
王命一。有二采薪
之憂一。不レ能レ造レ
朝。今病小愈。

寡人をして見るを得しむべきか。對へて曰く、不幸(五)にして疾あり、朝(六)に造る能はずと。明日出でて、東郭氏(七)に弔す(八)。公孫丑曰く(九)、昔者辭するに病を以てし、今日弔す。或は不可ならんか。曰く、昔者疾み、今日癒ゆ(一〇)。之を如何ぞ弔せざらん。王、人をして疾を問ひ、醫をして來らしむ。孟仲子對へて曰く、昔者王命あり。采薪(一二)の憂あり、朝に造ること能はず。今病少しく(一一)愈ゆ。趨りて朝に造りぬ。我れ識らず、能く至るや否や。數人をして路に要せしむ(一三)。曰く、請ふ必ず歸る無くして、而して朝に造れと。已むを得ずして景丑氏(一四)に之き宿す。景子曰く、內は則(一五)ち父子、外は則ち君臣、人の大倫なり。父子は恩(一六)を主とし、君臣は敬(一七)を主とす。丑王の子(一八)を敬するを見る、未だ王を敬する所以を見ざるなり。曰く、惡(一九)是れ何の言ぞや。齊人仁義を以て王と言ふ者無し。豈に仁義を以て美ならずと爲さん。其心(二〇)に曰く、是れ何ぞ與に仁義を言ふに足らんやと、云爾(二一)、則ち不敬是より大なるは莫し。我れ堯舜の道に非ざれば、敢へて以て王の前に陳せず。故に齊人は

兵革非不堅利也。米粟非不多也。委而去之。是地利不如人和也。故曰。域民不以封疆之界。固國不以山谿之險。威天下不以兵革之利。得道者多助。失道者寡助。寡助之至。親戚畔之。多助之至。天下順之。以天下之所順。攻親戚之所畔。故君子有不戰戰。必勝矣。

く。助け多きの至りは、天下之れに順ふ。(二〇)天下の順ふ所を以て、親戚の畔く所を攻む。故に君子は(二一)戰はざるあり、戰へば必ず勝つ。

(一)寒暑、朝夕の如き宇宙の變の類なり、一説に、時日、方角などの吉凶をいへるなりと　(二)山河、城池の固めなり　(三)人心の和合するなり　(四)周圍の三里ばかりなる内曲輪なり　(五)周圍の七里ばかりなる外曲輪なり、一里は凡そ我が六町なれば、三里とは、其の小さきことを云ふ、一説には、三里七里は、城池の深高なりといふ　(六)取り卷くなり攻圍すること　(七)攻圍して居ればそのうちに屹度天時を得る事があらう　(八)兵は劒戟なり、革は鎧なり、革にて作るが故にいふ　(九)鎧は堅固に武器は鋭利　(一〇)兵粮なり、籾を去りたるを米といひ、籾を去らざるを粟といふ　(一一)城池、兵革、米粟を棄つるなり　(一二)人民の他國へ移住せざらしむやうに仕切りをするなり　(一三)土を盛り上げて目印とする、領分の界　(一四)山谷の險阻　(一五)おそれしむる　(一六)兵革の堅利に同じ　(一七)人心を和合せしむる仕方なり　(一八)加勢なり　(一九)叛き去るなり　(二〇)從ひ附くなり　(二一)德あり位ある人を指す、君子は戰はない事があるが然し戰へば屹度勝つ

孟子將朝王。王使人來曰。寡人如就見

孟子將に王に朝せんとす。(一)王、人をして來らしめて、曰く、(二)寡人如ち就き見んとせる者なり。(三)寒疾有り、以て風す可からず。(四)朝すれば將に朝に視んとす。識らず

卷之四

公孫丑章句下

孟子曰。天時不如地利。地利不如人和。三里之城。七里之郭。環而攻之而不勝。夫環而攻之。必有得天時者矣。然而不勝者。是天時不如地利也。城非不高也。池非不深也。

孟子曰く、(一)天の時は(二)地の利に如かざるなり。地の利は(三)人の和に如かざるなり。(四)三里の城、(五)七里の郭、(六)環りて之を攻めて、而して勝たず。夫れ環りて之を攻むれば、必ず(七)天の時を得る者あり。然り而して勝たざる者は、是れ天の時、地の利に如かざるなり。城高からざるに非ざるなり。池深からざるに非ざるなり。(八)兵革(九)堅利ならざるに非ざるなり。(一〇)米粟多からざるに非ざるなり。(一一)委して之を去るは、是れ地の利は人の和に如かざるなり。故に曰く、(一二)民を域るに(一三)封疆の界を以てせず、國を固むるに(一四)山谿の險を以てせず、天下を(一五)威すに(一六)兵革の利を以てせず、(一七)道を得る者は助け多く、道を失ふ者は助け寡し。(一八)助け寡きの至りは、(一九)親戚之に畔

之。若ㇾ將ㇾ浼焉。是故諸侯。雖ㇾ有下善二其辭命一而至者上。不ㇾ受也。不ㇾ受也者。是亦不ㇾ屑ㇾ就已。柳下惠不ㇾ羞二汚君一。不ㇾ卑二小官一。進不ㇾ隱ㇾ賢。必以二其道一。遺佚而不ㇾ怨。阨窮而不ㇾ憫。故曰。爾爲ㇾ爾。我爲ㇾ我。雖ㇾ袒裼二裸裎於二我側一。爾焉能浼ㇾ我哉。故由由然與ㇾ之偕。而不二自失一焉。援而止ㇾ之而止。援而止ㇾ之而止者，是亦不ㇾ屑ㇾ去已。孟子曰。伯夷隘。柳下惠不恭。隘與二不恭一。君子不ㇾ由也。

んやと。故に由由然(二一)として之と偕(二二)にして、而して自ら失(二三)はず。援(二四)きて而して之を止むれば止る。援きて而して之を止むれば止る者は、是れ亦去るを屑しとせざるのみ。孟子曰く、伯夷は隘(二五)、柳下惠は不恭(二六)、隘と不恭(二七)とは、君子由らざる(二八)なり。

(一) 晴れの衣冠なり　(二) 塗は、泥なり、泥も、炭も、きたなき物なり　(三) 伯夷の心　(四) 伯夷の心を孟子が推量するなり　(五) 村里の名もなき者　(六) 郷人の冠なり　(七) 慙愧の貌、面白からぬさまなり　(八) 身を汚されるやうに思ふ　(九) 其の口上を丁寧にす　(一〇) 招待を承知せぬ　(一一) 妄に仕ふることを心持ちよく思はぬなり　(一二) 魯の公族にして、大夫なり、姓は展名は獲、字は禽といふ、知行を柳下といふ邑に受く、惠は其の諡なり　(一三) 行ひの汚れたる君　(一四) 輕き役目なり　(一五) 己れの賢才を蔽ひ隱さぬなり　(一六) 人に振り棄てらるゝなり　(一七) 困窮するなり　(一八) 憂へぬなり　(一九) 肌を脱ぐなり　(二〇) 丸裸になるなり　(二一) 自得滿足せるさまなり　(二二) 一所に居るなり　(二三) 滿足せざることなきなり　(二四) 引くなり　(二五) 了簡の狹きなり　(二六) 恭敬ならぬなり　(二七) 川常でにせぬなり　(二八) 伯夷及び柳下惠の行が倶に中庸の道を得ず以て堯舜の道に反するを以てなり

至爲帝。無非取於人者。取諸人以爲善。是與人爲善者也。故君子莫大乎與人爲善。

(四)人に善あれば己れを忘れて、其の善に從ふなり、(五)人を手本とするなり (六)耕は、田地をたがやすこと、稼は、穀物の苗を植うることにて、農業を營むことなり、歴山に耕せしをいふ (七)燒き物をするなり、河濱に陶せしを云ふ (八)魚を捕るなり、山澤に漁せしを云ふ (九)人と共に

孟子曰。伯夷非其君不事。非其友不友。不立於惡人之朝。不與惡人言。立於惡人之朝。與惡人言。如以朝衣朝冠。坐於塗炭。推惡惡之心。思與鄕人立。其冠不正。望望然去

孟子曰く、伯夷は其君に非れば事へず。其友に非れば友とせず。惡人の朝に立たず、惡人と言はず。惡人の朝に立ち、惡人と言ふは、(一)朝衣朝冠を以て(二)塗炭に坐するが如し。惡を惡むの(三)心思を(四)推すに、(五)鄕人と立ち、其(六)冠正しからざれば、(七)望望然として之を去る、(八)浼されんとするが若し。是の故に諸侯(九)其辭命を善くして而して至る者ありと雖も、(一〇)受けざるなり。受けざる者は、是れ亦(一一)就くを屑しとせざるのみ。(一二)柳下惠は(一三)汚君を羞ぢず、(一四)小官を卑しとせず、進で(一五)賢を隱さず、必ず其道を以てす。(一六)遺佚して怨みず、(一七)阨窮して(一八)憫へず。故に曰く、爾は爾を爲せ、我は我を爲さん。我が側に(一九)袒裼(二〇)裸裎すと雖も、爾焉んぞ能く我を浼さ

而不仁。是不智也。不仁不智。無禮無義。人役也。人役而恥レ爲レ役。由二弓人而恥一レ爲レ弓。矢人而恥レ爲レ矢也。如恥レ之。莫レ如レ爲レ仁。仁者如レ射。射者正レ已而後發。發而不レ中。不レ怨二勝レ已者一。反二求諸己一而已矣。

ず、諸を己に反求するのみ。(一五)

(一)矢を作る人 (二)具足を作る人 (三)祈禱者なり、一說には、醫者なりと (四)葬具屋なり (五)技術なり (六)里は居るなり、仁の德に居るを何より結構なることゝす、論語里仁篇參照 (七)居處を選擇して (八)里と同じく居るなり (九)天より授けられたる尊き爵位なり (一〇)人の安心して居るべき住居なり (一一)惡事を防ぎ止めぬなり (一二)仁智禮儀なき者は人に使役せらるゝ者なり (一三)矢を放つなり (一四)的にあたらざるも (一五)的を射外したる其理由を自己に顧みて探求す

孟子曰。子路人告レ之以レ有レ過則喜。禹聞二善言一則拜。大舜有レ大レ焉。善與レ人同。舍レ己從レ人。樂下取二於人一以爲上レ善。自二耕稼陶漁一以

孟子曰く、子路は人之に告ぐるに、過あるを以てすれば則ち喜ぶ。禹(一)は善言を聞けば則ち拜す。大舜(二)は焉より大なる有り。善は人と同じくす。(三)己を舍てて人に從ふ。人に取りて以て善を爲すを樂む。耕稼陶漁より、以て帝と爲るに至るまで、人に取るに非る者無し。諸を人に取りて以て善を爲す。是れ人と善をなす者なり。故に君子は人と善を爲すより大なるは莫し。

(一)夏の禹王なり (二)舜帝なり (三)天下の善事に當りては、人と我れとの隔てなく、共同のものとするなり

ち仁義禮智を行ふこと能はぬなり　（一八）推し廣むるなり　（一九）燃と同じ　（二〇）流れ通るなり

也。羞惡之心。義之端也。辭讓之心。禮之端也。是非之心。智之端也。人之有二是四端一也。猶三其有二四體一也。有二是四端一而自謂レ不レ能者。自賊者也。謂二其君不一レ能者。賊二其君一者也。凡有二四端於我一者。知二皆擴而充一レ之矣。若二火之始然。泉之始達一。苟能充レ之。足三以保二四海一。苟不レ充レ之。不レ足三以事二父母一。

孟子曰。矢人豈不二仁於函人一哉。矢人唯恐レ不レ傷レ人。函人唯恐レ傷レ人。巫匠亦然。故術不レ可レ不レ愼也。孔子曰。里レ仁爲レ美。擇不レ處レ仁。焉得レ智。夫仁天之尊爵也。人之安宅也。莫二之禦一

孟子曰く、矢人は豈に函人より不仁ならんや、矢人は唯人を傷けざらんことを恐れ、函人は唯人を傷けんことを恐る。巫匠も亦然り。故に術は愼まざるべからざるなり。孔子曰く、仁に里るを美と爲す。擇んで仁に處らずんば、焉んぞ智を得ん。夫れ仁は、天の尊爵なり、人の安宅なり。之を禦むること莫くして、不仁なるは、是れ不智なり。不仁不智、無禮無義は、人の役なり。人の役にして役を爲すを恥づるは、弓人にして弓を爲るを恥ぢ、矢人にして矢を爲るを恥づるがごときなり。如し之を恥ぢば、仁を爲すに如くは莫し。仁者は射の如し。射る者は己を正しくして然る後に發す。發して中らずとも、己に勝つ者を怨み

人皆有不忍人之心者。今人乍見孺子將入於井。皆有怵惕惻隱之心。非所以內交於孺子之父母也。非所以要譽於鄉黨朋友也。非惡其聲而然也。由是觀之。無惻隱之心。非人也。無羞惡之心。非人也。無辭讓之心。非人也。無是非之心。非人也。惻隱之心。仁之端

隱の心なきは人に非るなり。羞惡(一一)の心なきは、人に非るなり、辭讓(一二)の心無きは、人に非るなり。是非の心なきは、人に非るなり。惻隱の心は仁の端(一三)なり、羞惡の心は義の端なり、辭讓の心は禮の端なり、是非(一四)の心は智の端なり。人の是の四端有るや、猶ほ其四體(一五)あるが如きなり。是四端ありて、而して自ら能(一六)はずと謂ふ者は自ら賊(一六)する者なり。其君能(一七)はずと謂ふ者は、其君を賊する者なり。凡そ我に四端ある者は、皆擴(一八)めて之を充たすを知る。火の始めて然(一九)え、泉の始めて達するが若し、苟も能く之を充てば、以て四海を保んずるに足り、苟も之を充(二〇)たさざれば、以て父母に事ふるに足らず。

㊀ 人に惡を加ふるに忍びざる心 ㊁ 甚だ容易なる意 ㊂ 忽ちなり、不意になり ㊃ 小兒 ㊄ 驚きおそること ㊅ 憐み痛むなり ㊆ 納と通ず、交際を結ぶなり ㊇ 名譽を求むるなり ㊈ 近村の人々の意、原義は一萬二千五百家を鄉といひ、五百家を黨といふ ㊉ 小兒を見殺しにせりと云ふ惡評判を恐れて救ふに非ず (一一) 己れの不善を恥ぢ、人の不善を憎むなり (一二) 辭退し、人に推し讓るの心 (一三) 緒口なり (一四) 善き事を是なりとし、惡しき事を非なりとする心 (一五) 兩手兩足なり (一六) そこなふこと (一七) 仁義禮智の緒口を有しなが

野矣。廛無夫里之布。則天下之民。皆悦而願爲之氓矣。信能行此五者。則鄰國之民仰之。若父母矣。率其子弟。攻其父母。自有生民以來。未有能濟者也。如此則無敵於天下。無敵於天下者。天吏也。然而不王者。未之有也。

ぬなり、一説には、店の坪數を計りて、或る程度までは其の税を取らぬなりと即ち今日の所謂免税なりと云ふ（六）市に持ち行きて商賣せんと欲す（七）關所の役人は張番のみして物品に税を課せず（八）公田を助け耕さしむるなり（九）私田の税を取らぬなり（一〇）一般の人民の居宅なり（一一）布は錢なり、夫の布と、里の布となり、兩者共に今日の附加税の或種のものに當る（一二）新附の民なり（一三）成就するなり（一四）上帝の意に叶ひたる天の役人なり

孟子曰。人皆有不忍人之心。先王有不忍人之心。斯有不忍人之政矣。以不忍人之心。行不忍人之政。治天下可運之掌上。所以謂

孟子曰く、人皆人に忍びざるの心あり。先王人に忍びざるの心ありて、斯に人に忍びざるの政（一）あり。人に忍びざるの心を以て、人に忍びざるの政を行へば、天下を治むること、之を掌上（二）に運らす可し。人皆人に忍びざるの心ありと謂ふ所以は、今人乍ち（三）孺子（四）の井に入らんとするを見れば、皆怵惕惻隱（五）の心あらん。交を孺子の父母に内るゝ（七）所以に非らざるなり。譽（八）を郷黨（九）朋友に要むる所以に非るなり。其聲（一〇）を惡んで然るに非るなり。是に由つて之を觀れば、惻

作孽猶可レ違。自作孽不レ可レ活。此之謂也。

孟子曰。尊レ賢使レ能。俊傑在レ位。則天下之士皆悅而願レ立二於其朝一矣。市廛而不レ征。法而不レ廛。則天下之商皆悅而願レ藏二於其市一矣。關譏而不レ征。則天下之旅皆悅而願レ出二於其路一矣。耕者助而不レ稅。則天下之農。皆悅而願レ耕二於其

孟子曰く、賢を尊び能を使ひ、俊傑(一)位に在れば、則ち天下の士は皆悅んで而して其朝に立たんことを願はん。市は廛(二)して征(三)せず、法(四)して廛(五)せずんば、則ち天下の商は、皆悅んで而して其市(六)に藏めんことを願はん。關(七)は譏して征せずんば、則ち天下の旅皆悅んで、而して其路に出でんことを願ふ。耕者(八)は助して稅(九)せずんば、則ち天下の農は皆悅んで、而して其野に耕さんことを願はん、廛(一〇)に夫里(一一)の布なければ、則ち天下の民は皆悅んで、而し之れが氓(一二)たらんことを願はん。信に能く此五者を行はば、則ち鄰國の民は之を仰ぐこと父母の若けん。其子弟を率ゐて、其父母を攻むるは、生民有りてより以來、未だ能く濟(一三)す者あらざるなり。此の如くんば、則ち天下に敵なし。天下に敵なき者は天吏(一四)なり。然して王たらざる者は未だ之れ有らざるなり。

(一) 才德の勝れたる者　(二) 店の稅を取ること　(三) 貨物の稅を取らず　(四) 市場の規則なり　(五) 店の稅を取ら

閒暇。及二是時一明二其政刑一。雖二大國一必畏レ之矣。詩云。迨二天之未二陰雨一徹二彼桑土一。綢二繆牖戸一。今此下民。或二敢侮一レ予。孔子曰。爲二此詩一者。其知レ道乎。能治二其國家一。誰敢侮レ之。今國家閒暇。及二是時一般樂怠敖。是自求レ禍也。禍福無下不二自レ己求一レ之者上。詩云。永言配レ命。自求二多福一。大甲曰。天

繆す。今此下民(一四)、敢て予を侮るあらんやと。孔子曰く、此詩を爲る者は、其れ道を知るかと。能く其國家(一五)を治めば、誰か敢へて之を侮らん。今國家閒暇、是の時に及んで般樂(一六)怠敖(一七)せば、是れ自ら禍を求むるなり。禍福己れより之を求めざる者なし。詩(一八)に云ふ、永く(一九)言命(二〇)に配し、自ら多福を求むと。大甲(二一)に曰く、天の作せる(二二)孼(二三)は猶ほ違く(二四)可し。自ら作せる孼は活く(二五)可からずとは、此れ之れの謂ひなり。

㊀ 道德ある人を大切にする ㊁ 士を大切にする ㊂ 賢明なる者、輔佐の位に在るなり ㊃ 才能ある者、それ〳〵の役目に在るなり ㊄ 政敎刑律なり ㊅ 詩經豳風鴟鴞篇の詩 ㊆ 曇りて雨降るなり ㊇ 及びなり ㊈ 桑の根の皮なり ㊉ 取るなり (一一) 鳥の巣の風拔き穴なり (一二) 鳥の巣の出入り口なり (一三) 補ひ繕ふなり (一四) 鳥の巣の下に居る人なり (一五) 鳥の自らいへるなり (一六) 大に樂むなり、般は大なり (一七) 政事を怠りて遊び散らすなり (一八) 詩經大雅文王篇の詩 (一九) 長く念ふなり、常々心掛くるなり (二〇) 天命に配合するなり、天命に背かぬなり (二一) 書經の商書の篇名 (二二) 爲と同じ (二三) 災難なり (二四) 違は避くるなり (二五) 生くるなり

以二七十里一。文王以二百里一。以レ力服レ人者。非二心服一也。力不レ贍也。以レ德服レ人者中心悅而誠服也。如三七十子之服二孔子一也。詩云。自レ西自レ東。自レ南自レ北。無二思不一レ服。此之謂也。

人を服する者は、(三)中心悅びて而して誠に服するなり。(四)七十子の孔子に服するが如きなり。(五)詩に云ふ、西より東より、南より北より、思うて服せざるなしと。此れ之れの謂ひなり。

(一)權力をもて仁の名目を借り用ひるなり　(二)足らざるなり　(三)心の中より　(四)孔子の弟子の三千人の中にて六藝に通じたる七十二人の者　(五)詩經大雅の文王有聲篇の詩

孟子曰。仁則榮。不仁則辱。今惡レ辱而居二不仁一。是猶三惡レ濕而居二下也。如惡レ之莫レ如二貴レ德而尊一レ士。賢者在レ位。能者在レ職。國家

孟子曰く、仁なれば則ち榮え、不仁なれば則ち辱らる。今辱らるゝを惡んで、而して不仁に居るは、是れ猶ほ濕を惡んで下に居るが如し。如し之を惡まば、(一)德を貴んで而して(二)士を尊むに如くは莫し。(三)賢者は位に在り。(四)能者は職に在り。國家閒暇是の時に及んで、(五)其政刑を明にせば、大國と雖も必ず之を畏れん。(六)詩に云ふ、天の未だ(七)陰雨せざるに(八)迨んで、彼の(九)桑土を(一〇)徹り、(一一)(一二)(一三)牖戸を綢

天下一。行二一不義一。殺二一不辜一。而得二天下一。皆不レ爲也。是則同。曰。敢問三其所二以異一。曰。宰我。子貢。有若。智足三以知二聖人一。汙不レ至レ阿二其所一レ好。宰我曰。以レ予觀二於夫子一。賢二於堯舜一遠矣。子貢曰。見二其禮一而知二其政一。聞二其樂一而知二其德一。由二百世之後一。等二百世之王一。莫二之能違一也。自二生民一以來。未レ有二夫子一也。有若曰。豈惟民哉。麒麟之於二走獸一。鳳凰之於二飛鳥一。泰山之於二丘垤一。河海之於二行潦一。類也。聖人之於レ民亦類也。出二於其類一。拔二乎其萃一。自二生民一以來。未レ有レ盛二於孔子一也。

宰の處士なり、殷の湯王之れを度々夏の桀王に薦めしも、桀王用ひず、遂に湯王を輔佐して、桀王を伐てり （二〇） どうてすかと二子に對する孟子の意見を徵し、因て暗に孟子の安んずる所を知らんとする也 （二一） 二子は道異なり。或はいふ門子と其道を同じうせずの意 （二二） 等列なるなり （二三） 人間なり （二四） 罪なき者なり （二五） 孔子の弟子なり、姓は有、名は若、字は子有といふ （二六） 大言を吐くこと、一說に見識の卑きことなりと （二七） 諂ふなり （二八） 宰我の名なり （二九） 帝堯、帝舜なり （三〇） 品定めす （三一） いかで獨り人間のみ同類ありとせむ物には總べて同類ありといふことなり （三二） 牝を麒といひ、牡を麟といふ、獸類の長なり （三三） 鳥類の長なり、鳳凰とは雄雌の別なり （三四） 小高き岡なり、一說には垤は蟻の塔なり （三五） 河は黃河なり、海は大海なり （三六） 道端を流るゝ雨水なり （三七） 其の同類の中より超え出づるなり （三八） 其の群集の中より拔け上がるなり

孟子曰。以レ力假レ仁者霸。霸必有二大國一。以レ德行レ仁者王。王不レ待レ大。湯

孟子曰く、（一）力を以て仁を假る者は霸たり。霸は必ず大國を有つ。德を以て仁を行ふ者は王たり。王は大を待たず、湯は七十里を以てし、文王は百里を以てす。力を以て人を服する者は、心服に非ざるなり。力贍らざるなり。（二）德を以て

非レ民。治亦進。亂亦進。伊尹也。可二以仕一則仕。可二以止一則止。可二以久一則久。可二以速一則速。孔子也。皆古聖人也。吾未レ能レ有レ行焉。乃所レ願則學二孔子一也。伯夷伊尹於二孔子一。若レ是班乎。曰。否。自レ有二生民一以來。未レ有二孔子一也。曰。然則有レ同與。曰。有。得二百里之地一而君レ之。皆能以朝二諸侯一。有二

の王を等するに、之に能く違ふこと莫きなり。生民より以來、未だ夫子あらざるなり。有若(三〇)曰く、豈(三一)に惟だ民のみならんや。麒麟(三二)の走獸に於ける、鳳凰(三三)の飛鳥に於ける、泰山の丘垤(三四)に於ける、河海(三五)の行潦(三六)に於ける、類なり。聖人の民に於けるも亦類なり。其類(三七)より出で其萃(三八)を拔く。生民より以來、未だ孔子より盛なる有らざるなり。

(一) 孔子の弟子なり、姓は宰、名は予、字は子我といふ (二) 孔子の弟子なり、姓は端木、名は賜、字は子といふ (三) 言語應對なり (四) 孔子の弟子なり、姓は冉、名は耕、字は伯牛といふ (五) 孔子の弟子なり、姓は閔、名は損、字は子騫といふ (六) 孔子の弟子なり、姓は顔、名は回、字は子淵といふ (七) 道德の行ひに長じたることなり (八) 言語命令なり、使者の口上なり (九) 孟子の自ら孔子に比せんと欲するを知りて云ふと。或は公孫丑孟子が聖人も吾が言葉に同意すべしといひたるを疑ひて、さらば夫子は最早聖人なるかの意にて云ふといひ、又は孟子は養氣知言を得たり、辭命にも達せる故に聖人なるか等の諸說あり (一〇) 驚き歎ずる聲 (一一) 聞くといふ、謙辭 (一二) 孔子の弟子なり、姓は言、名は偃、字は子游といふ (一三) 孔子の弟子なり、姓は顓孫、名は師、字は子張といふ (一四) 一部分なり (一五) 全體を具へたれどもまだ聖人程には大ならぬなり (一六) 孟子の地位の落ち著かん處なり (一七) 其事は先づ問ふを止めよ (一八) 孤竹の君の長子なり、弟の叔齊と共に國を去り、殷の紂王の亂を避けて隱居し、周の文王の德を聞きて之れに歸し、武王の紂王を伐つに及びて去りて首陽山に餓ゑ死にせり (一九) 有

不レ厭智也。教不レ倦仁也。仁且智。夫子既聖矣。夫聖孔子不レ居。是何言也。昔者竊聞レ之。子夏。子游。子張。皆有二聖人之一體一。冉牛。閔子。顏淵。則具レ體而微。敢問レ所レ安。曰。姑舍レ是。曰。伯夷伊尹何如。曰。不レ同レ道。非二其君一不レ事。非二其民一不レ使。治則進。亂則退伯夷也。何事非レ君。何使

事ふるも君にあらざらん。何れを使ふも民にあらざらん。治まるも亦進み、亂るるも亦進むは、伊尹なり。以て仕ふ可くんば則ち仕へ、以て止む可くんば則ち止み、以て久しうす可くんば則ち久しうし、以て速かにす可くんば則ち速かにするは、孔子なり。皆古の聖人なり。吾未だ行ふ有る能はず。乃ち願ふ所は則ち孔子を學ばん。伯伊・伊尹の孔子に於けるは、是の若く班(二二)たる乎。曰く、否。(二三)生民ありてより以來、未だ孔子あらざるなり。曰く、然らば則ち同じきこと有るか。曰く、有り。百里の地を得て而して之に君たらば、皆能く以て諸侯を朝し天下を有たん。一の不義を行ひ一の不辜(二四)を殺して、而して天下を得るは皆爲さざるなり。是れ則ち同じ。曰く、敢て其異なる所以を問ふ。曰く、宰我・子貢・(二五)有若は、智は以て聖人を知るに足る。汙(二六)なるも其好む所に阿(二七)ねるに至らず。宰我曰く、(二八)予を以て夫子を觀れば、堯舜(二九)に賢ること遠し。子貢曰く、其禮を見て、而して其政を知り、其樂を聞いて、而して其德を知る。百世の後由り、百世

言。曰。詖辭知其所蔽。淫辭知其所陷。邪辭知其所離。遁辭知其所窮。生於其心。害於其政。發於其政。害於其事。聖人復起。必從吾言矣。

宰我。子貢。善爲說辭。冉牛。閔子。顏淵。善言德行。孔子兼之。曰。我於辭命則不能也。然則夫子既聖矣乎。曰。惡是何言也。昔者子貢問於孔子曰。夫子聖矣乎。孔子曰。聖則吾不能。我學不厭。而教不倦也。子貢曰。學

(一)宰我・(二)子貢は善く(三)說辭を爲し、(四)冉牛・(五)閔子・(六)顏淵は善く(七)德行を言ふ。孔子之を兼ぬ。曰く、我れ(八)辭命に於ては則ち能はざるなりと。(九)然らば則ち夫子既に聖なるか。曰く、(一〇)惡是れ何の言ぞや。昔者子貢、孔子に問ひて曰く、夫子は聖なるかと。孔子曰く、聖は則ち吾れ能はず。我は學んで厭はず、教へて倦まざるなり。子貢曰く、學んで厭はざるは、智なり。教へて倦まざるは、仁なり。仁にして且つ智なり。夫子既に聖なりと。夫れ聖は孔子すら居らず。是れ何の言ぞや。昔者(一一)竊かに之を聞けり。(一二)子夏・(一三)子游・子張、皆聖人の(一四)一體あり。冉牛・閔子・顏淵は、則ち(一五)體を具へて微なりと。敢て(一六)安んずる所を問ふ。曰く、(一七)姑く是を舍け。曰く、(一八)伯夷・(一九)伊尹は(二〇)何如。曰く、(二一)道を同じうせず。其君にあらざれば事へず、其民にあらざれば使はず。治まれば則ち進み、亂るれば則ち退くは、伯夷なり。何れに

事焉。而勿レ正。心勿レ忘。勿二助長一也。無下若二宋人一然上。宋人有下閔二其苗之不一レ長而揠レ之者上。芒芒然歸。謂二其人一曰。今日病矣。予助レ苗長矣。其子趨而往視レ之。苗則槁矣。天下之不二助レ苗長一者寡矣。以爲レ無レ益而舍レ之者。不レ耘苗者也。助レ之長者。揠レ苗者也。非二徒無一レ益。而又害レ之。何謂レ知レ

り、即ち志惰れば日中猶は睡きが如く君父危急ならば通夜睡眠を思はざるが如く志氣關係の適切なるを見る (二) 氣は一身に充滿して喜怒を爲すものなり (三) 志此に向ひ至れば、氣は此に附き隨ふといふことなり、一說には志は至りて重きものにして、氣は二の次ぎのものなりといふ (四) 其の志を堅固に持ちて其の氣を害するなかれと (五) 專一なり、志と氣との關係を記す (六) 氣閉して自ら持する能はざる故なり (七) 其の結果として反つて心を動かす (八) 他人の言葉の是非得失を悉く理會す (九) 大なる氣なり (一〇) 極めて大に極めて強きなり (一一) 正直をもて養ふなり (一二) 充滿するなり (一三) 義と道との二つとする配偶なり (一四) 浩然の氣なければ腹の減りたるやうに氣が畏れ縮むと也。一說「是れ餒うる無し」と訓じ、是氣道義に配する時は彌漫充塞して餒うる事なしと解す (一五) 己れの心に義を求めて事々物々に間斷なく義を行ふなり (一六) 襲は掩ひ取るなり、外に在る義をもて襲ひて此の氣を取る也。一說此義は義足の義にて假に外より借用し來る意と解す (一七) 快き也 (一八) 慊度己れの心に義を求めて事々物々に間斷なく義を行はむことを事とすべしといふことなり (一九) 正は豫め期するなり、其の效驗を見むことを心の中に豫め期すまじきなりといふことなり (二〇) 其の事あることを忘却すまじきなり (二一) 其の氣を強ひて助けて長ぜしめむとすまじきなり (二二) 心配するなり (二三) 引き延ばすなり (二四) 氣拔けのしたるさまなり (二五) 草臥るゝなり (二六) 投げ遣りに捨ておくなり (二七) 偏頗なる言葉なり (二八) 私意に遮り隔てらるゝなり (二九) 放蕩なる言葉なり (三〇) 惡道にはまり込むなり (三一) 邪僻なる言葉なり (三二) 正理に離れ叛くなり (三三) 逃げ口上なり (三四) 行き詰まるなり (三五) 不心得の條々が人君の心に發すれば

夫子惡乎長。曰。我知レ言。我善養ニ吾浩然之氣一。敢問。何謂ニ浩然之氣一。曰難レ言也。其爲レ氣也。至大至剛。以レ直養而無レ害。則塞ニ于天地之間一。其爲レ氣也。配ニ義與ヒ道。無レ是餒也。是集義所レ生者。非ニ義襲而取ヒ之也。行有レ不レ慊ニ於心一。則餒矣。我故曰。告子未ニ嘗知ヒ義。以ニ其外ヒ之也。必有レ

る有れば、則ち餒う。我れ故に曰く、告子は未だ嘗て義を知らずと。其之を外にするを以てなり。(一八)必ず事とする有れ。(一九)正めする勿れ。心に忘るゝ(二〇)勿れ。助け(二一)て長ずる勿れ。宋人の若く然かする無れ。宋人其苗の長ぜざるを閔へ(二二)て、而して之を揠く(二三)者あり、芒芒然(二四)として歸り、其人に謂つて曰く、今日病る(二五)。予れ苗を助けて長ぜしむと。其子趨りて往きて之を視れば、苗則ち槁る。天下の苗を助けて長ぜしめざるもの寡し。以て益なしと爲して之を舍つる(二六)者は、苗を耘らざる者なり。之を助けて長ぜしむる者は、苗を揠く者なり。徒に益なきのみに非らず、而して又之を害す。何をか言を知ると謂ふ。曰く、詖辭(二七)は其蔽はるゝ(二八)所を知る。淫辭(二九)は其陷る(三〇)所を知る。邪辭(三一)は其離るゝ(三二)所を知る。遁辭(三三)は其窮する(三四)所を知る。其心に生ずれば、其政(三五)を害し、其政に發すれば、其事を害す。聖人復起るも必ず吾が言に從はん。

㊀ 志は氣の將帥なりと、心の向ふことを志といふ、志は一身を支配して、氣を引き廻はすものなれば斯くいへるな

告子之不ㇾ動ㇾ心。可ㇾ得ㇾ聞與。告子曰。不ㇾ得ㇾ於ㇾ言。勿ㇾ求ニ於 心一。不ㇾ得ニ於 心一。勿ㇾ求ニ於 氣一不ㇾ得ニ於 心一。勿ㇾ求ニ於 氣一。可。不ㇾ得ニ於 言一。勿ㇾ求ニ於 心一。不可

ぜざることありとも、力めて其の心を抑へて、其の助けを氣に求むることなかれと 目 此の議論はよろしい、理にかなひたる言葉なりとして許す意

夫志氣之帥也。氣體之充也。夫志至焉。氣次焉。故曰。持ニ其志一。無ㇾ暴ニ其氣一。既曰。志至焉。氣次焉。又曰。持ニ其志一。無ㇾ暴ニ其氣一者。何也。曰。志壹則動ㇾ氣。氣壹則動ㇾ志也。今夫蹶者趨者是氣也。而反動ニ其心一。敢問。

夫れ志(一)は氣の帥なり。氣(二)は體の充なり。夫れ志至り(三)、氣は次ぐ。故に曰く、其志を持し、其氣を暴する無れ。既に曰く、志至り、氣は次ぐと。又曰く、其志(四)を持し、其氣を暴する無れとは何ぞや。曰く、志壹(五)なれば則ち氣を動かす。氣壹なれば則ち志を動かす。今夫れ蹶く者趨る者は是れ氣(六)なり。而して反つて其心を動かす。敢て問ふ、夫子惡くにか長ぜる。曰く、我れ言(八)を知る(七)。我れ善く吾が浩然(九)の氣を養ふ。敢て問ふ、何をか浩然の氣を謂ふ。曰く言ひ難きなり。其氣たるや、至大至剛(一〇)、直(一一)を以て養ひて害するなければ、則ち天地の間に塞がる(一二)。其氣たるや、義(一三)と道とに配す。是れ(一四)なければ餒うるなり。是れ集義(一五)の生ずる所の者にして、義襲(一六)ひて之を取るに非ざるなり。行ひ心に慊(一七)からざ

矣。孟施舍似二曾子一。北宮黝似二子夏一。夫二子之勇。未レ知二其孰賢一。然而孟施舍守約也。昔者曾子謂二子襄一曰。子好レ勇乎。吾嘗聞二大勇於夫子一矣。自反而不レ縮雖二褐寛博一吾不レ惴焉。自反而縮。雖二千萬人一吾往矣。孟施舍之守レ氣。又不レ如二曾子之守約一也。曰。敢問。夫子之不レ動レ心。

勇士なり（七）名は不害といふ、孟子と議論せし人なり、後に告子の篇あり（八）北宮は姓、黝は名なり、昔の刺客なり（九）人已を斬らんとするも肌すくまず（一〇）目を突かれむとしても目ばたきをして避けぬ也（一一）人より極く僅な事で人に辱めらると（一二）市と朝廷とにして人の集まる處也（一三）毛織りの緩やかなる着物にして、賤しき者の服なり、一說には褐は大布なりともいへり（一四）辱めを受けぬなり（一五）萬乘の君の意、高貴の人（一六）畏れ憚るなり（一七）惡口を受くるなり（一八）惡口をもて返報するなり（一九）孟は姓なり、舍は名なり、施は發音にて之と同じともいひ、孟施は二字の姓なり、舍は名なりともいひ、孟は姓なり施舍は名なりともいふ、昔の戰士なり（二〇）合戰するなり（二一）三軍は大軍のことなり、原義は天子は六軍、諸侯の大國は三軍、次國は二軍、小國一軍にして軍は一萬二千五百人なり（二二）孔子の弟子なり、姓は卜、名は商といふ、子夏は其の字なり、此の人は勇氣に富めり（二三）約は要なり、守ること其の要を得たるなり（二四）曾子の弟子なり（二五）孔子を指す（二六）我が身の上を振り返り見るなり（二七）直きなり（二八）懼るゝなり（二九）進み往きて相手になるなり（三〇）一身の氣なり、心と云ふに似たり（三一）他人の言葉の是非得失を了解せざれば之れを己れの心に求めて判斷せむとすること勿れと。異說多し其一說を略記すれば、人の善言を得ずして、惡言をもて己れに加へらるゝことあらば、其の善言を取らずして、直ちに其の惡言を怒るなりと。又、己れの言葉理に達せざることありとも己れの心に立ち戻りて、其の理を求むること勿れと（三二）己れの行ひたる事の心に滿足せざる事ありとも、之れを己れの氣に求めて滿足せむとすることなかれと。其他異說多し、略記すれば、人の善心を得ずして、表面の善辭氣をもて己れに加へらるゝことあらば、其の善辭氣を取らずして直ちに其の惡心を怒るべしと。又一說には己れの心に理を誤まりて安ん

之養ㇾ勇也。不ㇾ膚撓一。不ㇾ目逃一。思下以二一毫一挫中於人上若ㇾ撻二之於市朝一。不ㇾ受二於褐寬博一。亦不ㇾ受二於萬乘之君一。視ㇾ刺二萬乘之君一。若ㇾ刺二褐夫一。無ㇾ嚴二諸侯一。惡聲至必反ㇾ之。孟施舍之所ㇾ養ㇾ勇也。曰。視ㇾ不ㇾ勝猶ㇾ勝也。量ㇾ敵而後進。慮ㇾ勝而後會。是畏二三軍一者也。舍豈能爲二必勝一哉。能無ㇾ懼而已

會す。是れ三軍(二一)を畏るゝ者なり。舍は豈に能く必ずしも勝つを爲さんや。能く懼(二〇)るゝなきのみ。孟子舍は曾子に似たり。北宮黝(二二)は子夏に似たり。夫の二子の勇は、未だ其孰れか賢れるを知らず。然り而して孟施舍は守約(二三)なり。昔者曾子、子襄(二四)に謂うて曰く、子勇を好むか、吾嘗て大勇(二五)を夫子に聞けり。自ら反して縮(二七)からずんば、褐寬博と雖も吾惴(二八)れざらんや。自ら反して縮(二六)ければ、千萬人と雖も吾往(二九)かん。孟施舍の氣を守るは、又曾子の守の約なるに如かざるなり。曰く、敢て問ふ。夫子の心(三〇)を動さざると、告子の心を動さざると、聞くを得べきか。告子曰く、言(三一)に得ざれば、心に求むる勿れ、心(三二)に得ざれば、氣に求むる勿れと。心に得ざれば氣に求むる勿れとは可(三三)なり。言に得ざれば心に求むる勿れとは不可なり。

(一) 授けらるゝなり (二) 卿相の位を以て君を相けて (三) 霸王の大業を成就すとも。霸王と併稱する戰國時代の常語なり (四) 不思議とは存じますまい (五) 責任の重大なることを感ずる結果心を動かす事はなきか (六) 昔の

王者之不レ作。未レ有下疏レ於二此時一者上也。民之憔二悴於虐政一。未レ有下甚レ於二此時一者上也。飢者易レ爲レ食。渴者易レ爲レ飲。孔子曰。德之流行。速レ於二置郵而傳一レ命。當二今之時一。萬乘之國行二仁政一。民之悅レ之。猶レ解二倒懸一也。故事半二古之人一。功必倍レ之。惟此時爲レ然。

公孫丑問曰。夫子加二齊之卿相一。得レ行レ道焉。雖レ由レ此霸王一。不レ異矣。如レ此則動レ心否乎。孟子曰。否。我四十不レ動レ心。曰。若レ是則夫子過二孟賁一遠矣。曰。是不レ難。告子先レ我不レ動レ心。曰。不レ動レ心有レ道乎。曰。有。北宮黝

公孫丑問うて曰く、夫子に齊の卿相を加へ、(一)道を行ふを得ば、(二)此に由りて(三)霸王たりと雖も、(四)異まず。(五)此の如くなれば、則ち心を動かすや否や。孟子曰く、否、我四十にして心を動かさず。曰く、是の若くんば則ち夫子は孟賁(六)に過ぐること遠し。曰く、是れ難からず。(七)告子我に先だちて心を動かさず。曰く、心を動かさざるに道あるか。曰く、有り。(八)北宮黝の勇を養ふや、(九)膚撓せず、(一〇)目逃せず、一毫を以て人に挫るゝを思ふこと、(一一)之を市朝に撻るゝが若し。(一二)褐寛博にも受けず、(一五)亦萬乘の君にも受けず。萬乘の君を刺すを視ること、(一三)褐夫を刺すが若し。(一四)諸侯を嚴るゝ無く、(一六)悪聲至れば、(一七)必ず之を反へす。(一八)孟施舍の勇を養ふ所や、(一九)曰く、勝たざるを視る猶ほ勝つがごときなり。敵を量りて後に進み、勝を慮りて後に

未久也。其故家遺俗、流風善政、猶有存者。又有微子・微仲・王子比干・箕子・膠鬲。皆賢人也。相與輔相之。故久而後失之也。尺地莫非其有也。一民莫非其臣也。然而文王猶方百里起。是以難也。齊人有言。曰、雖有智慧、不如乘勢。雖有鎡基、不如待時。今時則易然也。夏后殷周之盛。地未有過千里者也。而齊有其地矣。雞鳴狗吠相聞、而達乎四境。而齊有其民矣。地不改辟矣。民不改聚矣。行仁政而王。莫之能禦也。且

（八）曾西を云ふ、御身といふに同じ　（九）孔子の弟子、姓は仲、名は由といふ、子路は其の字なり　（一〇）安んぜざる貌　（一一）父をいふ即ち曾西の父曾子　（一二）腹立たしきさま　（一三）乃と同じ　（一四）主君の信任を得るなり　（一五）一人にて專ら事を執るなり　（一六）功業のすぐれたること　（一七）卑劣なり、即ち王道を行はぬ意　（一八）管仲を指す　（一九）諸侯の旗頭なり　（二〇）いと容易なり然るに爲さずの意　（二一）公孫丑の自稱　（二二）文王は九十七にて崩じたり、百年は大數をもていへるなり　（二三）德化の行き渡ることなり　（二四）武王の弟の周公旦なり　（二五）行ひ易きなり　（二六）手本とする　（二七）文王の時は功を爲し難し故に言當らずとの意　（二八）高宗の名なり　（二九）太甲、太戊、祖乙、盤庚などの如き賢聖の君、六七人起こりたり　（三〇）敎化をいふ、水の流れ風の吹くやうに、行き渡る意なり　（三一）皆紂王の同姓の賢臣なり　（三二）異姓の賢臣なり　（三三）輔佐す　（三四）天下　（三五）由と通ず　（三六）富貴の勢ひに居るなり　（三七）農具なり、鋤の大なるものをいふ　（三八）種蒔きの時節　（三九）夏后氏なり、后は君なり　（四〇）都より四方の國境まで屆くなり　（四一）新規に開墾するなり　（四二）其間の永引くをいふ　（四三）困苦す　（四四）喉の乾くなり　（四五）傳馬を設け置くなり、一說には置は驛なりと解す　（四六）官の文書を傳ふるなり　（四七）手足を縛られて、倒しまに木の枝に懸けられたる者を、解きおろして遣るなり、其非常なる勞苦を救ひたるを喜ぶと也　（四八）文王を指す

也。曰。若レ是則弟子之惑滋甚。且以二文王之德。百年而後崩。猶未レ洽二於天下一。武王周公繼レ之。然後大行。今言レ王若レ易レ然。則文王不レ足レ法與。曰。文王何可レ當也。由レ湯至二於武丁一。賢聖之君六七作。天下歸レ殷久矣。久則難レ變也。武丁朝二諸侯一。有二天下一猶レ運二之掌一也。紂之去二武丁一

鎡基ありと雖も、時を待つに如かず。(三八)今の時は則ち然し易きなり。夏后殷周の(三九)盛なる、(三七)地未だ千里に過ぐる者あらざるなり、而して齊其地を有てり。鷄鳴狗吠相聞えて四境に達す。(四〇)而して齊其民を有てり。地改め辟かず、(四一)民改め聚めず、仁政を行うて王たらば、之を能く禦むる莫きなり。且つ王者の作らざるは、未だ此時より疏き者有らざるなり。(四二)民の虐政に憔悴するは、(四三)未だ此時より甚しき者有らざるなり。飢者は食を爲し易く、渇者は飲を爲し易し。(四四)孔子曰く、德の流行する。置郵して(四五)命を傳ふるより(四六)速なり。今の時に當り、萬乘の國仁政を行はば民の之を悦ぶこと、猶ほ倒懸を解くがごとし。(四七)故に事は古の人に半に(四八)して、功は必ず之に倍せん。惟此時を然りと爲す。

㊀ 孟子の弟子、姓は公孫、名は丑といふ、齊の人なり ㊁ 孟子要路に立ちて、政事を執らば ㊂ 齊の大夫名は夷吾といふ、桓公を輔佐して諸侯に霸たらしむ ㊃ 齊の大夫、名は嬰、景公に相なり、 ㊄ 再び復たなり、其功復た必ず期すべきか、許は期に同じ ㊅ 管仲晏子の外に人ありとは知らぬてあらう ㊆ 曾子の子なるべし

吾子與二管仲一孰賢。曾西艴然不レ悦曰。爾何曾比二予於管仲一。管仲得レ君如レ彼其專也。行二乎國政一如レ彼其久也。功烈如レ彼其卑也。爾何曾比二予於是一。曰。管仲。曾西之所レ不レ爲也。而子爲レ我願レ之乎。曰。管仲以二其君一霸。晏子以二其君一顯。管仲晏子猶不レ足レ爲與。曰。以レ齊王由レ反レ手

らしめ、晏子は其君を以て顯はれしむ。管仲・晏子は猶ほ爲すに足らざるか。曰く、齊を以て王たるは、由ほ手を反すがごときなり。(二〇)曰く、是の若くんば、則ち弟(二一)子の惑滋〻甚し。且文王の德、百年にして而る後崩ずるを以てしてすら、猶ほ未だ天下に洽からず。(二二)武王・周公之に繼ぎ、然る後に大いに行はる。今王たるを言ふこと、然し易きが若し。(二三)則ち文王は法るに足らざるか。(二四)曰く、文王は何ぞ當る可けん。(二五)湯より武丁に至るまで、賢聖の君六七作り、天下殷に歸する久し。久しければ則ち變じ難きなり。武丁諸侯を朝し、天下を有つ、猶ほ之を掌に運らすがごとし。紂の武丁を去る未だ久しからざるなり。其故家遺俗流風善政、猶ほ在る者あり、又微子・微仲・王子比干・箕子・膠鬲あり、皆賢人なり。相與に之を輔相す。故に久しうして而る後に之を失ふなり。尺地も其有に非ざる莫きなり。一民も其臣に非ざる莫きなり。然り而して文王は猶ほ方百里にして起る。是を以て難きなり。齊人言へる有り。曰く、智慧有り雖も、勢に乘ずるに如かず。

公孫丑問曰。夫子當路於齊。管仲晏子之功。可復許乎。孟子曰。子誠齊人也。知管仲晏子而已矣。或問乎曾西曰。吾子與子路孰賢。曾西蹵然曰。吾先子之所畏也。曰。然則

卷之三

公孫丑章句上

公孫丑問うて曰く、夫子路に齊に當らば、管仲・晏子の功復た許す可きか。孟子曰く、子は誠に齊人なり。管仲・晏子を知るのみ。或ひと曾西に問うて曰く、吾子と子路と孰れか賢れると。曾西蹵然として曰く、吾が先子の畏るゝ所なり。曰く、然らば則ち吾子と管仲と孰れか賢れる。曾西艴然として悦ばずして曰く、爾何ぞ曾ち予を管仲に比する、管仲は君を得ること、彼が如く其れ專たるなり。國政を行ふこと、彼が如く其れ久しきなり。功烈は彼が如く其れ卑しきなり。爾何ぞ曾ち予を是れに比する。曰く、管仲は曾西の爲さざる所なり。而るを子、我が爲めに之を願ふか。曰く、管仲は其君を以て霸た

むることあり　〔二〕面會のことなり、一に、遇ひて用ひられぬ意とす　〔三〕臧倉のことを鄙みたる言葉なり

不ㇾ同也。樂正子見ニ孟子一曰。克告ニ於君一。君爲ニ來見一也。嬖人有ニ臧倉者一。沮ㇾ君。君是以不ㇾ果ㇾ來也。曰。行或使ㇾ之。止或尼ㇾ之。行止。非ニ人所ㇾ能也。吾之不ㇾ遇ニ魯侯一天也。臧氏之子。焉能使ニ予不ㇾ遇哉。

乎。禮義由二賢者一出。而孟子之後喪。踰二前喪一。君無レ見焉。公曰。諾。樂正子入見曰。君奚爲不レ見二孟軻一也。曰。或告二寡人一曰。孟子之後喪踰二前喪一。是以不二往見一也。曰。何哉。君所レ謂踰者。前以レ士。後以二大夫一。前以二三鼎一。而後以二五鼎一與。曰。否。謂二棺槨衣衾之美一也。曰。非二所レ謂踰一也。貧富

士を以てし、後には大夫を以てし、前には三鼎(一四)を以てし、而して後には五鼎を以てするか。曰く、否、棺槨(一五)衣衾(一六)の美を謂ふなり。曰く、所謂踰ゆるに非ざるなり。貧富同じからざればなりと。樂正子孟子に見えて、曰く、克、(一七)君に告ぐ、君來り見んと爲せり。嬖人臧倉なる者有り、君を沮む。(一八)君是を以て來るを果さざるなり。曰く、行くは或は之をせしむ。(一九)止まるは或は之を尼む。(二〇)行止は人の能くする所に非ざるなり。吾の魯侯に遇はざるは天なり。(二一)臧氏の子、焉んぞ能く予をして遇はざらしめんや。

(一) 氣に入りの近臣 (二) 平常、いつもなり (三) 役人 (四) 仰せ出ださる (五) 馬車にもはや馬をつけたり (六) 御出先をお伺ひ致します (七) 身分の賤しき者が先に御伺ひをすべき筈であるに係らず、まづ先に御尋ねになる、匹夫は孟子を指す (八) 孟子を賢者なりと御考へになりての事ですか (九) 母の喪なり (一〇) 父の喪なり (一一) 成程さうだ承知せりの意 (一二) 孟子の弟子なり、樂正は姓なり、子は男子の通稱なり、時に魯の臣たり (一三) 父の喪には士の禮を以てし母の喪には大夫の禮を以てするのか (一四) 祭りの供物を盛る器、士の身分の者は其の數三つを用ひ、大夫の身分の者は其の數五つを用ひる (一五) 二重の棺の、内なるを棺といひ、外なるを槨といふ (一六) 死人に着する衣類なり (一七) 樂正の名なり (一八) 邪魔をす (一九) 其の人を行かしむることあり (二〇) 其の人を止

人。二三子何患乎無君。我將去之。去邠踰梁山。邑于岐山之下居焉。邠人曰。仁人也。不可失也。從之者如歸市。或曰。世守也。非身之所能為也。效死勿去。君請擇於斯二者。

者といふ　(七)寄せ集むる也　(八)物を生じて人を養ふべきもの即ち土地なり　(九)耆老を指す、汝等といはむが如し　(一〇)邠を去らん　(一一)都邑を營むなり　(一二)代々守りて、失はぬなり　(一三)勝手にするなり　(一四)領土を捨てて人民を守るか、人民を捨てゝ領土を守るかの二者なり

魯平公將出。嬖人臧倉者請曰。他日君出。則必命有司所之。今乘輿已駕矣。有司未知所之。敢請。公曰。將見孟子。曰。何哉。君所為輕身以先於匹夫者。以為賢

魯の平公将に出でんとす。嬖人臧倉なる者請うて曰く、(一)他日君出づれば、則ち必ず有司に之く所を命ず。(二)(三)(四)今乘輿已に駕せり。(五)有司未だ之く所を知らず。敢て請ふ。(六)公曰く、將に孟子を見んとすと。曰く、何ぞや、君身を輕くして以て匹夫に先だつを爲す所の者は、以て賢と爲すか。(七)禮儀は賢者より出づ。而して孟子の後の喪は前の喪に踰ゆ。(八)君見る無れ。公曰く、諾。(九)樂正子入り見えて、(一〇)曰く、君奚爲れぞ孟軻を見ざる。(一一)曰く、或ひと寡人に告げて曰く、(一二)孟子の後の喪は前の喪に踰ゆ、是を以て往きて見ざるなり。曰く、何ぞや、君の所謂踰ゆとは、(一三)前には

滕文公問曰。滕小國也。竭レ力以事二大國一則不レ得レ免焉。如レ之何則可。孟子對曰。昔者大王居レ邠。狄人侵レ之。事レ之以二皮幣一。不レ得レ免焉。事レ之以二犬馬一。不レ得レ免焉。事レ之以二珠玉一不レ得レ免焉。乃屬二其耆老一而告レ之曰。狄人之所レ欲者。吾土地也。吾聞レ之也。君子不下以二其所一以養上レ人者上害

滕の文公問うて曰く、滕は小國なり。(一)力を竭して以て大國に事ふとも、則(二)ち免るゝを得ず、之を如何にせば則ち可(三)ならん。孟子對へて曰く、昔者大王邠に居る。狄人之を侵す。之に事ふるに皮幣(四)を以てすれども、免るゝを得ず。之に事ふるに犬馬を以てすれども、免るゝを得ず。之に事ふるに珠玉(五)を以てすれども、免るゝを得ず。乃ち其耆老(六)を屬めて(七)之に告げて曰く、狄人の欲する所の者は吾が土地なり、吾之を聞く、君子は其(八)の人を養ふ所以の者を以て人を害せずと。二三子(九)何ぞ君無きを患へん。我之(一〇)を去らんとすと。邠を去り梁山を踰え、岐山の下に邑し、居る。邠人曰く、仁人なり、失ふ可からずと。之に從ふ者市に歸するが如し(一一)。或ひと曰く、世の(一二)守りなり。身の能(一三)く爲す所に非ざるなり。死を效すも去る勿れと。君請ふ斯の二者(一四)に擇べ。

(一) 骨を折りて　(二) 左様の次第なれば(小國なれば)侵掠を免るゝことを得ず　(三) 侵掠をまぬかれ得べきか　(四) 皮は、虎豹麋鹿の皮なり、幣は、絹帛なり　(五) 珠は海より出づる玉、玉は山より出づるを玉なり　(六) 年六十を

死而民弗レ去。則是可レ爲也。

滕文公問曰。齊人將レ築レ薛。吾甚恐。如レ之何則可。孟子對曰。昔者大王居レ邠。狄人侵レ之。去之二岐山之下一居焉。非二擇而取一レ之。不レ得レ已也。苟爲レ善。後世子孫必有二王者一矣。君子創レ業垂レ統。爲レ可レ繼也。若二夫成功一則天也。君如レ彼何哉。彊爲レ善而已矣。

滕の文公問うて曰く、齊人將に薛に築かんとす。(一)吾甚だ恐る。之を如何にせば則ち可ならん。孟子對へて曰く、昔者大王(二)邠に居る。狄人之を侵す。去りて岐山の下に之き居る。擇びて之を取るに非ず、(三)已を得ざるなり。苟も善を爲さば、後世子孫、必ず王者有らん。君子(四)業を創め(五)統を垂る、(六)繼く可きを爲す、(七)夫の成功の(八)若きは則ち天なり。(九)君彼を如何せんや。(一〇)彊めて善を爲さんのみ。

(一) 薛は、滕の鄰國の名なり、齊其の地を取りて、城を築かんとす (二) 大王とは古公亶父のこと、邠は豳に同じ (三) 仕方なしにする (四) 人君を指す (五) 基業を始むるなり (六) 統緒を傳ふるなり (七) 繼續すべからしむるなり (八) 一統の功を成就する天命なり (九) 君は彼の齊を如何樣にせらるべき不問に附すべしとの意なり (一〇) 力めて善を行ふなり

壑。壯者散而之二四方一者。幾千人矣。而君之倉廩實。府庫充。有司莫二以告一。是上慢而殘レ下也。曾子曰。戒レ之戒レ之。出二乎爾一者反二乎爾一者也。夫民今而後得レ反レ之也。君無レ尤焉。君行二仁政一。斯民親二其上一。死二其長一矣。

(一)鬩は闘聲なり　(二)鄒の君なり　(三)役人　(四)誅せずして不問に附せんとすれば彼等が此の後も其長上の死を疾視し救はざるに至らん故に棄て置きもし難きなり、如何なる罪に當すべきか　(五)轉とは飢餓の極まろびまろんで死するなり　(六)之は行なり　(七)米庫　(八)金庫　(九)有司　(一〇)慢は驕慢なるなり　(一一)殘害　(一二)孔子の弟子、名は參　(一三)平日の有司の不親切な民が此場合に始めて返報するを得たるなり、有司にありては自分に出でたるものが自分に返りたる譯なれば民を咎むるに及ばず　(一四)長上のために

滕文公問曰。滕小國也。閒二於齊楚一。事レ齊乎。事レ楚乎。孟子對曰。是謀非三吾所二能及一也。無レ已。則有レ一焉。鑿二斯池一也。築二斯城一也。與レ民守レ之。效レ

滕(一)の文公問うて曰く、滕は小國なり。齊楚に閒す。齊に事へんか、楚に事へんか。孟子對へて曰く、是の謀(二)は吾が能く及ぶ所に非ざるなり。已む無くんば則ち一(三)あり。斯の池を鑿ち、斯の城を築きて民(四)と與に之を守り、死を效すも民去らずんば、則ち是れ爲(五)す可きなり。

(一)滕は國名　(二)齊楚共に禮なき國なれば我は何國に事ふべきかを定める事が出來ぬ　(三)一は一謀あるの意　(四)危難に臨みて民去らざるは平日德を以て民心を得たるの效なり、此には結果の方をいひて其原因を言外に示せるなり　(五)德を以てすれば小國ながら獨立が出來る

簞食壺漿。以迎二王師一。若殺二其父兄一。係二累其子弟一。毀二其宗廟一。遷二其重器一。如レ之何其可也。天下固畏二齊之彊一也。今又倍レ地。而不レ行二仁政一。是動二天下之兵一也。王速出レ令。反二其旄倪一。止二其重器一。謀二於燕衆一。置レ君而後去レ之。則猶可レ及レ止也。

(一〇)齊の老弱 (一一)運輸を止め (一二)旄倪を去る意 (一三)今日でもなほ諸侯の兵を止めるのに間に合ふ

鄒與レ魯鬨。穆公問曰。吾有司死者三十三人。而民莫二之死一也。誅レ之則不レ可二勝誅一。不レ誅則疾二視其長上之死一而不レ救。如レ之何則可也。孟子對曰。凶年饑歲。君之民。老弱轉二乎溝

鄒、魯と鬨ふ。(一)穆公問うて曰く、吾が有司死する者三十三人、而して民之に死する莫きなり。(二)之を誅せば勝げて誅す可からず。(三)誅せざれば則ち其長上の死を疾視して、而して救はず。之を如何せば則ち可ならん。(四)孟子對へて曰く、凶年饑歳には、君の民、老弱溝壑に轉じ、(五)壯者は散じて四方に之く者、(六)幾千人。而して君の倉廩は實ち、(七)府庫は充つ。(八)有司以て告ぐる莫し。是れ上慢にして(九)(一〇)而して下を殘するなり。(一一)曾子曰く、(一二)之を戒めよ、之を戒めよ、爾に出づる者は爾に反るなり。夫れ民今にして而して後之を反すを得たるなり。(一三)君尤むること無れ、君仁政を行はば、斯に民其上に親み、其長に死せん。(一四)

畏レ人者上也。書曰。湯一征自レ葛始。天下信レ之。東面而征。西夷怨。南面而征。北狄怨。曰。奚爲後レ我。民望レ之。若三大旱之望二雲霓一也。歸レ市者不レ止。耕者不レ變。誅二其君一而弔二其民一。若二時雨降一。民大悅。書曰。徯二我后一。后來其蘇。今燕虐二其民一。王往而征レ之。民以爲レ將レ拯二己於水火之中一也。

ず、其君を誅し、而して其民を弔し、時雨の降るが若く、民大いに悅ぶ。書に(一〇)曰く、我が后(一一)を徯(一二)つ。后來らば其れ蘇(一三)せんと。今燕其民を虐す。王往きて之を征す。民以て將に己を水火の中に拯はんとすと爲すや、簞食壺漿(一四)して以て王師を迎へん。若し其父兄を殺し、其子弟を係累(一五)し、其宗廟を毀ち、其重器(一六)を遷さば、之を如何ぞ其れ可ならん。天下固より齊の彊を畏るゝなり。今又地を倍(一七)して而して仁政を行はずんば、是れ天下の兵(一八)を動かさん。王速に令を出し、其旄倪(一九)を反し、其重器を止め(二〇)、燕の衆に謀り、君を置きて而して後に之(二一)を去らば、則ち猶ほ止む(二二)に及ぶ可きなり。

(一) 殷の湯王 (二) 暗に齊王を指すなり (三) 書經商書仲虺之誥篇、但し文小異あり (四) 一は初なり (五) 國名 (六) 信とは其志民を救ふにありて慾をなすにあらざるを信ずるなり (七) 霓は虹なり (八) 市に行きて營業する者は業を休まず (九) 常の通りに仕業す (一〇) 書經前文の續き (一一) 后は君なり (一二) 待つなり (一三) 蘇生するなり (一四) 前出 (一五) 縛結なり (一六) 重器は寶器なり (一七) 今又齊は燕の一倍の地を併有しても仁政を行はずばの意なり (一八) 天下の諸國は齊を恐れ天下の兵を動して齊を伐たんとせん (一九) 旄は老人倪は小兒なり。即捕

燕民不ㇾ悅。則勿ㇾ取。古之人有ㇾ行ㇾ之者。文王是也。以二萬乘之國一伐二萬乘之國一。簞食壺漿。以迎二王師一。豈有ㇾ他哉。避二水火一也。如二水益深一。如二火益熱一。亦運而已矣。

いふ　(八)　周の文王が勢力を有しながら殷國人の悅ばざるを以て終生紂王に事へしをいふ　(九)　簞食は飯を竹器に入れ壺漿は飲物を飲器に入るゝなり　(一〇)　別段他に深い理由があるのではありません只々　(一一)　水火の苦みを避けんとするが故なり　(一二)　然るに之に反して民をして反りて苦しましむるならば民は轉じて齊を去り他に歸せんのみ燕を取るも益なしとの意　(一三)　若し民が益々苦む如きに至らば民人は新しき齊の領有地より運行して他の土地に行き去るに定まつて居ますと也

齊人伐ㇾ燕取ㇾ之。諸侯將ㇾ謀ㇾ救ㇾ燕。宣王曰。諸侯多下謀ㇾ伐二寡人一者上。何以待ㇾ之。孟子對曰。臣聞七十里。爲二政於天下一者。湯是也。未ㇾ聞下以二千里一

齊人燕を伐ち之を取る。諸侯將に燕を救ふことを謀らんとす。宣王曰く、諸侯寡人を伐つを謀る者多し。何を以て之を待たん。孟子對へて曰く、臣聞く、七十里にして政を天下に爲す者は、湯是れなり。未だ千里を以て人を畏るゝ者を聞かざるなり。書に曰く、湯一めて征する葛より始む。天下之を信ず。東面して征すれば、西夷怨み、南面して征すれば、北狄怨む。曰く、奚爲れぞ我を後にすと。民之を望むこと大旱の雲霓を望むが若きなり。市に歸する者止まず、耕す者變ぜ

人彫二琢之一。至三於治二國家一。則曰。姑舍二女所一レ學而從レ我。則何以異四於教三玉人彫二琢玉一哉。

疾に從へと云ふも吾豈に之を肯んぜんやとの心底なり

齊人伐レ燕勝レ之。宣王問曰。或謂二寡人勿一レ取。或謂二寡人取一レ之。以二萬乘之國一。伐二萬乘之國一。五旬而舉レ之。人力不レ至二於此一。不レ取必有二天殃一。取レ之何如。孟子對曰。取レ之而燕民悅。則取レ之。古之人有二行レ之者一。武王是也。取レ之而

齊人燕を伐ち之に勝つ。宣王問うて曰く、或ひとは寡人に取る勿れと謂ふ。或ひとは寡人に之を取れと謂ふ。萬乘の國を以て、萬乘の國を伐つ、(一)五旬(二)にして而して之を擧ぐ。(三)人力は此に至らず。(四)取らずんば必ず天殃(五)有らん。之を取る何如。(六)孟子對へて曰く、之を取りて而して燕の民悅ばば、則ち之を取れ。古の人之を行ふ者有り。(七)武王是れなり。之を取りて而して燕の民悅ばずんば、則ち取る勿れ。古の人之を行ふ者あり。(八)文王是れなり。萬乘の國を以て、萬乘の國を伐つ、簞食壺漿(九)して、以て王師を迎ふるは、豈に他あらんや、(一〇)水火を避けんと(一一)すれば、なり、水の益々深きが如く、(一二)火の益々熱きが如くならば、亦運らんのみ。(一三)

(一) 取りて自分の領地にする　(二) 五十日　(三) 破る　(四) 天の與へし所なりとの意なり　(五) 天のとがめなり
(六) 之を取り領有せんと思ひますが、先生の御考へは如何ですか　(七) 周の武王が紂の地を取りて殷人に喜ばれしを

聞レ誅ニ一夫紂一矣。未レ聞レ弑レ君也。

孟子見ニ齊宣王一曰。爲ニ巨室一。則必使ニ工師求ニ大木一。工師得ニ大木一。則王喜以爲三能勝ニ其任一也。匠人斲而小レ之。則王怒以爲レ不レ勝ニ其任一矣。夫人幼而學レ之。壯而欲レ行レ之。王曰。姑舍ニ女所レ學。而從レ我。則何如。今有レ璞ニ玉於此一。雖ニ萬鎰一。必使ニ玉

孟子齊の宣王に謂ひて(一)曰く、巨室(二)を爲くらば、則ち必ず工師(三)をして大木を求めしめん。工師大木を得ば、則ち王喜んで以て其任(四)に勝ふと爲さん。匠人斲りて而して之を小にせば、則ち王怒りて以て其任(五)に勝へずと爲さん。夫れ人幼にして之(六)を學び、壯にして之を行はんと欲す。王曰く、姑(七)く女が學ぶ所(八)を舍き我に從へと。則ち何如。今此に璞(九)玉あらば、萬鎰(一〇)と雖も、必ず玉人(一一)をして之を彫琢(一二)せしめん。國家を治むるに至りては、則ち曰く、姑(一三)く女が學ぶ所を舍て而して我に從へと。則ち何を以て玉人に玉を彫琢するを敎ふるに異ならんや。

(一) 朱註本謂を見に作る (二) 巨室は大宮なり (三) 匠人の長卽ち棟梁なり (四) 宮室を作るの任と解すべし、任の字を工師の任なりと解する說あるも不可なるが如し (五) 同上 (六) 之とは王者の道をいふ (七) 姑は且くなり (八) 己が學ぶ所は大にして王の我を從へんと欲する所は小なりと大木に對する工師と匠人との前例を引きて喩へて王の欲する所の不可なるを云へり (九) 石中にある玉卽ちあら玉なり (一〇) 鎰は二十兩なり (一一) 玉人は玉工なり (一二) 玉を磨き上げるを (一三) 王道は自家並生の主義覇道は齊王胸下の痼疾なり、自家の主義を舍て他人の痼

之。見ㇾ賢焉。然後用ㇾ之。左右皆曰。不可。勿ㇾ聽。諸大夫皆曰。不可。勿ㇾ聽。國人皆曰。不可。然後察ㇾ之。見二不可一焉。然後去ㇾ之。左右皆曰。可ㇾ殺。勿ㇾ聽。諸大夫皆曰。可ㇾ殺。勿ㇾ聽。國人皆曰。可ㇾ殺。然後察ㇾ之。見ㇾ可ㇾ殺焉。然後殺ㇾ之。故曰。國人殺ㇾ之也。如ㇾ此然後可三以爲二民父母一。

者今日惡を爲す當に誅亡すべきに王又之を誅亡するを知らずとて其臣を取るに心を用ひて詳審にせざるをいふ。朱註にては亡の字を亡去と訓ず、卽ち臣の亡げ去りしを王は知らずと釋す ㈥ 止むに止まれず仕方なしに用ひるが如くす ㈦ 卑者をして尊者を踰え、疏遠の者をして親しき者の上に立たしめんとするが故なり、そは賢者を拔擢する故にかくするなり ㈧ 或は殺しきものなり ㈨ 以下賢愚の鑑識及賞罰施行の具體的方法を記せり ㈩ 國の輿論を尊重するを以て一人の爲したる事も國人の爲したると同樣となるなり

齊宣王問曰。湯放ㇾ桀。武王伐ㇾ紂。有ㇾ諸。孟子對曰。於ㇾ傳有ㇾ之。曰。臣弑二其君一。可乎。曰。賊ㇾ仁者謂二之賊一。賊ㇾ義者謂二之殘一。殘賊之人。謂二之一夫一。

齊の宣王問うて、曰く、㈠湯桀を放ち、武王紂を伐つ。㈡諸れ有るか。孟子對へて曰く、㈢傳に於て之れ有り。曰く、臣にして其君を弑す、可なるか。曰く、㈣仁を賊ふ者之を賊と謂ひ、義を賊ふ者之を殘と謂ふ。殘賊の人は之を一夫と謂ふ。一夫の紂を誅するを聞けり。未だ君を弑するを聞かざるなり。

㈠ 湯王夏の桀王を南巢に放ち、周の武王殷の紂王を伐つ ㈡ 之れありや否や ㈢ 傳は傳文なり ㈣ 仁義を賊ふ者は民心背き天命去る故に身君位に在るも君主にあらず一の匹夫のみ、是れ支那古來の思想なり

孟子見二齊宣王一曰。所レ謂故國者。非レ謂下有二喬木一之謂上也。有二世臣一之謂也。王無二親臣一矣。昔者所レ進。今日不レ知二其亡一也。王曰。吾何以識二其不才一而舍レ之。曰。國君進レ賢如レ不レ得レ已。將レ使二卑踰レ尊。疏踰レ戚。可レ不レ愼與。左右皆曰。賢。未レ可也。諸大夫皆曰。賢。未レ可也。國人皆曰。賢。然後察レ

孟子齊の宣王に見えて曰く、所謂故國(一)とは、喬木(二)あるの謂を謂ふに非ざるなり。世臣(三)あるの謂なり。王は親臣(四)無し。昔者(五)進むる所、今日は其亡を知らざるなり。王曰く、吾何を以て其不才を識りて而して之を舍てん。曰く、國君賢を進むる已(六)むを得ざるが如くす。(七)將に卑をして尊に踰え疏をして(八)戚に踰えしめんとす、愼まざる可けんや。(九)左右皆曰ふ、賢と。未だ可ならざるなり。諸大夫皆曰ふ、賢と。未だ可ならざるなり。國人皆曰く、賢と。然る後之を察し、賢なるを見て、然る後之を用ふ。左右皆曰ふ、不可と。聽く勿れ。諸大夫皆曰ふ、不可と。聽く勿れ。國人皆曰ふ、不可と。然る後之を察し、不可なるを見て、然る後之を去る。左右皆曰ふ、殺す可しと。聽く勿れ。諸大夫皆曰ふ、殺す可しと。聽く勿れ。國人皆曰ふ、殺す可しと。然る後之を察し、殺す可きを見て、然る後之を殺す。故に曰ふ(一〇)、國人之を殺すと。此の如くして、然る後以て民の父母たる可し。

(一) 故は舊なり　(二) 高き木　(三) 世臣とは累世脩德の臣、譜代の臣　(四) 親任すべき臣　(五) 昔日進むところの

以爰方啓ㇾ行。王如好ㇾ貨與ニ百姓一同ㇾ之。於ㇾ王何有。王曰。寡人有ㇾ疾。寡人好ㇾ色。對曰。昔者大王好ㇾ色愛ニ厥妃一。詩云。古公亶父。來朝走ㇾ馬。率ニ西水滸一。至ニ于岐下一。爰及ニ姜女一。聿來胥ㇾ宇。當ニ是時一也。內無ニ怨女一。外無ニ曠夫一。王如好ㇾ色。與ニ百姓一同ㇾ之。於ㇾ王何有。

(一四) 宇は居なり、胥は相なり、蓋し此詩は周の先祖古公亶父即ち大王が戎狄の難を避けて西水の流に沿ひて岐山の下に至り、其妃と共に居るべき所を見たり、孟子は此詩を以て大王色を好むとせり　(一五) 夫を得ざる女　(一六) 妻を得ざる男なり

孟子謂ニ齊宣王一曰。王之臣有下託ニ其妻子於其友一而之ㇾ楚遊者上。比ニ其反一也。則凍ニ餒其妻子一。則如ㇾ之何。王曰。棄ㇾ之。曰。士師不ㇾ能ㇾ治ㇾ士。則如ㇾ之何。王曰已ㇾ之。曰。四境之內。不ㇾ治。則如ㇾ之何。王顧ニ左右一而言ㇾ他。

孟子齊の宣王に謂ひて曰く、王の臣、其妻子を其友に託して而して楚に之き遊ぶ者あらん。其の反るに比びて(一)、則ち其妻子を凍餒せしめば、則ち之を如何せん。王曰く、之を棄てん(二)。曰く、士師(三)士を治むる能はずんば、則ち之を如何せん。王曰く、之を已めん(四)。曰く、四境の内治まらずんば、則ち之を如何せん。王左(五)右を顧みて他を言ふ。

(一) 比は及ぶなり　(二) 其の友道に反するを以て棄逐せんの意　(三) 士師は獄官吏なり　(四) 免官せしめん　(五) 王黙して答ふる無く他事を言ふ

文王發ㇾ政施ㇾ仁。必先ニ斯四者一。詩云。哿矣富人。哀此煢獨。王曰。善哉言乎。曰。王如善ㇾ之。則何爲不ㇾ行。王曰。寡人有ㇾ疾。寡人好ㇾ貨。對曰。昔者公劉好ㇾ貨。詩云。乃積乃倉。乃裹ニ餱糧一。于ㇾ橐于ㇾ囊。思ニ戢用光一。弓矢斯張。干戈戚揚。爰方啓ㇾ行。故居者有ニ積倉一。行者有ニ裹糧一也。然後可ニ

む。對へて曰く、昔者大王(一六)色を好み、厥の妃(一七)を愛す。詩に(一八)云ふ、古公亶甫(一九)、來りて朝に馬を走らせ、西水(二一)の滸に率ひ、岐下(二二)に至り、爰に姜女(二三)と、聿に來り宇(二四)を胥る(二〇)と。是の時に當つて、內に怨女(二五)無く、外に曠夫(二六)無し。王如し色を好みて、百姓と之を同じくせば、王たるに於て何か有らん。

(一) 泰山の下の明堂をいふ、本周の天子東に巡狩し諸侯を朝するの處なり (二) 止むるなり (三) 王者の政治 (四) 岐山下に在りし國 (五) 井田の法は九百畝を八家にて百畝づゝ耕し其の內百畝を公田とし八家倶に之を耕し其收穫を政府に納むるが故に稅額は卽ち九分の一となる (六) 代々家祿を受け續ぐの意 (七) 關市の役人等は見張りをするのみにて關稅市稅を課せず、譏は察の意、征せずは稅を征せざるなり (八) 陂池に魚梁するに禁令なし (九) 孥子は妻子なり、人を罪するも其身に止まり妻子を併せ罰することはなかりき (一〇) 告訴する所無きなり (一一) 詩經小雅正月篇の詩 (一二) 哿は可なり、煢は單獨にして助なき貌、詩人が文王の無告者を恤む心事を述べて富人は猶は可なるも最も憐むべきは單獨にして助けなき窮民なりと (一三) 后稷の曾孫なり (一四) 詩經大雅公劉篇の詩 (一五) 積は屋外に露積する食物をいふ、餱糧は乾糧卽ちほしいなり、橐は底なき囊なり、戢は安集なり、戚揚の戚は斧、揚は鉞なり。蓋し此の詩の意は周の祖先公劉が都を豳に遷さんとするや居民の爲めに穀物を積み置き移民の爲めには糧食を裹み人民を安集して家國を光大にせんと思ひ干戈斧鉞を執り方めて途に上れりとなり (一六) 大王公劉九世の孫なり (一七) 姜女を指す (一八) 詩經大雅緜篇の詩 (一九) 古公は大王の諡號にして亶甫は大王の名なり、亶甫一に亶父に作る (二〇) 狄人の難を避けんとてなり (二一) 西河の沿岸を傳はる (二二) 岐山の麓 (二三) 大王の妃

乎。孟子對曰。夫明堂者王者之堂也。王欲行王政。則勿毀之矣。王曰。王政可得聞與。對曰。昔者文王之治岐也。耕者九一。仕者世祿。關市譏而不征。澤梁無禁。罪人不孥。老而無妻曰鰥。老而無夫曰寡。老而無子曰獨。幼而無父曰孤。此四者天下之窮民而無告者。

之を毀つ勿かれ。王曰く、王政聞くことを得べきか。對へて曰く、昔者文王の岐(四)を治むるや、耕(五)す者九が一、仕ふる者祿(六)を世ゝにす。關(七)市は譏して征せず。澤梁(八)は禁無く、人を罪すれど孥(九)せず。老いて妻なきを鰥と曰ひ、老いて夫なきを寡と曰ひ、老いて子なきを獨と曰ひ、幼にして父なきを孤と曰ふ。此四者は、天下の窮民にして、而して告(一〇)ぐるなき者なり。文王政を發し仁を施す、必ず斯の四者を先にす。詩(一一)に云ふ、哿(一二)なり富める人、哀む此煢獨をと。王曰く、善いかな言や。曰く、王如し之を善しとせば、則ち何爲れぞ行はざる。王曰く、寡人疾有り。寡人貨を好む。對へて曰く、昔者公劉(一三)貨を好む。詩(一四)に云ふ、乃ち積(一五)し乃ち倉し、乃ち餱糧を裹む、槖に嚢に、戢めて用て光いにせんことを思ふ。弓矢斯に張り、干戈戚揚、爰に方めて行を啓くと。故に居る者は積倉あり、行く者は裹糧あるなり。然る後以て爰に方めて行を啓く可し。王如し貨を好まば、百姓と之を同じくせば、王たるに於て何か有らん。王曰く、寡人疾有り。寡人色を好

吾何以助。一遊一豫爲二諸侯度一。今也不レ然。師行而糧食。飢者弗レ食。勞者弗レ息。睊睊胥讒。民乃作レ慝。方レ命虐レ民。飲食如レ流。流連荒亡。爲二諸侯憂一。從レ流下而忘レ反。謂二之流一。從レ流上而忘レ反。謂二之連一。從レ獸無レ厭。謂二之荒一。樂レ酒無レ厭。謂二之亡一。先王無二流連之樂。荒亡之行一。惟君所レ行也。景公說。大戒二於國一。出舍二於郊一。於レ是始興發補レ不レ足。召二大師一曰。爲レ我作二君臣相說之樂一。蓋徵招角招是也。其詩曰。畜レ君何尤。畜レ君者。好レ君也。

〔一一〕古の儀式制度 〔一二〕同上 〔一三〕事無くして空しく行くにあらざるなり 〔一四〕物資の不足 〔一五〕斂は收穫なり 〔一六〕勞力の不給 〔一七〕休息 〔一八〕豫は樂なり 〔一九〕諸侯も天子に法りて春秋に其境內を巡回するをいふ 〔二〇〕人君師を興し軍を行り其の上に糧食を徵發す 〔二一〕民をして糧食を運輸せしめ、民の飢ゑたる者も飽食するを得ず、勞したる者も休息する得ず 〔二二〕官員は同僚互に目を側て疾み視て相謗る 〔二三〕其結果人民心中に惡事を爲すに至る 〔二四〕方は君命を放棄するなり。朱註にては方逆なり、君命にさからふなりと 〔二五〕其意下文に明なり 〔二六〕先王の行は惟君の當に行ふべきところなりとの義、朱註にては先王の行を行ふも又或は流連荒亡するも御心次第ですと解す 〔二七〕景公の爲さんと欲する意を國中に告げしむ 〔二八〕將に身親ら賑給せんとするにより民の困窮を憂ふるを示すなり 〔二九〕惠政を興し米庫を開く 〔三〇〕樂師なり 〔三一〕君臣とは己と晏子となり 〔三二〕作る所の樂章の名なり。招は韶を通ず、韶は舜の樂なり、大師其聲に効ひて樂を作る、其調を徵と角とにせり、故に徵招・角招と云ふ 〔三三〕畜は愛なり 〔三四〕之れは孟子が上の君を畜するの語句を解釋せるなり

齊宣王問曰。人皆謂二我毀一明堂一。毀レ諸已

齊の宣王問うて、曰く、人皆我に明堂を毀てと謂ふ。(一)諸を毀たんか、已めんか。(二)

孟子對へて曰く、夫れ明堂は、王者の堂なり。王、(三)王政を行はんと欲せば則ち

吾欲下觀二於轉附朝儛一遵レ海而南放中于琅邪上。吾何脩而可三以比二於先王觀一也。晏子對曰。善哉問也。天子適二諸侯一曰二巡狩一。巡狩者。巡レ所レ守也。諸侯朝二於天子一曰二述職一。述職者。述レ所レ職也。無二非レ事者一。春省レ耕而補レ不レ足。秋省レ斂而助レ不レ給。夏諺曰。吾王不レ遊。吾何以休。吾王不レ豫。

一豫、諸侯(一九)の度と爲ると。今や然らず。師(二〇)行いて而して糧食す。飢者(二一)は食はず、勞者は息はず。睊睊(二二)として胥ひ讒り、(二三)民乃ち慝を作す。命を方し(二四)民を虐す。飲食流るゝが如く、流連荒亡(二五)、諸侯の憂となる。流に從ひ下りて而して反るを忘る、之を流と謂ふ。流に從ひ上り而して反るを忘る、之を連と謂ふ。獸に從ひ厭くなき、之を荒と謂ふ。酒を樂み厭くなき、之を亡と謂ふ。先王は流連の樂荒亡の行なし。(二六)惟君の行ふ所なり。景公說び、大いに國に戒め(二七)、出でて郊(二八)に舍し、是に於て始めて興發(二九)し足らざるを補ふ。(三〇)大師を召して曰く、我が爲めに君(三一)臣相說ぶの樂を作れと。蓋し(三二)徵招・角招是れなり。其詩に曰く、君を畜する(三三)何ぞ尤めん。(三四)君を畜するとは君を好するなり。

(一) 離宮の名なり　(二) 王は宮中に苑囿臺池以下の樂多きを以て此樂と稱せし也　(三) 上文を承けていふ民此樂を得ざる者は其君を非る　(四) 然れども民の上たる君となりて　(五) 其は君の代名詞なり　(六) 齊の大夫、名は嬰　(七) 轉附は今の山東省の芝罘なり、朝儛は成山卽ち召石なり、共に齊の境内にあり　(八) 齊の東南境に在る地名　(九) 放は至るなり　(一〇) 觀は遊觀なり、蓋し先王が地方の人民に歡迎せられたるが如くに美はしき遊觀に比すべきの意な

齊宣王見二孟子於雪宮一。王曰。賢者亦有二此樂一乎。孟子對曰。有。人不レ得。則非二其上一矣。不レ得而非二其上一者非也。爲二民上一而不下與レ民同レ樂者上亦非也。樂二民之樂一者。民亦樂二其樂一。憂二民之憂一者。民亦憂二其憂一。樂以二天下一。憂以二天下一。然而不レ王者。未二之有一也。昔者齊景公問二於晏子一曰。

齊の宣王、孟子を雪宮（一）に見る。王曰く、賢者も亦此樂み（二）有るか。孟子對へて曰く、有り、人（三）得ざれば則ち其上を非る。得ずして而して其上を非る者は非なり。民の上と爲り而して民と樂みを同じくせざる者も亦非なり。民の樂みを樂む者（四）は、民も亦其（五）樂みを樂む。民の憂を憂ふる者は、民も亦其憂を憂ふ。樂むに天下を以てし、憂ふるに天下を以てす。然り而うして王たらざる者は、未だ之れ有らざるなり。昔者齊の景公、晏子（六）に問うて、曰く、吾轉附朝儛（七）を觀て、海に遵ひ而うして南琅邪（八）に放らん（九）と欲す。吾何を脩めて而うして以て先王の觀（一〇）に比す可き。晏子對へて曰く、善きかな問や。天子諸侯に適くを巡狩（一一）と曰ふ。巡狩とは守る所を巡るなり。諸侯天子に朝するを述職（一二）と曰ふ。述職とは職とする所を述ぶるなり。事（一三）に非る者なし。春は耕を省みて而うして足らざるを補ひ（一四）、秋は斂る（一五）を省みて而うして給らざる（一六）を助く。夏の諺に曰く、吾が王遊ばずんば、吾れ何を以て休せん（一七）。吾が王豫（一八）せずんば、吾れ何を以て助からん。一遊

勇。夫撫レ劍疾視曰。彼惡敢當レ我哉。此匹夫之勇。敵二一人一者也。王請大レ之。詩云王赫斯怒。爰整二其旅一。以遏レ徂莒。以篤二周祜一。以對二于天下一。此文王之勇也。文王一怒而安二天下之民一。書曰。天降二下民一。作二之君一。作二之師一。惟曰三其助二上帝一。寵二之四方一。有レ罪無レ罪。惟我在。天下曷敢有レ越二厥志一。一人衡二行於天下一。武王恥レ之。此武王之勇也。而武王亦一怒而安二天下之民一。今王亦一怒而安二天下之民一。民惟恐二王之不一レ好レ勇也。

安んず。今王亦一たび怒りて而うして天下の民を安んぜば、民惟王の勇を好まざるを恐るゝなり。

(一) 彼我の分を忘れて專ら天の德を樂むものなり (二) 殷の湯王なり卽ち仁者にして大を以て能く小に事へたるものなり (三) 國名 (四) 西戎の國名 (五) 能く自己の分を守りて天の威を畏るゝものなり (六) 文王の祖父、古公亶父をいふ (七) 北狄にして而も强なるものなり (八) 越王句踐なり (九) 天命 (一〇) 詩經周頌我將篇の詩 (一一) 智者は時を量りて天を畏る故に能く其國を保つ卽ち大王句踐の如き是れなりとの意 (一二) 以下王の自ら短とする所によりて之を誘導啓發し以て道に入らしめんとす孟子得意の論法なり (一三) つまらぬ男の勇 (一四) 詩經大雅皇矣篇の詩 (一五) 言は文王赫然として斯に怒り是に於て其師旅を整へ以て往きて莒を伐つ者を遏止し以て周家の福を篤くして天下の仰望に答ふ之れ文王の勇なり (一六) 福なり (一七) 書經周書泰誓篇、但し文に少異あり意は天が世の人民を降生するや、其拔萃なるものを選んで之が君師となす、天は其君師となりたるものを能く天帝を助け民を安んずと云ひて特待し又尊寵す、其君主たるものは凡そ國民の罪あるも罪なきも予此にありて賞罰の大權を握り居れば汝等國民は決して寃枉を恐れて其志氣を失墜することなかるべしと民に告ぐと云ふ義なり (一八) 寵は尊寵なり (一九) 越は墜なり、おとすと訓ず (二〇) 一人とは殷の紂王を指す (二一) 橫行に同じ

有。惟仁者爲ニ
能以レ大事レ小。
是故湯事レ葛。
文王事ニ昆夷一。
惟智者爲ニ能一
以レ小事レ大。故
大王事ニ獯鬻一。
句踐事レ吳。以レ
大事レ小者、樂レ
天者也。以レ小
事レ大者。畏レ天
者也。樂レ天者。
保ニ天下一。畏レ天
者。保ニ其國一。詩
云。畏ニ天之威一
于レ時保レ之。王
曰。大哉言矣。
寡人有レ疾。寡
人好レ勇。對曰。
王請無レ好ニ小

ふ。惟智者のみ能く小(五)を以て大に事ふるを爲す。故に大王(六)は獯鬻(七)に事へ、句踐(八)は吳に事ふ。大を以て小に事ふる者は、天を樂む者なり。小を以て大に事ふる者は、(九)天を畏るゝ者なり。天を樂む者は天下を保つ。天を畏るゝ者は其國を保つ。(一〇)詩に云ふ、(一一)天の威を畏れ、時に于いて之を保つ。王曰く、大なるかな言、寡人疾有り、寡人勇を好む。對へて曰く、王請ふ小勇を好む無れ。(一二)夫の劍を撫で疾み視て、曰く、彼れ惡んぞ敢て我に當らんやと、此れ匹夫(一三)の勇にして、一人に敵する者なり。王請ふ之を大にせよ。(一四)詩に云ふ、(一五)王赫として斯に怒り、爰に其旅を整へ、以て莒に徂くを遏め、以て周の祜(一六)を篤くし、以て天下に對す。此れ文王の勇なり。文王一たび怒りて天下の民を安んず。(一七)書に曰く、天、下民を降し、之が君と作し、之が師と作す、惟れ其の上帝を助くるを曰うて、之を四方に寵(一八)す。罪有る罪無き惟我れ在り。天下曷ぞ敢へて厥の志(一九)を越す有らん。(二〇)一人天下に衡行(二一)するは、武王之を恥づ。此れ武王の勇なり。而して武王亦一たび怒りて而して天下の民を

傳有之。曰若是其大乎。曰。民猶以爲小也。曰。寡人之囿。方四十里。民猶以爲大。何也。曰。文王之囿。方七十里。芻蕘者往焉。雉兎者往焉。與民同之。民以爲小。不亦宜乎。臣始至於境。問國之大禁。然後敢入。臣聞郊關之内有囿方四十里。殺其麋鹿者。如殺人之罪。則是方四十里。爲阱於國中。民以爲大。不亦宜乎。

文王の囿は、方七十里、（三）芻蕘の者往き、（四）雉兎の者往く、民と與に之を同じくす。民以て小と爲すも亦宜ならずや。臣始めて境に至り、（五）國の大禁を問うて、然る後敢へて入る。臣聞く、（六）郊關の内に、囿方四十里あり。其（七）麋鹿を殺す者は、人を殺すの罪の如しと。則ち是れ方四十里にして、（八）阱を國中に爲るなり。民以て大と爲すも、亦宜ならずや。

（一）囿は動物を放牧せる所にて游覽狩獵の所なり、周の文王の囿をいふ　（二）傳は傳文なり　（三）芻は草、蕘は薪なり、牧童と樵夫とをいふ。蕘の字朱註には音「シヨ」とせり　（四）雉兎の者とは獵夫なり　（五）禮に國に入りて而して禁を問ふとあり、こゝに所謂國とは齊國なり　（六）郊關とは齊の四境の郊に皆關有り、其關の内を郊關の内といふ　（七）麋は澤獸にして鹿に似て鹿より大なり　（八）阱は獸類を捕獲するに陷阱を造る如く人民を罪する箇所を作る

齊宣王問曰。交鄰國有道乎。孟子對曰。

齊の宣王問うて曰く、隣國に交るに道あるか。孟子對へて曰く、有り。惟仁者のみ能く（一）大を以て小に事ふるを爲す。是の故に（二）湯は（三）葛に事へ、文王は（四）混夷に事

而相告曰。吾王之好鼓樂。夫何使我至於此極也。父子不相見。兄弟妻子離散。今王田獵於此。百姓聞王車馬之音。見羽旄之美。擧疾首蹙頞。而相告曰。吾王之好田獵。夫何使我至於此極也。父子不相見。兄弟妻子離散。此無他。不與民同樂也。今王鼓樂於此。百姓聞王鐘鼓之聲。管籥之音。擧欣欣然有喜色。而相告曰。吾王庶幾無疾病與。何以能鼓樂也。今王田獵於此。百姓聞王車馬之音。見羽旄之美。擧欣欣然有喜色。而相告曰。吾王庶幾無疾病與。何以能田獵也。此無他。與民同樂也。今王與百姓同樂。則王矣。

ばなり。今王百姓と與に樂みを同じくせば、則ち王たらん。

(一) 莊暴は齊の臣なり (二) 音樂なり (三) 治まるに近からんの義 (四) 莊暴の事 (五) 寡人とは王侯自稱の謙辭 (六) 舜の韶、周武王の大武の如き先王の定めし樂 (七) 世俗に流行する樂、所謂鄭聲なり (八) 由は猶に同じ、古今の音樂其性質は異なれども民と娛樂を同じくせば其價値は同一なり (九) 少は少人數なり (一〇) 音樂なり、音樂を爲すに樂器を鼓するより云ふ (一一) 鐘鼓管籥は皆樂器なり、管は三孔の笛籥は六孔の笛なりと (一二) 擧は皆なり (一三) 頞は額なり (一四) 蹙は聚なり (一五) 此悲痛の極に至らしめたるかとの怨言を出すなり (一六) 狩獵なり (一七) 羽旄とは鳥の羽のつける旗 (一八) 喜ぶ狀 (一九) 王の斯く鼓樂せるは疾病なき故ならんと慶賀する意なり

齊宣王問曰。文王之囿。方七十里。有諸。孟子對曰。於

齊の宣王問うて曰く、文王の囿は、方七十里と。諸れ有るか。孟子對へて曰く、(一)傳に於て之れ有り。曰く、是の若く其れ大なるか。曰く、民は猶ほ以て小と爲すなり。曰く、寡人の囿は、方四十里、民は猶ほ以て大と爲すは、何ぞや。曰く、

非三能好二先王之樂一也。直好二世俗之樂一耳。曰。王之好レ樂甚。則齊其庶幾乎。今之樂。由二古之樂一也。曰。可レ得レ聞與。曰。獨樂樂。與レ人樂樂。孰樂。曰。不レ若レ與レ人。曰。與レ少樂樂。與レ衆樂樂。孰樂。曰。不レ若レ與レ衆。臣請爲レ王言レ樂。今王鼓二樂於此一。百姓聞二王鐘鼓之聲。管籥之音一。擧疾レ首蹙レ頞。

もに樂して樂むと、孰れか樂しき。曰く、衆と與にするに若かざるなり。臣請ふ王の爲めに樂を言はん。今王此に鼓樂せん(一〇)。百姓王の鐘鼓(一一)の聲、管籥の音を聞き、擧(一二)な首を疾ましめ頞(一三)を蹙(一四)めて相告げて曰く、吾が王の鼓樂を好む、夫れ何ぞ我をして此極(一五)に至らしむるや。父子相見ず、兄弟妻子離散すと。今王此に田獵せん。百姓王の車馬の音を聞き、羽旄の美を見て、擧な首を疾ましめ頞を蹙(一六)めて相告げて曰く、吾が王の田獵を好む(一七)、夫れ何ぞ我をして此極に至らしむるや。父子相見ず、兄弟妻子離散すと。此れ他無し。民と與に樂を同じくせざるなり。今王此に鼓樂せん。百姓王の鐘鼓の聲、管籥の音を聞き、擧な欣(一八)欣然として喜色有り。而して相告げて曰く、吾が王庶幾くは疾病(一九)無きか、何ぞ以て能く鼓樂するや。今王此に田獵せん。百姓王の車馬の音を聞き、羽旄の美を見て、擧な欣欣然として喜色有り。而して相告げて曰く、吾が王庶幾くは疾病無きか、何を以て能く田獵するや。此れ他なし。民と與に樂みを同じくすれ

莊暴見孟子曰。暴見於王。王語暴以好樂。暴未有以對也。曰。好樂何如。孟子曰。王之好樂甚。則齊國其庶幾乎。他日見於王曰。王嘗語莊子以好樂。有諸。王變乎色曰。寡人

卷之二

梁惠王章句下

莊暴(一)、孟子に見えて曰く、暴、王に見ゆ。王、暴に語るに樂を好むを以てす。暴未だ以て對ふる有らざるなり。曰く、樂を好む何如。孟子曰く(二)、王の樂を好むこと甚しければ、則ち齊國其れ庶幾(三)からんか。他日王に見えて、曰く、王嘗て莊子(四)に語るに樂を好むを以てす。諸れ有るか。王、色を變じて、曰く、寡人(五)能く先王(六)の樂を好むに非ざるなり。直(七)世俗の樂を好むのみ。曰く、王の樂を好むこと甚しければ、則ち齊國其れ庶幾からんか。今の樂は由ほ(八)古の樂のごときなり。曰く、聞くを得可きか。曰く、獨り樂して樂むと、人と樂して樂むと、孰れか樂しき。曰く、人と與にするに若かず。曰く、少(九)と與に樂して樂むと、衆と與

禮義哉。王欲行之。則盍反其本矣。五畝之宅樹之以桑。五十者可以衣帛矣。雞豚狗彘之畜。無失其時。七十者可以食肉矣。百畝之田。勿奪其時。八口之家。可以無飢矣。謹庠序之教。申之以孝悌之義。頒白者不負戴於道路矣。老者衣帛食肉。黎民不飢不寒。然而不王者未之有也。

恆心。苟無二恆心一。放辟邪侈。無レ不レ爲已。及レ陷二於罪一。然後從而刑レ之。是罔レ民也。焉有二仁人在レ位。罔レ民而可レ爲也。是故明君制二民之產一。必使三仰足三以事二父母一。俯足ニ以畜二妻子一。樂歲終身飽。凶年免二於死亡一。然後驅而之レ善。故民之從レ之也輕。今也制二民之產一。仰不レ足三以事二父母一。俯不レ足三以畜二妻子一。樂歲終身苦。凶年不レ免二於死亡一。此惟救レ死而恐レ不レ贍。奚暇レ治二

儀を治むるに暇あらんや。王之を行はんと欲せば、則ち盍ぞ其本に反へらざる(二〇)。五畝の宅、之に樹うるに桑を以てせば、五十の者以て帛を衣る可し。雞豚狗彘の畜(二一)、其時を失ふ無くば、七十の者以て肉を食ふ可し。百畝の田、其時を奪ふ勿くば、八口の家以て飢うる無かる可し。庠序の教を謹み、之に申ぬるに孝悌の義を以てせば、頒白の者道路に負戴せず。老者は帛を衣肉を食ひ、黎民飢ゑず寒えず。然り而して王たらざる者は未だ之れ有らざるなり。

(一) 政令を煥發するなり (二) 仁は慈愛の德 (三) 貯藏 (四) 旅人 (五) 塗は道路なり (六) 疾惡、一說に疾(ヤ)ましめんと欲すと訓じて君を苦しむる意とす (七) 天下の賞罰の實權が齊王に歸するをいふ (八) 訴ふるなり (九) 惛は昏と同じ (一〇) 鈍物 (一一) こゝろむるなり (一二) 一定の產業 (一三) 則字は「どうかといふにそれは」云々といふが如き意味合ひなり (一四) 不正の行爲をなし、金錢を徒消するをいふ (一五) 罔は網に同じ、羅網を張つて不意にその中に追ひ込む意 (一六) 仰俯の二字にて長上及び目下に對する義を示す (一七) 豐年 (一八) 輕易なり (一九) 足るなり (二〇) 王者の仕方卽ち古の制度 (二一) 五畝の宅云々は民の產を制するの法なり、井田の法は孟子の高唱せし所にして旣に同文出でたり、こは王道の根本にして是を前文の甲兵を興し怨を諸侯に構ふと兩面對比し來れば王道と霸道との利害亦自ら分明ならん

王之朝。耕者皆欲レ耕二於王之野一。商賈皆欲レ藏二於王之市一。行旅皆欲レ出二於王之塗一。天下之欲レ疾二其君一者。皆欲レ赴二愬於王一。其若レ是。孰能禦レ之。王曰。吾惛不レ能レ進二於是一矣。願夫子輔二吾志一。明以敎レ我。我雖二不敏一。請嘗二試之一。曰。無二恆產一而有二恆心一者。惟士爲レ能。若レ民則無二恆產一。因無二

欲せしめ、行旅(四)をして皆王の塗(五)に出でんと欲せしめ、天下の其君を疾(六)まんと欲する者をして、皆王(七)に赴き愬(八)へんと欲せしむ。其れ是の如くば、孰れか能く之を禦めん。王曰く、吾れ惛(九)くして是に進むこと能はず。願くは夫子吾が志を輔け、明かに以て我を敎へよ。我れ不敏(一〇)と雖も、請ふ之を嘗試(一一)せん。曰く、恆產(一二)無くして恆心有る者は、惟士のみ能くするを爲す。民の若きは則ち(一三)恆產無ければ、因て恆心無し、苟も恆心無ければ、放辟邪侈(一四)、爲さざる無きのみ。罪に陷るに及び、然る後從うて之を刑す。是れ民を罔(一五)するなり。焉ぞ仁人位に在る有り、民を罔するを而も爲す可けんや。是の故に明君は民の產を制し、必ず仰いで以て父母に事ふるに足り、俯して以て妻子を畜ふに足り、樂歲(一七)には終身飽き(一六)、凶年には死亡に免れしめ、然る後驅りて善に之かしむ。故に民の之に從ふや輕し(一八)。今や民の產を制し、仰いで以て父母に事ふるに足らず、俯して以て妻子を畜ふに足らず。樂歲にも終身苦み、凶年には死亡に免れず。此れ惟死を救うて贍(一九)らざるを恐る。奚ぞ禮

曰。然則王之所大欲可知已。欲辟土地、朝秦楚、莅中國而撫四夷也。以若所爲。求若所欲。猶緣木而求魚也。王曰。若是其甚與。曰。殆有甚焉。緣木求魚。雖不得魚。無後災。以若所爲。求若所欲。盡心力而爲之。後必有災。曰。可得聞與。曰。鄒人與楚人戰。則王以爲孰勝。曰。楚人勝。曰。然則小固不可以敵大。寡固不可以敵衆。弱固不可以敵彊。海內之地。方千里者九。齊集有其一。以一服八。何以異於鄒敵楚哉。蓋亦反其本矣。

以て衆に敵す可からず。弱は固より以て彊に敵す可からず。海内の地、方千里なる者九、齊は集めて(一四)其一を有つ。一を以て八を服するは、何を以て鄒の楚に敵するに異ならんや。蓋ぞ(一五)亦其本(一六)に反らざる。

㊀ 抑は發語の辭なり、甲兵はよろひと武器、即ち戰爭のこと ㊁ 自ら好んで作り出すの義 ㊂ 大變に欲求し居る所、即ち土地なり、然かも王は殊更に婉曲に云ひしなり ㊃ 肥へて甘き食物 ㊄ 輕くして煖かなる衣服にて絹帛綾羅の類なり ㊅ 色彩ある立派なるもの、采は彩也 ㊆ 寵臣なり ㊇ 開廣にするなり ㊈ 朝は來朝せしむるなり ㊉ 莅は臨むなり (一一) 目的に對する手段の甚だ矛盾して畢竟得難きを云へるなり (一二) 申上げた比喩よりもまだ甚しいと申しませう (一三) 後日の災難 (一四) 領地を集めても其の一にしか相當しません (一五) 蓋は盍に通す (一六) 根本即ち王道の方法を云ふ

今王發政施仁。使天下仕者皆欲立於

今王政(一)を發し仁を施さば、天下の仕ふる者をして皆王の朝に立たんと欲せしめ、耕す者(二)をして皆王の野に耕さんと欲せしめ、商賈をして皆王の市に藏めん(三)と

快二於心一與。王曰。否。吾何快二於是一。將三以求二吾所二大欲一也。曰。王之所二大欲一。可レ得レ聞與。王笑而不レ言。曰。爲下肥甘不上レ足二於口一與。輕煖不レ足二於體一與。抑爲二采色不上レ足レ視二於目一與。聲音不レ足レ聽二於耳一與。便嬖不レ足レ使二令於前一與。王之諸臣。皆足二以供一レ之。而王豈爲レ是哉。曰。否。吾不レ爲レ是也。

るなり。曰く、王の大いに欲する所は、聞くを得べきか。王笑ひて言はず。曰く、(四)肥甘の口に足らざるが爲めか、(五)輕煖體に足らざるか、抑ゝ(六)采色目に視るに足らざるが爲めか、聲音耳に聽くに足らざるか、(七)便嬖前に使令するに足らざるか、王の諸臣皆以て之を供するに足れり。而して王豈に是が爲ならんや。曰く、否、吾是れが爲めならざるなり。曰く、然らば則ち王の大いに欲する所知る可きのみ。土地を辟き、(八)秦楚を朝し、(九)中國に莅みて(一〇)四夷を撫せんと欲するなり。若く爲す所を以て、若く欲する所を求むるは、猶ほ(一一)木に縁りて魚を求むるがごときなり。王曰く、是の若く其れ甚しきか。曰く、殆んど(一二)焉より甚しき有り。木に縁りて魚を求むるは、魚を得ずと雖も、後災なし、若く爲す所を以て、若く欲する所を求めば、心力を盡して、(一三)之を爲すも、後必ず災あらん。曰く、聞くを得べきか。曰く、鄒人と楚人と戰へば、則ち王以て孰れか勝と爲す。曰く、楚人勝たん。曰く、然らば則ち小は固より以て大に敵す可からず。寡は固より

超北海。語人曰。我不能。是誠不能也。爲長者折枝。語人曰。我不能。是不爲也。非不能也。故王之不王。非挾太山以超北海之類也。王之不王。是折枝之類也。老吾老。以及人之老。幼吾幼。以及人之幼。天下可運於掌。詩云。刑于寡妻。至于兄弟。以御于家邦。言擧斯心加諸彼而已。故推恩足以保四海。不推恩無以保妻子。古之人所以大過人者。無他焉。善推其所爲而已矣。今恩足以及禽獸。而功不至於百姓者。獨何與。權然後知輕重。度然後知長短。物皆然。心爲甚。王請度之。

度れ。

(一) 悅に同じ　(二) 詩經小雅巧言篇の詩　(三) 人の心を推しはかること　(四) 夫子（孟子をいふ）の如き人の事ならん　(五) 感動の貌　(六) 王道に合するなり　(七) 復は白なり　(八) 一鈞は三十斤にして百鈞とは[illegible]擧げ難きなり　(九) 毛は秋に至りて末鋭に小にして見え難きなり　(一〇) 車に載せたる薪也、大にして見易きものの例なり　(一一) 御承知なさいますか　(一二) 爲せば出來る事をせぬのである、するだけの能力がないと云ふのではない　(一三) 支那五嶽の一、齊魯の國境に在り　(一四) 齊の近海の海邊をいふ　(一五) 枝は肢也、按摩をするを云ふ　朱注にては草木の枝を折るとす　(一六) 自分の老者を敬し引き及ぼして他人の老者を敬す　(一七) 幼として愛するなり　(一八) 雜作もなく治められる　(一九) 詩經大雅思齊篇の詩　(二〇) 儀範を閨門に施し以て兄弟に至り、又此道を以て家邦の人に接す　(二一) 其の意味は　(二二) 寡妻兄弟を待する心　(二三) 推擴　(二四) 秤のおもりなり　(二五) 物尺なり　(二六) 心を量る事最も緊要なりと、或は心を量る事困難なりと其他諸説あり

抑王興甲兵。危士臣。構怨於諸侯。然後

抑〻王甲兵を興し、士臣を危くし、怨を諸侯に構へ、然る後、心に快きか。王曰く、否、吾何ぞ是を快しとせん。將に以て吾が大いに欲する所を求めんとす

足三以察二秋毫之末一而不レ見二輿薪一則王許レ之乎。曰。否。今恩足三以及二禽獸一而功不レ至二於百姓一者。獨何與。然則一羽之不レ擧。爲レ不レ用レ力焉。輿薪之不レ見。爲レ不レ用レ明焉。百姓之不レ見レ保。爲レ不レ用レ恩焉。故王之不レ王不レ爲也。非レ不レ能也。曰。不レ爲者與二不レ能者一之形。何以異。曰。挾二太山一以

曰く、爲さざる者と能はざる者との形は、何を以て異なる。曰く、太山(一三)を挾み以て北海(一四)を超えんと。人に語りて曰く、我能はずと。是れ誠に能はざるなり。長者の爲めに枝(一五)を折す。人に語りて曰く、我能はずと。是れ爲さざるなり。能はざるに非ざるなり。故に王の王たらざるは、太山を挾みて以て北海を超ゆるの類に非ざるなり。王の王たらざるは、是れ枝を折するの類なり。(一六)吾が老を老として、以て人の老に及ぼし、吾が幼を幼(一七)として、以て人の幼に及ぼさば、天下は掌(一八)に運す可し。(一九)詩に云ふ、寡妻(二〇)を刑し、兄弟に至り、以て家邦を御すと。言(二一)ふは(二二)斯の心を擧げて、諸を彼に加ふるのみ。故に恩を推せ(二三)ば、以て四海を保んずるに足り、恩を推さざれば、以て妻子を保んずるなし。古の人、大いに人に過ぐる所以の者他なし。善く其の爲す所を推すのみ。今恩は以て禽獸に及ぶに足り、而して功は百姓に至らざるは、獨り何ぞや。(二四)權ありて然る後に輕重を知り、度(二五)ありて然る後に長短を知る。物皆然り。心を甚(二六)しと爲す。王請ふ之を

觳觫若無罪而就死地。故以羊易之也。曰。王無異於百姓之以王爲愛也。以小易大。彼惡知之。王若隱其無罪而就死地。則牛羊何擇焉。王笑曰。是誠何心哉。我非愛其財而易之以羊也。宜乎百姓之謂我愛也。曰。無傷也。是乃仁術也。見牛未見羊也。君子之於禽獸也。見其生不忍見其死。聞其聲不忍食其肉。是以君子遠庖廚也。

王說曰。詩云。他人有心。予忖度之。夫子之謂也。夫我乃行之。反而求之。不得吾心。夫子言之。於我心有戚戚焉。此心之所以合於王者何也。曰。有復於王者。曰。吾力足以擧百鈞。而不足以擧一羽。明

王說んで曰く、詩に云ふ、他人心有り、予之を忖度すとは、夫子の謂ひなり。夫れ我乃ち之を行ひ、反つて之を求めて、吾が心に得ず。夫子之を言ひ、我が心に於て戚戚焉たるあり。此心の王に合ふ所以の者は何ぞや。曰く、王に復す者有り。曰く、吾が力以て百鈞を擧るに足る、而して以て一羽を擧ぐるに足らず、明は以て秋毫の末を察するに足る、而して輿薪を見ずと。則ち王之を許さんか。曰く、否。今恩は以て禽獸に及ぶに足り、而して功は百姓に至らざるは、獨り何ぞや。然らば則ち一羽の擧らざるは、力を用ひざるが爲めなり。輿薪の見えざるは、明を用ひざるが爲めなり。百姓の保んぜられざるは、恩を用ひざるが爲めなり。故に王の王たらざるは爲さざるなり。能はざるに非ざるなり。

者王見之曰。牛何之。對曰。將以釁鐘。王曰。舍之。吾不忍其觳觫若無罪而就死地。對曰。然則廢釁鐘與。曰。何可廢也。以羊易之。不識有諸。曰。有之。曰。是心足以王矣。百姓皆以王爲愛也。臣固知王之不忍也。王曰。然。誠有百姓者。齊國雖褊小。吾何愛一牛。卽不忍其

り。曰く、王百姓の王を以て愛むと爲すを異しむ(一五)無れ。小を以て大に易ふ、彼れ惡んぞ之を(一六)知らん。王若し其の罪無くして死地に就くを隱(一七)まば、則ち(一八)牛羊何ぞ擇ばん。王笑ひて曰く、是れ誠に何の心ぞや。我其財を愛んで、而して之に易ふるに羊を以てするに非ざるなり。宜なるかな、百姓の我を愛むと謂ふや。曰く、(一九)傷むなきなり。是れ乃ち仁の術(二〇)なり。牛を見て未だ羊を見ざればなり。君子の禽獸に於けるや、其生を見ては、其死を見るに忍びず。(二一)其聲を聞けば其肉を食ふに忍びず。是を以て君子は庖廚を遠ざくるなり。

(一) 姓は田氏、名は辟疆　(二) 齊の桓公晉の文公の覇たるの業　(三) 弟子　(四) 王道を稱する儒家は文武周公の道を順すと雖も五霸に及べば之を賤しむ、故に儒家は之を傳道する者なし　(五) 御答へしなければならぬとならば王道を說かんかとの義　(六) 保安　(七) 防ぎ止む　(八) 王左右の近臣なり　(九) 新に鐘を鑄て成りしにより之に牲血を塗りて祭るなり　(一〇) 恐懼の貌　(一一) 止む　(一二) 果して此の樣な事がありましたか　(一三) 牛は大、羊は小なるを以て百姓は王が財を惜みて牛に代ふるに羊を以てしたりと云ふ　(一四) ほんとに百姓などいふ者は自分のさもしい心からそんな考へ方もしよう　(一五) 怪なり　(一六) 王の心情　(一七) 隱は痛なり　(一八) 牛も羊も二色はない筈　(一九) 百姓の言ありと雖も害と爲さざるなり　(二〇) 仕方なり　(二一) 其の鳴聲なり、又一說に死ぬる時の聲と

齊桓晉文之事、可レ得レ聞乎。孟子對曰。仲尼之徒。無下道二桓文之事一者上。是以後世無レ傳焉。臣未二之聞一也。無レ以則王乎。曰。德何如則可二以王一矣。曰。保レ民而王。莫二之能禦一也。曰。若二寡人一者可二以保一レ民乎哉。曰。可。曰。何由知二吾可一也。曰。臣聞二之胡齕一。曰。王坐二於堂上一。有下牽レ牛而過二堂下一

の徒(三)は、桓文(四)の事を道ふ者なし。是を以て後世傳ふるなし。臣未だ之を聞かざるなり。以む(五)なくんば則ち王か。曰く、德何如なれば、則ち以て王たる可き。曰く、民を保んじ(六)て王たらば、之を能く禦ぐ(七)莫きなり。曰く、寡人の若き者以て民を保んず可きか。曰く、可。曰く、何に由りて吾が可なるを知るや。曰く、臣之を胡齕(八)に聞く、曰く、王堂上に坐す。牛を牽いて堂下を過ぐる者あり。王之を見て曰く、牛何くに之く。對へて曰く、將に以て鐘(九)に釁らんとすと。王曰く、之を舍け。吾其の觳觫(一〇)として罪無くして死地に就くが若くなるに忍びず。對へて曰く、然らば則ち鐘に釁るを廢せん(一一)か。曰く、何ぞ廢す可けん。羊を以て、之に易へよと。識らず(一二)諸ありや。曰く、之れ有り。曰く、是の心以て王たるに足る。百姓(一三)皆王を以て愛しむと爲すなり。臣は固より王の忍びざるを知る。王曰く、然り。誠に(一四)百姓なる者あり。齊國褊小と雖も、吾何ぞ一牛を愛まんや。卽ち其觳觫として罪なくして死地に就くが若くなるに忍びず。故に羊を以て之に易ふるな

惡乎定。吾對曰、定二于一一。孰能一レ之。對曰。不レ嗜レ殺レ人者能一レ之。孰能與レ之。對曰。天下莫レ不レ與也。王知二夫苗一乎。七八月之間。旱則苗槁矣。天油然作レ雲。沛然下レ雨。則苗浡然興レ之矣。其如レ是孰能禦レ之。今夫天下之人牧。未レ有二不レ嗜レ殺レ人者一也。如有二不レ嗜レ殺レ人者一。則天下之民皆引レ領而望レ之矣。誠如レ是也。民歸レ之由二水之就一レ下沛然一。誰能禦レ之。

なり。王、夫の苗を知るか。七八月の間、旱すれば則ち苗槁る。天油然(六)として雲を作し、沛然(七)として雨を下せば、則ち苗浡然(八)として之に興る。其れ是の如くば、孰か能く之を禦め(九)ん。今夫れ天下の人牧(一〇)、未だ人を殺すを嗜まざる者あらざるなり。如し人を殺すを嗜まざる者あらば、則ち天下の民皆領を引きて(一一)、之を望まん。誠に是の如くならば民の之に歸する(一二)、由ほ水の下に就き沛然たるがごとし。誰か能く之を禦めん。

(一) 梁の惠王の子、名は赫　(二) 儼然たる威儀なければなり　(三) 輕卒なる狀　(四) 亂れたる天下を何人が平定するやの意　(五) 天下の必ず一統せらるべきをいふなり　(六) 雲の盛なる貌　(七) 雨の盛なる貌　(八) 興起の貌　(九) 禁止するなり　(一〇) 人君なり　(一一) 首を長くして　(一二) 歸服す

齊宣王問曰。

齊の宣王(一)問うて曰く、齊桓・晉文(二)の事、聞くを得べきか。孟子對へて曰く、仲尼

耨。壯者以暇日修其孝悌忠信。入以事其父兄。出以事其長上。可使制梃以撻秦楚之堅甲利兵矣。彼奪其民時。使不得耕耨以養其父母。父母凍餓。兄弟妻子離散。彼陷溺其民。王往而征之。夫誰與王敵。故曰。仁者無敵。王請勿疑。

ふ　(二) 長老の稱、孟子を指して云へるなり　(三) 惠王三十年に馬陵の役に敗れ、太子申生虜となりて死亡せり　(四) 秦の孝公衞鞅をして梁を伐たしむ　(五) 楚のために七邑を失へるを曰ふ　(六) 一に死者の比（タメ）にと訓ず　(七) 以上の三の恥辱を洒ぐ　(八) 百里四方を云ふ、周の文王の百里の地を以て天下に王たるに至れる先例あり　(九) 小過失は咎めず　(一〇) 稅斂を薄くするは仁政の大目なり　(一一) 易は治なり、易め耨るは穀物の間の草を十分にとること。或は（タヒラカニ）と訓ず、一面によく手入の屆く義也　(一二) 歲三十以上の壯者を仕事の餘暇の日に敎育す　(一三) 家庭に入りては　(一四) 家庭を出でては　(一五) 制は掣なり、杖をひつさげてそれで以て秦楚の强兵をたゝきつける事が出來る　(一六) 敵國を云ふ　(一七) 田畑の收穫を得ること　(一八) 陷は穽に陷るなり、溺は水に溺るゝなり　(一九) 征は正なり、彼の其民を暴虐する罪を正して征伐すること　(二〇) 古語を引く

孟子見梁襄王。出語人曰。望之不似人君。就之而不見所畏焉。卒然問曰。天下

孟子梁の襄王に見ゆ。出でて人に語りて曰く、之を望むに人君に似ず。之に就きて畏るゝ所を見ず。卒然として問うて曰く、天下惡にか定らん。吾對へて曰く、一に定まらん。孰か能く之を一にせん。對へて曰く、人を殺すを嗜まざる者能く之を一にせん。孰か能く之に與せん。對へて曰く、天下與せざる莫き

俑者其無レ後乎。爲二其象レ人而用一レ之也。如レ之何其使二斯民飢而死一也。

梁惠王曰。晉國天下莫レ強レ焉。叟之所レ知也。及二寡人之身一。東敗二於齊一。長子死焉。西喪二地於秦一。七百里。南辱二於楚一。寡人恥レ之。願比二死者一一洒レ之。如レ之何則可。孟子對曰。地方百里。而可二以王一。王如施二仁政於民一。省二刑罰一。薄二稅斂一。深耕易

梁の惠王曰く、晉國(一)は天下焉より彊き莫きは、叟(二)の知れる所なり。寡人の身に及び、東は齊(三)に敗られ長子死す。西は地(四)を秦に喪ふ七百里。南は楚(五)に辱しめらる。寡人之を恥づ。願くは死する(六)ときまでに壹(七)たび之を洒がん、之を如何にせば則ち可ならん。孟子對へて曰く、地方(八)百里にして而して以て王たる可し。王如し仁政を民に施し、刑罰(九)を省き稅斂(一〇)を薄くし、深く耕し易(一一)め耨り、壯者(一二)は暇日を以て、其孝悌忠信を脩め、入(一三)りては以て其父兄に事へ、出(一四)でては以て其長上に事へば、梃(一五)を制して以て秦楚の堅甲利兵を撻たしむ可し。彼(一六)は其民の時を奪ひ、耕耨(一七)して以て其父母を養ふを得ざらしむ。父母凍餓し、兄弟妻子離散す。彼は其民を陷溺(一八)す。王往きて之を征(一九)せば、夫れ誰か王と敵せん。故に曰く、仁者(二〇)は敵無しと。王請ふ疑ふ勿れ。

(一) 魏(梁)は本晉の大夫魏斯が韓氏趙氏と共に晉地を分ち號して三晉と曰ふ、故に惠王は猶は自ら自國を晉國と謂

梁惠王曰。寡人願安承レ教。孟子對曰殺レ人以レ梃與レ刃。有二以異一乎。曰。無二以異一也。以レ刃與レ政。有二以異一乎。曰。無二以異一也。曰。庖有二肥肉一。廐有二肥馬一。民有二飢色一。野有二餓莩一。此率レ獸而食レ人也。獸相食。且人惡レ之。爲二民父母一行レ政。不レ免三於率レ獸而食レ人。惡在三其爲二民父母一也。仲尼曰。始作レ

梁の惠王曰く、(一)寡人願くは(二)安じて教を承けん。孟子對へて曰く、人を殺すに梃を以てすると(三)刃と以て異なる有るか。曰く、以て異なるなきなり。刃を以てすると(四)政と以て異なるあるか。曰く、以て異なる無きなり。曰く、(五)庖に肥肉有り、廐に肥馬有り、民に飢色有り、野に(六)餓莩有り。此れ獸を率ゐて人を食ましむるなり。獸相食むすら、且つ人之を惡む。(七)民の父母と爲り、政を行うて獸を率ゐて人を食ますを免れず。惡ぞ其の民の父母たるに在らん。仲尼曰く、始めて(八)俑を作る者は、其れ(九)後なからんかと。(一〇)其の人に象りて之を用ふるが爲めなり。之を如何ぞ、其れ斯の民をして飢ゑて死なしめん。

(一)諸侯の自稱にして寡德の人の義 (二)意を安んじて (三)刃を以てするとの義 (四)政を以てするとの義 (五)臺所 (六)餓死者 (七)君王は民が父母とも恃む所なり (八)俑は葬のときに用ふる木偶人なり、古の葬には草を束ねて人と爲し以て從衞となし之を芻靈といへり、略人形に似たるのみ、中古之に易ふるに俑を以てせし爲め面目機發ありて太だ人に酷似せり故に孔子其不仁を惡まれしなり。禮記檀弓下參照 (九)子孫を云ふ (一〇)俑の形の人に似たるを云ふ

以レ時入二山林一。材木不レ可二勝用一也。穀與二魚鼈一不レ可二勝食一。材木不レ可二勝用一。是使二民養レ生喪レ死無レ憾也。養レ生喪レ死無レ憾。王道之始也。五畝之宅。樹レ之以レ桑。五十者可二以衣レ帛矣。雞豚狗彘之畜。無レ失二其時一。七十者可二以食レ肉矣。百畝之田。勿レ奪二其時一。數口之家。可二以無レ飢矣。謹二庠序之教一。申レ之以二孝悌之義一。頒白者。不レ負二戴於道路一矣。七十者衣レ帛食レ肉。黎民不レ飢不レ寒。然而不レ王者。未二之有一也。狗彘食二人食一而不レ知レ檢。塗者二餓莩一。而不レ知レ發。人死。則曰。非レ我也歲也。是何異三於刺レ人而殺レ之曰二非レ我也兵也。王無レ罪レ歲。斯天下之民至焉。

(一) 諸侯自ら稱して寡人といふ、之れ德の寡き義にて謙辭なり (二) 河内河東共に魏の領地 (三) 河東の粟なり (四) 減少せず (五) 塡は鼓音なり、戰は初に鼓を擊ちて戰鬪を開始し、金を擊ちて戰鬪を終止す (六) 兵は兵器なり (七) 步とは普通六尺をいへども、此所にては唯五十步百步と人の步數に見れば可なり (八) 百步でないと云ふだけである (九) 民を使ふに農時のひまなときに使ひ、農の時に違はざる樣にす (一〇) 食ひ盡す事は出來ない (一一) 目の細き網をいふ (一二) 水の聚まる所 (一三) 伐材の具、大なるを斧と云ひ、小なるを斤といふ (一四) 落葉の時節 (一五) 生命を養ひ死後の喪を弔ひ始末する (一六) 天下に王たる道 (一七) 井田の制一井田九百畝を百畝宛九區に分け、其一を公田とし、餘を八家に分與して耕さしめ時を以て北田を易ふるなり、之に對して又別に各々屋を建て野菜果樹等を植うるの地を給し、此は不易とす、之を五畝の宅といふ (一八) 絹物 (一九) 犬やゐのことをいふ、畜は養なり (二〇) 上農夫は九人、上の次は八人、中は七人、中の次ぎは六人、下は五人を養ふの別あり、此には上中下を通じて言ふ、故に單に數口といふなり (二一) 今日の所謂學校教育、殷には庠といひ、周には序といふに據る (二二) 父母に事ふるを孝といひ、兄に事ふるを悌といふ (二三) 頒は斑なり、頭髮が白黑相半ばするをいふ、即ち老人のこと (二四) 物を背負ひ又は頭に戴くこと (二五) 衆民なり (二六) 狗彘に人の食ふべきものを食はしめて之れを養ひ取締る事を知らず (二七) 路上に餓死者ありても倉廩を開きて民を救ふことを知らず

孟子對曰。王好レ戰。請以レ戰喩。塡然鼓レ之。兵刃既接。棄レ甲曳レ兵而走。或百步而後止。或五十步而後止。以二五十步一笑二百步一則何如。曰。不可。直不二百步一耳。是亦走也。曰。王如知レ此。則無レ望三民之多二於鄰國一也。不レ違二農時一。穀不レ可二勝食一也。數罟不レ入二洿池一。魚鼈不レ可二勝食一也。斧斤

れば、穀勝げて食ふ可からざるなり。數罟洿池に入らざれば、魚鼈勝げて食ふ可からざるなり。斧斤時を以て山林に入れば、材木勝げて用ふ可からざるなり。穀と魚鼈を勝げて食ふ可からず、材木勝げて用ふ可からざるは、是れ民をして生を養ひ死を喪して憾み無からしむるなり。生を養ひ死を喪して憾みなきは、王道の始なり。五畝の宅、之に樹うるに桑を以てせば、五十の者以て帛を衣る可し、雞豚狗彘の畜、其時を失ふなくば、七十の者以て肉を食ふ可し。百畝の田、其時を奪ふ勿くば、數口の家、以て飢うるなかる可し。庠序の敎を謹み、之に申ぬるに孝悌の義を以てせば、頒白の者、道路に負戴せず、七十の者帛を衣肉に食ひ、黎氏飢ゑず寒えずして、然して王たらざる者は、未だ之れ有らざるなり。狗彘人の食を食して檢するを知らず。塗に餓莩有りて發するを知らず。人死すれば則ち曰く、我に非ざるなり歲なりと。是れ何ぞ人を刺して之を殺し、我に非ざるなり兵なりと曰ふに異ならん。王、歲を罪することなくば、斯に天下の民至らん。

靈臺。謂其沼曰靈沼。樂其有麋鹿魚鼈。古人之與民偕樂。故能樂也。湯誓曰。時日害喪。予及女偕亡。民欲與之偕亡。雖有臺池鳥獸。豈能獨樂哉。

し、日亡びば吾乃ち亡びんのみと。民其の虐に困しみ其自言に因りて而して之を目して曰く、此の日何時か亡びん、若し亡びは則ち我寧ろ之と與に亡びんと、蓋し其亡ぶるを欲するの甚しきなり

梁惠王曰。寡人之於國也。盡心焉耳矣。河內凶則移其民於河東。移其粟於河內。河東凶亦然。察鄰國之政。無如寡人之用心者。鄰國之民不加少。寡人之民不加多何也。

梁の惠王曰く、(一)寡人の國に於けるや、心を盡くすのみ。河内凶なれば、則ち其民を河東に移し、(二)其粟を河内に移す。河東凶なるも亦然り。(三)鄰國の政を察するに、寡人の心を用ふるが如き者無し。鄰國の民少きを加へず、寡人の民多きを加へざるは何ぞや。孟子對へて曰く、王戰を好めり。(四)請ふ戰を以て喩へん。(五)塡然として之に鼓し、兵刃既に接し、甲を棄て兵を曳いて走る。(六)或は百歩(七)にして而る後に止まり、或は五十歩にして而る後に止る。五十歩を以て、百歩を笑はば、則ち何如。曰く、不可なり。(八)直百歩ならざるのみ、是れ亦走るなり。曰く、王如し此を知らば、則ち民の鄰國より多きを望む無れ。(九)農の時に違はざ

上。顧二鴻鴈麋鹿一曰。賢者亦樂レ此乎。孟子對曰。賢者而後樂レ此。不賢者雖レ有レ此不レ樂也。詩云。經二始靈臺一。經レ之營レ之。庶民攻レ之。不レ日成レ之。經始勿レ亟。庶民子來。王在二靈囿一。麀鹿攸レ伏。麀鹿濯濯。白鳥鶴鶴。王在二靈沼一。於物魚躍。文王以二民力一。爲レ臺爲レ沼。而民歡二樂之一。謂二其臺一曰二

も樂まざるなり。詩に云ふ、(四)靈臺を經始し、(五)之を經し之を營す。(六)庶民之を攻む、日ならずして之を成す。經始(七)亟にするなかれ、庶民子のごとく來る。(八)王靈囿に(九)在れば、麀鹿伏す攸、(一〇)(一一)麀鹿濯濯たり。(一二)白鳥鶴鶴たり。(一三)王靈沼に在れば、於物ちて(一四)(一五)魚躍ると。(一六)文王民の力を以て、臺を爲り、沼を爲る。民之を歡樂す。其臺を謂ひて靈臺と曰ひ、其沼を謂ひて靈沼と曰ふ。其麋鹿魚鼈有るを樂む。古の人は民と偕に樂む。故に能く樂むなり。(一七)湯誓に曰く、時の日害か喪びん、予女と偕に亡びんと。民之と偕に亡びんと欲せば、臺池鳥獸有りと雖も、豈に能く獨り樂まんや。

(一) 沼は池なり (二) 鴻は雁に似て大なるもの麋は鹿に似て大なるものなり (三) 而後は初めてと同じ (四) 詩經大雅靈臺篇の詩、靈臺は文王の臺の名なり (五) 經始は度り始むるなり營は繩張りを爲すなり (六) 衆民 (七) 亟は速なり、言は文王亟にする勿れと戒しむるなり (八) 子供の來りて親の用を爲す如く樂み來る (九) 靈臺の下に園あり、靈囿といふ、鳥獸を放牧する所を囿といふ (一〇) 麀は牝鹿なり (一一) 其所に安じて驚動せざるなり (一二) 肥澤の貌 (一三) 潔白の貌 (一四) 於は歎美の辭 (一五) 牣は滿なり (一六) 周の文王をいふ (一七) 湯誓は尚書の篇名なり、時は是なり、日は夏の桀王を指す、害は何なり、桀王嘗て自ら言ひて曰く、吾天下を有つ天の日を有つが如

交征レ利。而國危矣。萬乘之國弑二其君一者。必千乘之家。千乘之國弑二其君一者。必百乘之家。萬取レ千焉。千取レ百焉。不レ爲レ不レ多矣。苟爲レ後レ義而先レ利。不レ奪不レ饜。未レ有下仁而遺二其親一者上也。未レ有下義而後二其君一者上也。王亦曰二仁義一。而已矣。何必曰レ利。

孟子見二梁惠王一。王立二於沼

り。王亦仁義と曰はんのみ。何ぞ必ずしも利と曰はん。

(一) 孟は姓、子は男子の美稱 (二) 魏侯罃なり、諡して惠といふ、大梁に都す、故に梁の惠王といふ、其三十五年禮を卑くし幣を厚くして以て賢者を招けり (三) 叟は長老の稱 (四) 利とは蓋し富國強兵の類なり、對ふは尊長に敬みて答ふる意 (五) 仁とは慈愛の德にして義とは事の宜しきなり、此の仁義の說は孟子の學說の一大特徴にして、蓋し當時の時勢に憤慨して殊に仁義の二大字を高唱せしならん、本文中、亦有二仁義一而已矣と云へるは、古の帝王の如く今王も仁義を行はんのみとの意也 (六) 家老 (七) 大夫以下の者 (八) 平民 (九) 上位の者は下位の者から利を征らんとし、下位の者は上位の者から利を征らんとす (一〇) 古は戰に車を用ひたり、故に封地の大小を車數にて示す、兵車一乘は士三人卒七十二人なり。而して萬乘の國は周制によれば元來天子の位なるも當時制度亂れて大諸侯の意に用ひたり、卽ち當時の大國齊楚の如きを云ふ (一一) 千乘の家とは周制によれば天子の公卿及び諸侯をいふ、されど當時にては大諸侯の家老 (一二) 千乘の國とは小諸侯の意 (一三) 小諸侯の家老 (一四) 萬、千、百、は上文の萬乘千乘百乘を受けていふなり。大國の萬乘中に於て家老は其千乘を取るなり。卽ち十分の一を受け取らば、不足はあるまい筈だとの意 (一五) 苟は誠なり (一六) 利と云ふ事を先行條件とするなれば、與へられるのみては滿足出來ずして奪ひ取らねば飽き足るまい (一七) 遺すとは其親を棄つるなり、後にすとは其君を輕んずるなり

孟子梁の惠王に見ゆ。王沼(一)の上に立ち、鴻鴈麋鹿(二)を顧みて曰く、賢者も亦此を樂むか。孟子對へて曰く、賢者にして而る(三)後此を樂む。不賢者は此れ有りと雖

孟子見二梁惠王一。王曰。叟不レ遠二千里一而來。亦將レ有三以利二吾國一乎。孟子對曰。王何必曰レ利。亦有二仁義一而已矣。王曰三何以利二吾國一。大夫曰三何以利二吾家一。士庶人曰三何以利二吾身一。上下

孟子 巻之一

梁惠王章句上

孟子梁の惠王に見ゆ。王曰く、叟千里を遠しとせずして來る。亦將に以て吾が國を利する有らんとするか。孟子對へて曰く、王何ぞ必ずしも利と曰ん、亦仁義有るのみ。王は何を以て吾が國を利せんと曰ひ、大夫は何を以て吾が家を利せんと曰ひ、士庶人は何を以て吾が身を利せんと曰ひ、上下交〻利を征りて國危し。萬乘の國、其君を弑する者は、必ず千乘の家なり。千乘の國、其君を弑する者は、必ず百乘の家なり。萬に千を取り、千に百を取らば、多からずと爲さず。苟に義を後にして利を先にするを爲さば、奪はずんば饜かず。未だ仁にして其親を遺する者は有らざるなり。未だ義にして其君を後にする者は有らざるな

處二天地懸隔。

說一箇志。孟子便說許多養氣出來。只此二字其功甚多。○又曰。孟子有大功於世以其言性善也。○又曰。孟子性善養氣之論皆前聖所未發。○又曰。學者全要識時。不足以言學。顏子陋巷自樂。以有孔子在焉。若孟子之時。世既無人。安可不以道自任。○又曰。孟子有些英氣。才有英氣。便有圭角。英氣甚害事。如顏子便渾厚不同。顏子去聖人只毫髮間。孟子大賢亞聖之次也。或曰。英氣見於甚處。曰。但以孔子之言比之便可見。且如冰與水精。非不光。比之玉自是有溫潤含蓄氣象。無許多光耀也。

揚子曰。孟子一書。只是要正人心。教人存心養性。收其放心。至論仁義禮智。則以惻隱羞惡辭讓是非之心爲之端。論邪說之害。則曰生於其心害於其政。論事君。則曰格君心之非一正君而國定。千變萬化。只說從心上來。人能正心則事無足爲者矣。大學之脩身齊家治國平天下。其本只是正心誠意而已。心得其正。然後知性之善。故孟子遇人便道性善。歐陽永叔卻言。聖人之教人。性非所先。可謂誤矣。人性上不可添一物。堯舜所以爲萬世法。亦是率性而已。所謂率性。循天理是也。外邊用計用數。假饒立得功業。只是人欲之私。與聖賢作

之孔子。孔子傳之孟軻。軻之死不得其傳焉。荀與揚也擇焉而不精。語焉而不詳。程子曰、韓子此語、非是蹈襲前人、又非鑿空撰得出、必有所見、若無所見、不知言所傳者何事。○又曰。孟氏醇乎醇者也。荀與揚大醇而小疵。程子曰、韓子論孟子甚善、非見得孟子之意、亦道不到、其論荀揚則非也、荀子極偏駁、只一句性惡、大本已失、揚子雖少過、然亦不識性、更說甚道。○又曰。孔子之道大而能博。門弟子不能徧觀而盡識也。故學焉而皆得其性之所近。其後離散分處諸侯之國。又各以其所能授弟子。源遠而末益分。惟孟軻師子思。而子思之學。出於曾子。自孔子沒。獨孟軻氏之傳得其宗。故求觀聖人之道者。必自孟子始。程子曰。孔子言、參也魯、然顏子沒後。終得聖人之道者、曾子也、觀其啓手足時之言可以見矣、所傳者、子思孟子皆其學也、○又曰。揚子雲曰。古者楊墨塞路。孟子辭而闢之廓如也。夫楊墨行正道廢。孟子雖賢聖。不得位。空言無施。雖切何補。然賴其言。而今之學者。尚知宗孔氏崇仁義貴王賤霸而已。其大經大法。皆亡滅而不救。壞爛而不收。所謂存十一於千百。安在其能廓如也。然向無孟氏。則皆服左袵。而言侏離矣。故愈嘗推尊孟氏。以爲功不在禹下者爲此也。

或問於程子曰。孟子還可謂聖人否。程子曰。未敢便道他是聖人。然學已到至處。愚按至字恐當作聖字。

○程子又曰。孟子有功於聖門不可勝言。仲尼只說一箇仁字。孟子開口便說仁義。仲尼只

孟子

朱熹集註序說

史記列傳曰。孟軻（趙氏曰、孟子魯公族孟孫之後、漢書注云、字子車、一說字子與、）騶人也。（騶亦作鄒、本邾國也、）受業子思之門人。（子思、孔子之孫名伋、索隱云、王劭以人爲衍字、而趙氏註及孔叢子等書、亦皆云、孟子親受業於子思、未知是否、）道既通。（趙氏曰、孟子通五經、尤長於詩書、程子曰、孟子曰、可以仕則仕、可以止則止、可以久則久、可以速則速、孔子聖之時者也、故知易者莫如孟子、又曰、王者之迹熄而詩亡、詩亡然後春秋作、又曰、春秋無義戰、又曰、春秋天子之事、故知春秋者、莫如孟子、尹氏曰、以此而言、則趙子謂孟子長於詩書而已、豈知孟子者哉、）游事齊宣王。宣王不能用。適梁。梁惠王不果所言。則見以爲迂遠而闊於事情。（按史記、梁惠王之三十五年乙酉、孟子始至梁、其後二十三年、當齊湣王之十年丁未、齊人伐燕、而孟子在齊。故古史謂、孟子先事齊宣王、後乃見梁惠王襄王齊湣王、獨孟子以伐燕爲宣王時事。與史記荀子等書皆不合、而通鑑以伐燕之歲爲宣王十九年、則是孟子先遊梁而後至齊見宣王矣、然考異亦無他據、又未知孰是也、）當是之時。秦用商鞅。楚魏用吳起。齊用孫子田忌。天下方務於合從連衡。以攻伐爲賢。而孟軻乃述唐虞三代之德。是以所如者不合。退而與萬章之徒。序詩書。述仲尼之意。作孟子七篇。（趙氏曰。凡二百六十一章、三萬四千六百八十五字、韓子曰、孟軻之書、非軻自著、軻既沒、其徒萬章公孫丑相與記軻所言焉耳。愚按二說不同、史記近是、）

韓子曰。堯以是傳之舜。舜以是傳之禹。禹以是傳之湯。湯以是傳之文武周公。文武周公傳

謂二之賊一。猶之與レ人也。出納之吝。謂二之有司一。〇子曰。不レ知レ命。無三以爲二君子一也。不レ知レ禮。無二以立一也。不レ知レ言。無三以知二人也。

論語終

利而利レ之。斯不二亦惠而不一レ費乎。擇レ可レ勞而勞レ之。又誰怨。欲レ仁而得レ仁。又焉貪。君子無二衆寡一。無二小大一。無二敢慢一。斯不二亦泰而不一レ驕乎。君子正二其衣冠一。尊二其瞻視一。儼然人望而畏レ之。斯不二亦威而不一レ猛乎。子張曰。何謂二四惡一。子曰。不レ敎而殺。謂二之虐一。不レ戒視レ成。謂二之暴一。慢レ令致レ期。

ふ、子曰く、教へずして殺す、之を虐と謂ふ。(六)戒めずして成を視る、之を暴(七)と謂ふ。(八)令を慢にして期を致す、之を賊と謂ふ。(九)猶しく之れ人に與ふるなり、出納の吝なる、之を有司と謂ふ。〇子曰く、(一〇)命を知らざれば、以て君子たる無きなり、(一一)禮を知らざれば、以て立つ無きなり、(一二)言を知らざれば、以て人を知る無きなり。

(一)地方の狀況に應じて民を利し之を安んずるをいふ　(二)勞役に堪ふる度に應じ之を使ふなり　(三)君子は衆大を以て寡小をあなどることなし　(四)泰は容るゝ所あるにて寬大なるなり　(五)威貌を崩さゞるなり瞻視とは正視の義　(六)戒は戒飭することなり、君の臣を使ふに臣に不善あらば豫め之を戒飭し若し之に從はざる時は乃ち之を責むべし、然るに豫め戒むることなくして成績を責むるものを暴といふ　(七)暴は急卒の義にして暴虐の義にはあらず　(八)始め命令を嚴にせずしてよい加減になし置き、從つて民も油斷せるに、急に刻限を定めてきびしく取立て等を爲し、能くせざる者は之を刑す、斯の如きは民を賊するものなり　(九)どの道人に配分すべきものなるに之を吝むが如きは君主のすべきことにあらず倉番共のすることなり　(一〇)命は事物の自然に窮達する所、即ち天命なり、天命を知つて進退し天命によりて世に處してこそ君子と稱すべけれ　(一一)人は禮によらずんば自ら身を持して立つ能はず　(一二)又言は心の表現なれば其人を知らんと欲せば先づ其言を知らざる可からず、若し其言の得失を知り得ざれば其の人物を知る能はずと也

之民歸心焉。所重民食喪祭。寬則得衆。信則民任焉。敏則有功。公則民說。

子張問於孔子曰。何如斯可以從政矣。子曰。尊五美。屛四惡。斯可以從政矣。子張曰。何謂五美。子曰。君子惠而不費。勞而不怨。欲而不貪。泰而不驕。威而不猛。子張曰。何謂惠而不費。子曰。因民之所

生命を重ずる所以、喪を重ずるは哀を盡す所以、祭を重ずるは敬を致す所以なり　(一八)　信とは人に對していひし所をよく守る也　(一九)　公とは公平なること

子張孔子に問うて曰く、何如にせば斯に以て政に從ふ可きか。子曰く、五美を尊び、四惡を屛けば、斯に以て政に從ふ可し。子張曰く、何をか五美と謂ふ。子曰く、君子は惠にして費さず、勞して怨みず、欲して貪らず、泰にして驕らず、威にして猛ならず。子張曰く、何をか惠にして費さずと謂ふ。子曰く、民の利する所に因りて之を利す、斯に亦惠にして費さざるにあらずや。勞すべきを擇んで之を勞す、又誰をか怨みん。仁を欲して仁を得、又焉んぞ貪らん。君子は衆寡と無く、小大と無く、敢て慢する無し、斯に亦泰にして驕らざるにあらずや。君子は其衣冠を正し、其瞻視を尊くし、儼然として人望んで之を畏る、斯に亦威にして猛ならざるにあらずや。子張曰く、何をか四惡と謂

亦以命ㇾ禹。曰。予小子履。敢用二玄牡一敢昭告二于皇皇后帝一。有ㇾ罪不二敢赦一。帝臣不ㇾ蔽。簡在二帝心一。朕躬有ㇾ罪。無ㇾ以二萬方一。萬方有ㇾ罪。罪在二朕躬一。周有二大賚一。善人是富。雖ㇾ有二周親一。不ㇾ如二仁人一。百姓有ㇾ過。在二予一人一。謹二權量一。審二法度一脩二廢官一。四方之政行焉。興二滅國一。繼二絶世一。擧二逸民一。天下

帝の心に在り、(一〇)朕が躬罪有れば、萬方を以てする無れ、(一一)萬方罪有れば、罪朕が躬に在らんと。周に大賚有り、(一二)善人是れ富む。周親有りと雖も、仁人に如かず。百姓過有らば、予一人に在りと。權量を謹み、(一三)法度を審にし、廢官を脩めば、四方の政行はる。滅國を興し、(一四)絶世を繼ぎ、(一五)逸民を擧げば、(一六)天下の民心を歸す。重んずる所は民食喪祭。(一七)寛なれば則ち衆を得、信なれば則ち民任ず。(一八)敏なれば則ち功有り、公なれば則ち民説ぶ。(一九)

(一) あゝ汝舜よの意 (二) 天位列次皆御身の一身にあり (三) 中は中庸の義 (四) 四海の庶民若し困窮することあらば悉く御身の罪にして天祚祿位長へに終滅せん (五) 舜の禹に位を譲る時にも舜と同じ辭を以て禹に命じたりとなり (六) 曰く予以下萬方罪有れば朕が躬に在らんまでは殷の湯王の言なり (七) 小子とは自稱の謙辭、履は湯王の名なり (八) 犧牲の黒牛、皇々たる后帝とは大なる天帝といふ義にて天に誓ふ辭也 (九) 帝臣即ち官に在る者に善あらば已れ敢へて隱蔽せず (一〇) 以上の二事を簡ぶことは上帝の心にあり上帝必ず親知せらるとなり (一一) 萬民を罪するなかれ (一二) 以下武王紂を討つに當りての誓辭。或は「百姓過あれば予一人に在り」のみを武王の辭と解する說もあり。大賚は大なる賜。周親は親しき親戚の義。蓋し周の文王武王は親に偏せず唯仁是れ親めり故に善人に富めるなり (一三) 權ははかり量はます (一四) 夏殷の後を封じたるなり (一五) 賢人の後の絶えたるを立てて祭祀を承けしめたるなり (一六) 民間の賢才を拔擢すること (一七) 一に「民の食喪祭」と解す亦通ず、食を重んずるは民の

數仞。不下得二其門一而入上。不レ見二宗廟之美。百官之富。得二其門一者或寡矣。夫子之云不二亦宜一乎。○叔孫武叔毀二仲尼一。子貢曰。無レ以レ爲也。仲尼不レ可レ毀也。他人之賢者丘陵也。猶可レ踰也。仲尼日月也。無二得而踰一焉。人雖レ欲二自絶一。其何傷二於日月一乎。多見二其不レ知レ量也。○陳子禽謂二子貢一曰。子爲レ恭也。仲尼豈賢二於子一乎。子貢曰。君子一言以爲レ知。一言以爲二不知一。言不レ可レ不レ愼也。夫子之不レ可レ及也。猶二天之不レ可二階而升一也。夫子之得二邦家一者。所レ謂立レ之斯立。道レ之斯行。綏レ之斯來。動レ之斯和。其生也榮。其死也哀。如レ之何其可レ及也。

の弟子陳亢ならん (二四) 他のことは知らねどあなたの恭といふ點に於ては (二五) 梯子を掛けて昇ること (二六) 民は其德に化し義を知りて確固たる立場を得て惡風に動かされざるなり (二七) 民は孔子の導くまゝに行くをいふ (二八) 民を安んずれば遠人も德を慕ひて來るなり (二九) 民をして事を爲すに必ず禮によらしむ故に民能く和するをいふ (三〇) 生きて世に在るときには榮名あるをいふ (三一) 死するや天下の人皆之を哀悼するを云ふ

堯曰。咨爾舜。天之曆數在二爾躬一。允執二其中一。四海困窮。天祿永終。舜

堯曰第二十

堯曰く、咨爾舜、(一)天の曆數は爾の躬に在り、(二)允に其中を執れ、(三)四海困窮せば(四)天祿永く終へん、(五)舜も亦以て禹に命ず、曰く、(六)予小子履、(七)敢へて玄牡を用て、(八)敢へて昭に皇皇たる后帝に告ぐ、罪有るは敢へて赦さず、(九)帝臣蔽はず、簡ぶこと

貢一曰。仲尼焉學。子貢曰。文武之道。未レ墜二於地一在レ人。賢者識二其大者一。不賢者識二其小者一。莫レ不レ有二文武之道一焉。夫子焉不レ學。而亦何常師之有。○叔孫武叔語二大夫於朝一曰。子貢賢二於仲尼一。子服景伯以告二子貢一。子貢曰。譬二之宮牆一。賜之牆也及レ肩。窺二見室家之好一。夫子之牆

多ゝ（二二）其の量を知らざるを見すなり。○（二三）陳子禽、子貢に謂つて曰く、（二四）子の恭を爲すや、仲尼も豈に子より賢ならんや。子貢曰く、君子は一言を以て知と爲し、一言を以て不知と爲す、言は愼まざる可からざるなり。夫子の及ぶ可からざるや、猶ほ（二五）天の階して升る可からざるがごときなり、夫子にして邦家を得ば、所謂（二六）之を立つれば斯に立ち、（二七）之を導けば斯に行き、（二八）之を綏んずれば斯に來り、（二九）之を動かせば斯に和するなり、（三〇）其生や榮、（三一）其死や哀、之を如何ぞ其れ及ぶ可けんや。

〔一〕魯の大夫、名は速。其父は獻子にして名は蔑なり、獻子賢德ありて而して莊子能く其臣を用ひ其政を守る故に彼には他に孝行の稱す可き行りと雖も而も皆此事の難と爲すには若かざるなり　〔二〕陽膚は曾子の弟子　〔三〕士師は司獄の官なり　〔四〕民心取締れなくなれること　〔五〕罪人を取しらべ其情實を白狀せしめ得たりとて喜びなどするは以ての外の事也　〔六〕哀矜は斯る罪を犯すに至らしめたるを不憫に思ふ也　〔七〕是の故に在位の君子は身に不德ありて下流に比すべき不善の立場にをる可からず若し不德ありて下流に居らば衆惡は水の低きに就くが如く皆之れに歸すべし　〔八〕日蝕月蝕の義　〔九〕衞の大夫なり　〔一〇〕文王武王の道即ち聖人の道　〔一一〕識は記識也　〔一二〕魯の大夫にして名は州仇　〔一三〕大夫等に朝にて語りゝ云ふなり　〔一四〕景伯も魯の大夫　〔一五〕宅圍にして即ちかきをいふ　〔一六〕賜は子貢の名　〔一七〕七尺を仞といふ　〔一八〕武叔をいふ　〔一九〕孔子のこと　〔二〇〕以ての外のことなりとの意　〔二一〕孔子の德を傷けて絶棄するなり　〔二二〕己れの分量を知らずとの意　〔二三〕諸說あるも蓋し孔子

能也。○孟氏使陽膚爲士師。問於曾子。曾子曰。上失其道。民散久矣。如得其情。則哀矜而勿喜。○子貢曰。紂之不善不如是之甚也。是以君子惡居下流。天下之惡皆歸焉。○子貢曰。君子之過也。如日月之食焉。過也人皆見之。更也人皆仰之。○衛公孫朝問於子

らざるなり、是を以て君子は下流に居るを惡む、天下の惡皆焉に歸す。○子貢曰く、君子の過ちや、日月の食の如し、過つや、人皆之を見る、更むるや、人皆之を仰ぐ。○衛の公孫朝子貢に問うて曰く、仲尼焉んか學びたる。子貢曰く、文武の道、未だ地に墜ちずして、人に在り、賢者は其大なる者を識し、不賢者は其小なる者を識す、文武の道有らざる莫し、夫子焉にか學ばざらん、而して亦何の常師か之れ有らん。○叔孫武叔大夫に朝に語りて曰く、子貢は仲尼より賢る。子服景伯以て子貢に告ぐ。子貢曰く、之を宮牆に譬ふれば、賜の牆や肩に及べり、室家の好きを窺ひ見るべし、夫子の牆は數仞、其門を得て入らざれば、宗廟の美、百官の富を見ず、其門を得る者は或は寡し、夫子の云ふこと、亦宜ならずや。○叔孫武叔、仲尼を毀る。子貢曰く、爲すを以てする無かれ、仲尼は毀る可からざるなり、他人の賢者は丘陵なり、猶ほ踰ゆ可し、仲尼は日月なり、得て踰ゆる無し、人自ら絶たんと欲すと雖も、其れ何ぞ日月を傷ぶらんや。

則以爲レ謗レ己也。〇子夏曰。大德不レ踰レ閑。小德出入可也。〇子游曰。子夏之門人小子。當二洒掃應對進退一則可矣。抑末也。本レ之則無。如レ之何。子夏聞レ之曰。噫言游過矣。君子之道。孰先傳焉。孰後倦焉。譬二諸草木區以別一矣。君子之道。焉可レ誣也。有レ始有レ卒者。其惟聖人乎。〇子夏曰。仕而優則學。學而優則仕。〇子游曰。喪致二乎哀一而止。〇子游曰。吾友張也爲レ難レ能也。然而未レ仁。〇曾子曰。堂堂乎張也。難二與竝爲一レ仁矣。〇曾子曰。吾聞二諸夫子一。人未レ有二自致者一也。必也親喪乎。

ざるを以て能ふと爲すことあり斯くて人を誣ふるに至るなり 二四 始めは洒掃應對の類を云ひ本は治國平天下をいふ 二五 仕へて餘裕があると 二六 此章は喪に居るの情を云ふ 二七 致は哀の至極を致すなり 二八 章指、吾友子張は威風堂々、他人の到底企て及ぶ所にあらずされど外面のみ重くして實質を務めず仁は未だしとなり 二九 子張は禮儀堂々と盛んなる人かな 三〇 禮儀恭敬の助を藉らず人の本心より湧き出て人をして自然に誠敬の極に至らしむるものは其れ親の喪ならんか

曾子曰。吾聞二諸夫子一。孟莊子之孝也。其他可レ能也。其不レ改二父之臣一與二父之政一。是難レ

曾子曰く、吾諸を夫子に聞く、孟莊子の孝や、其他は能くす可し、其父の臣と父の政とを改めざる、是れ能くし難きなりと。〇孟氏陽膚をして士師爲らしめ曾子に問ふ。曾子曰く、上其道を失ひ、民散ずること久し、如し其情を得ば、則ち哀矜して喜ぶ勿れ。〇子貢曰く、紂の不善は、是の如く之れ甚しか

也已矣。○子夏曰。博學而篤志。切問而近思。仁在其中矣。○子夏曰。百工居肆以成其事。君子學以致其道。○子夏曰。小人之過也必文。○子夏曰。君子有三變。望之儼然。卽之也溫。聽其言也厲。○子夏曰。君子信而後勞其民。未信則以爲厲己也。信而後諫。未信

あるに譬ふ、君子の道は焉んぞ誣ふ可けん、(二四)始め有り卒有る者は、其れ唯聖人か。○子夏曰く、(二五)仕へて而うして優なれば則ち學ぶ、學んで而うして優なれば則ち仕ふ。○(二六)子游曰く、喪は哀を致して(二七)止む。○(二八)子游曰く、吾が友張や、能くし難しと爲す、然れども未だ仁ならず。○曾子曰く、(二九)堂堂たるかな張や、與に竝びて仁を爲し難し。○曾子曰く、吾諸を夫子に聞く、(三〇)人未だ自ら致す者有らざるなり、必ずや親の喪か。

(一) 孔子の弟子にして姓は顓孫名は師。士は有德にして官に在る人を指す (二) 斯る人には眞に道德ありや無しや疑ふべし (三) 諸子百家の學、卽ち異端を云ふ (四) 恐くは雍泥通ぜざるに至らん (五) 爲は治なり學といふが如し (六) 未だ知らざる所なり (七) 已に學びたる所なり。日といひ月といふは相對していふのみ (八) 篤く之を心に記すなり (九) 切に問ふとは己れの學びて未だ悟らざる事を熱心に問ふなり (一〇) 近く己の身に適切に工夫す (一一) 衆多の職工 (一二) 工場 (一三) 貌の莊なるなり (一四) 溫は溫和なるなり (一五) 厲は嚴格なるなり (一六) 勞すとは民を使役するなり (一七) 厲は猶は病の如し (一八) 大德にして法を踰えずば小德は一出一入すとも可なり先づ大なるものを立つれば小なるものは或は理に合はずとも可なり (一九) 小子は弟子の年弱き者 (二〇) 洒掃は拭掃除のこと (二一) 噫は不平の聲。言游は子游のことにして言は其姓なり (二二) 倦みて敎へざらんや (二三) 是れ譬へば草木の類を異にするものを區別するが如し若し才器を測らずして一概に大なるもの深きものを敎へんには能は

可者與㆑之。其不可者拒㆑之。子張曰。異㆓乎吾所㆑聞。君子尊㆑賢而容㆑衆。嘉㆑善而矜㆓不能㆒。我之大賢與。於㆑人何所㆑不㆑容。我之不賢與。將㆓我拒㆒。如㆑之何其拒㆑人也。○子夏曰。雖㆓小道㆒必有㆓可㆑觀者㆒焉。致㆑遠恐泥。是以君子不㆑爲也。○子夏曰。日知㆓其所㆑亡。月無㆑忘㆓其所㆑能㆒。可㆑謂㆑好㆑學

者有らん、遠きを致すには恐（四）くは泥まん、是を以て君子は爲（五）めざるなり。○子夏曰く、日に其の亡（六）き所を知り、月に（七）其能くする所を忘るゝ無くんば、學を好むと謂ふ可きのみ。○子夏曰く、博く學んで篤（八）く志し、切に問（九）うて近く思（一〇）へば、仁其の中に在り。○子夏曰く、百工（一一）は肆（一二）に居りて以て其事を成し、君子は學びて以て其道を致す。○子夏曰く、小人の過ちや、必ず文る。○子夏曰く、君子に三變あり、之を望めば儼然（一三）たり、之に卽くや溫（一四）、其言を聽くや厲（一五）。○子夏曰く、君子信ぜられて、而る後に其民を勞す（一六）、未だ信ぜられざれば、則ち以て己を厲す（一七）と爲せばなり。信ぜられて而る（一八）後に諫む、未だ信ぜられざれば則ち以て己を謗ると爲せばなり。○子夏曰く、大德閑を踰えずんば、小德は出入すとも可なり。○子游曰く、子夏の門人小子（一九）は、洒（二〇）掃應對進退に當りては則ち可なり、抑ゝ末なり。之を本づけば則ち無し。之を如何。子夏之を聞いて曰く、噫（二一）、言游過てり、君子の道は、孰れをか先に傳へ、孰れをか後に倦まん（二二）、諸を（二三）草木の區にして以て別

子張曰。士見危致命。見得思義。祭思敬。喪思哀。其可已矣。○子張曰。執德不弘。信道不篤。焉能爲有。焉能爲亡。○子夏之門人問交於子張。子張曰。子夏云何。對曰。子夏曰。

巻之十

子張第十九

(一)子張曰く、士は危きを見ては命を致し、得るを見ては義を思ひ、祭には敬を思ひ、喪には哀を思ふ、其れ可なるのみ。○子張曰く、德を執ること弘からず、道を信ずること厚からずんば、(二)焉んか能く有りと爲し、焉んか能く亡しと爲さん。○子夏の門人交を子張に問ふ。子張曰く、子夏は何と云へる。對へて曰く、子夏曰く、可なる者は之に與し不可なる者は之を拒ぐと。子張曰く、吾が聞く所に異なり、君子は賢を尊び衆を容れ、善を嘉して不能を矜む、我の大賢なるか、人に於て何ぞ容れられざる所あらん、我の不賢なるか、將に我を拒がんとす、之を如何ぞ其れ人を拒がん。○子夏曰く、(三)小道と雖も、必ず觀る可き

朱張。柳下惠。少連。子曰。不㆑降㆓其志㆒。不㆑辱㆓其身㆒。伯夷叔齊與。謂㆓柳下惠少連㆒。降㆑志辱㆑身矣。言中㆑倫。行中㆑慮。其斯而已矣。謂㆓虞仲夷逸㆒。隱居放㆑言。身中㆑清。廢中㆑權。我則異㆓於是㆒。無㆑可無㆓不可㆒。〇大師摯適㆑齊。亞飯干適㆑楚。三飯繚適㆑蔡。四飯缺適㆑秦。鼓方叔入㆓于河㆒。播鼗武入㆓于漢㆒。少師陽擊磬襄入㆓于海㆒。〇周公謂㆓魯公㆒曰。君子不㆑施㆓其親㆒。不㆑使㆔大臣怨㆓乎不㆑以。故舊無㆓大故㆒。則不㆑棄也。無㆑求㆓備於一人㆒。〇周有㆓八士㆒。伯達。伯适。仲突。仲忽。叔夜。叔夏。季隨。季騧。

(一) 丈人とは老人なり老人が杖をつき蓧といふ田器を荷へるに行遇ひて (二) 五穀の苗分けをする義、又五穀の辨別も出來ずとも解すべし (三) 杖を立てそれを力に身をよせる也 (四) 拱は手こまぬきて捧ぐること支那の禮なり (五) 飯を炊ぐなり (六) 老人不在なりきとの意 (七) 丈人不在なりしを以て子路が孔子の言を二兒に向ひて言ひ遺したるものなり (八) 君臣の道 (九) 遺逸の民又は超逸の民の義民は位無き人をいふ。一説には此七人は憲問章の作者(オコルモノ)七人なりといふ (一〇) 柳下惠は魯に仕へて司獄の史となり三たび黜けられて去らずこれ志を屈し身を辱しむる者なりされど其言ふ所倫理に中れり (一一) 少連の行ひは思慮に中れり (一二) 一説に廢は發に作るべしとす (一三) 道の權衡を得たるなり (一四) 章指、魯國の禮樂壞亂して樂師四方に散去するを言ふ。大師は樂師の官摯は名 (一五) 古は天子諸侯飯毎に樂を奏す、亞飯三飯四飯は食時に奏する樂官、干、繚、缺は皆名 (一六) 鼓は鼓手方叔は名 (一七) 播鼗はふりつゞみ、武は名 (一八) 少師は樂官、陽は名 (一九) 磬を打つ樂手、襄は名 (二〇) 魯公とは周公の子伯禽なり魯に封ぜらる (二一) 其親む所を易へざるをいふ (二二) 大故は大事故にして叛逆の事を指す (二三) 周の盛時一家八名士を出す、二名づつを一句とし各句韻を押す、自然の妙といふべし

立。止二子路一宿。殺レ雞爲レ黍而食レ之。見二其二子一焉。明日子路行以告。子曰。隱者也。使二子路反見一レ之。至則行矣。子路曰。不レ仕無レ義。長幼之節。不レ可レ廢也。君臣之義。如レ之何其廢レ之。欲レ潔二其身一。而亂二大倫一。君子之仕也。行二其義一也。道之不レ行。已知レ之矣。○逸民伯夷。叔齊。虞仲。夷逸。

ざれば義無し、長幼の節は廢す可からざるなり、君臣の義は、之を如何して其れ之を廢せん、其身を潔くせんと欲して、大倫(八)を亂る、君子の仕ふるや、其の義を行ふなり、道の行はれざるは、已に之を知れり。○逸民(九)には、伯夷・叔齊・虞仲・夷逸・朱張・柳下惠・少連。子曰く、其志を降さず、其身を辱めざるは、伯夷・叔齊か。柳下惠・少連を謂ふ、志(一〇)を降し身を辱む、言は倫に當り、行(一一)は慮に中る、其れ斯れのみ。虞中・夷逸を謂ふ、隱居言を放にす、身は淸に中り、廢(一二)して權(一三)に中たる。我は則ち是に異なり、可も無く、不可も無し。○大師摯(一四)は齊に適き、亞飯干(一五)は楚に適き、三飯繚は蔡に適き、四飯缺は秦に適き、鼓方叔(一六)は河に入り、播鼗武(一七)は漢に入り、少師陽(一八)・擊磬襄(一九)は海に入る。○周公魯公(二〇)に謂ひて曰く、君子(二一)は其親を施へず、大臣をして以ひざるを怨ましめず、故舊に大故(二二)無ければ、則ち棄てざるなり、備はるを一人に求むる無れ。○周(二三)に八士有り、伯達・伯适・仲突・仲忽・叔夜・叔夏・季隨・季騧。

津矣。問於桀溺。桀溺曰。子爲誰。曰。爲仲由。曰。是魯孔丘之徒與。對曰。然。曰。滔滔者天下皆是也。而誰以易之。且而與其從辟人之士也。豈若從辟世之士哉。耰而不輟。子路行以告。夫子憮然曰。鳥獸不可與同羣。吾非斯人之徒與。而誰與。天下有道丘不與易也。

(一三) 將來の事は猶は何とかし得べし速に亂を避けて隱居せよ (一四) 下るは堂を下るなり (一五) 共に隱者の名 (一六) 耦は二つすきにて竝び耕すなり (一七) 渡船場 (一八) 馬車の手綱をとるなり (一九) 滔々は周流の貌、おしなべてといふ意 (二〇) 滔々たる天下の亂、誰か將に之を變易せんとする、世に變易すべからずとなり (二一) 仕ふ可き人を擇びて東奔西走する士、即ち孔子を指す (二二) 耰とは種を蒔きて上に土を覆ふこと (二三) 二人の己の志を知らざるを惜む也 (二四) 天下道なければこそ余其俗を變易せんとする也

子路從而後。遇丈人以杖荷蓧。子路問曰。子見夫子乎。丈人曰。四體不勤。五穀不分。孰爲夫子。植其杖而芸。子路拱而

子路從ひて後る。(一)丈人の杖を以て蓧を荷ふに遇ふ。子路問うて曰く、子夫子を見たるか。丈人曰く、四體勤めず、(二)五穀分たず、孰れをか夫子と爲すと。其杖(三)を植てて芸る。子路拱(四)して立つ。子路を留めて宿せしめ、雞を殺し黍(五)を爲りて之に食はしめ、其二子を見えしむ。明日、子路行きて以て告ぐ。子曰く、隱者なりと。子路をして反つて之を見しむ。至れば則ち(六)行れり。子路曰く、(七)仕へ

楚狂接輿歌而過孔子。曰。鳳兮鳳兮。何德之衰。往者不可諫。來者猶可追。已而已而。今之從政者殆而。孔子下欲與之言。趨而辟之。不得與之言。

○長沮桀溺耦而耕。孔子過之。使子路問津焉。長沮曰。夫執輿者爲誰。子路曰。爲孔丘。曰。是魯孔丘與。曰。是也。曰。是知

其の人を辟るの士に從はんより、豈に世を辟くるの士に從ふに若かんやと。耰(二一)して輟(二二)めず。子路行いて以て告ぐ。夫子憮然(二三)たり。曰く、鳥獸は與に羣を同じくす可からず、吾斯の人の徒と與にするに非ずして、誰と與にせんや。天下道有(二四)らば、丘與に易へざるなり。

(一) 微子名は啓、紂の庶兄たり、紂の暴逆を見て去る (二) 箕子は紂の諸父、數々紂を諫むれども聽かれず、乃ち髮を被り佯り狂して奴となる (三) 比干亦紂の諸父、苦諫して去らず紂怒つて曰く聖人の胸に七竅ありと予之を見んとて終に其胸を剖く (四) 殷に三仁有りしに紂之を用ひて天下を治むるを知らずして、或は去り或は奴となり或は死せしめたるは惜むべきことなりとの意 (五) 士師は刑を取り行ふ役人にして今の判事の如きもの (六) 或人が柳下惠の度々しりぞけらるゝを氣の毒に思ひ此邦を去りて他邦に行きては如何と問へるなり (七) 待は待遇なり時に魯に於て季氏は上卿たり孟氏は下卿たり季氏の待遇を以てする能はざれども孟氏以上に待遇すべしとなり (八) 齊の景公の考を述したる言と見るべし (九) 章指、定公十四年孔子魯に任へて大司寇たり政を亂す者少正卯を誅し三月にして國政大に擧り道に遺ちたるを拾はず四方の客魯に歸する者多し齊人聞きて大に懼れて曰く孔子政を爲さば必ず覇たらん然らば齊地必ず先づ併呑せられん速かに孔子の施政を沮害せざる可からずと乃ち國内の美女八十人を擇びて美服を衣せ魯の城南の高門外に陳ねて康樂を舞はしむ季桓子定公に勸めて之を受けしめ君臣共に歡樂して朝禮を廢すること三日孔子遂に去れり (一〇) 狂者の接輿といふ名のもの (一一) 鳳は孔子をさす、鳳凰や鳳凰や鳳凰は聖世に非ざれば出でず今此亂世に翺翔して賢主を求めんとて周行せり鳳凰の德も此に至りて衰へたるかな

子曰。殷有二三仁一焉。○柳下惠爲二士師一。三黜。人曰。子未レ可二以去一乎。曰。直レ道而事レ人。焉往而不二三黜一。枉レ道而事レ人。何必去二父母之邦一。○齊景公待二孔子一。曰。若二季氏一則吾不レ能。以二季孟之間一待レ之。曰。吾老矣。不レ能レ用也。孔子行。○齊人歸二女樂一。季桓子受レ之。三日不レ朝。孔子行。○

曰く、道を直くして人に事へば、焉くに往くとして三黜せられざらん、道を枉げて人に事へば、何ぞ必ずしも父母の邦を去らん。○齊の景公孔子を(七)待つて、曰く、季氏の若くするは、則ち吾能はず、季孟の間を以て之を待たん。曰く、(八)吾老いたり、用ふる能はざるなり。孔子行る。○(九)齊人女樂を歸る。季桓子之を受けて、三日朝せず。孔子行る。○楚の(一〇)狂接輿歌うて孔子を過ぐ。曰く、(一一)鳳や鳳や、何ぞ德の衰へたるや、往者は諫むべからず、(一二)來者は猶ほ追ふべし、已まん已まん、(一三)今の政に從ふ者は殆しと。(一四)孔子下りて、之と言はんと欲す。趨つて之を辟け、之と言ふを得ず。○(一五)長沮・桀溺、(一六)耦して耕す。孔子之を過ぐ。子路をして(一七)津を問はしむ。長沮曰く、夫の(一八)輿を執る者は誰と爲す。子路曰く、孔丘と爲す。曰く、是れ魯の孔丘か。對へて曰く、是れなり。曰く、是れならば津を知らん。桀溺に問ふ、桀溺曰く、子は誰と爲す。曰く仲由と爲す。曰く、是れ魯の孔丘の徒か。對へて曰く然り。曰く、(一九)滔滔たる者天下皆是なり、而うして(二〇)誰か以て之を易へん、且つ而

生三年。然後免二於父母之懷一。夫三年之喪。天下之通喪也。予也有三三年之愛二於其父母一乎。○子曰。飽食終日。無レ所レ用レ心。難矣哉。不レ有二博弈者一乎。爲レ之猶賢二乎已一。○子路曰。君子尚レ勇乎。子曰。君子義以爲レ上。君子有レ勇而無レ義爲レ亂。小人有レ勇而無レ義爲レ盜。○子貢曰。君子亦有レ惡乎。子曰。有レ惡。惡下稱二人之惡一者上。惡下居二下流一而訕レ上者上。惡二勇而無レ禮者一。惡二果敢而窒者一。曰。賜也亦有レ惡乎。惡二徼以爲レ知者一。惡下不孫以爲レ勇者上。惡下訐以爲レ直者上。○子曰。唯女子與二小人一爲レ難レ養也。近レ之則不孫。遠レ之則怨。○子曰。年四十而見レ惡焉。其終也已。

圍碁雙六の類なり　（二七）何もせずにゐるよりまだまし也　（二八）在位の君子なり　（二九）謗るなり　（三〇）斷然行うて道に適はざる事をなすなり　（三一）賜は子貢の名以下は子貢の言なり　（三二）徼は伺察なり人の意中の祕を伺察するなり　（三三）人の祕密を發き世間に觸れ廻るなり　（三四）召使の女と召使の男　（三五）孫は遜なり　（三六）章指、人生四十は不惑の年にして人格熟し德成り人に敬服せらるべき時なるに若し人に惡まるゝ如き人ならば到底望みなきの人なり

微子去レ之。箕子爲二之奴一。比干諫而死。孔

微子第十八

（一）微子之を去る、（二）箕子之が奴と爲り、（三）比干は諫めて死す。孔子曰く、殷に（四）三仁有り。○（五）柳下惠士師と爲り、三たび黜けらる。人曰く、（六）子以て去る可からざるか。

三年之喪。期已久矣。君子三年不爲禮。禮必壞。三年不爲樂。樂必崩。舊穀既沒。新穀既升。鑽燧改火。期可已矣。子曰。食夫稻衣夫錦。於女安乎。曰。安。女安則爲之。夫君子之居喪。食旨不甘。聞樂不樂。居處不安。故不爲也。今女安則爲之。宰我出。子曰。予之不仁也。子

子曰く、唯女子と小人とは(三四)養ひ難しと爲す、之を近くれば則ち不孫なり、(三五)之を遠くれば則ち怨む。○子曰く、(三六)年四十にして惡まる、其れ終らんのみ。

(一) 章指、流俗に同じくし以て世に諂ふ所の郷間の律義者は、一見有德の人に似て其實なし、故に之を德の賊といふ (二) 章指、當時人情澆薄己れ習はずして人に傳ふるの惡風あり卽ち道路に聽き其まゝ道路にて人に說き聞かするなり此の如きものは己れの德を棄つるなり (三) 鄙夫は眼中只利あるのみ利のある所に走り利盡くれば去る故に共に君に事へ故に從事すること能はず (四) 奸策至らざる所なし (五) 古へは民に三惡癖ありしが今は其れさへもなし。三惡癖とは狂矜愚なり (六) 肆とは言はんと欲する所をいひ爲さんと欲する所をなし小節に拘らず (七) 放蕩 (八) 廉はかどのあること (九) 詐僞 (一〇) 此章は學而篇と同じ (一一) 間色の紫が正色の朱を奪ふは惡むべし (一二) 鄭聲は淫聲の義に用ふ (一三) 雅は正なり雅樂は正樂なり (一四) 利口の人巧に言ひ君に諂ひ遂に國家を傾覆するは最も惡むべし (一五) 孔子門人を敎訓するの理想を述べて曰く予門人を言にて敎訓すると無く身を以て率ゐ行を以て敎へたしと (一六) 春夏秋冬の四時なり (一七) 哀公の臣、孔子に面會せんとせし時孔子之を見るを欲せざりし也 (一八) 案內者が戶外に出でたる時孔子は瑟を取りて歌ひ眞の病氣にあらず其會はざるは無禮なるを以てなることを知らしめ以て將來を警告せり (一九) 父母の喪を三年とするは長きに失せずや (二〇) 一年にて舊米盡き新米實る (二一) 春夏秋冬火を鑽るに各木を異にす故に火を改むといふ (二二) 期は一年 (二三) 喪中は粥を食ふ法なるが汝は白米を食ひ心安しとなすか喪中は喪服を衣ることとなるが汝は錦を衣て心安しとなすか (二四) 美味 (二五) 閒居の際飽食して終日心を用ふる所なく事を思ふなきやうては成德の人となる事難し (二六) 今の賭博とは異なり

○子曰。巧言令色鮮矣仁。○子曰。惡紫之奪朱也、惡鄭聲之亂雅樂也。惡利口之覆邦家者。○子曰。予欲無言。子貢曰。子如不言。則小子何述焉。子曰。天何言哉。四時行焉。百物生焉。天何言哉。○孺悲欲見孔子。辭以疾。將命者出戸。取瑟而歌。使之聞之。○宰我問。

の稻(二三)を食ひ、夫の錦を衣る、女に於て安きか。曰く安し。曰く、女安くば則ち之を爲せ。夫の君子の喪に居る、旨(二四)を食へども甘からず、樂を聞けども樂まず、居處安からず、故に爲さざるなり。今女安くば則ち之を爲せ。宰我出づ。子曰く、予の不仁なるや。子生れて三年、然る後父母の懷を免る。夫れ三年の喪は、天下の通喪なり。予や其父母に三年の愛あるか。○子曰く、飽食(二五)終日、心を用ふる所無くば、難いかな。博弈(二六)といふ者有らざるか、之を爲すは猶ほ已(二七)むに賢れり。○子路曰く、君子(二八)は勇を尙ぶか。子曰く、君子は義以て上と爲す。君子勇有りて義無ければ、亂を爲す、小人勇有りて義無ければ、盜を爲す。○子貢曰く、君子も亦惡むこと有るか。子曰く、惡むこと有り。人の惡を稱する者を惡む。下流に居りて上を(二九)訕る者を惡む。勇にして禮なき者を惡む。果敢(三〇)にして窒がる者を惡む。曰く、賜(三一)も亦惡むこと有るかな。徼(三二)めて以て知と爲す者を惡む。不孫にして以て勇と爲す者を惡む。訐(三三)いて以て直と爲す者を惡む。○

之賊也。○子曰。道聽而塗說。德之棄也。○子曰。鄙夫可與事君也與哉。其未得之也。患得之。既得之患失之。苟患失之。無所不至矣。○子曰。古者民有三疾。今也。或是之亡也。古之狂也肆。今之狂也蕩。古之矜也廉。今之矜也忿戾。古之愚也直。今之愚也詐而已矣。

るなり。○子曰く、鄙夫は與に君に事ふ可きならんや。其の未だ之を得ざるや、之を得んことを患へ、既に之を得れば、之を失はんことを患ふ。苟も之を失はんことを患へば、至らざる所無し。○子曰く、古者民に三疾有り、今や是れある亡きなり。古の狂や肆、今の狂や蕩。古の矜や廉、今の矜や忿戾。古の愚や直、今の愚や詐のみ。○子曰く、巧言令色、鮮し仁。○子曰く、紫の朱を奪ふを惡む。鄭聲の雅樂を亂るを惡む。利口の邦家を覆へす者を惡む。○子曰く、予言ふ無らんと欲す。子貢曰く、子如し言はずんば、則ち小子何をか述べん。子曰く、天何をか言ふや、四時行はれ、百物生る、天何をか言ふや。○孺悲孔子を見んと欲す。辭するに疾を以てす。命を將ふ者戶を出づ。瑟を取りて歌ひ、之をして之を聞かしむ。○宰我問ふ、三年の喪は、期已に久し。君子三年禮を爲さずんば、禮必ず壞れん。三年樂を爲さずんば、樂必ず崩れん。舊穀既に沒し、新穀既に升る、燧を鑽り火を改む、期にして已む可し。子曰く、夫

吾語レ女。好レ仁不レ好レ學。其蔽也愚。好レ知不レ好レ學。其蔽也蕩。好レ信不レ好レ學。其蔽也賊。好レ直不レ好レ學。其蔽也絞。好レ勇不レ好レ學。其蔽也亂。好レ剛不レ好レ學。其蔽也狂。〇子曰。小子何莫レ學二夫詩一。詩可二以興一。可二以觀一。可二以羣一。可二以怨一。邇レ之事レ父。遠レ之事レ君。多識二於鳥獸草木之名一。〇子謂二伯魚一曰。女爲二周南召南一矣乎。人而不レ爲二周南召南一。其猶二正牆面而立一也與。〇子曰。禮云禮云。玉帛云乎哉。樂云樂云。鐘鼓云乎哉。〇子曰。色厲而內荏。譬二諸小人一。其猶二穿窬之盜一也與。

剛なり六蔽とは下の愚蕩賊絞亂狂なり。蔽は蔽はれて自ら其過を見ざる道 (三〇) 子路起ちて答へたるを以て復座せよといはる (三一) 仁を好んで學を好まずんば物を愛して分別なし故に人に陷れられ人に誑らる愚なり (三二) 蕩とは適守する所なきなり (三三) 賊はそこなふなり (三四) 絞は繩を以て頸を扼する意にて急切にして假借する所なきをいふ (三五) 剛とは性順柔ならざるなり (三六) 狂とは能く人と衝突するなり (三七) 小子とは弟子を呼びていふ (三八) 詩には各方面の事を含むを以て讀まざる可からざる書となせり (三九) 意志を感發するなり (四〇) 國家の盛衰人事の得失を觀るべし (四一) 人と親しく交際するを得べし (四二) 國家の政治を諷刺するなり (四三) 伯魚は孔子の子、名は鯉 (四四) 周南召南の詩は脩身齊家の事を謂へり (四五) 國家を治め難きこと恰も牆に向つて立ち一物も見えず一歩も行かれざるが如し (四六) 禮禮といへど玉帛とは言はず、聖人のいふ所は禮の形式に非ずして其精神なり (四七) 音樂に於ては鐘鼓固より缺く可からずと雖もそは樂の末なり其本は移風易俗にあり今人本を棄てて末を取るは何ぞと也 (四八) 色は外に表はるゝ所卽ち外面の義、厲は威嚴なり荏は柔弱なり、內柔外剛の小人は外面大に威嚴ありて見ゆれども內心常に危懼を懷くなり (四九) 穿は壁を穿つなり窬は墻を踰ゆるなり、こそ／＼泥棒

子曰。鄉原德

(一)子曰く、鄕原は德の賊なり。〇(二)子曰く、道に聽いて塗に說くは、德を之れ棄つ

使レ人。○佛肸召。子欲レ往。子路曰。昔者由也聞二諸夫子一。曰。親於二其身一爲二不善一者。君子不レ入也。佛肸以二中牟一畔。子之往也如レ之何。子曰。然。有二是言一也。不レ曰レ堅乎。磨而不レ磷。不レ曰レ白乎。涅而不レ緇。吾豈匏瓜也哉。焉能繫而不レ食。○子曰。由也女聞二六言六蔽一矣乎。對曰。未也。居

謝す是れ當時の禮なり　(三)　歸は饋なり蒸したるものをおくるを云ふ　(四)　塗は途なり　(五)　暗に孔子の才德を懐きて政治に關與せず國家を治めざるを指して云ふ　(六)　孔子の言なり　(七)　歲月はどし〳〵とたつ早く仕へよといふ而して孔子小人と爭ふを欲せず但唯々諾々たり　(八)　人の天性はお互に相近きものなり　(九)　章指、善に遷り惡に移るは常人皆然り但上智者は惡に移ること難く下愚者は善に移ること難し　(一〇)　孔子　(一一)　武城は邑名子游之が宰たり敎化行はる　(一二)　詩を樂器に合せて歌ふなり　(一三)　につこりと笑ふこと　(一四)　牛刀の譬は大才を以て小邑を治むると大道を用ひて以て小邑を治むるとの二義を兼ぬ孔子は子游が大才を以て小邑を治むるを惜みて言へり、然るは子游は只一途に小邑を治むるに大道を用ふるを要せずと言はれたりと考へ嘗て孔子に聞きしところを擧げて答ふ、孔子は面のあたり汝が大才を以て小邑を治むるを惜みて言へるなりとも言へざる故に、唯だ從者を顧みて今の言は戲言なりと云ひしのみ　(一五)　公山弗擾は魯人、季氏の宰たり、魯の定公の五年(或云九年)陽虎と共に季桓子を捕へ季氏の邑費に據りて叛く、孔子を召して仕へしめんとす　(一六)　徒らに我を召すものならんやの意。この言ありしにも係らず孔子遂に行かざりしは子路の非難に因りしにあらず公山の爲すあるに足らざるを知りし故なり　(一七)　恭とは心に愼む所ありて自ら容貌にあらはるゝ態度をいふ　(一八)　信とは人に對して言ふ所を守りて背かざるなり　(一九)　敏とは行事迅速なること、事に應じて疾ければ功を成すこと多し、惠とは慈愛深きをいふ　(二〇)　佛肸は晉の大夫趙簡子の邑宰なり　(二一)　孔子を聘するなり　(二二)　由は子路の名　(二三)　夫子は孔子のこと　(二四)　中牟は邑名、佛肸は之に據りて以て叛す　(二五)　薄くならず　(二六)　涅は水中にある黑土にしてくろぎぬを染むるに用ふ　(二七)　黑くならず　(二八)　星の名なり故にひさごと同名なれども天にかゝりて食ふ可からず、繫は天空に懸るなり共に當時の俗言なり、引用の意は我は則ち匏瓜に非ず、道を明にし世を濟ふ者なり、焉ぞ能く天に繫りて食はれざるが如くなるべき我は招きに應じて往いて治政を爲さんとする也といふにあり　(二九)　六言とは下の仁知信直勇

公山弗擾以費畔。召。子欲往。子路不說曰。末之也已。何必公山氏之之也。子曰。夫召我者。而豈徒哉。如有用我者。吾其爲東周乎。○子張問仁於孔子。孔子曰。能行五者於天下爲仁矣。請問之。曰。恭寬信敏惠。恭則不侮。寬則得衆。信則人任焉。敏則有功。惠則足以

か。對へ曰く、未し。居れ、吾女に語らん。仁を好んで學を好まずんば、其蔽や愚。知を好んで學を好まずんば、其蔽や蕩。信を好んで學を好まずんば、其蔽や賊。直を好んで學を好まずんば、其蔽や絞。勇を好んで學を好まずんば、其蔽や亂。剛を好んで學を好まずんば、其蔽や狂。○子曰く、小子何ぞ夫の詩を學ぶ莫き。詩は以て興す可し、以て觀るべし、以て羣す可し、以て怨む可し、之を邇くしては父に事へ、之を遠くしては君に事ふ、多く鳥獸草木の名を知る。○子、伯魚に謂ひて曰く、女、周南・召南を爲めたるか、人にして周南・召南を爲めずんば、其れ猶ほ正しく牆に面して立つが如くなるか。○子曰く、禮と云ひ禮と云ふ、玉帛と云はんや。樂と云ひ樂と云ふ、鐘鼓と云はんや。○子曰く、色厲にして內荏なるは、諸を小人に譬ふれば、其れ猶ほ穿窬の盜のごときか。

(一) 陽貨名は虎、本は季氏の家臣なりしが季桓子之を擒げて大夫となせり孔子はその時は士の身分にして大夫にてはあらざりし也　(二) 孔子の德を聞き面會せんと欲すれども孔子會はず即ち一策を案じ孔子の不在のときを見計ひ豚を饋れり凡そ大夫士に物を賜ふ時は士拜して之を受く若し家に在らざるときに物を賜はらば大夫の家に至りて

不我與。孔子曰。諾。吾將仕矣。○子曰。性相近也。習相遠也。○子曰。唯上知與下愚不移。○子之武城。聞弦歌之聲。夫子莞爾而笑。曰。割雞焉用牛刀。子游對曰。昔者偃也聞諸夫子。曰。君子學道則愛人。小人學道則易使也。子曰。二三子。偃之言是也。前言戲之耳。○

人を愛し、小人道を學べば、則ち使ひ易きなりと。子曰く、二三子よ、偃の言是なり、前言は之に戲れたるのみ。○公山弗擾(一五)、費を以て畔く。召ぶ、子往かんと欲す。子路說ばず、曰く、之く末きのみ、何ぞ必ずしも公山氏に之れ之かん。子曰く、夫れ我を召ぶ者は、豈に徒ならんや、如し我を用ふ者あらば、吾其れ東周を爲さんか。○子張仁を孔子(一六)に問ふ。孔子曰く、能く五者を天下に行ふを仁と爲す。之を請ひ問ふ。曰く、恭寛信敏惠(一七)、恭なれば則ち侮られず、寛なれば則ち衆を得(一八)、信なれば則ち人任ず(一九)、敏なれば則ち功有り、惠なれば則ち以て人を使ふに足る。○佛肸(二〇)召ぶ(二一)、子往かんと欲す。子路曰く、昔(二二)由や諸を夫子(二三)に聞く、曰く、親ら其身に於て不善を爲す者は、君子は入らざるなりと。佛肸中(二四)牟を以て畔けり。子の往くや、之を如何。子曰く、然り、是の言有るなり、堅しと曰はずや、磨すれども磷せず(二五)、白しと曰はずや、涅(二六)すれども緇(二七)せず。我豈に匏(二八)瓜ならんや、焉ぞ能く繋りて食はれざらん。○子曰く、由や女六言六蔽(二九)を聞く

陽貨欲レ見二孔子一。孔子不レ見。歸二孔子豚一。孔子時二其亡一也。而往拜レ之。遇二諸塗一。謂二孔子一曰。來。予與レ爾言。曰。懷二其寶一而迷二其邦一。可レ謂レ仁乎。曰。不可。好レ從レ事而亟失レ時。可レ謂レ知乎。曰。不可。日月。逝矣。歳

卷之九

陽貨第十七

陽貨(一)孔子を見んと欲す、孔子見えず。孔子(二)に豚(三)を歸る。孔子其亡きを時として、而して往きて之を拜す。諸に(四)塗に遇ふ。孔子に謂ひて曰く、來れ、予爾と言はん。曰く、(五)其寶を懷きて而して其邦を迷はす、仁と謂ふ可きか。曰く(六)。不可。事に從ふを好みて而して亟〻時を失す、知と謂ふ可きか。曰く、不可。(七)日月逝きぬ、歳我と與ならず。孔子曰く、諾、吾將に仕へんとす。○子曰く、(八)性相近きなり、習相遠きなり。○(九)子曰く、唯上知と下愚とは移らず。○(一〇)子、(一一)武城に之き、(一二)弦歌の聲を聞く、夫子(一三)莞爾として笑ふ、曰く、(一四)雞を割くに、焉ぞ牛刀を用ひん。子游對へ曰く、昔偃や、諸を夫子に聞けり、曰く、君子道を學べば、則ち

斯之謂與。○陳亢問二於伯魚一曰。子亦有二異聞一乎。對曰。未也。嘗獨立。鯉趨而過レ庭。曰。學レ詩乎。對曰。未也。不レ學レ詩無二以言一。鯉退而學レ詩。他日又獨立。鯉趨而過レ庭。曰。學レ禮乎。對曰。未也。不レ學レ禮無二以立一。鯉退而學レ禮。聞二斯二者一。陳亢退而喜曰。問レ一得レ三。聞レ詩聞レ禮。又聞三君子之遠二其子一也。○邦君之妻。君稱レ之曰二夫人一。夫人自稱曰二小童一。邦人稱レ之曰二君夫人一。稱二諸異邦一曰二寡小君一。異邦人稱レ之。亦曰二君夫人一。

（一一）千駟とは馬四千頭のこと、蓋し諸侯には馬二千あるが普通なるに四千頭も有せるは富めりといふべし（一二）伯夷叔齊は周の粟を食はずして首陽山に餓死したる人（一三）朱子は其れ斯れの謂ひかの前に「誠に富を以てせず亦祇に異を以てす」の詩の句が脱落し之が錯簡となりて顔淵篇に入れるなりとせり今之れに從ふ（一四）孔子の子、鯉の字（一五）伯魚は孔子の子なれば其の聞く所他人と異なるものあるを疑ひて問ひしなり（一六）孔子の獨り立てるなり（一七）詩を云々の句は孔子の伯魚に告げたる語なり（一八）人と應接談話すべからざるをいふ（一九）身を立て世に處する能はざるをいふ（二〇）父自ら其の子を敎へざるをいふ（二一）寡は寡德の義にして謙辭なり

長れて速に不善を去るなり（一〇）聖人の道に其志を求めて

貌思レ恭。言思レ忠。事思レ敬。疑思レ問。忿思レ難。見レ得思レ義。○孔子曰。見レ善如レ不レ及。見二不善一如レ探レ湯。吾見二其人一矣。吾聞二其語一矣。隱居以求二其志一。行レ義以達二其道一。吾聞二其語一矣。未レ見二其人一也。○齊景公有二馬千駟一。死之日。民無二德而稱一焉。伯夷叔齊餓二于首陽之下一。民到二于今一稱レ之。其

曰く、子も亦異聞(一五)有るか。對へて曰く、未し。嘗て獨り(一六)立てり。鯉趨りて庭を過ぐ。曰く、詩(一七)を學びたるか。對へて曰く、未し。詩を學ばずんば、以て言ふ無し。鯉退いて詩を學べり。他日又獨り立てり。鯉趨りて庭を過ぐ。曰く、(一八)禮を學びたるか。對へて曰く、未し。禮を學ばずんば、以て立つ(一九)無し。鯉退いて禮を學べり。斯の二者を聞けり。陳亢退いて喜びて曰く、一を問うて三を得たり、詩を聞き、禮を聞き、又君子の其子(二〇)を遠くるを聞けり。○邦君の妻、君之を稱して、夫人と曰ふ。夫人自ら稱して、小童と曰ふ。邦人之を稱して、君夫人と曰ふ。諸を異邦に稱して、寡小君(二一)と曰ふ。異邦人之を稱して、亦君夫人と曰ふ。

㊀ 君子は常に謹慎身を持し修養して怠らず、從つて凡そ其畏懼する所多しと雖も左の三事を主なるものとなす ㊁ 天命とは人事を超越したる宇宙自然の賦命也 ㊂ 現世に於ける大人即ち一世に師表たる現存の大人物 ㊃ 過去に於ける聖人の言なり ㊄ 章指、生れながらにして知るは聖人なり、學んで知るは賢人なり、困んで知るは常人なり、困んで而も學ばざるは下愚の人なり ㊅ 事を行ふに恭敬自ら持することを思ふなり ㊆ 一朝の忿怒の爲めに難を人に及ぼすことあらんを思ふなり ㊇ 得るあれば義に叶ふや否やを思ふなり ㊈ 湯を探るが如く

既衰。戒ㇾ之在ㇾ得。

孔子曰。君子有㆓三畏㆒。畏㆓天命㆒。畏㆓大人㆒。畏㆓聖人之言㆒。小人不ㇾ知㆓天命㆒而不ㇾ畏也。狎㆓大人㆒。侮㆓聖人之言㆒。○孔子曰。生而知ㇾ之者上也。學而知ㇾ之者次也。困而學ㇾ之。又其次也。困而不ㇾ學。民斯爲ㇾ下矣。○孔子曰。君子有㆓九思㆒。視思ㇾ明。聽思ㇾ聰。色思ㇾ溫。

孔子曰く、君子（一）に三畏有り、天命（二）を畏れ、大人（三）を畏れ、聖人（四）の言を畏る。小人は天命を知らずして、畏れざるなり、大人に狎れ、聖人の言を侮る。○孔子（五）曰く、生れながらにして之を知る者は、上なり、學んで之を知る者は、次なり、困んで之を學ぶは、又其次なり、困んで學ばざるは、民斯を下と爲す。○孔子曰く、君子に九思有り、視は明を思ひ、聽は聰を思ひ、色は溫を思ひ、貌は恭を思ひ、言は忠を思ひ、事（六）は敬を思ひ、疑は問を思ひ、忿（七）は難を思ひ、得（八）を見ては義を思ふ。○孔子曰く、善を見ては及ばざるが如くし、不善を見ては湯（九）を探るが如くす、吾其人を見、吾其の語を聞けり。隱居して以て其の志（一〇）を求め、義を行うて以て其の道を達す、吾其の語を聞けども、未だ其の人を見ざるなり。○齊の景公馬千駟有り、死するの日、民德として稱する無し、伯夷叔齊（一二）首陽の下に餓す。民（一一）今に到るまで之を稱す、其れ（一三）斯れの謂か。○陳亢伯魚（一四）に問ふ、

征伐自二天子一出。天下無レ道。則禮樂征伐自二諸侯一出。自二諸侯一出。蓋十世希レ不レ失矣。自二大夫一出。五世希レ不レ失矣。陪臣執二國命一。三世希レ不レ失矣。天下有レ道。則政不レ在二大夫一。天下有レ道。則庶人不レ議。

○孔子曰。祿之去二公室一五世矣。政逮二於大夫一四世矣。故夫三桓之子孫微矣。

○孔子曰。益者三友。損者三友。友レ直友レ諒。友二多聞一益矣。友二便辟一。友二善柔一。友二便佞一損矣。

○孔子曰。益者三樂。損者三樂。樂レ節二禮樂一。樂レ道二人之善一。樂レ多二賢友一益矣。樂二驕樂一。樂二佚遊一。樂二宴樂一。損矣。

○孔子曰。侍二於君子一有二三愆一。言未レ及レ之而言。謂二之躁一。言及レ之而不レ言。謂二之隱一。未レ見二顏色一而言。謂二之瞽一。

○孔子曰。君子有二三戒一。少之時。血氣未レ定。戒レ之在レ色。及二其壯一也。血氣方剛。戒レ之在レ鬪。及二其老一也。血氣

疾むとなり【一一】政教の均平【一二】安寧【一三】政教平かなれば貧ならず上下和合すれば寡きことを患へず安寧なれば危きことなし【一四】邦は公室なり公室は四分し家臣は叛きてなり【一五】干は楯戈は戟、即ち兵事のこと【一六】屏内即ち一家内の中【一七】失とは政を失ひ國家を滅すをいふ。蓋し十世とは事實につきていひたるにあらざらん【一八】陪は重なり大夫の家臣なり【一九】民間の處士國政の是非を議することなしとぞ【二〇】章指、俸祿が君たる公室より出でずして臣たる大夫より出づるやうになりてより五世、又政權が臣たる大夫に移りしより四世となれり、此の如く漸々世は澆季になりしを以て三桓の子孫の微弱なるは當然の理なり【二一】威儀に習ひて直ならざるをいふ【二二】外面のみ柔和にして內心荊棘ある所謂令色の人也【二三】便佞は口巧にして其實なきなり【二四】音ヲク、樂むの義なり。或は音ガウ、好み望むの義とす、亦通ず【二五】禮を行ひ樂をなすに皆其度を失はざるをいふ【二六】尊貴を鼻にかけ恣に樂むを云ふ【二七】安逸を樂みて度なし【二八】長者先輩に侍するときに犯し易き過失三ケ條あり【二九】愆は過失なり【三〇】君子未だ之に談話を仕向けざるに卑者進みて言ふを躁と云ふ【三一】情實を隱して盡さざる意【三二】三十歳以前主に二十前後をいふ【三三】女色なり【三四】三十歳以上をいふ【三五】五十歳以上なり【三六】得とは物を得んと貪るなり

患レ貧而患レ不レ安。蓋均無レ貧。和無レ寡。安無レ傾。夫如レ是。故遠人不レ服。則脩二文德一以來レ之。既來レ之。則安レ之。今由與レ求也。相二夫子一。遠人不レ服。而不レ能レ來也。邦分崩離析。而不レ能レ守也。而謀レ動二干戈於邦内一。吾恐季孫之憂。不レ在二顓臾一。而在二蕭牆之内一也。○孔子曰。天下有レ道。則禮樂

し、便佞(二三)を友とするは損なり。○孔子曰く、益者三樂(二四)、損者三樂、禮樂(二五)を節するを樂み、人の善を道ふを樂み、賢友多きを樂むは益なり、驕樂(二六)を樂み、佚遊(二七)を樂み、宴樂を樂むは損なり。○孔子曰く、君子に侍する(二八)に、三愆(二九)あり、言(三〇)未だ之に及ばずして言ふ、之を躁と謂ふ、言之に及んで言はざる、之を隱(三一)と謂ふ、未だ顔色を見ずして言ふ、之を瞽と謂ふ。○孔子曰く、君子に三戒有り、少き(三二)時は、血氣未だ定まらず、之を戒むる色(三三)に在り、其壯(三四)なるに及んでや、血氣方に剛なり、之を戒むる鬬に在り、其老ゆる(三五)に及んでや、血氣既に衰ふ、之を戒むる得(三六)にあり。

(一) 當時魯の附屬國たり (二) 相談に來れるなり冉有季路は共に孔子の弟子にして其時は共に季氏の臣たればなり
(三) 夫れ顓臾は昔周のとき先王之を東蒙の主と定めて山川の祭を主らしめしもの而して魯の邦域の中に在り乃ち巳に魯に屬して社稷の臣たり季氏之を伐つべき理由なしと也 (四) 周任は古の良史なり (五) 列は位なり、蓋し己の才力の限りをのべしきて以て其の位に就き、若し力能はざれば止めて其位を退く (六) 虎や野牛 (七) 柙は檻なり
(八) 櫝の中 (九) 費は季氏の邑 (一〇) 心に利を欲しながらそれを明ちさまに云はずして色々と口實を設くる者を

曰。陳レ力就レ列。不レ能者止。危而不レ持。顚而不レ扶。則將焉用二彼相一矣。且爾言過矣。虎兕出二於柙一。龜玉毀二於櫝中一。是誰之過與。冉有曰。今夫顓臾固而近二於費一。今不レ取後世必爲二子孫憂一。孔子曰。求。君子疾三夫舍レ曰レ欲レ之。而必爲二之辭一。丘也聞有レ國有レ家者。不レ患レ寡而患レ不レ均。不レ

して、安(一二)からざるを患ふ。蓋し(一三)均しければ貧しきこと無く、和すれば寡きこと無く、安ければ傾くこと無し。夫れ是の如し。故に遠人服せざれば、則ち文徳を脩めて以て之を來す。既に之を來せば、則ち之を安んず。今由と求と、夫子を相け、遠人服せずして來す能はざるなり、邦分崩離析(一四)して、守る能はざるなり。而して干戈(一五)を邦内に動かすを謀る。吾、季孫の憂、顓臾に在らずして、而して蕭牆(一六)の内に在るを恐る。○孔子曰く、天下道有れば、則ち禮樂征伐天子より出で、天下道無ければ、則ち禮樂征伐諸侯より出づ。諸侯より出づれば、蓋し十世(一七)失はざるは希なり。大夫より出づれば、五世失はざるは希なり。陪臣(一八)國命を執れば、三世失はざるは希なり。天下道あれば、則ち政大夫に在らず、天下道有れば、則ち庶人(一九)議せず。○孔子曰く、祿の公室を去ること五世、政大夫に逮ぶこと四世、故に夫の三桓(二〇)の子孫微なり。○孔子曰く、益者三友、損者三友、直を友とし、諒を友とし、多聞を友とするは益なり、便辟(二一)を友とし、善柔(二二)を友と

季氏將伐顓臾。冉有季路見於孔子曰。季氏將有事於顓臾。孔子曰。求無乃爾是過與。夫顓臾。昔者先王以爲東蒙主。且在邦域之中矣。是社稷之臣也。何以伐爲。冉有曰。夫子欲之。吾二臣者。皆不欲也。孔子曰。求。周任有言。

季氏第十六

季氏將に顓臾(一)を伐たんとす。冉有・季路、孔子に見え(二)て、曰く、季氏將に顓臾に事有らんとす。孔子曰く、求乃ち爾是れ過つ無きか。夫れ顓臾は、昔先王以て東蒙(三)の主と爲す、且つ邦域の中に在り、是れ社稷の臣なり、何ぞ伐を以て爲ん。冉有曰く、夫子之を欲す、吾二臣の者は皆欲せざるなり。孔子曰く、求、周任(四)言へる有り、曰く力を陳べて、列に就く、能はざれば止むと。危くして持せず、顚して扶けずんば、則ち將た焉(五)ぞ彼の相を用ひん。且つ爾の言過てり。虎兕(六)柙(七)より出で、龜玉櫝(八)中に毀れば、是れ誰の過か。冉有曰く、今夫の顓臾は、固くして費(九)に近し、今取らざれば、後世必ず子孫の憂を爲さん。孔子曰く、求、君子(一〇)は夫の之を欲すと曰ふを舍いて、必ず之が辭を爲すを疾む。丘や聞く、國を有ち家を有つ者は、寡きを患へずして、均(一一)しからざるを憂ふ、貧を患へず

守ㇾ之。不ニ莊以涖一ㇾ之。則民不ㇾ敬。知及ㇾ之。仁能守ㇾ之。莊以涖ㇾ之。動ㇾ之不ㇾ以ㇾ禮未ㇾ善也。○子曰。君子不ㇾ可ニ小知一而可ニ大受一也。小人不ㇾ可ニ大受一。而可ニ小知一也。○子曰。民之於ㇾ仁也。甚ニ於水火一。水火吾見ニ蹈而死者一矣。未ㇾ見ニ蹈ㇾ仁而死者一也。○子曰。當ㇾ仁不ㇾ讓ニ於師一。○子曰。君子貞而不ㇾ諒。○子曰。事ㇾ君敬ニ其事一。而後ニ其食一。○子曰。有ㇾ教無ㇾ類。○子曰。道不ㇾ同。不ニ相爲謀一。○子曰。辭達而已矣。○師冕見。及ㇾ階。子曰。階也。及ㇾ席。子曰。席也。皆坐。子告ㇾ之曰。某在ㇾ斯某在ㇾ斯。師冕出。子張問曰。與ㇾ師言之道與。子曰。然。固相ㇾ師之道也。

あるも服習すると能はざるときは人の能く服習するものに借して己に代りて之を馴らすを云ふ 〔一四〕 今日に於いては之れなしとて歎ぜられしものなり 〔一五〕 巧言は德言にまぎれる 〔一六〕 小事を堪へしのぶ事能はざれば 〔一七〕 有德の人ありて道始めて天下に弘まるものなり 〔一八〕 過遂に成るをいふ 〔一九〕 蓋し本章孔子少時の經驗を述べて此事あり今小子の爲めに教誡せしなり 〔二〇〕 假令耕すとも歲に凶荒ある爲め飢餓自ら至る事あり 〔二一〕 求めずして祿自ら至る也 〔二二〕 君子が治民に當りて知その位に當ふに足るも 〔二三〕 其位を守ること 〔二四〕 涖むは臨むなり 〔二五〕 民を使用するに 〔二六〕 君子は小事を以て之を知る可からず 〔二七〕 任ずるに大事を以てすべし受は任なり 〔二八〕 人君の仁德 〔二九〕 水火は人民の生活上日常必要のものであるが人君の仁德には及ばない 〔三〇〕 章指、人仁を行ふに當ては何の恐るゝことかあらん師にも讓る所ある可からず 〔三一〕 貞は正しくして堅固なるなり 〔三二〕 諒とは小信をいふ 〔三三〕 臣が君に事へては其職務を專一にして其食卽ち俸祿の事は後にす 〔三四〕 章指、人の本質にはもと善惡の類なし、そのこれあるは習俗の然らしむるものなり故に君子教を設けて之を善導す、教育宜しきを得ば愚は智に至らしむ可く、惡は美に至らしむべし、卽ち教の如何はあれども人に善惡の類なしと也 〔三五〕 章指、當時諸侯辭命を作る多く文飾を務め虛僞多く兩國の情好を破ること多し故に孔子は其意達するは辭命の本旨なるを以て戒となせる也。辭を一般の言語文章と解する說亦通ず 〔三六〕 師は盲人にて音樂者なり、冕は名 〔三七〕 階堂に上るきざはしなり 〔三八〕 名を紹介するなり

之必察焉。○子曰。人能弘レ道。非二道弘一レ人。○子曰。過而不レ改。是謂レ過矣。○子曰。吾嘗終日不レ食。終夜不レ寢。以思。無レ益。不レ如學也。○子曰。君子謀レ道。不レ謀レ食。耕也餒在二其中一矣。學也祿在二其中一矣。君子憂レ道不レ憂レ貧。○子曰。知及レ之。仁不レ能レ守レ之。雖レ得レ之必失レ之。知及レ之。仁能

つては師に譲らず。○子曰く、君子は貞(三一)にして諒(三二)ならず。○子曰く、君に事へて(三三)其事を敬し、而して其食を後にす。○子曰く、(三四)教有りて類なし。○子曰く、道同じからざれば、相爲めに謀らず。○子曰く、(三五)辭は達するのみ。○師冕(三六)見ゆ、階に及ぶ。子曰く、階なり。(三七)席に及ぶ。子曰く、席なり。皆坐す。子之に告げて曰く、某は斯に在り、某は斯に在り。師冕出づ。子張問うて曰く、師と言ふの道か。子曰く、然り、固より(三八)師を相くるの道なり。

(一) 身を終ふる迄　(二) 名は實の賓、實あれば名の伴ふべきを以て也。王陽明は稱をカナフの義とす　(三) 章指、君子は己を責めて人を責めず小人は人を責めて己を責めず　(四) 矜は莊嚴なるなり、人莊嚴なれば和氣少きの弊あり故に爭鬪をなすものなり、然るに君子は莊嚴なれども和氣を失はず故に爭鬪をなすことなし　(五) 君子は群居して親和するも義を以てする故に私情を以て相黨する事なし　(六) 善く言ふもの必ずしも善く行はず故に君子は其人の言ふ所のみによりて之を擧用せず、又小人にも善言あることあり故に君子は小人なればとて其言ふ所の善なるをば排斥せず　(七) 己を推して人に及ぼすなり　(八) 吾は妄りに人を毀譽せず若し譽むるあらば先づ其實あるかを試驗して譽むるなり　(九) 今人も夏殷周三代の世の人民と同じく良心あり德性あり故に之を發揮し良民たらしむべし豈に妄に毀譽褒貶すべきものならんや　(一〇) 昔自分の經驗したる時代に比して今時の風俗の更にいたく衰頽せるを嘆ずる也　(一一) 史官　(一二) 疑はしきを闕く也、及べりは吾猶はその如き時代に生れたりきの意　(一三) 己に馬

身行レ之者上乎。子曰。其恕乎。己所レ不レ欲。勿レ施二於人一。○子曰。吾之於レ人也。誰毀誰譽。如有二所レ譽者一。其有レ所レ試矣。斯民也。三代之所二以直道而行一也。○子曰。吾猶及二史之闕文一也。有レ馬者借レ人乘レ之。今亡矣夫。○子曰。巧言亂レ德。小不レ忍則亂二大謀一。○子曰。衆惡レ之必察焉。衆好レ

ば、則ち大謀を亂る。○子曰く、衆之を惡むも、必ず察し、衆之を好むも、必ず察す。○子曰く、(一七)人能く道を弘む、道人を弘むるに非るなり。○子曰く、過つて改めざるは、是を(一八)過と謂ふ。(一九)○子曰く、吾嘗て終日食はず、終夜寢ねずして、以て思へり、益なし、學ぶに如かざるなり。○子曰く、君子は道を謀りて食を謀らず、(二〇)耕すや、餒其中に在り、學ぶや、(二二)祿其中に在り、君子は道を憂へ、貧を憂へず。○子曰く、(二一)知之に及べども、(二三)仁之を守る能はざれば、之を得ると雖も、必ず之を失ふ。知之に及び、仁能く之を守るも、莊以て之に(二四)涖まざれば、則ち民敬せず。知之に及び、仁能く之を守り、莊以て之に涖めども、(二五)之を動かすに禮を以てせざれば、未だ善からざるなり。○子曰く、君子は(二六)小知す可からず、而して(二七)大受せしむ可きなり。小人は大受せしむ可からず、而して小知す可きなり。○子曰く、民の(二八)仁に於けるや、(二九)水火より甚し。水火は吾蹈んで死する者を見る、未だ仁を蹈んで死する者を見ざるなり。(三〇)○子曰く、仁に當

好色者也。○子曰。臧文仲其竊位者與。知柳下惠之賢而不與立也。○子曰。躬自厚。而薄責於人。則遠怨矣。○子曰。不曰如之何如之何者吾末如之何也已矣。○子曰。羣居終日。言不及義。好行小慧。難矣哉。○子曰。君子義以爲質。禮以行之。孫以出之。信以成之。君子哉。○子曰。君子病無能焉。不病人之不己知也。

子曰。君子疾沒世而名不稱焉。○子曰。君子求諸己。小人求諸人。○子曰。君子矜而不爭。羣而不黨。○子曰。君子不以言擧人。不以人廢言。○子貢問曰。有一言而可以終

子曰く、君子は世を沒して名稱せられざるを疾む。○子曰く、君子は諸を己に求め、小人は諸を人に求む。○子曰く、君子は矜みて爭はず、羣して黨せず。○子曰く、君子は言を以て人を擧げず、人を以て言を廢せず。○子貢問ふ、曰く、一言にして以て終身之を行ふ可き者有りや。子曰く、其れ恕か、己の欲せざる所は人に施すこと勿れ。○子曰く、吾の人に於ける、誰をか毀り誰をか譽めん、如し譽むる所の者あらば、其れ試みる所有らん。斯の民や、三代の直道にして行ふ所以なり。○子曰く、吾猶ほ史の闕文に及ぶ、馬有る者は、人に借して之に乘らしむ、今は亡きかな。○子曰く、巧言は德を亂る。小忍びざれ

有二殺レ身以成レ仁。○子貢問レ爲レ仁。子曰。工欲レ善二其事一必先利二其器一。居二是邦一也。事二其大夫之賢者一。友二其士之仁者一。○顏淵問レ爲レ邦。子曰。行二夏之時一。乘二殷之輅一。服二周之冕一。樂則韶舞。放二鄭聲一。遠二佞人一。鄭聲淫。佞人殆。○子曰。人無二遠慮一。必有二近憂一。○子曰。已矣乎。吾未レ見下好レ德如レ

れんことを間へる也　（一三）蠻狄の國のこと　（一四）州は一萬二千五百家、里は二十五家なり　（一五）立ちて居る時は忠信篤敬が己の前に相參するが如く、車に乘りて居る時は忠信篤敬が車の衡に倚りて居るが如く、常に拳拳服膺して如何なる時にも忘れざるなり　（一六）車上の横木　（一七）大帶の垂るゝものなり　（一八）史は官名、魚は衞の大夫にして其名は鰌なり　（一九）直なるをいふ、卽ち行正直にして決して曲りたる事無しと也　（二〇）己の意見を包藏して時に忤はざるを云ふ　（二一）章指、與に言ふべき人と言ひ與に言ふべからざる人といはざるは、智者にして始めて之を能くすべし　（二二）百工たるものが其仕事を　（二三）百工の用ふる器械　（二四）各時代の禮樂の長を取り、之を損益因革して當世に行ふべきをいふ　（二五）夏の世の曆なり夏曆は建寅の月を正月とし田獵祭祀播種に最も便なり、夏の時を行ふは農業に注意する所以なり　（二六）輅は天子の乘りもの、殷の輅は質樸儉素なり　（二七）冕は禮冠をいふ、周冕は文ありて備はれり之れ禮を重ずる所以なり　（二八）韶は舜の創むる所の舞樂にして善を盡し美を盡せるものなり　（二九）鄭國の歌曲、淫聲なり　（三〇）佞人は口才ある者なり　（三一）人にして遠き思慮なきときは　（三二）遂に有德の君を見ざるの歎なり　（三三）苟も公職にある者は宜しく私情を去り賢才あらば直ちに之を擧げ野に遺賢なからしむべし然るに臧文仲は柳下惠の賢なるを知りながら遂に之を擧用すること能はざりき之れ位を竊むものにして不仁の甚しき者といふべし　（三四）己を責むること厚きなり　（三五）朋友相集りて一日談ずる所遊戲娛樂のみにして毫も義に及ばざるなり　（三六）小才を弄し小知を翫ぶなり　（三七）章指、人と交際せんには義を以て行爲の本質となし之を行ふに禮を以てし遜順を以て言葉に出し而して信義を守りて始めて成るなり、此の四事を以て人に接するものは君子なるかな　（三八）才能　（三九）憂ふるなり

在ㇾ輿則見三其倚二於衡一也。夫然後行。子張書二諸紳一。○子曰。直哉史魚。邦有ㇾ道如ㇾ矢。邦無ㇾ道如ㇾ矢。君子哉蘧伯玉。邦有ㇾ道則仕。邦無ㇾ道則可二卷而懷一ㇾ之。○子曰。可二與言一而不二與ㇾ之言一。失ㇾ人。不ㇾ可二與言一。而與ㇾ之言。失ㇾ言。知者不ㇾ失ㇾ人。亦不ㇾ失ㇾ言。○子曰。志士仁人。無二求ㇾ生以害一ㇾ仁。

き憂あり。○子曰く、已ぬるかな(三二)、吾未だ徳を好むこと色を好むが如くする者を見ざるなり。○子曰く、臧文仲(三三)は其れ位を竊むものか、柳下恵の賢を知りて、而も與に立たざるなり。○子曰く、躬(三四)自ら厚くして、薄く人を責むれば、則ち怨に遠ざかる。○子曰く、之を如何せん、之を如何せんと曰はざるものは、吾之を如何ともする末きのみ。○子曰く、羣居(三五)終日、言義に及ばず、好んで小慧(三六)を行ふ、難いかな。(三七)○子曰く、君子は義以て質と爲し、禮以て之を行ひ、孫以て之を出し、信以て之を成す、君子なるかな。○子曰く、君子は能(三八)なきを病む(三九)、人の己を知らざるを病まざるなり。

(一) 陳は陣に同じく陣法のこと (二) 俎・豆は共に祭器、禮儀といふ義 (三) 軍事なり、靈公は無道の君故に孔子は殊に知らざるを以て答へられしならん (四) 明日去り陳國に行く、時に吳陳を伐ち國内大に亂れたれば食物を得ること能はず (五) 興は起なり (六) 放濫なり (七) 孔門の秀才子貢の名 (八) 終始一貫の理即ち忠恕之れなり (九) 子路の名也、由とて孔子が子路を呼びかけられしなり (一〇) 人才位に在らば天子は無爲にして天下治まらん堯の時人才多しと雖も洪水あり四凶あり未だ無爲なること能はず舜に至りて洪水既に治まり四凶皆去りよく無爲にして治まる (一一) 南は陽なり明なり南面とは天子の政を聽く位置をいふ (一二) 達と同意なり己れ自身が世人に用ひら

也女以予爲多學而識之者與。對曰。然非與。曰。非也。予一以貫之。○子曰。由。知德者鮮矣。○子曰。無爲而治者。其舜也與。夫何爲哉。恭己正南面而已矣。○子張問行。子曰。言忠信。行篤敬。雖蠻貊之邦行矣。言不忠信。行不篤敬。雖州里行乎哉。立則見其參於前也。

も行はれん。言忠信ならず、行篤敬ならずんば、州里と雖も行はれんや。立てば則ち其前に參たるを見、輿に在りては、則ち其衡に倚る見る、夫れ然る後に行はれん。子張諸を紳に書す。○子曰く、直なるかな史魚、邦道有れば矢の如く、邦道無きも矢の如し。君子なるかな蘧伯玉、邦道有れば、則ち仕へ、邦道無ければ、則ち卷いて之を懷にす可し。○子曰く、與に言ふ可くして、而して之と與に言はされば、人を失ふ、與に言ふ可からずして、而して之と與に言へば、言を失ふ。知者は人を失はず、亦言を失はず。○子曰く、志士仁人は、生を求めて以て仁を害すること無し、身を殺して以て仁を成す有り。○子貢仁を爲すを問ふ。子曰く、工其事を善せんと欲せば、必ず先づ其器を利にす。是の邦に居るや、其大夫の賢者に事へ、其士の仁者を友とす。○顏淵邦を爲むるを問ふ。子曰く、夏の時を行ひ、殷の輅に乗り、周の冕を服し、樂は則ち韶舞し、鄭聲を放ち、佞人を遠けよ。鄭聲は淫に、佞人は殆し。○子曰く、人遠き慮無ければ、必ず近

衛靈公問二陳於孔子。孔子對曰。俎豆之事。則嘗聞レ之矣。軍旅之事。未二之學一也。明日遂行。在レ陳絶レ糧。從者病。莫二能興一。子路慍見曰。君子亦有レ窮乎。子曰。君子固窮。小人窮斯濫矣。○子曰。賜

卷之八

衛靈公第十五

衛の靈公陳を孔子に問ふ。孔子對へて曰く、俎豆の事は則ち嘗て之を聞けり、(三)軍旅の事は(二)未だ之を學ばざるなりと。(四)明日遂に行る。陳に在りて糧を絶つ。從者病み、能く興つ(五)莫し。子路慍み見て曰く、君子も亦窮する有るか。子曰く、君子固より窮す、小人窮すれば斯に濫す(六)。○子曰く、(七)賜や、女予を以て多く學んで之を識る者と爲すか。對へて曰く、然り、非なるか。曰く、非なり、予れ一以て之を貫く(八)。○子曰く、(九)由、徳を知る者は鮮し。○子曰く、無爲にして治まる者は其れ舜か、夫れ何を爲さんや、己を恭しくし正しく南面するの(一〇)み。○子張行はるゝを問ふ(一一)。子曰く、言忠信、行篤敬ならば、蠻貊の邦と雖(一二)

辟地。其次辟色。其次辟言。○子曰。作者七人矣。○子路宿於石門。晨門曰。奚自。子路曰。自孔氏。曰。是知其不可而爲之者與。○子擊磬於衛。有荷蕢而過孔氏之門者。曰。有心哉。擊磬乎。既而曰。鄙哉硜硜乎。莫己知也。斯已而已矣。深則厲。淺則揭。子曰。果哉。末之難矣。○子張曰。書云。高宗諒陰。三年不言。何謂也。子曰。何必高宗。古之人皆然。君薨。百官總己以聽於冢宰三年。○子曰。上好禮則民易使也。○子路問君子。子曰。脩己以敬。曰。如斯而已乎。曰。脩己以安人。曰。如斯而已乎。曰。脩己以安百姓。脩己以安百姓。堯舜其猶病諸。○原壤夷俟。子曰。幼而不孫弟。長而無述焉。老而不死。是爲賊。以杖叩其脛。○闕黨童子將命。或問之曰。益者與。子曰。吾見其居於位也。見其與先生並行也。非求益者也。欲速成者也。

蘘篇の語也、蓋し世孔子を知らず孔子は宜しく止むべきに然かも止めず詩經に水を渉るにその深淺に隨ひて厲揭宜しきに適するを云へるが如くなる能はずとて譏りたるなり　五五　よくも思ひ切りたる事かな、斯る行爲に出でん事は難きことなし、末は無也　五六　殷の高宗は前帝の喪中三年間物を言はず乃ち號令を發せざりき、諒は信なり諒陰は信に陰に居るの義喪にある間をいふ　五七　百官は己の職務を行ふに君の命令を待たずして總べまとめて　五八　冢宰は大宰のこと　五九　其命令を聽く　六〇　君臣上下の分、國家社會の制凡て正しき故也　六一　己の身を修め恭敬自ら持するなり　六二　己を脩めて人を安んずとは己の身を修め遂に人をも教道誘掖して安ぜしむるなり　六三　己の身を脩め遂に人民を教導して其の安堵を得さするなり　六四　孔子の故舊にて愚人　六五　うづくまる　六六　從順　六七　稱するなきなり　六八　足骨なり　六九　五百家を黨といふ闕は黨名なり五百家ある闕といふ村といふが如し　七〇　取り次ぎなり　七一　學問が進益したるかと　七二　位は座席なり童子は座席なく座隅に居るを禮とす然るに此童子は位に居るなり　七三　童子は大人の後に隨ひ行くは禮なるにこの子は大人と並んで行けり

也夫。子貢曰。何爲其莫知子也。子曰。不怨天。不尤人。下學而上達。知我者其天乎。○公伯寮愬子路於季孫。子服景伯以告曰。夫子固有惑志於公伯寮。吾力猶能肆諸市朝。子曰。道之將行也與。命也。道之將廢也與。命也。公伯寮其如命何。○子曰。賢者辟世。其次

賜は子貢の名 〔二六〕 人を比較論評する餘裕杯あらざるなり、陽に子貢を賞揚して却りて深く之を抑ふるの深意を見る 〔二七〕 人が己を欺くならんとて豫め之を察する如き事なく 〔二八〕 人の己を信ぜざらん事を思ひて兼々より心配する如き事なし 〔二九〕 逆へず億せずして人の情僞自然に我が心に先づ覺るは是れ賢也 〔三〇〕 孔子と同鄉の先輩なるべし 〔三一〕 東奔西走して居に安ぜず 〔三二〕 口才なり 〔三三〕 固とは執滯通ぜざるなり固陋に世を思ひ切りて隱居其身を善くするを謂ふ 〔三四〕 善馬なり其力能く遠きに至るを以て稱せられず其進退節あり歩趨度有り、又よく調良すべきを以て稱せらる人亦才よりも德を尙ぶとの意を寓す 〔三五〕 德を以て怨に報ゆるは老子の唱ふる所、孔子は之を取らざる也 〔三六〕 孔子は世主の己を知らず用ひて以て道を天下に行はしめざるを歎ぜしなり 〔三七〕 卑近の事を學びて以て高遠の道に達し、遂によく天命の然るを知る、則ち眞に我を知るものはそれ天かと也 〔三八〕 魯人なる公伯寮は子路を季孫に讒言す 〔三九〕 此事を孔子に告げしなり子服景伯は魯の大夫子服何なり 〔四〇〕 季孫惑ひて讒言を信じ子路を疑へり 〔四一〕 吾が力にて公伯寮を誅し其尸を市朝に肆し子路の寃を解くを得んと 〔四二〕 道全く行はざれば世を避けて出でず、程子の說に、其次々々といふは大小の次第を以ていふも而も優劣に非ず境遇の不同のみと。 〔四三〕 亂國を去りて他にゆくなり 〔四四〕 禮貌の衰へたるを見て去るなり 〔四五〕 起つて隱居する者をいふ一說この一章を前章に併す 〔四六〕 地名なり 〔四七〕 朝門を開く者、門番なり、蓋し賢人の斯る卑役に身を隱せるものなるべし 〔四八〕 孔子の所より來れりとの意、孔子四方を遊歷し外に在ること久しき故に子路を爲に歸して家事を視しむる途次の事か、門番はその餘りに早きを訝み何所より來れるかを問ふ、子路答へて孔氏の所より來れりといへば、門番は汝が謂ふ所の孔子は時の不可なるを知りつゝ而も尙は已む能はざるものかといひて之を嘲りぬと也 〔四九〕 孔子 〔五〇〕 樂器 〔五一〕 草器なり、もつこ 〔五二〕 狹植なる意 〔五三〕 己を信ずる固くして世と從つて變ずるを知らざるなり 〔五四〕 衣の裾をからぐるに褰以上に及ぶを厲といひ褰以下なるを揭といふ、これ詩經邶風匏有苦

之不己知。患其不能也。○子曰。不逆詐。不億不信。抑亦先覺者是賢乎。○微生畝謂孔子曰。丘何爲是栖栖者與。無乃爲佞乎。孔子曰。非敢爲佞也。疾固也。○子曰。驥不稱其力。稱其德也。○或曰。以德報怨何如。子曰。何以報德。以直報怨。以德報德。○子曰。莫我知

く、己を脩めて以て百姓を安んず。己を脩めて以て百姓を安んずるは、堯舜も其れ猶ほ諸を病めり。○原壤夷して俟つ。子曰く、幼にして孫弟ならず、長じて述ぶる無く、老て死せず、是を賊と爲すと。杖を以て其脛を叩てり。○闕黨の童子命を將ふ。或ひと之を問うて、曰く、益する者か。子曰く、吾其の位に居るを見る、其の先生と並び行くを見る、益を求むる者に非ざるなり、速に成らんと欲する者なり。

㊀ 孔子 ㊁ 位を失ふをいふ ㊂ 仲叔圉能く賓客を治むれば隣國との好を失はず ㊃ 能く宗廟を治むれば君王の貴きを失はず ㊄ 能く軍旅を治むれば民心を失はず ㊅ 内に實有れば之を言に發して愧ぢず ㊆ 實を積むことは爲し易からず ㊇ 齊の大夫名は恆 ㊈ 齊君なり 一〇 魯君 一一 哀公專斷にて事を決する能はず故に孔子をして季孫、孟孫、叔孫の三家に告げしむ 一二 孔子退きて人に語りて曰ふなり 一三 討つ事をきゝ入れざりし也 一四 誠心誠意君に事へて決して欺く事勿れ 一五 若し君に過失あらば顏を犯して諫むべきなり 一六 君子は常に心の修養を怠らずして上へ上へと進みて上の極に達し、小人は利を求むるに急にして下へ下へと進みて下の極に達す、君子益々君子にして小人益々小人なり。この章異說殊に紛々 一七 己の身に消德をつむなり 一八 口にいひて人に聞かせ其識にほこりて身の德に益なし 一九 衞の大夫 二〇 蘧伯玉のこと 二一 謙辭なり 二二 原文「而」皇本「之」に作るに從つて訓ず 二三 孔子自身がそつくりそのまゝと也 二四 人を比較評論するなり 二五

能也。使者出。子曰。使乎使乎。○子曰。不レ在二其位一。不レ謀二其政一○曾子曰。君子思不レ出二其位一。○子曰。君子恥三其言而過二其行一。○子曰。君子道者三。我無レ能焉。仁者不レ憂。知者不レ惑。勇者不レ懼。子貢曰。夫子自道也。○子貢方レ人。子曰。賜也賢乎哉。夫我則不レ暇。○子曰。不レ患三人

吾が(四一)力猶ほ能く、諸を市朝に肆さん。子曰く、道の將に行はれんとするや命なり、道の將に廢れんとするや命なり、公伯寮其れ命を何如せん。○子曰く、賢(四二)者は世を辟く、其次は地(四三)を辟く、其次は色(四四)を辟く、其次は言を辟く。○子曰く、作(四五)つ者七人。○子路石門(四六)に宿す。晨門(四七)曰く、奚よりすと。子路曰く、孔氏(四八)よりす。曰く、是れ其不可を知りて之を爲す者か。○子磬(四九)(五〇)を衞に擊つ。蕢(五一)を荷ひて孔氏の門を過ぐる者有り、曰く、心有るかな磬を擊つや。既にして曰く、鄙(五二)なる哉硜硜(五三)乎たり、己を知る莫きなり、斯れ已まんのみ。深ければ則ち厲(五四)し、淺ければ則ち揭す。子曰く、果(五五)なるかな、之れ難き末し。○子張曰く、書に云ふ、高宗(五六)諒陰三年言はずと、何の謂ぞ。子曰く、何ぞ必ずしも高宗のみならん、古の人皆然り、君薨ずれば百官(五七)己を總べて、以て冢宰(五八)に聽くこと(五九)三年なり。○子曰く、上(六〇)禮を好めば、民使ひ易し。○子路君子を問ふ。子曰く、己(六一)を脩めて以て敬す。曰く、斯の如きのみか。曰く、己(六二)を脩めて以て人を安んず。曰く、斯の如きのみか。曰

君曰。告二夫三子一者。之二三子一告。不レ可。孔子曰。以三吾從二大夫之後一。不二敢不一レ告也。○子路問レ事レ君。子曰。勿レ欺也。而犯レ之。○子曰。君子上達。小人下達。○子曰。古之學者爲レ己。今之學者爲レ人。○蘧伯玉使二人於孔子一。孔子與レ之坐而問焉。曰。夫子何爲。對曰。夫子欲レ寡二其過一而未レ

く、君子は其言の其行に過ぐるを恥づるなり。○子曰く、君子の道なる者三、我能くする無し、仁者は憂へず、知者は惑はず、勇者は懼れず。子貢曰く、夫子自ら道ふなり。○子貢人を方ぶ。子曰く、賜や賢なるかな、夫れ我は則ち暇あらず。○子曰く、人の己を知らざるを患へず、其の能ざるを患ふ。○子曰く、詐を逆へず、不信を億からず、抑々亦先覺する者は是れ賢か。○微生畝孔子に謂ひて曰く、丘何ぞ是の栖栖たる者を爲す、乃ち佞を爲す無からんか。孔子曰く、敢て佞を爲すに非ざるなり、固を疾めばなり。○子曰く、驥は其力を稱せず、其徳を稱するなり。○或ひと曰く、徳を以て怨に報いば、何如と。子曰く、何を以て徳に報いん。直を以て怨に報い、徳を以て徳に報いん。○子曰く、我を知る莫きか。子貢曰く、何ぞ其れ子を知る莫しと爲す。子曰く、天を怨みず、人を尤めず、下學して上達す、我を知る者は其れ天か。○公伯寮子路を季孫に愬ふ。子服景伯以て告ぐ。曰く、夫子固より公伯寮に惑志有り、

之無道一也。康子曰。夫如レ是。奚而不レ喪。孔子曰。仲叔圉治二賓客一。祝鮀治二宗廟一。王孫賈治二軍旅一。夫如レ是。奚其喪。○子曰。其言レ之不レ怍。則爲レ之也難。○陳成子弑二簡公一。孔子沐浴而朝。告二於哀公一曰。陳恆弑二其君一。請討レ之。公曰。告二夫三子一孔子曰。以三吾從二大夫之後一不二敢不一レ告也。

く、仲叔圉（三）賓客を治め、祝鮀（四）宗廟を治め、王孫賈（五）軍旅を治む、夫れ是の如し、奚ぞ其れ喪びん。○子曰く、（六）其の之を言うて怍ぢず、（七）則ち之を爲す難し。○陳（八）成子（九）簡公を弑す。孔子沐浴して朝し、（一〇）哀公に告げて、曰く、陳恆其君を弑す、請ふ之を討たん。公曰く、（一一）夫の三子に告げよ。孔子曰く、吾大夫の後に從ふを以て、敢て告げずんばあらず。君曰く、夫の三子者（一二）に告げよと。三子に之きて告ぐ。（一三）可かず。孔子曰く、吾大夫の後に從ふを以て、敢て告げずんばあざるなり。○子路君に事ふるを問ふ。子曰く、（一四）欺く勿れ、而して之を犯せ。（一五）○子曰（一六）く、君子は上達し、小人は下達す。○子曰く、古の學者は（一七）己の爲にし、今の學者は（一八）人の爲にす。○蘧伯玉（一九）人を孔子に使す。孔子之と坐して問ふ、曰く、夫（二〇）子何をか爲す。對へて曰く、夫子其過を寡くせんと欲して、未だ能はざるなりと。使者出づ。子曰く、（二一）使なるかな、使なるかな。○子曰く、其位に在らざれば、其政を謀らず。○曾子曰く、君子は思ふこと其位を出です。○子曰

厭二其笑一。義然後取。人不レ厭二其取一。子曰。其然。豈其然乎。

○子曰。臧武仲以レ防求レ爲レ後於魯一。雖レ曰レ不レ要レ君。吾不レ信也。

○子曰。晉文公譎而不レ正。齊桓公正而不レ譎。

○子路曰。桓公殺二公子糾一。召忽死レ之。管仲不レ死。曰。未レ仁乎。子曰。桓公九二合諸侯一。不レ以二兵車一。管仲之力也。如二其仁一。如二其仁一。

○子貢曰。管仲非二仁者一與。桓公殺二公子糾一。不レ能レ死。又相レ之。子曰。管仲相二桓公一。霸二諸侯一。一二匡天下一。民到二于今一受二其賜一。微二管仲一。吾其被レ髮左レ衽矣。豈若二匹夫匹婦之爲レ諒也。自經二於溝瀆一。而莫二之知一也。

○公叔文子之臣大夫僎。與二文子一同升二諸公一。子聞レ之曰。可三以爲二文一矣。

を求めたり 〔四四〕強ひてもとむ 〔四五〕晉の文公名は重耳、齊の桓公名は小白、譎は詭にて正道に由らざるをいふ二君共に霸者にして夷狄を攘ひ周室を尊べるもの、二者共に王道にはあらざれども、其行ふ所を史に徵するに、晉の文公は詐謀を以てし、衞の桓公は義を守りて譎ならず 〔四六〕齊の襄公の亂に鮑叔牙は公子小白を奉じて莒に奔り管仲及び召忽は公子糾を奉じて魯に逃る襄公弑せらるゝや小白莒より入りて立つ之を桓公となす、齊人公子糾を殺す召忽之に死し管仲は囚はれて齊に入り遂に桓公を相けて天下に霸たらしむ管仲は糾の爲めに死せずして却て其敵たる桓公を相くるが如き以て仁と謂ふ可からず故に子路此問ありしなり 〔四七〕糾合なり 〔四八〕兵車を用ひ殺伐することを避けたるは亦仁道に悖れりと云ふ可からず 〔四九〕霸は把なり王者の政敎を把持するの意 〔五〇〕天下を匡正す 〔五一〕被髮左衽共に夷狄の風なり 〔五二〕小信を守りて溝瀆の中に自ら縊れて死し世之を知るものなきが如き小人の信とは別也 〔五三〕犬死の義 〔五四〕家臣なり 〔五五〕公は公朝なり之を薦めて已れと同進し公朝の臣となるなり原文の「諸」は「於」也 〔五六〕文といふ美謚にふさはしと也

子言二衞靈公

（一）子衞の靈公の無道を言ふ、康子曰く、夫れ是の如くんば、奚ぞ喪びざる（二）。孔子曰

之勇。冉求之藝。文之以禮樂。亦可以爲成人矣。曰。今之成人者何必然。見利思義。見危授命。久要不忘平生之言。亦可以爲成人矣。

○子問公叔文子於公明賈曰。信乎。夫子不言不笑不取乎。公明賈對曰。以告者過也。夫子時然後言。人不厭其言。樂然後笑。人不

高峻にするの義 (六) 孫は卑順なり (七) 德あるものは必ず善言あり、言は善言也 (八) 魯の大夫なり (九) 古の射を善くする人 (一〇) 古の多力の人 (一一) 覆へすなり (一二) 天壽自然の死を得る能はざりしを云ふ (一三) 禹は力を溝洫の便を與ふるに盡し后稷は民に稼穡のことを教へたり故に躬ら稼すといふ (一四) 适の心竊に孔子を禹稷に比せり故に孔子は謙遜して答へず (一五) 君子は仁に志すも其德未だ圓滿完全と云ふべからず故に時として不仁亦免れず (一六) 人を愛して而も之を勞せしむるが眞の愛といふもの也 (一七) 又人に忠を盡すも教誨するなくば十分忠と稱すべからざるなり (一八) 章指、此章は鄭國が外交の辭令に意を用ふるの周密なるを稱したるものなり (一九) 裨諶以下四人は皆鄭の大夫なり (二〇) 草稿を起すなり (二一) 其可否を評議するなり (二二) 使を掌る官なり (二三) 慈愛ある人 (二四) 齒牙にかくるに足らずとの義 (二五) 此の人と云ふが如し (二六) 伯氏罪あり當時管仲齊に相たりしが伯氏の領地駢邑三百家を奪へり伯氏は己の罪あるを知り管仲を怨みず生涯貧困にて身を終はりて怨みず管仲は人心を服せしむるだけの器量ありし人物なりとなり (二七) 伯氏がなり (二八) 章指、人貧困なれば天を怨み人を怨むる、これ人情の免れざる所、その難きに比しては、富貴にして驕奢に耽らざるは左程難き所にあらずと也 (二九) 魯の大夫にして寡欲淸廉なれども才能に乏しき人か (三〇) 家老 (三一) 餘裕あるなり。蓋し趙魏の家老となれば其職繁ならず只廉直下を率ゐれば足る滕薛の二國は小國なれども大夫なれば職務煩雜を極む是れ孔子孟公綽を評して趙魏の家老たらしむべけれども滕薛の大夫たらしむべからずといへる所以ならん (三二) 學びて德を成就せし人 (三三) 魯の大夫 (三四) 公綽も魯の大夫 (三五) 寡欲にして貪らず (三六) 卞莊子も魯の大夫 (三七) 孔子の弟子 (三八) 舊約なり舊約して當時の言を忘れず之を踐み行ふ、平生は宿昔 (三九) 孔子 (四〇) 衞の大夫 (四一) 衞人なり (四二) 孔子聞きて曰く汝の說く所正に然るべし、世に傳ふる三事の如き豈それ然らんやと。其答を然りと許して而も其美に過ぐるを疑ふとなす亦一解 (四三) 臧武仲は讒に遇ひて出奔し防といふ地に至り魯公に子孫を防に封ぜられんこと

里子產潤㆓色
之㆒。○或問㆓子
產㆒。子曰。惠人
也。問㆓子西㆒。曰。
彼哉。彼哉。問㆓
管仲㆒。曰。人也
奪㆓伯氏駢邑
三百㆒。飯㆓疏食㆒。
沒㆑齒無㆓怨言㆒。
○子曰。貧而
無㆑怨難。富而
無㆑驕易。○子
曰。孟公綽爲㆓
趙魏老㆒則優。
不㆑可㆔以爲㆓滕
薛大夫㆒。○子
路問㆓成人㆒。子
曰。若㆓臧武仲
之知。公綽之
不欲。卞莊子

の文公は譎りて正しからず、齊の桓公は正しうして譎らず。○子路曰く、桓(四六)公公子糾を殺す、召忽之に死す、管仲死せず、曰く、未だ仁ならざるか。子曰く、桓公諸侯を九合(四七)するに、兵車(四八)を以てせず、管仲の力なり、其仁に如んや、其仁に如んや。○子貢曰く、管仲は仁者に非るか、桓公公子糾を殺す、死する能はず、又之を相く。子曰く、管仲桓公を相けて、諸侯に霸(四九)たらしめ、天下(五〇)を一匡す。民今に到るまで其の賜を受く。管仲微りせば、吾其れ髮(五一)を被り衽を左にせん。豈(五二)に匹夫匹婦の諒を爲す、自ら溝瀆(五三)に經れて、之を知る莫きが若くならんや。○公叔文子の臣大夫(五四)僎、文子と同じく公(五五)に升る。子之を聞き、曰く、以て文(五六)と爲す可し。

㊀ 孔子の弟子原思の名なり ㊁ 穀とは廩穀の義にして士の受くる所、士に穀といひ大夫以上に祿といふ ㊂ 原憲の問ひなり。克とは爭つて人に勝つことを好むこと伐は誇るなり克伐怨欲の四者を心より除去して行はざるを得ば以て仁道を得たりと爲すべきかとなり ㊃ 章指、士たるものは當に身を脩め世を濟ふに急にして家居の安逸を思ふの暇なかるべし若し家居の便安を思ふものあらば、到底士たるの價値を認むべからざる也 ㊄ 危は言行を

子曰。羿善射。奡盪舟。倶不得其死然。禹稷躬稼。而有天下。夫子不答。南宮适出。子曰。君子哉若人。尚德哉若人。○子曰。君子而不仁者有矣夫。未有小人而仁者也。○子曰。愛之能勿勞乎。忠焉。能勿誨乎。○子曰。爲命。裨諶草創之。世叔討論之。行人子羽脩飾之。東

問ふ、曰く、人(二五)や、伯氏(二六)の駢邑三百を奪ひ、疏食を飯ひ、齒を沒するまで、怨言(二七)無し。○子曰く、貧にして怨むるなきは難く、富みて驕るなきは易し。○子曰く、孟公綽(二八)は、趙魏(二九)の老(三〇)と爲れば則ち優(三一)なり、以て滕薛の大夫と爲す可からざるなり。○子路成人(三二)を問ふ、子曰く、臧武仲(三三)の知、公綽(三四)の不欲(三五)、卞莊子(三六)の勇、冉求(三七)の藝の若くして、之を文るに禮樂を以てせば、亦以て成人と爲す可し。曰く、今の成人は、何ぞ必ずしも然らん。利を見て義を思ひ、危を見て命を授け、久要(三八)平生の言を忘れずんば、亦以て成人と爲すべし。○子公叔文子(三九)(四〇)を公明賈(四一)に問ふ、曰く、信なるか、夫子言はず笑はず取らざるか。公明賈對へて曰く、以て告ぐる者過てるなり、夫子時にして然る後に言ふ、人其の言ふを厭はず、樂みて然る後に笑ふ、人其の笑を厭はず。義にして然る後に取る、人其の取るを厭はず。子曰く、其れ(四二)然り、豈に其れ然らんや。○子曰く、臧武仲(四三)は防を以て、後を爲すを魯に求む、君を要(四四)せずと曰ふと雖も、吾れ信ぜざるなりと。○子曰く、晉(四五)

邦有レ道穀。邦無レ道穀恥也。○克伐怨欲不レ行焉。可二以爲一レ仁矣。子曰。可二以爲一レ難矣。仁則吾不レ知也。○子曰。士而懷レ居。不レ足二以爲一レ士矣○子曰。邦有レ道。危レ言危レ行。邦無レ道危レ行言孫。○子曰。有レ德者必有レ言。有レ言者不二必有一レ德。仁者必有レ勇。勇者不二必有一レ仁○南宮适問二於孔

伐怨欲行はれずんば、以て仁と爲す可きか。子曰く、以て難しと爲すべし。仁は則ち吾知らざるなり。(四)○子曰く、士にして居を懷へば、以て士と爲すに足らず。○子曰く、邦道あれば、言を危うし(五)行を危うす。邦道なければ、行を危うし言は孫ふ。(六)○子曰く、德ある者は、必ず言あり。言ある者は、必ずしも德有らず。仁者は必ず勇有り。勇者は必ずしも仁有らず。(七)○(八)南宮适孔子に問ふ、曰く、羿は射を善くし、(九)奡は舟を盪す、(一〇)倶に其死然を得ず、(一一)禹稷躬ら稼して、(一二)天下を有つと。(一三)夫子答へず。南宮适出づ。子曰く、君子なるかな若き人。德を尙ぶかな若き人。(一四)○子曰く、君子にして不仁なる者有らんか。未だ小人にして仁なる者あらざるなり。(一五)○子曰く、之れを愛す、能く勞せしむる勿からんや。忠す、能く誨ふる勿からんや。(一六)○子曰く、命を爲る、(一七)裨諶之を草創し、(一八)世叔之を討論し、(一九)行人子羽之を脩飾し、(二〇)東里の子産之を潤色す。(二一)○或ひと子産を問ふ、(二二)子曰く、惠人なり。(二三)子西を問ふ、曰く、彼れをや彼れをや。(二四)管仲を

有言曰。人而無恆。不可以作巫醫。善夫。不恆其德。或承之羞。子曰。不占而已矣　○子曰。君子和而不同。小人同而不和　○子貢問曰。鄉人皆好之何如。子曰。未可也。鄉人皆惡之。何如。子曰。未可也。不如鄉人之善者好之。其不善者惡之。○子曰。君子易事而難說也。說之不以道不說也。及其使人也。器之。小人難事而易說也。說之雖不以道說也。及其使人也求備焉　○子曰。君子泰而不驕。小人驕而不泰　○子曰。剛毅木訥近仁　○子路問。曰。何如斯可謂之士矣。子曰。切切偲偲怡怡如也。可謂士矣。朋友切切偲偲。兄弟怡怡。○子曰。善人教民七年。亦可以即戎矣　○子曰。以不教民戰。是謂棄之。

の心なきなり　(二三) 同は雷同なり　(二四) 君子はそれ〴〵人の材能を察して各人の長所に因りて之を用ふ即ち之を器にするなり、故に人事へ易し　(二五) 小人は人を用ふるに備はることを一人に求む故に事へ難し　(二六) 泰然安舒即ち精神的自由を得たるをいふ　(二七) 驕は人に驕るなり　(二八) 剛毅木訥は巧言令色の反對なり質朴剛毅にし言辭に拙なる人なり、此の如き人は義を守ること固く實行を重んず故に仁に近しと云ふ　(二九) 切々偲々は互に善を責むるの貌　(三〇) 和順の貌なり　(三一) 善人とは君子に次ぐ人　(三二) 兵役につき戰鬪に從ふこと　(三三) 之を棄つは民を棄つるなり

憲問恥。子曰。

憲問第十四

(一)憲恥を問ふ。子曰く、邦道あれば(二)穀す。邦道無くして穀するは恥なり。○(三)克

方。不レ辱二君命一。可レ謂レ士矣。曰。敢問二其次一。曰。宗族稱レ孝焉。鄕黨稱レ弟焉。曰。敢問二其次一。曰。言必信。行必果。硜硜然小人哉。抑亦可二以爲一レ次矣。曰。今之從レ政者何如。子曰。噫斗筲之人。何足レ算也○子曰。不下得二中行一而與上レ之。必也狂狷乎。狂者進取。狷者有レ所レ不レ爲也○子曰。南人

之を士と謂ふ可きか。子曰く、(二九)切切偲偲(三〇)怡怡如たり、士と謂ふ可し。朋友には切切偲偲たり、兄弟には怡怡たり。○子曰く、(三一)善人民を教ふる七年ならば、亦以て(三二)戎に卽かしむ可し。○子曰く、教へざる民を以て戰ふは、是れ(三三)之を棄つと謂ふ。

(一) 魯君 (二) 一言にして邦を興すを期必するが如き譯には行かざれども、下文の如き亦以て期必すべからざらんやと也 (三) 君たることは別に樂しきことは無けれども何事を言ひても人が一言も反對せぬことは君位に居らずんば得べからざること故此れのみが樂みなりとの意 (四) 楚の大夫、僭して公と稱す (五) 德澤は近きより漸く遠きに及ぶ近き者德澤を被りて悅べば遠き者其の德風を聞きて慕ひ來らん (六) 魯の邑名 (七) 事功の速かにあがるをいふ (八) 直者の其の名を躬といふ者 (九) 父子相隱すは人情の自然なり此人情の内に直の義自ら存す (一〇) 恭は容を主とし恭は外に見はれ敬は中に主たり (一一) 行爲をなすに當り深く廉恥の心を抱き、不義を恥ぢて道を守る (一二) 鄕は村、黨は近隣 (一三) 行はんと欲する所を敢行すること (一四) 堅くして識量の淺く因業なること (一五) 斗筲は竹にて作り少量を容るゝ器、以て小人物に喩ふ (一六) 中道の行ひある人 (一七) 狂者及び狷者。(一八) 狂者は志大にして心に古人を慕ひ之に傚はんとするもの (一九) 狷者は介然として操守有り汙行を惡む故に不義を爲さず (二〇) 章指、南方の國人の言に行常ならざるものには巫も醫も其術を施すを得ずとあり實に尤もの言也、行常ならざる者は何とも仕方のなきもの也 (二一) 以下別章とする說あり、易の言に德常ならざるものは常に恥辱を受くといふことあり孔子其言に就て曰く其性德常ならざるものは占はば必ず凶なる故に占はずとも吉凶決すと (二二) 乖戾

違。見二小利一則大事不レ成。○葉公語二孔子一曰。吾黨有二直躬者一。其父攘レ羊而子證レ之。孔子曰。吾黨之直者異二於是一。父爲レ子隱。子爲レ父隱。直在二其中一矣。○樊遲問レ仁。子曰。居處恭。執レ事敬。與レ人忠。雖レ之二夷狄一。不レ可レ棄也。○子貢問曰。何如斯可レ謂二之士一矣。子曰。行レ己有レ恥。使二於四

筲の人、何ぞ算ふるに足らんや。○子曰く、中行(一六)を得て之に與せずんば、必ずや、狂狷(一七)か。狂者(一八)は進んで取り、狷者(一九)は爲さざる所有るなり。○子(二〇)曰く、南人言へる有り。曰く、人にして恆無くんば以て巫醫を作す可からずと。善いかな。其(二一)德を恆にせずんば、或は之に羞を承むと。子曰く、占はざるのみ。○子曰く、君子は和(二二)して同ぜず。小人は同(二三)して和せず。○子貢問ふ。曰く、鄕人皆之を好せば、何如ん。子曰く、未だ可ならざるなり。鄕人皆之を惡まば、何如ん。子曰く、未だ可ならざるなり。鄕人の善者之を好し、其不善者之を惡むに如かず。○子曰く、君子は事へ易くして說ばせ難し。之を說ばするに道を以てせざれば、說ばざるなり。其の人を使ふに及びてや、之を器(二四)にす。小人は事へ難くして說ばせ易し。之を說ばするに道を以てせずと雖も說ぶなり。其の人を使ふに及びてや、備(二五)はらんことを求む。○子曰く、君子は泰(二六)にして驕ならず、小人は驕(二七)にして泰ならず。○子曰く、剛毅木訥(二八)は仁に近し。○子路問ふ。曰く、何如なる斯れ

而喪レ邦有レ諸。孔子對曰。言不レ可二以若レ是其幾一也。人之言曰。予無レ樂二乎爲一レ君。唯其言而莫二予違一也。如其善而莫二之違一也。不二亦善一乎。如不善而莫二之違一也。不レ幾二乎一言而喪一レ邦乎。○葉公問レ政。子曰。近者説遠者來。○子夏爲二莒父宰一。問レ政。子曰。無レ欲レ速。無レ見二小利一。欲レ速則不レ

て邦を喪ふに幾せざらんや。○葉公政を問ふ。子曰く、近き者說べば、遠き者來る。○子夏莒父の宰と爲り、政を問ふ。子曰く、速ならんことを欲する無れ。小利を見る無れ。速ならんことを欲せば、則ち達せず。小利を見ば、則ち大事成らず。○葉公孔子に語りて曰く、吾が黨に直躬といふ者有り。其父羊を攘みて、而して子之を證す。孔子曰く、吾が黨の直き者は、是れに異なり。父は子の爲めに隱し、子は父の爲めに隱す。直きこと其中に在り。○樊遲仁を問ふ。子曰く、居處恭に、事を執りて敬に、人と忠なるは、夷狄に之くと雖も、棄つ可からざるなり。○子貢問ふ。曰く、何如なる斯れ之を士と謂ふ可き。子曰く、己を行ふに恥あり、四方に使して、君命を辱めざる、士と謂ふ可し。曰く、敢て其次を問ふ。曰く、宗族孝を稱し、鄕黨弟を稱す。曰く、敢て其の次を問ふ。曰く、言へば必ず信、行へば必ず果、硜硜然として小人なるかな、抑々亦以て次と爲す可きか。曰く、今の政に從ふ者は如何に。子曰く、噫、斗

既富矣。又何加焉。曰。教レ之。○子曰。苟有二用レ我者一。朞月而已可也。三年有レ成。○子曰。善人爲レ邦百年。亦可三以勝レ殘去二殺矣。誠哉是言也。○子曰。如有二王者一。必世而後仁。○子曰。苟正二其身一矣。於レ從レ政乎何有。不レ能レ正二其身一。如レ正レ人何。○冉子退レ朝。子曰。何晏也。對曰。有レ政。子曰。其事也。如有レ政。雖レ不二吾以一。吾其與二聞之一。

有は時に季氏の宰たり　(三四)國家の政事　(三五)季氏の家事。蓋し孔子の意は若し政ありとせば吾は大夫なればよしや用ひられずとも與かり聞くべき筈なるに吾之に與らざるよりすれば汝の今日議せるものは政にあらずして家事なるべしといひて、以て暗に名分を正し權臣を抑ふるの意を冉有に諷諭せるなるべし

定公問。一言而可三以興レ邦有レ諸。孔子對曰。言不レ可三以若レ是其幾一也。人之言曰。爲レ君難。爲レ臣不レ易。如知三爲レ君之難一也。不レ幾二乎一言而興一レ邦乎。曰。一言

定公問ふ。一言にして以て邦を興す可きこと諸れ有るか。孔子對へて曰く、(二)言は以て是の若く其れ幾すべからざるなり。人の言に曰く、君爲るは難し、臣爲るは易からずと。如し君爲るの難きを知らば、一言にして而して邦を興すに幾せざらんや。曰く、一言にして而して以て邦を喪ふこと、諸れ有るか。孔子對へて曰く、言は以て是の若く其れ幾すべからざるなり。人の言に曰く、予君爲るを樂む無し、唯其れ言うて(三)予に違ふ莫きなりと。若し其れ善にして、而して之に違ふ莫きや、亦善からずや。若し不善にして而して之に違ふ莫きや、一言にして而し

以レ政不レ達。使二於四方一。不レ能二專對一。雖レ多亦奚以爲。○子曰。其身正。不レ令而行。其身不レ正。雖レ令不レ從。○子曰。魯衞之政。兄弟也。○子謂二衞公子荊一。善居レ室。始有曰。苟合矣。少有曰。苟完矣。富有曰。苟美矣。○子適レ衞。冉有僕。子曰。庶矣哉。冉有曰。既庶矣。又何加焉。曰。富レ之。曰。

を擇ぶには其小過を赦して其才の用ふるに足るを取るべし （五） 衞君とは出公輒をいふ是の時孔子は楚より衞に反れり （六） 孔子 （七） 先とは爲政上の第一着手の義 （八） 名實の紊れたるを正す （九） 世事に迂遠なること （一〇） 野人のごときなり （一一） 闕如は言を缺くなり知らざる所は敢て言はざるものぞと其率爾妄謬を戒むる也 （一二） 名其の實に當らざれば言順ならざるなり （一三） 言順ならざれば以て其の實を考ふるなくして事成らず （一四） 事其の序を得る之を禮といひ物其の和を得る之を樂といふ、事成らざれば序なくして和ならず故に禮樂興らず （一五） 君子は名づくるところの事は必ず言ふべくし言ふところのもの必ず行ふ可くす言をかりそめにすること無し （一六） 樊遲民の貧困にして田圃の荒廢せるを見之を敎へて其貧困を救はんとせり故に此の問あり （一七） 五穀を種うるをいふ （一八） 蔬菜を種うるをいふ （一九） 誠實なるなり （二〇） たすきにて赤子を負ふことなり （二一） 詩三百五篇は人心自然の誠情の發露する所、その眞精神を了悟せば、政を爲して必ず達すべく四方に使して君命を辱しめざるべし、若し然らずして詩を誦しながら政治には通ぜず使節となりて不覺を取るが如き事あらば多く詩を學べりと雖も稱するに足らざるなり （二二） 全權を委任せられて交渉に當るなり （二三） 令は敎令なり （二四） 章指、魯の先周公と衞の先康叔とは兄弟なり今日の魯衞の政治も亦兄弟にて相似て同じく亂れたりとの嘆也 （二五） 善く家を理むるをいふ （二六） 其初め財産少許ありしときは之にて間に合へりと曰ひ、其後少しく財産の增殖するや曰く之にて十分なりと （二七） 大に財産家となれる時に乃ち曰く之にて善しと、蓋し其足るを知るを稱して善く家を理むと評したる也 （二八） 民の衆きを歎美せるなり （二九） 一年なり一年にして政敎かなり行はるべく三年にして功成らん （三〇） 章指、古言に善人世を治め國政を執ること百年ならば亂臣賊子自ら亡び刑殺を用ふるを要せざるに至るべしとありこの言誠に然り （三一） 章指、今日の如く亂れはてたる暗黑時代にありては、よしや王者の起るありとも、民の惡習を化して一新せんとするには相當の時を要す故に必ず三十年にして仁澤始めて天下に遍ねからん （三二） 世とは三十年 （三三） 冉

君子於二其言一。無レ所レ苟而已矣。○樊遲請レ學レ稼。子曰。吾不レ如二老農一。請レ學レ爲レ圃。曰。吾不レ如二老圃一。樊遲出。子曰。小人哉樊須也。上好レ禮。則民莫二敢不一レ敬。上好レ義。則民莫二敢不一レ服。上好レ信。則民莫二敢不一レ用レ情。夫如レ是則四方之民。襁二負其子一而至矣。焉用レ稼。○子曰。誦二詩三百一。授レ之

完し。富(二七)に有るに曰く、苟も美なりと。○子衛に適く、冉有僕たり。子曰く、庶なるかな。冉有曰く、既に庶なり、又何をか加へん。曰く、之を富さん。曰く、(二八)既に富めり。又何をか加へん。曰く、之を敎へん。○子曰く、苟も我を用ふる者有らば、朞月(二九)にして已に可なり。三年成る有らん。(三〇)○子曰く、善人邦を爲むること百年ならば、亦以て殘に勝ち殺を去る可しと。誠なるかな是の言や。○子曰く、如し王者有りとも(三一)、必ず世(三二)にして後に仁ならん。○子曰く、苟も其の身を正しくせば、政に從ふに於て何か有らん、其の身を正しくする能はずんば、人を正すことを如何せん。○冉子(三三)朝を退く。子曰く、何ぞ晏きや。對へて曰く、政有り。子曰く、其れ事ならん(三五)。如し政有らば、吾を以ひずと雖も、吾(三四)其れ之を與り聞かん。

㊀ 政治の要は民事を先にしよく民を慰勞するにありと。或は「之に先んじ」と訓じ、身を以て民に先んじ率先して事を爲すと解す ㊁ 其答餘りに單簡なるを怪みて其の餘を問へるなり。是に於て孔子は上の二事を倦む事なく行へと答へたり、益とは增補の意 ㊂ 仲弓は孔子の弟子冉雍の字 ㊃ 政を爲すには有司を擇ぶを先務とす有司

爲レ政。子將ニ奚先一。子曰。必也正レ名乎。子路曰。有レ是哉。子之迂也。奚其正。子曰。野哉由也。君子於ニ其所レ不レ知。蓋闕如也。名不レ正。則言不レ順。言不レ順。則事不レ成。事不レ成。則禮樂不レ興。禮樂不レ興。則刑罰不レ中。刑罰不レ中。則民無レ所レ措ニ手足一故君子名レ之必可レ言也。言レ之必可レ行也。

禮樂興らざれば、則ち刑罰中らず。刑罰中らざれば、則ち民手足を措く所無し。故に君子之を名づくれば必ず言ふ可くす。之を言へば必ず行ふ可くす。君子は其言に於て苟もする所無きのみ。○樊遲稼を學ばんと請ふ。子曰く、吾老農に如かず。圃を爲くるを學ばんと請ふ。曰く、吾れ老圃に如かず。樊遲出づ。子曰く、小人なるかな樊須や。上禮を好めば、則ち民敢て敬せざる莫し。上義を好めば、則ち民敢て服せざるなし。上信を好めば、則ち民敢て情を用ひざるなし。夫れ是の如くば、則ち四方の民、其子を襁負して而して至らん。焉ぞ稼を用ひん。○子曰く、詩三百を誦すれども、之に授くるに政を以てして達せず、四方に使して、專對する能はずんば、多しと雖も亦奚を以て爲ん。○子曰く、其身正しければ、令せずして行はれ、其の身正しからずんば、令すと雖も從はず。○子曰く、魯衞の政は兄弟なり。○子、衞の公子荊を謂ふ、善く室に居ると。始め有るに、曰く、苟に合へり。少しく有るに曰く、苟に

子路問レ政。子曰。先レ之勞レ之。請レ益。曰。無レ倦。○仲弓爲二季氏宰一。問レ政。子曰。先二有司一。赦二小過一。擧二賢才一。曰。焉知二賢才一而擧レ之。曰。擧二爾所一レ知。爾所レ不レ知。人其舍レ諸。○子路曰。衞君待レ子而

卷之七

子路第十三

子路政を問ふ。子曰く、之を先んじ之を勞す、益を請ふ。曰く、倦む無れ。○仲弓季氏の宰と爲り政を問ふ。子曰く、有司を先にす、小過を赦して、賢才を擧げよ。曰く、焉ぞ賢才を知つて之れを擧げん。曰く、爾が知る所を擧げよ。爾が知らざる所は、人其れ諸を舍てんや。○子路曰く、衞君、子を待つて政を爲す。子將に奚をか先にせんとす。子曰く、必ずや名を正さんか。子路曰く、是れ有るかな子の迂なる、奚ぞ其れ正さん。子曰く、野なるかな由や。君子は其の知らざる所に於て、蓋し闕如するなり。名正しからざれば、則ち言順ならず。言順ならざれば、則ち事成らず。事成らざれば、則ち禮樂興らず。

之不レ疑。在レ邦必聞。在レ家必聞○樊遲從遊二於舞雩之下一曰。敢問レ崇德脩レ慝辨レ惑。子曰。善哉問。先レ事後レ得。非レ崇レ德與。攻二其惡一無レ攻二人之惡一。非レ脩レ慝與。一朝之忿。忘二其身一。以及二其親一。非レ惑與。○樊遲問レ仁。子曰。愛レ人。問レ知。子曰。知レ人。樊遲未レ達。子曰。擧レ直錯二諸枉一。能使二枉者直一。樊遲退見二子夏一曰。鄉也吾見二於夫子一而問レ知。子曰。擧レ直錯二諸枉一。能使二枉者直一。何謂也。子夏曰。富哉言乎。舜有二天下一。選二於衆一。擧二皐陶一。不仁者遠矣。湯有二天下一。選二於衆一。擧二伊尹一。不仁者遠矣。○子貢問レ友。子曰。忠告而善二道之一。不可則止。毋二自辱一焉○曾子曰。君子以レ文會レ友。以レ友輔レ仁。

一〇 季子康專橫厚斂にして不義の富を致せり下民之に倣ひて盜むものあるは固より當然なりとす若し上にして欲を節し民を惠まば竊むものに賞を與ふとも民敢て盜まじ　一一 不欲は無欲とは異なり不欲は欲を制して敢て肆にせざるなり無欲は之を絕ちて復心に存せざるなり　一二 無道の者を殺して有道の者を成就し之を位におくなり　一三 上と下との感應速かにして下民は必ず上の爲す所に倣ふをいふ　一四 加ふるなり　一五 仆すなり　一六 達は質實正直にして義を好み人の言語顏色を察してその欲する所を知り其の心常に人に下る此の如きものは居る所に從ひ必ず達す　一七 聞は外貌に仁を假りて實行は仁に合はず其の僞に居りて自ら疑はず此の如きものは居る所に隨ひ其名聞ゆとなり。達者は實、聞者は名なり　一八 孔子の弟子、名は須　一九 勞力を先にして其の報を後にするは德を高くするにあらずや　二〇 己れの惡を責めて人の惡を責むるなきは慝を脩むるにあらずや、慝は心の內にかくれたる惡　二一 又一時の忿怒の爲めに己の身を忘れ禍を父母に及ぼすは惑にあらずや　二二 直き者を擧げて枉れる者の上に置けば枉れる者も皆自然に直となる、蓋し木を矯むるの喩、此句爲政篇にも見ゆ　二三 包含する所の廣く大なるを歎ずるなり　二四 人皆化せられて仁と爲り不仁者あるを見ず　二五 友道を 朋友と交はるの道をいふ　二六 誠心をもて告ぐるなり　二七 善く導くなり　二八 交際を絕つなり　二九 詩書禮樂　三〇 相互に切磋して共に善に進むを云ふ

善而民善矣。君子之德風。小人之德艸。艸尙二之風一必偃〇子張問。士何如斯可レ謂二之達一矣。子曰。何哉爾所レ謂達者。子張對曰。在レ邦必聞。在レ家必聞。子曰。是聞也。非レ達也。夫達也者。質直而好レ義。察レ言而觀レ色。慮以下レ人。在レ邦必達。在レ家必達。夫聞也者。色取レ仁而行違。居レ

仁を問ふ。子曰く、人を愛す。知を問ふ。子曰く、人を知る。樊遲未だ達せず。子曰く、直き（二二）を擧げて諸を枉るに錯けば、能く枉れる者をして直からしむ。樊遲退き子夏を見て、曰く、鄕きに吾夫子に見えて知を問ふ、子曰く、直きを擧げて諸を枉るに錯けば、能く枉れる者をして直からしむと。何の謂ひぞや。子夏曰く、富（二三）めるかな言や、舜天下を有つや、衆に選びて皐陶（二四）を擧げ、不仁者遠ざかる。湯天下を有つや、衆に選びて、伊尹を擧げ、不仁者遠ざかる。〇子貢友を問ふ。子曰く、忠告（二六）して之を善道（二七）し、不可なれば止め（二八）よ。自ら辱めらるゝ毋（二五）れ。〇曾子曰く、君子（二九）は文を以て友を會す、友を以て（三〇）仁を輔く。

㈠ 子路の一言にして人之に服するをいふ　㈡ 折は斷ずるなり　㈢ 子路は諾しては直ちに之を實行す　㈣ 民の訟を聽き之を裁斷するに於ては他人に等し、吾れ民を治めば民をして訟ふるなからしめん　㈤ 子張の政を問へるに答へて身政事に居りて倦まず常に愼みて事を行ひ政を民に行ふには忠を以てするにありと　㈥ 道に違はざるべきかの意、この章重出、雍也篇に見ゆ　㈦ 君子は人の善を誘掖獎勸してよくその事を成就せしめ、人の惡あるをば彼をして自省してそれを成し遂げざらしむるを期す小人は之に反して人の惡を成し美を傷く　㈧ 魯の上卿なり　㈨ 帥は率なり自ら身を率ゐるに正を以てせば人皆正しからん、子は季康子なり。「帥以正」皇本「而正帥」に作る

夫。○子曰。君子成二人之美一。不レ成二人之惡一。小人反レ是。○季康子問二政於孔子一。孔子對曰。政者。正也。子帥以レ正。孰敢不レ正。○季康子患レ盜。問二於孔子一。孔子對曰。苟子之不欲。雖レ賞レ之不レ竊。○季康子問二政於孔子一曰。如殺二無道一以就二有道一何如。孔子對曰。子爲レ政焉用レ殺。子欲レ

く、如し無道を殺して、以て有道を就さば、何如。孔子對へて曰く、子政を爲す、焉んぞ(一二)殺を用ひん。子善を欲すれば、民善なり。君子の德は風なり、小人の德は艸なり。艸之に(一三)風を尙ふれば(一四)、必ず偃す(一五)。○子張問ふ。士は何如なる斯に之を達と謂ふ可き。子曰く、何ぞや爾が所謂達とは。子張對へて曰く、邦に在りても必ず聞え、家に在りても必ず聞ゆ。子曰く、是れ聞なり、達に非ざるなり。夫れ達なる者は、質直にして義を好み、言を察して色を觀、慮つて以て人に下る(一六)。邦に在りても必ず達し、家に在りても必ず達す(一七)。夫れ聞なる者は、色仁を取り、行は違ふ、之に居て疑はず。邦に在りても必ず聞え、家に在りても必ず聞ゆ。○樊遲(一八)從ひて舞雩の下に遊ぶ。曰く、敢て德を崇うし慝を脩め惑を辨ずるを問ふ。子曰く、善きかな問や(一九)。事を先にして得るを後にするは、德を崇うるに非ずや。其惡(二〇)を攻めて、人の惡を攻むる無きは、慝を脩むるに非ずや。一朝(二一)の忿に、其身を忘れて、以て其親に及すは、惑に非ずや。○樊遲

若一曰。年饑用不レ足。如レ之何。有若對曰。盍レ徹乎。曰。二吾猶不レ足。如レ之何其徹也。對曰。百姓足。君孰與不レ足。百姓不レ足。君孰與足。○子張問二崇レ德辨一レ惑。子曰。主二忠信一。徙レ義崇レ德也。愛レ之欲二其生一。惡レ之欲二其死一。既欲二其生一。又欲二其死一。是惑也。誠不三以レ富一。亦祇以異。○齊景公問二政於孔子一。孔子對曰。君君。臣臣。父父。子子。公曰。善哉。信如君不レ君。臣不レ臣。父不レ父。子不レ子。雖レ有レ粟。吾得而食レ諸。

子曰。片言可二以折一レ獄者。其由也與。子路無レ宿レ諾。○子曰。聽レ訟吾猶レ人也。必也使レ無レ訟乎。○子張問レ政。子曰。居レ之無レ倦。行レ之以レ忠。○子曰。博學二於文一。約レ之以レ禮。亦可二以弗一レ畔矣。

子曰く、片言（一）以て獄（二）を折む可き者は、其れ由なるか。子路諾を宿むるなし。○子曰く、訟（四）を聽くは吾猶ほ人のごときなり。必ずや訟（三）なからしめんか。○子（五）張政を問ふ。子曰く、之に居りて倦むなく、之を行ふに忠を以てす。○子曰く、博く文を學び、之を約するに禮を以てせば、亦以て畔かざる可きか。○子曰く、君子（七）は人の美を成して、人の惡を成さず。小人は是に反す（六）。○季康子（八）政を孔子に問ふ。孔子對へて曰く、政は正なり。子帥ゐる（九）に正を以てせば、孰れか敢て正しからざらん。○季康子盜を患へて孔子に問ふ。孔子對へて曰く、苟も子不欲（一一）ならば、之を賞す（一〇）と雖も竊まじ。○季康子政を孔子に問うて、曰

子貢曰。必不得已而去。於斯三者何先。曰去兵。子貢曰。必不得已而去。於斯二者何先。曰。去食。自古皆有死。民無信不立。○棘子成曰。君子質而已矣。何以文爲。子貢曰。惜乎夫子之說君子也。駟不及舌。文猶質也。質猶文也。虎豹之鞟。猶犬羊之鞟。○哀公問於有

ちんことを案し我獨り兄弟なしと歎ぜしなり 〔一六〕 子夏の名 〔一七〕 子夏之を聞き勵まして云ふ、死生富貴は天命にして人力の何如ともすべきに非ず故に汝は憂懼するに足らず、又君子は敬自ら持し之を守りて失ふことなく且つ恭を慇くし禮を以て人と交すれば人皆敬服して親しむ四海皆同胞なり故に君子は決して兄弟なきを悲まずと 〔一八〕 孔子の弟子顓孫師のこと 〔一九〕 此の明は人君につきていふ 〔二〇〕 天子能く近臣をして其譖愬を用ひざらしめば其の智は明、其の慮は遠と云ふべし、浸潤、膚受共に露骨でなく自然自然に日月を以て進むものをいふ、明とは心の明なり、浸潤とは土の水に濕ふこと膚受とは垢の皮膚に溜ること。一說に膚受は急迫身に切なるの訴といふ 〔二一〕 譖は讒なり 〔二二〕 愬は訴なり 〔二三〕 施政者は民に信を以て臨むなり 〔二四〕 兵備 〔二五〕 經濟政策なり 〔二六〕 若しも上に信なくば民心動搖して其堵に安んぜず、兵食ありと雖も之を如何ともするなけん、故に曰く民は信なくんば立たずと 〔二七〕 衞の大夫 〔二八〕 質樸なり孝悌忠信をいふ 〔二九〕 文は文飾なり詩書禮樂をいふ 〔三〇〕 駟は四馬也四頭引の車をいふ言語一たび口より出づれば駟を以て追ふとも卒に及ぶ可からず深く其失言を惜む也 〔三一〕 文質相等し偏去すべからず若し文を去りて質のみを存せば虎豹の革と犬羊の革と區別し得ざるが如く君子と小人とを何によりて辨別せん 〔三二〕 なめしがは 〔三三〕 國用 〔三四〕 徹は通なり通率十分の一の年貢を納むるを云ふ、哀公今十分の二を徵す故に有若對へて何ぞ徹せざるやと曰ふなり 〔三五〕 孰は誰なり 〔三六〕 辨別すること 〔三七〕 義を見ては則意を徙して之に從ふなり 〔三八〕 人を愛憎するより其の生死を欲するに至るは物に惑はさるゝものなれば愼まざる可からず 〔三九〕 此二句古來錯簡なりとし季氏第十六の齊景公有馬千駟の首章なるべしと云へり從ふべきが如し、今姑く舊本の體に從ふ 〔四〇〕 時に齊國亂れ道廢し君臣父子の道も行はれず故に偶々齊の景公政を問へるに對して孔子此の如く述べて各其道を守るべきをいふ 〔四一〕 粟はもみごめなり、こゝにてはひろく米穀の義

夏曰。商聞レ之矣。死生有レ命。富貴在レ天。君子敬而無レ失。與レ人恭而有レ禮。四海之內。皆爲二兄弟一也。君子何患三乎無二兄弟一也。○子張問レ明。子曰。浸潤之譖。膚受之愬。不レ行焉。可レ謂レ明也已矣。浸潤之譖。膚受之愬。不レ行焉。可レ謂レ遠也已矣。○子貢問レ政。子曰。足レ食足レ兵。民信レ之矣。

を問ふ。子曰く、忠信を主とし、(三七)義に徙るは、徳を崇うするなり。(三八)之を愛しては、其生を欲し、之を悪みては其死を欲す。既に其生を欲し、又其死を欲するは、是れ惑なり。(三九)誠に以て富まず、亦祇に以て異なり。(四〇)○齊の景公政を孔子に問ふ。孔子對へて曰く、君は君たり、臣は臣たり、父は父たり、子は子たり。公曰く、善きかな、信に如し君君たらず、臣臣たらず、父父たらず、子子たらずんば、(四一)粟有りと雖も、吾得て諸を食はんや。

(一) 私慾に克ちて禮を履み行ふなり (二) 復は履むなり朱註には反(カヘル)とす (三) 在位の君子一日でも能く己の私慾に克ち禮を履むときは天下の民皆之に歸往す (四) 仁 爲すは己に由るにて能く他人の預るべきにあらざるなり (五) 非禮の事は己の私なり (六) 禁止の辭 (七) 孔子の弟子冉雍の字 (八) 大賓とは公侯の使臣なり朝聘會同の時の賓客をいふ (九) 大祭とは禘郊の祭をいふ、禘とは宗廟の祭、郊とは郊外に天地の神を祭るもの、門を出て公卿に事へては大賓に接する時の如く謹愼し民を使ふには禘郊の祭をなすが如くよく謹むべしとなり (一〇) 孔子の弟子名は犂なり (一一) 訒は難きなり其言輕躁に出でざるをいふ (一二) 孔子司馬牛の問に答へて曰く行ふ所言ふ所の相當らざるは仁道にあらざるなりこれ仁は言ふことの難き所以也 (一三) 司馬牛は其兄桓魋の亂をなさんとするを知り大に憂懼す故に前には仁を問ひ後には君子を質す是を以て孔子は憂へず懼れずを以て答へたるなり (一四) 兄の與行の爲に大に憂懼し又兄の死滅期の近きにあ故は病也、内に省みて罪惡なくば憂懼す可き無きなり

弓曰。雍雖二不敏一。請事二斯語一矣。○司馬牛問レ仁。子曰。仁者其言也訒。曰。其言也訒。斯謂二之仁一已乎。子曰。爲レ之難。言レ之得レ無レ訒乎。○司馬牛問二君子一。子曰。君子不レ憂不レ懼。曰。不レ憂不レ懼。斯謂二之君子一已乎。子曰。內省不レ疚。夫何憂何懼。○司馬牛憂。曰人皆有二兄弟一。我獨亡。子

の內、皆兄弟たり。君子何ぞ兄弟無きを患へん。○子張(一八)明(一九)を問ふ、子曰く、浸(二〇)潤の譖(二一)、膚受の愬(二二)、行れざるは、明と謂ふ可きのみ。浸潤の譖、膚受の愬、行れざるは、遠きと謂ふ可きのみ。○子貢政を問ふ。子曰く、食を足し兵を足し、民(二三)は之に信にす。子貢曰く、必ず已むを得ずして去らば、斯の三者に於て何をか先ぜん。曰く、兵(二四)を去らん。子貢曰く、必ず已を得ずして去らば、斯の二者に於て何をか先ぜん。曰く、食(二五)を去らん。古より皆死有り、民(二六)は信無くんば立たず。○棘(二七)子成曰く、君子は質(二八)のみ、何ぞ文を以(二九)て爲ん。子貢曰く、惜しいかな夫子の君子を說くや、駟(三〇)も舌に及ばず、文(三一)は猶ほ質の如きなり、質は猶ほ文の如きなり。虎豹の鞟(三二)は猶ほ犬羊の鞟のごとし。○哀公有若に問ひて、曰く、年饑ゑて用(三三)足らず、之を如何せん。有若對へて曰く、盍ぞ徹(三四)せざる。曰く、二も吾猶ほ足らず、之を如何んぞ其れ徹せんや。對へて曰く、百姓足らば、君(三五)孰れと與に足らざらん。百姓足らずんば、君孰れと與に足らん。○子張德を崇うし惑を辨(三六)ずる

曰。克レ己復レ禮。爲レ仁。一日克レ己復レ禮。天下歸レ仁焉。爲レ仁由レ己。而由レ人乎哉。顏淵曰。請二問其目一。子曰。非禮勿レ視。非禮勿レ聽。非禮勿レ言。非禮勿レ動。顏淵曰。回雖二不敏一。請事二斯語一矣。○仲弓問レ仁。子曰。出レ門如レ見二大賓一。使レ民如レ承二大祭一。己所レ不レ欲。勿レ施二於人一。在レ邦無レ怨。在レ家無レ怨。仲

て禮を復めば、天下仁に歸す。(四)仁を爲すは己に由る、人に由らんや。顏淵曰く、其目を請ひ問ふ。子曰く、(五)非禮視る勿れ、(六)非禮聽く勿れ、非禮言ふ勿れ、非禮動く勿れ。顏淵曰く、回不敏と雖も、請ふ斯の語を事とせん。(七)○仲弓仁を問ふ。子曰く、門を出でては(八)大賓を見るが如くし、民を使ふには(九)大祭に承くるが如くす、己の欲せざる所をば、人に施す勿れ。邦に在りても怨み無く、家に在りても怨み無し。仲弓曰く、雍不敏と雖も、請ふ斯の語を事とせん。(一〇)○司馬牛仁を問ふ。子曰く、仁とは其の言ふや訒す、(一一)曰く、其の言ふや訒す。斯に之を仁と謂ふか。(一二)子曰く、之を爲すは難し、之を言ふに訒する無きを得んや。(一三)○司馬牛君子を問ふ。子曰く、君子は憂へず懼れず。曰く、憂へず懼れざる、斯に之を君子と謂ふか。子曰く、内に省みて疚しからずんば、夫れ何ぞ憂へ何ぞ懼れん。○司馬牛憂ふ。曰く、(一五)人皆兄弟有り、(一四)我獨り亡し。子夏曰く、商之を聞く、(一七)死生命有り、富貴天に在り、君子は敬して失ふこと無く、人と恭して(一六)禮有らば、四海

何如。鼓瑟希。鏗爾舍瑟而作。對曰。異乎三子者之撰。子曰。何傷乎。亦各言其志也。曰莫春者。春服既成。冠者五六人。童子六七人。浴乎沂。風乎舞雩。詠而歸。夫子喟然歎曰。吾與點也。三子者出。曾皙後。曾皙曰。夫三子者之言何如。子曰。亦各言其志也已矣。曰。夫子何哂由也。曰。爲國以禮。其言不讓。是故哂之。唯求則非邦也與。安見方六七十如五六十。而非邦也者。唯赤則非邦也與。宗廟會同。非諸侯而何。赤也爲之小。孰能爲之大。

風に當るによし 〔四〇〕詠は歌なり 〔四一〕點は優游德を養ふの志あり故に孔子は其志を賛して點に與せんと云へるなり。喟然は溜息をつくこと 〔四二〕哂ふは笑ふなり 〔四三〕國家を治むるには禮を以てせざるべからず而して禮は讓を以て根本とせるに子路の言ふ所は甚だ禮讓を缺く是れ笑ふ所以なり 〔四四〕曾皙又問を發して曰く然らば求も亦邦國を治むることを望めるにあらずや何如と 〔四五〕孔子答へて曰く成程然り六七十或は五六十方里の小國と雖も邦國にあらざらんやと 〔四六〕曾皙又問ひて曰く然らば赤も亦邦國を治むるを望めるにあらずやと 〔四七〕孔子答へて曰くそれも然ることなり宗廟會同も諸侯の國のことにあらざらんや而して赤が小相たらば誰が能く大相たらんと。蓋し三子各其の志を言ひ與に國を治むるを目的とす而して孔子皆その能を許すも、而も子路獨り言辭謙遜ならざりしを以て之を笑ふの意自ら明かなり

顔淵第十二

顔淵問仁。子

顔淵、仁を問ふ。子曰く、(一)己に克ちて(二)禮を復むを仁と爲す。(三)一日己に克ち

攝㆓乎大國之閒㆒。加㆑之以㆓師旅㆒。因㆑之以㆓饑饉㆒。由也爲㆑之。比㆑及㆓三年㆒。可㆑使㆓有㆑勇且知㆒㆑方也。夫子哂㆑之。求爾何如。對曰。方六七十。如五六十。求也爲㆑之。比㆑及㆓三年㆒。可㆑使㆑足㆑民。如㆓其禮樂㆒。以俟㆓君子㆒。赤爾何如。對曰。非㆑曰㆑能㆑之。願學焉。宗廟之事。如會同。端章甫。願爲㆓小相㆒焉。點爾

喜んで曰く吾れは汝既に難に死せりと思へり顏淵曰く夫子在世なり回何ぞ敢へて死するをせんと 一八 殺すとは危難の殺るべきものに遭遇する意、孔子の容貌陽虎に似たるが爲めに誤りて匡人に圍まれたる時のことなり 一九 季氏の子弟なり 二〇 他事を問ふならんと思ひしに乃ち由・求の事にてありしかとの義 二一 曾は乃なり 二二 臣の數に列するに過ぎざるものの義 二三 之に從ふとは事ふる人の命のまゝに從ふをいふ 二四 子路季氏の宰たる時に子羔を以て費邑の宰となすされど子羔は年少くして學熟せず而して實際事に當らしむ、これ反りて其の身の德を累せんことを孔子は憂へたるなり 二五 社は土の神、稷は五穀の神なり 二六 書を讀まざれば學ばずと爲すにも及ぶまじと也 二七 口辯ある者、子路を指す 二八 曾子の父にして名は點。蓋し此章は四人の門人が師の面前に於て志を告白せし所にして各人の風手以て窺ふべし 二九 先づ孔子四人のものに向つて曰く吾汝等より一日の年長者なるの故を以て敢て遠慮すること勿れ汝等は常に世人の己を知らざるを歎ぜり若し汝等を知りて用ふるものあらば如何なることをなすかと 三〇 にはかに立ちて對ふるなり 三一 大國なり 三二 小さくちぢまつてをること 三三 二千五百人を師となし五百人を旅となす、戰爭てつかれたるをいふ 三四 義理に向はしむるなり 三五 微笑なり 三六 小國なり 三七 富足るなり 三八 赤汝は何如と促されて口を開きて曰くそれが出來ると申す譯には非ざれども吾が願は此の如し卽ち宗廟の祭事の時や諸侯會見の時に玄端を衣、章甫を冠りて斡旋する小役となりたしと、玄端は禮服、章甫は禮冠、相は君の禮をたすくる者、小といふは謙辭 三九 時に點は側にありし琴を取りて之を鼓してありしが、ひきやみて鏗爾と音をなして瑟を置き立つて恭しく答へて曰く、吾欲する所は前の三人とは其の撰を異にすと、孔子之を勵まして曰く各々其志を述ぶるなれば決して苦しからずと、是に於て點其の志を述べて曰く、春の衣服もちやんと出來、壯者五六人と小兒六七人と相提携して沂水に至りて沐浴し舞雩に至りて涼しき風に吹かれ詩を詠じて歸りたしと、莫春は暮春なり、舞雩は天を祭り雨乞などする處にて壇あり樹木あり、涼

與レ君亦不レ從也○子路使三子羔爲二費宰一。子曰。賊二夫人之子一。子路曰。有二民人一焉。有二社稷一焉。何必讀レ書然後爲レ學。子曰。是故惡二夫佞者一○子路曾晳。冉有。公西華。侍坐。子曰。以三吾一日長二乎爾一毋二吾以一也。居則曰。不二吾知一也。如或知レ爾。則何以哉。子路率爾而對。曰。千乘之國。

に浴し、舞雩に風し、詠じて歸らん。夫子喟然として歎じて曰く、吾は點に與せん。三子者出づ。曾晳後る。曾晳曰く、夫の三子者の言は何如。(四一)子曰く、亦各々其の志を言ふのみ。曰く、夫子何ぞ由を哂ふや。(四二)曰く、國を爲むるには禮を以てす。其の言讓らず。是の故に之を哂ふ。唯求は則ち邦に非ざる與。(四三)(四四)安んぞ方六七十如しくは五六十にして邦に非ざる者を見ん。(四五)唯赤は則ち邦に非ざるか。(四六)宗廟會同、諸侯に非ずして何ぞ。(四七)赤や之れが小たらば、孰れか能く之れが大たらん。

(一)顏回は其れ聖人の域に近いか　(二)近なり　(三)祿命を受けず又貨殖せざるを以て屢々空乏す　(四)孔子の弟子子貢の名　(五)祿命なり卽ち富貴なるべき天命　(六)億は意もて度るなり　(七)孔子の弟子　(八)善人は天質善良にて未だ學ばざる者、迹は古人の迹　(九)聖人の室　(一〇)言論の篤實なるのみを以て之に與せば其の人の君子たるか將た色莊者たるかを知らず故に言貌のみにて人を取るべからず必ず其の行と質とを見るべしと也　(一一)色莊者とは顏色を作る者卽ち君子を裝ふ者にて所謂似て非なる君子なり　(一二)子路は其の師孔子に問ふ　(一三)事を聞かば卽時に之を實行せんと欲す如何と孔子對へて曰く父兄あれば先づ其れに相談して爲すべしと　(一四)由は子路の名　(一五)求は冉有の名　(一六)赤は公西華の名なり　(一七)章指、孔子匡に於て難に遇へり時に顏淵おくれたり孔子

曰。求也退。故進レ之。由也兼レ人。故退レ之。○子畏二於匡一。顔淵後。子曰。吾以レ女爲レ死矣。曰。子在。回何敢死。○季子然問。仲由冉求可レ謂二大臣一與。子曰。吾以レ子爲二異之問一。曾由與レ求之問。所レ謂大臣者。以レ道事レ君。不可則止。今由與レ求也。可レ謂二具臣一矣。曰。然則從レ之者與。子曰。弑二父

然る後學びたりと爲さん。子曰く、是の故に夫の佞者(二七)を惡む。○子路(二八)・曾皙・冉有・公西華侍坐す。(二九)子曰く、吾が一日爾より長ぜるを以て、吾を以てする毋れ。居れば則ち曰ふ、吾を知らざるなりと、如し或は爾を知らば、則ち何を以てせんや。子路率爾(三〇)として對ふ。曰く、千乘の國、大國の間に攝し、(三二)之に加ふるに師旅を以てし、之に因るに饑饉を以てす。(三一)由や之を爲めば、三年に及ぶ比ひ、勇有り(三三)且つ方(三四)を知らしむべきなり。夫子之を哂ふ。(三五)求爾は何如。對へて曰く、方六(三六)七十、如しくは五六十。求や之を爲めば、三年に及ぶ比ひ、民を足らしむ可し、其の禮樂の如きは、以て君子を俟たん。赤爾は何如。對へて曰く、之を能くすと曰(三七)ふに非れども、願はくは學ばん、宗廟の事(三八)、如しくは會同には、端章甫して、願はくは小相たらん。點爾は何如。瑟を鼓すること希みて、鏗爾として瑟を舍きて作つ。對へて曰く、三子者の撰(三九)に異なり。子曰く、何ぞ傷まん、亦各〻其の志を言ふ。曰く、莫春には春服既に成り、冠者五六人、童子六七人、沂

善人之道。子曰。不踐迹。亦不入於室。○子曰。論篤是與。君子者乎。色莊者乎。○子路問。聞斯行諸。子曰。有父兄在。如之何。其聞斯行也。冉有問。聞斯行諸。子曰。聞斯行之。公西華曰。由也問。聞斯行諸。子曰。有父兄在。求也問聞斯行諸。子曰。聞斯行之。赤也惑。敢問。子

ふ、聞くまゝに斯れ諸を行はんか。子曰く、父兄在す有り、之を如何んぞ其れ聞くまゝに斯れ之を行はんや。冉有問ふ、聞くまゝに斯れ諸を行はんか。子曰く、聞くまゝに斯れ之を行へ。公西華曰く、由や問ふ、聞くまゝに諸を行はんかと。子曰く、父兄在す有りと。求や問ふ聞くまゝに斯れ諸を行はんかと。子曰く、聞くまに斯れ之を行へと。赤や惑ふ、敢て問ふ。子曰く、求や退く、故に之を進む。由や人を兼ぬ、故に之を退く。○子、匡に畏す。顏淵後れたり。子曰く、吾れ女を以て死せりと爲せり。曰く、子在せり。回何ぞ敢て死せん。○季子然問ふ。仲由、冉求は大臣と謂ふべきか。子曰く、吾れ子を以て異なるの問と爲す。曾ち由と求との問ひか。所謂大臣とは、道を以て君に事ふ、不可なれば則ち止む。今由と求とは、具臣と謂ふ可きなり。曰く、然らば則ち之に從ふ者與。子曰く、父と君とを弑せば、亦從はざるなり。○子路子羔をして費の宰たらしむ。子曰く、夫の人の子を賊ふ。子路曰く、民人有り、社稷有り、何ぞ必ずしも書を讀みて、

何。何必改作。子曰。夫人不言。言必有中。○子曰。由之鼓瑟。奚爲於丘之門。門人不敬子路。子曰。由也升堂矣。未入於室也。○子貢問。師與商也孰賢。子曰。師也過。商也不及。曰。然則師愈與。子曰。過猶不及。○季氏富於周公。而求也爲之聚斂而附益之。子曰。非吾徒也。小子鳴鼓而攻之可也。○柴也愚。參也魯。師也辟。由也喭。

子曰。回也其庶乎。屢空。賜不受命。而貨殖焉。億則屢中。○子張問

戒しめたるなり　〔三〇〕魯の人長府といふ藏を立派に改作せり　〔三一〕蓋し之を改作せしならん　〔三二〕舊來の儘にて可ならん何ぞ人民の財を費して改め作る要あらん　〔三三〕章指、門人等孔子が子路の鄙伐の聲あるを云へる言を聞きて子路に尊敬を拂はざるなり故に孔子は子路が仲々道に造詣する所あるをいひて、之を敬せざるの非を戒めたる也、堂といひ室といふ蓋し道に進むの順序を狀せる也　〔三四〕師は子張の名、商は子夏の名共に孔子の門人、子貢其二人の優劣を孔子に問ふなり　〔三五〕愈は猶は勝の如し　〔三六〕度を過ぎたる行も亦度に及ばざる行も共に中正を得ざるが故に道に合はず故に兩者孰れを優れりともいふべからず、貴ぶ所は中道にありとなり　〔三七〕當時季氏專橫を極め富貴を致せり故に其の富天子の宰たる周公より勝れりといふ　〔三八〕求は孔子の門人冉求なり　〔三九〕租稅を徵收すること　〔四〇〕戰陣にて太鼓を打つこと公然其罪をならして責めて可なりとの意　〔四一〕孔子の弟子高柴字は子羔　〔四二〕愚直にてばか正直の義　〔四三〕魯鈍にして不敏なること　〔四四〕容止に慣れて誠少し　〔四五〕喭は意志剛なること又粗俗なること

子曰く、回（一）や其れ庶（二）きか、屢〻空（三）し、賜（四）は命（五）を受けずして、貨殖す、億（六）れば則ち屢〻中る。○子張（七）善人（八）の道を問ふ。子曰く、迹を踐まざれども、亦室（九）に入らず。○子曰く、論篤（一〇）きにのみ是れ與せば、君子者か、色莊者（一一）か。○子路（一二）問

子曰。回也視レ予猶レ父也。予不レ得二視猶一レ子也。非レ我也。夫二三子也。○季路問レ事二鬼神一。子曰。未レ能レ事レ人。焉能事レ鬼。敢問レ死。曰。未レ知レ生。焉知レ死。○閔子侍レ側。誾誾如也。子路行行如也。冉有子貢侃侃如也。子樂。曰。若二由也一。不レ得二其死然一。○魯人爲二長府一。閔子騫曰。仍二舊貫一。如レ之

言語政事文學を孔門の四科と稱す　六　章指、顔回は孔子の言に於て默識心通して解せざるものなく少しも質問を發することなし只孔子の教を受けて默識深く悟る所ありて愉悦せるのみ、反間して師をして發明する所あらしめず故に我を助くるものに非ずといふ　七　章指、孔子の弟子閔子騫大孝なりしかば父母昆弟その孝友を稱するに人みな其の言を聞きて之を信じ敢へて異辭を夾むものなし　八　章指、南容は孔子の弟子、此の人詩の大雅抑篇の白圭のかけたるは尚は磨くべし此の言のかけたるは爲む可からずと云ふを讀みて感歎三誦す蓋し自ら言語を謹むに意ある也孔子其心懸に感じ兄の女を以て之に妻はせたりとなり　九　魯の執政大夫なり　一〇　顔淵死せしとき其の父顔路貧にして槨（外棺）を作る能はざれば孔子の車を請ひ受け之を賣りて槨を作らんことを請へる也　一一　子の才子たると不才子たるとを問はず父より見ればひとしく子にて其愛情にかはりなし　一二　孔子の子なり　一三　周代大夫車に乗るは禮なり　一四　章指、孔子深く顔淵に望を屬し道の傳はらん事を顔淵に期す而るに今先だつて夭す、即ちこの歎ある所以なり　一五　痛傷の聲なり　一六　顔淵の死するや孔子顔淵の家に悔みに行きて慟したるより供の人驚きて我が主人は慟せりといへり　一七　慟は過度に哀むなり　一八　慟する有るかとは左樣にてありしかと孔子が尋ぬるなり蓋し哀極まりて自ら其の慟せるを知らざるなり　一九　朋友を厚く葬らんとするは人情の免れざる所なれども禮儀の存するありて其分を亂るべからず、故に門人が顔淵を厚く葬らんとするを可とせざりし也　二〇　回は常に予を父の如く思へるに予は子の如く吾が思ふがまゝに葬る能はず　二一　是れ我が心に非ず門人等の然らしむる所なり　二二　季路は子路の別の字なり蓋し此の章により孔子の教は人事を先きにし處世の德 現世に處するを先にするを見るべし　二三　現世に處する途を知るが肝心也、それも未だ分らぬに如何で死を知り得んと也　二四　一本に閔子は閔子騫とあり　二五　中正なり　二六　行々は剛強なる貌　二七　打ち解くるなり　二八　孔子英才を得て教育するを樂む也　二九　子路は氣鋭く意強くして其生命自然の死を得ざらんを恐れ孔子特に之を

之槨。子曰。才不才、亦各言其子也。鯉也死。有棺而無槨。吾不徒行以爲之槨。以吾從大夫之後、不可徒行也。○顏淵死。子曰。噫。天喪予。天喪予。○顏淵死。子哭之慟。從者曰。子慟矣。曰。有慟乎。非夫人之爲慟而誰爲。○顏淵死。門人欲厚葬之。子曰。不可。門人厚葬之。

に仍らば之を如何、何ぞ必ずしも改め作らん。子曰く、夫の人は言はず、言へば必ず中る有り。○子曰く(三三)、由の瑟を鼓するは、奚爲ぞ丘の門に於てせん。門人子路を敬せず。子曰く、由や堂に升れり。未だ室に入らざるなり。○子貢問ふ(三四)、師と商と孰れか賢れる。子曰く、師や過ぎたり、商や及ばず。曰く然らば則ち師は愈れる(三五)か。子曰く、過ぎたる(三六)は猶ほ及ばざるがごとし。○季氏(三七)周公より富む。求(三八)や之が爲めに聚斂(三九)して之に附益す。子曰く、吾が徒に非ざるなり。小子(四〇)鼓を鳴して之を攻めて可なり。○柴(四一)や愚(四二)、參や魯(四三)、師や辟(四四)、由や喭(四五)。

㊀ 章指、先進後進は同じく周人中にて時代の先後を以ていふならん、周初は風俗極めて質朴なりしが後に至り文華に流れたり世人是を以て一を野人といひ一を君子といふ、孔子文の德を傷はんことを慮れ周初の質朴なる禮樂に從はんと云へるなり。野人は質朴の義にとり君子は在位の人の威儀堂々として文あるに取りし語にて、これ乃ち時人の言となす說可なるが如し ㊁ 陳蔡は共に國名 ㊂ 孔子の家門なり。蓋し孔子の陳蔡の間に厄に遭ひしは魯の哀公四年のことにして時に年六十一、而して孔子の此の歎ある蓋し七十以上、當時陳蔡の厄に隨伴したる門人共は殆ど死散して孔子の門に在るものなきを追憶せるなり ㊃ 及は至るなり ㊄ 章指、孔子の門秀才の士多し其の中特に著はれたるもの七十二人あり又其の中十人を擇びて其特長をいふ、後世に所謂孔門の十哲なり、この德行

。子游。子夏。
〇子曰。回也非助我者也。於吾言無所不說。〇子曰。孝哉。閔子騫。人不間於其父母昆弟之言。〇南容三復白圭。孔子以其兄之子妻之〇季康子問。弟子孰爲好學。孔子對曰。有顏回者。好學。不幸短命死矣。今也則亡。〇顏淵死。顏路請子之車以爲

車以て之が槨を爲らんと請へり。子曰く、才も不才も、亦各〻其子と言ふ。鯉や死せしとき、棺有りて槨無かりき。吾れ徒行して以て之が槨を爲らざりしは、吾れ大夫の後に從ひて、徒行す可からざるを以てなり。〇顏淵死す。子曰く、噫、天予を喪せり、天予を喪せり。〇顏淵死す。子之を哭して慟す。從者曰く、子慟せり。曰く慟する有るか、夫の人の爲めに慟するに非ずして、而して誰が爲にせん。〇顏淵死す。門人厚く之を葬らんと欲す。子曰く、不可なり。門人厚く之を葬る。子曰く、回や予を視ること猶ほ父のごとくせり、予の視ること猶ほ子のごとくするを得ざるや、我に非ざるなり、夫の二三子なり。〇季路鬼神に事ふるを問ふ、子曰く、未だ人に事ふること能はず、焉ぞ能く鬼に事へん。曰く、敢て死を問ふ。曰く、未だ生を知らず、焉ぞ死を知らん。〇閔子側に侍す。誾誾如たり。子路行行如たり。冉有子貢侃侃如たり。子樂む。曰く、由が若きは其の死然を得ざらん。〇魯人長府を爲る。閔子騫曰く、舊貫

子曰。先進於禮樂野人也。後進於禮樂君子也。如用之。則吾從先進。○子曰。從我於陳蔡者。皆不及門也。德行。顏淵。閔子騫。冉伯牛。仲弓。言語。宰我。子貢。政事。冉有。季路。文

卷六

先進第十一

(一)子曰く、先進の禮樂に於けるは野人なり。後進の禮樂に於けるは君子なり。如し之を用ひば、則ち吾は先進に從はん。○子曰く、我に(二)陳蔡に從ふ者、皆(三)門に及ばざるなり。(四)○(五)德行には顏淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓、言語には宰我・子貢、政事には冉有・季路、文學には子游・子夏。○(六)子曰く、回や我を助くる者に非ざるなり。吾が言に於て說ばざる所なし。○(七)子曰く、孝なるかな閔子騫、人其父母昆弟の言を閒せず。○(八)南容白圭を三復す、孔子其兄の子を以て之に妻はす。○(九)季康子問ふ、弟子孰れか學を好むと爲す。孔子對へて曰く、顏回といふ者有り、學を好む、不幸短命にして死せり、今や則ち亡し。○(一〇)顏淵死す。顏路、子の

服者式之。式負販者。有盛饌。必變色而作。迅雷風烈必變。○升車。必正立執綏。車中不內顧。不疾言。不親指。○色斯擧矣。翔而後集。曰。山梁雌雉。時哉時哉。子路共之。三嗅而作。

いふなり 三一 贈り物なり 三二 朋友は財を共通して相助くるの義あり、故に祭肉を贈らるれば神を敬する意味にて拜して受くれども、其の他は車馬の如き高價の贈物にても拜せず 三三 手足を布展して死人の如く偃臥せざるをいふ 三四 一本には居に客せずあるをよろしとす、閑居には客の如く窮屈にして居らずゆつくりとして居るをいふ 三五 喪服をつけ居る者 三六 親交あるをいふ 三七 顏色を易へて正しくするをいふ 三八 度々相遇ひたるをいふ 三九 姿勢だけを正すをいふ 四〇 死を送る者の服を着たる人 四一 車の前にある横木にて之に手をかけて頭を下げて敬禮するを式といふ 四二 君に上るべき一國の戸籍を持てる人 四三 人に招かれたる時、立派なる馳走が出れば、主人の盛意に對して敬禮する爲めに起立す 四四 雷鳴甚だしく風烈しき時は夜でも起きて衣冠を着けて坐す、萬一の變事有らんことを慮りてなり 四五 乘車のとき牽いて上に升る繩 四六 車內から見廻はすなり 四七 早口に物言ふなり 四八 自ら人又は物を指すなり 四九 橋上に雌雉あり、機を見て能く動く、模樣好からざれば飛び揚りて去る 五〇 回翔審視して而る後下り止まる 五一 孔子之を觀て曰く 五二 梁は橋なり 五三 去就の時を知れるかな 五四 共は拱執の義にてとらへんとの意なり 五五 子路が之を捕へんとて食物を與へたるに三たび嗅ぎて食はずして去れり

嘗レ之。君賜レ腥必熟而薦レ之。君賜レ生。必畜レ之。侍二食於君一。君祭先飯。疾。君視レ之。東首。加二朝服一。拖レ紳。君命召。不レ俟レ駕行矣。○入二大廟一毎レ事問。○朋友死。無レ所レ歸。曰。於レ我殯。朋友之饋。雖二車馬一。非二祭肉一。不レ拜。○寢不レ尸。居不レ容。見二齊衰者一。雖レ狎必變。見三冕者與二瞽者一。雖レ褻必以レ貌。凶

白き程よく膾は細かく切りたる程善きなり （五） 臭氣を發するなり （六） 味の惡くなるなり （七） 魚敗を餒といふ （八） 生熟其の時を得ざるなり （九） 季節の物にあらざるなり （一〇） 魚は醬を以て調理せざれば食はず （一一） 肉は多くありとも之を食ふに飯より過ぎざらしむ （一二） 外にて買ひた酒と脯となり、酒脯は自家にて作りしものを用ひて外にて買ひたるを用ひず （一三） 辛味多くして香氣ある一種の菜 （一四） 公祭の肉は一夜を過さずして其の日に處分し、家の祭肉は則ち三日を過ぎずして皆以て分賜す、蓋し三日を過ぐれば肉必ず敗るればなり （一五） 席が曲れゐるを云ふにあらず、士は一重に鋪き、大夫は二重に鋪くを禮とするに、士に二重大夫三重の席を用意することなどあれば孔子はかゝる不正の席には坐せず （一六） 鄕人相會して長老を上坐とし其の他年齡によつて坐し酒を飲むの儀あり、此の時年少者は年長者を尊敬せざるべからざるに、酒酣にして耳熱せば長幼の別亂るゝは往々免れざる所とす。然るに孔子はかゝるときにも禮を守りて儼然たり、杖を用ふる長老出でて後出づ、それまでは坐にありて禮を守る （一七） 支那の風俗に追儺と云ふものあり、儺々の聲をなして疾鬼を追ひ拂ふなり日本の鬼拂の風俗は之より來れりと云ふ （一八） 先祖の廟の東階なり （一九） 他國の人の所に使を遣りて物を贈り、其の起居などを尋ぬるとき孔子は自分が遣る使を再拜して送る、先方を敬するによる （二〇） 人の贈遺を受くるときは、食すべきの物は必ず先づ嘗めて之を謝す、孔子未だ藥の禮に達せず敢へて先づ嘗めず （二一） 孔子自身の病なり （二二） 魯の朝より來歸するなり （二三） 君の恩惠の有り難さを敬して先づそれを嘗めて見るなり （二四） 生肉なり （二五） 祖先の廟に供ふるなり （二六） 生は生物なり （二七） 君祭れば已れ先づ飯す、其の意君の爲めに毒味をなすなり （二八） 章指、病氣中君主見舞ひに來たるときは頭首を東に向け、禮服を夜具の上に加へ大帶を引きて見ゆるなり、東は陽氣なり首を東にするは生を欲する意なり （二九） 章指、君主來れと命ぜば車に馬の附くを俟たずして急いで徒歩にて出掛く （三〇） 殯はかりもがりと訓ず假葬のとなり、他鄕の人にて賴るべき無き人が死せば自分の所にて假葬をなせと

三日一出二三日一不レ食レ之矣。食不レ語。寢不レ言。雖二疏食菜羹一瓜祭。必齊如也。○席不レ正不レ坐。○鄕人飮酒。杖者出斯出矣。○鄕人儺朝服而立二於阼階一。○問二人他邦一。再拜而送レ之。康子饋レ藥。拜而受レ之。曰。丘未レ達。不二敢嘗一。○廐焚。子退レ朝。曰傷レ人乎。不レ問レ馬。○君賜レ食必正レ席先

を正して先づ之を嘗む、(二三)君腥(二四)を賜へば、必ず熟して之を薦む。(二五)君生(二六)を賜へば、必ず之を畜ふ。君に侍食するに、君祭れば(二七)先づ飯す。疾(二八)あるに君之を視れば、東首して、朝服を加へ、紳を拖く。君命じて(二九)召せば、駕を俟たずして行く。○大廟に入れば事毎に問ふ。○朋友死して、歸する所無ければ、曰く、我に於て殯(三〇)せよと。朋友の饋(三一)は、車馬(三二)と雖も、祭肉に非ざれば拜せず。○寢に尸(三三)せず、居(三四)に容せず。(三五)○齊衰者を見れば、狎れたり(三六)と雖も必ず變ず。(三七)冕者と瞽者とを見れば、褻れたり(三八)と雖も必ず貌(三九)を以てす。(四〇)凶服者には之に式し、(四一)負版者(四二)に式す。盛饌(四三)有れば、必ず色を變じて作つ。(四四)迅雷風烈には必ず變ず。○車に升れば、必ず正立して綏(四五)を執る。車中には內顧(四六)せず、疾言(四七)せず、親指(四八)せず。○色(四九)すれば斯に擧がる。翔(五〇)して而る後に集る。曰く、(五一)山梁(五二)の雌雉、(五三)時なるかな時なるかなと。子路之を共(五四)す。三嗅(五五)し、而して作つ。

㈠ 神を祭るなり　㈡ 潔白なる布の衣服　㈢ 齋戒する時は常食と異なる物を用ひ常の居處に居らず　㈣ 飯は

齊必有二明衣一布。〇齊必變レ食。居必遷レ坐。〇食不レ厭レ精。膾不レ厭レ細。食饐而餲。魚餒而肉敗不レ食。色惡不レ食。臭惡不レ食。失レ飪不レ食。不レ時不レ食。割不レ正。不レ食。不レ得二其醬一不レ食。肉雖レ多。不レ使レ勝二食氣一唯酒無レ量。不レ及レ亂。沽酒市脯不レ食。不レ撤レ薑食。不二多食一。祭二於公一不レ宿レ肉。祭肉。不レ出二

(一)齊すれば必ず明衣(二)ありて布す。〇(三)齊すれば必ず食を變ず。居には必ず坐を遷す。〇(四)食は精を厭はず、膾は細を厭はず。食の(五)饐して(六)餲せる、魚の(七)餒したると肉の敗れたるとは食はず。色の惡しきは食はず。臭の惡しきは食はず。(八)飪を失へば食はず。(九)時ならざるは食はず。割くこと正しからざれば食はず。(一〇)其醬を得ざれば食はず。(一一)肉多しと雖も食氣に勝たしめず。唯酒は量なく、亂に及ばず。(一二)沽酒市脯は食はず、(一三)薑を撤せずして食す。多食せず。公に祭れば肉を(一四)宿めず。祭肉は三日を出さず。三日を出せば、之を食せざるなり。食ふに語らず、寢るに言はず、疏食菜羹瓜と雖も、祭る、必ず齊如たり。〇(一五)席正しからざれば坐せず。〇(一六)鄕人と酒を飲むに、杖者出れば斯に出づ。〇鄕人の(一七)儺には、朝服して(一八)阼階に立つ。〇(一九)人を他邦に問はしむれば、再拜して之を送る。康子藥を饋る。拜して之を受く。(二〇)曰く、丘未だ達せず、敢へて嘗めず。〇(二一)廐焚けたり。子朝より退く。曰く、人を傷けたるかと、馬を問はざりき。〇(二二)君食を賜へば、必ず席

如也。沒レ階趨進。翼如也。復二其位一。踧踖如也。○執レ圭。鞠躬如也。如レ不レ勝。上如レ揖。下如レ授。勃如戰色。足蹜蹜如レ有レ循。享禮有二容色一。私覿愉愉如也。○君子不下以二紺緅一飾上。紅紫不三以爲二褻服一。當レ暑袗絺綌。必表而出。緇衣羔裘。素衣麑裘。黃衣狐裘。褻裘長。短二右袂一。必有二寢衣一。長一身有半。狐貉之厚以居。去レ喪無レ所レ不レ佩。非二帷裳一。必殺レ之。羔裘玄冠。不二以弔一。吉月。必朝服而朝。

待せしむれば。擯は來客を接待するの意なり （九）喜色見はるゝをいふ （一〇）大股に歩むなり、闊歩なり （一一）衣服の前後に動く形容 （一二）翼如は鳥の翼を舒ぶる時の貌、門に出でて賓を見るときの態度端正なるをいふ （一三）心に滿足して去る時は顧みること無し （一四）孔子が表門に入らるれば （一五）身を詰むる貌 （一六）門の中央に立たずして東隅に立つをいふ （一七）門限なり （一八）君の座位にして空位なり （一九）衣の下を齊といふ （二〇）屛は藏なり （二一）一段なり （二二）喜ぶ貌 （二三）階を下り盡すなり （二四）恭敬の貌 （二五）圭は諸侯の信を表する爲めに持つ玉なり （二六）重さに勝へざるが如く見ゆる程鄭重に取り扱ふなり （二七）玉を上ぐるなり （二八）戰色は畏れ敬しむ顏色 （二九）蹜々は小足に歩むなり （三〇）享禮の享は獻なり、既に聘して而して獻ずるなり （三一）私覿は享禮の後にある私禮なり （三二）顏色の和ぎたる貌 （三三）紺は黑衣、緅は蒼色の衣をいふ （三四）紅紫は間色にして正しからず且つ婦人女子の服に近し （三五）常衣なり、不斷衣なり （三六）袗は單衣なり （三七）絺は葛布の粗きもの、綌は其の細きもの （三八）表とは絺綌の上に別に上衣を加ふるをいふ （三九）黑色の朝服 （四〇）黑羊の皮衣 （四一）白衣 （四二）小鹿の皮の白きもの （四三）平常に着る皮衣なり、其の長きは溫を主とするなり （四四）事をなすに便なる爲め右袂を短くするなり （四五）狐貉の裘を著けて以て家に居り客に接す、其の厚きは溫きが爲めなり （四六）喪に居るときは簡を主とし佩を事とせざれども、喪を去りては禮に於て宜しく佩ぶべき者は服せざるなし （四七）朝祭の服を帷裳といふ （四八）殺は裁縫なり （四九）玄冠とは黑色の冠 （五〇）吉月は毎月の朔日

也。○君召使レ擯。色勃如也。足躩如也。揖ニ所ニ與立一。左ニ右手一。衣前後襜如也。趨進翼如也。賓退。必復命曰。賓不レ顧矣。○入ニ公門一。鞠躬如也。如レ不レ容。立不レ中レ門。行不レ履レ閾。過レ位。色勃如也。足躩如也。其言似ニ不レ足者一。攝レ齊升レ堂。鞠躬如也。屏レ氣似ニ不レ息者一。出降ニ一等一。逞ニ顏色一。怡怡

は足らざる者に似たり。齊を攝げて堂に升れば、鞠躬如たり、氣を屏めて息せざる者に似たり。出て一等を降れば、顏色を逞べて怡怡如たり。階を沒して趨り進めば、翼如たり。其位に復れば、踧踖如たり。○圭を執れば鞠躬如たり、勝へざるが如くす。上ぐるには揖するが如くし、下ぐるには授くるが如くす。勃如として戰色あり。足蹜蹜として循ふ有るが如し、享禮には容色あり、私覿には愉愉如たり。○君子は紺緅を以て飾らず、紅紫は以て褻服と爲さず。暑に當つては袗の絺綌す。必ず表して出づ。緇衣には羔裘、素衣には麑裘、黃衣には狐裘、褻裘は長し、右袂を短くす。必ず寢衣有り、長さ一身有半。狐貉の厚き以て居る、喪を去れば佩びざる所無し。帷裳に非ざれば、必ず之を殺す。羔裘玄冠、以て弔せず。吉月には、必ず朝服して朝す。

㊀ 恂々はおとなしきなり、溫恭なるなり ㊁ 便々とは事理を辨ずる貌なり ㊂ 朝は魯の朝廷にて此の時は魯の大夫たり、故に下大夫は孔子の下役に當る ㊃ 侃々は打ち解けるなり ㊄ 誾々は中正なり ㊅ 踧踖は恭敬の貌なり、敬意内に充ちて外貌安からざるが如きをいふ ㊆ 寬やかなるなり ㊇ 君主が孔子を召して賓客を接

共學。未レ可二與適一レ道。可二與適一レ道。未レ可二與立一。可二與立一。未レ可二與權一。○唐棣之華。偏其反而。豈不二爾思一。室是遠而。子曰。未二之思一也夫。何遠之有。

反るなり、偏として其れ反せりとは滿開の義にて男女相思の甚なるに比す、汝我を思はざるに非ざれど室相距ること遠しとの意 (四) 孔子曰く、是れ思はざるなり、何の遠き事か之れ有らんやと、蓋し人德を思慕せば何ぞ得られざる事有らんや畢竟思慕足らざゝなり

孔子於二鄕黨一。恂恂如也。似下不レ能レ言者上。其在二宗廟朝廷一。便便言。唯謹爾。○朝與二下大夫一言。侃侃如也。與二上大夫一言。誾誾如也。君在。踧踖如也。與與如也。

鄕黨第十

孔子鄕黨に於て、恂恂如たり。(一)言ふ能はざる者に似たり。其の宗廟朝廷に在りては、便便として言ふ。(二)唯謹めり。○朝にて下大夫と言へば、(三)侃侃如たり。(四)上大夫と言へば、誾誾如たり。(五)君在せば、踧踖如たり、(六)與與如たり。(七)○君召して擯せしむれば、(八)色勃如たり。(九)足躩如たり。(一〇)與に立つ所を揖すれば、手を左右にす。衣の前後は襜如たり。(一一)趨り進むは翼如たり。(一二)賓退けば、必ず復命して曰く、賓顧ずと。(一三)○公門に入れば、鞠躬如たり、(一四)容れざるが如くす、(一五)立つに門に中せず、(一六)行くに閾を履まず。(一七)位を過ぐれば、(一八)色勃如たり。足躩如たり。其言

者。過則勿レ憚レ改。○子曰。三軍可レ奪レ帥也。匹夫不レ可レ奪レ也。志○子曰。衣二敝縕袍一與下衣二狐貉一者上立。而不レ恥者。其由也與。不レ忮不レ求。何用不レ臧。子路終身誦レ之。子曰。是道也。何足二以臧一。○子曰。歳寒。然後知二松柏之後凋一也。○子曰。知者不レ惑。仁者不レ憂。勇者不レ懼。○子曰。可二與

孔門第一と稱せられ、又師孔子の最も望を屬せし所なり、然るに惜しきかな早死せり、故に子をして惜しきかな回は日に進步して止まざるの人なりしにと歎ぜしめたるなり 〔二〇〕章指、顏回早死に付きて歎息せるなりとの說あり 〔二一〕章指、後生即ち年少氣鋭の者は畏るべし、勉めて止まざれば學積み德成らんとすればなり、安ぞ其の將來の道德が我が今日の如くならざるを知らん、四十五十は德立ち名彰はるべき時なるに其の年になりて世に聞えざる者は將來の進境も亦限り有り畏るゝに足らず 〔二二〕孔子 〔二三〕詩書禮樂の言 〔二四〕遜順與にすべきの言なり 〔二五〕其の緒を尋ぬるなり 〔二六〕說は悅なり 〔二七〕繹きなり 〔二八〕己に如かざるものを友とする毋れとは之を棄てて顧みずと云ふにあらず唯友としては交はらぬと云ふことにて親切に敎誨誘導することは之を爲すなり 〔二九〕章指、三軍の勇は人に在り、匹夫の志は己に在り、故に帥は奪ふ可し、而るに志は奪ふ可からず、若し奪ふ可くば即ち亦之を志と謂ふに足らず 〔三〇〕敝は壞なり 〔三一〕粗惡の衣服なり 〔三二〕狐はきつね貉は貍に似たる一種の獸なり、狐貉は狐貉の皮にて作りたる衣服、貴人の用ふる所 〔三三〕孔子の弟子、子貢の名 〔三四〕忮は害なり、臧は善なり、蓋し忮はず求めず何を用つて臧からざらんとは、人を害せず自ら貪り求めず、此の如くならば善となすに足らんとの義にて是れ衛風雄雉の詩にして孔子之を引きて以て子路を美賞せり 〔三五〕自ら其の能を喜びて復た以上に道を求めよとの意 〔三六〕章指、小人の治世に在るや或は君子と異なることなし、惟利害に臨み事變に遇ひ然る後に君子の守る所見る可きなり 〔三七〕智者は物を辨ず故に惑はざるなり 〔三八〕仁者は内に省みて疚しからず故憂患なきなり 〔三九〕學問の要は共に輕重をはかりて宜を制するに在る意、學に志有る者は與に共に學び切磋すべし、但し道を信ずること篤からざれば未だ與に道に適く可からず、道を信ずること篤ければ與に道に適くべきも、未だ與に朝に立つ可からず、國の爲めに家を忘るゝ者にして與に朝に立つべきも、學問其の極に至る者にあらざれば與に變に臨み權を制すべからず 〔四〇〕唐棣の華云々は逸詩にあり、唐棣はゆすらうめなり、偏は片寄るなり、反は花瓣の

而不レ秀者有矣夫。秀而不レ實者有矣夫。○子曰。後生可レ畏。焉知二來者之不一レ如レ今也。四十五十。而無レ聞焉。斯亦不レ足レ畏也已。○子曰。法語之言。能無レ從乎。改レ之爲レ貴。巽與之言。能無レ說乎。繹レ之爲レ貴。說而不レ繹。從而不レ改。吾末二如レ之何一也已矣。○子曰。主二忠信一。毋レ友二不レ如レ己

仁者は憂へず、勇者は懼れず。○子曰く、與に共に學ぶ可きも、未だ與に道に(三八)適く可からず。與に道に適く可きも、未だ與に(三九)立つ可からず。與に立つ可きも、未だ與に權す可からず。○(四〇)唐棣の華は、偏として其れ反せり、豈に爾を思はざらんや、室是れ遠し。子曰く、未だ(四一)之を思はざるなるか、何の遠きか之れ有らん。

(一) 孔子の弟子 (二) 匱なり (三) 藏なり (四) 商賈人 (五) 賣なり、蓋し玉ある者は之を藏して善き商賈の來り買ふを待つ、我も道を懷き明君を待ちて之を行はんとなり (六) 孔子なり (七) 地名なり (八) 一說に居は之なり、行くなりと (九) 夫子自らをいへるなり (一〇) 章指、當時道衰へ音樂廢る、是に於て魯の哀公十一年の冬孔子衞國より魯國に歸り來り、先づ音樂を奬勵せり、故に音樂始めて正しくなり高尚なる雅又頌も其の當を得るに至れり (一一) 章指、外に出でては公卿に事へ家に在ては父兄に事へ喪事に大に盡力し又酒の爲めに心を亂さず、此の四事は我の能くする所なれども他は稱すべきものなし (一二) 章指、世亂れ民困む孔子道を以て之を救濟せんとして志を得ず、其の身も漸く老ゆ、此に於て河水の晝夜となく流れ去りて後水復た前水にあらざるを見て思はず歎息したるなり (一三) 好色を好み惡臭を惡むは誠なり、故に德を好むこと色を好むが如きは、斯れ誠に德を好むなり、然れども民之を能くする鮮し (一四) もう一簣にて山成らんとするに至りて止むるをいふ (一五) 一簣の簣は土籠なり (一六) 地の凸凹を直して平地とす穀物を以て學問に比して學をすゝめしなりとの說可なるが如し。蓋し本章は進德修業の道は自ら勉むるにあるをいふ (一七) 章指、顏回は道を信ずること深く行に篤き人なり故に孔子より聞くことあれば拳拳服膺して怠らず孔門人才多しと雖も及ぶものなし (一八) 孔子 (一九) 章指、顏淵は德高く識明かにして

勉。不レ爲二酒困一。何有二於我一哉。○子在二川上一曰。逝者如レ斯夫不レ舍二晝夜一。○子曰。吾未レ見二好レ德如レ好レ色者一也○子曰。譬如レ爲レ山。未レ成二一簣一。止吾止也。譬如二平地一。雖レ覆二一簣一。進吾往也○子曰。語レ之而不レ惰者。其回也與。○子謂二顏淵一曰。惜乎。吾見二其進一也。未レ見二其止一也。○子曰。苗

く、惜しいかな吾れ其の進むを見るなり。未だ其の止むを見ざるなり。○子曰く、苗にして秀でざる者有るかな、秀でて實らざるもの有るかな。○子曰く、後生畏る可し、焉ぞ來者の今の如くならざるを知らん。四十五十、而して聞ゆる無くば、斯れ亦畏るゝに足らざるのみ。○子曰く、法語の言は、能く從ふ無からんや。之を改むるを貴しと爲す。巽與の言は、能く說ぶ無からんや。之を繹ぬるを貴しと爲す。說んで繹ねず、從つて改めず。吾れ之を如何ともする末きのみ。○子曰く、忠信を主とせよ、己に如かざる者を友とする毋れ、過つては則ち改むるに憚る勿れ。○子曰く、三軍も帥を奪ふ可きなり。匹夫も志を奪ふ可からざるなり。○子曰く、敝れたる縕袍を衣、狐貉を衣る者と立ちて、恥ぢざる者は、其れ由なるか。忮はず求めず、何を用つて臧らざらん。子路終身之を誦す。子曰く、是の道や、何ぞ以て臧とするに足らん。○子曰く、歳寒くして、然る後に松柏の後に凋むを知るなり。○子曰く、智者は惑はず、

死ニ於臣之手一也。無寧死ニ於二三子之手一乎。且予縦不レ得ニ大葬一。予死ニ於道路一乎。

子貢曰。有レ美ニ玉於斯一。韞レ匵而藏諸。求ニ善賈一而沽諸。子曰。沽レ之哉。沽レ之哉。我待レ賈者也。○子欲レ居ニ九夷一。或曰。陋如レ之何。子曰。君子居レ之。何陋之有。○子曰。吾自レ衞反レ魯。然後樂正。雅頌各得ニ其所一。○子曰。出則事ニ公卿一。入則事ニ父兄一。喪事不ニ敢不レ

(一)子貢曰く、斯に美玉有らば、匵に(二)韞みて(三)藏せんか、善賈(四)を求めて(五)沽らんか。子曰く、之を沽らんかな、之を沽らんかな、我は賈を待つ者なり。○子(六)(七)九夷に居らんと欲す。或ひと曰く、陋なり、之を如何せん。子曰く、(九)君子之に居らば、(八)何の陋か之れ有らん。○(一〇)子曰く、吾れ衞より魯に反へり、然る後樂正しく、雅頌各〻其所を得たり。○(一一)子曰く、出でては則ち公卿に事へ、入りては則ち父兄に事へ、喪の事は敢へて勉めずんばあらず、酒の困を爲さず。何んか我に有らんや。○(一二)子川の上に在りて、曰く、逝く者は斯の如きか。晝夜を舍かず。○子曰く、吾れ未だ徳を好むこと(一三)色を好むが如くなる者を見ざるなり。○子曰く、譬へば山を爲るが如し。未だ一簣を成さずして、止むは吾が止むなり。譬へば地を(一六)平にするが如し。一簣(一四)(一五)を覆へすと雖も、進むは吾が往くなり。○(一七)子曰く、之に語げて、而して惰らざる者は、其れ回なるか。○(一八)(一九)子顏淵を謂つて曰

趨。○顏淵喟然歎曰。仰レ之彌高。鑽レ之彌堅。瞻レ之在レ前。忽焉在レ後。夫子循循然善誘レ人。博レ我以レ文。約レ我以レ禮。欲レ罷不レ能。既竭二吾才一。如レ有レ所レ立卓爾一。雖レ欲レ從レ之。末レ由也已。○子疾病。子路使二門人爲一レ臣。病間曰。久矣哉。由之行レ詐也。無レ臣而爲レ有レ臣。吾誰欺。欺レ天乎。且予與三其

多藝なりと思へり、孔子は餘り能藝多きを以て聖人なるかと問へる也 （二三） 孔子の弟子 （二四） 孔子 （二五） 試は用なり （二六） 故に藝に習ひ多藝なるなり （二七） 時人孔子を以て知らざるところ無しと爲せり、孔子之に就きて云ふ我は知る無し、然るに人が評判を爲すは嘗て鄙夫來りて我に問へり其事によりしならん （二八） 鄙夫の意誠なりしかば （二九） 叩は發動なり、兩端は猶は兩頭と言はんが如し、言はゞ終始本末上下精粗盡さざる所なし、故に世人がかかる評判を立つるものならん （三〇） 古昔聖人上にありしとき鳳凰至り黄河より八卦の圖を出す等の瑞章ありと傳ふ、今や此の如きことなし、明君なき證なり、我道も萬事休せりと （三一） 文王のとき岐山に鳳凰至り、伏羲のとき黄河より河圖を出せりと （三二） 孔子 （三三） 喪服を着する者を見れば哀み （三四） 冕は冠なり、衣は上服裳は下服なり、冕して衣裳服をつくるは貴者の盛服なり （三五） 目無き者 （三六） 或は曰く少は坐に作るべしと （三七） 作は起なり （三八） 疾行なり （三九） 章指、顏回成學の後孔子の盛德を讃美せるなり、顏回初め孔子に學ぶ初には徒に其の益々高大なるを感ぜしが、孔子循循として次第に順うて之を誘導し、先づ文を以て之を博め次に禮を以て之を約す、回は今や罷めんと欲して罷むる能はず、常に其の後に隨ひて其の才を竭しぬ、是に於て始めて孔子の卓然として高く立てる處を認め得るに至り、初めとは大に其の趣きを異にせり、而して進みて其處まで行かんとするに其處は至て高遠にして自分には達し得ざるなり。一說に立つ所ありて卓爾たるが如しは顏回の學に進みたる事なりと云ふ （四〇） 喟は歎聲 （四一） 堅くして入る可からず （四二） 循循は次序ある貌 （四三） 博文約禮は教ゆる順序なり （四四） 末は無なり （四五） 章指、死生の際尤も愼むは君子の心なり。息軒曰く、婦人の手に死せず、臣ある者は臣の手に死する禮なり、孔子臣あらば臣の手に死せんも旣に致仕して臣なし、寧ろ弟子の手に死なんと。そは子路の置く所の二三子は眞の臣に非ざればなりと。假令臣を具へ禮を以て葬るの大葬を受けずとも汝等有る以上はまさか道路に死することはあるまじ何ぞ臣を置くを用ひんやとなり （四六） 無寧は寧なり （四七） 大葬とは君臣の禮葬なり

聞レ之曰。大宰知レ我乎。吾少也賤。故多二能鄙事一。君子多乎哉。不レ多也。牢曰。子云。吾不レ試故藝。○子曰。吾有レ知乎哉。無レ知也。有二鄙夫一。問二於我一。空空如也。我叩二其兩端一。而竭焉。○子曰。鳳鳥不レ至。河不レ出レ圖。吾已矣夫。○子見二齊衰者一。冕衣裳者與二瞽者一。見レ之。雖レ少必作。過レ之必

臣無くして、而して臣有りと爲す。吾れ誰をか欺かん、天を欺かんや。且つ予れ其の臣の手に死なん與りは、無寧ろ二三子の手に死なん、(四六) 且つ予れ縱ひ大葬を得ざるも吾れは道路に死なんや。(四七)

(一) 章指、孔子利を言ふこと稀なりし、若し之を言ふときは或は命と共に云ひ又は仁と共に云ふ、何となれば利は必ずしも人力を以て得べきにあらず、仁を捨てて利に趨けば利遂に利たらざればなり (二) 達巷村の村人 (三) 孔子の博學なりしこと及び謙遜のことは此章にて見るべし (四) 孔子の學は多方面にして、一道を以て名づくべからざるをいふ (五) 孔子 (六) 孔子自ら謙遜して六藝の中卑きものたる御を執らんと云へり (七) 麻冕即ち緇布冠を著くるは古禮なり (八) 今人は純白の糸製の冠を用ふ古例には違へども純冠は丈夫にして且つ儉約なれば吾も衆人に從つて之を用ひん (九) 君を拜するに堂下に於てするは古禮なり (一〇) 堂上にて拜するは驕泰なり、衆人に違へど吾は古禮に從はん (一一) 孔子の人格完全にして道と冥合し自然にして道に中るを見る可し (一二) 道によりて行ひ成敗利鈍を意とせざるなり (一三) 行止時に中り可無く不可無きを以て期必することなきなり (一四) 經權並び得、一を固執して權變を知らざるなきなり (一五) 人と接するに善は人と之を同じくし己を捨てて人に從ふなり (一六) 章指、孔子が、其の道を以て自ら任ずる抱負の大なる天命を知るの深き此の章により見るべし、孔子が匡と云ふ地にて畏るべき事に遭ひて心使ひせり、そは嘗て匡人は魯の陽虎のために亂暴をせられたり、孔子を陽虎と見誤り匡人孔子を攻圍せしなり (一七) 道の顯はるゝ者之を文と謂ふ (一八) 玆は此なり孔子自らを謂ふ、後死者は後人に同じ (一九) 匡人は天に違つて己を害すること能はず (二〇) 官名 (二一) 孔子の弟子 (二二) 大宰は聖人は多能

拜乎上、泰也。雖違衆、吾從下。○子絕四。毋意。毋必。毋固。毋我。○子畏於匡。曰。文王旣沒。文不在茲乎。天之將喪斯文也。後死者。不得與於斯文也。天之未喪斯文也。匡人其如予何。○大宰問於子貢曰。夫子聖者與。何其多能也。子貢曰。固天縱之將聖。又多能也。子

者か、何ぞ其の多能なる。子貢曰く、固より天之を縱し將に聖ならんとして、又多能なり。子之を聞いて、曰く、大宰我を知るか。吾れ少くして賤し、故に鄙事に多能なり。君子は多ならんや、多ならざるなり。(二三)牢曰く、子云ふ(二四)、吾れ試られ(二五)ず、故に藝(二六)あり。○子曰く(二七)、吾れ知る有らんや、知る無きなり。鄙夫有り、我に問ふ、空空如(二八)たり、我其兩端(二九)を叩きて竭くせり。○子曰く(三〇)、鳳鳥(三一)至らず、河圖を出ださず、吾れ已ぬるかな。○子齊衰者(三二)(三三)を見、冕衣(三四)裳者と瞽者(三五)とは、之を見れば、少(三六)しと雖も必ず作つ(三七)、之を過れば必ず趨る(三八)。○顏淵(三九)喟然(四〇)として歎じて曰く、之を仰げば彌々高く、之を鑽れば(四一)彌々堅し、之を瞻れば前に在り、忽焉として後に在り、夫子(四二)循循然として善く人を誘ひ、我を博むる(四三)に文を以てし、我を約するに禮を以てす、罷めんと欲すれども能はず、既に吾が才を竭せり、立つ所有つて卓爾たるが如し、之に從はんと欲すと雖も、由る末きのみ(四四)。○子疾み(四五)て病す、子路門人をして臣たらしむ。病間に曰く、久しいかな、由の詐を行ふや、

子罕言利。與命與仁。○達巷黨人曰。大哉孔子。博學而無所成名。子聞之謂門弟子曰。吾何執。執御乎。執射乎。吾執御矣。○子曰。麻冕禮也。今也純儉。吾從衆。拜下禮也。今

巻之五

子罕第九

(一)子罕に利を言ふ。命と與にし仁と與にす。○(二)達巷黨人曰く、(三)大なるかな孔子、博學にして(四)名を成す所なし。(五)子之を聞き門弟子に謂ひて曰く、(六)吾れ何をか執らん。御を執らんか、射を執らんか、吾れは御を執らん。○子曰く、(七)麻冕は禮なり、(八)今や純は儉。吾は衆に從はん。(九)下に拜するは禮なり、(一〇)今や上に拜するは泰なり。衆に違ふと雖も、吾は下に從はん。○(一一)子四を絶つ、(一二)意毋く、(一三)必毋く、(一四)固毋く、(一五)我毋し。○子、(一六)匡に畏す。曰く、文王既に沒したれども、(一七)(一八)文茲に在らざるか。天の將に斯文を喪さんとするや、後死者は斯文に與るを得ざるなり、天の未だ斯文を喪さざるや、(一九)匡人其れ予を如何せん。○(二〇)大宰、(二一)子貢に問ふ、(二二)曰く、夫子は聖

之爲レ君也。巍巍乎。唯天爲レ大。唯堯則レ之。蕩蕩乎民無二能名一焉。巍巍乎其有二成功一也。煥乎其有二文章一。○舜有二臣五人一。而天下治。武王曰。予有二亂臣十人一。孔子曰。才難。不二其然一乎。唐虞之際。於レ斯爲レ盛。有二婦人一焉。九人而已。三二分天下一。有二其二一。以服二事殷一。周之德。其可レ謂二至德一也已矣。○子曰。禹吾無二間然一矣。菲二飮食一。而致二孝乎鬼神一。惡二衣服一而致二美乎黻冕一。卑二宮室一。而盡二力乎溝洫一。禹吾無二間然一矣。

たるものなり (九) 章指、大師摯の四始を奏するを聞くに其の關雎の亂卽ち終りが洋々として最も美を極む (一〇) 師摯とは魯の樂師、名は摯 (一一) 亂とは樂の卒章をいふ (一二) 章指、狂愚にして信實ならざる者は敎化する所以を知らずとの意、狂は進取の氣象に富むもの、侗は無知なり、悾悾は質朴なる者、愿は信實なること (一三) 章指、人の學をなす既に及ばざる所あるが如くするも而して猶は其の或は之を失はんことを恐る、學者たるもの寸時も油斷すべからず (一四) 舜禹の天下に君たる賢に任じ能を使ひ己れ事を自らせずして治まる。巍々乎とは山の如き貌、舜禹の大功を云へり。與らず、私意を加へずの意 (一五) 章指、堯の天下に君たるや大なりと嘆美し、名づくべかずとなし、只高大なる功効あり著明なる文章ありと謂へり其の德實に廣大巍々然たり、宇宙間に天は最も大なるものなるが堯には此の天に法とりて政治を施せり、而して堯は誠に大なる故に賞め云ふべき樣なし (一六) 廣遠の義 (一七) 事業なり (一八) 光明の貌 (一九) 此章先づ事實を擧げて然る後に孔子の論を出す (二〇) 禹、稷、契、皐陶、伯益の五人 (二一) 亂は治なり官を治むるもの十人の義 (二二) 孔子曰く古人云ふ才を得ること難しと實に然り、唐虞卽ち堯舜の際は人才盛なりしが其れより以下夏殷二代を經て今の周初に至りて又より以上に盛んなり、然れども治官の臣十人中には婦人一人有りしかば、男子は九人のみです。又天下を三分して其の二を得て、尙は殷に臣事したるは周の至德なる所以なり (二三) 堯舜の際のこと (二四) 章指、禹は一の非議すべき點なし自己の飮食を節して祭祀を盛にし自己の宮室を卑くして人民の爲めに灌漑の便を與ふるに勉めたり、實に禹は一の非議すべき點なし (二五) 間は隙なり、其の隙を指して之を非議すべきをいふ (二六) 薄なり (二七) 常服 (二八) 黻は膝あてなり、冕は冠なり、共に祭服たり (二九) 田間の水道にして以て疆界を正しくして旱に備ふるなり

有道。貧且賤焉恥也。邦無道。富且貴焉恥也。○子曰。不在其位。不謀其政。○子曰。師摯之始。關雎之亂。洋洋乎盈耳哉○子曰。狂而不直。侗而不愿。悾悾而不信。吾不知之矣。○子曰。學如不及。猶恐失之。○子曰。巍巍乎。舜禹之有天下也。而不與焉。○子曰。大哉堯

るも、猶ほ之を失はんことを恐る。○子曰く、巍巍乎(一四)たり、舜禹の天下の有つや。而して與からず。○子曰く、大なるかな堯の君たるや、巍巍乎として、唯天を大と爲す。唯堯之に則る。(一五)蕩蕩乎(一六)として民能く名づくる無し。巍巍乎として其の成功(一七)有るや、煥乎(一八)として其れ文章あり。○舜(一九)に臣五人有り、而して天下治まる。武王曰く、予に亂臣(二一)十人有り、孔子(二二)曰く、才難しと。(二〇)其れ然らざらんや。唐虞(二三)の際、斯に於て盛なりと爲せど、婦人有り、九人のみ。天下を三分して、其二を有ち、以て殷に服事す。周の徳は、其れ至徳と謂ふ可きのみ。○子(二四)曰く、禹は吾れ間然(二五)すること無し、飲食を菲くして(二六)、而して孝を鬼神に致す、衣服(二七)を惡しくして、美を黻冕(二八)に致し、宮室を卑うして、而して力を溝洫(二九)に盡す、禹は吾れ間然すること無し。

(一) 若しなり (二) 周の成王を輔けて周の文物制度を確立制定したる聖人なり (三) 驕泰 (四) 吝嗇 (五) 章指、三年學びて祿を求めざるほどの者は他日の大成を期する篤學の人にて容易に無しとなり。三年は多年の義 (六) 祿なり (七) 危邦とは將に亂れんとする邦、亂邦とは既に亂れたる邦 (八) 章指、各其の職に專一なるべきを說かれ

己任。不亦重乎。死而後已。不亦遠乎。○子曰。興於詩。立於禮。成於樂。○子曰。民可使由之。不可使知之。○子曰。好勇疾貧亂也。人而不仁。疾之已甚亂也。

之を成し而して後始めて人格完備す　(一四)　章意、民を愚にして治めんとの主義にあらず、民には一々敎へて知らしむることが能はずとの義ならん　(一五)　章意、勇氣あるを誇とする人が自分の貧賤なるを嫌惡する樣になれば、悖亂の人とならんとす、又不善なる人を惡むことは當然なれども甚しきは卻て其の人をして益悖亂に至らしむるなり

子曰。如有周公之才之美。使驕且吝。其餘不足觀也已。○子曰。三年學。不至於穀。不易得也。○子曰。篤信好學。守死善道。危邦不入。亂邦不居。天下有道則見。無道則隱。邦

子曰く、(一)如し(二)周公の才の美有るも、(三)驕且つ(四)吝ならしめば、其餘は觀るに足らざるのみ。○子曰く、(五)三年學びて、(六)穀に至らざるは、得易からざるのみ。○子曰く、篤く信じて學を好み、死を守りて道を善くし、(七)危邦に入らず、亂邦には居らず。天下道有れば則ち見はし、道無ければ則ち隱す。邦道有りて、貧且つ賤なるは恥なり。邦道無くして、富且つ貴きは恥なり。○子曰く、(八)其位に在らざれば、其政を謀らず。(九)○子曰く、(一〇)師摯の始は、(一一)關雎の亂、洋洋乎として耳に盈てるかな。○子曰く、(一二)狂にして直ならず、侗にして愿ならず、悾悾にして信ならずんば、吾れ之れを知らず。○(一三)子曰く、學は及ばざるが如くす

遠二鄙倍一矣。籩豆之事。則有司存。○曾子曰。以レ能問二於不能一。以レ多問二於寡一。有若レ無。實若レ虚。犯而不レ校。昔者吾友。嘗從二事於斯一矣。○曾子曰。可三以託二六尺之孤一。可三以寄二百里之命一。臨二大節一。而不レ可レ奪也。君子人與。君子人也。○曾子曰。士不レ可三以不二弘毅一。任重而道遠。仁以爲二

知らず、是れ其の至德たる所以なり (二) 禮は節文なり (三) 葸は事毎に恐怖を懷くこと (四) 絞は絞死の絞にて急功の義。蓋し恭愼勇直は各禮を以て之を節して始めて弊無し (五) 以下は禮教の民に及ぼすの效を述ぶ。而して君子とは上に在る人を謂ふ (六) 起るなり (七) 薄なり (八) 孔子の弟子にして殊に實踐躬行を重じたる人 (九) 啓は開なり、蓋し曾子は平日謂へらく身體は父母に受く敢へて毀傷せずと、故に是に於て其の弟子をして其の衾を開き之れを視せしめしなり (一〇) 詩經小旻の篇の詩 (一一) 戒め謹むなり (一二) 薄き氷なり、蓋し以上は身體を保つ所以の難きを言ふなり (一三) 身體を毀傷するを免かるゝを知るなり (一四) 小子とは門人のこと、語をはりて又之を呼びて以て反覆丁寧の意を致す、其れ之を警むるや深し (一五) 魯の大夫仲孫捷なり (一六) 自ら言ふなり (一七) 在位の君子 (一八) 容は身づくろひしたる形、貌は姿なり (一九) 暴は粗厲なり、慢は放肆なり (二〇) 信は實なり (二一) 鄙は凡陋なり、倍は背なり、理に背くを謂ふ (二二) 禮器なり、禮器を陳ずるが如きことは役人共に任せ置きて可なり (二三) 章意、才能を有しながら少能者に問ひ、多知にして少知の者に問ひ、己に道あれども無きが如くして謙遜し、德内に充つれども一向虛しきが如く自持し、人に侵犯せらるゝも自ら己に省みるのみにて怨みて報ぜず、かゝる事は人の難しとするなり、昔吾が友即ち顏淵之を行へり (二四) 計校なり (二五) 六尺は我が四尺三寸余にして即ち幼少の君の義、孤はみなしごなり (二六) 百里四方にして大國の義 (二七) 命は運命 (二八) 國家の大變有るに當り自ら國家の重きに任じ節義を失ふなし (二九) かゝる人は君子人かと一旦疑ひ、それより君人なりとて決定せるなり (三〇) 丈夫の世に處するにおいては (三一) 弘は寬弘、毅は強忍なり、蓋し弘にあらざれば其の重きに勝ふる能はず、毅にあらざれば以て其の遠きを致すなし (三二) 仁を以て己の任となす、實に重任なり、仁を完全にせんは一生の事業なり亦遠からずや、蓋し此章によりても亦曾子の毅然たる人格を見るべし (三三) 章指、詩三百篇は人情の自然に出で人倫の事備はる、故に身の學問の事先づ詩に始まる次ぎに禮を以て身を立て樂を以て

民不ㇾ偸。〇曾子有ㇾ疾。召二門弟子一曰。啓二予足一。啓二予手一。詩云。戰戰兢兢。如ㇾ臨二深淵一。如ㇾ履二薄冰一。而今而後。吾知ㇾ免夫。小子。〇曾子有ㇾ疾。孟敬子問ㇾ之。曾子言。曰鳥之將ㇾ死。其鳴也哀。人之將ㇾ死。其言也善。君子所ㇾ貴二乎道一者三。動二容貌一。斯遠二暴慢一矣。正二顏色一。斯近ㇾ信矣。出二辭氣一。斯

に貴ぶ所の者三、容貌(一八)を動かして、斯に暴慢(一九)に遠かり、顏色を正しくして、斯に信(二〇)に近づき、辭氣を出して斯に鄙倍(二一)に遠ざかる。籩豆(二二)の事は、則ち有司存せり。〇曾子曰く、能(二三)を以て不能に問ひ、多きを以て寡きに問ひ、有れども無きが若くし、實つれども虛きが若くし、犯さるゝも校(二四)からず。昔者吾が友嘗て斯に從事せり。〇曾子曰く、以て六尺(二五)の孤を託す可く、以て百里(二六)の命(二七)を寄す可し、大節(二八)に臨んで、奪ふ可からざるなり、君子人(二九)か、君子人なり。〇曾子曰く、士(三〇)以て弘(三一)毅ならざる可からず、任重くして道遠し、仁(三二)以て己が任となす、亦重からずや、死して後已む、亦遠からずや。〇子曰く、詩(三三)に興り、禮に立ち、樂に成る。〇子曰く、民(三四)は之に由ら使む可し、之を知ら使む可からず。〇子曰く、勇(三五)を好みて貧を疾むは亂なり、人として不仁なる、之を疾む已甚しきは亂なり。

(一) 泰伯は周の大王の長子なり、三讓については古來種々の說あり、されど民得て稱するなしと云へる如く、今日果して何なるやを論ず可きに非ざるに似たり。其の事の公然にあらずして隱微の中に之れを成せり故に民其の意を

爲レ之不レ厭。誨レ人不レ倦。則可レ謂ニ云爾一已矣。公西華曰。正唯。弟子不レ能レ學也。○子疾病。子路請レ禱。子曰。有レ諸。子路對曰。有レ之。誄曰。禱ニ爾于上下神祇一。子曰。丘之禱久矣。○子曰。奢則不レ孫。儉則固。與ニ其不孫一也。寧固。○子曰。君子坦蕩蕩。小人長戚戚。○子溫而厲。威而不レ猛。恭而安。

子曰。泰伯其可レ謂ニ至德一也已矣。三以ニ天下一讓。民無ニ得而稱一焉。○子曰。恭而無レ禮則勞。愼而無レ禮則葸。勇而無レ禮則亂。直而無禮則絞。君子篤ニ於親一。則民興ニ於仁一。故舊不レ遺。則

泰伯第八

子曰く、泰伯は其れ至德と謂ふ可きのみ。三たび天下を以て讓り、民得て稱することなし。○子曰く、恭にして禮なければ、則ち勞す。愼にして禮なければ、則ち葸す。勇にして禮なければ、則ち亂す。直にして禮なければ、則ち絞す。君子親に篤ければ、則ち民仁に興る。故舊遺れざれば、則ち民偸からず。○曾子疾有り。門弟子を召して、曰く、予が足を啓け、予が手を啓け。詩に云ふ、戰戰兢兢、深淵に臨むが如く、薄冰を履むが如しと。而今而後、吾れ免るゝを知るかな小子。○曾子疾有り、孟敬子之を問ふ。曾子言ふ、曰く鳥の將に死なんとするとき、其の鳴くや哀し、人の將に死なんとするとき、其の言や善しと。君子の道

馬期而進之曰。吾聞君子不黨。君子亦黨乎。君取於吳。爲同姓。謂之吳孟子。君而知禮。孰不知禮。巫馬期以告。子曰。丘也幸。苟有過。人必知之。○子與人歌而善。必使反之。而後和之。○子曰。文莫吾猶人也。躬行君子。則吾未之有得。○子曰。若聖與仁。則吾豈敢抑

鉤を附けて更に大繩に結合したるもの 〔二二〕 弋は率に絲を附けて鳥の翼に纏絡せしむるもの、飛鳥を射るに用ふ 〔二三〕 木に止まれる鳥を宿といふ・蓋し仁愛與鳥に及ぶなり 〔二四〕 章意、當時の學者が強附會し妄作するの弊あり故に孔子此の言ありしなり 〔二五〕 識錄なり 〔二六〕 是れ道を知る者の次ぎとなすべし 〔二七〕 互郷は郷名 〔二八〕 其郷人不善に習ひ與に善を言ひ難し 〔二九〕 童子の來りて孔子に見ゆるものあり、門人孔子の其の之を見るを怪む 〔三〇〕 學問を御免蒙るといふをいふ 〔三一〕 惡をにくむこと一に何ぞ甚しきや 〔三二〕 往くさきのこと 〔三三〕 章意、世に仁を敢へて行ふものなきは之れ仁を欲せざるなり、仁は却つて手近にあり 〔三四〕 陳は國名、司敗は官名なり 〔三五〕 昭公は魯君にして威儀の節に習ふ、當時以て禮を知れりと爲す 〔三六〕 禮に同姓婚せずと云ふ、然るに魯と吳とは同姓たり、魯昭公は吳に娶れり、又姫姓なれば吳姫と云ふべきに、諱みて吳孟子と云へり、是れ昭公禮を知らざるものなり 〔三七〕 孔子昭公の非禮を充分に知れども魯君の非を口にするに忍びざればなり 〔三八〕 孔子の弟子 〔三九〕 司敗が巫馬期に向つて曰ふなり 〔四〇〕 相助けて非を匿すを黨といふ 〔四一〕 吳の長女なる娘の義 〔四二〕 孔子の名なり 〔四三〕 反は復なり 〔四四〕 文は強、莫は勉なり。即ち勉強して仁義を行ふことは人に劣らずとも仁義に由りて行ひ勉めずして仁義に中ると云ふことは未だ能はず 〔四五〕 孔子の謙辭なり、世人吾を聖且つ仁と云ふと雖も豈に敢へて當らんや 〔四六〕 爾は應辭にして猶は然りと謂ふが如し 〔四七〕 孔子寢て病甚し 〔四八〕 病の甚だしきを病といふ 〔四九〕 誄は死を哀みて其の行を述ぶるの辭なり 〔五〇〕 天神地祇 〔五一〕 周禮に上下の神祇に禱祠すとあるは即ち之れにして禱は語辭なり 〔五二〕 章意、人驕奢なれば不謙遜となり、儉吝なれば固陋となる所とす、されども不謙遜ならんよりも固陋なる方よろしきなり 〔五三〕 坦は平坦の坦にて心の平易なること 〔五四〕 容貌の寛廣なること 〔五五〕 戚は憂へ懼るゝなり 〔五六〕 孔子 〔五七〕 溫は和順なり 〔五八〕 嚴肅なり、蓋し此の文によりても以て孔子の人格の圓滿完全なるを見るべし

作之者。我無是也。多聞。擇其善者而從之。多見而識之。知之次也。○互鄉難與言。童子見。門人惑。子曰。與其進也。不與其退也。唯何甚。人潔己以進。與其潔也。不保其往也。○子曰。仁遠乎哉。我欲仁。斯仁至矣。○陳司敗問。昭公知禮乎。孔子對曰。知禮。孔子退。揖巫

之れ有り。誄(四九)に曰く、上下(五〇)の神祇に禱爾(五一)す。子曰く、丘の禱ること久し。○子曰く、奢(五二)なれば則ち不孫、儉なれば則ち固。其の不孫ならん與りは、寧ろ固なれ。○子曰く、君子は坦(五三)にして蕩蕩(五四)、小人は長く戚戚(五五)。○子(五六)(五七)溫にして厲(五八)、威にして猛からず、恭にして安し。

(一) 楚の葉縣の尹なり (二) 汝なり (三) 未だ得ざる所あれば憤を發して食を忘れ已に得れば則ち之れを樂みて憂を忘る (四) 爾りは是の如きの意 (五) 生れながらにして之れを知るものは氣質清明、義理昭著、學を待たずして知るなり (六) 敏は速にして正確なるなり (七) 孔子 (八) 怪は怪異、力は腕力なり、亂は治の反にしてみだれたること、神は鬼神なり (九) 人常師あらず此に我と善者及び不善者の三人あれば師存するなり卽ち善者は擇びて之れに倣ひ不善者は自ら省みて惡あらば之れを改む (一〇) 孔子宋國にありしとき宋の司馬桓魋孔子を殺さんとす事甚だ急なり、弟子皆之れを患ふ、是に於て孔子は吾れは天德を養ひたれば桓魋何ぞ天に違ひて吾を害せんやと自信を云ひて弟子を安ぜしめしなり (一一) 章賁、知を喜んで行を略にするは古今人の弊とす獨り孔子行を先にして言を次にせり、故に孔子の敎育法は弟子に言語を以て敎へんよりも行を以て之を示し以て自ら行はしめんとしたり、是を以てか門人孔子を以て事を秘し物を掩ふと思へるものあり、是れ此の言ある所以なり (一二) 孔子の名なり (一三) 典籍辭義之を文と謂ふ (一四) 孝悌恭睦之を行と謂ふ (一五) 人の爲に心を盡す (一六) 朋友と與に交はりては信 (一七) 當世聖人は到底望むべからざれど君子を見るを得ば可なり (一八) 恒久の意 (一九) 貧約 (二〇) 奢泰 (二一) 細微に

無レ隱乎爾。吾無下行而不レ與二二三子一者上。是丘也。○子以レ四教。文。行。忠。信。○子曰。聖人吾不二得而見レ之矣。得レ見二君子者一斯可矣。子曰。善人吾不二得而見レ之矣。得レ見二有レ恒者一斯可矣。亡而爲レ有。虛而爲レ盈。約而爲レ泰。難二乎有レ恆矣。○子釣而不レ綱。弋不レ射レ宿。○子曰。蓋有二不レ知而

與す、其の退く(三〇)を與さざるなり。唯(三一)何ぞ甚だしきや、人己を潔くして以て進む、其潔きを與す、其の往(三二)を保せざるなり。○子曰く、仁遠(三三)からんや。我れ仁を欲せば、斯に仁至る。○陳司敗(三四)問ふ、昭公(三五)、禮(三六)を知れるか。孔子對へて曰く、禮(三七)を知れりと。孔子退く。巫馬期(三八)を揖して之を進めて、曰く(三九)、吾れ聞く、君子は黨せずと。君子も亦黨(四〇)するか、君吳に取り、同姓たり、之を吳孟子(四一)と謂ふ。君にして禮を知らば、孰か禮を知らざらん。巫馬期以て告ぐ、子曰く、丘(四二)や幸なり。苟も過有れば、人必ず之を知る。○子人と與に歌ひて善ければ、必ず之れを反(四三)さしめて、而る後之れに和す。○子曰く、文莫(四四)は吾れ猶ほ人のごときなり。君子を躬行する、則ち吾れ未だ之れを得る有らざるなり。○子曰く、聖(四五)と仁との若きは、則ち吾れ豈に敢てせんや。抑も之を爲して厭はず、人を誨へて倦まざるは、則ち爾り(四六)と謂ふ可きのみ。公西華曰く、正に唯。弟子學ぶ能はざるなり。○子(四七)疾みて病(四八)す。子路禱らんと請ふ。子曰く、諸有りや。子路對へて曰く、

奚不レ曰下其爲レ人也、發レ憤忘レ食。樂以忘レ憂。不レ知二老之將一レ至云爾上。○子曰。我非二生而知一レ之者一。好レ古。敏以求レ之者也。○子不レ語二怪力亂神一。○子曰。三人行。必得二我師一焉。擇二其善者一而從レ之。其不レ善者而改レ之。○子曰。天生二德於予一。桓魋其如レ予何。○子曰。二三子以レ我爲レ隱乎。吾

りと曰はざるや。○子曰く、我れ生にして之れを知る者に非ず。古を好みて敏く以て之れを求めたる者なり。○子怪力亂神を語らず。○子曰く、三人行けば、必ず我が師を得。其の善なる者を擇んで之れに從ひ、其の善ならざる者をば之れを改む。○子曰く、天德を予に生せり。桓魋其れ予を如何にせん。○子曰く、二三子我を以て隱すと爲すか。吾は隱すこと無きのみ。吾れ行ふとして二三子と與にせざる者無し。是れ丘なり。○子四を以て敎ふ、文行忠信。○子曰く、聖人を吾れ得て之を見ず、君子者を見るを得ば斯に可なり。子曰く、善人をば吾れ得て之を見ず、恒ある者を見るを得ば斯に可なり、亡くして有りと爲し虛しうして盈りと爲し、約にして泰れり爲さば、恒あること難し。○子釣して綱せず。弋して宿れるを射ず。○子曰く、蓋し知らずして之を作す者有らん、我は是れ無きなり。多く聞き、其の善者を擇んで之に從ひ、多く見て之を識るす。知るの次なり。○互鄕與に言ひ難し、童子見ゆ、門人惑ふ、子曰く、其の進むを

圖爲樂之至於斯也。◎冉有曰。夫子爲衞君乎。子貢曰。諾。吾將問之。入曰。伯夷叔齊何人也。曰。古之賢人也。曰。怨乎。曰。求仁而得仁。又何怨。出曰。夫子不爲也。○子曰。飯疏食飲水。曲肱而枕之。樂亦在其中矣。不義而富且貴。於我如浮雲。○子曰。加我數年。卒以學易。可以無大過矣。○子所雅言。詩書執禮。皆雅言也。

にて搏つなり馮河は河を徒渉するなり 〔二四〕楠正成諸葛孔明の如きは即ち之れなり 〔二五〕事の成就 〔二六〕章而、富にして求めて得べきものならば賤役と雖も之れをなさん、然れども富は求めて得べからざる故に吾が好むところに隨ひて古人の道を樂まん 〔二七〕賤者の事なり 〔二八〕孔子 〔二九〕齋即ちものいみなり 〔三〇〕戰爭 〔三一〕病なり 〔三二〕韶は聖人舜の作りし音樂、蓋し韶樂の盛美を聞習して故に肉味を忘れしなり 〔三三〕孔子の弟子 〔三四〕先生即ち孔子のこと 〔三五〕衞君とは出公輒のこと、衞の靈公其の世子蒯聵を逐ふ、靈公薨ず、而して衞國人蒯聵の子輒を立つ、是に於て晉は蒯聵を納れんとす、輒之れを拒ぐ、時に孔子衞に居る 衞人は蒯聵は罪を父に得而して輒は嫡孫にして當に立つべきの故に冉有疑つて之れを問ふ 〔三六〕爲は助なり 〔三七〕孔子の弟子 〔三八〕應ずる辭なり 〔三九〕孤竹君の二子にして共に父命を尊び天倫を重じたる人 〔四〇〕粗食なり 〔四一〕食なり 〔四二〕不義の富貴を視ては浮雲の有るなきが如し 〔四三〕加は假なり、諸說ある中にも朱注を最も可なりとす 〔四四〕易は吉凶消長の理進退存亡の道を明にせるもの即ち易經之れなり 〔四五〕雅言は朱說に從ひ平常口にするの言と解すべし 〔四六〕詩經書經 〔四七〕口に體をいふのみにあらず之れを執り守るなり

葉公問孔子於子路。子路不對。子曰。女

(一)葉公、孔子を子路に問ふ。子路對へず。子曰く、女(二)奚ぞ、其の人と爲りや憤(三)を發して食を忘れ、樂んで以て憂を忘れ、老の將に至らんとするを知らず、爾

曰。用之則行。舍之則藏。唯我與爾有是夫。子路曰。子行三軍則誰與。子曰。暴虎馮河。死而無悔者。吾不與也。必也臨事而懼。好謀而成者也。○子曰。富而可求也。雖執鞭之士。吾亦爲之。如不可求。從吾所好。○子之所愼齊戰疾。○子在齊聞韶三月不知肉味。曰。不

にして富み且つ貴きは、我れ於て浮雲の如し。○子曰く、我に數年を加し(四三)、卒に以て易(四四)を學ばしめば、以て大過無かる可し。○子の雅言(四五)する所、詩書(四六)、執禮(四七)、皆雅言なり。

㊀ 舊きことを傳ふるのみ、作は創始なり ㊁ 古の道を信ずるなり ㊂ 老彭は殷の賢大夫にして德行ありて位無し教學自ら處す、蓋し孔子は竊に之れに比す ㊃ 默して之れを記識するは其の德を著ふる所以なり ㊄ 敢て當らざるをいふ謙辭なり ㊅ 吾れ此の四事を行ふ能はざるを以て自ら憂となすと孔子自ら云へるなり ㊆ 間暇無事の時 ㊇ 其の容の舒なるなり ㊈ 其の色愉ぶにて夭夭は和悅の貌なり。蓋し孔子が其の家に閑居せらるゝときは其の態度がいかにも和平穩當なるをいへるなり 一〇 章意、孔子の盛時其の志周公の道を行はんと欲し、故に夢寐の間も之れを見るあるが如し又以て孔子の理想的人物が周公なりしを知るに餘りあり 一一 道は人間日用の間當に行ふ可きところの者なり 一二 志は心のゆく所の謂ひなり 一三 六藝にて卽ち禮樂の文、射御書數の法之れなり 一四 脩は脯なり脯はほしじしなり十脡を束と爲す古へは相見ゆる必ず贄をとりて以て禮となす、束脩は其の至りて薄きものなり 一五 苟も禮を以て來らば則ち以て之れを敎へざることあるなし 一六 章意、孔子人を敎導するの法をいふ、憤は心に通ずるを求めて未だ之れを得ざるの意 一七 悱は口言はんと欲して未だ能はざるの貌 一八 復は再告なり 一九 章意、孔子は喪あるものの側にて食事すれば其の哀戚するを見て氣の毒に思ひ敢て飽食滿腹するに忍びざるなり 二〇 章意、弔哭の日は戚哀止まず歌ふに忍びざるなり 二一 人君吾れを用ひざれば道を懷きて藏くるゝをいふ 二二 大國は三軍を出す、三軍とは三萬七千五百人也 二三 暴虎は虎を徒手

天天如也。○子曰。甚矣吾衰也。久矣。吾不復夢見周公。○子曰。志於道。據於德。依於仁。游於藝。○子曰。自行束脩以上。吾未嘗無誨焉。○子曰。不憤不啓。不悱不發。擧一隅不以三隅反。則不復也。○子食於有喪者之側。未嘗飽也。子於是日哭則不歌。○子謂顏淵

○子喪ある者の側に食すれば、未だ嘗て飽かざるなり。子是の日に於て哭すれば、則ち歌はず。○子顏淵に謂ひて曰く、之れを用ふれば則ち行ひ、之れを舍けば則ち藏る。唯我と爾と是れ有るか。子路曰く、子三軍を行らば、則ち誰と與にせん。子曰く、暴虎馮河し、死して悔ゆることなき者は、吾れ與にせざるなり。必ずや事に臨んで懼れ、謀を好んで成る者なり。○子曰く、富にして求む可くんば、執鞭の士と雖も、吾れ亦之れを爲さん、如し求む可からずんば吾が好む所に從はん。○子の愼む所は齊戰疾。○子齊に在り、韶を聞くこと三月、肉の味を知らず。曰く、樂を爲すの斯に至るを圖らざるなり。○冉有曰く、夫子は衞君を爲けんか。子貢曰く、諾。吾れ將に之れを問はんとす。入りて曰く、伯夷叔齊は何人ぞ。曰く古の賢人なり。曰く怨みたるか。曰く仁を求めて仁を得たり、又何ぞ怨みんや。出でて曰く、夫子は爲けざるなり。○子曰く、疏食を飯ひ、水を飲み、肱を曲げて之れを枕とす。樂み亦其中に在り。不義

子曰。述而不作、信而好古。竊比於我老彭。○子曰。默而識之。學而不厭。誨人不倦。何有於我哉。○子曰。德之不脩。學之不講。聞義不能徙。不善不能改。是吾憂也。○子之燕居申申如也。

卷之四

述而第七

子曰く、(一)述べて作らず、(二)信じて古を好む。竊に我が(三)老彭に比す。○子曰く、(四)默して之れを識るし、學んで厭はず、人を誨へて倦まず。(五)何か我に有らん。○子曰く、(六)德の脩まらざる、學の講ぜざる、義を聞きて徙る能はざる、不善改むる能はざる、是れ吾が憂なり。○子の(七)燕居、(八)申申如たり、(九)夭夭如たり。○子曰く、(一〇)甚しきかな吾が衰へたるや、久しきかな吾れ復た夢に周公を見ず。○子曰く、(一一)道に志し、(一二)德に據り、仁に依り、(一三)藝に游ぶ。○子曰く、(一四)束脩を行ふより以上は、吾れ未だ嘗て(一五)誨へ無くんばあらず。○子曰く、(一六)憤せざれば啓せず、(一七)悱せざれば發せず、一隅を擧げて三隅を以て反せざれば、則ち(一八)復たせざるなり。

能濟衆何。如可謂仁乎。子曰。何事於仁。必也聖乎。堯舜其猶病諸。夫仁者。己欲立而立人。己欲達而達人。能近取譬可謂仁之方也已。

之れを行ふ者少きこと已に久し（五〇）孔子の弟子にして姓は端木、名は賜（五一）如しは若しなり（五二）博は廣なり（五三）若し能く廣く恩惠を民に施し民を患難の中に濟ふが如きは堯舜の至聖と雖も猶は其の難きを病めり（五四）立つは位に立つなり仕へて朝廷に位するをいふ（五五）達は通なり通顯をいふ（五六）以上の如くすることは仁に到達する道といふべきである

其從之也。子曰。何爲其然也。君子可逝也。不可陷也。可欺也。不可罔也。○子曰。君子博學於文。約之以禮。亦可以弗畔矣夫。○子見南子。子路不說。夫子矢之曰。予所否者。天厭之。天厭之。○子曰。中庸之爲德也。其至矣乎。民鮮久矣。○子貢曰。如有博施於民。而

の言入り易く等をこゆるの弊なし 〔二六〕 人民を教化する所以の義をつとむるなり 〔二七〕 鬼神を敬して餘りに近づかざるなり、勞苦を先きにして功を得るを後にす此れ仁たる所以なり 〔二八〕 知者は事理に達して周流滯りなく水に似たる所あり故に水を樂むなり 〔二九〕 樂むとは喜び好みて自己の本性と合するなり 〔三〇〕 二者は義理に安じて厚重遷らず山に似たる所あり故に山を樂むなり 〔三一〕 樂と壽とは其の効を以て言ふなり 〔三二〕 齊國は其の特有の人情風俗あり魯國は其國特有の人情風俗あり、其の善惡優劣各差あり、是れ各其の歷史の異なるが故なり、魯は齊よりも其の人情風俗の善美なることは人の知る所なり、故に齊の風俗一變せば魯の風俗になり魯の人情一變せば道を得るに至らん、先王の道を得るに至らんと 〔三三〕 觚は酒器なり。今の觚は古制を失ひて禮に叶はず、觚既に其古を失ふ豈亦觚と稱すべけんやとて深く名實の相叶はざるを歎ぜる也。或はいふ、觚を用ひて酒を酌むは禮を成すが爲なり、今人觚を用ふれども飲酒度なし、是れ禮なきなり、故に斯くいはれて歎聲を發せられしものなりと、亦通ず 〔三四〕 孔子の弟子 〔三五〕 仁は人の義 〔三六〕 人の井にあるに隨ひて之れを救ふをいふ。蓋し宰我は孔子の或は禍に陷られんことを恐れて此の問を發して暗に之れを諷せしものならん 〔三七〕 逝くは之れを往きて救はしむるをいふ 〔三八〕 陷るは之れを井に陷るゝをいふ 〔三九〕 罔ふは之れを昧まし理の無き所を以てするをいふ 〔四〇〕 章宣、人は廣く古人の書を學び禮儀の全を以て身を節制せば庶くは道德に背かざるを得んか 〔四一〕 畔は背なり 〔四二〕 孔子 〔四三〕 衞靈公の夫人なるも淫行あるを以て孔子が衞にゆかれて之れを見るを子路は悅ばざるなり 〔四四〕 說は悅なり 〔四五〕 矢は誓なり 〔四六〕 棄絕なり、蓋し聖人の道は大にして德全し故に可不可なし、其の惡人を見る固より我に在りて見る可きの禮あらば則ち彼の不善は我の關する所にあらず、然れども此れ豈に子路の能く測る所ならんや、故に重言して以て之れを誓ひ其の姑く此れを信じて深思以て此の意を得しめんと欲するなり 〔四七〕 中は過不及なきの名なり、庸は平常なり 〔四八〕 立派なものだ 〔四九〕 先王の世皆能く之れを行へり、然るに近古の民能く

上也。○樊遲問レ知。子曰。務二民之義一。敬二鬼神一而遠レ之。可レ謂レ知矣。問レ仁。曰。仁者先レ難而後レ獲。可レ謂仁矣。○子曰。知者樂レ水。仁者樂レ山。知者動。仁者靜。知者樂。仁者壽。○子曰。齊一變至二於魯一。魯一變至二於道一。○子曰。觚不レ觚。觚哉觚哉。○宰我問曰。仁者雖三告レ之曰二井有一レ仁焉。

と久し。○子貢(五〇)曰く、如し博く民に施して能く衆を濟ふあらば、何如。仁と謂ふ可きか。子曰く、何ぞ(五一)仁を事(五二)とせん、必ずや聖か、堯舜(五三)も其れ猶ほ諸を病めり。夫れ仁者は己立たんと欲し、而して人を立て(五四)、己達せんと欲し、而して人を達し(五五)、能く近く譬を取る、仁の方(五六)と謂ふ可きのみ。

(一) 孔子の弟子言偃のこと (二) 魯の下邑なり (三) 女は汝なり (四) 澹臺は姓にして滅明は名なり (五) 路の小にして近きもの、徑によらずとは公正なること (六) 孟之反は魯の大夫なり (七) 功にはこらざるなり (八) 敗走にあたりて (九) 軍後を殿といふ (一〇) 戰敗れて還るには後るゝを以て功となす故に多くは奔りて殿して功を誇り稱するもの多し、然るに之反は此の言を以て其の功をおはへり賢なるかな (一一) 祝は宗廟の官にして、鮀は衞の大夫、字は子魚なり (一二) 口才なり (一三) 宋の美人にして善く淫す (一四) 今世の害を免るゝことは六ケ敷なり (一五) 人室內を出入するや戸に由らざるべからずその如く人の社會に處するや道に依らざるべからざるなり (一六) 質は實質なり (一七) 野は野人にして鄙俗なるをいふ (一八) 文章を掌り多聞にして事に習熟し誠或は足らざるなり (一九) 文質共によく具備せば始めて君子と稱すべきなり、彬彬は野ならず史ならざる意 (二〇) 章指、人の此の世に生存し得るは正直なるがためなり、若し正直なる道を誣ひて不正直ならんか遂には身滅亡を免れざるものとす、然るに不正直にして此の世を送るを得ばそは實に僥倖に禍を免れたるものと謂ふべし (二一) 道の當に學ぶべきを知るものなり (二二) 之れ好むものは道を好みて未だ得ざるなり (二三) 道を得る所ありて之れを樂むものなり (二四) 高遠の道 (二五) 語るは告ぐなり、蓋し人を敎ふるものは當に其の高下に隨つて之れに告ぐべきなり、然らば則ち其

之美。難乎免於今之世矣。○子曰。誰能出不由戶。何莫由斯道也○子曰。質勝文則野。文勝質則史。文質彬彬、後然君子。○子曰。人之生也直。罔之生也。幸而免。○子曰。知之者。不如好之者。好之者。不如樂之者。○子曰。中人以上。可以語上也。中人以下。不可以語

如かず。○子曰く、中人以上は、以て上を語る可きなり(二四)(二五)、中人以下は、以て上を語る可からざるなり。○樊遲、知を問ふ。子曰く、民の義(二六)を務め、鬼神(二七)を敬して之れを遠ざく。知と謂ふ可し。仁を問ふ。子曰く、仁者は難きを先にして獲るを後にす。仁と謂ふ可し。○子曰く、知者(二八)は水を樂み(二九)、仁者(三〇)は山を樂む、知者は動き、仁者は靜に、知者は樂み(三一)、仁者は壽し。○子曰く、齊(三二)一變せば魯に至らん、魯一變せば道に至らん。○子曰く、觚(三三)觚ならず。觚ならんや、觚ならんや。○宰我(三四)問ふ。曰く、仁者は之れに告げて井に仁(三五)ありと曰ふと雖も、其(三六)れ之れに從はんや。子曰く、何爲れぞ其れ然らん。君子は逝(三七)かしむ可し、陷(三八)る可からざるなり。欺く可し、罔(三九)ふ可からざるなり。○子曰く、君子(四〇)は博く文を學び、之を約するに禮を以てせば、亦以て畔(四一)むかざる可きか。○子南子(四二)(四三)を見る。子路(四四)說ばず、夫子之れに矢(四五)って曰く、予の否なる所の者は、天之れを厭(四六)てん、天之れを厭てん。○子曰く、中庸(四七)の德たる、其れ至れる(四八)かな、民鮮(四九)きこ

問レ之。自レ牖執二其手一。曰。亡レ之命矣夫。斯人也。而有二斯疾一也。斯人也。而有二斯疾一也。○子曰。賢哉回也。一簞食。一瓢飲。在二陋巷一。人不レ堪二其憂一。回也不レ改二其樂一。賢哉回也。○冉求曰。非レ不レ說二子之道一。力不レ足也。子曰。力不レ足者。中道而廢。今女畫。○子謂二子夏一曰。女爲二君子儒一。無レ爲二小人儒一。

子游爲二武城宰一。子曰。女得レ人焉爾乎。曰。有二澹臺滅明者一。行不レ由レ徑。非二公事一。未三嘗至二於偃之室一也。○子曰。孟之反不レ伐。奔而殿。將レ入レ門。策二其馬一曰。非二敢後一也。馬不レ進也。○子曰。不レ有二祝鮀之佞一。而有二宋朝

(一)子游(二)武城の宰と爲る。子曰く、(三)女人を得たるか。曰く、(四)澹臺滅明なる者有り。行くに(五)徑に由らず。公事に非ざれば、未だ嘗て偃の室に至らざるなり。○子曰く、(六)孟之反(七)伐らず。(八)奔りて(九)殿す。將に門に入らんとするや、(一〇)其馬に策ちて曰く、敢て後るゝにあらざるなり、馬進まざればなり。○子曰く、(一一)祝鮀の佞(一二)あらずして、(一三)宋朝の美あらば、難いかな今の世(一四)に免るゝこと。○子曰く、誰(一五)れか能く出づるに戸に由らざらん。何ぞ斯の道に由る莫なや。○子曰く、(一六)質、文に勝てば、野、(一七)文、質に勝ては史、(一八)(一九)文質彬彬として、然る後に君子なり。○子曰く、(二〇)人の生るゝや直し。之れを罔ひて生くるや、幸にして免るゝなり。○子曰く、(二一)之れを知る者は、之れを好む者に如かず。(二二)之れを好む者は、之れを樂む者に(二三)

矣。○季康子問、仲由可使從政也與。子曰、由也果。於從政乎何有。曰、賜也可使從政也與。曰、賜也達。於從政乎何有。曰、求也可使從政也與。曰、求也藝。於從政乎何有。○季氏使閔子騫爲費宰。閔子騫曰。善爲我辭焉。如有復我者。則吾必在汶上矣。○伯牛有疾。子

門人にして孔子の爲に齊國に使するなり　（一〇）孔子の門人にして孔子の爲めに其の金穀の出納を掌れるものなり　（一一）一釜は六斗四升なり　（一二）增加　（一三）一庾は一石六斗　（一四）一秉は十六石　（一五）孔子の弟子子華の名なり　（一六）其の富めるをいふ、輕裘は輕き毛衣なり　（一七）貧にして窮迫せるを補ふ　（一八）餘りある上に附け足す事なし　（一九）孔子魯國の司寇となり原思を以て家宰となせり、孔子其の俸給として粟九百斗を與ふ、原思之を辭したれば辭する勿れ之れを汝の鄕里の貧人に與へよと云へるなり　（二〇）五家を隣となし廿五家を里となし一萬二千五百家を鄕となし五百家を黨となす　（二一）孔子　（二二）孔子の弟子雍の字　（二三）雜色の牛　（二四）赤色なり周人赤を尙ぶ故に牲に騂を用ふ　（二五）山川の神をいふ　（二六）章指、孔子顏回を呼びて告げて曰く人其の心三月仁に違はずば其の餘の事は短日月を以て自ら至るべしとの意　（二七）孔子の弟子子路の姓名　（二八）大夫と爲るをいふ　（二九）決斷あるをいふ　（三〇）孔子の弟子、子貢の名　（三一）事理に通ずるなり　（三二）才能多きなり　（三三）以上凡て事の容易にして餘裕あるをいふなり　（三四）孔子の弟子名は損　（三五）季氏の邑　（三六）季氏の邑宰たるを欲せず故に使者に託して辭せしむ　（三七）重ねて來りて我を召すあらば　（三八）汶は水の名にして齊の南魯の北境上にあり　（三九）孔子の弟子冉耕なり　（四〇）孔子　（四一）南まどをいふ　（四二）かゝる疾を招くべき道無き筈なるにとの意、或は所謂助かるまじあはれ天命よとの歎とも見るを得ん　（四三）顏回は亞聖と稱せられ、道を樂むこと深く義を行ふこと篤し　（四四）簞は竹にて造りたる器、食は飯なり　（四五）ひさごなり　（四六）きたなき町　（四七）孔子の弟子　（四八）孔子　（四九）音エツにして義は悅ぶなり　（五〇）力足らざるものは進まんと欲して進む能はざるものなり　（五一）汝なり　（五二）地に境界を立てて以て自ら限るが如し　（五三）儒は學者、蓋し君子の儒とは内に自ら養ひて道に專念なる者、小人の儒とは人の爲めにする賣名者流なり、子夏は孔門中の文學者を以て稱せらる故に孔子特に此戒あり

曰。與二之庾一。冉子與二之粟五秉一。子曰。赤之適レ齊也。乘二肥馬一。衣二輕裘一。吾聞レ之也。君子周レ急不レ繼レ富。原思爲二之宰一。與二之粟九百一。辭。子曰。毋。以與二爾鄰里鄕黨一乎。○子謂二仲弓一曰。犂牛之子騂且角。雖レ欲レ勿レ用。山川其舍レ諸。○子曰。回也。其心三月不レ違レ仁。其餘則日月至焉而已

か。曰く、賜や達なり、政に從ふに於て何か有らん。曰く、求や政に從はしむべきか。曰く、求や藝あり、政に從ふに於て何か有らん。○季氏閔子騫をして費の宰たらしむ。閔子騫曰く、善く我が爲めに辭せよ。如し我を復する者有らば、則ち吾は必ず汶の上に在らん。○伯牛疾あり、子之れを問ふ、牖より其手を執り、曰く、之れ亡し、命なるかな、斯の人にして、斯の疾あり、斯の人にして、斯の疾ありと。○子曰く、賢なるかな回や、一簞の食、一瓢の飲、陋巷に在り、人は其の憂に堪へず、回や、其の樂を改めず、賢なるかな回や。○冉求曰く、子の道を說ばざるにあらず、力足らざるなり。子曰く、力足らざるものは、中道にして廢す、今女は畫れり。○子子夏に謂つて曰く、女君子の儒と爲れ、小人の儒と爲る無かれ。

㊀ 雍は孔子の弟子姓は冉、字は仲弓 ㊁ 人君政治を聽くの位をいふ ㊂ 雍の字 ㊃ 魯人 ㊄ 僅かに可にして未だ盡さざるの意卽ちまあよしの義 ㊅ 自ら處するに敬を以てし自ら身を持すること嚴にして而して簡を行ひ以て下人民に臨まば ㊆ 魯國の君 ㊇ 孔子の最高弟なり、顏回は今は死して世にあらずとの歎 ㊈ 孔子の

子。子曰。可也。簡。仲弓曰。居レ敬而行レ簡。以臨二其民一。不二亦可一乎。居レ簡而行レ簡。無二乃大簡一乎。子曰。雍之言然。○哀公問。弟子孰爲レ好レ學。孔子對曰。有二顏回者一。好レ學。不レ遷レ怒。不レ貳レ過。不幸短命死矣。今也則亡。未レ聞二好レ學者一也。○子華。使二於齊一。冉子爲二其母一請レ粟。子曰。與二之釜一。請レ益。

や、簡に居て簡を行ふは、乃ち大簡なる無からんか。子曰く、雍の言然り。○(七)哀公問ふ。弟子孰か學を好むと爲す。孔子對へて曰く、(八)顏回といふ者あり、學を好んで、怒を遷さず、過を貳せず。不幸短命にして死せり。今や則ち亡し未だ學を好む者を聞かざるなり。○(九)子華齊に使す、(一〇)冉子其母の爲めに粟を請ふ。子曰く、之れに(一一)釜を與へよ。(一二)益を請ふ。曰く、之れに(一三)庾を與へよ。冉子之れに粟(一四)五秉を與ふ。子曰く、(一五)赤の齊に適くや、(一六)肥馬に乗り、輕裘を衣る、吾之れを聞く、(一七)君子は急に周して(一八)富めるに繼がずと。(一九)原思之れが宰となる、之れに粟九百を與ふ。辭す。子曰く、毋れ、(二〇)以て爾が鄰里鄕黨に與へんか。○(二一)(二二)子仲弓を謂ふ。曰く、(二三)犂牛の子も、(二四)騂くして且つ角あらば、用ふる勿らんと欲すと雖も、(二五)山川其れ諸を舍てんや。○子曰く、(二六)回や、其心三月仁に違はずんば、其餘は則ち日月に至らん而已矣。○季康子問ふ、(二七)仲由(二八)政に從はしむ可きか。子曰く、(二九)由や果なり、政に從ふに於て何か有らん。曰く、(三〇)賜や政に從はしむ可き

孰謂二微生高直一。或乞レ醯焉。乞二諸其鄰一而與レ之。○子曰。巧言令色。足恭。左丘明恥レ之。丘亦恥レ之。匿レ怨而友二其人一。左丘明恥レ之。丘亦恥レ之。○顔淵季路侍。子曰。盍二各言一レ爾志一。子路曰。願車馬衣輕裘。與二朋友一共。敝レ之而無レ憾。顔淵曰。願無レ伐レ善。無レ施レ勞。子路曰。願聞二子之志一。子曰。老者安レ之。朋友信レ之。少者懷レ之。○子曰。已矣乎。吾未レ見下能見二其過一而內自訟者上也○子曰。十室之邑。必有二忠信如レ丘者一焉。不レ如二丘之好一レ學也。

ものを隣家より乞ひて己有するが如くにして與へたりと也 (三八) 章指、お世辭上手にうはべの恭を飾りてぺこ〳〵する事や又怨あるにも係らず之を心の内に匿して其の人に深く交はるなどは皆君子の心より恥づる所なり (三九) 足は過ぐるなり (四〇) 魯の大史。左傳の著者とは全く別人也といふ (四一) 孔子の名 (四二) 盍は何不の略 (四三) 衣は衣服、裘は皮服。一説輕の字を衍とす (四四) 壞なり (四五) 憾むなり (四六) 勞は勞事なり勞事を人に及ぼす事なからんと也 (四七) 老者は之れを養ふに安を以てす (四八) 少者は之れを懐くるに恩を以てす (四九) このまゝ斯うして見ずじまひになる事かとの歎聲也 (五〇) 口に言はずして深く心の内に咎むるなり (五一) 小邑なり、十室といへるは忠信の人得易きをいふ (五二) 孔子の名

子曰。雍也可レ使二南面一。○仲弓問二子桑伯

雍也第六

子曰く、(一)雍や(二)南面せしむべし。○(三)仲弓(四)子桑伯子を問ふ、子曰く、(五)可なり、簡なればなり。仲弓曰く、(六)敬に居て簡を行ひ、以て其の民に臨まば、亦可ならず

清矣。曰。仁矣乎。曰。未知。焉得仁。○季文子三思而後行。子聞之曰。再斯可矣。○子曰。甯武子邦有道則知。邦無道則愚。其知可及也。其愚不可及也。○子在陳曰。歸與歸與。吾黨之小子。狂簡斐然成章。不知所以裁之。○子曰。伯夷叔齊不念舊惡。怨是用希。○子曰。

信丘の如き者あらん、丘の學を好むに如かざるなり。

（五二）

(一) 章指、子路は必行に勇にして師に聞く所必ず之を實行せんことを期す、故に前に聞く所未だ行ふ能はざるに又聞くことあらんを恐るゝなり (二) 章指、子貢は孔文子の文といふ諡の高大に過ぐるを疑ひ此の問を發せるなり、孔子之に對して、孔文子は性敏にして學問を好み下輩に問ふを恥とせざる德あるを以て文と諡せるなりと答へたるなり (三) 衞の大夫孔圉なり (四) 子産は鄭の大夫公孫僑なり (五) 謙遜なり (六) 民を愛し利するをいふ (七) 條理あり (八) 齊の大夫にして名は嬰 (九) 魯大夫臧孫辰なり (一〇) 大龜なり居くは藏するの意 (一一) 柱頭に刻む升形なり (一二) 柱に藻の形を畫くなり、二者は共に天子宗廟の飾なり (一三) 知者 (一四) 孔子の弟子 (一五) 令尹は官名にして楚の上卿政を執るものなり (一六) 子文姓は鬭名は穀 (一七) 怨めるなり (一八) 齊の大夫崔杼亂をなし齊君莊公を弑す (一九) 之れ亦齊の大夫なり (二〇) 車一乘は馬四匹なり故に十乘は四十匹なり (二一) 去るなり (二二) 文子其の身を潔くして亂を去る清しといふべし (二三) 魯の大夫名は行父。蓋し世人の季文子が熟慮過寡きを稱揚するを聞き、熟慮にも程度があり、事々に三思するにも及ばじと言へるならん、三といひ再といふ、正數として拘はるべからず、要は其熟慮の程合ひのみ (二四) 章指、國治まり道行はるゝときには知者たり、道行はれざる時には愚者と稱せらる、其知は人の企て及ぶべきこととなるも其の愚は他人の企て及び難き事也 (二五) 甯は寗に同じ甯武子は衞大夫名は兪なり (二六) 章指、此れ孔子四方を周流し道行はれずして歸るを思ふの歎なり (二七) 門人の魯にあるものを指していふ (二八) 志大にして事に疎略なり (二九) 文の貌 (三〇) 其の文理、成就して觀るべきもの有るをいふ (三一) 孤竹の二子なり (三二) 二子心清し而も人の舊惡を念はざるの量あり (三三) 稀なりに通用す (三四) 微生は姓、高は名、魯の人なり (三五) 正直 (三六) 醋なり (三七) 或人の乞ひに應じて己の家になき

○子張問曰。令尹子文。三仕爲二令尹一無二喜色一。三已レ之無二慍色一。舊令尹之政。必以告二新令尹一。何如。子曰。忠矣。曰。仁矣乎。曰。未レ知。焉得レ仁。崔子弑二齊君一。陳文子有二馬十乘一。棄而違レ之。至二於他邦一。則曰。猶二吾大夫崔子一也。違レ之。之二一邦一。則又曰。猶二吾大夫崔子一也。違レ之。何如。子曰。

り。○子(二四)曰く、(二五)甯武子、邦道有れば則ち知、邦道無ければ則ち愚、其知は及ぶ可きなり、其愚は及ぶ可からざるなり。○子(二六)陳に在り、曰く、歸らんか歸らんか、(二七)吾黨の小子、(二八)狂簡(二九)斐然として(三〇)章を成す、之れを裁する所以を知らず。○子曰く、(三一)伯夷叔齊は、(三二)舊惡を念はず、怨是を用つて希なり。(三三)○子曰く、孰れか(三四)微生高を直し(三五)と謂ふ。或ひと(三六)醯を乞ふ、(三七)諸を其の鄰に乞ひて之れを與ふ。○子曰く、巧言令色(三八)足恭(三九)する、(四〇)左丘明之れを恥づ、(四一)丘も亦之れを恥づ、怨を匿して其人を友とするは左丘明之れを恥づ、丘も亦之れを恥づ。○顏淵・季路侍す。子曰く、(四二)盍ぞ各〻爾の志を言はざる。子路曰く、願はくは車馬(四三)衣輕裘、朋友と共に之れを敝りて(四四)、憾む(四五)無けん。顏淵曰く、願はくは善に伐る無く、(四六)勞を施す無けん。子路曰く、願はくは子の志を聞かん。子曰く、老者之れを安んじ(四七)朋友之れを信じ、少者は之れを懷(四八)かしめん。○子曰く、(四九)已ぬるかな、吾未だ能く其過(五〇)を見て内に自ら訟むる者を見ざるなり。○子曰く、(五一)十室の邑、必ず忠

之能レ行。唯恐レ有レ聞。○子貢問曰。孔文子何以謂二之文一也。子曰。敏而好レ學。不レ恥二下問一。是以謂二之文一也。○子謂二子產一。有二君子之道四一焉。其行レ己也恭。其事レ上也敬。其養レ民也惠。其使レ民也義。○子曰。晏平仲善與レ人交。久而敬レ之。○子曰。臧文仲居レ蔡。山レ節藻レ梲。何如其知也。

子貢問ふ、曰く、孔文子何を以て之れを文と謂ふ、子曰く、敏にして學を好み下問を恥ぢず、是れを以て之れを文と謂ふなり。○子子產を謂ふ、君子の道四有り、其の己を行ふや恭、其の上に事ふるや敬、其の民を養ふや惠、其の民を使ふや義と。○子曰く、晏平仲善く人と交はる、久しくして之れを敬す。○子曰く、臧文仲蔡を居く、節を山にし梲を藻にす、何如ぞ其れ知ならん。○子張問ふ。曰く、令尹子文、三たび仕へて令尹と爲り、喜色なし、三たび之れを已められて慍る色なし、舊令尹の政は、必ず以て新令尹に告ぐ、何如。子曰く、忠なり。曰く、仁なるか。曰く、未だ知らず。焉んぞ仁を得ん。崔子齊君を弑す。陳文子馬十乘あり、棄てて之れを去る。他邦に至れば則ち曰く、猶ほ吾が大夫崔子のごときなりと。之れを違る。一邦に之きては則ち又曰く、猶ほ吾が大夫崔子の如きなりと。之れを違る。何如。子曰く、淸し。曰く、仁なるか。曰く、未だ知らず。焉んぞ仁なるを得ん。○季文子三思して而る後に行ふ。子之れを聞きて曰く、再せば斯に可な

孰愈。對曰。賜也何敢望回。回也聞一以十。賜也聞一以知二。子曰。弗如也。吾與女弗如也。○宰予晝寢。子曰。朽木不可雕也。糞土之牆不可杇也。於予與何誅。子曰。始吾於人也。聽其言而信其行。今吾於人也。聽其言而觀其行。於予與改是。○子曰。吾未見剛者。或對曰。申棖。子曰。棖也慾。焉得剛○子貢曰。我不欲人之加諸我也。吾亦欲無加諸人。子曰。賜也。非爾所及也○子貢曰。夫子之文章。可得而聞也。夫子之言性與天道。不可得而聞也。

を作る材木を得る能はずとの意か (二八) 蓋し仁道は至大、三子才德優れたれども未だ固より仁の全德を以て許す能はず。故に知らざるを以て答ふ (二九) 諸侯のこと (三〇) 軍政 (三一) 孔子の弟子冉求のこと (三二) 千室の邑は卿の邑をいふ、大夫には家と稱す (三三) 家臣なり (三四) 孔子の弟子公西赤なり、容儀あるを以て朝に立ちて賓客に應對せしむべしといふ (三五) 孔子 (三六) 孔子の弟子 (三七) 汝なり (三八) 勝なり (三九) 子貢の名なり (四〇) 孔子も子貢と共に顏回には及ばずとなり、此訓古注による、朱註には與は許也と解し、吾女の如かざるをゆるすと訓ず (四一) 孔子の弟子宰我なり (四二) その昏惰若しくは淫蕩を深く咎めたる也 (四三) 彫琢刻畫なり (四四) こてなり、朽木、糞土の二者は如何に教養を加ふるも遂に成らざるに喩ふ (四五) 宰予は言葉立派にて行及ばず、故にこの言ある也 (四六) 孔子の弟子の姓名 (四七) 蓋し情慾をいふ也 (四八) 己れの加へらるゝを欲せざるところをば人にも施さざらんと也 (四九) これ即ち忠恕の眞精神なり仲々汝の及ぶ所に非ず努勉せよと勵ますなるべし (五〇) 孔子は躬行を尊びて容易に道理を語らず故に子貢此の歎ありしなり (五一) 文章は德の外に見はるゝ者即ち威儀文辭皆是れなり (五二) 性は人の受くる所の天理、天道とは天理自然の本體なり、而して性と天道とは其實一なり

子路有聞。未

(二)子路聞くことありて、未だ之れを行ふ能はずんば、唯聞くことあるを恐る。○

所レ取レ材。○孟武伯問。子路仁乎。子曰。不レ知也。又問。子曰。由也千乘之國。可レ使レ治二其賦一也。不レ知二其仁一也。求也何如。子曰。求也千室之邑。百乘之家。可レ使レ爲二之宰一也。不レ知二其仁一也。赤也何如。子曰。赤也束帶立二於朝一。可レ使下與二賓客一言上也。不レ知二其仁一也。○子謂二子貢一曰。女與二回也一

是れを改む。○子曰く、吾れ未だ剛者を見ず、或ひと對へて曰く、申棖(四六)と。子曰く、棖や慾(四七)あり、焉んぞ剛を得ん。○子貢(四八)曰く、我れ人の諸を我れに加ふるを欲せざるや、吾れ亦諸を人に加ふる無からんを欲す。子曰く、賜や、爾(四九)が及ぶ所にあらざるなり。○子貢(五〇)曰く、夫子の文章(五一)は、得て聞く可きなり、夫子の性(五二)と天道とを言ふは、得て聞くべからず。

(一) 孔子 (二) 孔子の弟子にして姓は公冶、名は長なり (三) 縲は黑なはなり絏はつなぐなり古へは黑索を以て罪人をつなぐ故に罪人たりともの意 (四) 孔子 (五) 孔子の弟子 (六) 言必ず用ひらるとなり (七) 罪によりて刑罰にあふ如き事なしとなり (八) 孔子 (九) 孔子の弟子宓不齊、賤は君子人なる哉若し魯國に君子人なくんば、子賤いかでか學んで斯る君子たるを得んや (一〇) 子賤のこと (一一) 此の德との意 (一二) 孔子の弟子 (一三) 子貢は姓は端木、名は賜といふ (一四) 用ある成材にして所謂うつはなり (一五) 夏の代にては瑚といひ殷の代にては璉といふ皆宗廟に於きて黍稷を盛る重器なり故に子貢は堂々廟堂に立つべき器なるをいふなり (一六) 或人雍は仁者なれども口才なきを遺憾とすと言へるに對し、孔子は口才を以て人と應對するものは屢人に怨まれ仁者たる能はず、何ぞ口辯を要せんやと答へたるなり (一七) 孔子の弟子なり (一八) 口才なり (一九) 當るなり猶は應答といふ如き意 (二〇) 孔子 (二一) 孔子の弟子 (二二) 前の仕の字を承けていふ、仕進の道に所信なしと也 (二三) 孔子 (二四) 道に志すの篤實をよみするなり (二五) 竹木を編みて造る (二六) 孔子の高弟子路の名なり (二七) 海に浮ぶ程の桴

○子貢問曰。賜也何如。子曰。女器也。曰。何器也。曰。瑚璉也。○或曰。雍也。仁而不佞。子曰。焉用佞。禦人以口給。屢憎於人。不知其仁。焉用佞。○子使漆雕開仕。對曰。吾斯之未能信。子說。○子曰。道不行。乘桴浮于海。從我者。其由與。子路聞之喜。子曰。由也好勇過我。無

說ぶ。○子曰く、道行はれず、桴に乘りて海に浮ばん、我に從ふ者は其れ由なるか。子路之れを聞きて喜ぶ。子曰く、由や勇を好むこと我に過ぎたり、材を取る所なしと。○孟武伯問ふ、子路仁なるか。子曰く、知らざるなり。又問ふ。子曰く、由や千乘の國、其賦を治めしむべきなり、其仁を知らざるなりと。求や何如。子曰く、求や千室の邑、百乘の家、之れが宰たらしむべきなり。其仁を知らざるなり。赤や何如。子曰く、赤や束帶して朝に立ち、賓客と言はしむべきなり、其仁を知らざるなり。○子子貢に謂つて曰く、女と回と孰れか愈れる。對へて曰く、賜や、何ぞ敢て回を望まん。回や、一を聞きて以て十を知り、賜や一を聞きて以て二を知る。子曰く、如ざるなり、吾れ女と如ざるなり。○宰予晝寢す。子曰く、朽木は雕る可からざるなり、糞土の牆は杇る可からざるなり、予に於てか何ぞ誅めん。子曰く、始め吾れ人に於けるや、其言を聽きて、其行を信ぜり、今吾れ人に於てや、其言を聽きて、其行を觀る、予に於てか

子謂二公冶長一可レ妻也。雖レ在二縲紲之中一。非二其罪一也。以二其子一妻レ之。子謂二南容。邦有レ道不レ廢。邦無レ道免二於刑戮一。以二其兄之子一妻レ之。○子謂二子賤。君子哉。若人。魯無二君子者一。斯焉取レ斯。

巻之三

公冶長第五

子(一)(二)公冶長を謂ふ。妻はす可きなり、縲紲(三)の中に在りと雖も、其罪に非ざるなりと。其子を以て之れに妻はす。子南容(四)(五)を謂ふ。邦道あれば廢(六)てられず、邦道無きも刑戮(七)を免ると。其兄の子を以て之れに妻はす。○子子賤(八)(九)を謂ふ、君子なるかな、若き人、魯に君子なる者無くば、斯れ(一〇)焉んぞ斯れ(一一)を取らんと。○子貢(一二)問うて曰く、賜(一三)や何如。子曰く、女は器(一四)なり。曰く、何の器ぞ。曰く、瑚璉(一五)なり。○或(一六)ひと曰く、雍(一七)や仁なれども佞(一八)ならずと。子曰く、焉んぞ佞を用ひん、人に禦(一九)るに口給を以てすれば、屢〻人に憎まる、其仁を知らず、焉んぞ佞を用ひん。○子漆彫開(二〇)(二一)をして仕へしむ。對へて曰く、吾(二二)れ斯れを之れ未だ信ずる能はずと。○子(二三)

之不レ逮也。○子曰以レ約失レ之者鮮矣。（子曰。君子欲下訥ニ於言一。而敏中於行上。○子曰。德不レ孤必有レ鄰。○子游曰。事レ君數斯辱矣。朋友數斯疏矣。

あるが如しと也 （二七） 君の寵を恃みて數々相見ゆる時は遂に狎れて辱を受くるに至り、朋友の親を恃みて數々相見る時は狎れて遂に疎んぜられんとの意、或は數々諫めて容れられず去るべくして去らざれば辱しめらるの義と解するも亦通ず

小子喩二於利一。○子曰。見レ賢思レ齊焉。見二不賢一而内自省也。○子曰。事二父母一幾諫。見二志不一レ從。又敬不レ違。勞而不レ怨。○子曰。父母在。不二遠遊一。遊必有レ方。○子曰。三年無レ改二於父之道一。可レ謂レ孝矣。○子曰。父母之年。不レ可レ不レ知也。一則以喜。一則以懼。○子曰。古者言之不レ出。恥二躬

德(二五)孤ならず、必ず鄰(二六)有り。○子游曰く、君(二七)に事へて數〻すれば、斯に辱めらる、朋友に數〻すれば、斯に疏ぜらる。

(一) 章指、上、德を以て國を治むれば人民其の土に安んじ、上、刑法を以て國を治むれば人民は只恩惠を得んことを望む。或は德の上より見たる君子小人の心的狀態を比較せるものと解するも亦通ず (二) 懷は思念するなり (三) 故は依るなり、己を利するを主とすれば必ず人の怨を受く (四) 章指、讓は禮の實質なり故に讓なき禮は虛禮なり されば禮讓を以て國を治むれば何の困難もなくよく治る也 (五) 其の位に立つ所以の者即ち我が心の德をいふ (六) 以て知るべきの實即ち亦心の德也 (七) 曾子の名を呼びて之れを告ぐなり (八) 忠は眞心なり恕は同情心なりさて孔子の道は仁なり仁は愛他本能の發達して高遠の德となれるもの、其あらはるゝ所は即ち忠なり恕なり、之に達する所以の途亦忠恕のみ、故に謂ふ (九) 章指、君子は義を見るに敏にして小人は利を見るに敏なり、故に君子は義に於て小人は利に於て深くさとる也 (一〇) 天理の宜しき所 (一一) 利は人情欲する所のもの (一二) 章指、君子の心をいふ賢者不賢者皆以て吾に師たるべし (一三) 幾諫は氣を下し色を和げて諫むるなり (一四) 父母に我言を用ひざらんとするの志向あるを見ては (一五) 已に東にゆくといへば則ち更に改めて西にゆかざるが如きをいふ (一六) この章已に首篇に出づ、蓋し重出して其半を逸せる也 (一七) 父母の壽を見ては則ち喜び、其衰を見ては懼るゝ也 (一八) 古への人 (一九) 躬の行ひなり (二〇) 及ばざるを恥づ (二一) 凡てつゝましやかに引きしむるものは失なし。一說約は困約の義 (二二) 章指、行を先きにして言を後にすべきをいふ也 (二三) 遲鈍 (二四) 早くて正しく詳かなること (二五) 章指、德あれば必ず同類相聚り同志相求めて孤獨ならず同朋あるなり (二六) 相親しむこと向は居の鄰

人懐レ恵。○子曰。放二於利一而行多レ怨。○子曰。能以二禮讓一爲レ國乎。何有。不レ能下以二禮讓一爲中國上如レ禮何。○子曰。不レ患レ無レ位。患二所三以立一。不レ患レ莫二己知一。求レ爲レ可レ知也。○子曰。參乎。吾一道以貫レ之。曾子曰。唯。子出門人問曰。何謂也。曾子曰。夫子之道。忠恕而已矣。○子曰。君子喩二於義一。

て國を爲めんか、何か有らん、禮讓を以て國を爲むること能はざれば、禮を如何せん。○子曰く、位なきを患へず、（五）立つ所以を患ふ、己を知る莫きを患へず、（六）知らる可きを爲すを求むるなり。○子曰く、參か、（七）吾が道は一以て之れを貫く。曾子曰く、唯。子出づ。門人問ふ、曰く何の謂ひぞや。曾子曰く、夫子の道は、（八）忠恕のみ。○子曰く、（九）君子は（一〇）義に喩り、小人は（一一）利に喩る。○子曰く、（一二）賢を見ては齊しからんことを思ひ、不賢を見ては内に自ら省るなり。○子曰く、父母に事ふるには（一三）幾諫す、（一四）志の從はざるを見ては、又敬して違はず、勞して怨みず。○子曰く、父母在せば、遠く游ばず、游べば必ず（一五）方有り。○子曰く、（一六）三年父の道を改むるなき、孝と謂ふ可し。○子曰く、父母の年は、知らざる可からざるなり、（一七）一は則ち以て喜び、一は則ち以て懼る。○子曰く、（一八）古者言の出さざるは、（一九）躬の（二〇）逮ばざるを恥づればなり。○子曰く、（二一）約を以て之れを失ふ者鮮し。○子曰く、（二二）君子は（二三）言に訥にして（二四）行に敏ならんことを欲す。○子曰く、

乎。我未レ見二力不レ足者一。蓋有レ之矣。我未二之見一也。○子曰。人之過也。各於二其黨一。觀レ過斯知レ仁矣。○子曰。朝聞レ道夕死可矣。○子曰。士志二於道一。而恥二惡衣惡食一者。未レ足二與議一也。○子曰。君子於二天下一也。無レ適也。無レ莫也。義之與比。

得ざるなり仁にして貧賤なる亦然り　一〇　いかで其名を成さんや　一一　急遽苟且の時をいふ　一二　傾覆流離の際なり　一三　章指は仁を好む者は人格高く德性至る復た之れに加へ難し不仁を惡む者は稍々劣るも不仁なる者をして吾身に加へしめざる故惡に犯さるゝことなく矢張仁を爲すを得、人仁を爲さんと欲すれば決して難きことなし力の足らずといふ事はなし唯人の能く一日だも力を仁に用ひざる故仁に至らざるなり世間には或はこの種の人もあらんされど吾は未だ之れを知らず　一四　加ふる意　一五　人は下位に在る小人なり。人の字一に民に作る　一六　黨は類なり。章指、民の過につきては各其の類に隨つて責め備はることを一人に求めず賢愚各々其所に當らしむるを仁と爲す　一七　章指、人、道を知らずんば以て生きて順なる能はず死して安きを得ず苟も道を聞くを得ば直ちに死すとも遺憾なしとにて道の知らざる可からざるを切言する也、而してその所謂道につきては諸說紛々として底止する所を知らず或は事物當然の理といひ、或は先王の道といふ、要するに人の踏むべき人倫當行の道也　一八　世の士君子たるものにて苟も道に志しながらその心が衣食の如き外物に役せらるゝものは何ぞ與に議るに足らんや　一九　主の意、主より親の義となる　二〇　定の義、定より疎の義となる　二一　從ふの義なり。章指、君子は天下の物に於て自己の成見を以て親疎厚薄をなすことなく一に義の在るところに從ふと也

子曰。君子懷レ德。小人懷レ土。君子懷レ刑。小

子曰く、君子(一)は徳を懐へば(二)、小人は土を懐ひ、君子は刑を懐へば、小人は恵を懐ふ。○子曰く、利に放りて(三)行へば、怨み多し。○子曰く、能く(四)禮讓を以

以二其道一得レ之。不レ處也。貧與レ賤。是人之所レ惡也。不下以二其道一得上レ之。不レ去也。君子去レ仁惡乎成レ名。君子無三終レ食之間違二レ仁。造次必於レ是。顚沛必於レ是。○子曰。我未レ見下好レ仁者。惡二不仁一者上。好レ仁者。無三以尙レ之。惡二不仁一者。其爲レ仁矣。不レ使三不仁者加二乎其身一。有三能一日用二其力於仁一矣

者も、其れ仁たり、不仁者をして其身に加へしめざればなり、能く一日其力を仁に用ふる有らんか、我未だ力の足らざる者を見ず、蓋し之れ有らん、我未だ之れを見ざるなり。○子曰く、(一五)人の過や、各〻其黨(一六)に於てす、過を觀れば斯に仁を知る。○子曰く、(一七)朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり。○子曰く、士道(一八)に志して、惡衣惡食を恥づる者は、未だ與に議るに足らざるなり。○子曰く、君子の天下に於けるや、適(一九)なきなり、莫(二〇)なきなり、義之れと與に比(二一)ふ。

(一) 仁とは慈愛の德、里は居なり、仁に心を置くは大によきことなり、若し精神を何れかに安居せしめんとして而も遂に仁を擇ばざるものあらば何んぞ知ありといふを得んやと也 (二) 不仁者は永く貧困に處るを得ず何となれば必ずや困難の余り非を行ふに至るべければなり又之れと反對に不仁者は久しく富貴に處るを得ざるものなり而して仁者は安心して外に動かず仁を守るものなり知者は仁を以て身を利せんとしてよく仁を守るものなり (三) 窮困なり (四) 富貴なりガクと訓ずれば音樂の意となる (五) 利として行ふの意、或は貪る意とす (六) 仁者は位を得れば賢を擧げ不賢を去る卽ち好惡一に德と不德とによる (七) 人が假りそめにも仁に志さば假令過失はありとも惡をなすことなし。苟は誠の意 (八) 志すとは心の之くをいふ (九) 仁なれば當に富貴なるべく不仁なれば當に貧賤なるべし是れ理の當然のみ然れども人事往々理のまゝならず仁未だ至らざるに富貴を得るあり君子は之れに處らず仁にして反りて貧賤なるあり君子は之れに居りて疑はずと也。蓋し仁至らずして富貴なるは是れ其の道を以て之れを

也。○子曰。居レ上不レ寬。爲レ禮不レ敬。臨レ喪不レ哀。吾何以觀レ之哉。

子曰。里レ仁爲レ美。擇不レ處レ仁。焉得レ知。○子曰。不仁者不レ可三以久處二約。不レ可三以長處二樂。仁者安レ仁。知者利レ仁。○子曰。唯仁者。能好レ人。能惡レ人。○子曰。苟志二於仁一矣。無レ惡也。○子曰。富與レ貴。是人之所レ欲也。不下

里仁第四

子曰く、仁に里るを美と爲す、擇んで仁に處らざれば、焉んぞ知たるを得ん。○子曰く、不仁者は以て久しく約に處る可からず、以て長く樂に處る可からず、仁者は仁に安んじ、知者は仁を利す。○子曰く、唯仁者は能く人を好み、能く人を惡む。○子曰く、苟も仁に志さば惡なきなり。○子曰く、富と貴とは、是れ人の欲する所なり、其の道を以て之れを得ざれば、處らざるなり。貧と賤とは、是れ人の惡む所なり、其の道を以て之れを得ざれば、去らざるなり。君子は仁を去りて惡くにか名を成さん、君子は食を終ふるの間も仁に違ふことなし、造次にも必ず是に於てし、顚沛にも必ず是に於てす。○子曰く、我未だ仁を好む者、不仁を惡む者を見ず、仁を好む者、以て之れに尙ふるなし、不仁を惡む

曰。管氏有二三歸一。官事不レ攝。焉得レ儉。然則管仲知レ禮乎。曰。邦君樹塞レ門。管氏亦樹塞門。邦君爲二兩君之好一。有二反坫一。管氏亦有二反坫一。管氏而知レ禮。孰不レ知レ禮。〇子語二魯大師樂一曰。樂其可レ知也。始作翕如也。從レ之純如也。皦如也。繹如也。以成。〇儀封人請レ見。曰。君子之至二於斯一也。吾未二嘗不一レ得レ見也。從者見レ之。出曰。二三子何患二於喪一乎。天下之無レ道也久矣。天將下以二夫子一爲中木鐸上。〇子謂レ韶。盡レ美矣。又盡レ善也。謂レ武盡レ美矣。未レ盡レ善

んば、吾れ何を以て之れを觀んや。(二七)

(一) 射のときは的の皮を射貫くことはせず當りさへすればよし (二) 力に上中下の三ありて科を同じくせざるが爲めである (三) 諸侯が牲羊を供へて曆を宗廟に告知するの禮なり (四) 魯にては文公に至りて此禮衰へ牲羊のみを供することとなり居れり故に此論ありしなり (五) 賜は子貢の名なり (六) 魯君なり (七) 關雎は詩經周南國風首篇にある詩、其辭の哀樂其中を得たるをいふ (八) 社は夏殷周三代に於ける土地の神なり、都の土地に稱く適ふ木を植ゑて神を祭れり (九) 宰我は孔子の弟子 (一〇) 周人の栗を用ひしは、以て民を戰栗せしめんとの意に取ると也、附會の說に似たるも、蓋し以て風俗の振肅すべきを諷したる也、實は魯の哀公は君臣の分を正し大夫の專橫を處分せんとの意あり、宰我暗に其精神を助けすゝむるの考へにて言へるものか (一一) 一旦成したる事はもはや取返しつかずとの意を重言して、其の妄語を非り將來を戒めたる也 (一二) 三歸の歸は嫁なり三國より異姓の女を迎ふるをいふ、其他數說あり、管仲は大夫の身分なるにも係はらず三歸ありて國君の禮を僭す儉にあらざるなり (一三) 攝は兼ぬるなり (一四) 杯を置く臺なり (一五) 樂官の名 (一六) 宮商角徵羽の五音相合して盛なること (一七) 聲和して純一なること (一八) 曲節明らかにして亂れざること (一九) 餘音引きて絕えざること (二〇) 此の如くにして樂の一奏始めて成る (二一) 儀邑の封疆を掌どる官人なり (二二) 喪は位を失ひ流浪の身となること (二三) 孔子なり (二四) ふうりん也、中の振りが木にて作られ其音朗らかなり政敎を施す時に用ひて以て衆を戒しむるものなり (二五) 韶は舜の音樂、武は武王の音樂なり (二六) 上に居り君となりて寬容ならず (二七) 之れを見るを欲せずとて甚しく擯斥して言へるなり

定公問。君使臣。臣事君。如之何。孔子對曰。君使臣以禮。臣事君以忠。○子曰。關雎樂而不淫。哀而不傷。○哀公問社於宰我。宰我對曰。夏后氏以松。殷人以柏。周人以栗。曰。使民戰栗。子聞之曰。成事不說。遂事不諫。既往不咎。○子曰。管仲之器小哉。或曰。管仲儉乎。

以てし、殷人は柏を以てし、周人は栗を以てし、曰く、民をして戰栗せしむと。子之れを聞きて曰く、成事は說かず、遂事は諫めず、既往は咎めず。○子曰く、管仲の器は小なるかな。或ひと曰く、管仲は儉か。曰く、管氏三歸有り、官事は攝ねず、焉んぞ儉を得ん。然らば則ち管仲は禮を知れるか。曰く、邦君は樹して門を塞ぐ、管氏も亦樹して門を塞ぐ、邦君兩君の好を爲すに反坫有り、管氏亦反坫有り、管氏にして禮を知らば、孰か禮を知らざらん。○子魯の大師に樂を語りて曰く、樂は其れ知る可きなり。始め作す翕如たり。之れを從つ純如たり、皦如たり、繹如たり、以て成る。○儀の封人見えんと請ふ。曰く、君子の斯に至るや、吾れ未だ嘗て見ゆるを得ずんばあらずと。從者之れに見えしむ。出で曰く、二三子何ぞ喪を患へん、天下の道なきや久し、天將に夫子を以て木鐸と爲さんとすと。○子韶を謂ふ。美を盡し、又善を盡せり。武を謂ふ、美を盡し、未だ善を盡さざるなり。○子曰く、上に居て寬ならず、禮を爲して敬せず、喪に臨んで哀まず

曰。不レ知也。知ニ其說一者之於ニ天下一也。其如レ示ニ諸斯一乎。指ニ其掌一。○祭如レ在。祭レ神如ニ神在一。子曰。吾不レ與レ祭如レ不レ祭。○王孫賈問曰。與三其媚ニ於奧一。寧媚ニ於竈一。何謂也。子曰。不レ然。獲ニ罪於天一。無レ所レ禱也。○子曰。周監ニ於二代一。郁郁乎文哉。吾從レ周。○子入ニ大廟一。每レ事問。或曰。孰謂ニ鄹人之子知レ禮乎。入ニ大廟一。每レ事問。子聞レ之曰。是禮也。

と讀む　(三七)　自身祭典の事に與らざれば、祭りても祭らざる如し　(三八)　衞の大夫なり　(三九)　王孫賈は孔子を已れの手に入れんとて俗諺を引て奧なる殿樣に近づかんなりは寧ろ竈なる我に媚びよといへるか、問答は凡て祭に托して言へるが故に孔子は君といはずして天といへる也　(四〇)　夏殷の二代　(四一)　文の盛なる貌　(四二)　魯の周公の廟をいふ　(四三)　孔子のことなり、鄹は魯の邑名、孔子の父叔梁紇はかつて其の邑の大夫と爲る、孔子は幼より禮を知るを以て聞ゆ故に或人之れによりてその禮を知らざるをそしるなり

子曰。射不レ主ニ皮一。爲ニ力不レ同科一。古之道也。○子貢欲レ去ニ告朔之餼羊一。子曰。賜也爾愛ニ其羊一。我愛ニ其禮一。○子曰。事レ君盡レ禮。人以爲レ諂也。○

子曰く、射は皮を主とせず、力の科を同じうせざるが爲なり、古の道なり。○子貢告朔の餼羊を去らんと欲す。子曰く、賜や、爾は其羊を愛す、我は其禮を愛す。○子曰く、君に事ふるに禮を盡くせば、人以て諂ふと爲すなり。○定公問ふ、君臣を使ひ、臣君に事ふるは、之れを如何にすべき。孔子對へて曰く、君臣を使ふに禮を以てし、臣君に事ふるに忠を以てす。○子曰く、關雎は樂んで淫せず、哀んで傷せず。○哀公社を宰我に問ふ。宰我對へて曰く、夏后氏は松を

笑倩兮。美目盼兮。素以爲絢兮。何謂也。子曰。繪事後素。曰。禮後乎。子曰。起予者。商也。始可與言詩已矣。○子曰。夏禮吾能言之。杞不足徵也。殷禮吾能言之。宋不足徵也。文獻不足故也。足則吾能徵之矣。○子曰。禘自既灌而往者。吾不欲觀之矣。○或問禘之說。子

入つて、事毎に問ふ、或ひと曰く、孰か鄹人(四三)の子禮を知ると謂へる乎、大廟に入つて事毎に問ふと。子之れを聞きて曰く、是れ禮なり。

（一）魯の大夫季孫氏なり（二）評論して言ふ義なり（三）一列八人即ち六十四人にてやるは天子の音樂なり（四）忍ぶべからずとの意を強めていふ（五）三家とは孟孫、叔孫、季孫をいふ（六）周頌の篇名（七）祭の供物を取り下げるを徹といふ（八）諸侯（九）天子の容也（一〇）魯の大夫なる三家が無知妄作天子の禮を潜せるの罪を取るを識る也（一一）仁は禮樂の根本なり故にかくいはれたるなり、即ち人にして仁なくんば禮樂もその用を爲さずと也（一二）樂は禮樂の樂にて音ガク（一三）魯人なり（一四）禮は中を得るを貴ぶ、中を得ずとすれば、文飾に過ぎんよりは寧ろ消極的なるをよしとすと也（一五）易は具なり、よくそなはるとの意なり（一六）野蠻の國のことをいふ（一七）中國をいふ（一八）泰山は山名にして旅は祭の名なり季氏は陪臣にありながら泰山にて祭をなすは非禮なり（一九）泰山の神は林放に及ばないであらうか林放すら禮の本を問うた況んや泰山の神は非禮をうけざるは明らかである（二〇）若し爭ふ所ありとせば射であるか。射とは弓いることとなり（二一）揖讓して升るは大射のときの禮法なり（二二）孔子の弟子（二三）口元の美しきなり（二四）目の白黒が明らかなるなり（二五）繪は先づ色々に彩色し、後白色にて其間を分布す、即ち美質ありて飾るに禮を以てするに喩ふ（二六）發明するもの、商は子夏の名（二七）杞は國の名なり蓋し夏は殷に滅ぼされし後は杞として存せり（二八）證なり（二九）宋は殷の後なり（三〇）文は典籍、獻は賢者なり（三一）禘は王者の大祭（三二）灌はそゝぐなり鬱鬯の酒をそゝぎて神を降すなり（三三）昔の如くならざるを以て殆んど見るに足らず（三四）先王が本に報じ遠を追ふの意は禘の祭より深きはなし（三五）天下何事にても困難を感ずることなくして容易に事物を處すること物を掌中に置くが如くならん（三六）實くにておく

之本。子曰。大哉問。禮與其奢也。寧儉。喪與其易也。寧戚。○子曰。夷狄之有君。不如諸夏之亡也。○季氏旅於泰山。子謂冉有曰。女弗能救與。對曰。不能。子曰。嗚呼。曾謂泰山不如林放乎。○子曰。君子無所爭。必也射乎。揖讓而升下。而飲。其爭也君子。○子夏問曰。巧

して升下し、而うして飲ましむ。其の爭ひや君子なり。○子夏問うて曰く、巧笑倩たり、美目盼たり、素以て絢を爲すとは、何の謂ぞや。子曰く、繪の事は素きを後にす。曰く、禮は後か。子曰く、予を起す者なり、商や始めて與に詩を言ふ可きのみ。○子曰く、夏の禮は吾れ能く之れを言へども、杞徵するに足らざるなり。殷の禮は吾れ能く之れを言へども、宋徵するに足らざるなり。文獻足らざるが故なり。足らば則吾能く之れを徵せん。○子曰く、禘は既に灌して自り往者、吾れ之れを觀るを欲せず。○或ひと禘の說を問ふ。子曰く、知らざるなり。其の說を知る者の天下に於けるや、其れ諸を斯に示くが如きかとて、其の掌を指す。○祭れば在すが如く、神を祭れば神在すが如し。子曰く、吾れ祭に與らざれば祭らざるが如し。○王孫賈問うて曰く、其の奧に媚びん與りは、寧ろ竈に媚びよとは、何の謂ぞや。子曰く、然らず、罪を天に獲れば、禱る所無し。○子曰く周は二代を監すれば、郁郁乎として文なるかな、吾は周に從はん。○子大廟に

孔子謂季氏。八佾舞於庭。是可忍也。孰不可忍也。○三家者以雍徹。子曰。相維辟公。天子穆穆。奚取於三家之堂。○子曰。人而不仁。如禮何。人而不仁。如樂何。○林放問禮

卷之二

八佾第三

孔子季氏を謂ふ。八佾して庭に舞はす、是れを忍ぶ可んば、孰れか忍ぶ可からざらん。○三家者雍を以て徹す。子曰く、相くるは維れ辟公あり、天子穆穆たりと。奚ぞ三家の堂に取らん。○子曰く、人にして不仁ならば、禮を如何せん、人にして不仁ならば、樂を如何せん。○林放禮の本を問ふ。子曰く、大なるかな問や。禮は其の奢らん與りは寧ろ儉せよ、喪は其の易らん與りは寧ろ戚めよ。○子曰く、夷狄の君あるは、諸夏の亡きに如かず。○季氏泰山に旅す。子冉有に謂つて曰く、女救ふ能はざるかと。對へて曰く、能はずと。子曰く、嗚呼、曾て泰山は林放に如かずと謂へるか。○子曰く、君子は爭ふ所無し、必ずや射か、揖讓

使民敬忠以勸。如之何。子曰。臨之以莊則敬。孝慈則忠。擧善而教不能則勸。○或謂孔子曰。子奚不爲政。子曰。書云。孝乎惟孝。友于兄弟。施於有政。是亦爲政。奚其爲爲政。○子曰。人而無信。不知其可也。大車無輗。小車無軏。其何以行之哉○子張問。十世可知也。子曰。殷因於夏禮。所損益可知也。周因於殷禮。所損益可知也。其或繼周者。雖百世可知也。○子曰。非其鬼而祭之諂也。見義不爲。無勇也。

り一局部の用に偏せざるをいふ (四) 世の士君子とは如何なるものかと問ふ (五) 普偏 (六) かたより黨すること (七) 事理に暗し (八) あぶなつかしくて安定ならず (九) 老子の學等を異端といふは後漢以後のことにて當時は異端とは唯常道に變りたることを意味するが如し (一〇) 孔子の弟子子路の名 (一一) 孔子の弟子 (一二) 昔は學あれば任官したるものなり故に祿をもとむるを學ぶといふも不可なきなり (一三) 人よりとがめらるゝこと (一四) 魯君なり (一五) 平かにてくせなき材木を曲れるくせある材木の上におけば曲れるものは直くなるが如く政をなすにも其人を得れば民服すとなり。朱註は錯は捨置也、諸は衆也と註す、即ち「直きを擧げて諸の枉れるを錯けば」云々と訓ずる也 (一六) 魯の大夫季孫氏なり (一七) 以ては而してと通ず (一八) 其の方法は如何にしたらよろしからんか (一九) 民に對して莊重におも〳〵しくせば (二〇) 民が上に對して忠である (二一) 古文尚書君陳にあり (二二) 有政の有の字は附言にて意味なし (二三) 父母に孝に兄弟に友なることそのことが即ち政をやるといふことである (二四) 荷車 (二五) 輗は大車の轅端 (二六) 馬車即ち乘車 (二七) 小車のくびきを持する木 (二八) 孔子の弟子 (二九) 一世は三十年 (三〇) 荀子に禮は政の條貫といへり (三一) 其立てたる道の大本は知る可きなり (三二) 當然祭るべき鬼

已〇子曰。由誨ニ女知レ之乎。知レ之爲レ知レ之。不レ知爲レ不レ知。是知也。〇子張學レ干レ祿。子曰。多聞闕レ疑。愼言ニ其餘一。則寡レ尤。多見闕レ殆。愼行ニ其餘一。則寡レ悔。言寡レ尤。行寡レ悔。祿在ニ其中一矣。〇哀公問曰。何爲則民服。孔子對曰。擧レ直錯ニ諸枉一。則民服。擧レ枉錯ニ諸直一。則民不レ服。〇季康子問。

ん。孔子對へて曰く、直き(一五)を擧げて諸を枉れるに錯けば則ち民服す、枉れるを擧げて諸を直きに錯けば、則ち民服せず。〇季(一六)康子問ふ、民をして敬忠以て勸(一七)ましむるには之れを如何(一八)。子曰く、之れに臨むに莊(一九)を以てすれば、則ち敬す、孝慈なれば則ち忠、善を擧げて不能を敎ふれば則ち勸まん。〇或ひと孔子に謂つて曰く、子奚ぞ政(二〇)を爲さざると。子曰く、書(二一)に云ふ、孝か惟れ孝、兄弟に友に、(二二)有政に施くと、(二三)是れ亦政を爲すなり、奚ぞ其れ政を爲すを爲ん。〇子曰く、人にして信無くんば、其の可なるを知らず、大車輗無く、(二四)(二五)小車軏無くんば、(二六)(二七)其れ何を以て之れを行ん。〇子張(二八)問ふ、十世知る可きや。子曰く、殷は夏の禮(三〇)に因れり、損益(三一)する所知る可し、周は殷の禮(二九)に因れり、損益する所知る可し、其れ周に繼ぐ者或らば、百世と雖も知る可きなり。〇子曰く、其鬼(三二)に非らずして之れを祭るは、諂ふなり、義を見て爲ざるは、勇無きなり。

㈠ 舊く見聞修得せる所を溫習しそれによりて新を知る　㈡ くりかへしくヽ習ふ意　㈢ 君子は德性が凡人と異な

先生饌。曾是以爲孝乎。○子曰。吾與回言。終日不違如愚。退而省其私。亦足以發。回也不愚。○子曰。視其所以。觀其所由。察其所安。人焉廋哉。人焉廋哉。

(一〇) 以て其人の全自我を見るべし、豈よく藏匿し得んや

子曰。溫故而知新。可以爲師矣。○子曰。君子不器。○子貢問君子。子曰。先行其言。而後從之。○子曰。君子周而不比。小人比而不周。○子曰。學而不思則罔。思而不學則殆。○子曰。攻乎異端。斯害也

子曰く、(一)故きを(二)溫ねて新しきを知る、以て師と爲る可し。○子曰く、(三)君子は器ならず。○(四)子貢君子を問ふ。子曰く、行ひを先にし、其の言は而して後に之れに從ふ。○子曰く、君子は(五)周して(六)比せず、小人は比して周せず。○子曰く、學びて思はざれば則ち(七)罔し、思ひて學ばざれば則ち(八)殆し。○子曰く、(九)異端を攻むるは斯れ害あるのみ。○子曰く、(一〇)由汝に之れを知るを誨へんか、之れを知るは之れを知ると爲し、知らざるは知らずと爲せ、是れ知るなり。○(一一)子張(一二)祿を干むるを學ぶ。子曰く、多く聞きて疑はしきを闕き、愼んで其餘を言へば、則ち(一三)尤め寡し、多く見て殆はしき闕き、愼んで其餘を行へば、則ち悔い寡し、言尤め寡く、行悔い寡ければ祿其中に在り。○(一四)哀公問うて曰く、何を爲さば則ち民服せ

子告之曰。孟孫問孝於我。我對曰。無違。樊遲曰。何謂也。子曰生事之以禮。死葬之以禮祭之以禮。○孟武伯問孝。子曰。父母唯其疾之憂。○子游問孝。子曰。今之孝者。是謂能養。至於犬馬。皆能有養。不敬何以別乎。○子夏問孝。子曰。色難。有事弟子服其勞。有酒食

終日違はざること愚なるが如し、退いて其私を省れば、亦以て發するに足れり(一八)、回や愚ならず。〇子曰く、其の以す(一九)所を視、其の由る所を觀、其の安ずる所を察れば、人焉んぞ廋さんや(二〇)、人焉んぞ廋さんや。

(一) 辰は星のやどる所北辰は北極星、天下自然に之に歸するを形容していふ (二) 向ふなり (三) 實は詩は三百十一篇なるも三百とはその大數をいひたるものなり (四) 一口にいへば (五) 人の誠心の發露にて一點の邪思を含まざるもの也 (六) 此章は道德と政刑とを區別して國を治むるの利害を云ふ以て支那政教一致の理を知るべし (七) 天下の人民 (八) 刑罰 (九) 正すなり民自ら感動してその不正を正すを謂ふ (一〇) 此章は孔子一生の御經驗を述べられしものなり (一一) 自ら進んで學に志す (一二) 知天命の三字につきては古來異說多きも就中劉寶楠の說等おもしろし、曰く、孔子が十有五にして學に志してより以來三十五年間修養の結果道德身に具はり天我に道を下し天下の生民をして各其所を得しめんとの天の使命を自覺せるなり (一三) 何事をきゝても耳に逆ふ事なきをいふ (一四) 修養の極、心と道とが全く合致せる境界をさしていふ (一五) 魯の大夫なり (一六) 禮に違ふなかれの意 (一七) 馬を御する御者 (一八) 孟懿子のこと、孟懿子の氏は仲孫なるを以ていふ (一九) 孔子の弟子なり (二〇) 父母を指す、古註新註共に子を指すと爲せども父母となす說最も通ずべし (二一) 孔子の弟子 (二二) 親に仕へて愛のみありて敬なくばその可なるを知らず (二三) 孔子の弟子 (二四) 親に對する心の深愛面に表はれて滿面愉悅の色あるを難しとすと也 (二五) 父兄 (二六) 供するなり (二七) 孔子の高弟顏淵 (二八) 發明 (二九) 以は爲すなり人の行爲をいふ

星共之。○子曰。詩三百。一言以蔽之。曰。思無邪。○子曰。道之以政。齊之以刑。民免而無恥。道之以德。齊之以禮。有恥且格。○子曰。吾十有五而志于學。三十而立。四十而不惑。五十而知天命。六十而耳順。七十而從心所欲不踰矩。○孟懿子問孝。子曰。無違。樊遲御。

○子曰く、之れを道くに政を以てし、之れを齊しくするに刑を以てすれば、民免れて恥づる無し。之れを道くに德を以てし、之れを齊しくするに禮を以てすれば、恥づる有りて且つ格す。○子曰く、吾れ十有五にして學に志し、三十にして立ち、四十にして惑はず、五十にして天命を知り、六十にして耳順ふ、七十にして心の欲する所に從へども、矩を踰えず。○孟懿子孝を問ふ、子曰く、違ふ無れ。樊遲御たり、子之れに告げて曰く、孟孫孝を我に問ふ、我對へて曰く違ふ無れと。樊遲曰く、何の謂ぞや。子曰く、生るには之れに事ふるに禮を以てし、死せるには之れを葬るに禮を以てし、之れを祭るに禮を以てす。○孟武伯孝を問ふ、子曰く、父母は唯其の疾を之れ憂ふ。○子游孝を問ふ、子曰く、今の孝は是れを能く養ふと謂ふ、犬馬に至るまで皆能く養ふ有り、敬せずんば、何を以て別たん。○子夏孝を問ふ、子曰く、色難し、事有れば弟子其の勞に服し、酒食有れば先生に饌す、曾て是を以て孝と爲るか。○子曰く、吾れ回と言ふ、

也。〇子曰。君子食無レ求レ飽。居無レ求レ安。敏ニ於事。而愼ニ於言一就ニ有道一而正焉。可レ謂レ好レ學也已。〇子貢曰。貧而無レ諂。富而無レ驕。何如。子曰。可也。未レ若ニ貧而樂。富而好レ禮者一也。子貢曰。詩云如レ切如レ磋。如レ琢如レ磨。其斯之謂與。子曰。賜也。始可ニ與言下詩已矣。告ニ諸往一而知レ來者。〇子曰。不レ患ニ人之不ニ己知一。患レ不レ知レ人也。

(四) 其は子を指すとも父を指すともいふ (五) 父の死後もよく其立てたる道を守りて失はず (六) 禮は嚴を主とす故に和を以てして始めて中を得、先王の道の美たる所以こゝにあり (七) 萬事萬端只禮にのみよれば行はれざる所あり (八) 和を節するに禮を以てして事よく行はる (九) 約束した事が義理にかなつてゐるならば (一〇) 復は踐むなり實行するをいふ (一一) 因は姻に通じ外族に親むをいひ親は内族のものに親むをいふ。朱註には因は依也、依る所の者其の親むべきゝ人を失はずと解す (一二) 尊ぶなり (一三) 敏は敏捷にして詳しく丁寧にやるなり (一四) 有道の人に就きて其是非を正す (一五) 充分ではないがまあいい (一六) 詩經にいふ所の切磋琢磨とは骨を折りて修養の功を積むこと (一七) 子貢は姓は端木名は賜 (一八) 古昔のことを告げて將來のことを悟るものなりとて感歎せるなり (一九) 君子は唯之れを己れに求むるのみにて決して人に求むることなしと也

子曰。爲レ政以レ德。譬如下北辰居ニ其所。而衆

爲政第二

子曰く、政を爲すに德を以てせば、譬へば北辰(一)其所に居て衆星之れに共(二)ふが如きなり。〇子曰く、詩(三)三百、一言(四)以て之れを蔽へば、曰く(五)思ひ邪無し。

諸異二乎人之求一之與。○子曰。父在觀二其志一。父沒觀二其行一。三年無レ改二於父之道一。可レ謂レ孝矣。○有子曰。禮之用レ和爲レ貴。先王之道。斯爲レ美。小大由レ之。有レ所レ不レ行。知レ和而和。不三以レ禮節二之。亦不レ可レ行也。○有子曰。信近二於義一。言可レ復也。恭近二於禮一。遠二恥辱一也。因不レ失二其親一。亦可レ宗

斯れを美と爲す。(七)小大之れに由れば、行はれざる所あり、和を知りて和すれども、(八)禮を以て之れを節せざれば、亦行ふ可からざるなり。○有子曰く、(九)信、義に近ければ、(一〇)言復むべきなり、恭、禮に近ければ、恥辱に遠ざかる、(一一)因、其親を失はざれは、亦(一二)宗ぶべきなり。○子曰く、君子食は飽くことを求むる無く、居は安きことを求むる無し、事に(一三)敏にして、而して言を愼み、(一四)有道に就きて正さば、學を好むと謂ふ可きのみ。○子貢曰く、貧にして諂ふこと無く、富んで驕る無きは何如。子曰く、(一五)可なり、未だ貧にして樂み、富みて禮を好む者に若かざるなり。子貢曰く、詩に云ふ、(一六)切するが如く磋するが如く、琢するが如く磨するが如しとは、其れ斯れの謂ひか。子曰く、(一七)賜や、始めて與に詩を言ふ可きのみ、(一八)諸に往を告げて、而うして來を知る者なり。○子曰く、(一九)人の己を知らざるを患へず、人を知らざるを患ふるなり。

(一) 子禽も子貢も皆共に孔子の弟子にして子貢は寧ろ兄弟子に當るものなり　(二) 孔子をさしていふ　(三) 國政

以學レ文。○子夏曰。賢レ賢易レ色。事二父母一能竭二其力一。事レ君能致二其身一。與二朋友一交。言而有レ信。雖レ曰レ未レ學。吾必謂二之學一矣。○子曰。君子不レ重則不レ威。學則不レ固。主二忠信一。無レ友二不レ如レ己者一。過則勿レ憚レ改。○曾子曰。愼レ終追レ遠。民德歸レ厚矣。

の意 (九) 孔子の弟子 (一〇) 三省の三は三度又は三個の義にあらずしばしばの義なり (一一) 親切 (一二) 師より教はりしものを習熟せざる事なきか (一三) 大諸侯の國にして兵車千乘を出すべき國をいふ (一四) 治なり (一五) 孔子百姓のひまの時 (一六) 人の弟たり子たるものの學問の目的は躬行實踐にあることを說きたるものなり (一七) 孔子の弟子 (一八) 賢者を賢者として尊崇し、好色の念にかふ、蓋し好色は人心自然の誠に出づ、この心をさながら尊賢の念にかふる也 (一九) 十二分につくすの義 (二〇) ゆだねること (二一) 重みがなければ威嚴がない (二二) 先覺に學べば固陋に陷らず (二三) 葬喪の義 (二四) 祖先の祭 (二五) 民は人君に見倣ひて其の風儀が敦厚となる

子禽問二於子貢一曰。夫子至二於是邦一也。必聞二其政一。求レ之與。抑與レ之與。子貢曰。夫子溫良恭儉讓以得レ之。夫子之求レ之也。其

子禽(一)子貢に問うて曰く、夫子(二)是邦に至るや、必ず其政(三)を聞けり、之れを求めたるか、抑も之れを與へたるか。子貢曰く、夫子は溫良恭儉讓以て之れを得たり、夫子の之れを求むるや、其れ諸れ人の之れを求むるに異なるか。○子曰く、父在せば其(四)志を觀、父沒すれば其行を觀る、(五)三年父の道を改むる無きは、孝と謂ふ可し。○有子曰く、(六)禮の和を用つて貴しと爲る、先王の道

本。本立而道生。孝弟也者。其爲仁之本與。〇子曰。巧言令色。鮮矣仁。〇曾子曰。吾日三省吾身。爲人謀而不忠乎。與朋友交。而不信乎。傳不習乎。〇子曰。道千乘之國。敬事而信。節用而愛人。使民以時。〇子曰。弟子入則孝。出則弟。謹而信。汎愛衆而親仁。行有餘力。

則ち孝、出でては則ち弟、謹んで而して信、汎く衆を愛して仁に親しむ。行ひて餘力有れば、則ち以て文を學べ。〇子夏(一七)曰く、賢(一八)を賢として色に易へ、父母に事へて能く其力を竭(一九)し、君に事へて能く其身を致し、朋友と交り、言ひて信有らば、未だ學ばずと曰ふと雖も、吾は必(二〇)ず之を學びたりと謂はん。〇子曰く、君子(二一)重からざれば則ち威あらず、學(二二)べば則ち固ならず、忠信を主とし、己に如かざるものを友とする無れ。過たば則ち改むるに憚る勿れ。〇曾子曰く、終(二三)を愼み遠き(二四)を追へば、民の(二五)徳厚きに歸す。

㊀ 孔子をいふ、子はもと男子の尊稱にして有徳の稱、「先生の仰せあるやう」といふが如き意 ㊁ 學は效也、先覺の爲す所をまなびて、而して時となく之を習ひ、一回は一回と之に習熟するに至る、豈に心の眞悦を覺えざらんや ㊂ 同志の士をいふ ㊃ 心に怒を含む、むつとする ㊄ 孔子の弟子 ㊅ 父母によく仕へ兄弟は仲よくすること ㊆ 朱子は爲の字を行ふと訓じたれども本邦所傳の論語の古寫本には爲の一字なし、古來學者の議論のある所にて、之れ全く仁の見方の相違に基づく、朱子は仁は愛の理心の徳なりと說くも、孔子の所謂仁なるものは、思ふに本能的に人心に存する愛情を修養實現して遂に高遠なる徳に到達せるものを指せるが如し、古寫本に從ひて爲の一字を衍文とすべきか、今姑く私意を以て訓ず ㊇ 言葉上手に顏色をよくするものには誠の人がすくないと

子曰。學而時習レ之。不二亦說一乎。有下朋自二遠方一來上。不二亦樂一乎。人不レ知而不レ慍。不二亦君子一乎。○有子曰。其爲レ人也。孝弟。而好レ犯レ上者鮮矣。不レ好レ犯レ上。而好レ作レ亂者。未二之有一也。君子務レ

論語　卷之一

學而第一

子曰く、學びて時に之を習ふ、亦說しからずや。朋遠方より來る有り、亦樂しからずや。人知らずして慍みず、亦君子ならずや。○有子曰く、其の人と爲りや孝弟にして、而して上を犯すを好む者は鮮し。上を犯すを好まずして、而して亂を作すを好む者は、未だ之れ有らざるなり。君子は本を務む、本立ちて而して道生ず、孝弟なる者は其れ仁の本たるか。○子曰く、巧言令色、鮮し仁。○曾子曰く、吾れ日に吾が身を三省す、人の爲めに謀りて忠ならざるか、朋友と交りて信ならざるか、傳、習はざるか。○子曰く、千乘の國を道むるには、事を敬みて信、用を節して人を愛し、民を使ふに時を以てす。○子曰く、弟子入りては

有下讀了後直不レ知三手之舞レ之足之蹈二之者上。

程子曰。今人不レ會レ讀レ書。如レ讀二論語一。未レ讀時。是此等人。讀了後。又只是此等人。便是不二曾讀一。

程子曰。頤自二十七八一讀二論語一。當時已曉二文義一。讀レ之愈久。但覺二意味深長一。

乃召孔子。而孔子歸魯。實哀公之十一年丁巳。而孔子年六十八矣。（有對哀公及康子語。）然魯終不能用孔子。孔子亦不求仕。乃叙書傳禮記。（有杞宋損益、從周等語。）刪詩正樂。（有語大師及樂正之語。）序易象繫象說卦文言。（有假我年之語。）弟子蓋三千焉。身通六藝者七十二人。（弟子顏回最賢。蚤死、後惟曾參得傳孔子之道。）十四年庚申。魯西狩獲麟。（有莫我知之歎。）孔子作春秋。（有知我罪我等語。論語請討陳恒事、亦在是年。）明年辛酉。子路死於衛。十六年壬戌四月己丑。孔子卒。年七十三。葬魯城北泗上。弟子皆服心喪三年而去。唯子貢廬於冢上。凡六年。孔子生鯉。字伯魚。先卒。伯魚生伋。字子思。作中庸。（子思學於曾子。而孟子受業子思之門人。）

何氏曰。魯論語二十篇。齊論語。別有問王知道。凡二十二篇。其二十篇中。章句頗多於魯論。古論出孔子壁中。分堯曰下章子張問。以爲一篇。有兩子張。凡二十一篇。篇次不與齊魯論同。

程子曰。論語之書。成於有子曾子之門人。故其書獨二子以子稱。

程子曰。讀論語。有讀了全然無事者。有讀了後其中得一兩句喜者。有讀了後知好之者。

由爲季氏宰。墮三都、收其甲兵。孟氏不肯墮成。圍之不克。十四年乙巳。孔子年五十六。攝行相事。誅少正卯。與聞國政。三月魯國大治。齊人歸女樂以沮之。季桓子受之。郊又不致膰俎於大夫。孔子行。魯世家以此以上皆爲十二年事。適衞。主於子路妻兄顏濁鄒家。孟子作顏讎由。適陳過匡。匡人以爲陽虎而拘之。有顏淵後及文王旣沒之語。既解。還衞。主蘧伯玉家。見南子。有矢子路及未見好德之語。去適宋。司馬桓魋欲殺之。有天生德語及微服過宋事。又去適陳。主司城貞子家。居三歲而反于衞。靈公不能用。有三年有成之語。晉趙氏家臣佛肸以中牟畔。召孔子。孔子欲往。亦不果。有答子路堅白語及荷蕢過門事。將西見趙簡子。至河而反。又主蘧伯玉家。靈公問陳。不對而行。復如陳。據論語則絕糧當在此時。季桓子卒。遺言謂康子。必召孔子。其臣止之。康子乃召冉求。史記以論語歸歟之歎爲在此時。又以孟子所記歎詞爲主司城貞子時語。疑不然。蓋語孟所記本皆此一時語。而所記有異同耳。孔子如蔡及葉。有葉公問答子路不對、沮溺耦耕、荷蓧丈人等事。史記云、於是楚昭王使人聘孔子。孔子將往拜禮、而陳蔡大夫發徒圍之。故孔子絕糧於陳蔡之間。有慍見及告子貢一貫之語。按是時陳蔡臣服於楚。若楚王來聘孔子、陳蔡大夫安敢圍之。且據論語、絕糧當在去衞如陳之時。楚昭王將以書社地封孔子。令尹子西不可。乃止。史記云、書社地六百里、恐無此理。時則有接輿之歌。又反乎衞。時靈公已卒。衞君輒欲得孔子爲政。有魯衞兄弟、及答子貢夷齊子路正名之語。而冉求爲季氏將。與齊戰有功。康子

論語

朱熹集註序說

史記世家曰。孔子。名丘。字仲尼。其先宋人。父叔梁紇。母顏氏。以魯襄公二十二年庚戌之歲十一月庚子。生孔子於魯昌平鄉陬邑。爲兒嬉戲。常陳俎豆。設禮容。及長爲委吏。料量平。（委吏、本作季氏吏、索隱云、一本作委吏、與孟子合、今從之）爲司職吏。畜蕃息。（職、見周禮牛人、讀爲樴、義與杙同、蓋繫養犧牲之所、此官、卽孟子所謂乘田）適周問禮於老子。旣反而弟子益進。昭公十五年甲申。孔子年三十五。昭公奔齊。魯亂。於是適齊。爲高昭子家臣。以通乎景公。（有聞韶問政二事）公欲封以尼谿之田。晏嬰不可。公惑之。（有季孟吾老之語）孔子遂行反乎魯。定公元年壬辰。孔子年四十三。而季氏強僭。其臣陽虎作亂專政。故孔子不仕而退。修詩書禮樂。弟子彌衆。九年庚子。孔子年五十一。公山不狃。以費畔季氏。召孔子。欲往而卒不行。（有答子路東周語）定公以孔子爲中都宰。一年四方則之。遂爲司空。又爲大司寇。十年辛丑。相定公。會齊侯于夾谷。齊人歸魯侵地。十二年癸卯。使仲

右第三十三章。子思因二前章極致之言一。反二求其本一。復自二下學爲レ己謹レ獨之事一。推而言レ之。以馴二致乎篤恭而天下平之盛一。又贊二其妙一至二於無レ聲無レ臭而後已焉。蓋擧二一篇之要一。而約二言之一。其反復丁寧示レ人之意。至深切矣。學者其可レ不レ盡レ心乎。

右第三十三章、子思前章(一)極致の言に因りて、(二)其本を反求し、復た下學して己の爲にし、獨を謹むの事自り、推して之れを言ひ、以て(三)篤恭にして天下平なるの盛に馴致し、又其(四)妙を贊して、聲無く臭無きに至りて、而して後已む。蓋し一篇の要を擧げて之れを約言す。其反復丁寧人に示すの意、至りて深切なり。學者其れ心を盡さざる可けんや。

(一) 前章極致の言とは天地鬼神至誠等をいふ　(二) 其本とは第二十七章以下中庸君子小人屋漏に愧ぢず等をいふ
(三) あつくうやうやしきこと　(四) 妙なり

中庸 終

云。相レ在ニ爾室一。尚不レ愧ニ于屋漏一。故君子不レ動而敬。不レ言而信。詩曰。奏假無レ言。時靡レ有レ爭。是故君子不レ賞而民勸。不レ怒而民威ニ於鈇鉞一。詩曰。不レ顯惟德。百辟其刑レ之。是故君子篤恭而天下平。詩云。予懷ニ明德一。不レ大ニ聲以一レ色。子曰。聲色之於ニ以化一レ民末也。詩曰。德輶如レ毛。毛猶有レ倫。上天之載。無レ聲無レ臭。至矣。

聲もなく、臭もなしと。至れり。

（一）詩經。國風衛碩人の詩 （二）美錦の衣を着て其の上に單衣を加ふとあるのは、錦が餘り派手過ぐるを避くるなり （三）之れと同じく君子の道も闇きが如くにして日に章かなり中庸は常行の道なれば目には着かざれども千歳變ずることの出來ざる道なり （四）小人の道はきら〲すれども漸次消失す、一時人目を惹くが如き道は中庸にあらず （五）其の味薄きに似たるもの （六）風化の從つて來る所を知る （七）微細なる事程顯れやすきを知る （八）詩經小雅正月の篇の詩 （九）經詩大雅抑の篇の詩 （一〇）家屋の西北隅、中霤の神を祭る所といふ、人の到らざる所なり （一一）詩經商頌烈祖の篇の詩 （一二）奏は進むなり假は格なり至なり、神前に進みて神と一致するにあり （一三）君子は此の道を守るを以て自然に人に敬信せられ人々其の德に懐くを以て終には刑賞を用ひずして天下を治むることを得るに至る （一四）鈇は鑕の類、鉞は斧の柄長きもの、皆刑具なり （一五）詩經周頌烈文の篇の詩 （一六）百辟は衆君の意、故に諸侯といふ （一七）詩經大雅皇矣の篇の詩 （一八）予は我なり （一九）猶は貴からずといふが如し （二〇）言語と顏色とにて民を化するは根本の法に非ず （二一）詩經大雅烝民篇の詩 （二二）德の用ひ易きは毛の如く輕しといへど毛は尚比較すべき類あり以て十分の形容とはいへず （二三）詩大雅文王篇の辭に上天の載は聲もなく臭もなしとあるに至つて始めて至極といふべし

詩曰。衣レ錦尙レ絅。惡二其文之著一也。故君子之道。闇然而日章。小人之道。的然而日亡。君子之道。淡而不レ厭。簡而文。溫而理。知二遠之近一。知二風之自一。知二微之顯一。可二與入一レ德矣。詩云。潛雖レ伏矣。亦孔之昭。故君子內省不レ疚。無レ惡二於志一。君子之所レ不レ可レ及者。其唯人之所レ不レ見乎。詩

詩に曰く、(一)錦を衣て絅を尙ふと。(二)其文の著るゝを惡むなり。故に君子の道は、闇然として日に章かに、小人の道は、(四)的然として日に亡ぶ。君子の道は、(三)淡(五)にして厭はれず、簡にして文、溫にして理。遠の近きを知り、(六)風の自るを知り、微(七)の顯を知る。與に德に入る可し。(八)詩に云ふ、潛まりて伏すと雖も、亦孔だ之れ昭と。故に君子は內に省みて疚しからず、志に惡む無し、君子の及ぶ可からざる所は、其れ唯人の見れざる所か。(九)詩に云ふ、爾の室に在るを相るに、尙くは(一〇)屋漏に愧ぢざれと。故に君子は動かずして敬し、言はずして信ず。(一一)詩に曰く、(一二)奏假して言ふなく、時に爭ふと有る靡しと。是の故に(一三)君子は賞せずして民勸み、怒らずして(一四)民鈇鉞より威る。(一五)詩に曰く、顯ならざらんや惟れ德、(一六)百辟其れ之れに刑ると。是の故に君子は篤恭にして天下平なり。(一七)詩に曰ふ、予(一八)明德を懷ふ、聲と色とを大にせじと。(一九)子曰く、(二〇)聲色の以て民を化するに於けるは、末なり。(二一)詩に曰く、(二二)德の輶こと毛の如しと。毛は猶ほ倫有り。(二三)上天の載は

洋二溢乎中國一。施及二蠻貊一。舟車所レ至。人力所レ通。天之所レ覆。地之所レ載。日月所レ照。霜露所レ隊。凡有二血氣一者。莫レ不二尊親一。故曰レ配レ天。

右第三十一章。

(七) 而して以上の五德を身に積みて泉流るゝが如く時に之れを出すを以て衆人之れを敬し之れを信じ之れを說ぶ其の功は天の如く大なり、溥博は廣き意、淵泉は長き意 (八) 說は悅なり (九) 夷狄なり、南なるを蠻、北なるを貊といふ (一〇) 其の德の及ぶ所廣大なる天の如きをいふなり

唯天下至誠。爲下能經二綸天下之大經一。立二天下之大本一。知中天地之化育上。夫焉有レ所レ倚。肫肫其仁。淵淵其淵。浩浩其天。苟不下固聰明聖知。達二天德一者上。其孰知レ之。

右第三十二章。

唯天下(一)の至誠は、能く(二)天下の大經を經綸し、天下の大本を立て、天地の化育を知ると爲す。夫れ焉(三)ぞ倚る所あらん。肫肫(四)として其れ仁なり。淵淵(五)として其れ淵なり。浩浩(六)として其れ天なり。苟も固に(七)聰明聖知天德に達せるものにあらずんば、其れ孰か能く之れを知らん。

右第三十二章

(一) 性の至誠なる者、孔子を指すか (二) 天下を經綸し天下の大本たる中の德を立て、天地化育の道を知るに至る (三) 一方に偏倚することなく (四) 懇誠にして仁となり (五) 淵の如く深し、靜深の貌 (六) 天の如く大なり、廣大の貌 (七) 聰明聖智天の德を得し者卽ち聖人に非ずば聖人を知る能はず

右第三十章。

唯天下至聖。爲下能聰明睿知。足ニ以有レ臨也。寛裕溫柔。足ニ以有レ容也。發强剛毅。足ニ以有レ執也。齊莊中正。足ニ以有レ敬也。文理密察。足ニ以有レ別也。溥博淵泉。而時出レ之。溥博如レ天。淵泉如レ淵。見而民莫レ不レ敬。言而民莫レ不レ信。行而民莫レ不レ說。是以聲名

唯天下の(一)至聖は、能く(二)聰明睿知、以て臨むあるに足るなり。(三)寛裕溫柔、以て容るゝ有るに足るなり、(四)發强剛毅以て執る有るに足るなり、(五)齊莊中正、以て敬する有るに足るなり、(六)文理密察、以て別つ有るに足るなり、(七)溥博淵泉にして、時に之れを出だす、溥博は天の如く、淵泉は淵の如く、見て民敬せざるなく、言うて民信ぜざるなく、行うて民(八)說ばざるなし。是を以て聲名中國に洋溢し、施て(九)蠻貊に及ぶ。舟車の至る所、人力の通ずる所、天の覆ふ所、地の載する所、日月の照す所、霜露の隊つる所、凡そ血氣ある者は尊親せざる莫し。故に天に(一〇)配すと曰ふ。

右第三十一章

(一) 天下の聖人と云ひて暗に孔子を指すか　(二) 耳さとくすぐれたる智慧のあること、即ち聖人は聰明睿知にして下に臨みて政を爲すの明あり　(三) 寛裕溫柔にして衆人を容るゝ弘量あり　(四) 發强剛毅にして我が行ふ所を固守する意志あり　(五) 齊莊中正にして人より畏敬せらるゝ德あり　(六) 文理密察にして是非利害を識別する人なり

天下道。行而世爲二天下法一。言而世爲二天下則一。遠レ之則有レ望。近レ之則不レ厭。詩曰。在レ彼無レ惡。在レ此無レ射。庶幾夙夜。以永終レ譽。君子未レ有下不レ如レ此而蚤有二譽於天下一者上也。

右第二十九章。

前代の法度と天地の道理とに照して疑惑することなきに至りて之れを行ふ ㊄ 是の如く愼重に注意して行ふを以て一言一行皆天下の法則となり當時の人に悅ばれ後世よりも其の德を仰慕せらるゝなり ㊅ 詩經周頌の振鷺篇の詩、射は厭の義なり

仲尼祖二述堯舜一。憲二章文武一。上律二天時一。下襲二水土一。辟如下天地之無レ不二持載一。無上レ不二覆幬一。辟如二四時之錯行一。如二日月之代明一。萬物竝育而不二相害一。道竝行而不二相悖一。小德川流。大德敦レ化。此天地之所二以爲一レ大也。

(一)仲尼、堯舜を(二)祖述し、文武を(三)憲章し、上天の時に(四)律り、下水土に襲る。辟へば天地の持載せざるなく(五)覆幬せざるなきが如く、辟へば四時の錯行するが如く、日月の代明するが如くし、萬物並び育せられて相害せず、道並び行はれて相悖らず、小德は川流し、大德は化を敦くす。此れ天地の大たる所以なり。

右第三十章

㊀ 仲尼は孔子の字 ㊁ 遠く其の道を宗とするなり、堯舜の道を我が祖として之れを述べ ㊂ 文王武王の法度を近くあらはし其の法を守るなり ㊃ 天時と地方との宜に從ひて法度を定めたりとなり ㊄ おほふなり

雖レ善無レ徵。無レ徵不レ信。不レ信民弗レ從。下焉者。雖レ善不レ尊。不レ尊不レ信。不レ信民弗レ從。故君子之道。本ニ諸身一。徵ニ諸庶民一。考ニ諸三王一而不レ繆。建ニ諸天地一而不レ悖。質ニ諸鬼神一而無レ疑。百世以俟ニ聖人一不レ惑。質ニ諸鬼神一而無レ疑。知レ天也。百世以俟ニ聖人一而不レ惑。知レ人也。是故君子動而世爲ニ

ず、尊からざれば信ぜられず、信ぜざれば民從はず。故に(四)君子の道は、諸を身に本づけ、諸を庶民に徵し、諸を三王に考へて繆らず、諸を天地に建てて悖らず、諸を鬼神に質して疑ひなし。百世以て聖人を俟つて惑はず。諸を忠神に質して疑ひなきは天を知ればなり。百世以て聖人を俟つて惑はざるは、人を知ればなり。是の故に(五)、君子は動いて世〻天下の道となり、行ひて世〻天下の法となり、言ひて世〻天下の則となる。之れを遠くれば則ち望む有り。之れを近くれば則ち厭はず。詩に曰く(六)、彼に在りても惡まるゝなく、此れに在りても射るるなし、庶幾くは夙夜、以て永く譽を終へんと。君子未だ此の如くならずして、蚤く天下に譽ある者はあらざるなり。

右第二十九章

(一) 三重の義につきては諸說紛々たれども夏殷周三王の禮と解する最も可なり (二) 上は君なり、君善なりと雖も能く明徵にする所なければ則ち其の善信ぜられず (三) 下は臣なり、臣善と雖も尊からざれば則ち其の善亦信ぜられざるなり (四) 故に君子の道は先づ之れを我が身に引き當てて考へ、次ぎに衆人に引き當てて考へ、尙ほ之れを

禮。不ㇾ制ㇾ度。不ㇾ考ㇾ文。今天下車同ㇾ軌、書同ㇾ文。行同ㇾ倫。雖ㇾ有二其位一、苟無二其德一。不三敢作二禮樂一焉。雖ㇾ有二其德一。苟無二其位一。亦不三敢作二禮樂一焉。子曰。吾說二夏禮一。杞不ㇾ足ㇾ徵也。吾學二殷禮一。有二宋存一焉。吾學二周禮一。今用ㇾ之。吾從ㇾ周。

右第二十八章。

作らず。其德ありと雖も、苟も其位なければ、亦敢て禮樂を作らず。子曰く、吾れ夏の禮を說けども、杞は徵とするに足らず。吾れ殷の禮を學ぶ、宋の存するあり。吾れ周の禮を學ぶ、今之れを用ふ。吾れは周に從はん。

右第二十八章

㊀此章は第廿七章の高明を極めて中庸によるの意を推明して愚にして自ら用ふるを好む等は中庸にあらざるを說く ㊁災に同じ ㊂諸侯の間に用ふる文字を一定するについて考へず ㊃車輪の寸法、書籍の文字、人倫の行儀を同じくすこれ等は皆天子の定められたる所にして天下一統の意義なり ㊄禮樂を作るとは必ず聖人天子の位にあるなり、夫子の位と聖人の德とありて初めて禮樂を作るべきをいふ ㊅杞は夏の後にして宋は殷の後なり、徵とは證するの義なり、孔子が申さるゝには吾能く夏の禮を說けども顧ふに杞國にて考證するに足らざるなり ㊆現今周禮行はる

王二天下一有二三重一焉。其寡ㇾ過矣乎。上焉者。

天下に王とし、㊀三重を有せば、其れ過寡きか、㊁上なる者は、善と雖も徵なし、徵なければ信ぜられず、信ぜざれば民從はず、㊂下なる者は、善と雖も尊から

德性一而道二問學一。致二廣大一而盡二精微一。極二高明一而道二中庸一。溫ㇾ故知ㇾ新。敦厚以崇ㇾ禮。是故居ㇾ上不ㇾ驕。爲ㇾ下不ㇾ倍。國有ㇾ道。其言足二以興一。國無ㇾ道。其默足二以容一。詩曰。既明且哲。以保二其身一。其此之謂與。

右第二十七章。

且つ哲、以て其身を保つと。其れ此れを之れ謂ふ與。

右第二十七章

(一) 下文の萬物を發育し、及び天を極むの兩節を包含していへる句 (二) 道德充滿したる貌 (三) 高大なるをいふ (四) 充足して餘あるの意 (五) 禮儀とは經禮のこと、威儀とは曲禮なり、之れ道の至小に入りて間然する所なきをいふ (六) 其人とは適任者、而後は初めて宜なり (七) 己の德を尊んで其を得るに問學により德の廣大を致し學は精微を盡くす (八) 德高く學明かになりて後中庸の德による (九) 往古の事を研究して新知識を得 (一〇) 人情の手厚きなり是の故に中庸の德ある人は上となるとも下となるとも又亂世にても治世にても一身を保つことを得る也 (一一) 詩經大雅烝民篇の詩 (一二) 事物に明らかにしてさときこと

子曰。愚而好二自用一。賤而好二自專一。生二乎今之世一。反二古之道一。如ㇾ此者。裁及二其身一者也。非二天子一不ㇾ議ㇾ

子曰く、愚にして自ら用ふるを好み、賤にして自ら專にするを好み、今の世に生れて、(一)古の道に反へる。此の如き者は(二)裁其身に及ぶ者なり。天子に非ざれば、禮を議せず、度を制せず、(三)文を考へず。今天下、(四)車軌を同じうし、書文を同じうし、行倫を同じうす。其(五)位有りと雖も、苟も其德なければ、敢て禮樂を

厚。載二華嶽一而不レ重。振二河海一而不レ洩。萬物載焉。今夫山一卷石之多。及二其廣大一。艸木生レ之。禽獸居レ之。寶藏興焉。今夫水一勺之多。及二其不一レ測。黿鼉蛟龍魚鼈生焉。貨財殖焉。詩云。維天之命。於穆不レ已。蓋曰三天之所二以爲一レ天也。於乎不レ顯。文王之德之純。蓋曰三文王之所二以爲一レ文也。純亦不レ已。

右第二十六章。

もの、鼉は蜥蜴の大なるもの、蛟はみづち、鼈は鼈なり（一〇）財寶增加す（一一）詩經周頌維天之命篇の詩（一二）於は歎辭なり（一三）深遠の貌（一四）純一にして雜らず亦已まざる也（一五）周代の聖王なり文王の純の德も天地と同じくまじらず休まざるなり

大哉聖人之道。洋洋乎發二育萬物一。峻極二于天一。優優大哉。禮儀三百。威儀三千。待二其人一而後行。故曰。苟不二至德一。至道不レ凝焉。故君子尊二

（一）大なるかな聖人の道、（二）洋洋乎として萬物を發育し、（三）峻として天を極む。（四）優優として大なるかな、（五）禮儀三百、威儀三千。（六）其人を待つて而る後に行はる。故に曰く、苟も至德ならざれば、至道凝ず。（七）故に君子は德性を尊んで問學に道る。廣大を致めて精微を盡くす。（八）高明を極めて中庸に道る。（九）故を溫ねて新を知り、（一〇）敦厚にして禮を崇ぶ。（一一）是の故に、上に居つて驕らず、下と爲りて倍かず、國道有れば、其言以て興るに足り、國道なければ、其默以て容らるゝに足る。詩に曰ふ、旣に明（一二）

物也。博厚配レ地。高明配レ天。悠久無レ疆。如レ此者。不レ見而章。不レ動而變。無レ爲而成。天地之道。可二一言而盡一也。其爲レ物不レ貳。則其生レ物不レ測。天地之道。博也。厚也。高也。明也。悠也。久也。今夫天斯昭昭之多。及二其無一レ窮也。日月星辰繫焉。萬物覆焉。今夫地一撮土之多。及二其廣

り。其の物たる貳ならず、則ち其の物を生ずる測られず。天地の道は博なり、厚なり、高なり、明なり、悠なり、久なり。今夫れ天は、(四)斯の昭昭の多きなり。其の窮りなきに及んでや、日月星辰繫り、萬物覆はる。今夫れ地は、(五)一撮土の多きなり。其廣厚なるに及んでは、(六)華嶽を載せて而して重しとせず。河海を振めて洩らさず、萬物載せらる。今夫れ山は、(七)一卷石の多きなり。其の廣大なるに及んでは、艸木之れに生じ、禽獸之れに居り、寶藏興る。今夫れ水は、(八)一勺の多きなり。其の測られざるに及んでは、(九)黿鼉蛟龍魚鼈生じ、(一〇)貨財殖す。詩に云ふ、維れ天の命、於穆(一二)(一三)として已まず。蓋し天の天たる所以を曰ふ。於乎顯(一一)ならざらんや、文王の德の純(一四)と。蓋し(一五)文王の文たる所以を曰ふなり。純も亦已まざるなり。

右第二十六章

(一)猶は效驗の如きなり　(二)悠久とは至誠の德旣に博厚高明にして天地に配し又其の長久に之れを行はんと欲するをいふ　(三)至誠二なく乃ちよく萬物を生ずる測られざるなり　(四)天は昭昭の明を積みたるに過ぎず　(五)一つまみの土　(六)華山にして支那五嶽の一なり　(七)一個の石　(八)一掬ひの水のこと　(九)黿は鼈に似て大なる

而道自道也。誠者物之終始。不誠無物。是故君子誠之爲貴。誠者非自成己而已也。所以成物也。成己仁也。成物知也。性之德也。合外内之道也。故時措之宜也。

右第二十五章。

ざれば物なし。是の故に君子は之れを誠にするを貴しとなす。誠は自ら己を成すのみに非ざるなり、物を成す所以なり。己を成すは仁なり、物を成すは知なり。性の德なり、外内を合するの道なり。故に時に之れを措きて宜しきなり。

右第二十五章

(一) 誠は性のまゝなる己の德を成熟すと也　(二) 中庸の道とは人々が己れの身を導き善道に入る道との義也

故至誠無息。不息則久。久則徵。徵則悠遠。悠遠則博厚。博厚則高明。博厚所以載物也。高明所以覆物也。悠久所以成

故に至誠は息むなし。息まざれば則ち久し。久しければ、則ち徵あり。徵あれば則ち悠遠なり。悠遠なれば則ち博厚なり。博厚なれば則ち高明なり。博厚は物を載する所以なり。高明は物を覆ふ所以なり。悠久は物を成す所以なり。博厚は地に配し、高明は天に配し、悠久は疆なし。此の如き者は見さずして章はれ、動かずして變じ、爲すことなくして成る。天地の道は、一言にして盡くす可きな

動則變。變則化。唯天下至誠爲㆓能化㆒。

右第二十三章。

至誠之道。可㆓以前知㆒。國家將㆑興。必有㆓禎祥㆒。國家將㆑亡。必有㆓妖孽㆒。見㆓乎蓍龜㆒。動㆓乎四體㆒。禍福將㆑至。善必先知㆑之。不善必先知㆑之。故至誠如㆑神。

右第二十四章。

右第二十三章

㊀ 細小の意なり細小の事にまで心を用ひて之れを吾が身に得る樣にすれば矢張誠となる

至誠の道は、以て前知す可し。國家將に興らんとすれば、必ず禎祥(一)有り。國家將に亡びんとすれば、必ず妖孽(二)あり、蓍龜(三)に見はれ、四體(四)に動く。禍福將に至らんとすれば、善も必ず先づ之れを知り、不善も必ず先づ之れを知る。故に至誠は神の如し。

右第二十四章

㊀ 芽出度きこと ㊁ わざわひ ㊂ 占なり、蓍とは「メトギ」と云ふ草、龜ノ甲と共に占卜に用ふ ㊃ 動作威儀の間をいふ

誠者自成也。

誠は自ら成す(一)なり。而して道(二)は自ら道くなり。誠は物の終始なり、誠なら

以下十二章。皆子思之言。以反覆推明此章之意。

唯天下至誠。爲能盡其性。則能盡人之性。能盡人之性。則能盡物之性。能盡物之性。則可以贊天地之化育。可以贊天地之化育。則可以與天地參矣。

右第二十二章。

其次致曲。曲能有誠。誠則形。形則著。著則明。明則動。

唯天下の至誠は、能く其性を盡くすを爲せば、則ち能く人の性を盡くす。能く人の性を盡くせば、則ち能く物の性を盡くす。能く物の性を盡くせば、則ち以て天地の化育を贊す可し。以て天地の化育を贊す可ければ、則ち以て天地と參たる可し。

右第二十二章

(一)至誠なる人は人の具有する性を盡く行ふことをなすから遺憾なく人の性を盡くさす (二)人にも遺憾なく其の性を行はしむ (三)萬物をして皆其性を遂ぐることを得せしむ (四)天地の萬物を變化生育する功をたすけ (五)造物者と其功を並ぶるに至り、天と地と人と並び立ちて三つと爲るをいふ

其次は曲を致す。曲なれば能く誠有り、誠あれば則ち形る、形るれば則ち著しく、著しければ則ち明に、明なれば則ち動く、動けば則ち變じ、變ずれば則ち化す。唯天下の至誠は、能く化することを爲す。

凡事豫則立。不豫則廢。言前定則不跲。事前定則不困。行前定則不疚。道前定則不窮。在下位不獲乎上。民不可得而治矣。獲乎上有道。不信乎朋友不獲乎上矣。信乎朋友有道。不順乎親不信乎朋友矣。順乎親有道。反諸身不誠。不順乎親矣。誠身有道。不明乎善不誠乎身矣。誠者。天之道也。誠之者。人之道也。誠者不勉而中。不思而得。從容中道聖人也。誠之者。擇善而固執之者也。博學之。審問之。愼思之。明辨之。篤行之。有弗學。學之弗能弗措也。有弗問。問之弗知弗措也。有弗思。思之弗得弗措也。有弗辨。辨之弗明弗措也。有弗行。行之弗篤弗措也。人一能之。己百之。人十能之。己千之。果能此道矣。雖愚必明。雖柔必强。

右第二十章。

自誠明謂之性。自明誠謂之教。誠則明矣。明則誠矣。

誠なるより明なる、之れを性と謂ひ、明なるより誠なる、之れを教と謂ふ。誠なれば則ち明に、明なれば則ち誠なり。

(一) 至誠なるによりて善に明らかなるは之れ聖人の性なる者なり、善に明らかなるより至誠なるは之れを教といふ

右第二十一章。子思承上章夫子天道人道之意而立言也。自此

右第二十一章、子思上章夫子天道人道の意を承けて言を立つるなり。此れより以下十二章は、皆子思の言にして、以て此章の意を反覆推明せり。

(一) 繰り返し〳〵意味を明らかにするなり

讒遠レ色。賤レ貨而貴レ德。所二以勸一レ賢也。尊二其位一。重二其祿一。同二其好惡一。所二以勸一レ親親也。官盛任使。所三以勸二大臣一也。忠信重レ祿。所二以勸一レ士也。時使薄斂。所三以勸二百姓一也。日省月試。既稟稱レ事。所三以勸二百工一也。送レ往迎レ來。嘉レ善而矜二不能一。所三以柔二遠人一也。繼二絕世一擧二廢國一。治レ亂持レ危。朝聘以レ時。厚レ往而薄レ來。所三以懷二諸侯一也。凡爲二天下國家一有二九經一。所二以行レ之者一也。

(一) 書籍に書き遺されてある (二) 人道は政治によりて直ぐ變化を生ず、地道の樹木に於ける如し (三) 蜾蠃即ち細腰蜂なり、政治は細腰蜂が他蟲の子を變化して己の子とするが如く政治も民心を變化して己に心服せしめざる可からず (四) 政を爲すには賢者を必要とす (五) 賢者を得るの則は己自身の身を以てす (六) 己が賢者となるには仁義を以て其の身を脩む (七) 漸を追うて殺減するなり (八) 等級なり (九) 先王の道をいふ、天下に通じて行はるる道 (一〇) 一の意義につきては諸說あるも朱子說の一は則ち誠なりとするを最可となす (一一) 苦勞して學びて之れを知るをいふなり (一二) 榮名を貪るを謂ふ (一三) 人に若かざるを恥づるなり (一四) 知仁勇のこの三者を以て基となす (一五) 九つの大切なる道 (一六) うけ納るゝなり (一七) 深く愛するをいふ (一八) 賢を尊べば任ずる所明らかに謀る所の者良なるを以て惑はざるなり (一九) 信任厚ければ小臣之れを離間することなく故に事に臨みて眩せざるなり (二〇) 歸服するなり (二一) 己が身を齋戒し盛服をつくるにあらざれば苟も進退せざるは之れ即ち脩身なり (二二) 人を惡し樣にいふなり (二三) 財貨即ちたからなり (二四) 好むことゝにくむことなり、其の好惡を同じくすとは特に好惡する所あらず、蓋し同姓に於ては恩同じからずと雖も義必ず同じければなり (二五) 大臣は其の屬官に任使する所あり全くその任使に委するをいふ (二六) 忠信ある者には其の祿を重くするなり (二七) 之れを使ふに時を以てするなり (二八) 既廩は月俸のこと (二九) 諸侯國に歸れば天子より往きて厚く之れに賜ふなり (三〇) 諸侯よりの貢獻を薄くするなり (三一) 一は誠なり (三二) 躓くなり (三三) 病しきなり (三四) 得るなり、いはば臣にして君の信任を得ざれば其の位に居ても民を治むることが出來ないとなり (三五) 天性のまゝにて誠なるは天道の自然なれど人々皆然る能はずして力めて天道の誠に達するなり (三六) 善を擇んで固く之れを執るは道に入るの方法なり

臣㆒也。體㆓羣臣㆒也。子㆓庶民㆒也。來㆓百工㆒也。柔㆓遠人㆒也。懷㆓諸侯㆒也。脩㆑身則道立。尊㆑賢則不㆑惑。親㆑親則諸父昆弟不㆑怨。敬㆓大臣㆒則不㆑眩。體㆓羣臣㆒則士之報禮重。子㆓庶民㆒則百姓勸。來㆓百工㆒則財用足。柔㆓遠人㆒則四方歸㆑之。懷㆓諸侯㆒則天下畏㆑之。齊明盛服。非㆑禮不㆑動。所㆓以脩㆑身也。去㆑

て誠あらざれば親に順ならず。身を誠にするに道有り。善に明ならざれば身に誠あらず。(三五)誠は天の道なり、之れを誠にするは人の道なり。誠は勉めずして中り、思はずして得、從容として道に中るは聖人なり。之れを誠にする者は(三六)善を擇んで固く之れを執る者なり。博く之れを學び、審に之れを問ひ、愼で之れを思ひ、明に之れを辨じ、篤く之れを行ふ。學ばざる有り、之れを學びて能くせざれば措かざるなり。問はざる有り、之れを問ひて知らざれば措かざるなり。思はざる有り。之れを思ひて得ざれば措かざるなり。辨ぜざる有り、之れを辨じて明ならざれば措かざるなり。行はざる有り、之れを行ひて篤からざれば措かざるなり。人一にして之れを能くすれば己之れを百にす。人十にして之れを能くすれば、己之れを千にす。果して此道を能くすれば、愚と雖も必ず明に、柔と雖も必ず强し。

右第二十章

知レ之一也。或安而行レ之。或利而行レ之。或勉強而行レ之。及二其成一レ功一也。子曰。好レ學近二乎知一。力行近二乎仁一。知レ恥近二乎勇一。知二斯三者一。則知レ所二以脩一レ身。知レ所二以脩一レ身。則知レ所三以治二レ人。知レ所二以治一レ人。則知レ所三以治二天下國家一矣。凡爲二天下國家一有二九經一。曰。脩レ身也。尊レ賢也。親レ親也。敬二大

むる所以なり。其の位を尊くし、其祿を重くし、其好惡(二四)を同じくす、親を親むを勸むる所以なり。官盛(二五)にして任使せしむ、大臣を勸むる所以なり。忠信祿(二六)を重くす、士を勸むる所以なり。時(二七)に使ひて薄く斂す、百姓を勸むる所以なり。日に省し月に試み、既廩(二八)事に稱ふ、百工を勸むる所以なり。往を送り來を迎へ、善を嘉して不能を矜む、遠人を柔する所以なり。絶世を繼ぎ、廢國を擧げ、亂を治め危きを持し、朝聘は時を以てし、往(二九)に厚くして來(三〇)に薄くす、諸侯を懷くる所以なり。凡そ天下國家を爲むるに九經有り。之れを行ふ所以は一(三一)なり。凡そ事豫めすれば則ち立ち、豫めせざれば則ち廢す。言前に定まれば則ち跲(三二)ず、事前に定まれば則ち困まず、行前に定まれば則ち疚(三三)しからず、道前に定まれば則ち窮せず。下位に在りて上に獲(三四)られざれば、民得て治む可からず。上に獲らるゝに道有り。朋友に信ぜられざれば上に獲られず。朋友に信ぜらるゝに道有り。親に順ならざれば朋友に信ぜられず。親に順なるに道有り。諸を身を反し

身。思レ脩レ身。不レ可ニ以不一レ事レ親。不レ可ニ以不一レ知レ人。思レ知レ人。不レ可ニ以不一レ知レ天。天下達道五。所ニ以行一レ之者三。曰君臣也。父子也。夫婦也。昆弟也。朋友之交也。五者天下之達道也。知仁勇三者天下之達徳也。所ニ以行一レ之者一也。或生而知レ之。或學而知レ之。或困而知レ之。及ニ其

行ひ、或は利して之れを行ひ、或は勉強して之れを行ふ。其の功を成すに及びては一なり。(一二)子曰く、學を好むは知に近く、(一三)力め行ふは仁に近く、恥を知るは勇に近し。斯の三者(一四)を知れば、則ち身を脩むる所以を知る。身を脩むる所以を知れば、則ち人を治むる所以を知る。人を治むる所以を知れば、則ち天下國家を治むる所以を知る。凡そ天下國家を爲むるに九經(一五)あり。曰く、身を脩むるなり、賢を尊ぶなり、親を親むなり、大臣を敬するなり、羣臣を體(一六)するなり、庶民を子(一七)とするなり、百工を來すなり、遠人を柔ぐるなり、諸侯を懷くるなり。身を脩むれば則ち道立つ。賢を尊べば則ち惑はず、(一八)親を親めば則ち諸父昆弟怨みず。大臣を敬すれば(一九)則ち眩せず。羣臣を體すれば則ち士の報禮重し。庶民を子とすれば則ち百姓勸む。百工を來せば則ち財用足る。遠人を柔すれば則ち四方之れに歸す。(二〇)諸侯を懷くれば則ち天下之れを畏る。(二一)齊明盛服し、禮に非れば動かず、身を脩むる所以なり。(二二)讒を去り、色を遠け、貨を賤みて德を尊ぶ、賢を勸

布在方策。其人存。則其政擧。其人亡。則其政息。人道敏政。地道敏樹。夫政也者蒲盧也。故爲政在人。取人以身。脩身以道。脩道以仁。仁者人也。親親爲大。義者宜也。尊賢爲大。親親之殺。尊賢之等。禮所生也。在下位不獲乎上。民不可得而治矣。故君子不可以不脩

ば、則ち其の政擧り、其人亡すれば、則ち其政息む。人道(二)は政に敏し、地道は樹するに敏し。夫れ政なる者は蒲盧(三)なり。故(四)に政を爲すは人に在り。人(五)を取るに身を以てし、身(六)を脩むるに道を以てし、道を脩むるに仁を以てす。仁は人なり、親を親むを大と爲す。義は宜きなり、賢を尊ぶを大と爲す。親を親むの殺(七)、賢を尊ぶの等(八)は、禮の生ずる所なり。下位に在りて上に獲られずんば、民得て治む可からず。故に君子は以て身を脩めざる可からず。身を脩めんと思はば、以て親に事へざる可からず。親に事へんと思はば、以て人を知らざる可からず。人を知らんと思はば、以て天を知らざる可からず。天下の達道(九)五、之れを行ふ所以の者三。曰く、君臣なり、父子なり、夫婦なり、昆弟なり、朋友の交なり。五つの者は天下の達道なり。知仁勇の三者は、天下の達德なり。之れを行ふ所以の者一(一〇)なり。或は生れながらにして之れを知り、或は學びて之れを知り。或(一一)は困みて之を知る、其の之を知るに及びては一なり。或は安じて之れを

賤也。序事所以辨賢也。旅酬下爲上。所以逮賤也。燕毛。所以序齒也。踐其位。行其禮。奏其樂。敬其所尊。愛其所親。事死如事生。事亡如事存。孝之至也。郊社之禮。所以事上帝也。宗廟之禮。所以祀乎其先也。明乎郊社之禮。禘嘗之義。治國其如示諸掌乎。

右第十九章。

り。郊社(一二)の禮は、上帝に事ふる所以なり。宗廟の禮は、其の先を祀る所以なり。郊社の禮、禘嘗(一三)の義を明にせば、國を治むると(一四)其れ諸を掌に示るが如きか。

右第十九章

(一)武王周公は天下萬人の異論なき孝德ある人といふべし　(二)それ孝の大なるものは先代の志を繼ぎ先代の事業を紹述するより大なるはなし　(三)春秋に其の祖廟を脩めより以下は祭祀の禮をいふ　(四)祭器　(五)先祖の遺されたる衣服なり　(六)四時折々の供饌　(七)宗廟の禮は、天子は七廟、諸侯は五廟、卿は三廟、士は二廟にて、正面に祖先を祀り順序は左を昭とし右を穆とし右に二代左に三代右に四代とし祖先の外已れより前二代三代と順序して祀るは身分によつて差あり　(八)公卿大夫士をいふなり　(九)祭終りて衆人の酒を飲む時卑者をして各其の酒杯を長者に獻ぜしむ　(一〇)宗廟の中は事に預るを以て榮となすを以て卑賤者より貴賤に獻盃するなり　(一一)祭後の宴をなす時に年齡に從つて席次を定むること、毛は頭髮　(一二)社は地神を祭るなり、郊は野外なり、昔天子天神を祭るに郊外に於てせり　(一三)禘は夏の祭嘗は秋の祭なり　(一四)上帝祖先に敬事すれば國を治むることは掌中の物を見るが如く容易なり

哀公問政。子曰。文武之政。

哀公政を問ふ、子曰く、文武の政は、布きて方策(一)に在り、其人存すれ

達二乎諸侯大夫及士庶人一。父爲二大夫一子爲レ士。葬以二大夫一。祭以レ士。父爲レ士。子爲二大夫一。葬以レ士。祭以二大夫一。期之喪達二乎大夫一。三年之喪達二乎天子一。父母之喪無二貴賤一一也。

右第十八章。

るの義 (七) 後より王號を贈る (八) 先公とは大王の父組紺より以上后稷に至るなり、后稷は周の祖堯舜の際に民に稼穡を敎へたる人なり (九) 葬るには死者の爵に從ひ祭るには生者の祿を用ふるなり (一〇) 一年

子曰。武王周公其達孝矣乎。夫孝者。善繼二人之志一。善述二人之事一者也。春秋脩二其祖廟一。陳二其宗器一。設二其裳衣一。薦二其時食一。宗廟之禮。所三以序二昭穆一也。序レ爵所三以辨二貴

子曰く、武王(一)・周公は、其れ達孝なるか。夫れ(二)孝は、善く人の志を繼ぎ、善く人の事を述ぶる者なり。春秋(三)に其の祖廟を脩め、其宗器(四)を陳ね、其裳衣(五)を設け、其時食(六)を薦む。宗廟(七)の禮は、昭穆を序する所以なり。爵(八)を序するは貴賤を辨ずる所以なり。事を序するは賢を辨ずる所以なり。旅酬(九)は下上の爲にするは、賤(一〇)に逮す所以なり。燕毛(一一)は、齒を序する所以なり。其位を踐み、其禮を行ひ、其樂を奏し、其の尊ぶ所を敬し、其の親む所を愛し、死に事ふること生に事ふるが如くし、亡に事ふること存に事ふるが如くするは、孝の至りな

子曰。無憂者。其惟文王乎。以王季爲父。以武王爲子。父作之。子述之。武王纘大王王季文王之緒。壹戎衣而有天下。身不失天下之顯名。尊爲天子。富有四海之内。宗廟饗之。子孫保之。武王末受命。周公成文武之德。追王大王王季。上祀先公以天子之禮。斯禮也

子曰く、憂無き者は、其れ惟だ文王(一)か。王季を以て父と爲し、武王を以て子と爲す、父之れを作して子之れを述ぶ。武王は大王・王季・文王の緒(二)を纘(三)ぎ、壹(四)たび戎衣して天下を有ち、身天下の(五)顯名を失はず、尊きことは天子たり、富は四海の內を有ち、宗廟は之れを饗け、子孫は之れを保つ。武王末(六)に命を受け、周公文武の德を成して大王・王季を追王(七)す。上先公(八)を祀るに天子の禮を以てす。(九)斯の禮や諸侯大夫及び士庶人に達す。父大夫たり、子士たれば、葬るには大夫を以てし、祭るには士を以てす。父士たり、子大夫たれば、葬るには士を以てし、祭るには大夫を以てす。(一〇)期の喪は大夫に達し、三年の喪は、天子に達す。父母の喪は、貴賤と無く一なり。

右第十八章

(一) 周の文王は父に王季あり、子に武王あり、父子三世互に禮法を作りて之れを紹述したれば少しも憂ふる所なかりし人なり　(二) 業なり　(三) 繼ぐなり　(四) 一たび兵を起して殷を伐ちて　(五) 顯明なる令名　(六) 末は年老ゆ

右第十六章。

子曰。舜其大孝也與。德爲二聖人一。尊爲二天子一。富有二四海之内一。宗廟饗レ之。子孫保レ之。故大德必得二其位一。必得二其祿一。必得二其名一。必得二其壽一。故天之生レ物。必因二其材一而篤焉。故栽者培レ之。傾者覆レ之。詩曰。嘉樂君子。憲憲令德。宜レ民宜レ人。受二祿于天一。保佑命レ之。自レ天申レ之。故大德者必受レ命。

右第十七章。

子曰く、舜は其れ大孝なるか。德は聖人たり、尊きこと天子たり、富四海の内を有ち、宗廟(一)之れを饗け、子孫之れを保つ(二)。故に大德あれば必ず其位を得、必ず其祿を得、必ず其名(三)を得、必ず其壽を得。故に天の物を生ずる、必ず其材(四)に因りて篤(五)くす。故に栽つ者(六)之れを培し、傾く者(七)之れを覆へす。詩(八)に曰はく、嘉樂(九)の君子は、憲憲(一〇)たる令德あり。民に宜しく人に宜しく、祿を天に受く、保佑(一一)して之れに命じ、天より之れを申ぬと。故に大德ある者は必ず命を受く(一二)。

右第十七章

(一) 宗廟に祭れる祖先の神も舜の如き大孝の人が之れを祭れば喜んで其の祭をうけらるゝなり (二) 保ち安んずるなり (三) よき評判 (四) 人柄なり (五) 篤は厚きなり (六) 眞直に立ちたる樹は雨露之を培養す、即ち氣至つて滋息するを云ふ (七) 前者の反對に氣反して遊散すること (八) 詩經大雅假樂篇の詩 (九) 令德ある君子のこと (一〇) 盛なるかたち (一一) 安じ助くること (一二) 天命を受けて天子となるなり

鼓二瑟琴一。兄弟既翕。和樂且耽。宜二爾室家一。樂二爾妻孥一。子曰。父母其順矣乎。

右第十五章。

子曰。鬼神之爲レ德。其盛矣乎。視レ之而弗レ見。聽レ之而弗レ聞。體レ物而不レ可レ遺。使下天下之人。齊明盛服。以承二祭祀一。洋洋乎如レ在二其上一。如レ在二其左右一。詩曰。神之格思。不レ可レ度思。矧可レ射思。夫微之顯。誠之不レ可レ揜如レ此夫。

く、父母は其れ順なるか。

右第十五章

(一)遠きに行くには近きよりするが如く家を治むるも亦近き妻子より始むるをいへるものなり　(二)詩經小雅棠棣篇の詩　(三)好く和合する事　(四)瑟と琴との合奏に調子合へるが如し　(五)合なり　(六)樂しむなり　(七)夫婦中よろしく　(八)妻子　(九)孔子は此詩を賛して父母の心も其れ順にして家道成るといはれしなり

子曰く、鬼神の德たる、其れ盛なるか。(一)之れを視れども見えず、之れを聽けども聞えず、(二)物に體となりて遺る可からず、天下の人をして(三)齊明盛服して、以て祭祀を承け、洋洋乎として、其上に在るが如く、其左右に在るが如くならしむ。(四)詩に曰く、神の格る、(五)度る可からず、(六)矧んや(七)射ふ可けんやと。夫れ微の顯なる、誠の揜ふ可からざる此の如きか。

右十六章

(一)鬼神は形なく聲なし　(二)鬼神の德は物の根幹となりて之をわすれることは出來ない　(三)齊は齋戒なり明は潔きなり　(四)詩經大雅抑の篇の詩　(五)來るなり　(六)況んやなり　(七)厭怠して敬せずはをられない

素二夷狄一行二乎夷狄一。素二患難一行二乎患難一。君子無二入而不一レ自得一焉。在二上位一不レ陵レ下。在二下位一不レ援レ上。正レ己而不レ求二於人一則無レ怨。上不レ怨レ天。下不レ尤レ人。故君子居レ易以俟レ命。小人行レ險以徼レ幸。子曰。射有レ似二乎君子一。失二諸正鵠一。反求二諸其身一。

右第十四章。

て上を援かす、己を正しくして人に求めずんば則ち怨むなし。上天を怨みず、下人を尤めず(五)。故に君子は易(六)に居て以て命を俟つ、小人は險を行ひて以て幸を徼む(七)。子曰く、射は君子に似たる有り、諸を正鵠(八)に失すれば、反つて諸を其身に求む。

右第十四章

㈠ 素は傃なり素より然る如くの意、朱註にては素を見在すと解す ㈡ 其の境遇以外の事を思はず ㈢ 野蠻 ㈣ 何れに居るとも中庸の道を失はざるをいふ ㈤ よりすがらない ㈥ 其の平安の境遇に居りて天命を俟つ ㈦ 求むなり ㈧ 正も鵠も皆矢のまとなり

君子之道。辟如レ行レ遠必自レ邇。辟如レ登レ高必自レ卑。詩曰。妻子好合。如レ

君子の道は、辟へば遠きに行くに必ず邇き自するが如く、辟へば高きに登るに必ず卑き自するが如し。(一)詩に曰く、(二)妻子好合して、(三)瑟琴を鼓するが如し、(四)兄弟既に翕ひ、(五)和樂し且つ耽しむ、(六)爾の室家に宜しく、(七)爾の妻孥(八)を樂ましむと。子曰(九)

人治ㇾ人。改而止。忠恕違ㇾ道不ㇾ遠。施ニ諸己一而不ㇾ願。亦勿ㇾ施ニ於人一。君子之道四。丘未ㇾ能ㇾ一焉。所ㇾ求ニ乎子一。以事ㇾ父未ㇾ能也。所ㇾ求ニ乎臣一。以事ㇾ君未ㇾ能也。所ㇾ求ニ乎弟一。以事ㇾ兄未ㇾ能也。所ㇾ求ニ乎朋友一。先施ㇾ之未ㇾ能也。庸德之行。庸言之謹。有ㇾ所ㇾ不ㇾ足。不ニ敢不ㇾ勉。有ㇾ餘不ニ敢盡一。言顧ㇾ行。行顧ㇾ言。君子胡不ニ慥慥爾一。

右第十三章。

むる所、以て兄に事ふるは、未だ能はざるなり。朋友に求むる所、先づ之れを施すは、未だ能はざるなり。(六)庸德を之れ行ひつゝ庸言を之れ謹む。足らざる所有らば、敢へて勉めずんばあらず。餘り有らば敢へて盡さず、言は行を顧み、行は言を顧みる。君子胡ぞ(七)慥慥爾たらざらん。

右第十三章

(一) 詩經幽風伐柯篇の詩　(二) 斧の柄を造るには今持てる斧の柄を標準とすれば足れり　(三) 人たる道を以て人の心を治め、其人を改めてそれ以上には跡をせめぬ　(四) 己の心を盡し己を推して人に及ぼす心なり　(五) 孔子の名　(六) 平常の德行　(七) 丁寧にして忠實なること

君子素ニ其位一而行。不ㇾ願ニ乎其外一。素ニ富貴一行ニ乎富貴一。素ニ貧賤一行ニ乎貧賤一。

君子は其位に(一)素して行ひ、(二)其外を願はず、富貴に素しては富貴に行ひ、貧賤に素しては貧賤に行ひ、(三)夷狄に素しては夷狄に行ひ、患難に素しては患難に行ふ。君子入るとして(四)自得せざる無し。上位に在りて下を陵がず、下位に在り

能載焉。語小天下莫能破焉。詩云。鳶飛戾天。魚躍于淵。言其上下察也。君子之道。造端乎夫婦。及其至也。察乎天地。

右第十二章。子思之言。蓋以申明首章道不可離之意也。其下八章雜引孔子之言以明之。

子曰。道不遠人。人之爲道而遠人。不可以爲道。詩云。伐柯伐柯。其則不遠。執柯以伐柯。睨而視之。猶以爲遠。故君子以

右第十二章は、子思の言、蓋し以て首章の道は離る可からざるの意を申(一)明するなり。其の下八章は、孔子の言を雜引して以て之れを明にす。

(一) かさねてあきらかにすること

子曰く、道は人に遠からず、人の道を爲して人に遠ければ、以て道と爲す可からず。詩(二)に云ふ、柯(三)を伐り柯を伐る、其則遠からずと。柯を執り以て柯を伐る、睨んで之れを視る、猶ほ以て遠しと爲す。故に君子は人を以て人を治め、改めて止む。(四)忠恕道を違ること遠からず。諸を己に施して願はずんば、亦人に施す勿れ。君子の道四、(五)丘未だ一を能くせず。子に求むる所、以て父に事ふるは、未だ能はざるなり。臣に求むる所、以て君に事ふるは、未だ能はざるなり。弟に求

廢。吾弗レ能レ已矣。君子依二乎中庸一。遯レ世不レ見レ知而不レ悔。唯聖者能レ之。

右第十一章。

君子之道。費而隱。夫婦之愚。可二以與知一焉。及二其至一也。雖二聖人一亦有レ所レ不レ知焉。夫婦之不肖。可二以能行一焉。及二其至一也。雖二聖人一亦有レ所レ不レ能焉。天地之大也。人猶有レ所レ憾。故君子語レ大。天下莫二

右第十一章

(一)世に隱れたる理窟を考へ出し。素は索に作るべしと云ふ　(二)詭異の行　(三)後世にその名が傳はることあらんも　(四)德ある人、但此の君子は次に謂ふ君子より少德者なり　(五)半途

(一)君子の道は、費にして隱、(二)夫婦の愚も、以て與り知る可し。(三)其の至れるに及びてや、聖人と雖も、亦知らざる所あり。夫婦の不肖も以て能く行ふ可し、其の至れるに及びてや、聖人と雖も亦能くせざる所有り。(四)天地の大なる、(五)人猶ほ憾むる所有り。故に君子大を語れば、(六)天下能く載する莫く、小を語れば、(七)天下能く破る莫きなり。(八)詩に云ふ、鳶飛んで天に(九)戾り、魚淵に躍ると。(一〇)其の上下に察なるを言ふ。君子の道は、端を夫婦に造す。其の至れるに及びてや、天地に察なり。

(一)君子の行ふ中庸の道は用廣く其の理は隱れて微なり　(二)匹夫匹婦の意　(三)道の至極の所　(四)大德の意　(五)人の天地にうらむ所あり、覆載生成の偏及び寒暑災祥の其の正を得ざるが如き類　(六)天下の人の背負ひきれぬ　(七)微小の物故に能く破る能はず　(八)詩は大雅旱麓の篇の詩　(九)戾ゐは至るなり　(一〇)君子の道

與。北方之強與。抑而強與。寬柔以教。不レ報二無道一。南方之強也。君子居レ之。衽二金革一。死而不レ厭。北方之強也。而強者居レ之。故君子和而不レ流。強哉矯。中立而不レ倚。強哉矯。國有レ道不レ變レ塞焉。強哉矯。國無レ道至レ死不レ變。強哉矯。右第十章。

て教へ、無道(四)に報ぜざるは、南方の強なり。君子之れに居る。金革(五)を衽(六)として、死して厭はざるは、北方の強なり。強者之れに居る。故に君子は和(七)すれども流れず、強なるかな矯(八)。中立(九)して而して倚らず、強なるかな矯。國道あれば、塞(一〇)を變ぜず、強なるかな矯。國道なければ、死に至るも變(一一)ぜず、強なるかな矯。

右第十章

(一) 孔子の弟子仲由なり (二) 教化行はれし南方人の強か野蠻の北方人の強か但しは汝の賞美する強か、而は汝なり (三) 温厚寬柔の德 (四) 人我れに無法の擧動ありとも返報をしない (五) 兵器甲冑 (六) 席のこと (七) 柔和であるけれども不仕だらに流れず (八) 矯は強を形容する辭 (九) 中正なる所に立つ (一〇) 塞は不通なり、通達せざる義にして貧賤をいふ (一一) 平素の守る所を變ぜず

子曰。素レ隱行レ怪。後世有レ述焉。吾弗レ爲レ之矣。君子遵レ道而行。半塗而

子曰く、隱(一)れたるを素め怪(二)しきを行ふ。後世(三)述ぶる有らんも、吾は之れを爲さず。君子道に遵ひて行ひ、半塗(五)にして而して廢す、吾は已む能はず。君子は中庸に依(四)る。世を遯れ知られずして而して悔いざる、唯聖者之れを能くす。

知レ辟也。人皆曰ニ予知一。擇ニ乎中庸一而不レ能ニ期月守一也。
右第七章。
子曰。回之爲レ人也。擇ニ乎中庸一。得ニ一善一。則拳拳服膺而弗レ失レ之矣。
右第八章。
子曰。天下國家可レ均也。爵祿可レ辭也。白刃可レ蹈也。中庸不レ可レ能也。
右第九章。
子路問レ強。子曰。南方之強

能はざるなり。

右第七章

(一)自分自身　(二)驅り立てて、即ち利慾に迷ひ　(三)罟は魚を捕る具、擭は獸を捕る具、陷阱は落し穴即ち禍のわな　(四)一個月

子曰く、(一)回の人たるや、中庸を擇び、一善を得れば則ち(二)拳拳服膺して、而してこれを失はず。

右第八章

(一)孔子の高弟顔淵　(二)日夜に之れを遵守すと也、拳々は捧げ持つこと、服膺は胸に引き附けて放さぬこと

子曰く、天下國家は均しくす(一)可きなり、(二)(三)爵祿は辭す可きなり、(四)白刃は蹈む可きなり、(五)中庸は能くす可からざるなり。

右第九章

(一)平治なり　(二)出來る　(三)爵位俸給　(四)辭退　(五)以上の智仁勇の三難事より以上に中庸を爲すは難事なり

(一)子路強を問ふ。子曰く、(二)南方の強か、北方の強か、抑も而の強か。(三)寛柔以

者不レ及也。人莫レ不ニ飲食一也。鮮ニ能知レ味也。
右第四章。

子曰。道其不レ行矣夫。
右第五章。
子曰。舜其大知也與。舜好レ問而好察ニ邇言一。隱レ惡而揚レ善。執ニ其兩端一。用ニ其中於民一。其斯以爲レ舜乎。
右第六章。
子曰。人皆曰ニ予知一。驅而納ニ諸罟擭陷阱之中一而莫ニ之

子曰く、道は其れ行はれざるか。(一)

右第五章

(一) 智者は過ぎ愚不肖者は及ばす故に道は行はれざるかと歎ぜられたるなり

子曰く、舜(一)は其れ大知(二)なるか、舜問を好んで而して好みて邇言(三)を察す。惡を隱して而して善を揚げ、(四)其兩端を執つて、其中を民に用ふ。(五)其れ斯れ以て舜たるか。

右第六章

(一) 古への聖人舜帝なり (二) 大なる智慧ある人 (三) 手近な話を注意してきく (四) 兩極端を去りて普通に行はるべきものを取りて政に用ひたり (五) これが帝舜たる所以でせうか

子曰く、人皆予知(一)ありと曰ふ。(二)驅つて諸を(三)罟擭陷阱の中に納れて、而して之を辟くるを知る莫きなり。人皆予知ありと曰ふ。中庸を擇んで、而して(四)期月も守る

仲尼曰。君子中庸。小人反二中庸一。君子中庸也。君子而時中。小人之反二中庸一也。小人而無二忌憚一也。

右第二章。

子曰。中庸其至矣乎。民鮮レ能久矣。

右第三章。

子曰。道之不レ行也。我知レ之矣。知者過レ之。愚者不レ及也。道之不レ明也。我知レ之矣。賢者過レ之。不肖

仲尼(一)曰く、君子は中庸(二)し、小人は中庸に反す。君子の中庸や、君子(三)にして時に中す、小人の中庸に反するや、小人にして忌憚(四)無きなり。

右第二章

(一) 孔子の字　(二) 中庸の行をなす　(三) 君子の徳ありて時と處とに因りて適當の行をなす　(四) 無遠慮にして忌みはゞかる所なく思ふ通りの事をなす

子(一)曰く、中庸は其れ至れる(二)かな。民(三)能くする鮮なきこと久し。

右第三章

(一) 孔子　(二) 至極の徳である　(三) 世衰へてより民能くするなきこと久き以前よりなりの意

子曰く、道(一)の行はれざるや、我れ之れ(二)を知る。知者は之れ(三)に過ぎ、愚者は及ばざるなり。道の明ならざるや、我れ之れを知る。賢者は之れに過ぎ、不肖者(四)は及ばざるなり。人(五)飲食せざる莫し、能く味を知る鮮きなり。

右第四章

(一) 中庸の道　(二) 其の理由　(三) 中庸の道　(四) 不才の人　(五) 道は離る可からず而も人自ら察せざる比喩

也者。天下之達道也。致二中和一。天地位焉。萬物育焉。

右第一章。子思述二所レ傳之意一以立レ言。首明二道之本原出二於天一而不レ可レ易。其實體。備二於己一而不レ可レ離。次言二存養省察之要一。終言二聖神功化之極一。蓋欲下學者於レ此。反二求諸身一而自二得之一。以去二夫外誘之私一。而充中其本然之善上。楊氏所レ謂一篇之體要是也。其下十章。蓋子思引二夫子之言一。以終二此章之義一。

右第一章は、子思傳ふる所の意を述べて以て言を立つ。首めには道の本原は天に出でて而して易ふ可からず、其實體己に備つて、而して離る可からざるを明にす。次には(一)存養省察の要を言ひ、終には(二)聖神功化の極を言ふ。蓋し學者此に於し、諸を身に反求して、而して之れを自得し、以て夫の外誘の私を去て、而して其の(三)本然の善を充さんことを欲す。(四)楊氏の所謂一篇の體要是れなり。其の下十章は、蓋し(五)子思(六)夫子の言を引き、以て此章の義を終ふ。

(一) 君子が其の獨を愼むは、天より賦與せられたるものを存養し省察するにあるなり (二) 中和を致して天地位し萬物育すは、聖神功化の極なりといふべし (三) 人には本來具はる所の天性は善あり (四) 楊氏名は時、程氏の門人なり (五) 子思は孔子の孫 (六) 孔子

得焉。則終身用之。有不能盡者矣。

天命之謂性。率性之謂道。修道之謂敎。道也者不可須臾離也。可離非道也。是故君子戒愼乎其所不睹。恐懼乎其所不聞。莫見乎隱。莫顯乎微。故君子愼其獨也。喜怒哀樂之未發。謂之中。發而皆中節。謂之和。中也者。天下之大本也。和

(一)天の命ずる之れを性と謂ひ、(二)性に率ふ之れを道と謂ひ、(三)道を修むる之れを敎と謂ふ。(四)道なる者は、須臾も離る可からざるなり、離る可きは道に非ざるなり。是の故に(五)君子は(六)其の睹ざる所に戒愼し、其の聞かざる所に恐懼す。(七)隱れたるより見はるゝは莫く、(八)微なるより顯なるは莫し。故に君子は其の(九)獨を愼む。喜怒哀樂の未だ發せざる之れを(一〇)中と謂ひ、發して皆な(一一)節に中る之れを和と謂ふ。中なる者は、天下の大本なり。和なる者は、天下の(一二)達道なり。(一三)中和を致して、天地位し、萬物育す。

(一) 天が賦與する所の物を性と云ふ (二) 性のまゝに行ふを道と云ふ (三) その道を信じて修むる所に敎あり、以上を中庸性道敎の章と云ふ (四) 道の効用を說く、既に道と云ふ以上は人生に最も密邇なるなり (五) 有德者の意 (六) 敬畏すべき上からは人の見聞なしと云ふも忽にせず道に背かん事を愼み懼る (七) 薄暗き中に在る物程見はれ易い (八) 微細な事程顯になり易い (九) 萬象形を爲さずと雖も氣已に動き、人知らずと雖も已先づ知る、故に已一人居る時を愼む (一〇) その喜怒哀樂の情の起らずして平靜なるは卽ち性なり、偏倚せず故に中と云ふ (一一) 適度にして道に違はざるを和といふ、人情の正なるものにして卽ち和はなり、中は道の體、和の道の用なり (一二) 通じて行はるゝ道 (一三) 中和の二者行はれて天地も感應し萬物も生育す

子程子曰。不偏之謂中。不易之謂庸。中者天下之正道。庸者天下之定理。此篇乃孔門傳授心法。子思恐其久而差也。故筆之於書。以授孟子。其書始言一理。中散爲萬事。末復合爲一理。放之則彌六合。卷之則退藏於密。其味無窮。皆實學也。善讀者玩索而有

中庸

（一）子程子曰く、偏らざる之れを中と謂ひ、易らざる之れを庸と謂ふ。中は天下の正道、庸は天下の定理、此篇は乃ち孔門（二）傳授の心法。子思（三）其久しくして差はんことを恐る。故に之れを書に筆して以て孟子に授く。其書始めは一理を言ひ、中は散じて萬事と爲り、末復た合して一理と爲る。之れを放てば則ち六合（四）に彌り、之れを卷けば則ち密に退藏す。其味窮り無し。皆實學なり。善讀者の玩索して得る有らば、則ち終身之れを用ひて、盡す能はざる者あらん。

（一）子は男子の美稱、程子とは程明道程伊川の意　（二）孔子の門人　（三）孔子の孫　（四）天地四方

能因其語而得其心也。惜乎其所以爲說者不傳。而凡石氏之所輯錄。僅出於其門人之所記。是以大義雖明。而微言未析。至其門人所自爲說。則雖頗詳盡而多所發明。然倍其師說而淫於老佛者。亦有之矣。熹自蚤歲。卽嘗受讀而竊疑之。沈潛反復。蓋亦有年。一旦恍然似有以得其要領者。然乃敢會衆說而折其衷。旣爲定著章句一篇。以竢後之君子。而一二同志。復取石氏書。刪其繁亂。名以輯略。且記所嘗論辯取舍之意。別爲或問。以附其後。然後。此書之旨。支分節解。脈絡貫通。詳略相因巨細畢擧。而凡諸說之同異得失。亦得以曲暢旁通。而各極其趣。雖於道統之傳。不敢妄議。然初學之士。或有取焉。則亦庶乎行遠升高之一助云爾。淳熙己酉春三月戊申。新安朱熹序。

之大事。而其授受之際。丁寧告戒。不過如此。則天下之理。豈有以加於此哉。自是以來。聖聖相承。若成湯文武之爲君。皐陶伊傅周召之爲臣。既皆以此而接夫道統之傳。若吾夫子。則雖不得其位。而所以繼往聖。開來學。其功反有賢於堯舜者。然當是時。見而知之者。惟顏氏曾氏之傳得其宗。及曾氏之再傳。而復得夫子之孫子思。則去聖遠而異端起矣。子思懼夫愈久而愈失其眞也。於是推本堯舜以來相傳之意。質以平日所聞父師之言。更互演繹作爲此書。以詔後之學者。蓋其憂之也深。故其言之也切。其慮之也遠。故其說之也詳。其曰天命率性。則道心之謂也。其曰擇善固執。則精一之謂也。其曰君子時中。則執中之謂也。世之相後千有餘年。而其言之不異。如合符節。歷選前聖之書。所以提挈綱維。開示蘊奧。未有若是之明且盡者也。自是而又再傳以得孟氏。爲能推明是書。以承先聖之統。及其沒而遂失其傳焉。則吾道之所寄。不越乎言語文字之間。而異端之說。日新月盛。以至於老佛之徒出。則彌近理而大亂眞矣。然而尚幸此書之不泯。故程夫子兄弟者出。得有所考。以續夫千載不傳之緒。得有所據以斥夫二家似是之非。蓋子思之功。於是爲大。而微程夫子。則亦莫

中庸章句序

中庸何爲而作也。子思子憂道學之失其傳而作也。蓋自上古聖神。繼天立極。而道統之傳。有自來矣。其見於經。則允執厥中者。堯之所以授舜也。人心惟危。道心惟微。惟精惟一。允執厥中者。舜之所以授禹也。堯之一言。至矣盡矣。而舜復益之以三言者。則所以明夫堯之一言、必如是而後可庶幾也。蓋嘗論之。心之虛靈知覺一而已矣、而以爲有人心道心之異者。則以其或生於形氣之私。或原於性命之正。而所以爲知覺者不同。是以或危殆而不安。或微妙而難見耳。然人莫不有是形。故雖上智不能無人心。亦莫不有是性。故雖下愚不能無道心。二者雜於方寸之間。而不知所以治之。則危者愈危。微者愈微。而天理之公、卒無以勝夫人欲之私矣。精則察夫二者之間而不雜也。一則守其本心之正而不離也。從事於斯。無少間斷。必使道心常爲一身之主。而人心每聽命焉。則危者安。微者著。而動靜云爲。自無過不及之差矣。夫堯舜禹。天下之大聖也。以天下相傳。天下之大事也。以天下之大聖行天下

大學終

唯仁人爲能愛人能惡人。見賢而不能擧。擧而不能先命也。見不善而不能退。退而不能遠過也。好人之所惡。惡人之所好。是謂拂人之性。菑必逮夫身。是故君子有大道。必忠信以得之。驕泰以失之。生財有大道。生之者衆。食之者寡。爲之者疾。用之者舒。則財恆足矣。仁者以財發身。不仁者以身發財。未有上好仁而下不好義者也。未有好義其事不終者也。未有府庫財非其財者也。孟獻子曰。畜馬乘不察於雞豚。伐冰之家。不畜牛羊。百乘之家不畜聚斂之臣。與其有聚斂之臣。寧有盜臣。此謂國不以利爲利以義爲利也。長國家而務財用者。必自小人矣。彼爲善之。小人之使爲國家。菑害竝至。雖有善者。亦無如之何矣。此謂國不以利爲利以義爲利也。

右傳之十章。釋治國平天下。

凡傳十章。前四章。統論綱領指趣。後六章細論條目工夫。其第五章。乃明善之要。第六章乃誠身本。在初學尤爲當務之急。讀者不可以其近而忽之也。

凡そ傳十章、前四章は綱領の指趣を統論し、後六章は、條目の工夫を細論す。其第五章は乃ち善を明にするの要、第六章は乃ち身に誠なるの本、初學に在りて尤も當に務むべきの急と爲す。讀者は其近きを以てして之れを忽にす可からざるなり。

● 大もとの筋

休焉。其如有容焉。人之有技。若己有之。人之彥聖。其心好之。不啻若自其口出。寔能容之。以能保我子孫黎民。尚亦有利哉。人之有技。媢疾以惡之。人之彥聖。而違之俾不通。寔不能容。以不能保我子孫黎民。亦曰殆哉。唯仁人放流之。迸諸四夷。不與同中國。此謂

(一) 上にある者が老者を老者として尊敬すれば民は親に孝を爲すに至る (二) 親なし子 (三) 上の意にそむかず (四) 我が心を規矩として人の心をはかる方法即ち恕のことなり、絜矩の道は善く其の己れに有る所を持して人を思ひやるとにて治國の要全くこゝに在り (五) 詩經小雅南山有臺篇の詩 (六) 只は助字にして樂只はたのしむの意なり (七) 詩經小雅節南山の篇の詩 (八) 高大の貌 (九) 周の都の南に在る終南山 (一〇) 山の石の人目につくこと (一一) 世に時めく (一二) 師尹は文王の大臣にて政を爲す者 (一三) 道を失ふなり (一四) 身を弑せられ國を亡ひて天下の大戮となる (一五) 詩經大雅文王の篇の詩 (一六) 民衆 (一七) 德能く天に配す (一八) 手本にする (一九) 大命 (二〇) 民に財を劫奪する情を敎へ施す (二一) 財が上に聚れば民は四方に散り (二二) 君命道に逆うて出づれば民亦君命にさかふ (二三) 財貨道に逆うて上に入れば國亂れて之れを失ふ (二四) 書經の篇名 (二五) 天命は常に一家のみを祐けざるなり (二六) 天命 (二七) 楚の昭王の時の記錄ならん、今日にては其の如何なる書なりしか不明 (二八) 晉の文公の舅、狐偃なり (二九) 國を出亡したる人即ち晉の公子重耳、後の文公なり (三〇) 仁と愛と或は曰く仁人と親戚 (三一) 書經の篇名 (三二) 一人の臣 (三三) 寬容なること (三四) 美士を彥となす (三五) 人民 (三六) ねたみにくむ (三七) 前の人を容るゝ能はざるものを指す (三八) 同上 (三九) 己より先に立てる (四〇) 命は讀みて慢となす怠慢の意 (四一) 節度あるをいふ (四二) 仁人は財あれば施與をつとめ身を起し令名をなす (四三) 魯の大夫、仲孫蔑なり (四四) 士の初めて大夫と爲る者は鷄豚の細利に人民と利を爭はず (四五) 卿大夫以上のものにて喪祭に氷を用ふるものなり (四六) 兵車百乘を出す領土を有せる家にては主家の腹を肥すやうなために租稅を多く取り上げる如き臣を用ひず、これ人民が恨む故なり (四七) 小人の利を以てす (四八) わざわひがついで起る (四九) 國を治むるには

唯仁人爲能愛人能惡人。見賢而不能擧。擧而不能先命也。見不善而不能退。退而不能遠過也。好人之所惡。惡人之所好。是謂拂人之性。菑必逮夫身。是故君子有大道。必忠信以得之。驕泰以失之。生財有大道。生之者衆。食之者寡。爲之者疾。用之者舒。則財恒足矣。仁者以財發身。不仁者以身發財。未有上好仁而下不好義者也。未有好義其事不終者也。未有府庫財非其財者也。孟獻子曰。畜馬乘不察於雞豚。伐冰之家。不畜牛羊。百乘之家不畜聚斂之臣。與其有聚斂之臣。寧有盜臣。此謂國不以利爲利以義爲利也。長國家而務財用者。必自小人矣。彼爲善之。小人之使爲國家。菑害並至。雖有善者。亦無如之何矣。此謂國不以利爲利以義爲利也。

右傳之十章。釋治國平天下。

凡傳十章。前四章。統論綱領指趣。後六章細論條目工夫。其第五章。乃明善之要。第六章乃誠身本。在初學尤爲當務之急。讀者不可以其近而忽之也。

凡そ傳十章、前四章は綱領（一）の指趣を統論し、後六章は、條目の工夫を細論す。其第五章は乃ち善を明にするの要、第六章は乃ち身に誠なるの本、初學に在りて尤も當に務むべきの急と爲す。讀者は其近きを以てして之れを忽にす可からざるなり。

（一）大もとの筋

休焉。其如有容焉。人之有技。若己有之。人之彥聖。其心好之。不啻若自其口出。寔能容之。以能保我子孫黎民。尚亦有利哉。人之有技。媢疾以惡之。人之彥聖。而違之俾不通。寔不能容。以不能保我子孫黎民。亦曰殆哉。唯仁人放流之。迸諸四夷。不與同中國。此謂

（一）上にある者が老者を老者として尊敬すれば民は親に孝を爲すに至る（二）親なし子（三）上の意にそむかず（四）我が心を規矩として人の心をはかる方法卽ち絜のことなり、絜矩の道は善く其の己れに有る所を持して人を思ひやるとにて治國の要全くこゝに在り（五）詩經小雅南山有臺篇の詩（六）只は助字にして樂只はたのしむの意なり（七）詩經小雅節南山の篇の詩（八）高大の貌（九）周の都の南に在る終南山（一〇）山の石の人目につくこと（一一）世に時めく（一二）師尹は文王の大臣にて政を爲す者（一三）道を失ふなり（一四）身を弑せられ國を亡ひて天下の大戮となる（一五）詩經大雅文王の篇の詩（一六）民衆（一七）德能く天に配す（一八）手本にする（一九）大命（二〇）民に財を劫奪する情を教へ施す（二一）財が上に聚れば民は四方に散り（二二）君命道に逆うて出づれば民亦君命にさかふ（二三）財貨道に逆うて上に入れば國亂れて之れを失ふ（二四）書經の篇名（二五）天命は常に一家のみを祐けざるなり（二六）天命（二七）楚の昭王の時の記錄ならん、今日にては其の如何なる書なりしか不明（二八）晉の文公の舅、狐偃なり（二九）國を出亡したる人卽ち晉の公子重耳、後の文公なり（三〇）仁と愛と或は曰く仁人と親戚（三一）書經の篇名（三二）一人の臣（三三）寬容なること（三四）美士を彥となす（三五）人民（三六）ねたみにくむ（三七）前の人を容るゝ能はざるものを指す（三八）同上（三九）己より先に立てる（四〇）命は讀みて慢となす怠慢の意（四一）節度あるをいふ（四二）仁人は財あれば施與をつとめ身を起し令名をなす（四三）魯の大夫、仲孫蔑なり（四四）士の初めて大夫と爲る者は鷄豚の細利に人民と利を爭はず（四五）卿大夫以上のものにて喪祭に氷を用ふるものなり（四六）兵車百乘を出す領土を有せる家にては主家の腹を肥すやうなために租稅を多く取り上げる如き臣を用ひず、これ人民が恨む故なり（四七）小人の利を以てす（四八）わざわひがついて起る（四九）國を治むるには

爭ㇾ民施ㇾ奪。是故財聚則民散。財散則民聚。是故言悖而出者。亦悖而入。貨悖而入者。亦悖而出。康誥曰。惟命不ㇾ于ㇾ常。道ニ善則得ㇾ之。不善則失上之矣。楚書曰。楚國無ニ以爲上寶。惟善以爲ㇾ寶。舅犯曰。亡人無ニ以爲上寶。仁親以爲ㇾ寶。秦誓曰。若有ニ一个臣一。斷斷兮。無ニ他技一。其心休

に君子は大道有り、必ず忠信以て之れを得、驕泰以て之れを失ふ。財を生ずるに大道有り。之れを生ずる者衆く、之れを食する者寡く、之れを爲る者疾く、之れを用ふる者舒(四一)なれば、財恆に足る。仁者(四二)は財を以て身を發し、不仁者は身を以て財を發す。未だ上仁を好んで、下義を好まざる者あらざるなり。未だ義を好みて其事終へざる者あらざるなり。未だ府庫の財其財にあらざる者有らざるなり。孟獻(四三)子曰く、馬乘(四四)を畜へば、雞豚を察せず、伐冰(四五)の家には、牛羊を畜はず、百乘(四六)の家には、聚斂の臣を畜はず、其の聚斂の臣有らん與りは、寧ろ盜臣有れと。此れを國は利を以て利と爲さず、義を以て利と爲すと謂ふ。國家に長として財用を務むる者は、必ず小人(四七)に自る。彼之れを善するを爲して、小人に之れ國家を爲め使むれば、菑害(四八)並び至る、善者有りと雖も、亦之れを如何ともする無し。此れを國は利を以て利と爲さず、義を以て利と爲すと謂ふなり。

右傳(四九)の十章、國を治め天下を平にするを釋す。

彼南山。維石巖巖。赫赫師尹。民具爾瞻。有レ國者不レ可二以不一レ愼。辟則爲二天下僇一矣。詩云。殷之未レ喪レ師。克配二上帝一。儀レ監二于殷一。峻命不レ易。道二得レ衆則得レ國。失レ衆則失レ國。是故君子先愼二乎德一。有レ德此有レ人。有レ人此有レ土。有レ土此有レ財。有レ財此有レ用。德者本也。財者末也。外レ本內レ末。

楚書(二七)に曰く、楚國は以て寶と爲す無し、惟善以て寶と爲すと。舅犯(二八)曰く、亡人(二九)は以て寶と爲す無し、仁親(三〇)以て寶と爲すと。秦誓(三一)に曰く、若し一个(三二)の臣有らん、斷斷として他技無く、其心休休(三三)として、其れ容るゝ有るが如し。人の技有る、己之れ有るが若く、人の彥聖(三四)なる、其心に之れを好し、啻に其口より出すが若きのみならず、寔に能く之れを容る、以て能く我が子孫黎民(三五)を保ぜん。尙はくは亦利有らん。人の技有る、媢疾(三六)して以て之れを惡くみ、人の彥聖なる、而も之れに違ひて通ぜざら俾む、寔に容るゝ能はず、以て我が子孫黎民を保ずる能はず、亦曰に殆きかな。唯仁人(三七)は之れを放流し、諸を四夷に迸(三八)けて、與に中國を同じうせず。此を唯仁人は能く人を愛し能く人を惡くむを爲すと謂ふ。賢を見て而も擧ぐる能はず、擧げて而して先(三九)ずる能はざるは命(四〇)なり。不善を見て而して退くる能はず、退けて而して遠くる能はざるは過なり。人の惡くむ所を好み、人の好む所を惡くむ。是れを人の性に拂ると謂ふ。菑必ず夫の身に逮ぶ。是の故

倍。是以君子有二絜矩之道一也。所レ惡二於上一。毋二以使一レ下。所レ惡二於下一。毋二以事一レ上。所レ惡二於前一。毋二以先一レ後。所レ惡二於後一。毋二以從一レ前。所レ惡二於右一。毋三以交二於左一。所レ惡二於左一。毋三以交二於右一。此之謂二絜矩之道一。詩云。樂只君子。民之父母。民之所レ好好レ之。民之所レ惡惡レ之。此之謂二民之父母一。詩云。節

右に惡む所は、以て左に交はる毋れ。左に惡む所は、以て右に交はる毋れ。此を之れ絜矩の道と謂ふ。(五)詩に云ふ、(六)樂只の君子は、民の父母と。民の好む所は之れを好み、民の惡む所は之れを惡む。此を之れ民の父母と謂ふ。(七)詩に云ふ、(八)節たる彼の南山(九)、維れ石巖巖(一〇)、赫赫たる(一一)師尹(一二)、民具に爾を瞻ると。國を有つ者以て愼まずんばある可からず。(一三)辟すれば則ち天下の(一四)僇と爲る。(一五)詩に云ふ、殷の未だ師を(一六)喪はざるや、(一七)克く上帝に配す。儀く殷に監みるべし。(一八)峻命易からずと。(一九)衆を得れば則ち國を得、衆を失へば則ち國を失ふを道ふ。是の故に君子は先づ德を愼む。德有れば此れ人有り。人有れば此れ土有り。土有れば此れ財有り、財有れば此れ用有り。德は本なり、財は末なり。本を外にして末を内にすれば、民を爭はしめて奪ふを施す。(二〇)是の故に財聚れば(二一)則ち民散じ、財散ずれば則ち民聚る。是の故に言悖りて(二二)出づれば、亦悖りて入り、貨悖りて入れば(二三)、亦悖りて出づ。(二四)康誥に曰く、惟れ命常に(二五)于てせずと。善なれば之れを得(二六)、不善なれば之れを失ふを道ふ。

帥二天下一以レ暴。而民從レ之。其所レ令。反二其所一レ好。而民不レ從。是故君子有二諸己一而后求二諸人一。無二諸己一而后非二諸人一。所レ藏二乎身一不レ恕。而能喩二諸人一者。未二之有一也。故治レ國在レ齊二其家一。詩云。桃之夭夭。其葉蓁蓁。之子于歸。宜二其家人一。宜二其家人一而后可三以教二國人一。詩云。宜レ兄宜レ弟。宜レ兄宜レ弟。而后可三以教二國人一。詩云。其儀不レ忒。正二是四國一。其爲二父子兄弟一足レ法。而后民法レ之也。此謂二治レ國在一レ齊二其家一。右傳之九章。釋二齊レ家治一レ國。

治むるは其家を齊ふるに在りと謂ふ。

右傳の九章、家を齊へ國を治むるを釋す。

(一)弟の道　(二)書經の篇名　(三)生れたての子　(四)貪慾の心あるなり　(五)はづみ　(六)古への聖王　(七)古への亂暴の君　(八)命令　(九)非として正す　(一〇)思ひやる心　(一一)人に道をさとすなり　(一二)詩經周南桃夭の篇の詩　(一三)夭夭蓁蓁は美しく盛なるをいふ　(一四)婦人の嫁するを歸といふ　(一五)詩經小雅蓼蕭篇の詩　(一六)詩經曹風鳲鳩篇の詩　(一七)君子の威儀たがはざるなり　(一八)四方隅々の國の意にて一國內全體のこと

所レ謂平二天下一在レ治二其國一者。上老レ老而民興レ孝。上長レ長而民興レ弟。上恤レ孤。而民不レ

所謂天下を平にするは其國を治むるに在りとは、上老を老として民孝に興り、上長を長として民弟に興り、上孤を恤みて(一)民倍かず(二)。是を以て君子は絜矩(三)の道有るなり。上に惡む所は、以て下を使ふ毋れ。下に惡む所は、以て上に事ふる毋れ。前に惡む所は、以て後に先ずる毋れ。後に惡む所は、以て前に從ふ毋れ。

教於國。孝者。所ニ以事レ君也。弟者。所ニ以事レ長也。慈者。所ニ以使レ衆也。康誥曰。如レ保ニ赤子一。心誠求レ之。雖レ不レ中不レ遠矣。未レ有下學レ養レ子。而后嫁者上也。一家仁。一國興レ仁。一家讓一國興レ讓。一人貪戾。一國作レ亂。其機如レ此。此謂ニ一言僨レ事。一人定レ國。堯舜帥ニ天下一以レ仁。而民從レ之。桀紂

未だ子を養ふを學びて、而して后嫁する者有らざるなり。 一家仁なれば、一國仁に興る。 一家讓なれば、一國讓に興る、一人貪戾(四)なれば、一國亂を作す、其機(五)此の如し。此れを一言事を僨り、一人國を定むと謂ふ。堯(六)舜天下を帥ゐるに仁を以てして、民之れに從ひ、桀紂(七)天下を帥ゐるに暴を以てして、民之れに從ふ。其の令(八)する所は其の好む所に反して、民從はず。是の故に君子は諸を己に有りて、而して后諸を人に求め、諸を己に無くして、而して后諸を人に非(九)とす。身に藏する所恕(一〇)ならずして、而して能く諸を人に喩(一一)す者は、未だ之れ有らざるなり。故に國を治むるは其家を齊ふるに在り。詩(一二)に云ふ、桃の夭夭(一三)たる、其葉蓁蓁たり。之の子于に歸ぐ(一四)、其家人に宜しと。其家人に宜しくして、而して后以て國人を教ふ可し。詩(一五)に云ふ、兄に宜しく弟に宜しと。兄に宜しく弟に宜しくして、而して后以て國人を教ふ可し。詩(一六)に云ふ、其義(一七)忒はず、是の四國(一八)を正すと。其の父子兄弟たる法るに足つて、而して后民之れに法るなり。 此れを國を

愛而辟焉。之其所賤惡而辟焉。之其所畏敬而辟焉。之其所哀矜而辟焉。之其所敖惰而辟焉。故好而知其惡。惡而知其美者。天下鮮矣。故諺有之曰。人莫知其子之惡。莫知其苗之碩。此謂身不脩不可以齊其家。右傳之八章。釋脩身齊家。

辟す、其の敖惰(五)する所に之て辟す。故に好みて其惡を知り、惡みて其美を知る者は、天下に鮮し(六)。故に諺に之れ有り、曰く、人其子の惡を知る莫く、其苗の碩なるを知る莫しと(七)。此れ身脩まらざれば以て其家を齊ふ可からずと謂ふ。

右傳の八章は、身を脩め家を齊ふるを釋す。

(一) かたよるなり　(二) 賤みにくむなり　(三) おそれうやまふなり　(四) あはれみあはれむ　(五) 輕んじ薄んず　(六) 殆ど無しの意　(七) 人情として自分の苗を小なりとして不足に思ひ、苗の大に育ちたるを知らず、即ち惡みて其美を知らざるなり

所謂治國。必先齊其家者。其家不可教。而能教人者無之。故君子不出家而成

所謂國を治るには必ず先づ其家を齊ふとは、其家教ふ可からずして、而して能く人を教ふる者之れ無し。故に君子は家を出でずして、教を國に成す。孝は君に事ふる所以なり、弟(一)は長に事ふる所以なり、慈は衆を使ふ所以なり。康誥(二)に曰く、赤子(三)を保ずるが如しと。心誠に之を求めば、中らずと雖も遠からず。

所謂脩身在正其心者。身有所忿懥。則不得其正。有所恐懼。則不得其正。有所好樂。則不得其正。有所憂患。則不得其正。心不在焉。視而不見。聽而不聞。食而不知其味。此謂脩身在正其心。

所謂身を脩むるは其心を正しうするに在りとは、身忿懥(一)(二)する所有れば、則ち其正を得ず、恐懼(三)する所あれば、則ち其正を得ず、好樂(四)する所あれば、則ち其正を得ず、憂患(五)する所あれば、則ち其正を得ず。心焉に在らざれば、(六)視れども見えず、聽けども聞えず、食へども其味を知らず。此れ身を脩むるは其心を正しうするに在りと謂ふ。

右傳之七章釋正心脩身。

右傳の七章は、心を正しくし身を脩むるを釋す。

(一) 程子曰く、身の字當に心に作るべしと。一説に身と云へば心をも兼ぬと (二) 怒るなり (三) おそれおそれるなり (四) 好みたのしむ (五) 心配 (六) 心が身に添はぬ時は物を視ても見えぬ

所謂齊其家。在脩其身者。人之其所親

所謂其家を齊ふるは、其身を脩むるに在りとは、人其の親愛する所に之て辟す、(一)其の賤惡(二)する所に之て辟す、其の畏敬(三)する所に之て辟す、其の哀矜(四)する所に之て

所レ謂誠ニ其意一者。毋ニ自欺一也。如レ惡ニ惡臭一。如レ好ニ好色一。此之謂ニ自謙一。故君子必愼ニ其獨一也。小人閒居爲ニ不善一。無レ所レ不レ至。見ニ君子一而后厭然揜ニ其不善一。而著ニ其善一。人之視レ己。如レ見ニ其肺肝一然。則何益矣。此謂下誠ニ於中一形中於外上。故君子必愼ニ其獨一也。曾子曰。十目所レ視。十手所レ指。其嚴乎。富潤レ屋。德潤レ身。心廣體胖。故君子必誠ニ其意一。

右傳之六章。釋レ誠レ意。

所謂其意を誠にすとは、自ら欺く毋きなり。惡臭を惡むが如く、好色を好むが如し。此を之れ自ら謙す(一)と謂ふ。故に君子は必ず其の獨を愼むなり。小人閒居(二)して不善を爲す、至らざる所なし。君子を見て而る后厭然(三)として、其不善を揜ひて、其の善を著はす。人の己を視ること、其肺肝(四)を見るが如く然り。則ち何ぞ益あらん。此を中に誠あれば、外に形はると謂ふ。故に君子は必ず其獨を愼むなり。曾子曰く、(五)十目の視る所、十手の指す所、其れ嚴(六)なるかなと。富は屋を潤し、德は身を潤す、(七)心廣く體胖なり。故に君子は必ず其意を誠にす。

右傳の六章は、意を誠にすることを釋す。

(一) 心にこゝろよきなり　(二) 獨りゐるなり　(三) 心にいやに思ふなり　(四) 腹のどん底　(五) 多くの人の視る所指して批評すること　(六) 畏るべきの甚しきなり　(七) 德あれば心は廣大寛平にて落ちつきあるなり

蓋釋二格物致知之義一。而今亡矣。間嘗竊取二程子之意一。以補レ之。曰。所レ謂致レ知在レ格レ物者。言欲レ致二吾之知一。在三卽レ物而窮二其理一也。蓋人心之靈。莫レ不レ有レ知。而天下之物。莫レ不レ有レ理。惟於レ理有レ未レ窮。故其知有レ不レ盡也。是以大學始敎。必使下學者卽二凡天下之物一。莫上レ不下因二其已知之理一。而益窮レ之以求上レ至二乎其極一。至二於用レ力之久一。而一旦豁然貫通一焉。則衆物之表裏精粗無レ不レ到。而吾心之全體大用。無レ不レ明矣。此謂二物格一。此謂二知之至一也。

に程子の意を取つて、以て之を補ふ(一)。曰く、所謂知を致すは物に格るに在りとは、言ふこゝろは吾の知を致さんと欲するは、物に卽きて其理を窮むるに在るなり。蓋し人心の靈、知有らざる莫し。而して天下の物、理有らざる莫し。惟理に於て未だ窮めざる有り。故に其知盡くさざる有るなり。是を以て大學の始めの敎は、必ず學者をして凡そ天下の物に卽き、其の已に知るの理に因つて益〻之を窮めて、以て其極に至るを求めざる莫からしむ。力を用ふるの久しく、一旦豁然(二)として貫通するに至つては、則ち衆物の表裏精粗、到らざる無く、吾が心の全體大用、明ならざるなし。此を物の格ると謂ひ、此を知の至ると謂ふなり。

(一) 朱子次の一文を補ふ也　(二) 其心忽ち大なる光明を得て萬理自ら通じ吾が心の體用皆明かなるをいふ

自脩也。瑟兮僩兮者、恂慄也。赫兮喧兮者。威儀也。有斐君子。終不可諠兮者。道盛德至善民之不能忘也。詩云。於戲前王不忘。君子賢其賢而親其親。小人樂其樂而利其利。此以沒世不忘也。右傳之三章。釋止於至善。

やあること (一六)切磋琢磨とは骨を折りて勉強すること (一七)嚴密なるかたち (一八)ふるいをののく (一九)學問修德の功をつめば德內に明にして自然にそれが外にあらはれ威儀盛美內と外とが一致し表と裏とが相應して至善なり、故に民永く之れを愛慕するをいふ (二〇)詩經周頌烈文之篇 (二一)歎辭 (二二)周の文王武王をさしていふ

子曰。聽訟吾猶人也。必也使無訟乎。無情者。不得盡其辭。大畏民志。此謂知本。右傳之四章。釋本末。

此謂知本。此謂知之至也。右傳之五章。

子曰く、訟を聽くは吾れ猶ほ人のごときなり、(一)必ずや訟無からしめんかと。(二)情なき者は其辭を盡すを得ず、大に民志を畏れしむ、此を本を知ると謂ふ。(三)

右傳の四章は、本末を釋す。

(一)他の人と異ならず (二)必ず訴訟事件なからしめん (三)本末先後

(一)此れを本を知ると謂ふ。(二)此れを知の至ると謂ふなり。

(一)此一句衍文ならんといふ (二)此一句は上文缺文となり結句の殘留せるものといふ

右傳の五章は、蓋し格物致知の義を釋す。而して今は亡びたり。間嘗て竊

人而不如鳥乎。詩云。穆穆文王。於緝熙敬止。爲人君。止於仁。爲人臣。止於敬。爲人子。止於孝。爲人父。止於慈。與國人交。止於信。詩云。瞻彼淇澳。菉竹猗猗。有斐君子。如切如磋。如琢如磨。瑟兮僩兮。赫兮喧兮。有斐君子。終不可諠兮。如切如磋者。道學也。如琢如磨者。

ては、慈に止まり、國人と交れば、信に止まる。詩に云ふ、(一一)彼の淇澳を瞻れば(一二)菉竹猗猗たり。(一三)(一四)斐たる君子有り、(一五)切するが如く磋するが如く、琢するが如く磨するが如し。(一六)瑟たり僩たり、赫たり喧たり、斐たる君子有り、終に諠る可からずと。(一七)切するが如く磋するが如しとは、學を道ふなり。琢するが如く磨するが如しとは、自ら脩むるなり。瑟たり僩たりとは、(一八)恂慄なり。赫たり喧たりとは、威儀なり。斐たる君子有り、終に諠る可からずとは、(一九)盛德至善、民の忘るゝ能はざるを道ふなり。(二〇)詩に云ふ、(二一)於戲、(二二)前王忘られずと。君子は其賢を賢として其親を親とす、小人は其樂みを樂みて、其利を利とす、此を以て世を沒へて忘られざるなり。

右傳の三章は、至善に止るを釋す。

(一)詩經の商頌玄鳥の篇なり (二)邦畿は王者の畿内なり (三)詩經小雅緜蠻の篇 (四)鳥の聲 (五)隅の邪暗くて靜な所 (六)孔子 (七)詩經文王の篇 (八)深く遠きかたち (九)ほめることば (一〇)緝はつゞき、熙は光明あるなり (一一)詩經衞風淇澳の篇 (一二)淇水は水の名、澳はくま (一三)綠なる竹 (一四)美盛のかたち (一五)あ

峻德。皆自明也。

右傳之首章。釋明明德。

湯之盤銘曰。苟日新。日日新。又日新。康誥曰。作新民。詩曰。周雖舊邦。其命維新。是故君子無所不用其極。

右傳之二章。釋新民。

詩云。邦畿千里。惟民所止。詩云。緡蠻黃鳥。止于丘隅。子曰。於止知其所止。可以

右傳の首章、明德を明にするを釋す。

(一)周書の篇名　(二)商書の篇名　(三)一說に諟の字を「ツマビラカニス」と訓ず　(四)堯典虞書　(五)大なる德

(一)湯の(二)盤の(三)銘に曰く、苟に日に新に、日日に新にして、又日に新なりと。康誥に曰く、(四)新民を作すと。(五)詩に曰く、周は舊邦と雖も、其の命維れ新なりと。是の故に君子は、(六)其極を用ひざる所なし。

右傳の二章、民を新にするを釋す。

(一)殷の湯王　(二)沐浴する所の盤なり　(三)其器にほりつけて自ら警しむることば　(四)自新の民を振起す　(五)詩經大雅文王篇の詩　(六)至善に止まるを欲するなり

(一)詩に云ふ、(二)邦畿千里、惟れ民の止る所と。(三)詩に云ふ、(四)緡蠻たる黃鳥は、(五)丘隅に止ると。(六)子曰く、止るに於て、其の止る所を知る、人を以てして鳥に如かざる可んやと。(七)詩に云ふ、(八)穆穆たる文王は、(九)(一〇)於緝熙にして敬止すと。人君と爲りては、仁に止まり、人臣と爲りては、敬に止まり、人子と爲りては、孝に止まり、人父と爲り

后知至。知至而后意誠。意誠而后心正。心正而后身脩。身脩而后家齊。家齊而后國治。國治而后天下平。自天子以至於庶人。壹是皆以脩身爲本。其本亂而末治者否矣。其所厚者薄。而其所薄者厚。未之有也。

(七) 知を致すの知は朱子の說にては汎くいふ所の知識なりとすれど、實は道德的價値判斷における知識をいふが如し (八) 物事の道理を自分から進みて推し極むること、一說に己の良知を致すと解して「物ヲイタス」と訓ず (九) 普通一般の人 (一〇) 齊家、治國、平天下は皆修身に基づくを謂ふ (一一) 修身を謂ふ (一二) 治國、平天下をいふなり

右經一章。蓋孔子之言而曾子述之。其傳十章。則曾子之意。而門人記之也。舊本頗有錯簡。今因程子所定。而更考經文。別爲序次如左。

右經一章は、蓋し孔子の言にして曾子(一)之れを述ぶ。其傳十章は、則ち曾子の意にして、門人之れを記す。舊本頗る錯簡(二)あり、今程子の定むる所に因りて、更に經文を考へ、別に序次(三)を爲すこと左の如し。

(一) 孔子の弟子、名は參、孝行を以て名高く躬行實踐的の人なり (二) 入りちがへ (三) 次第順序をつけること

康誥曰。克明德。大甲曰。顧諟天之明命。帝典曰。克明

(一)康誥に曰く、克く德を明にす。(二)大甲に曰く、(三)諟の天の明命を顧みる。(四)帝典に曰く、克く(五)峻德を明にす。皆自ら明にするなり。

能靜。靜而后能安。安而后能慮。慮而后能得。物有二本末一。事有二終始一。知レ所二先後一則近レ道矣。古之欲レ明二明德於天下一者。先治二其國一。欲レ治二其國一者。先齊二其家一。欲レ齊二其家一者。先脩二其身一。欲レ脩二其身一者。先正二其心一。欲レ正二其心一者。先誠二其意一。欲レ誠二其意一者。先致二其知一。致レ知在レ格レ物。物格而

知れば、則ち道に近し。古の明德を天下に明にせんと欲する者は、先づ其國を治む。(六)其國を治めんと欲する者は、先づ其家を齊ふ。其家を齊へんと欲する者は、先づ其身を脩む。其身を脩めんと欲する者は、先づ其心を正しくす。其心を正しくせんと欲する者は、先づ其意を誠にす。其意を誠にせんと欲する者は、先づ其知を致す。(七)知を致すは物に格るに在り。(八)物格りて而して后に知至る。知至りて而して后に意誠なり。意誠にして而して後に心正し。心正しくして而して后に身脩る。身脩りて而して后に家齊ふ。家齊うて而して后に國治まる。國治まりて而して后に天下平なり。天子自り以て庶人(九)に至るまで、壹に是れ皆身を脩むるを以て本と爲す。其本(一一)亂れて而して末(一二)治まる者否ず、其の厚き所の者薄(一〇)くして、而して其の薄き所の者厚きは未だ之れ有らざるなり。

(一) 大人の學ぶべき道　(二) 人の心に本來具有する德卽ち中庸のいはゆる性なり　(三) 親は新の義なり、人心を倦まざらしむる意なり。或は親は親愛なりしと解し「民に親しむ」と訓ず　(四) 至善に止まること、后は後に同じ　(五) 物事につきて本末終始を知ればやがて正にそれを行ふ事となるを以て大學の道に近し　(六) 國は天下の一部分なり

子程子曰。大學孔氏之遺書而初學入ㇾ德之門也。於ㇾ今可ㇾ見㆓古人爲ㇾ學次第㆒者。獨賴㆓此篇之存㆒。而論孟次ㇾ之。學者必由ㇾ是而學焉。則庶㆓乎其不㆒ㇾ差矣。

大學

(一)子程子の曰く、大學は、孔氏の遺書にして、初學德に入るの門なり。今に於て、古人學を爲す次第を見る可き者、獨り此篇の存するに賴る。而して(二)論孟之れに次ぐ。學者必ず是れに由りて學ばば、則ち其の差はざるに庶からん。

(一) 子とは男子の美稱、程子とは程明道程伊川の兄弟の稱、其學同じきを以て概稱して程子と云へるなり　(二) 論語孟子

大學之道。在ㇾ明㆓明德㆒。在ㇾ親ㇾ民。在ㇾ止㆓於至善㆒。知ㇾ止而后有ㇾ定。定而后

(一)大學の道は、(二)明德を明にするに在り、民を(三)親にするに在り、至善に止るに在り。(四)止るを知りて后定まる有り、定まりて后能く靜に、靜にして后能く安し、安くして后能く慮る、慮りて后能く得。(五)物に本末有り、事に終始有り、先後する所を

人往々孟子を民主主義者なるかの如く言ふも、實は然らず、儒教には元來民の爲めに君を立つと云ふ思想有り、此れ民主主義と相似て而して非なり。孟子は當時の國君等が人民を殆ど機械視し、名は國家の富强を圖ると云ふも、實は自己の富强權勢を高めんとするにあるを慨し、民の爲めにすべきことを高調せり、其の言時に矯激に過ぐるを以て不用意に讀み去る者誤りて民主主義と爲すのみ。

孔子、子思、孟子の事蹟等は之を略す。

文學博士　服部宇之吉

化を來せり。加之孟子は仁義の外に猶ほ禮智を加へ、此の四者は人性に本來具はれるものを發達實現せしめて成れる德なりと爲し、遂に漢に至りて更に信を加へて所謂五常說の成る本を爲せり。

孟子の政治主義 孟子の時代に政治に關して帝道、王道及び覇道の說有り、帝道は老莊一流の主義、覇道は獨逸流の軍國主義にして種々の學者之を唱へたり、孟子は儒教本來の主義たる王道を主張せり。孟子は又仁政といふ語を用ひたるが、畢竟同一意味なり。王道は仁義を以て本と爲すものにして、卽ち德治主義なり。但孟子は當時の社會は各國富强を競ふの結果、經濟情態一變し國民の生活甚だしく不安定に陷りしを慨し、王道の第一着手は國民生計の基礎を立つるに在りとして、古の井田制を主張し、生活を安定ならしめて然る後に教育を施すべしと論ぜり。但孟子は其の持論を實行するの機會を得ざりしを以て王道に關する施設の具體的案を示さず、井田に關して稍〻詳細の說を見るのみ。

共同生活を無視すればなり、共同生活は仁を本と爲し仁によりて維持せらる、儒教に謂ふところの差等は仁の上に立ち仁の裡に行はる、然るに楊朱は仁を知らず、故に其の差別觀は眞の義にあらず。他の學者の說は聖人の道と明白に相異なりて人を誤るの虞無きも、楊墨二子の說は疑似の點有り、孟子は人或は其の惑はすところとならんことを恐れて、乃ち仁義を並稱し以て二子の說と聖人の道との異なるところを明ならしめたり。孟子必ず性善を言へるは儒教思想發達の當然の結果なる外に、性論が當時の思想界の問題たりしによる。孟子の性善は宋儒が主張せるが如きものにあらず、卽ち人は生れながらにして完全なる理を具有すと謂ふにはあらずして、唯人には道德的本能有りと謂ふのみ。孟子は該本能が直覺的に作用するものが善たることを認め、因りて性は善なりと論じ、以て仁義の自律性なることを示せり、此の論は孟子の書中に反復提起さる。

孟子仁義を並稱せる結果として仁義は相對的原則となり、仁義の觀念に一の變

子の時は所謂戰國時代にして、七國各々富强を圖り天下に覇たらんことを期し、種種の學者現はれ、各々其の學を以て諸侯に用ひらる。其の先王の道にあらざるを以て孟子一一之を排斥したるが、其の最も力を用ひて排斥せるものを楊朱及び墨翟の學と爲す。楊朱は老子の流を汲める者にして、共同生活を無視し、各人獨立只管自己の範圍に於て己れを全くせんことを期し、他人を害することを避くるは勿論、他人を利することも亦爲すを敢てせざるを主義と爲せり、孟子が楊朱爲我と云ひ又拔一毛利天下不爲と云へるは卽ち是れなり。墨翟は夏の禹王を理想と爲し、無差別平等の愛を主張せり、所謂兼愛卽ち是れなり。孟子は墨子の學を評して無父と言ひ、楊朱の說を評して無君と言へり。他の語を以て言へば、墨子の兼愛主義は仁に似て而して仁にあらず、其の親疎遠近の差等を無視して徒に平等を主張するを以てなり、差等之を義と謂ふ、墨子は義を知らざるを以て其の兼愛は孔子の仁と異なり。楊朱の說は義に似て而して義にあらず、徒に人我の差別のみを知りて

あれば則ち其の身に缺けたるところ無きを得んやと反省す、若し缺點有ることを自覺せば益〻進みて德を修む、若し自ら省みて缺點無きを知れば、禍を取るべき原因己れに無きに禍の來りしは此れ天意なりとして天命に安んじ、而も福を得ざるの故を以て德を廢せず、此れ君子天命に安んずるの說なり。此の說は一見退嬰思想の如くなるが、其の實は大なる進取思想なり。天命を知らざれば自ら修むるを知らずして妄に天を怨み人を尤む、君子は然らず。此の天命思想は論語中に到る處に現はれたり。但後世の支那國民が進修に努めずして妄に天命を諉るが如きは孔子の旨に背けり、後の思想を以て孔子を觀ること勿れ。

孟子の書　孟子は朱子は或は子思の門人と爲せども、實は子思の門人に學びしなり。孔子に私淑し、深く其の敎を究め、學成りし後、梁、齊等の國に游び、晩年門人公孫丑、萬章等と孟子七篇を作る、孟子死後門人校訂して世に行はれたり。

孟子の主張せる仁義と性善　孟子口を開けば仁義を稱し性善を唱へたり。孟

孔孟は決して迂濶なる道學者にはあらず、徒に治國平天下を口にして經綸の才無き空論家にはあらざるなり。

論語に見はれたる天命の意義　儒教最も天命を重んず、天命の意義は一に止まらずと雖も、論語に見ゆるものは(一)死生の命(二)貧富究達の命(三)天より命ぜられたる任務是れなり。　孔子が五十而知天命と言へるは第三の天命にして、孔子が天は己れに命ずるに道を天下に明にし生民の爲めに太平を開くの任務を以てすと自覺せるなり、此の自覺は孔子の人格の原動力となり、孔子半生の行動の動機たり。天下を周游し、流離艱難の際常に從容自若たりしもの、實に此の信念有りしによる。死生、貧富究達皆天命なりと言ふは、其の個人の意志を超越せるもの有るを信ずればなり。　此の信念は或は宿命説となり得べしと雖も、儒教には宿命思想無し。　道を行ひ德を修むれば富貴長壽自ら來るべき理なれども、實際は必ずしも然らず、君子は富貴を得んが爲めに德を修むるにあらずと雖も、德を修めて凶禍を得ること

所以にして、約禮は人格の統一を得る所以なり。孔子は此く學問進修の次第を示せるも、學修の實行は弟子自身の努力に期し、身を以て法を示す外に、平生各人の資性、學修の工夫等に就きて精密なる觀察を施し、其の問に隨ひて各人の性の近きところと其の進境とに適應する答を與へて、進修の方向と目的とを啓示せり、故に其の言簡にして繁ならず。重んずるところは理論の研究にあらずして、實際により て磨錬發明し躬行して反省自得するにあり、故に其の言ふこと味深く、世事を經ること多きに隨ひ益々其の妙味を覺ゆべし。

治國平天下の思想　仁は治人の方面有るを以て、論語に政治を言へるもの多く、孔子が國君大夫等の問に應じて政を言へるもの亦少からず。皆儒教本來の德治主義を發揮し、法治主義を排斥し、仁義を重んじ、功利を斥けたり。後孟子最も能く此の旨を發明せり。後世の儒者は道德仁義理氣性命を談ずるを專らとし、政治經濟の方面を閑却せる者多し、孔孟を學びて孔孟を知らざる者と謂はざるべからず。

一般には忠信又は忠恕となり、父兄に對しては孝弟となる、故に論語に此等の事に就きて言へるもの最も多し、蓋し此等を擴充するによりて仁を完成すべければなり。宋儒は仁に專言卽ち絕對的と偏言卽ち相對的との別有りと言ふ、論語に知仁勇を相對して言へる場合の仁は卽ち偏言に屬す、仁義を相對して言へるものは論語には無し。

孔子の敎學　論語二十篇、學而篇を第一と爲し、學を言ふもの全書到る處に之有り、此れ獨り論語の特色たるのみならず、實に儒敎の特色なり。中庸の條下に言へるが如く、儒敎は聖人立敎の功を大なりとし、人は聖人の敎に由りて道を知り以て道を行ふことを得と爲す、此れ學を重んずる所以なり。殊に孔子は卓越せる天稟を以て學を好めること異常なりき、故に論語多く學を言ふ。

孔子の弟子を敎ふるや、博文より約禮に進ましむ、博文とは博く詩書禮樂を學ぶこと、約禮とは禮によりて行爲を統一することなり、博文は知情意の發達を期する

に至る。更に他の方面より觀れば、仁は人の人たる所以のものなり、之を完全に實現するによりて始めて人と爲るものなるが、其の人たる所以のものは具はりて我れに在りて我が性を成す、之を實現して人と爲るとは自我を完全に實現するに、外ならず、自我を完全に實現することは知情意の完全なる發達と相伴ふ、此くて仁は自我實現の事なり。而して仁は自我實現に止まらず、既に自我を完全に實現したる時は更に進みて天下の人をして皆其の性を實現せしめんことを期し、猶ほ進みては天下の物をして皆其の生を全くせしめんことを期す、仁の目的此に至りて方めて全く達す、故に仁は一面は己れを修め己れを成す所以にして、一面は人を治め物を成す所以なり、修己治人の二面を兼ねて仁方めて全し。此くの如きは孔子の理想なり。而して仁は人性の實現なるが、他の方面より觀れば人の當に行ふべき道なり、人の當行の道としては之を義と謂ふ。人性自然の發現として觀れば孝弟共に仁なれども、子弟たる者の當行の道として觀れば孝弟共に義なり。仁の發現は

甚だ偉大なるは其の道の廣大なるに因る。門人の孔子を學ばんとせる者或は直に孔子人格の根本を衝かんとせば、手を下すべきの所を發見し難きに苦み、人格の表現たる孔子の言動を模範として聖人の人格を學ばんとせるも有り、此れ孔子の動作を微細に渉りて錄せる所以なるべし。

孔子教の根本たる仁の意義　孔子は自ら述而不作と言ひ、子思は仲尼祖述堯舜、憲章文武と言ひ、孟子は孔子集而大成と言へり、集大成とは單に零碎なるものを收拾するの謂ひにあらず、整然たる一個の體系に作り上ぐるを謂ふなり。凡そ一の體系を成すには必ず一の根本原則無かるべからず、孔子の根本原則は仁即ち是れなり。仁は宋以來種々の解釋有れども、要するに人性に具はる同情と愛情との結合せるものを根本と爲し、知情意の發達によりて漸く發達して博愛の德となるものなり、而して其の發達は遠心的に進む、卽ち先づ己れに最も近く親しき者を愛することより進みて次第に遠く疎き者に及ぼし、遂に人類は勿論萬物をも悉く覆ふ

て其の德を成せば、亦至誠の域に入るべし、此れ教の效なり。中庸の論ずるところ大體は此の趣意にして、中間に幾多の事理を加ふるのみ。

論語の內容と其編者　論語は主として孔子の語を錄したるものなり、孔子の動作及び門人の語を記したるものも亦少からず。此の書何人の手に成りしかは古來議論紛々、今敢て決定の言を爲さず。書中に孔子の門人中最年少なりし曾子の臨終の言を記しあるによれば、孔子の死後稍〻久しくして始めて編纂されしものなるべし。論とは論撰の義にて、編纂の際多くの材料に就きて嚴重なる研究を經て論撰したるものなりと爲す者有れども、體裁の上に完全なる統一無く、又時に記載の重複せるあり、精選の結果に成るとは言ひ難し。又所有材料を網羅して取舍選擇したるものとも認め難し。

論語に孔子の動作等を錄せるところ亦少からず、今日に於て孔子の性行人格を窺ふべき偭强の資料たり。蓋し孔子の人格は孔子の道の體現にして、其の人格の

庸は德なり。道として又德としての中庸は此の書の中心思想なり。此の書前半は中庸を言ひ、後半は誠明を說く、誠とは人格の完全なる統一徹底を意味す、此の書始めに道を說き、後に德を說く、故に始めに中庸と曰ひ、後に誠と曰ふなり。道は古今の學者或は他律性のものと爲し、或は自律性のものと說く、儒敎は之を自律性のものと爲す、卽ち人性を超越せる權威の命令とは爲さずして人性に根據を有するものと爲す、此の點を明にせんが爲めに此の書は性と道との關係を第一に說けり。道を人性に根據を有すとせば性の儘にして卽ち道に合ふとも考へ得べけれども、儒敎は聖人道を修めて敎を立て人に行爲の軌範を示したるによりて、人始めて完全に道を行ひ得と爲して、聖人立敎の功を重んず、故に此の書又始めに先づ敎の字を提起し後半に至りて更に之を詳說せり。聖人が能く道を修め敎を立つる所以は其の德卽ち人格の本來完全なるに因るとして、後半に聖人を說きて其の至誠の德を讃す。然れども天賦の性は凡聖一なり、人能く聖人の敎によりて道を行ひ以

會多數の人が常に行ひ得ると云ふことを標準と爲すを必要とし、智德の勝れたる人若くは其の劣れる人の能くするところを標準と爲すべきにあらず、此の意味に於て禮は中なり。更に他の方面より觀れば、人は理智と感情とを兼ね具ふ、二者の一のみを標準として行爲軌範を定むれば人心の要求を滿足すること能はず、故に禮は二者の要求を兼ねて滿足せしむることを目的とす、此れ亦禮の中なる所以なり。一方に偏したるものは時に或は可なることも有れども、凡ての場合に通ずべからず、唯〻能く中に合ふものにして始めて凡ての場合に通ずべし、卽ち所謂常なり、故に中は又常なり。禮は人の常に依るべきの道なり。此く中庸は具體的に言へば禮にして、抽象的に言へば人の道なり。古は禮を最も重しと爲し、論語には立於禮と云ひ、又不知禮無以立とも言へり、禮に依るは人格を完成する所以にして、完全なる人格は知情意の完全なる調和を意味し、而して此くの如き人格は必ず常に同一なり、他語を以て言へば完全なる人格は中にして庸なり、此の見地よりすれば中

に有り得べからざるほど高遠玄妙なるものにあらず、孔子立教の後を承けて儒教思想の哲學的根據を明にせんとすれば當然生じ得べかりしものに外ならず、內容より史記を疑ふは誤れり。或は中庸に攙入若くは脫簡有りと爲し、或は思想聯絡を缺き文義貫通せずと爲す者有れども、皆誤れり。朱子は子思を曾子の門人と爲せども、其は道統の觀念より孔子と孟子との間に道の傳授の系統を作らんが爲めにせる說にして、事實に本づけるものにあらず。

中庸の意義。 中庸二字の解釋亦區區なるが、中は過と不及とに對して中間を意味し、庸は常を意味す。中の字は中庸以前に多く見え、經書或は衷に作り、古人は衷を善と解せり。中は又禮と相關して言はる。蓋し古の所謂禮とは動作進退の儀は勿論、凡そ共同生活を維持する所以の行爲軌範を總稱せる名なり、故に道德も法律も皆禮の內に包括さる。禮は大小の共同生活（小にしては家、大にしては社會國家を謂ふ）に於て衆人の行動を律して一途に歸せしむるを目的とす、此の目的を達せんとするには、禮は社

有りと非難し、天地萬物の理皆吾が心に具はる、能く吾が心を知れば理悉く明なるべしと言ひ、王陽明は格物の物は念頭、格は正なり、一念動く時に其の善惡は吾が心自ら之を知る、其の知るところに從ひ、惡を去り善を爲すは卽ち格物なり、善惡を自知するは良知の作用なり、事每に良知の作用を自由ならしむるによりて良知を致む（極むと訓ず）るは卽ち致知なりと爲せり。　此く格物致知の解を異にせるは程朱と陸王との根本思想の相異に本づけり。

●中庸の作者●　中庸は史記に孔子の孫名は伋、字は子思の作とあり、後の學者多く此れに從へり。　然るに程朱が此の書を重んじたる結果、反つて中庸を疑ふ者出で遂に史記を信ぜざる者有るに至れり。　然れども事實の上より史記を否認すべき證左を擧げ得るにあらずして、中庸の內容より史記を疑ふのみ。　內容とは思想の事にして、其は中庸の解釋に屬す、宋儒努めて高遠の思想を中庸に求めんとしたるにより、反つて他學者の疑ひを惹き起したるも、中庸に現はれたる思想は子思時代

場合にも發達と云ふことは有り得べからず。理既に完全なるものとして人に具はると雖も、常に完全に又自由に發現すること能はず、其の發現往往氣の爲めに妨碍を受くるを免れず。氣とは人に在りては肉體を成す、肉體有るが故に人には種種の欲有り、欲は盲目的のものなれば、固より理に從ふことを知らず、而して人動もすれば欲に狗ふ、此れ理の發現の自由が妨げらるる所以なり、故に意誠ならず、心正しからず、隨つて身修まらず。此に於て理の發現をして完全に又自由ならしむるの必要生ず、致知格物は實に其の方法手段なりとす。而して程朱と陸王との二派の間に意見の扞格して相容れざるものは致知格物の解釋に在り。程朱は理の自由發現を可能ならしむるには理を明にせざるべからず、理は人事の上にも亦自然の事物の上にも發現す、其の發現を一一に研究するによりて理始めて明なるべし、之を研究するは卽ち格物なり、格物より致知に入るとして所謂究理を主張せり。然るに陸象山は此くの如きは心は理なりと言ひながら理を心外の物と爲すの弊

りき　大學の書に說くところは修己治人の道に外ならず。　此の書を宋儒が特に重んじたる所以は修己の方面に於て正心誠意致知格物の思想有るに因る、而して程伊川及び朱子の派と陸象山及び王陽明の派との學說の相異點は之れが解釋の相異に存す。　抑ゝ宋代の儒學の特色は第一に其の理氣性命の說に在り、此の說は宋儒の宇宙觀及び人生觀の根本なり。　今之を略說すれば、彼等は宇宙の本體を理と爲す、但理は無形のものなるに、宇宙萬物に有形の方面あり、理を直に有形の原因とは爲すべからざるを以て、理の外に別に氣を認めたり、理氣を以て宇宙萬物を說明するは宋學の特色なり。　人も亦他の物と同じく理氣二者より成る、人の肉體は氣に屬し、心性は理に屬す、自然に在りては理と稱せらるるものが、人に賦與されて性となる、賦與之を命と謂ふ、心と性との關係如何に就きては、朱子は心は理、性は仁義禮智信五常の理と爲し、又心は性と情とを統ぶるものと爲せり。　理は本と完全なるものにして、宇宙に在りては流行し人に在りては發現するものなるが、何れの

爲めに一變し、朱子が四書に注するに至りてより漢唐の古注疏に對して、朱子の書を新注と稱す。

朱子が大學、中庸には章句と云ひ論語、孟子には集注と云へるは抑〻故有り。朱子は後二書は其の篇章の分け方は古注疏に從ひ、其の解釋に至りては漢唐以來宋に至るまでの學者の說を研究して其の間に取舍を行ひたれば名づけて集注と云へり。大學、中庸に關しては則ち或は舊本の次第を改め或は舊本の分章に從はず、一に己れの見解を以て之を整理したるによりて名づけて章句と云へり。後人朱子の說に服せざる者少からず、大學は禮記に在る儘の次第にて之を讀むべしと爲して古本大學を取る者有り、（王陽明の如き即ち是れなり）中庸を上下二篇に分くる者有り。（支那に在りては王柏、王禕、我が國に在りては伊藤仁齋、佐藤一齋の如き即ち是れなり）

大學の根本思想　大學が何人の著なるかは今得て知るべからず。大學は周代に於て最高教育機關にして官吏養成を目的と爲し、其の教科は詩書禮樂の四術な

を占め、書を讀み功名を得んと欲する者の必讀の書となれり。我が國王朝時代は唐代の學制に從ひたれば、大學、中庸は禮記の中に存せるのみ、清原頼業の如く此の二書を別行せしめば聖學に功多かるべしと爲せる者有りしも、未だ之を實行せる者を見ず。其後四書彼の土より傳はり、五山の僧侶先づ之を講習し、德川氏の文敎を起すや、朱子學を奉じたるにより四書大に世に行はるることとなれり。

四書の注釋　論語の注釋は古來甚だ多かりしも、唐以後專ら用ひられしものは魏の何晏等の集解なり、梁の皇侃が集解に本づきて作れる義疏及び宋の邢昺の正義有るも、前者は支那には早く亡びて、獨り我が足利學校等に寫本を存するのみ、（物徂徠の門人根本遜志之を印行せり）孟子に就きては西漢の末に趙岐が著せる注釋有り、宋人此れに本づきて正義を作り、孫奭の名に託せるものあり。禮記に關しては西漢の末に大儒鄭玄が著はせる注釋最も勢力を得、唐の太宗が孔穎達等をして五經正義を撰述せしめし時、禮記は鄭注を取れり。宋に至りて所謂性命義理の學起るや、經傳の解釋

四書解題

四書の由來　四事とは大學、中庸、論語、孟子を總稱する名にして、大學、中庸、二書を論語、孟子に配したるは、朱子に昉まる。　論語、孟子は古來何れも單行せるが、大學、中庸は禮記（西漢の戴聖が編せるもの）の中に收められて各々其の一篇を成せるのみ。　中庸は漢以降三四の註釋有りて別行せるものありしも、大學に至りては則ち宋以前には單行せるものを見ず。　宋に至りて大學、中庸、孟子三書を尊ぶの風盛んにして、遂に朱子は大學、中庸の章句及び論語、孟子の集注を著はし、之を大學章句、論語集注、孟子集注、中庸章句と次第して世に公にし、四書の名因りて生じたり。　大學、中庸は他の二書に比すれば紙數少きを以て、書肆が便宜上大學章句と中庸章句とを合せて一本と爲せるより、四書は大學、中庸、論語、孟子と次第さるるに至れり。　元明以後朱子が學界の權威として崇敬さるるに至るや、四書は試驗制度（所謂科學）に於て最も重要の位地

—(目次終)—

四書目次

例言

一、四書卽ち大學、中庸、論語、孟子の各全部を收めて本書一卷とす。

一、本文は朱熹集註の流布本に從へり。

一、訓讀及び註解に關しては、必ずしも朱註のみによらず、所謂古註をはじめ和漢古今諸家の見を參看し、其宜しきに從へり。由來四書の訓解に解しては、殊に諸說紛々、章によりては、殆ど其適從する所を知らざるが如きもの尠しとせず。それ等諸家の說を一々列載攻究するが如きは、本叢書の性質上固より不可能の事に屬す。よりて今姑く私見を以て其最も平靜穩健なりと認むるものを採りて略註を下す事とせり。

一、便宜上數章を集めて一段とせるものは、一に朱子章句の定むる所從つて其に一章每に本文と同大の圈號を加へ、之を識別し易からしめたり。

失。是以忘其固陋。采而輯之。間亦竊附己意。補其闕略。以俟後之君子。極知僭踰無所逃罪。然於國家化民成俗之意。學者脩己治人方。則未必無少補云。淳熙己酉二月甲子。新安朱熹序。

其力。此古昔盛時。所以治隆於上。俗美於下。而非後世之所能及也。及周之衰。賢聖之君不作。學校之政不脩。敎化陵夷。風俗頽敗。時則有若孔子之聖。而不得君師之位。以行其政敎。於是獨取先王之法。誦而傳之。以詔後世。若曲禮。少儀。內則。弟子職諸篇。固小學之支流餘裔。而此篇者則因小學之成功。以著大學之明法。外有以極其規模之大。而內有以盡其節目之詳者也。三千之徒。蓋莫不聞其說。而曾氏之傳。獨得其宗。於是作爲傳義。以發其意。及孟子沒而其傳泯焉。則其書雖存。而知者鮮矣。自是以來。俗儒記誦詞章之習。其功倍於小學而無用。異端虛無寂滅之敎。其高過於大學而無實。其他權謀術數。一切以就功名之說。與夫百家衆技之流。所以惑世誣民充塞仁義者。又紛然雜出乎其閒。使其君子不幸而不得聞大道之要。其小人不幸而不得蒙至治之澤。晦盲否塞。反覆沈痼。以及五季之衰而壞亂極矣。天運循環。無往不復。宋德隆盛。治敎休明。於是河南程氏兩夫子出而有以接乎孟子之傳。實始尊信此篇而表章之。既又爲之次其簡編。發其歸趣。然後古者大學敎人之法。聖經賢傳之指。粲然復明於世。雖以熹之不敏。亦幸私淑而與有聞焉。顧其爲書。猶頗放

大學章句序

大學之書。古之大學所以教人之法也。蓋自天降生民。則既莫不與之以仁義禮智之性矣。然其氣質之稟。或不能齊。是以不能皆有以知其性之所有而全之也。一有聰明睿智。能盡其性者。出於其間。則天必命之。以爲億兆之君師。使之治而教之。以復其性。此伏羲。神農。黃帝。堯舜所以繼天立極。而司徒之職。典樂之官。所由設也。三代之隆。其法寖備。然後王宮國都。以及閭巷。莫不有學。人生八歲。則自王公以下。至於庶人之子弟。皆入小學。而教之以灑掃應對進退之節。禮樂射御書數之文。及其十有五年。則自天子之元子衆子。以至公卿大夫元士之適子。與凡民之俊秀。皆入大學。而教之以窮理正心脩己治人之道。此又學校之教。大小之節。所以分也。夫以學校之設。其廣如此。教之之術。其次第節目之詳。又如此。而其所以爲教。則又皆本之人君躬行心得之餘。不待求之民生日用彝倫之外。是以當世之人。無不學。其學焉者。無不有以知其性分之所固有。職分之所當爲。而各俛焉以盡

四書

全